

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 736 集

みなみ ひ づめ だいぎん  
南日詰大銀Ⅱ遺跡第 4 次  
きた ひ づめ じょうない  
北日詰城内Ⅰ遺跡第 1 次  
ほうじょうだてあと  
北条館跡第 1 次発掘調査報告書

北上川緊急治水対策事業関連遺跡発掘調査

(第 2 分冊 北条館跡・総括)

2023

国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

(公財)岩手県文化振興事業団

南日詰大銀Ⅱ遺跡第4次  
北日詰城内Ⅰ遺跡第1次  
北条館跡第1次発掘調査報告書

北上川緊急治水対策事業関連遺跡発掘調査

(第2分冊 北条館跡・総括)



# 目 次

## VI 北条館跡の調査

1 調査概要	
(1) 調査状況	1
(2) 基本層序	11
2 検出遺構	
(1) 竪穴建物	13
(2) 土坑	41
(3) 溝	57
(4) 堀・土塁・土橋	72
(5) 炉	85
(6) 井戸	91
(7) その他	93
(8) 掘立柱建物	98
(9) 柱穴	104
3 出土遺物	
(1) 土器	179
(2) 陶磁器	181
(3) 石器・石製品	184
(4) 金属製品	185
(5) 銭貨	186
(6) 木製品	186
(7) ガラス製品	186
(8) 生産関連遺物	186
4 自然科学分析	
(1) 放射性炭素年代測定	297
(2) 土器胎土分析	309
(3) 木製品樹種同定及び保存処理①	323
(4) 木製品樹種同定及び保存処理②	329
(5) 炭化材樹種同定	342
(6) 土壌分析	346
(7) 銭貨付着繊維分析	349
(8) 鍛冶・鑄造関連遺物分析	352
5 小 結	
(1) 城館の構造	366
(2) SB26・27について	370
(3) 主要遺構の時期・性格	373
(4) 陶磁器	376
(5) 茶道具	378
(6) 生産関連の遺構・遺物	381
(7) 中世の凹石（敲磨C類）	381
(8) 目貫金具	384
(9) 城館の存続時期	385

## Ⅶ 総 括

1 遺 構	
(1) 掘立柱建物	386
(2) 竪穴建物	389
2 遺 物	
(1) 土 器	390
(2) 古代末期の遺物	391
3 遺跡の変遷	398
報告書抄録	601

## 図版目次

### 〈北条館跡〉

第1図 調査区及びトレンチ位置図	3	第27図 SI25	42
第2図 遺構配置図(全体)	4	第28図 SK01~07	46
第3図 遺構配置図(1)	5	第29図 SK08~14・16~20	47
第4図 遺構配置図(2)	6	第30図 SK15	48
第5図 遺構配置図(3)	7	第31図 SK21~33	49
第6図 遺構配置図(4)	8	第32図 SK34~43・45	50
第7図 遺構配置図(5)	9	第33図 SK44・46~56	51
第8図 下段トレンチ断面(1)	10	第34図 SK57~71	52
第9図 下段トレンチ断面(2)	11	第35図 SK72~80	53
第10図 基本層序、1号沢	12	第36図 SK81~91	54
第11図 SI01・02・05	16	第37図 SK92~102	55
第12図 SI03	18	第38図 SK103~124	56
第13図 SI04(1)	19	第39図 SK105~124断面、SK125	57
第14図 SI04(2)、SI06	20	第40図 SD01~10	60
第15図 SI07・08・09(1)	22	第41図 SD11~13・28~30・34(1)	61
第16図 SI07・08・09(2)、SI10・11	23	第42図 SD11~13・28~30・34(2)	62
第17図 SI12・18	26	第43図 SD14・21~27・45~50(1)	63
第18図 SI13・14(1)	27	第44図 SD14・21~27・45~50(2)	64
第19図 SI13・14(2)、SI24	28	第45図 SD15・16・31・32・36	65
第20図 SI15・16(1)	31	第46図 SD17~20、SB06~09	66
第21図 SI15・16(2)	32	第47図 SD33・37	67
第22図 SI17・20・21	33	第48図 SD35	68
第23図 SI19(1)	35	第49図 SD38~41(1)	69
第24図 SI19(2)	36	第50図 SD38~41(2)	70
第25図 SI19(3)	37	第51図 SD42~44	71
第26図 SI22・23	40	第52図 SD101(1)	73

第 53 図	SD101 (2)	74	第 98 図	SB75~79	132
第 54 図	SD102	75	第 99 図	SB80~83	133
第 55 図	SD103、SA101 (1)	77	第 100 図	SB84~87	134
第 56 図	SD103、SA101 (2)	78	第 101 図	SB88~92	135
第 57 図	SD104・105、SX101	80	第 102 図	SB93~99	136
第 58 図	SD106、SD44 (1)	82	第 103 図	SB100~102	137
第 59 図	SD106、SD44 (2)	83	第 104 図	SB103~106	138
第 60 図	SD107	84	第 105 図	SB107~110	139
第 61 図	SL01~07	87	第 106 図	SB111~115	140
第 62 図	SL08~16	88	第 107 図	SB116~121	141
第 63 図	SL17~23・25	89	第 108 図	SB122~125	142
第 64 図	SL24・26~33	90	第 109 図	SB126~130	143
第 65 図	SL34~38	91	第 110 図	柱穴配置図 (1)	160
第 66 図	SE01	92	第 111 図	柱穴配置図 (2)	161
第 67 図	SX01~04	94	第 112 図	柱穴配置図 (3)	162
第 68 図	SX05~07	96	第 113 図	柱穴配置図 (4)	163
第 69 図	SX08・09 (1)	97	第 114 図	柱穴配置図 (5)	164
第 70 図	SX08・09 (2)	98	第 115 図	柱穴配置図 (6)	165
第 71 図	北条館跡掘立柱建物分類図	99	第 116 図	柱穴配置図 (7)	166
第 72 図	掘立柱建物配置図 (1)	106	第 117 図	柱穴配置図 (8)	167
第 73 図	掘立柱建物配置図 (2)	107	第 118 図	柱穴個別図 (1)	168
第 74 図	掘立柱建物配置図 (3)	108	第 119 図	柱穴個別図 (2)	169
第 75 図	掘立柱建物配置図 (4)	109	第 120 図	柱穴個別図 (3)	170
第 76 図	掘立柱建物配置図 (5)	110	第 121 図	柱穴個別図 (4)	171
第 77 図	掘立柱建物配置図 (6)	111	第 122 図	柱穴個別図 (5)	172
第 78 図	掘立柱建物配置図 (7)	112	第 123 図	柱穴個別図 (6)	173
第 79 図	掘立柱建物配置図 (8)	113	第 124 図	柱穴個別図 (7)	174
第 80 図	SB01~04	114	第 125 図	柱穴個別図 (8)	175
第 81 図	SB05~10	115	第 126 図	柱穴個別図 (9)	176
第 82 図	SB11~14	116	第 127 図	柱穴個別図 (10)	177
第 83 図	SB15~17	117	第 128 図	柱穴個別図 (11)	178
第 84 図	SB18~20	118	第 129 図	土器 (1)	187
第 85 図	SB21~24	119	第 130 図	土器 (2)	188
第 86 図	SB25・28~31	120	第 131 図	土器 (3)	189
第 87 図	SB26	121	第 132 図	土器 (4)	190
第 88 図	SB27 (1)	122	第 133 図	土器 (5)	191
第 89 図	SB27 (2)、32~35	123	第 134 図	土器 (6)	192
第 90 図	SB36~39	124	第 135 図	土器 (7)	193
第 91 図	SB40~44	125	第 136 図	土器 (8)	194
第 92 図	SB45~50	126	第 137 図	土器 (9)	195
第 93 図	SB51~56	127	第 138 図	土器 (10)	196
第 94 図	SB57~60	128	第 139 図	土器 (11)	197
第 95 図	SB61~65	129	第 140 図	土器 (12)	198
第 96 図	SB66~71	130	第 141 図	土器 (13)	199
第 97 図	SB72~74	131	第 142 図	土器 (14)	200

第 143 図	土器 (15)	201	第 182 図	石器 (25)	240
第 144 図	土器 (16)	202	第 183 図	石器 (26)	241
第 145 図	土器 (17)	203	第 184 図	石器 (27)	242
第 146 図	土器 (18)	204	第 185 図	石器 (28)	243
第 147 図	土器 (19)、生産関連遺物	205	第 186 図	石器 (29)	244
第 148 図	陶磁器 (1)	206	第 187 図	石器 (30)	245
第 149 図	陶磁器 (2)	207	第 188 図	石器 (31)	246
第 150 図	陶磁器 (3)	208	第 189 図	石器 (32)	247
第 151 図	陶磁器 (4)	209	第 190 図	金属製品 (1)	248
第 152 図	陶磁器 (5)	210	第 191 図	金属製品 (2)	249
第 153 図	陶磁器 (6)	211	第 192 図	金属製品 (3)	250
第 154 図	陶磁器 (7)	212	第 193 図	金属製品 (4)	251
第 155 図	陶磁器 (8)	213	第 194 図	金属製品 (5)	252
第 156 図	陶磁器 (9)	214	第 195 図	金属製品 (6)	253
第 157 図	陶磁器 (10)	215	第 196 図	金属製品 (7)	254
第 158 図	石器 (1)	216	第 197 図	金属製品 (8)	255
第 159 図	石器 (2)	217	第 198 図	金属製品 (9)	256
第 160 図	石器 (3)	218	第 199 図	銭貨 (1)	257
第 161 図	石器 (4)	219	第 200 図	銭貨 (2)	258
第 162 図	石器 (5)	220	第 201 図	銭貨 (3)	259
第 163 図	石器 (6)	221	第 202 図	銭貨 (4)	260
第 164 図	石器 (7)	222	第 203 図	銭貨 (5)	261
第 165 図	石器 (8)	223	第 204 図	木製品 (1)	262
第 166 図	石器 (9)	224	第 205 図	木製品 (2)	263
第 167 図	石器 (10)	225	第 206 図	木製品 (3)	264
第 168 図	石器 (11)	226	第 207 図	ガラス製品	265
第 169 図	石器 (12)	227	第 208 図	北条館跡周辺航空写真	367
第 170 図	石器 (13)	228	第 209 図	北条館跡周辺地形図	368
第 171 図	石器 (14)	229	第 210 図	北条館跡推定縄張り図	369
第 172 図	石器 (15)	230	第 211 図	SB26・27 類似建物 (1)	371
第 173 図	石器 (16)	231	第 212 図	SB26・27 類似建物 (2)	372
第 174 図	石器 (17)	232	第 213 図	SB16・26・27 と付随施設	374
第 175 図	石器 (18)	233	第 214 図	中世陶磁器集成図 (1)	376
第 176 図	石器 (19)	234	第 215 図	中世陶磁器集成図 (2)	377
第 177 図	石器 (20)	235	第 216 図	茶道具集成図 (1)	379
第 178 図	石器 (21)	236	第 217 図	茶道具集成図 (2)	380
第 179 図	石器 (22)	237	第 218 図	敲磨 C 類集成図 (1)	382
第 180 図	石器 (23)	238	第 219 図	敲磨 C 類集成図 (2)	383
第 181 図	石器 (24)	239	第 220 図	目貫金具の諸例	384

〈総括〉

第221図	12世紀陶磁器集成図(1)	394	第226図	北日詰城内I遺跡主要遺構配置図	402
第222図	12世紀陶磁器集成図(2)	395	第227図	北条館跡主要遺構配置図(1)	403
第223図	12世紀陶磁器集成図(3)	396	第228図	北条館跡主要遺構配置図(2)	404
第224図	12世紀陶磁器集成図(4)	397	第229図	北条館跡主要遺構配置図(3)	405
第225図	南日詰大銀II遺跡主要遺構配置図	401	第230図	北条館跡主要遺構配置図(4)	406

表目次

〈北条館跡〉

第1表	遺構名変更一覧	2	第10表	土器観察表	266
第2表	竪穴建物一覧	14	第11表	陶磁器観察表	276
第3表	土坑一覧	44	第12表	石器観察表	283
第4表	墓坑出土人骨部位一覧	57	第13表	金属製品観察表	288
第5表	溝一覧	59	第14表	銭貨観察表	293
第6表	炉一覧	86	第15表	木製品観察表	295
第7表	掘立柱建物一覧	100	第16表	ガラス製品観察表	296
第8表	柱穴土質パターン	105	第17表	生産関連遺物観察表	296
第9表	柱穴一覧	144			

〈総括〉

第18表	掘立柱建物構造分類一覧	387
------	-------------	-----

写真図版目次

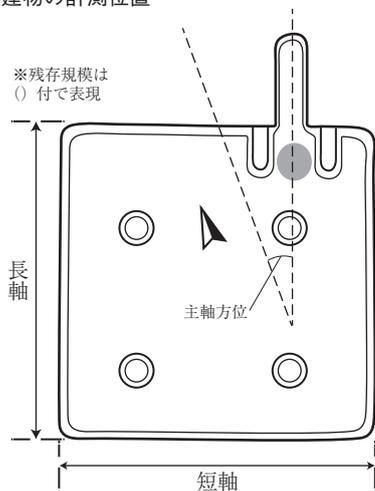
写真図版1	調査区の状況(1)	409	写真図版15	SI04(1)	423
写真図版2	調査区の状況(2)	410	写真図版16	SI04(2)	424
写真図版3	調査区の状況(3)	411	写真図版17	SI05	425
写真図版4	調査区の状況(4)	412	写真図版18	SI06	426
写真図版5	下段調査区(1)	413	写真図版19	SI07・08・09(1)	427
写真図版6	下段調査区(2)	414	写真図版20	SI07・08・09(2)	428
写真図版7	下段調査区(3)	415	写真図版21	SI07・08・09(3)	429
写真図版8	下段調査区(4)	416	写真図版22	SI10・11	430
写真図版9	基本層序(1)	417	写真図版23	SI11・12	431
写真図版10	基本層序(2)	418	写真図版24	SI13	432
写真図版11	SI01	419	写真図版25	SI14	433
写真図版12	SI02	420	写真図版26	SI15・16	434
写真図版13	SI03(1)	421	写真図版27	SI16・17	435
写真図版14	SI03(2)	422	写真図版28	SI17・18	436

写真図版 29	SI19 (1)	437	写真図版 77	SD45~49	485
写真図版 30	SI19 (2)	438	写真図版 78	SD101	486
写真図版 31	SI19 (3)	439	写真図版 79	SD102	487
写真図版 32	SI20	440	写真図版 80	SD103	488
写真図版 33	SI21 · 22	441	写真図版 81	SD104 · 105、SX101 (1)	489
写真図版 34	SI22 · 23	442	写真図版 82	SD104 · 105、SX101 (2)	490
写真図版 35	SI23	443	写真図版 83	SD106 · 107 (1)	491
写真図版 36	SI24	444	写真図版 84	SD106 · 107 (2)	492
写真図版 37	SI24 · 25	445	写真図版 85	SD106 · 107 (3)	493
写真図版 38	SI25	446	写真図版 86	SA101 (1)	494
写真図版 39	SK01~03 · 10	447	写真図版 87	SA101 (2)	495
写真図版 40	SK04 · 06 · 07	448	写真図版 88	SL01~04	496
写真図版 41	SK05 · 08 · 09 · 11	449	写真図版 89	SL05~07	497
写真図版 42	SK12~15	450	写真図版 90	SL08~10	498
写真図版 43	SK16~19	451	写真図版 91	SL11~14	499
写真図版 44	SK20~23	452	写真図版 92	SL15~18	500
写真図版 45	SK24~27	453	写真図版 93	SL19~22	501
写真図版 46	SK28~31	454	写真図版 94	SL23~26	502
写真図版 47	SK32~37	455	写真図版 95	SL27~30	503
写真図版 48	SK38~41	456	写真図版 96	SL31~34	504
写真図版 49	SK42~45	457	写真図版 97	SL35~38	505
写真図版 50	SK46~49 · 56	458	写真図版 98	SE01	506
写真図版 51	SK50~53	459	写真図版 99	SX01 · 02	507
写真図版 52	SK54 · 55 · 57 · 58	460	写真図版 100	SX03 · 04	508
写真図版 53	SK59~64	461	写真図版 101	SX05	509
写真図版 54	SK64~67	462	写真図版 102	SX06 · 07	510
写真図版 55	SK68~72	463	写真図版 103	SX08 · 09	511
写真図版 56	SK73~76	464	写真図版 104	SB 全景 (1)	512
写真図版 57	SK77~80	465	写真図版 105	SB 全景 (2)	513
写真図版 58	SK81~83 · 89	466	写真図版 106	SB 全景 (3)	514
写真図版 59	SK84~87	467	写真図版 107	SB 全景 (4)	515
写真図版 60	SK88 · 90~92	468	写真図版 108	SB 全景 (5)	516
写真図版 61	SK93~96	469	写真図版 109	SB 全景 (6)	517
写真図版 62	SK97~100	470	写真図版 110	SB 全景 (7)	518
写真図版 63	SK101~104	471	写真図版 111	SB 全景 (8)	519
写真図版 64	SK105~125	472	写真図版 112	SB 柱穴 (1)	520
写真図版 65	SD01~04	473	写真図版 113	SB 柱穴 (2)	521
写真図版 66	SD05~10	474	写真図版 114	SB 柱穴 (3)	522
写真図版 67	SD11 · 12	475	写真図版 115	SB 柱穴 (4)	523
写真図版 68	SD13 · 14	476	写真図版 116	SB 柱穴 (5)	524
写真図版 69	SD15~20	477	写真図版 117	SB 柱穴 (6)	525
写真図版 70	SD18 · 19 · 21~24	478	写真図版 118	SB 柱穴 (7)	526
写真図版 71	SD25 · 26 · 28~30	479	写真図版 119	SB 柱穴 (8)	527
写真図版 72	SD31~34	480	写真図版 120	SB 柱穴 (9)	528
写真図版 73	SD35~37	481	写真図版 121	SB 柱穴 (10)	529
写真図版 74	SD38~40	482	写真図版 122	SB 柱穴 (11)	530
写真図版 75	SD38~41	483	写真図版 123	SB 柱穴 (12)	531
写真図版 76	SD42~44 · 50	484	写真図版 124	SB 柱穴 (13)	532

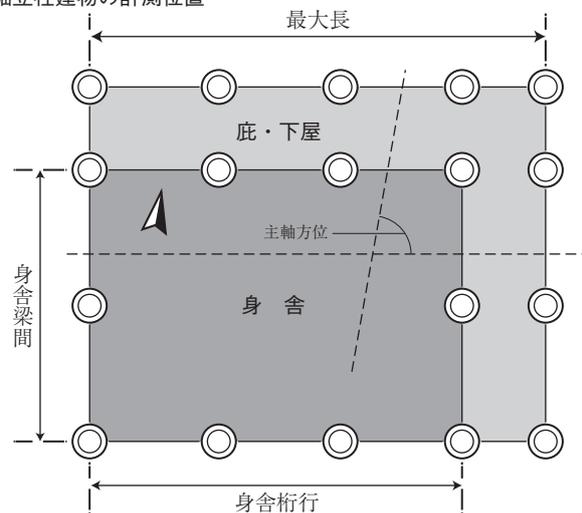
写真図版 125	SB 柱穴 (14)	533	写真図版 159	陶磁器 (7)	567
写真図版 126	SB 柱穴 (15)	534	写真図版 160	陶磁器 (8)	568
写真図版 127	SB 柱穴 (16)	535	写真図版 161	石器 (1)	569
写真図版 128	SB 柱穴 (17)	536	写真図版 162	石器 (2)	570
写真図版 129	SB 柱穴 (18)	537	写真図版 163	石器 (3)	571
写真図版 130	SB 柱穴 (19)	538	写真図版 164	石器 (4)	572
写真図版 131	SB 柱穴 (20)	539	写真図版 165	石器 (5)	573
写真図版 132	SB 柱穴 (21)	540	写真図版 166	石器 (6)	574
写真図版 133	SB 柱穴 (22)	541	写真図版 167	石器 (7)	575
写真図版 134	SB 柱穴 (23)	542	写真図版 168	石器 (8)	576
写真図版 135	SB 柱穴 (24)	543	写真図版 169	石器 (9)	577
写真図版 136	SB 柱穴 (25)	544	写真図版 170	石器 (10)	578
写真図版 137	SB 柱穴 (26)	545	写真図版 171	石器 (11)	579
写真図版 138	SB 柱穴 (27)	546	写真図版 172	石器 (12)	580
写真図版 139	土器 (1)	547	写真図版 173	石器 (13)	581
写真図版 140	土器 (2)	548	写真図版 174	石器 (14)	582
写真図版 141	土器 (3)	549	写真図版 175	石器 (15)	583
写真図版 142	土器 (4)	550	写真図版 176	石器 (16)	584
写真図版 143	土器 (5)	551	写真図版 177	石器 (17)	585
写真図版 144	土器 (6)	552	写真図版 178	金属製品 (1)	586
写真図版 145	土器 (7)	553	写真図版 179	金属製品 (2)	587
写真図版 146	土器 (8)	554	写真図版 180	金属製品 (3)	588
写真図版 147	土器 (9)	555	写真図版 181	金属製品 (4)	589
写真図版 148	土器 (10)	556	写真図版 182	金属製品 (5)	590
写真図版 149	土器 (11)	557	写真図版 183	金属製品 (6)	591
写真図版 150	土器 (12)	558	写真図版 184	金属製品 (7)、ガラス製品	592
写真図版 151	土器 (13)	559	写真図版 185	銭貨 (1)	593
写真図版 152	土器 (14)	560	写真図版 186	銭貨 (2)	594
写真図版 153	陶磁器 (1)	561	写真図版 187	銭貨 (3)	595
写真図版 154	陶磁器 (2)	562	写真図版 188	銭貨 (4)	596
写真図版 155	陶磁器 (3)	563	写真図版 189	木製品 (1)	597
写真図版 156	陶磁器 (4)	564	写真図版 190	木製品 (2)	598
写真図版 157	陶磁器 (5)	565	写真図版 191	木製品 (3)	599
写真図版 158	陶磁器 (6)	566	写真図版 192	生産関連遺物	600

### 遺構図版凡例①

竪穴建物の計測位置

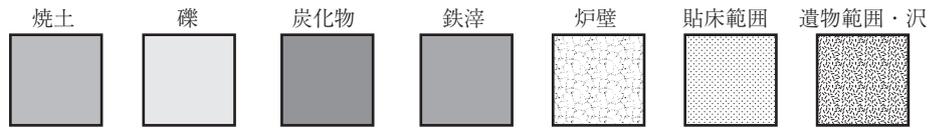


掘立柱建物の計測位置



## 遺構図版凡例②

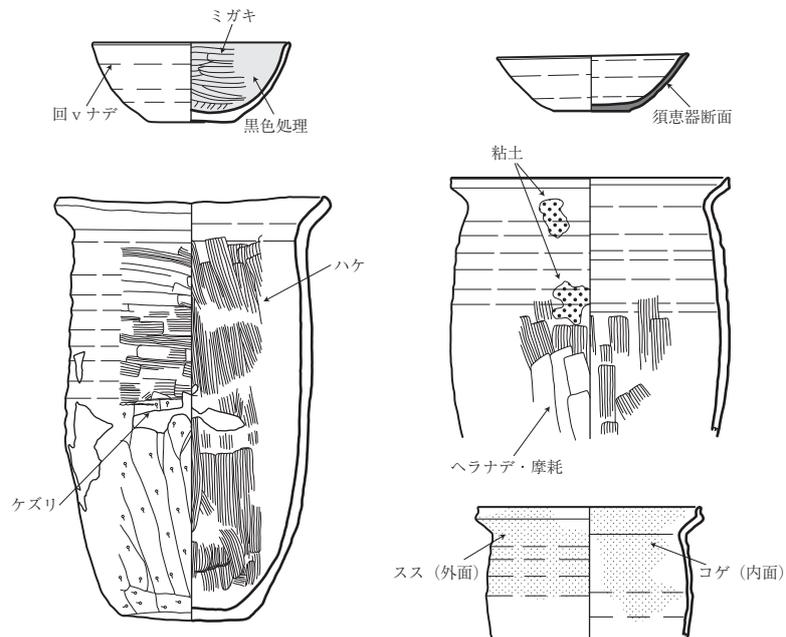
### 網掛けの表現



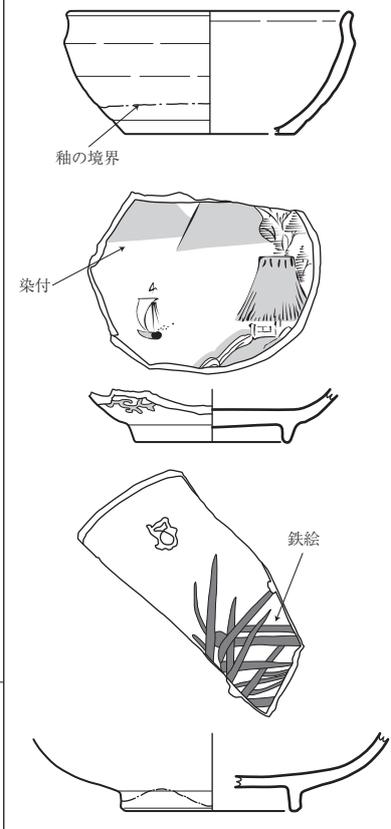
## 遺物図版凡例

- 土器、陶磁器の掲載縮尺  
1/3を基本とし、掲載番号に「●」は1/4、「▲」は1/6とした。
- 石器の掲載縮尺  
1/3を基本とし、掲載番号に「●」は1/4、「○」は2/3とした。
- 網掛けの表現（下図）

### 土器

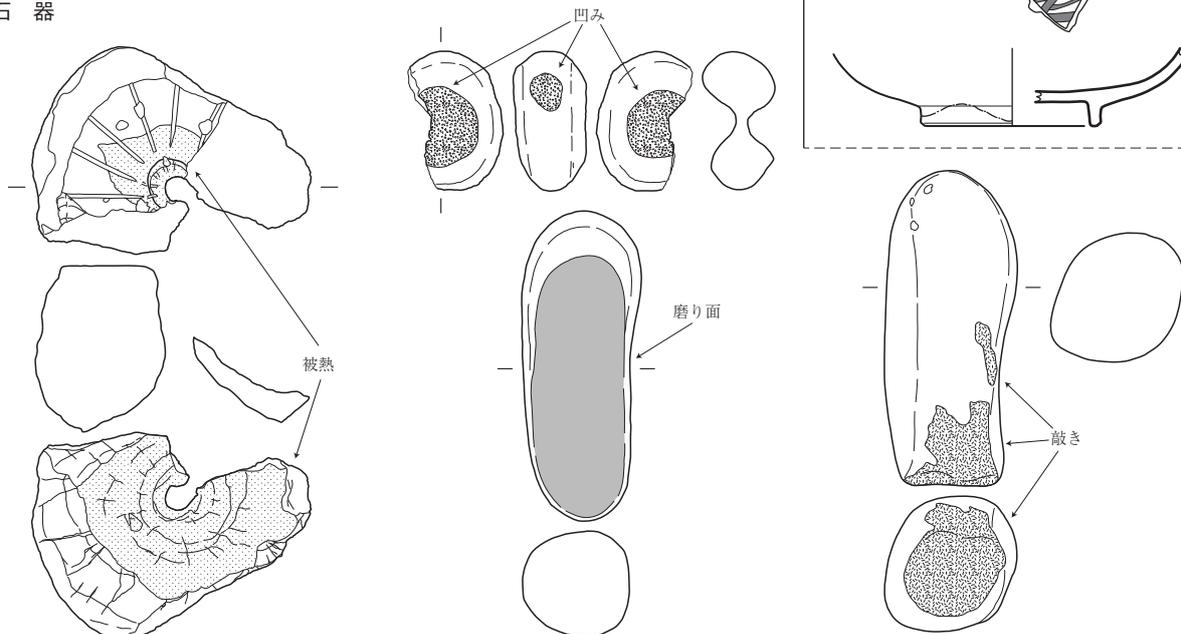


### 陶磁器



※スミベタは油煙

### 石器



## Ⅵ 北条館跡の調査

### 1 調査概要

#### (1) 調査状況（第2-1～9図、写真図版2-1～8）

北条館跡は北上川の支流である平沢川の西岸に位置し、北上川により形成された河岸段丘上に立地する。調査区は遺跡範囲の東側を南北方向に縦断する形で（第1-2図）、3箇年での対象面積は10,380㎡である。調査前の現況は畑等の耕作地及び宅地である。平成30年度調査区と令和元年度調査区の間には堀（SD103）が埋没せずに残っており、調査直前まで水路として利用されていた。また、令和元年度調査区の西側調査区外には土塁（SA101）が残存している。調査区の全長は約390m、標高は南端が91m、北端が93.5m前後で、勾配は約0.6%とほぼ平坦である。発掘調査は南側から開始し、検出した遺構は竪穴建物25軒（古代～中世）、土坑125基、溝50条、堀7条、土塁1箇所、土橋1箇所、炉38基、井戸1基、その他（性格不明・盛土範囲等）9基、掘立柱建物130棟（古代～近世、時期不明）、柱穴4,985個である。以下では各年度調査区の状況について記載を行う。

平成30年度調査区は調査範囲南側に位置し、面積は3,700㎡である。調査区内はおおむね平坦であるが、SD103を境として令和元年度調査区より約1m低い。遺構はSD103南壁付近に集中しており、それより南側は削平が著しく遺構密度は低い。

令和元年度調査区は調査範囲中央に位置し、平成30年度調査区と同一面上の平坦面（上段調査区）及び平沢川と同一面上の平坦面（下段調査区）合わせて4,800㎡である。上段調査区は造成に伴う攪乱は多いが、広範囲でⅡ層が残存しており遺存状況は良好であった。遺構検出はⅡ層上面で行ったが、堆積土が黒褐色土の遺構が多く見落としがある可能性があった為、Ⅱ層での精査終了後にⅢ層上面まで掘り下げて再検出を行っている。また、ⅡA24j～ⅢA11グリッドでは幅約8mの埋没沢（1号沢、第2-10図）を1条検出しており、堆積土中から中世陶磁器等の遺物が出土している。下段調査区は遺跡範囲の東端にあたり堀が存在する可能性もあったが、トレンチ調査の結果、ほぼ全地点が北上川及び平沢川の流路改変により形成された洪水堆積層であり（第2-8・9図）、表土付近から近世以降の遺物が若干出土したのみで遺構は確認されなかった。上段と下段の平坦面の比高差は3m前後で、斜面部は切岸状の急峻な崖となっていたが、表土除去の結果、城館の切岸ではなく近年の地形改変であることを確認した。ただし、ⅠA12～151グリッドではテラス状になる斜面中位で中～近世の炉（SL31）が検出されており、城館造成時の地形が残存していたと考えられる。

令和2年度調査区は調査範囲北側に位置し、面積は1,880㎡である。令和元年度調査区上段と同一面であり、北端側で宅地の基礎等の攪乱が多かったものの遺構密度・検出状況は令和元年度とほぼ同じである。ただし、近世～近代の墓坑（SK105～124）や宅地造成に伴う盛土範囲（SX08・09）等、近世以降に属する遺構・遺物が前年度までの調査区より多く検出されている。なお、第Ⅱ章で述べた通り岩手県遺跡情報システムに掲載されている遺跡範囲では北条館跡と北日詰城内Ⅰ遺跡は接してはいないが、今回の調査で城館の南端を区画する堀（SD101）を検出したことから、本遺跡は北日詰城内Ⅰ遺跡と接する地点までが本来の遺跡範囲であったと考えられる。

第1表 遺構名変更一覧

竪穴建物		
新	←	旧
SI01	←	SK04
SI02	←	1号竪穴
SI03	←	2号竪穴
SI04	←	3号竪穴
SI05	←	5号竪穴
SI06	←	6号竪穴
SI07	←	7号竪穴
SI08	←	8号竪穴
SI09	←	9号竪穴
SI10	←	10号竪穴
SI11	←	11号竪穴
SI12	←	12号竪穴
SI13	←	13号竪穴
SI14	←	14号竪穴
SI15	←	15号竪穴
SI16	←	16号竪穴
SI17	←	17号竪穴
SI18	←	18号竪穴
SI19	←	19号竪穴
SI20	←	20号竪穴
SI21	←	21号竪穴
SI22	←	22号竪穴
SI23	←	23号竪穴
SI24	←	24号竪穴
SI25	←	25号竪穴

土坑		
新	←	旧
SK01	←	SK01
SK02	←	SK02
SK03	←	SK03
SK04	←	SK12
SK05	←	SK05
SK06	←	SK06
SK07	←	SK07
SK08	←	SK08
SK09	←	SK09
SK10	←	SK10
SK11	←	SK11
SK12	←	1号土坑
SK13	←	2号土坑
SK14	←	3号土坑
SK15	←	4号土坑
SK16	←	5号土坑
SK17	←	6号土坑
SK18	←	7号土坑
SK19	←	8号土坑
SK20	←	9号土坑
SK21	←	10号土坑
SK22	←	11号土坑
SK23	←	12号土坑
SK24	←	14号土坑
SK25	←	15号土坑
SK26	←	16号土坑
SK27	←	17号土坑
SK28	←	19号土坑
SK29	←	20号土坑
SK30	←	21号土坑
SK31	←	22号土坑
SK32	←	23号土坑
SK33	←	31号土坑
SK34	←	26号土坑
SK35	←	25号土坑
SK36	←	27号土坑
SK37	←	28号土坑
SK38	←	30号土坑
SK39	←	24号土坑
SK40	←	32号土坑
SK41	←	37号土坑
SK42	←	33号土坑

土坑		
新	←	旧
SK43	←	34号土坑
SK44	←	35号土坑
SK45	←	38号土坑
SK46	←	42号土坑
SK47	←	43号土坑
SK48	←	44号土坑
SK49	←	45号土坑
SK50	←	46号土坑
SK51	←	47号土坑
SK52	←	48号土坑
SK53	←	49号土坑
SK54	←	50号土坑
SK55	←	51号土坑
SK56	←	52号土坑
SK57	←	53号土坑
SK58	←	54号土坑
SK59	←	55号土坑
SK60	←	56号土坑
SK61	←	57号土坑
SK62	←	58号土坑
SK63	←	60号土坑
SK64	←	59号土坑
SK65	←	62号土坑
SK66	←	61号土坑
SK67	←	63号土坑
SK68	←	64号土坑
SK69	←	66号土坑
SK70	←	67号土坑
SK71	←	68号土坑
SK72	←	69号土坑
SK73	←	70号土坑
SK74	←	71号土坑
SK75	←	72号土坑
SK76	←	73号土坑
SK77	←	74号土坑
SK78	←	75号土坑
SK79	←	76号土坑
SK80	←	77号土坑
SK81	←	78号土坑
SK82	←	79号土坑
SK83	←	80号土坑
SK84	←	81号土坑
SK85	←	82号土坑
SK86	←	83号土坑
SK87	←	84号土坑
SK88	←	86号土坑
SK89	←	87号土坑
SK90	←	88号土坑
SK91	←	89号土坑
SK92	←	125号土坑
SK93	←	94号土坑
SK94	←	95号土坑
SK95	←	96号土坑
SK96	←	97号土坑
SK97	←	98号土坑
SK98	←	99号土坑
SK99	←	100号土坑
SK100	←	101号土坑
SK101	←	102号土坑
SK102	←	103号土坑
SK103	←	123号土坑
SK104	←	2号不明
SK105	←	104号土坑
SK106	←	105号土坑
SK107	←	106号土坑
SK108	←	107号土坑
SK109	←	108号土坑
SK110	←	109号土坑
SK111	←	110号土坑
SK112	←	111号土坑

土坑		
新	←	旧
SK113	←	112号土坑
SK114	←	113号土坑
SK115	←	114号土坑
SK116	←	115号土坑
SK117	←	116号土坑
SK118	←	117号土坑
SK119	←	118号土坑
SK120	←	119号土坑
SK121	←	120号土坑
SK122	←	121号土坑
SK123	←	122号土坑
SK124	←	124号土坑
SK125	←	P1262

炉・焼土		
新	←	旧
SL01	←	SX01
SL02	←	SX02
SL03	←	SX03
SL04	←	SX04
SL05	←	1号焼土
SL06	←	2号焼土
SL07	←	3号焼土
SL08	←	4号焼土
SL09	←	5号焼土
SL10	←	6号焼土
SL11	←	7号焼土
SL12	←	8号焼土
SL13	←	9号焼土
SL14	←	10号焼土
SL15	←	11号焼土
SL16	←	12号焼土
SL17	←	13号焼土
SL18	←	14号焼土
SL19	←	15号焼土
SL20	←	16号焼土
SL21	←	17号焼土
SL22	←	18号焼土
SL23	←	19号焼土
SL24	←	20号焼土
SL25	←	21号焼土
SL26	←	22号焼土
SL27	←	24号焼土
SL28	←	25号焼土
SL29	←	26号焼土
SL30	←	27号焼土
SL31	←	28号焼土
SL32	←	29号焼土
SL33	←	30号焼土
SL34	←	31号焼土
SL35	←	32号焼土
SL36	←	33号焼土
SL37	←	34号焼土
SL38	←	35号焼土

その他		
新	←	旧
SX01	←	柱穴列 A
SX02	←	柱穴列 B
SX03	←	柱穴列 C
SX04	←	柱穴列 D
SX05	←	4号竪穴
SX06	←	1号不明
SX07	←	3号不明
SX08	←	1号整地
SX09	←	2号整地

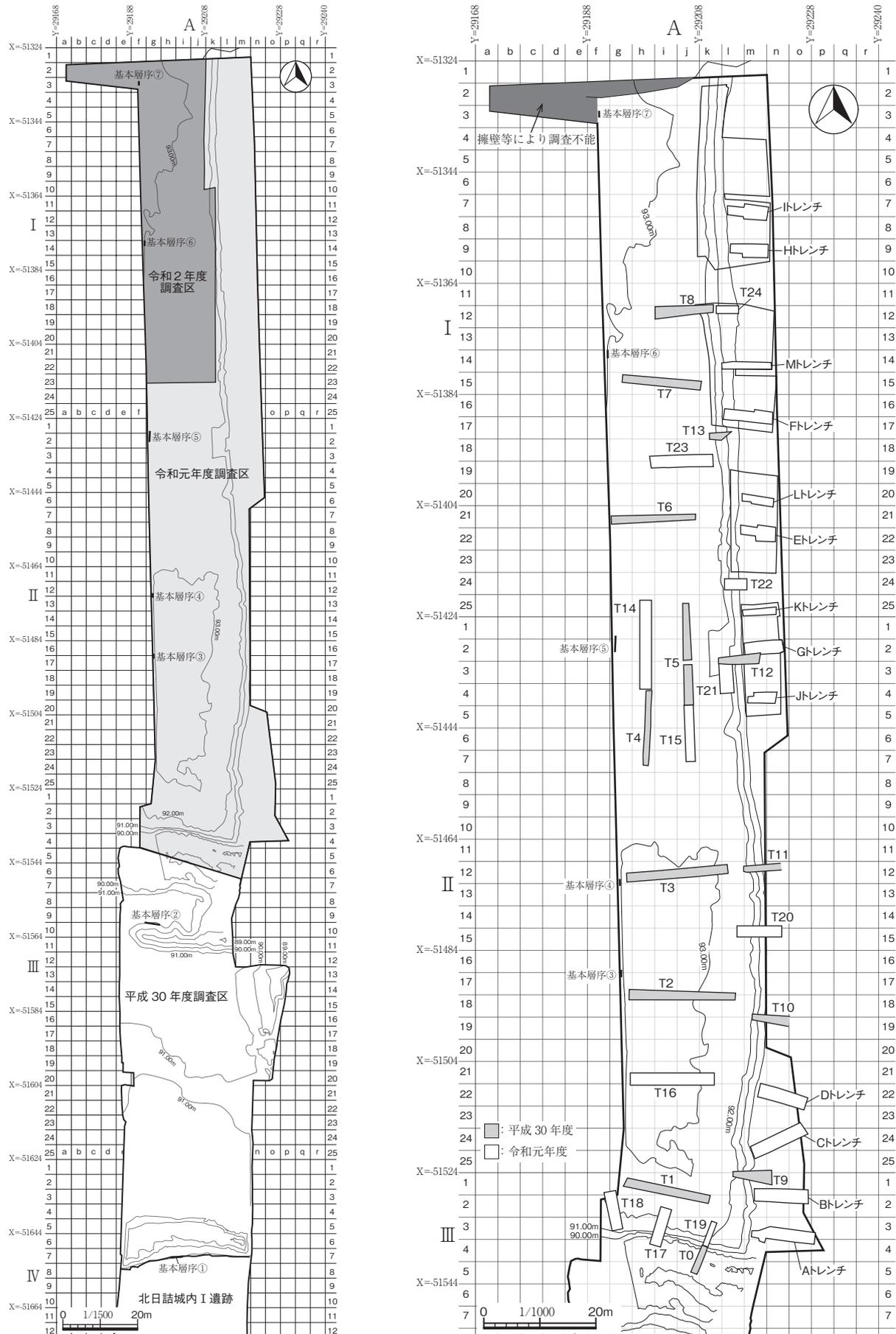
井戸		
新	←	旧
SE01	←	13号土坑

溝		
新	←	旧
SD01	←	SD01
SD02	←	SD02
SD03	←	SD03
SD04	←	SD04
SD05	←	SD05
SD06	←	SD06
SD07	←	SD07
SD08	←	SD11
SD09	←	SD12
SD10	←	SD10
SD11	←	1号溝
SD12	←	2号溝
SD13	←	3・30号溝
SD14	←	4号溝
SD15	←	5号溝
SD16	←	6号溝
SD17	←	7号溝
SD18	←	8号溝
SD19	←	9号溝
SD20	←	10号溝
SD21	←	16号溝
SD22	←	18号溝
SD23	←	19号溝
SD24	←	20号溝
SD25	←	21号溝
SD26	←	22号溝
SD27	←	23号溝
SD28	←	24号溝
SD29	←	25号溝
SD30	←	26号溝
SD31	←	27号溝
SD32	←	29号溝
SD33	←	31号溝
SD34	←	32号溝
SD35	←	33号溝
SD36	←	34号溝
SD37	←	35号溝
SD38	←	36号溝
SD39	←	37号溝
SD40	←	38号溝
SD41	←	39号溝
SD42	←	40号溝
SD43	←	41号溝
SD44	←	42号溝
SD45	←	11号溝
SD46	←	12号溝
SD47	←	13号溝
SD48	←	14号溝
SD49	←	17号溝
SD50	←	15号溝

堀		
新	←	旧
SD101	←	1号堀
SD102	←	2号堀
SD103	←	3号堀
SD104	←	4号堀
SD105	←	5号堀
SD106	←	6号堀
SD107	←	7号堀

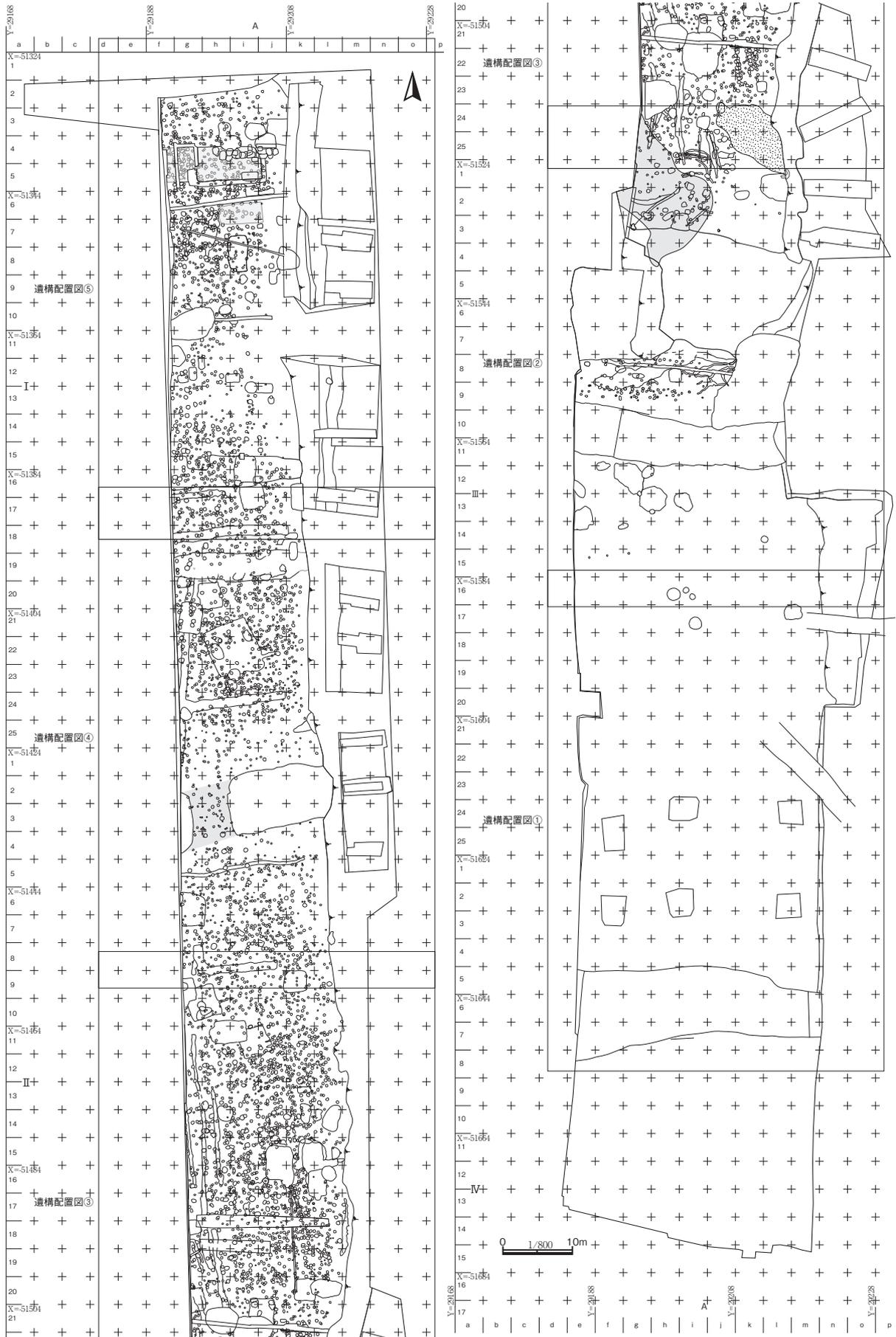
土塁		
新	←	旧
SA101	←	南端部土塁

土橋		
新	←	旧
SX101	←	1号土橋

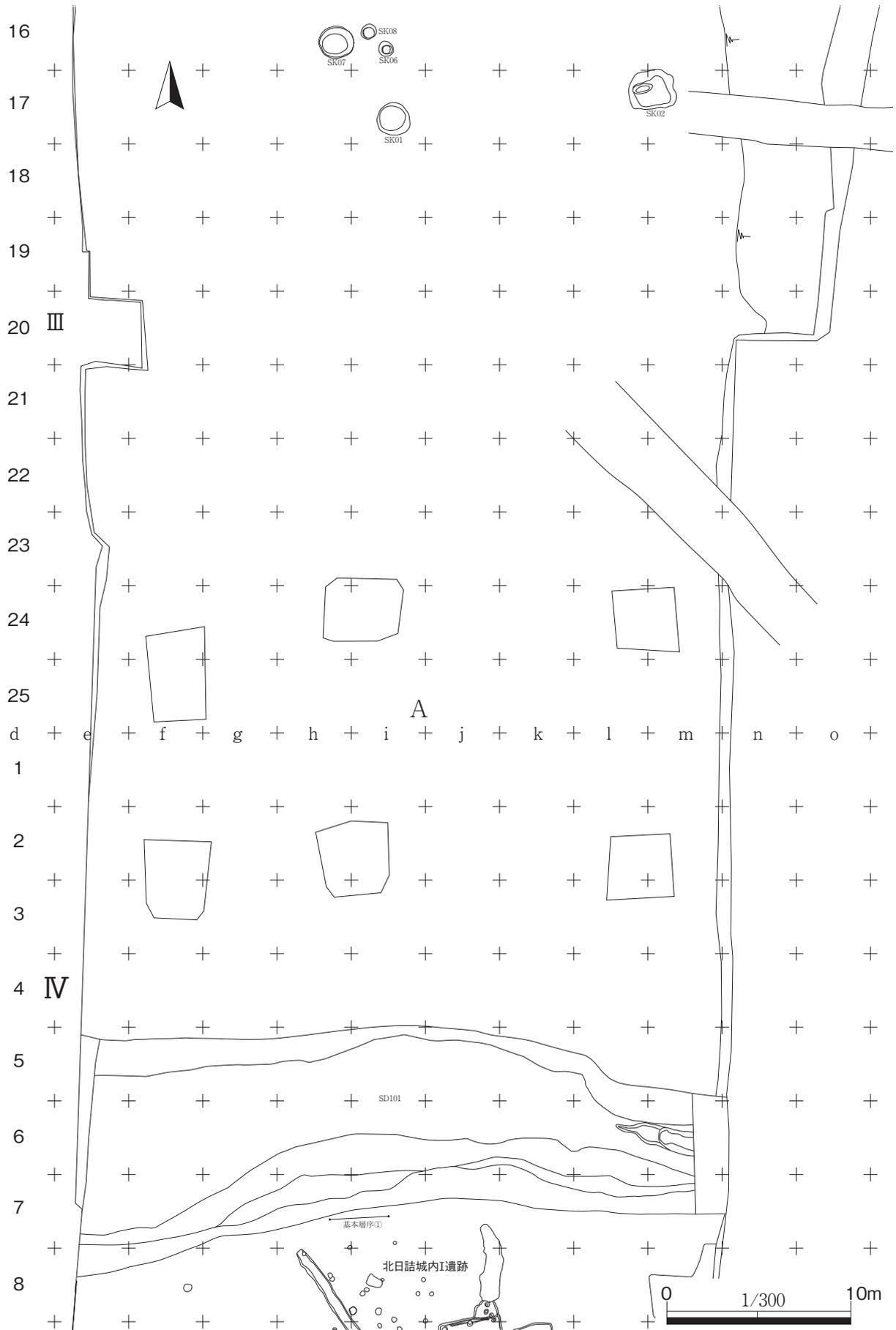


第1図 調査区及びトレンチ位置図

1 調査概要

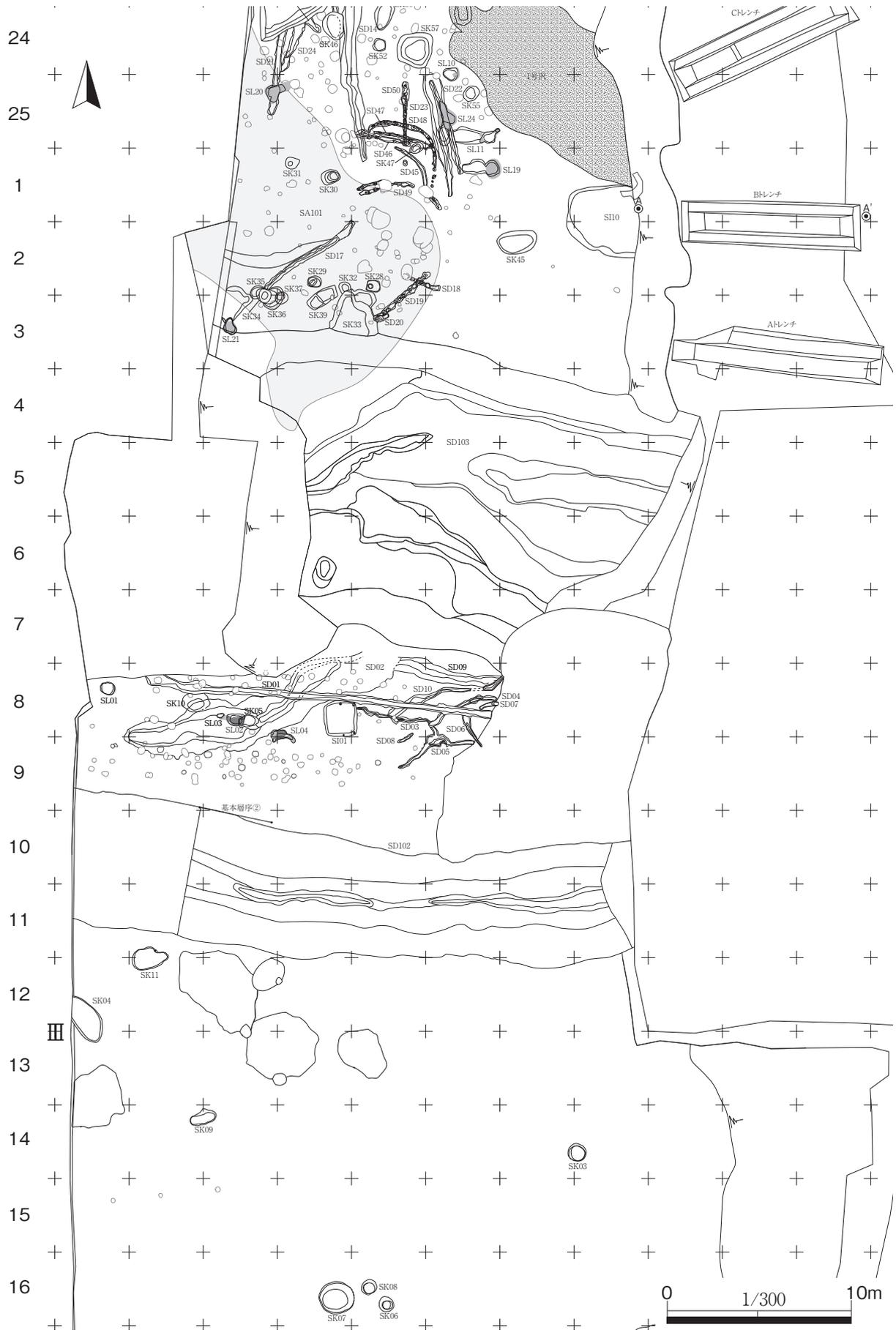


第2図 遺構配置図(全体)

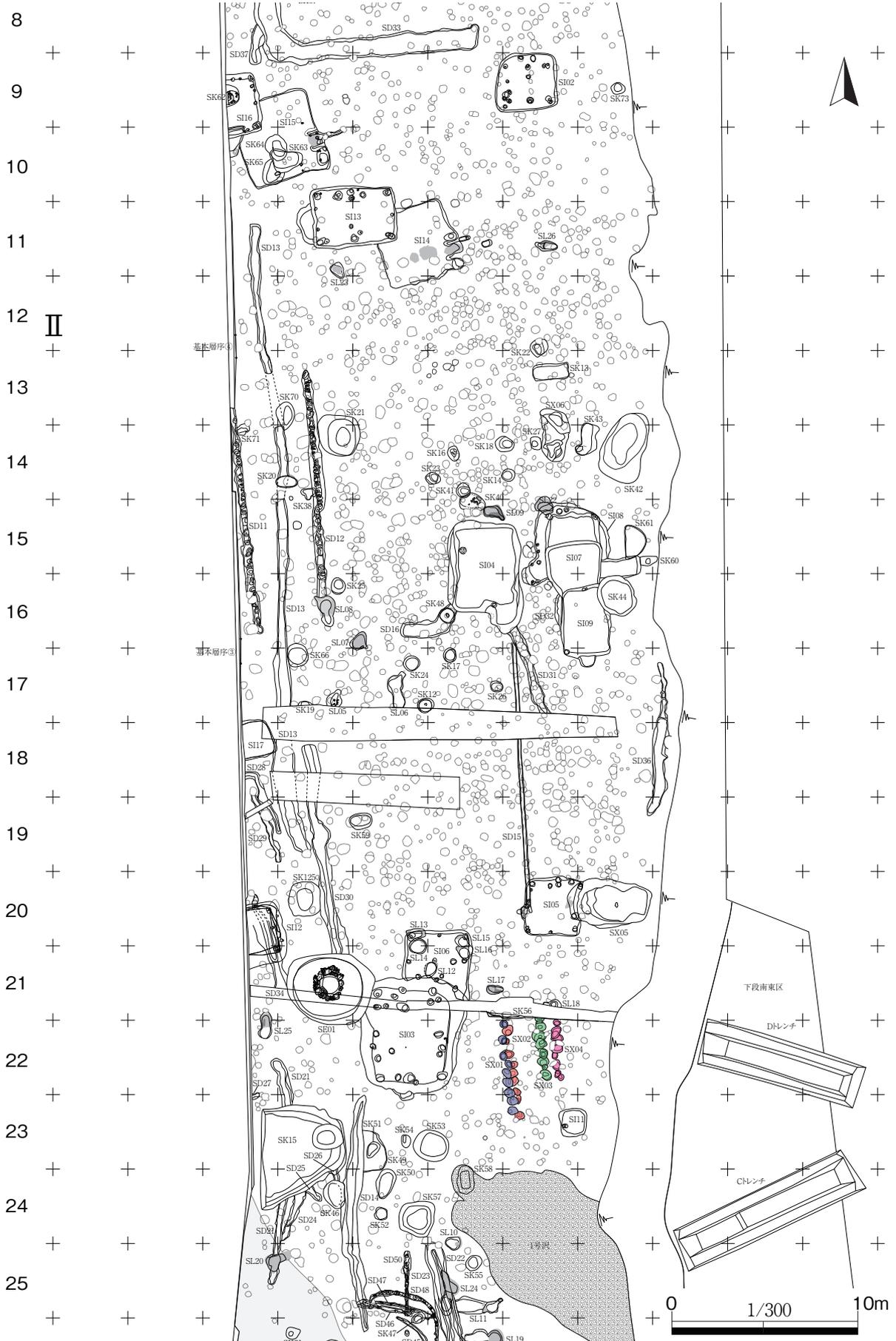


第3図 遺構配置図(1)

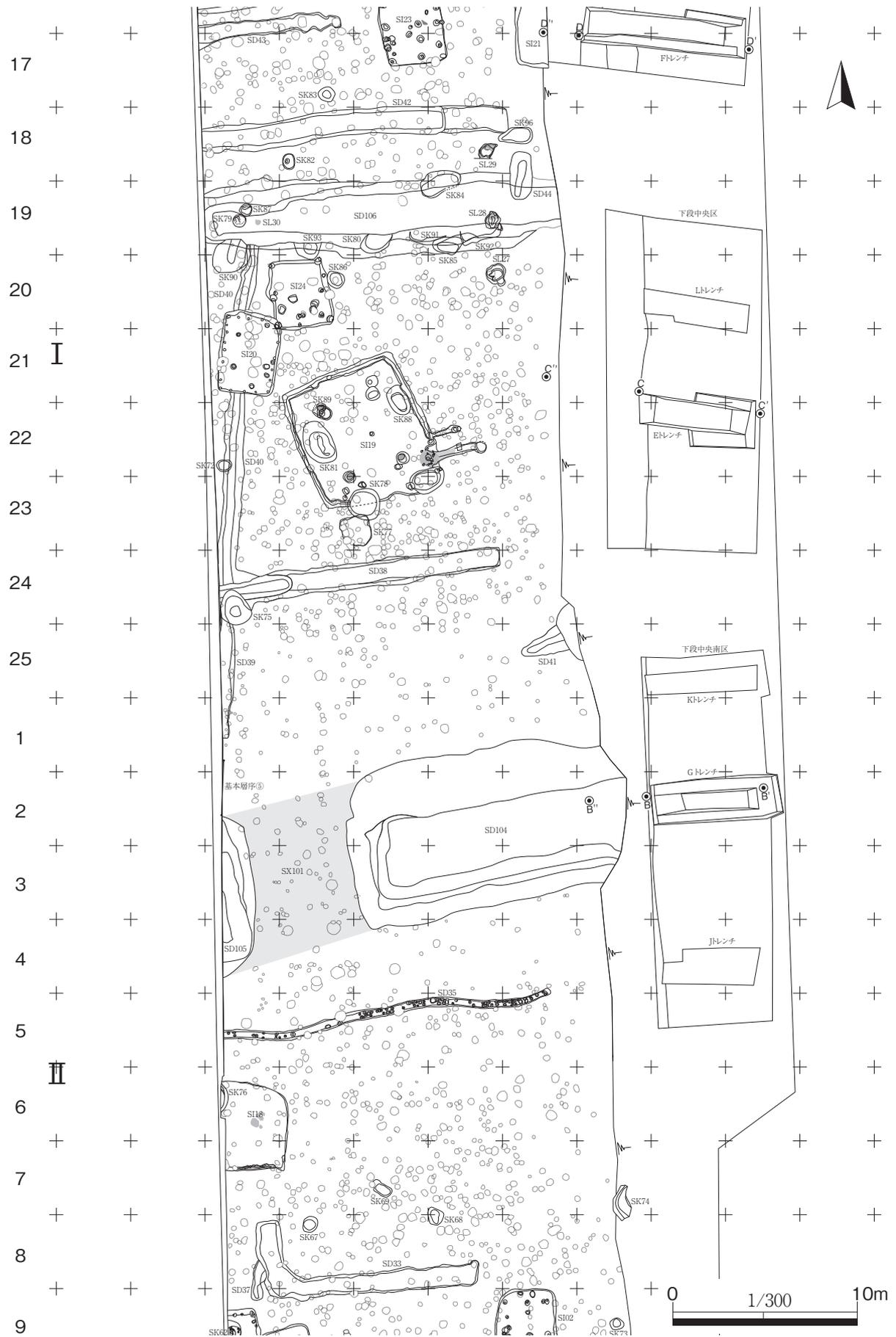
1 調査概要



第4図 遺構配置図 (2)



第5図 遺構配置図 (3)

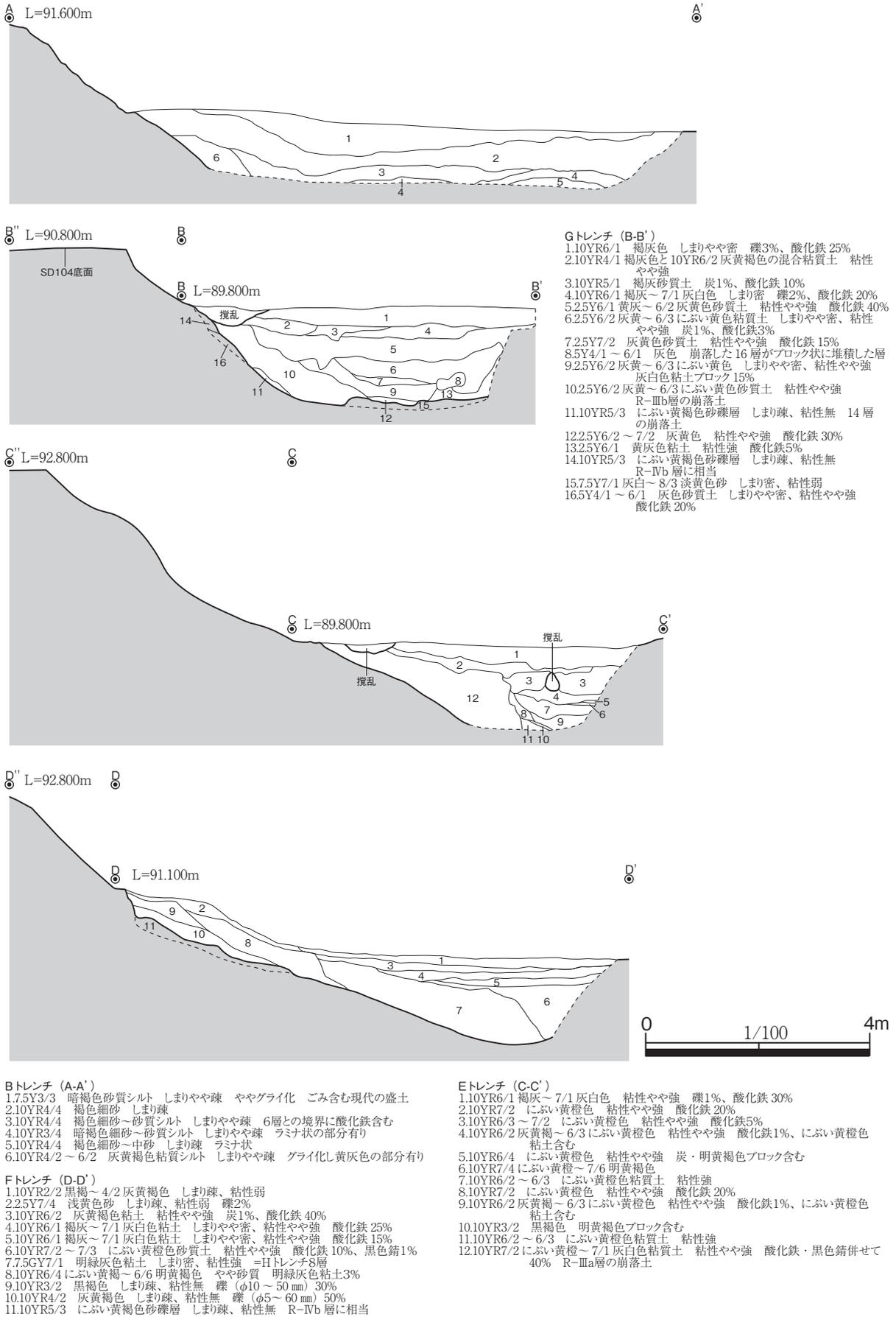


第6図 遺構配置図 (4)

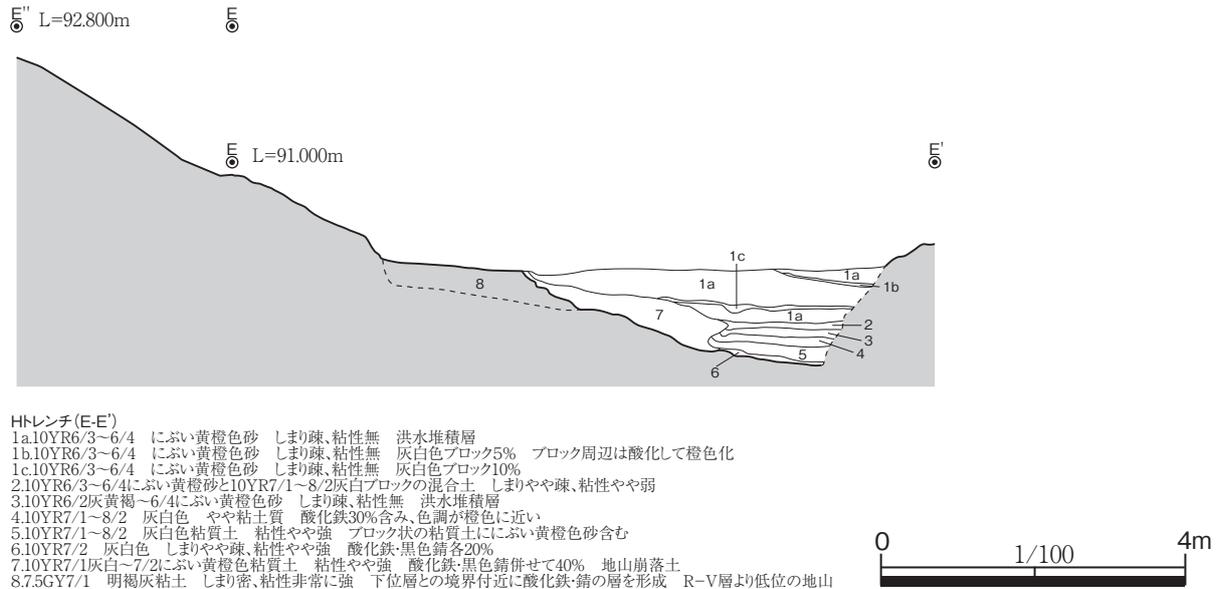


第7図 遺構配置図 (5)

1 調査概要



第8図 下段トレンチ断面(1)



第9図 下段トレンチ断面(2)

## (2) 基本層序(第2-10図、写真図版2-9・10)

平成30年度調査区はSD101・102の壁面、令和元年度・2年度調査区は南北に長いため調査区西壁面5箇所を確認した。各年度の層序の対応関係は第2-10図に示した。なお、以下の記載では平成30年度調査区の基本層序を使用しているものは「H-○層」、令和元年度・2年度調査区の基本層序を使用しているものは「R-○層」とする。

## 平成30年度=基本層序①・②

I層：褐色粘質土(10YR4/4) 層厚30~50cm 表土・耕作土

しまりやや密、粘性やや強、粒子やや細かい。隣接する北日詰城内I遺跡と共通する。洪水堆積層と考えられ、川砂(細砂)がわずかに混じる。

II層：黒褐色シルト質粘土(10YR3/2) 層厚20cm

しまり密、粘性強、粒子粗い。縄文時代~近代の遺物がわずかに混入する。酸化鉄が少量混じるので洪水堆積層の可能性ある。遺構堆積土はこの層の土に類似する。

III層：灰白色シルト質粘土(10YR8/2) 層厚50~80cm 地山の無遺物層

しまり密、粘性強、粒子細かい。洪水堆積層で、酸化鉄が中量混じる。一部は浅黄橙色(10YR8/3)で安定しない。なお、SD101の南壁はこの層が数回に及ぶ洪水堆積によって形成された層である。上面が遺構検出面

IV層：にぶい黄橙色細砂(10YR6/4) 層厚20cm 地山下の無遺物層

しまりやや密、粘性弱、粒子細かい。細砂(川砂か)が主体。下位には灰白色(10YR8/2)や褐灰色細砂(10YR4/1)がラミナを形成して堆積し、酸化鉄の塊が混じる。

Va層：灰黄褐色粗砂(10YR4/2) 層厚100cm 地山下の無遺物層

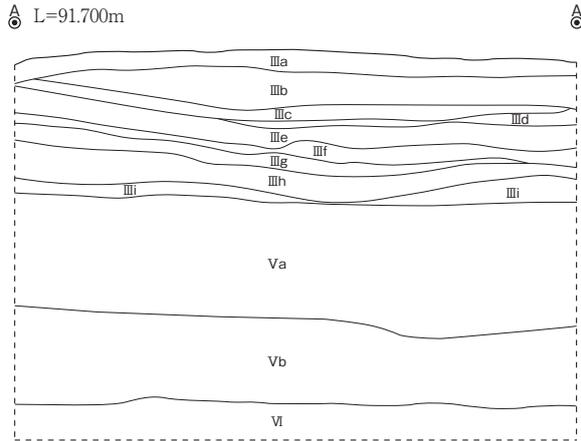
しまりやや疎、粘性弱、粒子粗い。洪水堆積層で5~30cm大の礫を中量含む。

Vb層：褐灰色粗砂(10YR6/1) 層厚40~60cm 地山下の無遺物層

しまり疎、粘性弱、粒子粗い。Va層より色調がやや青い。洪水堆積層で10~30cm大の礫

1 調査概要

基本層序①(IVA7h)

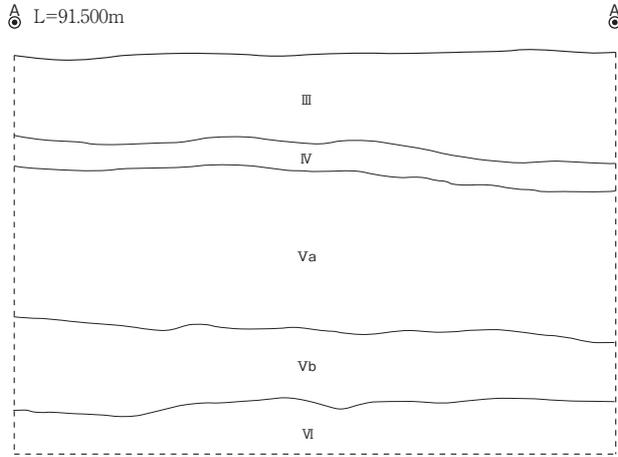


- 基本層序①・②
- I 表土・耕作土 しまりやや密、粘性やや強 粒子やや細かい 川砂(細砂)微量
  - II.10YR3/2 黒褐色シルト質粘土 しまり密、粘性強 粒子粗い 酸化鉄少量
  - III.10YR8/2 灰白色シルト質粘土 しまり密、粘性強 粒子細かい 酸化鉄含む
  - IIIa.10YR7/3 におい黄褐色シルト質粘土 しまり密、粘性強 粒子細かい  
北日詰城内I遺跡IIIb層に相当
  - IIIb.10YR4/2 灰黄褐色細砂 しまりやや密、粘性やや弱 粒子粗い 酸化鉄含む
  - IIIc.10YR7/3 におい黄褐色砂質シルト しまり密、粘性やや強 粒子粗い 酸化鉄含む
  - IIId.10YR4/2 灰黄褐色細砂 しまりやや密、粘性弱 粒子粗い 酸化鉄含む
  - IIIf.10YR3/2 黒褐色粗砂 しまりやや密、粘性弱 粒子粗い 酸化鉄含む
  - IIIf.10YR4/3 におい黄褐色細砂 しまりやや密、粘性弱 粒子粗い ラミナを形成
  - IIIf.10YR4/4 褐色細砂 しまりやや密、粘性弱 粒子粗い ラミナを形成
  - IIIf.10YR3/4 暗褐色細砂 しまりやや密、粘性弱 粒子粗い ラミナを形成
  - III.10YR4/1 褐灰色細砂～粗砂 しまりやや密、粘性弱 粒子粗い 下部に粗砂偏在
  - IV.10YR6/4 におい黄褐色細砂 しまりやや密、粘性弱 粒子細かい 細砂主体、酸化鉄含む 下位には灰白色・褐灰色細砂がラミナを形成
  - Va.10YR4/2 灰黄褐色粗砂 しまりやや疎、粘性弱 粒子粗い 礫(φ50～300mm)含む
  - Vb.10YR6/1 褐灰色粗砂 しまり疎、粘性弱 粒子粗い 礫(φ100～300mm)多量
  - VI.5G6/1 緑灰色粘土 しまり密、粘性弱 粒子細かい 非常に硬く混和物無し

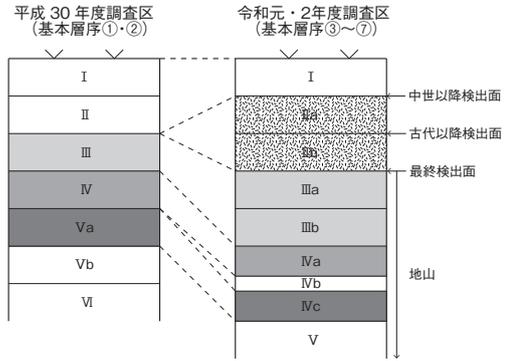
基本層序③～⑦

- I 表土・耕作土
- IIa.10YR2/2～3/2 黒褐色 しまりやや密 黄褐色ブロック(φ2～10mm)3%
- IIb.10YR2/1～2/2 黒褐色 しまりやや密 黄褐色ブロック(φ2～10mm)1%
- IIIa.10YR6/4～7/6 におい黄褐～明黄褐色砂質土 しまりやや密、粘性やや強
- IIIb.10YR7/6～7/8 明黄褐～黄褐色砂質土 しまりやや密、粘性やや強
- IVa.10YR3/2 黒褐色砂 しまり疎、粘性無
- IVb.10YR5/3～5/4 におい黄褐色砂質土 しまり疎、粘性弱 小礫含む
- IVc.10YR2/2～3/2 黒褐色砂 しまり疎、粘性無
- V.10YR2/2～3/2 黒褐色砂礫層 しまり疎、粘性無 礫(φ2～50mm)と粗砂で構成

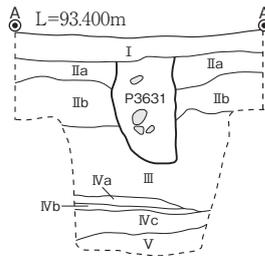
基本層序②(III A10g)



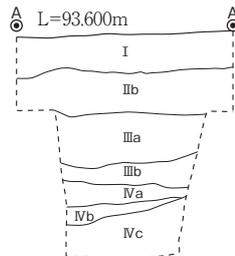
※層序の対応関係模式図



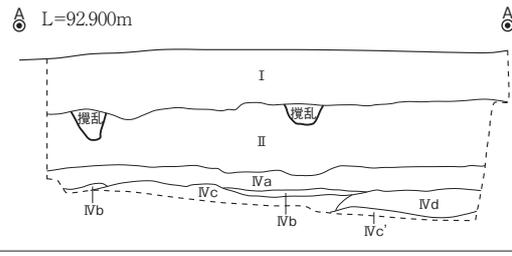
基本層序③(II A16g)



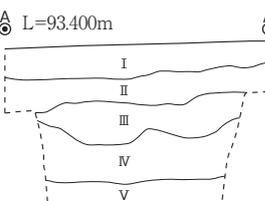
基本層序④(II A12g)



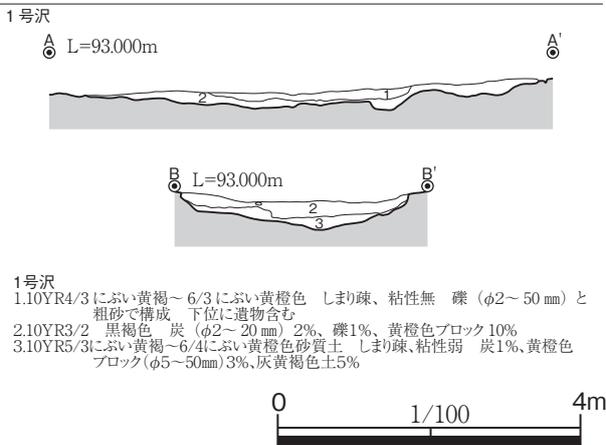
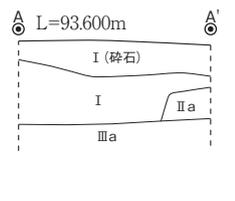
基本層序⑤(II A2g)



基本層序⑥(IA14g)



基本層序⑦(IA3f)



第10図 基本層序、1号沢

を多量に含む。礫はVa層より大きい。

VI層：緑灰色粘土（5G6/1）層厚不明 地山下の無遺物層

しまり密、粘性弱、粒子細かい。非常に硬く、混入物は見受けられない。

遺物は主にII層と遺構内から出土し、遺構はIII層上面で検出した。またSD101・102の壁面及び底面でIII～VI層までを確認したが、壁面からは遺構・遺物ともに検出されなかった。またIV～Vb層は川砂や礫を多く含む洪水堆積層であり、遺構・遺物ともに検出されないと判断し、これ以上は掘り下げていない。

### 令和元年度・2年度＝基本層序③～⑦

I層：表土・耕作土 層厚15～40cm

IIa層：黒褐色（10YR2/2～3/2）層厚0～25cm

しまりやや密。黄橙色ブロック（φ2～10mm）を3%含む。中世以降の遺構検出面

IIb層：黒褐色（10YR2/1～2/2）層厚0～35cm

しまりやや密。黄橙色ブロック（φ2～10mm）を1%含む 古代以降の遺構検出面

IIIa層：にぶい黄橙～明黄褐色砂質土（10YR6/4～7/6）層厚20～50cm

しまりやや密、粘性やや強 II層が確認されない範囲での遺構検出面

IIIb層：明黄褐～黄橙色砂質土（10YR7/6～7/8）層厚15～50cm

しまりやや密、粘性やや強 II・IIIa層が確認されない範囲での遺構検出面

IVa層：黒褐色砂（10YR3/2）b層を間層としてa・c層が層状に堆積しており、層厚は3層併せて5～100cm しまり疎、粘性無し。洪水堆積層

IVb層：にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3～5/4）しまり疎、粘性弱。小礫含む 洪水堆積層

IVc層：黒褐色砂（10YR2/2～3/2）しまり疎、粘性無し。洪水堆積層

V層：10YR2/2～3/2 黒褐色砂礫層（10YR2/2～3/2）層厚不明

しまり疎、粘性無し。礫（φ2～50mm）と粗砂で構成される洪水堆積層

遺物は基本的にI～II層及び遺構内から出土し、遺構はII層上面及びII層が確認されない範囲ではIII層以下で検出した。なお、II層はさらに2層に細分でき、検出遺構の年代が異なることから堆積に一定の時間差があったと考えられるが、土質がほとんど変わらないことから平面的な分布を区別することはできなかった。

## 2 検出遺構

### (1) 竪穴建物

古代～中世に属するものを25軒検出した。検出地点・規模等は第2-2表の通りである。以下では検出状況や形態等の事項を中心に記載を行っていく。

#### SI01（第2-11図、写真図版2-11）

H～IIIa層上面でやや薄い黒色の方形プランとして検出した。当初は土坑として精査を進めたが、他の土坑と比べて平面形が異なり柱穴が付属することから竪穴建物と判断した。平面形は方形で、壁

第2表 竪穴建物一覧

遺構名	グリッド	年代	平面形	規模 (m)			主軸方位	付属施設				カマド (設置位置)			主柱穴配置
				長軸	短軸	深さ		壁溝	貯蔵穴	炉	張出し	構築材	位置	煙道傾	
SI01	Ⅲ A8h	中世 (16C 後)	方形	1.96	1.79	0.40	N-2°-W	-	-	-	-	-	-	-	壁際 4 本
SI02	Ⅱ A9k	中世 (15~16C)	隅丸方形	3.30	3.05	0.15	N-0°-E	-	-	-	-	-	-	-	中央 4 本
SI03	Ⅱ A21i	中世 (15C 後~16C 前)	隅丸長方形	6.56	5.60	0.87	N-2°-E	-	-	-	○	-	-	-	壁際 8 本
SI04	Ⅱ A15j	中世 (16C 後)	長方形	5.90	3.92	0.74	N-1°-E	-	-	-	○	-	-	-	柱穴無し
SI05	Ⅱ A20k	中世 (15~16C)	方形	3.23	(3.20)	0.25	N-2°-E	-	-	○	○	-	-	-	壁際 4 本
SI06	Ⅱ A20i	中世 (16C)	方形	(3.75)	3.50	0.37	N-2°-W	-	-	-	-	-	-	-	壁際 6 本か
SI07	Ⅱ A15k	中世 (15C 後~16C 前)	長方形	5.00	(4.10)	0.63	N-4°-W	-	-	-	○	-	-	-	柱穴無し
SI08	Ⅱ A15k	中世 (15C 後か)	隅丸方形	(4.60)	(4.10)	0.35	N-1°-W	-	-	-	○	-	-	-	不明
SI09	Ⅱ A16k	中世 (16C 後か)	長方形	4.35	2.65	0.50	N-2°-W	-	-	-	○	-	-	-	不明
SI10	Ⅲ A11	中世 (16C 後)	不正方形	3.92	(3.85)	0.35	N-3°-W	-	-	-	-	-	-	-	柱穴無し
SI11	Ⅱ A23k	不明	方形	1.50	1.80	0.25	N-0°-E	-	-	-	-	-	-	-	不明
SI12	Ⅱ A20g	中世 (15~16C)	方形	3.30	(2.10)	0.75	N-8°-W	-	-	-	-	-	-	-	壁際 6 本か
SI13	Ⅱ A10h	中世	長方形	5.30	3.35	0.40	N-86°-W	-	-	-	○	-	-	-	壁際 6 本
SI14	Ⅱ A11i	古代 (9C 後)	方形	4.32	4.10	0.23	N-70°-E	-	○	○	-	1. 粘質土 2. 不明	東壁南 東壁中央	水平 下降	柱穴無し
SI15	Ⅱ A9g	古代 (9C 後)	方形	4.53	4.25	0.10	N-70°-E	-	○	-	-	粘質土 + 土器	東壁南	水平	柱穴無し
SI16	Ⅱ A9g	中世 (15~16C)	方形	4.40	(1.90)	0.80	N-12°-W	○	-	-	○	-	-	-	壁際 4 本か
SI17	Ⅱ A17g	中世	方形	2.10	(1.80)	0.60	N-22°-W	-	-	-	-	-	-	-	柱穴無し
SI18	Ⅱ A6g	中世 (15~16C)	方形	4.78	(3.63)	0.10	N-2°-W	○	-	○	-	-	-	-	不明
SI19	I A21h	古代 (9C 前~中)	方形	7.50	7.00	0.25	N-71°-E	○	○	-	-	1. 不明 2. 粘質土	東壁南 東壁南	水平 下降	中央 4 本
SI20	I A20g	中世 (16C 後)	長方形	4.40	3.50	0.30	N-6°-E	-	-	-	-	-	-	-	中央 2 又は 3 本か
SI21	I A16k	中世 (16C 後)	方形	3.83	(1.70)	0.30	N-0°-E	-	-	-	-	-	-	-	柱穴無し
SI22	I A15i	中世~近世初 (16C 後~17C 前)	長方形	4.55	3.10	0.25	N-3°-W	-	-	○	-	-	-	-	柱穴無し
SI23	I A16i	古代末 (12C)	長方形	3.65	3.35	0.12	N-7°-W	-	-	-	-	-	-	-	壁際 4 本
SI24	I A20g	中世 (16C 後)	長方形	3.70	3.45	0.30	N-7°-W	-	-	-	-	-	-	-	壁際 6 本
SI25	I A7g	古代 (9C 前~中)	方形	3.80	3.70	0.38	N-175°-W	-	-	-	-	粘質土	南壁東	水平	柱穴無し

※建物規模は張出し部も含む、( ) は残存値

面はやや外方に開きながら立ち上がる。床面は H-Ⅲa 層を平坦に整えている。堆積土は 4 層に分層した。上位 (1・2 層) は褐色~にぶい黄褐色粘質土、下位 (4 層) は黒褐色粘質土が主体で、炭化物や灰白色粘土を含む。堆積の様相は自然堆積である。

付属施設として床面の南北壁中央~東側で柱穴 4 個を検出した。

遺物は堆積土中から土器が 19.8 g 出土しているが、細片の為図示していない。

本遺構は上屋を有する竪穴建物であるが、用途については不明である。年代は、出土遺物は無いが堆積土中から出土した炭化材の年代測定結果 (第 4 節 (1)、試料 H9・19) から中世 (16 世紀後半) と考えられる。

#### SI02 (第 2-11 図、写真図版 2-12)

R-Ⅲa 層上面で灰黄褐色の不正方形プランとして検出した。多数の柱穴と重複関係にあり、このうち SB42 を構成する柱穴である P3006 に切られている。平面形は南壁側が幅広となる方形で、壁面は外方に開きながら立ち上がる。床面は R-Ⅲa 層を平坦に整えているが、中央付近が若干低くなっている。堆積土は灰黄褐色土を主体とし、4 層に分層した。堆積の様相は自然堆積で、壁面付近には R-Ⅱ 層由来の崩落土が堆積していた。

付属施設として床面で柱穴 16 個を検出した。このうち P02・03・08・16 が主柱穴で、方形の柱配置になると考えられる。また、若干歪であるが P01・02・03・04 でも方形の配置となる。床面には明確な痕跡は無いが、本建物では床面の拡張を行っており、それに伴って前者から後者へと柱配置を

出土遺物	他遺構との重複関係 (右側が新しい)	備考 (分析の詳細は第4節参照)
土器 19.8g	◎→SD01	放射性炭素年代 [H9・19]
土器 202.5g [a1・2]、陶磁器 41.7g [b1]、石器 3.1g [c202・203]、金属 [d1]	◎→SB42	
土器 50.7g [a1・2]、陶磁器 29.0g [b2・3]、石器 5987.9g [c1・2]、金属 [d2~6]、銭貨 [e1・2]	SI06 →◎→SE01	放射性炭素年代 [R1]
土器 568.5g [a5~11]、陶磁器 166.1g [b4~8]、石器 3119.6g [c3~8]、金属 [d2~6]、銭貨 [e1・2]、生産関連 32.3g	SB26~28・125、SD16・31 →◎→SB19	焼失家屋、放射性炭素年代 [R2]、樹種同定、種実同定
土器 208.7g [a12~15]、陶磁器 38.4g [b9~11]、金属 [d17・18]、生産関連 59.4g [h3]	◎→SB12、SX05	
土器 81.3g [a16]、陶磁器 9.6g [b12]、金属 [d19]	SB123 →◎→SI03、SL12~16	
土器 357.2g [a17~23]、陶磁器 34.0g [b13・14]、石器 12890.1g [c9・10・204]、金属 [d20~23]、銭貨 [e6~11]、生産関連 37.6g	SI08 →◎→SI09、SB25~27、SK44・61	放射性炭素年代 [R10・12]、2軒の可能性も有り
土器 193.2g、陶磁器 5.6g [b14]	◎→SI07、SB25~27	
土器 475.3g [a24~26]、石器 1761.6g [c11・12・205]	SI07、SD32 →◎→SB26・27、SK44	
土器 38.4g [a27]、陶磁器 8.7g [b15]、石器 278.4g [c13~17・206]、金属 [d24~26]	無し	放射性炭素年代 [R11]
土器 23.5g、金属 [d27]	無し	
土器 48.1g [a28]、陶磁器 3.0g、石器 799.3g [c18]	◎→SB16、SD34	
土器 193.6g [a29・30]、陶磁器 40.7g [b16]、金属 [d28~32]、銭貨 [e12・13]、生産関連 47.5g	SI14 →◎→SB41	
土器 4514.9g [a31~55]、陶磁器 35.4g [b17]、石器 1812.5g [c19・20]、金属 [d33・34]、生産関連 8.4g	◎→SI13、SB22・25・29・34・35	煙道の構築方法は不明
土器 3467.3g [a56~70]、陶磁器 59.9g [b18・19]、石器 0.9g、金属 [d35]、銭貨 [e14]、生産関連 152.9g [h4]	◎→SI16、SB44・47、SK63~65	煙道の構築方法は不明、生産関連遺物分析 (試 No.1)
土器 32.9g [a71]、陶磁器 2.3g [b19]、石器 282.3g [c21]、生産関連 5.9g	SI15 →◎→SK62	
土器 47.7g、石器 2974.0g [c22・23]	SB18 →◎	
土器 8.9g、石器 4.1g、金属 [d36]、生産関連 122.2g [h5]	◎→SK76	生産関連遺物分析 [No.2]
土器 24532.8g [a72~137]、陶磁器 48.1g [b20]、石器 393.1g [c24・207]、金属 [d37]	SK88 →◎→SK78・81、SB67・69・72~75	カマド1煙道は構築方法不明、カマド2煙道は列り抜き式、放射性炭素年代 [R37]
土器 149.4g、陶磁器 64.4g [b21~24]、金属 [d38~41]、銭貨 [e15]	SD40 →◎→SB72~74・78・128	放射性炭素年代 [R38]
土器 103.0g、陶磁器 23.8g [b25~28]、石器 9728.6g [c25~27]、金属 [d42・43]、銭貨 [e16]、生産関連 8.6g [h2]	無し	生産関連遺物分析 [No.8]
土器 306.1g [a142]、陶磁器 159.6g [b29・30]、石器 4133.5g [c28~30]、金属 [d44~46]	SI23、SD107、SK95 →◎→SB81・89・93	放射性炭素年代 [R39]
土器 53.8g [a138]、陶磁器 143.2g [b31~34]、石器 682.0g	◎→SI22、SB81・89・93、SD107、SK95	
土器 322.1g [a139~142]、陶磁器 39.4g [b35~37]、石器 2841.4g [c31]、金属 [d47]、銭貨 [e17・18]	SK86 →◎→SB72・73・78・128	
土器 1183.0g [a143~148]、陶磁器 2.3g [b38]、石器 9018.4g [c32・33]、金属 [d48]	◎→SB101・102・105~108、SL34・36	放射性炭素年代 [R40]

※ [ ] は掲載番号

※単独の柱穴との重複関係は除く

変更した可能性もある。なお、P10については室内整理の段階でSB42を構成する柱穴であると判断した。

遺物は柱穴内及び堆積土中から出土しており、土器(かわらけ)2点と陶磁器1点、石器(自然礫)2点、金属製品(板状)1点を掲載した(a1・2、b1、c202・203、d1)。

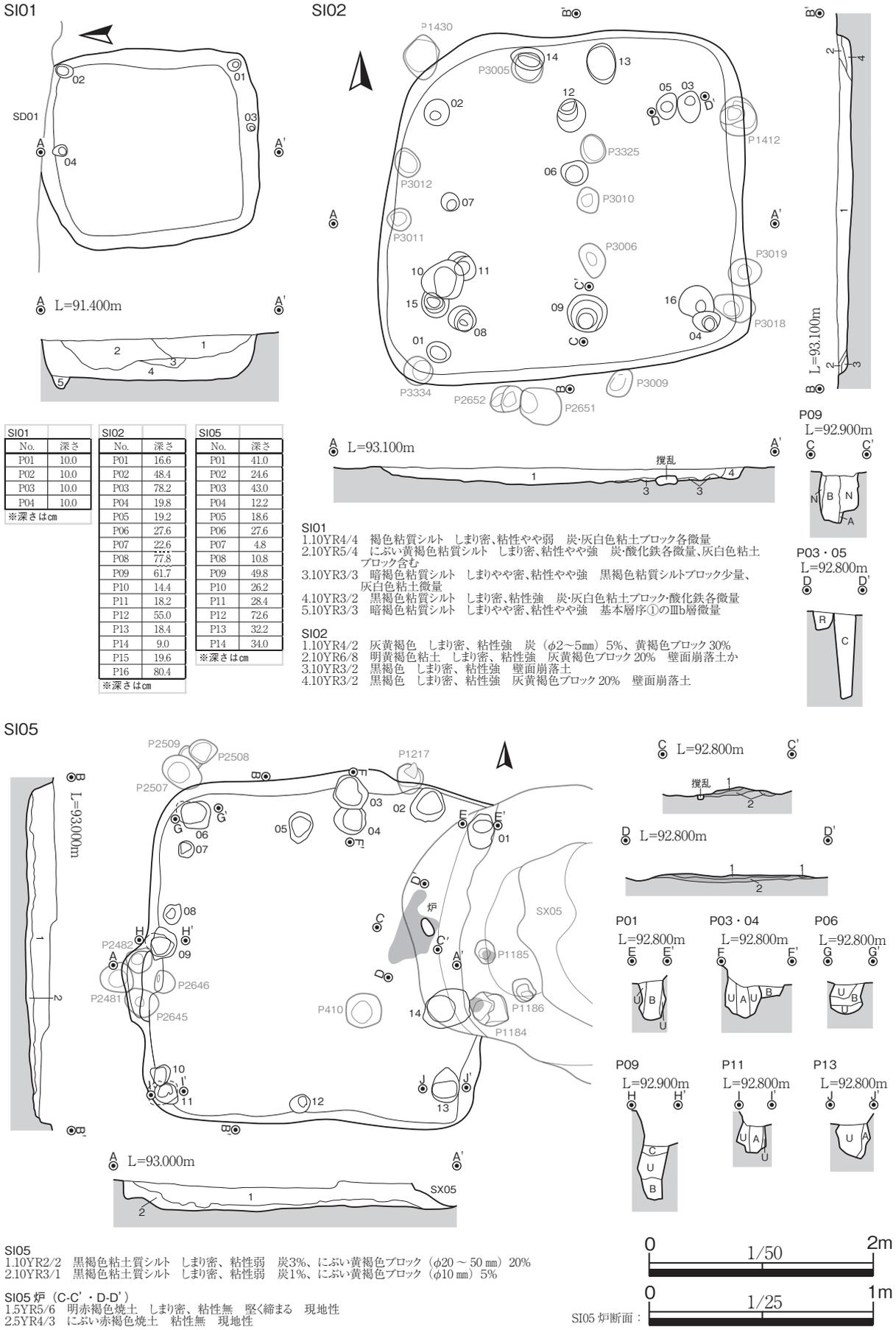
本遺構は上屋を有する竪穴建物であるが、用途については不明である。年代は、堆積土中位から12世紀代のかかわりが出土しているが、他遺構との重複関係を考慮すると中世(15~16世紀代)と考えられる。

### SI03 (第2-12図、写真図版2-13・14)

R-II層下位~IIIa層上面で黒褐色の長方形プランとして検出した。SI06及びSE01と重複し、SE01より古く、SI06より新しい。西壁の一部をSE01によって壊されているが、平面形は隅丸長方形で、壁面は外方に開きながら立ち上がり、中位付近で屈曲する。床面はIIIb層まで掘り込み、中央にはにぶい黄褐色粘土を使用し、壁面付近はIIIb層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、柱穴内及び床面構築土を含めて11層に分層した。大部分が礫を多量に含む黒褐色土で、礫は遺構の南西側に多くその他の部分では少ない。また、堆積土中位には層状に炭化物を含む層(2・4層)がある。堆積の様相は自然堆積で、全体として粘性は弱い。

付属施設として床面で柱穴21個、南壁面で張出し1箇所を検出した。このうちP01・02・03・07・09・10・14が支柱穴で、長方形の柱配置になると考えられる。また、若干柱筋から外れている

2 検出遺構



第11図 SI01・02・05

がP08も支柱穴になる可能性がある。なお、明確な痕跡は確認できないが、この他に柱痕跡が確認された柱穴（P05・06）もあることから、拡張に伴い柱配置を変更している可能性もある。張出しは南壁の中位から外方に向かって掘り込まれており、長さ約0.35m、幅約0.8mである。

遺物は堆積土中～下位を中心に出土しており、土器（かわらけ）・陶磁器（染付・青磁）・石器（石臼）・銭貨（永楽通宝）各2点と金属製品（小刀・棒状等）5点を掲載した（a3・4、b2・3、c1・2、d2～6、e1・2）。

本遺構は上屋を有する竪穴建物であるが、用途については不明である。年代は、堆積土下位から出土した陶磁器の年代観及び放射性炭素年代測定結果（第4節（1）、試料R1）から中世（15世紀後葉～16世紀前葉）と考えられる。なお、炭化物が層状に堆積し、東壁床面付近でも大型の炭化材が検出されたことから焼失建物であった可能性もある。

#### SI04（第2-13・14図、写真図版2-15・16）

Ⅱ層下位～Ⅲa層上面で、大型の長方形プランとして検出した。当初は複数の竪穴建物が重複しているものと考えていたが、断面観察の結果、張出しを有する1軒の竪穴建物であることが判明した。SB19（P814）・28（P903・1107）、SD16・31と重複しており、SB19より古く、SB28、SD16・31より新しい。また、直接重複する柱穴は無いが、SB26・27・125と重複しており、いずれも本遺構より古い。平面形は長方形で、壁面は外方に開きながら立ち上がる。また、東西壁は下位で一段屈曲しており、テラス状になっている。床面はR-Ⅲb層まで掘り込み、ほぼ全面に黄褐色シルトと黒褐色シルトを使用して平坦に整えている。なお、本遺構は焼失建物であり、堆積土下位～床面直上にかけて多量の炭化材が検出されている（第2-16図上）。肉眼観察では柱材・屋根材・壁材等の形状が確認でき、代表的なものについて樹種同定を実施したところアスナロ属・スギ・カエデ属等が確認された（第4節（5）参照）。堆積土は床面構築土を含めて10層に分層した。上位の黒褐色土（1・2層）は自然堆積であるが、それより下位はⅢa層由来のブロックや炭化物を多量に含んでおり、廃屋とする際の人為堆積と考えられる。

付属施設として床面南側で柱穴1個と南壁南東隅で張出し1箇所を検出した。張出しはⅢa層を削り出してスロープ状にしており、規模は長さ約1.1m、幅約1.6mである。

遺物は堆積土上位～床面直上で出土しており、土器（須恵器・かわらけ）7点、陶磁器（猿投・須恵器系・古瀬戸・唐津）5点、石器（敲磨器・石臼等）6点、金属製品（鉄鋌状・釘等）10点、銭貨（開元通宝・無文銭）2点を掲載した（a5～11、b4～8、c3～8、d7～16、e3・4）。この他、床面北西側で炭化したイネとソバが多量に検出された（第4節（6）参照）。

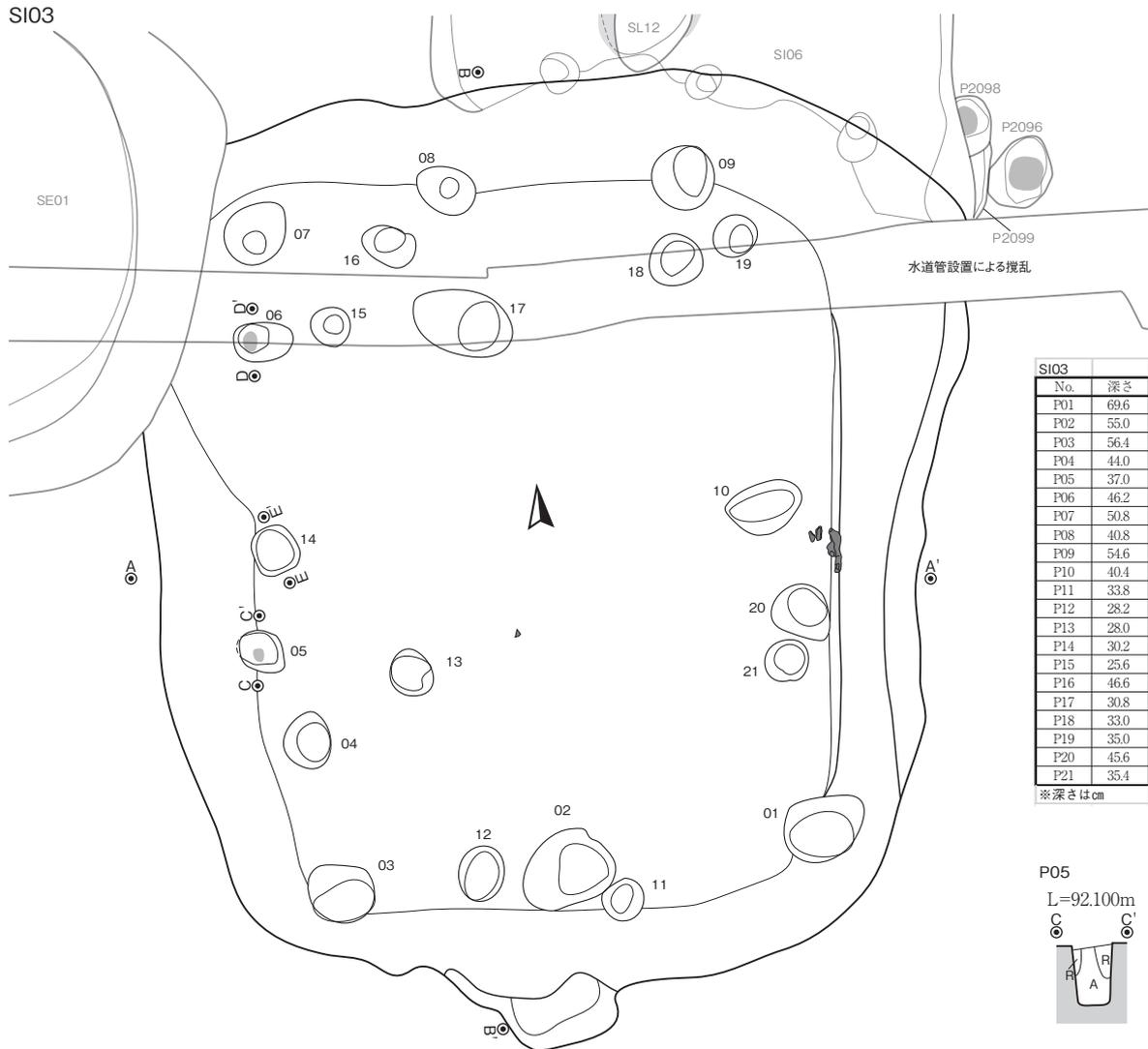
本遺構は上屋を有する竪穴建物であり、種実や素材である鉄鋌状鉄製品等が出土していることから倉庫として使用されたと考えられる。年代は、炭化材の年代測定結果は15世紀後葉～16世紀前葉であるが（第4節（1）、試料R2）、出土遺物の年代観から中世（16世紀後半）と考えられる。

#### SI05（第2-11図、写真図版2-17）

R-Ⅱ層上面で黒褐色の方形プランとして検出した。SB12（P410・1184）、SX05と重複しており、本遺構のほうが古い。また、多数の柱穴と重複している。東壁をSX05によって壊されているが、平面形は方形で、壁面は外方に開きながら立ち上がる。床面はⅢa層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で2層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。

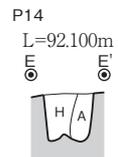
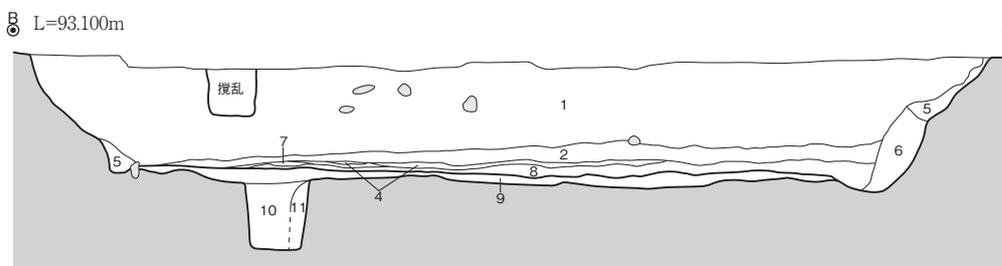
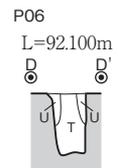
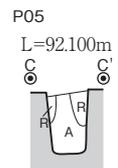
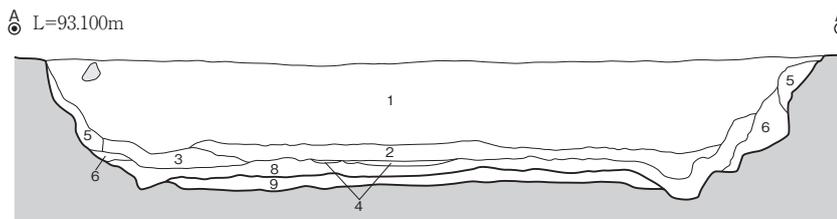
付属施設として床面で炉1基と張出し1箇所、柱穴14個を検出した。炉は一部SX05に壊されて

2 検出遺構



SI03	
No.	深さ
P01	69.6
P02	55.0
P03	56.4
P04	44.0
P05	37.0
P06	46.2
P07	50.8
P08	40.8
P09	54.6
P10	40.4
P11	33.8
P12	28.2
P13	28.0
P14	30.2
P15	25.6
P16	46.6
P17	30.8
P18	33.0
P19	35.0
P20	45.6
P21	35.4

※深さはcm



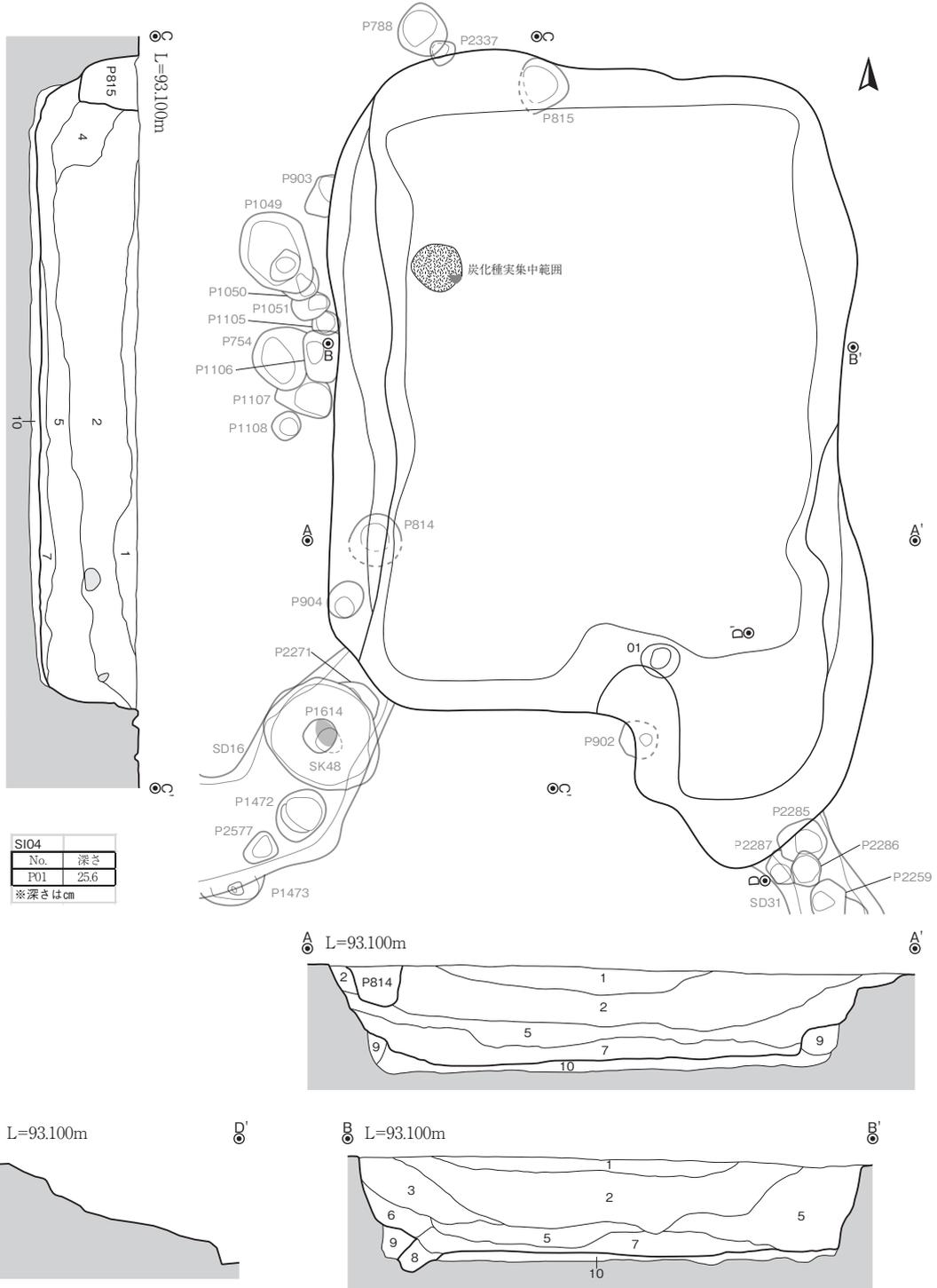
- SI03
- 1.10YR2/3 黒褐色シルト 粘性無 礫(φ50~100mm)50%
  - 2.10YR3/2 黒褐色シルト 粘性無 炭3%含む 下位、2層上に炭化物層あり
  - 3.10YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘性無 炭5%
  - 4.10YR4/8 褐色 しまり密、粘性無 酸化鉄の堆積層 上面に炭化物の集積
  - 5.10YR5/4 におい黄褐色粘土 しまりやや密 地山崩落土
  - 6.10YR2/3 黒褐色粘土質シルト 粘性弱 褐色ブロック20% 地山崩落土
  - 7.10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト しまり密、粘性強 貼床構築土

- 8.10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性無
- 9.10YR4/3 におい黄褐色粘土 しまり密、粘性強 黒褐色土含む 床面構築土
- 10. 柱穴土層パターンA 小礫1% P17堆積土
- 11. 柱穴土層パターンK P17堆積土



第12図 SI03

SI04

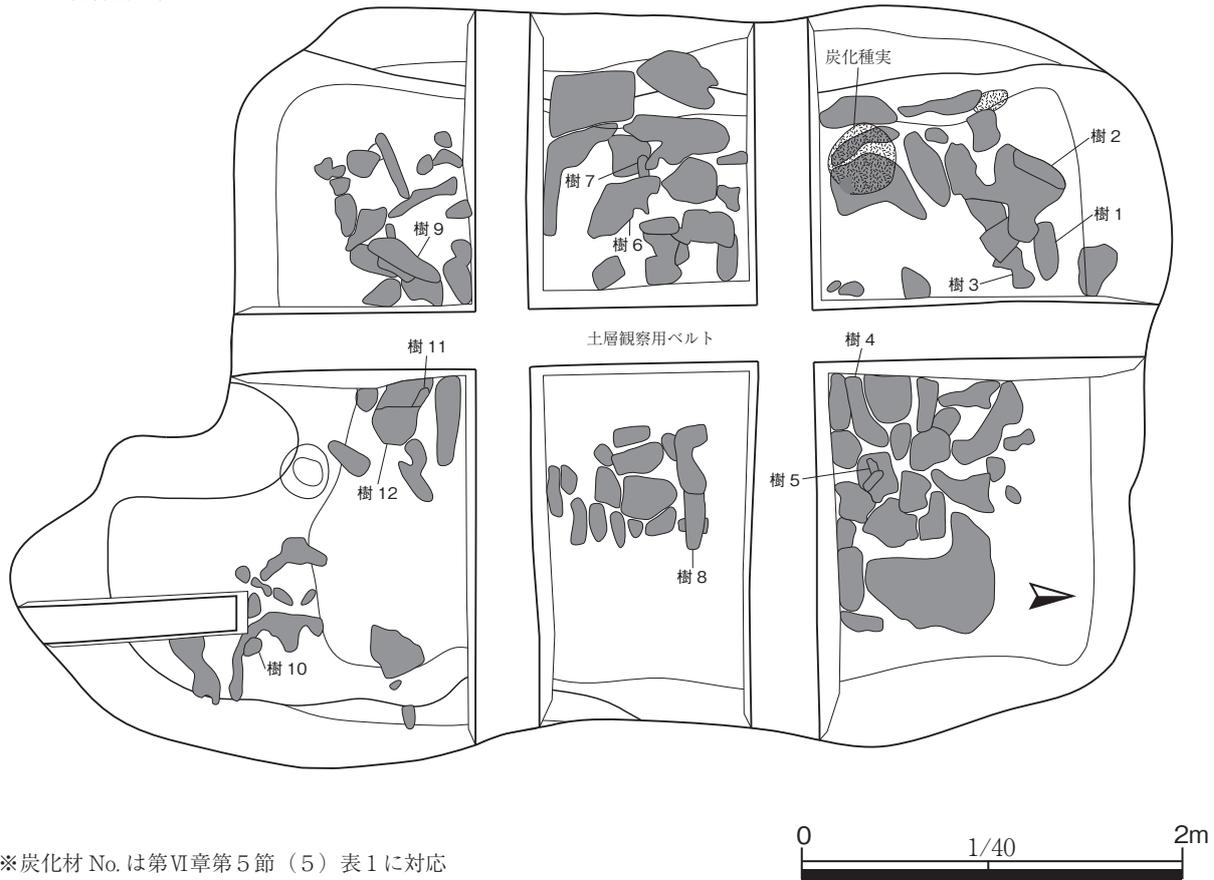


- SI04
- 1.10YR3/1 黒褐色粘質シルト しまりやや強、粘性やや強 黄橙色地山ブロック (φ5~10mm) 1%
  - 2.10YR3/2 黒褐色粘質シルト 粘性やや強 炭化材3%、黄橙色地山ブロック (φ5mm) 10%
  - 3.10YR3/3 暗褐色シルト 黄橙色地山ブロック (φ5~30mm) 20%
  - 4.10YR8/8 黄褐色シルト しまり・粘性共にやや強 灰黄褐色粘土質シルト3%
  - 5.10YR4/2 灰黄褐色シルト 炭化材5%、黄橙色地山ブロック (φ5~10mm) 40%
  - 6.10YR3/2 黒褐色粘土 しまり・粘性共に強 黄橙色地山ブロック (φ5mm) 3%
  - 7.10YR4/2 灰黄褐色シルト 炭化材20%、黄橙色地山ブロック (φ5mm) 10%
  - 8.10YR3/2 黒褐色砂質シルト 黄橙色地山ブロック3%
  - 9.10YR4/6 褐色シルト しまり・粘性共にやや強 黒褐色シルトブロック少量 床面構築土
  - 10.10YR7/8 黄褐色シルトと10YR3/1 黒褐色砂質シルトの混合土 しまり強、粘性やや強 床面構築土



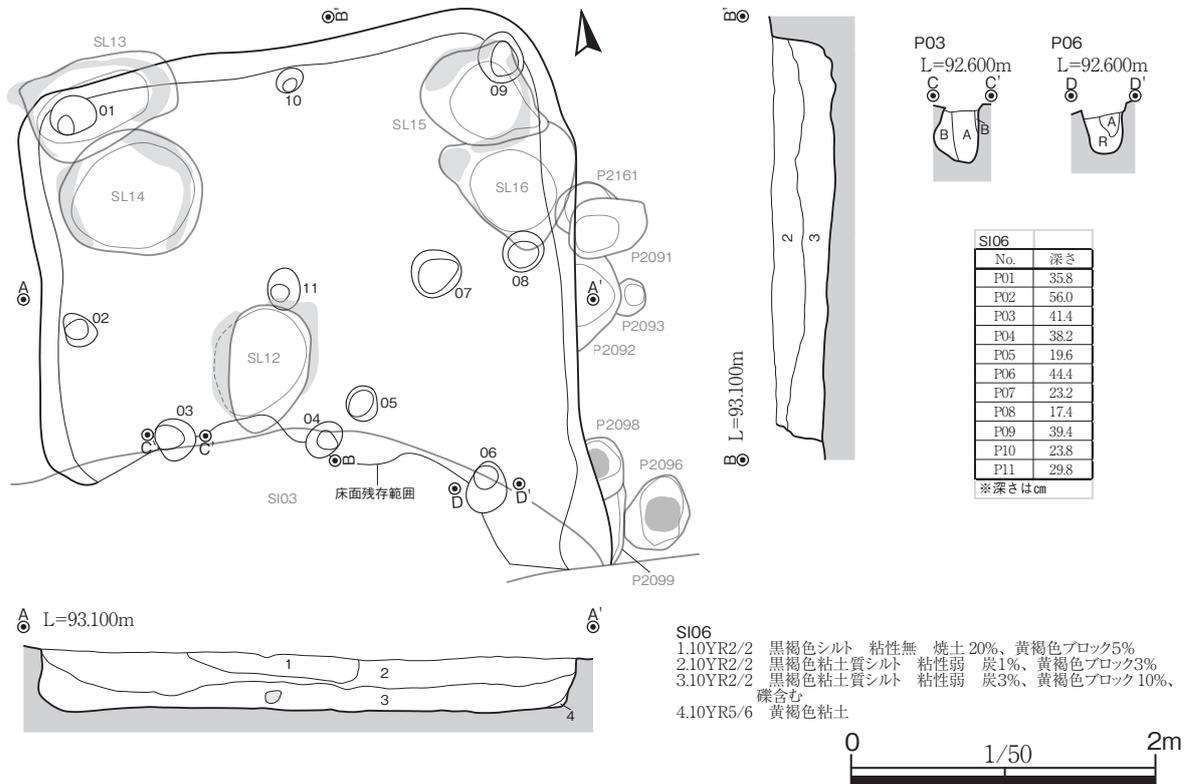
第13図 SI04 (1)

SI04 炭化材出土状況



※炭化材 No. は第Ⅵ章第5節(5)表1に対応

SI06



第14図 SI04 (2)、SI06

おり、平面形は不整形である。張出しは東壁の中央やや南寄りに位置し、長さ約 0.2 m、幅約 0.8 m である。底面は平坦で、壁面は垂直に立ち上がる。柱穴は、P01・06・11・13 が支柱穴で、方形の柱配置になると考えられる。なお、P03 については室内整理の段階で SB12 を構成する柱穴であると判断した。

遺物は柱穴内及び堆積土中から出土しており、土器（土師器・須恵器・かわらけ）4 点、陶磁器（青磁・古瀬戸）3 点、金属製品（鏃・釘）2 点、生産関連遺物（鉄滓）1 点を掲載した（a12～15、b9～11、d17・18、h3）。

本遺構は炉を有する竪穴建物であり、生産関連遺物も出土していることから工房としての用途が考えられる。年代は、出土した陶磁器の年代観から中世（15～16 世紀代）と考えられる。

#### SI06（第 2-14 図、写真図版 2-18）

R-Ⅱ層下位～Ⅲa層上面で黒褐色の方形プランとして検出した。SI03、SB12（P2091）、SL12～16 と重複しており、本遺構のほうが古い。また、直接重複する柱穴は無いが、SB123 と重複しており、本遺構のほうが新しい。南壁を SI03 に壊されているが、平面形は方形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、Ⅲa層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、4層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。

付属施設として床面で柱穴 11 個を検出した。南壁付近が消失しているため柱配置は不明であるが、P01・02・08・09・10 が支柱穴であり、壁際に沿って配置されていたと考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、土器（須恵器）・陶磁器（瀬戸美濃）・金属製品（釘）を各 1 点掲載した（a16、b12、d19）。

本遺構は上屋を有する竪穴建物であるが、用途については不明である。年代は、出土遺物の年代観及び他遺構との重複関係から中世（16 世紀代）と考えられる。

#### SI07・08・09（第 2-15・16 図、写真図版 2-19～21）

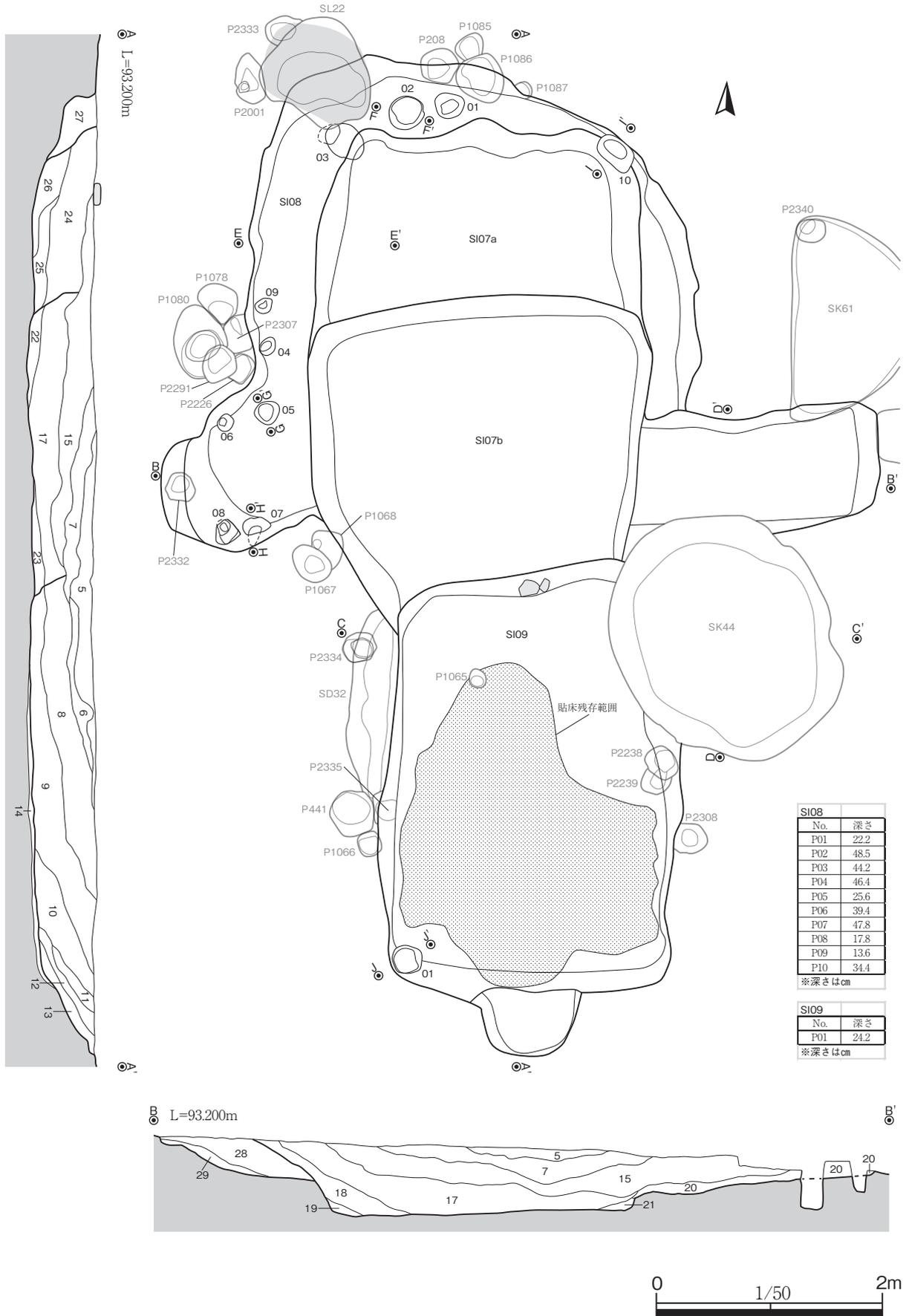
R-Ⅱ層下位～Ⅲa層上面で黒褐～黄褐色の方形や円形プランが複数重複する形で検出した。複数の遺構が重複していることを想定して精査を行ったところ、この範囲では竪穴建物 3 軒と土坑 2 基、溝 1 条が重複していることが判明した。新旧関係は古い順に SI08、SD32 → SI07 → SI09、SK61 → SK44 である。この他に SB25～27 と SL22、多数の柱穴と重複しており、SL22 より古く、SB25～27 より新しい。以下では竪穴建物毎に記載を行う。

SI07 は南壁を SI09 により壊されているが、平面形は長方形と考えられ、壁面は外方に開きながら立ち上がる。床面は、Ⅲa～b層を平坦に整えている。なお、本遺構は堆積土の状況から 2 軒（SI07a・b）になる可能性も考えられたが、床面に段差が無く東西壁面もほぼ直線的であることから 1 軒の竪穴建物と判断した。ただし、2 軒である可能性も排除できない為、平面図では 2 軒に分かれる場合の壁面ラインも表現している。堆積土は SI09 に跨るものを含めて 14 層に分層した（5・7・15～26 層）。Ⅲ層由来のブロックを多く含んでおり、大半が人為堆積と考えられる。

付属施設として東壁南側で張出し 1 箇所を検出した。床面より高い位置にあり、他の竪穴建物の張出しに比べて規模が大きかったことから方形土坑の可能性も考えられたが、堆積土が竪穴内と一連であったことから付属施設と判断した。緩やかに外側に向かって高くなっており、規模は長さ約 2.1 m、幅約 1.1 m である。

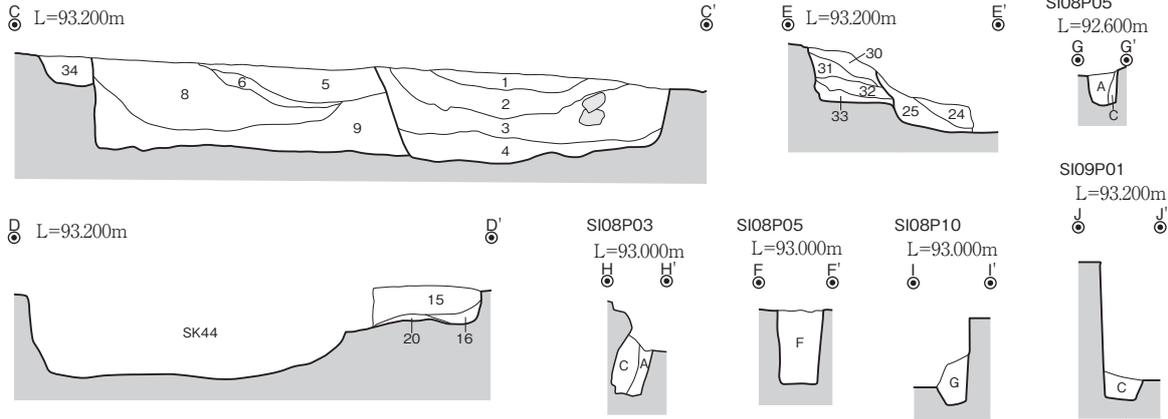
遺物は堆積土の西側を中心に出土しており、土器（かわらけ）7 点、陶磁器（瀬戸美濃）2 点、石

SI07・08・09 (1)



第15図 SI07・08・09 (1)

SI07・08・09 (2)

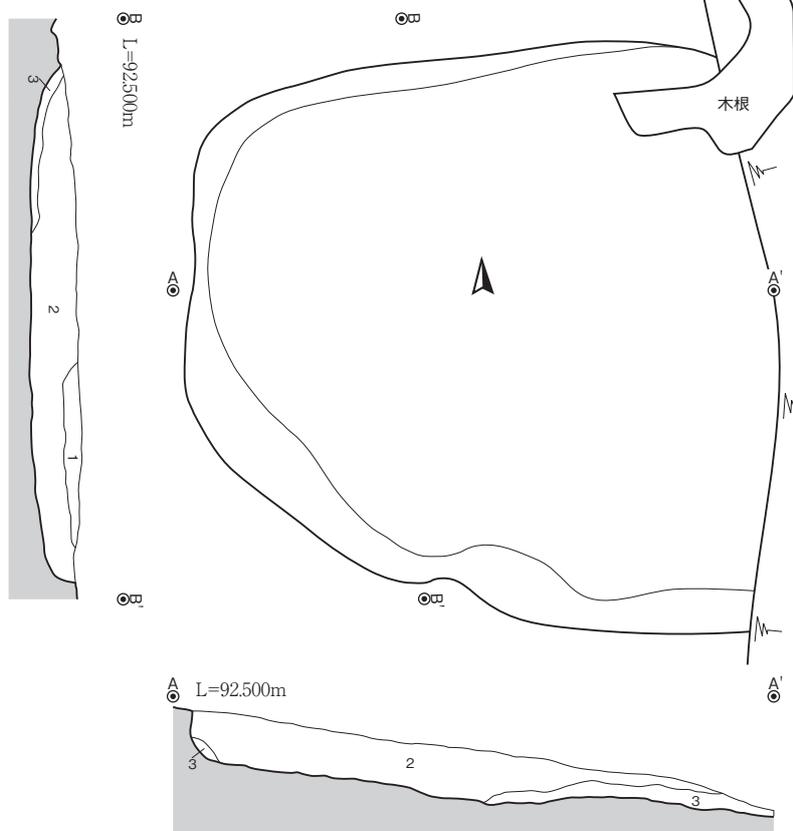


SI07・08・09

- 1.10YR5/1 褐灰色シルト 礫(φ5mm) 3%
- 2.10YR5/2 灰黄褐色シルト 炭20%、焼土ブロック1%、灰5%、礫(φ50mm) 10%
- 3.10YR4/3 におい黄褐色シルト 黄橙色シルトブロック(φ10mm) 10%
- 4.10YR5/8 黄褐色シルト 黒褐色シルトブロック(φ10~20mm) 20%
- 5.10YR8/8 黄橙色シルト しまりやや密、粘性やや強 褐灰色シルトブロック(φ30~50mm) 10%
- 6.10YR4/1 褐灰色シルト 灰黄褐色シルトブロック(φ10mm) 5%
- 7.10YR4/2 灰黄褐色シルト 炭3%、黄橙色シルトブロック(φ5mm) 5%
- 8.10YR2/1 黒褐色シルト 黄橙色シルトブロック(φ10~50mm) 20%
- 9.10YR2/3 黒褐色砂質シルト 黄橙色シルトブロック(φ5~10mm) 10%
- 10.10YR3/3 暗褐色粘質シルト 黄橙色シルトブロック(φ5~10mm) 10%、黒褐色粘土質シルトブロック(φ5mm) 5%
- 11.10YR5/6 黄褐色シルト 褐灰色シルトブロック(φ5mm) 10%
- 12.10YR2/3 黒褐色粘土質シルト 黄橙色シルトブロック(φ10~30mm) 20%
- 13.10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト 黄橙色シルトブロック(φ5mm) 1%
- 14.10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト 黄橙色シルトブロック20%、礫・黒褐色シルトブロック各3% 床面構築土
- 15.10YR4/3 におい黄褐色砂質シルト 炭3%、黄橙色シルトブロック(φ10mm) 10%
- 16.10YR4/3 におい黄褐色砂質シルトと10YR6/8明黄褐色砂質シルトの混合土。炭含む
- 17.10YR2/3 黒褐色砂質シルト 粘性やや弱 炭1%、黄橙色シルトブロック(φ5~20mm) 3%
- 18.10YR3/1 黒褐色砂質シルト 黄橙色シルトブロック(φ5mm) 3%
- 19.10YR3/4 暗褐色砂質シルト 黄橙色シルトブロック(φ5~10mm) 10%

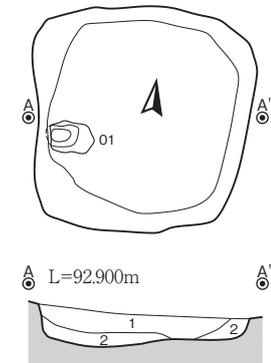
- 20.10YR6/8 明黄褐色砂質シルト しまりやや強、粘性弱 におい黄褐色シルトブロック(φ5mm) 10%
  - 21.10YR3/4 暗褐色砂質シルト 黄橙色シルトブロック(φ5mm) 3%
  - 22.10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性やや弱 黄橙色シルトブロック(φ5mm) 5%
  - 23.10YR3/3 暗褐色砂質シルト 黄橙色シルトブロック(φ5mm) 5%
  - 基本層序III層の崩落土
  - 24.10YR3/3 暗褐色砂質シルト 黄橙色シルトブロック(φ5mm) 5%
  - 25.10YR4/3 におい黄褐色砂質シルト 黄橙色シルトブロック(φ10~20mm) 5%
  - 26.10YR2/3 黒褐色砂質シルト 黄橙色シルトブロック(φ5mm) 10%
  - 27.10YR6/8 明黄褐色砂質シルト 黒褐色シルトブロック(φ10mm) 3%
  - 28.10YR4/3 におい黄褐色シルト 黄橙色シルトブロック(φ5mm) 7%
  - 29.10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト 黄橙色シルトブロック(φ10~20mm) 5%
  - 30.10YR3/3 暗褐色シルト 黄橙色シルトブロック(φ5mm) 10%
  - 31.10YR2/2 黒褐色粘土質シルト 粘性やや強 黄橙色シルトブロック(φ10mm) 1%
  - 32.10YR3/3 暗褐色シルト 黄橙色シルトブロック(φ5~10mm) 5%
  - 33.10YR2/2 黒褐色粘土質シルト 黄橙色シルトブロック(φ5mm) 5%
  - 34.10YR2/2 黒褐色粘土質シルト 黄橙色地山ブロック1%
- ※1~4層がSK44、5~14層がSI09、15~26層がSI07、27~33層がSI08、34層がSD32堆積土

SI10



- SI10
- 1.10YR5/2 灰黄褐色 炭(φ2~20mm) 2%、礫(φ5~50mm) 5%
- 2.10YR3/2 黒褐色 炭(φ2~20mm)・黄褐色ブロック各2%、礫(φ5~50mm) 10%
- 3.10YR5/3 におい黄褐色砂 しまり疎、粘性無 黄褐色ブロック5%

SI11



SI11	
No.	深さ
P01	16.4

※深さはcm

- SI11
- 1.10YR3/1 黒褐色シルト 炭1%、黄橙色地山ブロック(φ5~20mm) 10%
- 2.10YR4/2 灰黄褐色 砂質シルト しまりやや疎、粘性やや弱 黄橙色地山ブロック(φ5mm) 1%



第16図 SI07・08・09 (2)、SI10・11

器（敲磨器・台石等）3点、金属製品（釘・留金具等）4点、銭貨（永楽通宝）5点を掲載した（a17～23、b13・14、c9・10・204、d20～23、e6～11）。

本遺構は上屋を有する竪穴建物であるが、用途については不明である。年代は、17層から出土した炭化材の放射性炭素年代測定結果（第4節（1）、試料R10・12）及び出土遺物の年代観から中世（15世紀後葉～16世紀中葉）と考えられる。

SI08は大部分をSI07に壊されているため全形は不明であるが、残存する西・北・東壁から平面形は隅丸方形になると考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、Ⅲa～b層を平坦に整えており、SI07の床面より若干高い位置にある。堆積土は7層に分層した（27～33層）。Ⅲ層由来のブロックを多く含んでおり、大半が人為堆積と考えられる。

付属施設として床面で柱穴10個と西壁南隅で張出し1箇所を検出した。壁面に近いP02・10等が支柱穴になると考えられるが、床面の大部分が失われているため柱配置は不明である。また、張出し付近に位置するP04～08は断面形が三角形で、打ち込みの杭と考えられ、張出しの上屋を支える部材があった可能性がある。張出しは床面との段差は無く、外側に向かって緩やかに高くなっており、規模は長さ約1.2m、幅約1.3mである。

遺物はSI07との境界付近で出土したものがほとんどであり、明確に本遺構に帰属すると判断できるものは無い。

本遺構は上屋を有する竪穴建物であるが、用途については不明である。年代は、出土遺物が乏しいため詳細は不明であるが、形態と重複関係から中世のうちSI07に先行する時期（15世紀後半代か）と考えられる。

SI09は東壁の一部をSK44に壊されているが、平面形は長方形で、壁面は垂直に立ち上がる。床面はⅢb層まで掘り込み、北壁付近を除きにぶい黄褐色砂質シルトを用いて平坦に整えている。堆積土はSI07に跨るものを含めて10層に分層した（5～14層）。Ⅲ層由来のブロックを多く含んでおり、大半が人為堆積と考えられる。また、北壁付近の床面直上から石器を含む被熱した礫がまとまって出土した。

付属施設として床面南西隅で柱穴1個、南壁中央で張出し1箇所を検出した。張出しは床面との段差は無く、外側に向かって斜めに立ち上がっており、規模は長さ約0.6m、幅約0.8mである。

遺物は堆積土中から出土しており、土器（須恵器・かわらけ）・石器（敲磨器等）各3点を掲載した（a24～26、c11・12・205）。

本遺構は上屋を有する竪穴建物であるが、用途については不明である。年代は、出土遺物は乏しいが、形態及び重複関係からSI07に後続する中世（16世紀後半代か）と考えられる。

#### SI10（第2-16図、写真図版2-22）

R-Ⅲa層上面で黒褐色の不整形プランとして検出した。他遺構との重複関係は無く、単独で存在する。東壁は崩落により失われているが、平面形は不整な方形と考えられ、壁面は西・南壁はほぼ垂直、北壁は外方に開きながら立ち上がる。床面はⅢa～b層を掘り込んでおり、中央が若干窪んでいる。堆積土は黒褐色土が主体で、3層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。付属施設は検出されていないが、南壁付近の床面直上で軽石を主体とする礫の集中範囲が確認されている。

遺物は堆積土中から出土しており、土器（土師器）・陶磁器（瀬戸美濃）各1点と石器（敲磨器・軽石）6点、金属製品（釘等）3点を掲載した（a27、b15、c13～17・206、d24～26）。

本遺構は上屋を有する竪穴建物と考えられるが、用途については不明である。年代は、3層から出

土した炭化材の放射性炭素年代測定結果（第4節（1）、試料R11）及び出土した陶磁器の年代観から中世（16世紀後葉）と考えられる。

#### SI11（第2-16図、写真図版2-22・23）

R-Ⅲa層上面で黒褐色の方形プランとして検出した。他遺構との重複関係は無く、単独で存在する。平面形は方形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、Ⅲa層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、2層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。

付属施設として床面西側で柱穴1個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、金属製品（板状）1点を掲載した（d27）。

本遺構は平面形から竪穴建物と判断したが、他の竪穴建物より規模が小さいことから方形土坑の可能性もある。年代は、出土遺物が乏しく他遺構との重複も無いため不明である。

#### SI12（第2-17図、写真図版2-23）

R-Ⅲa層上面で黒～灰褐色の方形プランとして検出した。南側に溝状に延びていた部分は当初張出しと考えていたが、精査の結果、本遺構より新しい溝（SD34）であることが判明した。また、SB16（P1263）と重複しており、本遺構のほうが古い。その他、複数の柱穴と重複する。西側が調査区外の為全形は不明であるが、平面形は方形と考えられる。壁面は大きく外方に開きながら立ち上がり、北～東壁では中位で屈曲してテラス状になる部分がある。また、北壁は調査区壁面付近が大きく崩落している。床面はⅢa層を平坦に整えており、酸化鉄が集中するため上面が硬化している。堆積土はSD34と合わせて14層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。

付属施設として柱穴6個を検出した。このうち床面で検出したP01・02・03は主柱穴と考えられるが、柱配置は不明である。北～東壁の中位で検出されたP04・05・06は壁面に向かって斜めに打ち込まれた杭で、壁材の支持柱であったと考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、土器（かわらけ）・石器（敲磨器）各1点を掲載した（a28、c18）。

本遺構は上屋を有する竪穴建物であるが、用途については不明である。出土遺物が乏しく詳細な年代は不明であるが、形態から中世（15～16世紀代）と考えられる。

#### SI13（第2-18・19図、写真図版2-24）

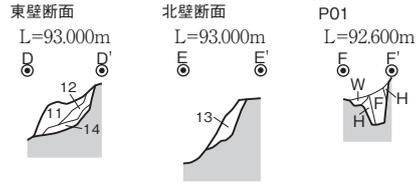
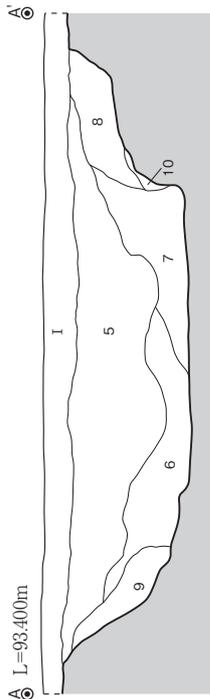
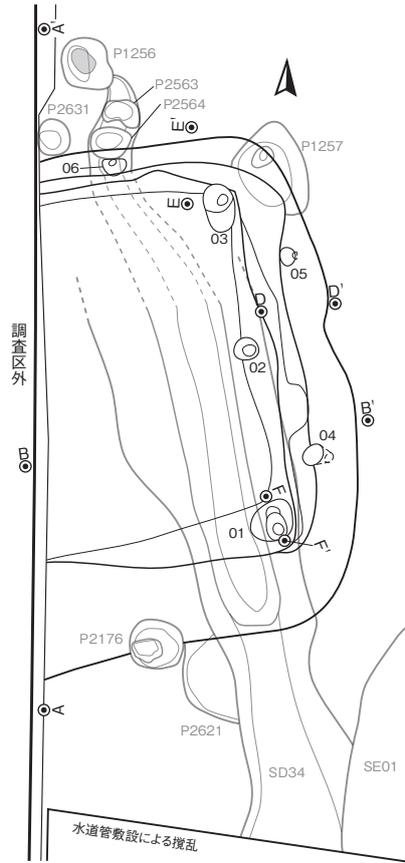
R-Ⅱ層下位で暗褐～黒褐色の長方形プランとして検出した。SI14と重複しており、本遺構のほうが新しい。また、SB41とも重複しているが、直接重複する柱穴が無いので新旧関係は不明である。平面形は長方形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はⅢa層まで掘り込み、黒褐色土と黄褐色土の混合土を使用して平坦に整えている。堆積土は床面構築土を含めて8層に分層した。Ⅲ層由来のブロックや炭を多く含んでおり、大半が人為堆積である。

付属施設として床面で柱穴17個、西壁で張出し1箇所を検出した。柱穴はP01・02・03・04・05・14が主柱穴で、長方形の柱配置になると考えられる。また、東西の柱筋に小型の柱穴（P09・10・11）があり、これらは壁材の支持柱と考えられる。張出しは西壁の中位に位置し、長さ約0.9m、幅約2.2mで、底面は平坦である。

遺物は堆積土中や床面構築土から出土しており、土器（土師器）・銭貨（皇宋通宝・永樂通宝）各2点、陶磁器（信楽）1点、金属製品（小刀・馨?等）5点を掲載した（a29・30、b16、d28～32、

2 検出遺構

SI12

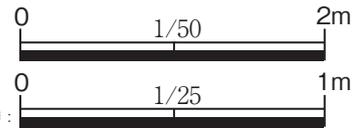


SI12

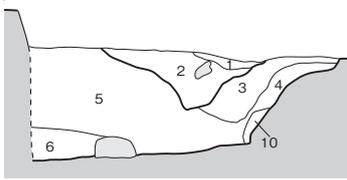
- 1.10YR5/1 褐灰色 粘性弱 礫 (φ2~50 mm) 10%
  - 2.10YR3/2 ~ 4/1 黒褐~褐灰色 しまりやや密、粘性弱 炭 (φ1~3mm) 1%, 礫 (φ10~100 mm) 10%
  - 3.10YR3/2 黒褐色 黄褐色地山ブロック (φ2~10 mm) 15%
  - 4.10YR3/2 黒褐色 しまりやや密、粘性やや強 黄褐色地山ブロック (φ2~10 mm) 15%
  - 5.10YR2/2 ~ 4/2 黒褐~灰黄褐色 しまりやや密、粘性やや強 炭 (φ2~10 mm) 2%, 礫 (φ10~70 mm) 5%, 黄褐色地山ブロック (φ2~100 mm) 25%
  - 6.10YR2/2 ~ 3/2 黒褐色 粘性やや強 炭 (φ1~5mm) 3%, 酸化鉄含む
  - 7.10YR2/2 ~ 3/2 黒褐色砂質土 炭 (φ2~10 mm) 2%, 礫微量
  - 8.10YR2/2 ~ 3/2 黒褐色粘質土 しまりやや密、粘性やや強 炭 (φ5~20 mm) 2%
  - 9.10YR7/8 黄褐色砂質土 粘性やや強 黒褐色ブロック 20%
  - 10.10YR7/4 におい黄褐色粘質土と10YR3/2 黒褐色の混合土 粘性やや強 壁面崩落土
  - 11.10YR7/8 黄褐色と10YR3/2 黒褐色の混合土 しまりやや密、粘性やや強
  - 12.10YR7/8 黄褐色 しまりやや密、粘性やや強 黒褐色ブロック 20%
  - 13.10YR3/2 黒褐色と10YR7/8 黄褐色の混合土 しまりやや密、粘性強 黄褐色土はブロック状
  - 14.10YR7/8 黄褐色砂質土 黒褐色ブロック5% 壁面崩落土か
- ※1・2層がSD34、3~10層がSI12 堆積土  
 ※11~13層はSI12 壁面の構築土

SI12	No.	深さ
	P01	52.0
	P02	30.2
	P03	61.0
	P04	23.8
	P05	11.9
	P06	24.8
※深さはcm		

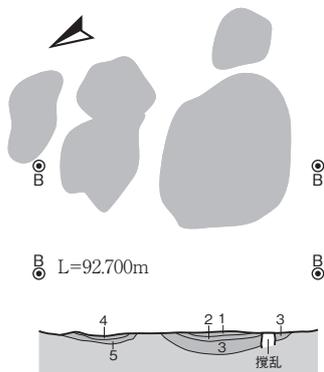
SI18	No.	深さ
	溝1	12.4
	溝2	9.8
※深さはcm		



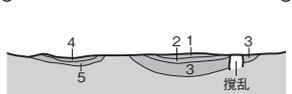
B L=93,400m



SI18 炉1・2



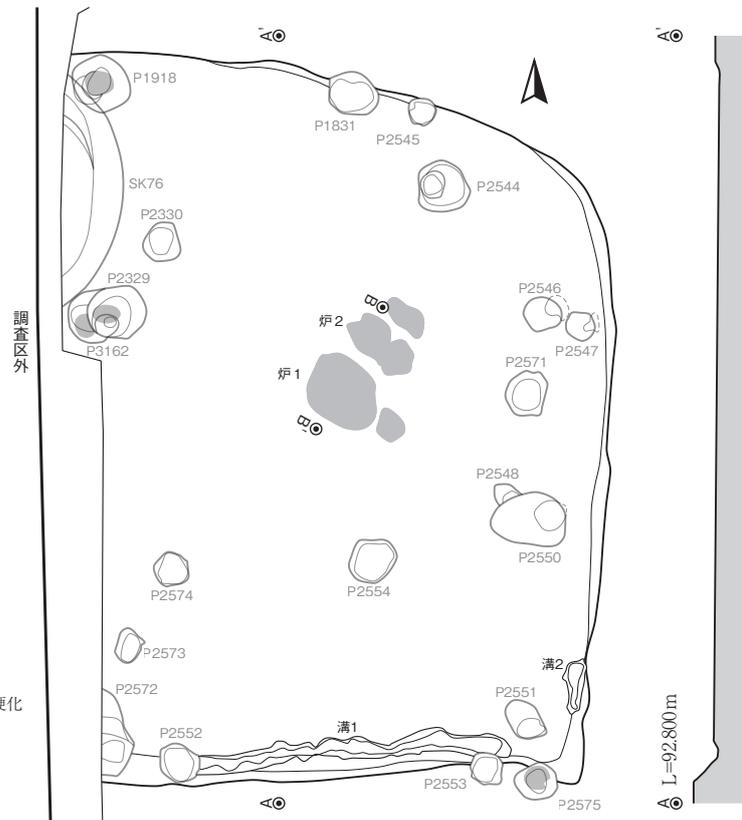
B L=92,700m



SI18 炉

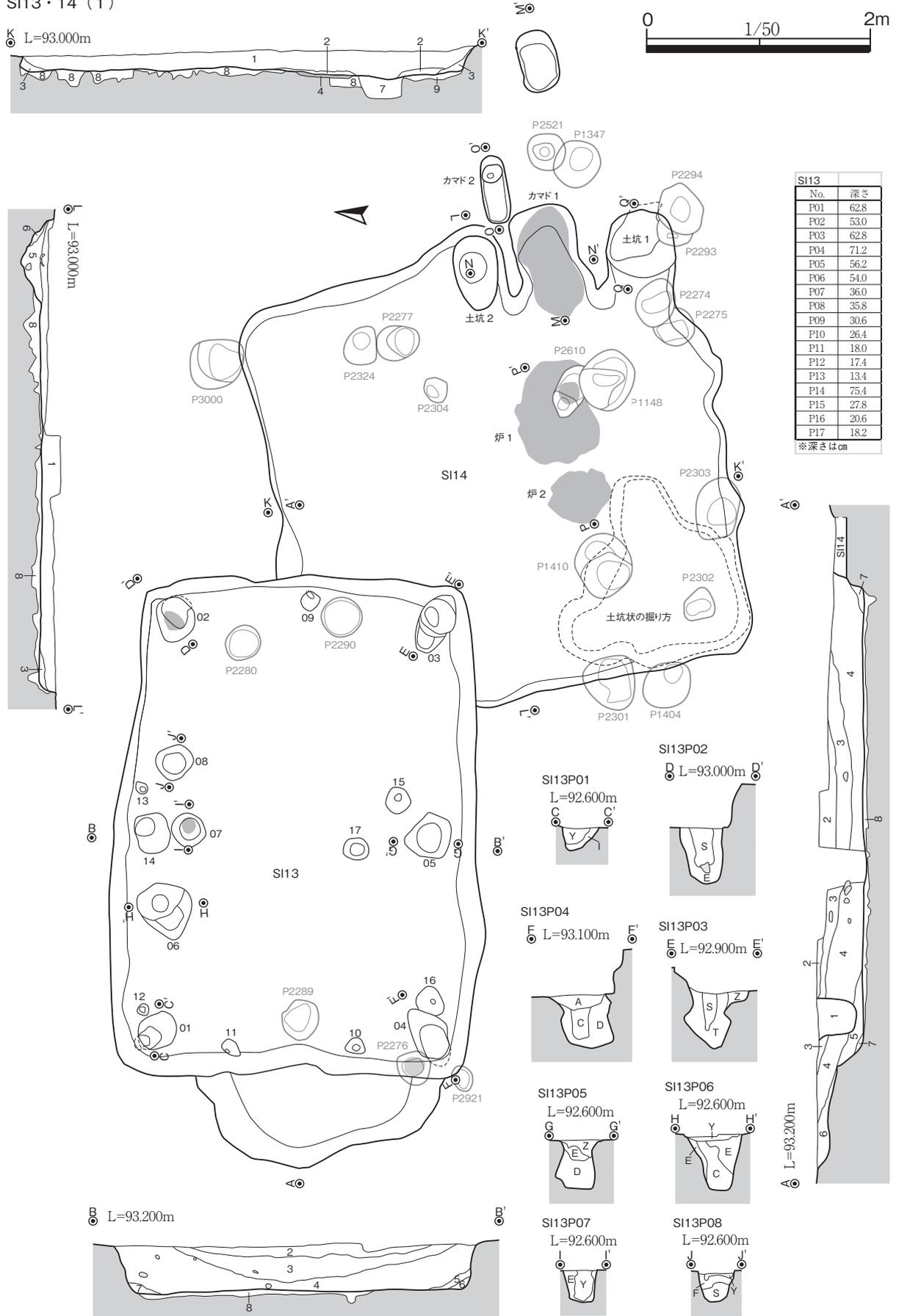
- 1.7.5YR4/4 褐色焼土 しまり密 焼成強く色調還元、全体的に硬化
- 2.5YR4/8 赤褐色焼土 しまり密 焼成強い
- 3.5YR3/4 暗赤褐色焼土 しまりやや密 焼成やや強い
- 4.5YR2/3 極暗赤褐色焼土 しまり密 焼成強く上面硬化
- 5.5YR3/4 暗赤褐色焼土 しまりやや密 焼成やや強い

SI18



第17図 SI12・18

SI13・14 (1)

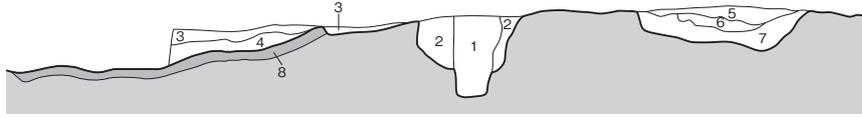


第18図 SI13・14 (1)

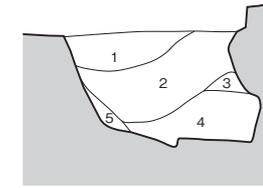
2 検出遺構

SI13・14 (2)

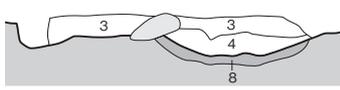
M L=93.000m



O L=93.000m



N L=93.000m



N' L=93.000m



P L=92.900m



SI13 (A-A'・B-B')

1. 柱穴土層パターン S
  2. 10YR3/3 暗褐色シルト 炭少量、黄橙色ブロック (φ20 mm) 5%
  3. 10YR3/3 暗褐色シルト 炭 (φ30 mm)・黄橙色ブロック (φ10~30 mm)・黒褐色シルトブロック各5%
  4. 10YR2/2 黒褐色シルト 炭 (φ10~50 mm) 5%、黄橙色ブロック (φ10~80 mm) 40%
  5. 10YR2/1 黒色シルト 黄橙色ブロック (φ10 mm) 10%
  6. 10YR2/1 黒色シルトと10YR4/6 褐色シルトの混合土
  7. 10YR3/2 黒褐色シルト 黄橙色ブロック5%
  8. 10YR3/2 黒褐色シルトと10YR7/8 黄褐色の混合土 床面構築土
- ※1層がP2289、2~8層がSI13堆積土

SI14 カマド1 (M-M'・N-N')

1. 柱穴土層パターン R 炭少量
  2. 柱穴土層パターン A
  3. 10YR2/3 黒褐色シルト 炭微量
  4. 10YR2/3 黒褐色シルトと10YR4/4 褐色シルトの混合土 炭少量、焼土ブロック (φ10 mm) 多量
  5. 10YR2/2 黒褐色 炭・焼土含む
  6. 10YR2/2 黒褐色と10YR7/8 黄褐色ブロックの混合土
  7. 10YR3/2 黒褐色 黄褐色ブロック含む
  8. 2.5YR6/4 におい橙~6/6 橙色 燃焼部焼土
- ※1・2層がP2521、3~8層がSI14カマド1堆積土

SI14 (K-K'・L-L')

1. 10YR2/2 黒褐色 炭・焼土各微量、黄橙色ブロック (φ10 mm) 5%
2. 10YR2/3 黒褐色 炭・焼土各10%、黄橙色ブロック (φ10 mm) 30%
3. 10YR3/2 黒褐色 黄橙色ブロック (φ30 mm) 10%
4. 2.5YR5/4 におい赤褐~5/8 明赤褐色焼土 炉2燃焼部
5. 10YR2/2 黒褐色 黄褐色地山ブロック (φ30 mm) 30% 土坑2堆積土
6. 10YR2/3 黒褐色 炭・焼土各微量、黄橙色ブロック (φ30 mm) 30% 土坑2堆積土
7. 10YR3/4 暗褐色と10YR4/4 褐色の混合土 床面構築土
8. 10YR3/2 黒褐色と10YR7/8 黄褐色の混合土 床面構築土

SI14 カマド2 (O-O')

1. 10YR3/2 黒褐色 焼土・黄褐色ブロック含む

SI14 土坑1 (Q-Q')

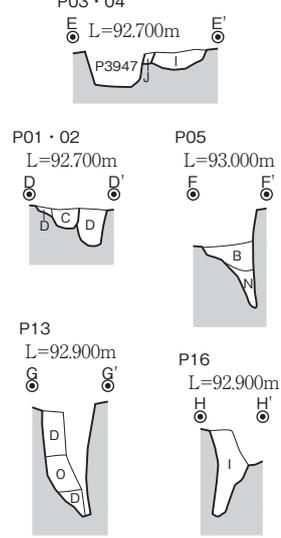
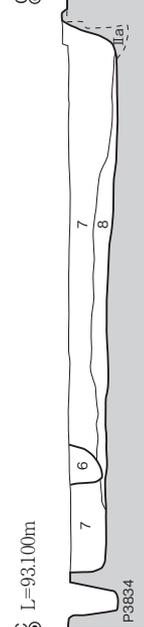
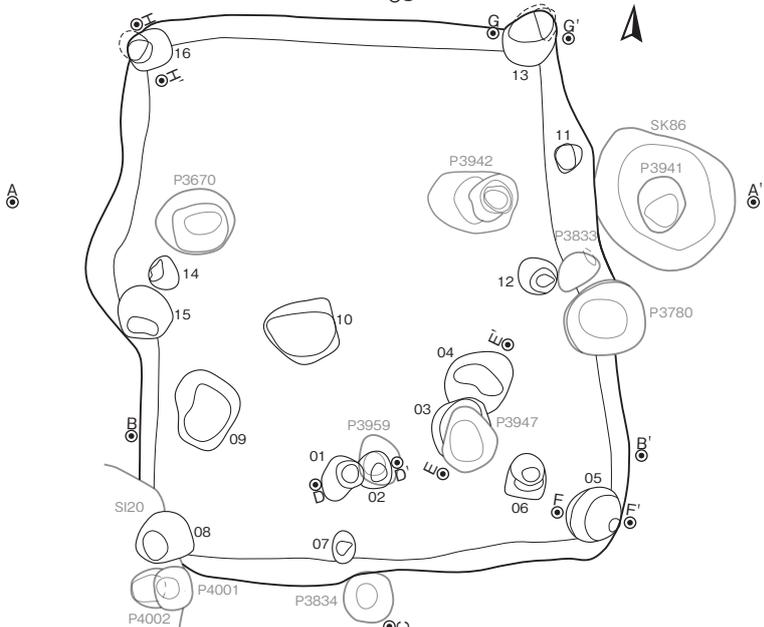
1. 10YR3/2 黒褐色シルト 炭・焼土各微量、黄褐色ブロック (φ30 mm) 30%
2. 10YR2/2 黒褐色 炭少量、黄褐色ブロック (φ10 mm) 10%
3. 10YR3/1 黒褐色と10YR4/4 褐色の混合土
4. 10YR3/4 暗褐色 炭少量、黄褐色ブロック (φ20 mm) 5%
5. 10YR2/3 黒褐色 黄褐色ブロック (φ20 mm) 5%

SI14 炉1・2 (P-P')

1. 2.5YR6/6 ~ 7/8 橙色焼土
  2. 2.5YR5/4 におい赤褐~5/8 明赤褐色焼土
- ※1層が炉1、2層が炉2燃焼部



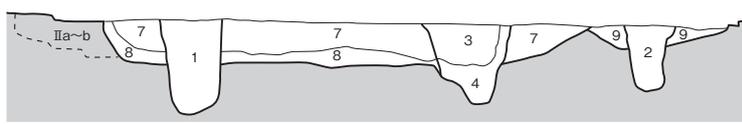
SI24



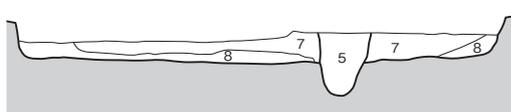
SI24		SI24	
No.	深さ	No.	深さ
P01	15.6	P09	14.4
P02	24.6	P10	43.4
P03	12.4	P11	16.0
P04	15.0	P12	68.8
P05	95.4	P13	91.4
P06	32.0	P14	67.0
P07	13.2	P15	88.0
P08	85.4	P16	89.4

※深さはcm

A L=93.100m

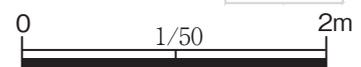


B L=93.100m



B' SI24

1. 柱穴土層パターン J
  2. 柱穴土層パターン A
  3. 柱穴土層パターン A
  4. 柱穴土層パターン E
  5. 柱穴土層パターン D
  6. 柱穴土層パターン E
7. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや密、粘性やや強 地山ブロック (φ3~30 mm) 15% 人為堆積
  8. 10YR2/2 ~ 3/2 黒褐色 しまりやや密、粘性やや強 地山ブロック (φ2~5 mm) 10% 人為堆積
  9. 2.10YR4/3 におい黄褐粘質土 しまりやや密、粘性強 地山ブロック (φ2~10 mm)・礫各2%
- ※1層がP3670、2層がP3941、3・4層がP3942、5層がP3947、6層がP3959、7・8層がSI24、9層がSK86堆積土



第19図 SI13・14 (2)、SI24

e12・13)。

本遺構は上屋を有する竪穴建物であるが、用途については不明である。年代は、出土遺物の年代観から中世（15～16世紀代）と考えられる。

#### SI14（第2-18・19図、写真図版2-25）

R-Ⅱ層下位で黒褐色の方形プランとして検出した。SI13、SB27（P1148・2301）・38（P2304・2610）と重複しており、いずれも本遺構より新しい。また、直接重複する柱穴は無いが、SB40・41・126と重複しており、いずれも本遺構より新しい。北西隅をSI13に壊されているが、平面形は方形で、壁面はわずかに外方に開きながら立ち上がる。床面はⅢa層まで掘り込み、黒褐～黄橙色土を使用して平坦に整えている。掘り方は不整形で、南西隅は土坑状に大きく掘り込まれている。堆積土は床面構築土を含めて8層に分層した。炭や焼土を含むが、堆積の様相は自然堆積である。

付属施設として東壁でカマド2基を検出した。南側のものをカマド1、中央のものをカマド2とし、カマド1のほうが新しい。カマド1の残存部位は、燃焼部焼土、左右両袖部、煙道である。燃焼部焼土は94×44cmの長楕円形で、被熱深度は約3cmである。袖部は、Ⅱ～Ⅲ層由来の粘質土を用いて構築されている。煙道は中央部分が削平により失われているが、東壁際から約1.55m水平に掘削され、煙出し付近でやや下降する。なお、煙出しピットは確認されなかった。カマド2の残存部位は、煙道のみである。東壁際から約0.65m下降しながら掘削され、底面は凹凸が著しい。この他、カマド脇で土坑2基、床面中央南側で炉2基を検出した。位置関係から土坑1がカマド2、土坑2がカマド1に伴う貯蔵穴と考えられる。土坑1は0.6×0.6mの円形で、南西隅に向かってオーバーハングしている。断面形は不整形で、床面からの深さは約0.4mである。土坑2は0.7×0.4mの楕円形で、底面に凹凸が認められる。断面形は逆三角形で、床面からの深さは0.18mである。炉はいずれも地床炉で、直接的な重複関係が無く新旧関係は不明である。炉1は92×70cmの不整円形で、被熱深度は約4cmである。炉2は55×45cmの不整円形で、被熱深度は約3cmである。

遺物はカマド1周辺や土坑内、堆積土中から出土しており、土器（土師器・須恵器）25点、陶磁器（須恵器系）1点、石器（敲磨器・石臼）・金属製品（刀子・棒状）各2点を掲載した（a31～55、b17、c19・20、d33・34）。土器のうち、a33はSI13・15、a35はSI09、a42はSI04から出土した破片と接合関係にある。

本遺構はカマドを有することから住居として使用された竪穴建物と考えられる。また、炉を有し生産関連遺物（鉄滓・羽口）も出土していることから小鍛冶等を行う工房としても機能していたと考えられる。年代は、出土土器の年代観から古代（9世紀中～後葉）と考えられる。

#### SI15・16（第2-20・21図、写真図版2-26）

R-Ⅱ層下位で黒褐色の方形プランが2個重複した状況で検出した。当初は新旧関係が不明であったが、両プランを跨ぐようにベルトを設定して断面観察を行ったところ、竪穴建物が2軒重複していることを確認し、南東側をSI15、北西側をSI16とした。SI15を中心に複数の遺構が重複しており、新旧関係は古い順にSI15→SI16、SB47（P2637）・44、SK62・63・64・65である。以下では竪穴建物毎に記載を行う。

SI15は北西側をSI16に壊されているが、平面形は方形と考えられ、壁面はわずかに外方に開きながら立ち上がる。床面はⅢa層を掘り込み、黒褐色・黄褐色粘土質シルトを用いて平坦に整えている。なお、掘り方は不整形で、中央東側では鳥状に掘り残された部分がある。堆積土はSI16・SK62を含

めて7層に分層し、このうち3層（5～7層）が本遺構の堆積土で、堆積の様相は自然堆積である。

付属施設として東壁南側でカマド1基と土坑1基を検出した。カマドの残存部位は、燃焼部焼土、左右両袖部、煙道である。燃焼部焼土は70×66cmの円形で、被熱深度は約6cmである。焼土の中央やや東側では支脚として転用された土師器坏・甕が検出されている（a60・62）。袖部は、Ⅱ層由来の黒褐色粘質土を用いて構築されている。煙道は煙出し付近が新しい柱穴によって壊されており全形は不明であるが、東壁際から1.15mまで水平に延びていることが確認できる。土坑は壁面南東隅に位置し、カマドに伴う貯蔵穴と考えられる。0.92×0.65mの楕円形で、北側がカマド袖部と接している。断面形は逆台形で、床面からの深さは0.16mである。

遺物は、カマド内やその周辺、土坑内を中心に出土しており、土器（土師器・須恵器）16点、陶磁器（須恵器系・白磁）2点、金属製品（釘）・銭貨（永楽通宝?）・生産関連遺物（鉄滓）各1点を掲載した（a56～71、b18・19、d35、e14、h4）。このうち陶磁器・金属製品・銭貨はSI16との境界付近で出土しており、そちらに帰属する可能性もある。なお、h4については自然科学分析を実施した結果、鍛錬鍛冶滓と考えられる（第4節（9）、試料No.1）。

本遺構は、カマドを有することから住居として使用された竪穴建物と考えられる。年代は、カマド内から出土した土器の年代観から古代（9世紀中～後葉）と考えられる。

SI16は、西側が調査区外の為全形は不明であるが、平面形は方形と考えられ、壁面はわずかに外方に開きながら立ち上がる。床面はⅢa層を平坦に整えており、上面は硬化している。堆積土はSI15・SK62を含めて7層に分層し、このうち3層（2～4層）が本遺構の堆積土である。上位の2層は自然堆積であるが、3・4層はⅢ層由来のブロックを含む人為堆積と考えられる。

付属施設として床面で柱穴10個と溝1条、南壁で張出し1箇所を検出した。柱穴のうちP01・02が主柱穴になると考えられるが、柱配置は不明である。その他、P03・04・06・07・08は壁際に等間隔で位置していることから、壁材を支持する小型の杭と考えられる。溝は南壁からやや離れた位置に掘削されており、間仕切りの可能性がある。張出しは西壁の中位に位置し、外側に向かって高くなっている。長さは約1.09m、幅は不明である。

遺物は前述の通りSI15との境界付近から出土しており（b19、d35、e14等）、その他に堆積土中から出土した石器（砥石）1点を掲載した（c21）。

本遺構は上屋を有する竪穴建物であるが、用途については不明である。年代は、形態及び他遺構との重複関係から中世（15～16世紀代）と考えられる。

#### SI17（第2-22図、写真図版2-27・28）

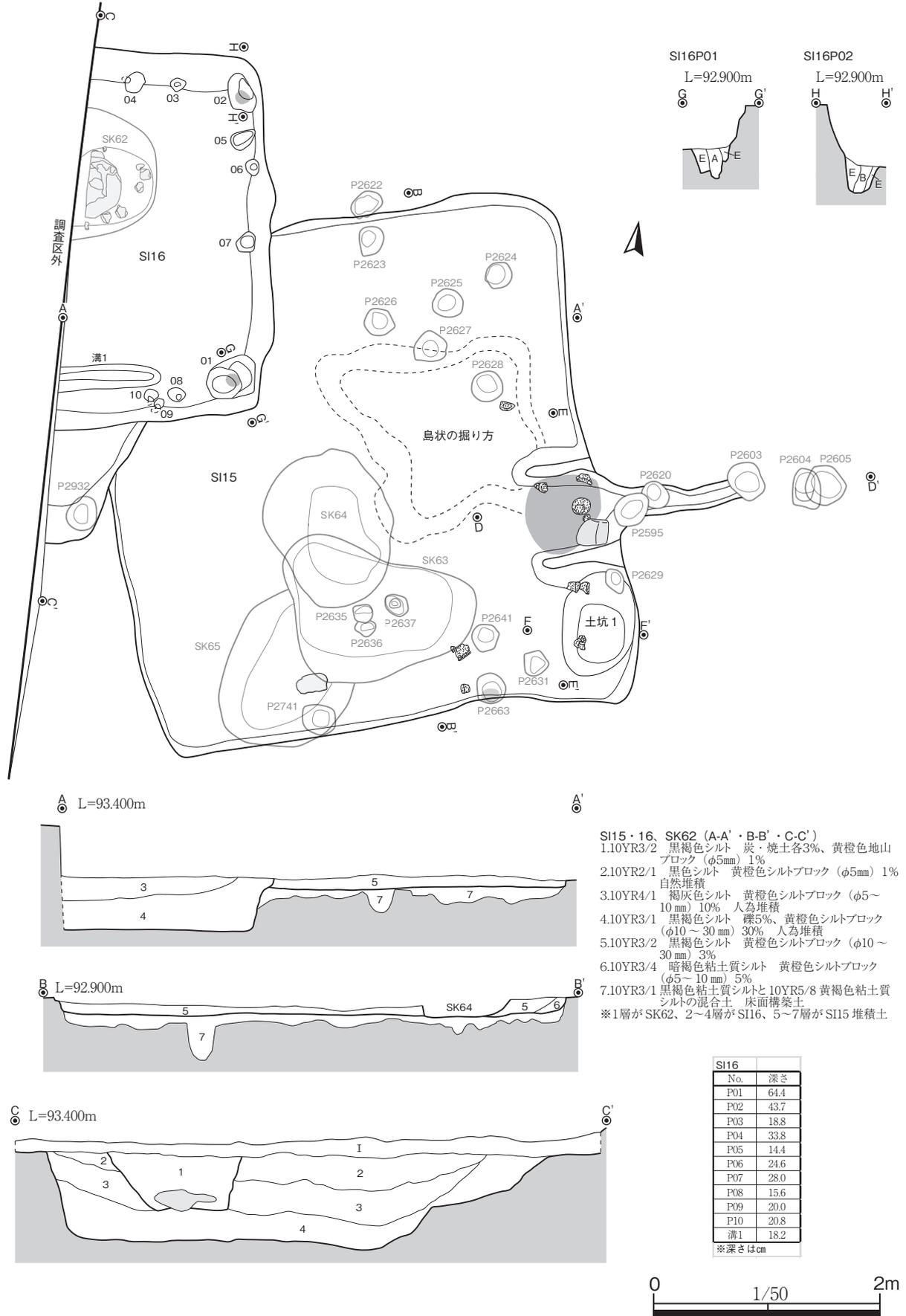
R-Ⅲa層上面で黒褐色の方形プランとして検出した。SB18と重複しており、本遺構のほうが新しい。西壁が調査区外の為全形は不明であるが、平面形は台形に近い方形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はⅢa層を平坦に整えており、酸化鉄が集中する為上面が硬化している。堆積土は黒褐色土にぶい黄褐色土が主体で、3層に分層した。2層はⅢ層由来のブロックを多量に含んでおり、人為堆積と考えられる。

付属施設は検出されなかった。

遺物は堆積土中から出土しており、石器（敲磨器・石臼）2点を掲載した（c22・23）。

本遺構は上屋を有する竪穴建物であるが、用途については不明である。出土遺物は乏しいが、他遺構との重複関係から中世と考えられる。

SI15・16 (1)

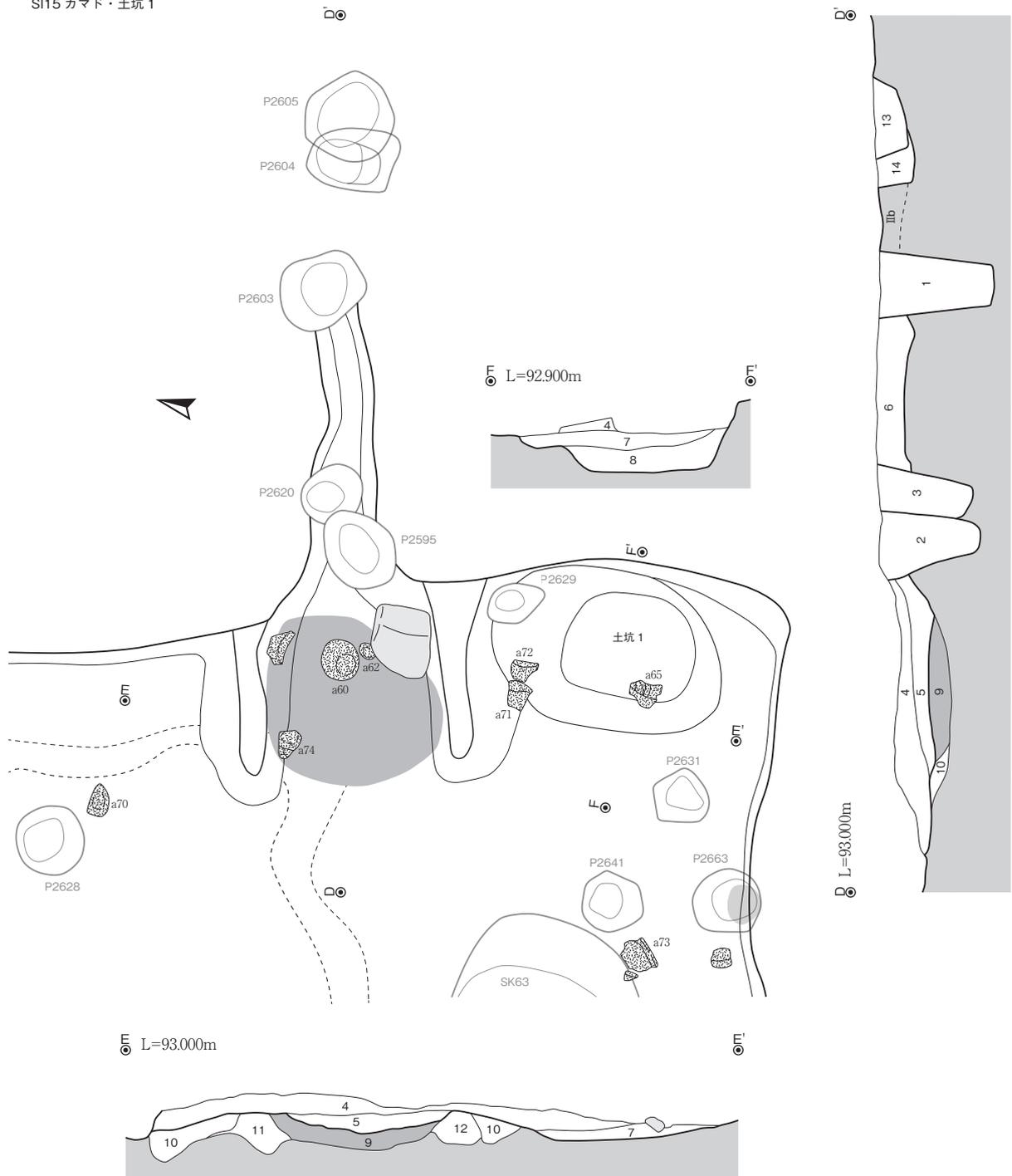


第20図 SI15・16 (1)

2 検出遺構

SI15・16 (2)

SI15 カマド・土坑 1



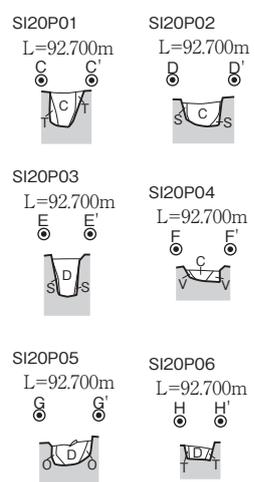
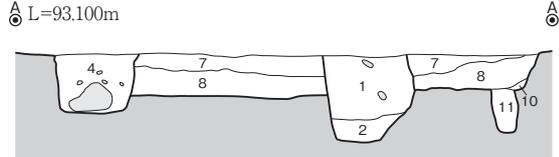
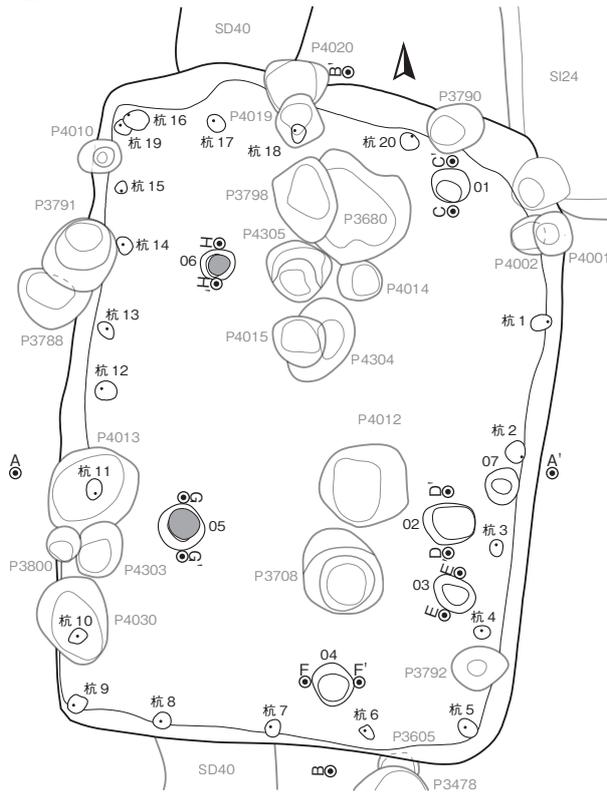
SI15 カマド・土坑 1 (D-D'・E-E'・F-F')

1. 柱穴土層パターン H
  2. 柱穴土層パターン G
  3. 柱穴土層パターン H
  4. 10YR3/1 黒褐色シルト 炭・黄橙色シルトブロック (φ5mm) 各1%、焼土3%
  5. 2.5YR5/8 明赤褐色シルト焼土ブロック (φ5mm) と 10YR3/1 黒褐色シルトブロックの混合土 焼土が70%
  6. 10YR3/3 暗褐色シルト 黄橙色シルトブロック (φ5~20mm) 5%、黒褐色シルトブロック (φ5mm) 3%
  7. 10YR3/2 暗褐色シルト 炭3%、黄橙色シルトブロック (φ3mm) 1%、炭3%
  8. 10YR4/3 灰黄褐色粘質シルト しまりやや密、粘性やや強 黄橙色シルトブロック (φ1~30mm) 10%
  9. 2.5YR5/8 明赤褐色シルト しまり密 上面硬化 燃焼部焼土
  10. 10YR2/2 黒褐色粘土質シルトと 10YR7/8 黄橙色シルトの混合土 しまりやや密、粘性やや強 床面構築土
  11. 10YR4/4 褐色粘土質シルト 焼土・黄橙色シルトブロック (φ3mm) 各3%、黒褐色シルトブロック (φ3mm) 1% 袖構築土
  12. 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト しまりやや密、粘性やや強 焼土 (φ3~5mm) 10%、黄橙色シルトブロック (φ5mm) 1% 袖構築土
  13. 柱穴土層パターン A 焼土10%
  14. 柱穴土層パターン B 焼土3%
- ※1層が P2603、2層が P2595、3層が P2620、4~12層が SI15 カマド、13層が P2605、14層が P2604 堆積土



第 21 図 SI15・16 (2)

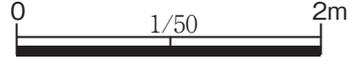
SI20



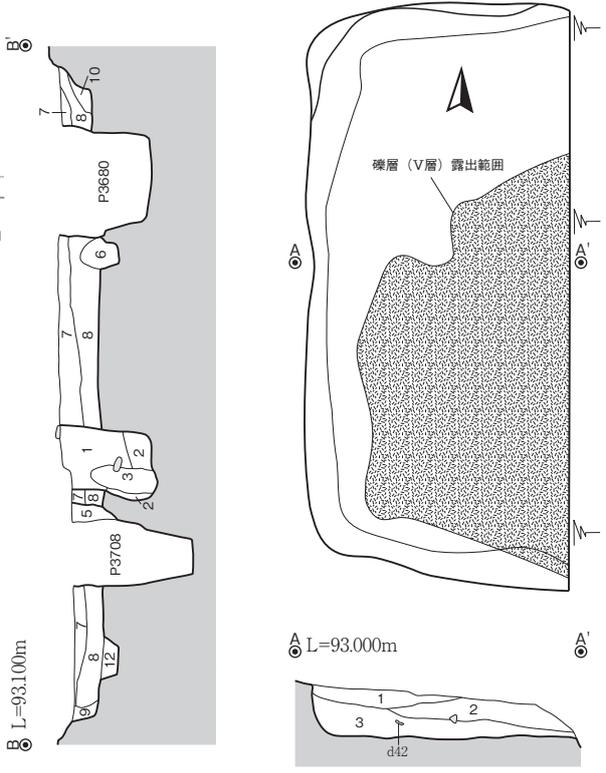
SI20		SI20	
No.	深さ	No.	深さ
P01	23.6	杭1	41.0
P02	23.6	杭2	27.8
P03	28.0	杭3	15.2
P04	10.2	杭4	24.6
P05	22.6	杭5	11.4
P06	20.6	杭6	9.2
P07	31.2	杭7	43.8
		杭8	27.6
		杭9	54.2
		杭10	7.8
		杭11	39.2
		杭12	29.4
		杭13	40.0
		杭14	18.2
		杭15	16.2
		杭16	46.8
		杭17	18.8
		杭18	32.0
		杭19	56.8
		杭20	27.2

※深さはcm

- SI20  
 1. 柱穴土層/パターンN 小礫5%  
 2. 柱穴土層/パターンF  
 3. 柱穴土層/パターンA 柱痕跡  
 4. 柱穴土層/パターンB 小型の炭5%  
 5. 柱穴土層/パターンE 炭少量  
 6. 柱穴土層/パターンC  
 7. 10YR2/2 黒褐色シルト 炭少量、地山ブロック (φ10mm) 5%  
 8. 10YR2/3 黒褐色シルト 炭微量、地山ブロック (φ30mm) 30%  
 9. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト 粘性やや強 地山ブロック (φ10mm) 5%  
 10. 10YR2/1 黒色シルトと 10YR3/2 黒褐色シルトの混合物  
 11. 柱穴土層パターン B P07 堆積土  
 12. 柱穴土層パターン C P04 堆積土  
 ※1~3層がP4012、4層がP4013、5層がP3708、6層がP4014、  
 7~12層がSI20堆積土

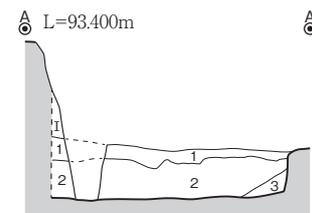
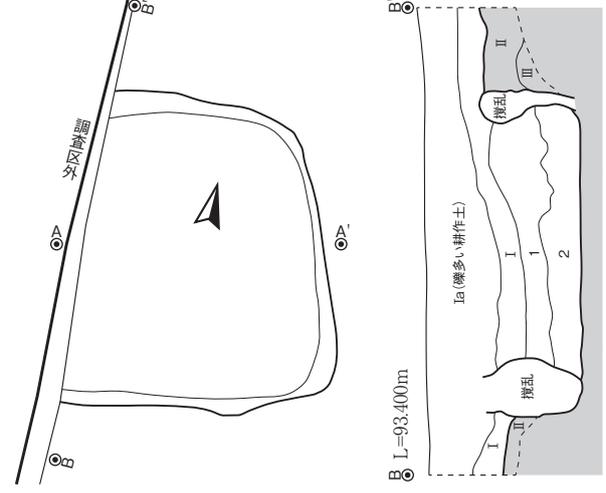


SI21



- SI21  
 1. 10YR5/2 灰黄褐色 しまりやや密 炭1%、焼土 (φ1~3mm) 3%  
 2. 10YR4/2 灰黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 大型の炭多量、焼土 (φ1~5mm) 3%、礫 (φ20~50mm) 5%  
 3. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや疎 壁面付近に礫 (φ5~10mm) 2%、地山ブロック (φ2~5mm) 5%

SI17



- SI17  
 1. 10YR3/1 黒褐色 粘性やや強 黄橙色地山ブロック (φ2~50mm) 5%  
 2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 しまりやや密、粘性やや強 焼土1%、黄橙色地山ブロック (φ3~80mm) 40%  
 3. 10YR3/4 暗褐色 粘性強 黄橙色地山ブロック (φ5~10mm) 3%

第22図 SI17・20・21

## SI18 (第 2-17 図、写真図版 2-28)

R-Ⅲa層上面で暗褐色土が薄く広がる範囲として検出した。本遺構が位置する場所は北側に向かって地形が若干落ち込む部分であり、当初はその落ち込みに堆積した自然堆積層と考えていた。その為、この層を除去し遺構検出を行ったところ炉や溝が検出されたことから大部分が削平された竪穴建物であることが判明した。SK76と重複しており、本遺構のほうが古い。その他、SB50と重複しているが新旧関係は不明である。西側が調査区外の為全形は不明であるが、平面形は隅丸方形と考えられる。壁面はほとんど残存していない為立ち上がりは不明である。床面は、Ⅲa層を平坦に整えている。堆積土については、上記の理由により断面実測と写真撮影は行っていない。

付属施設として床面で炉2基と溝1条を検出した。炉は床面中央東よりに位置する地床炉で、炉1は55×40cmの楕円形で、被熱深度は約7cmである。炉2は58×25cmの不整形で、被熱深度は約3cmである。なお、炉2の北側に同様の色調の焼土範囲があり、本来炉2と一連のものであった可能性がある。溝は南壁に沿って掘削されており、幅約15cm、深さ約5cmである。

遺物は堆積土及び炉の上面から出土しており、金属製品(釘)・生産関連遺物(鑄造鉄器片)各1点を掲載した(d36、h5)。なお、h5については自然科学分析を実施した結果、鍛冶原料として再利用された鉄製品であると考えられる(第4節(8)、試料No.2)。

本遺構は炉を有する竪穴建物であり、生産関連遺物(鑄造鉄器片)が出土していることから鍛冶を行った工房として使用されたと考えられる。出土遺物が乏しく詳細な年代は不明であるが、形態から中世(15~16世紀代)と考えられる。

## SI19 (第 2-23~25 図、写真図版 2-29~31)

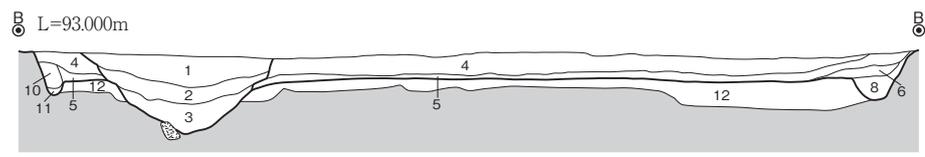
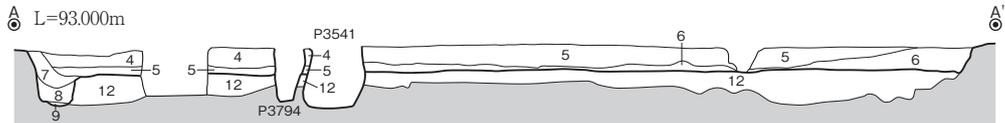
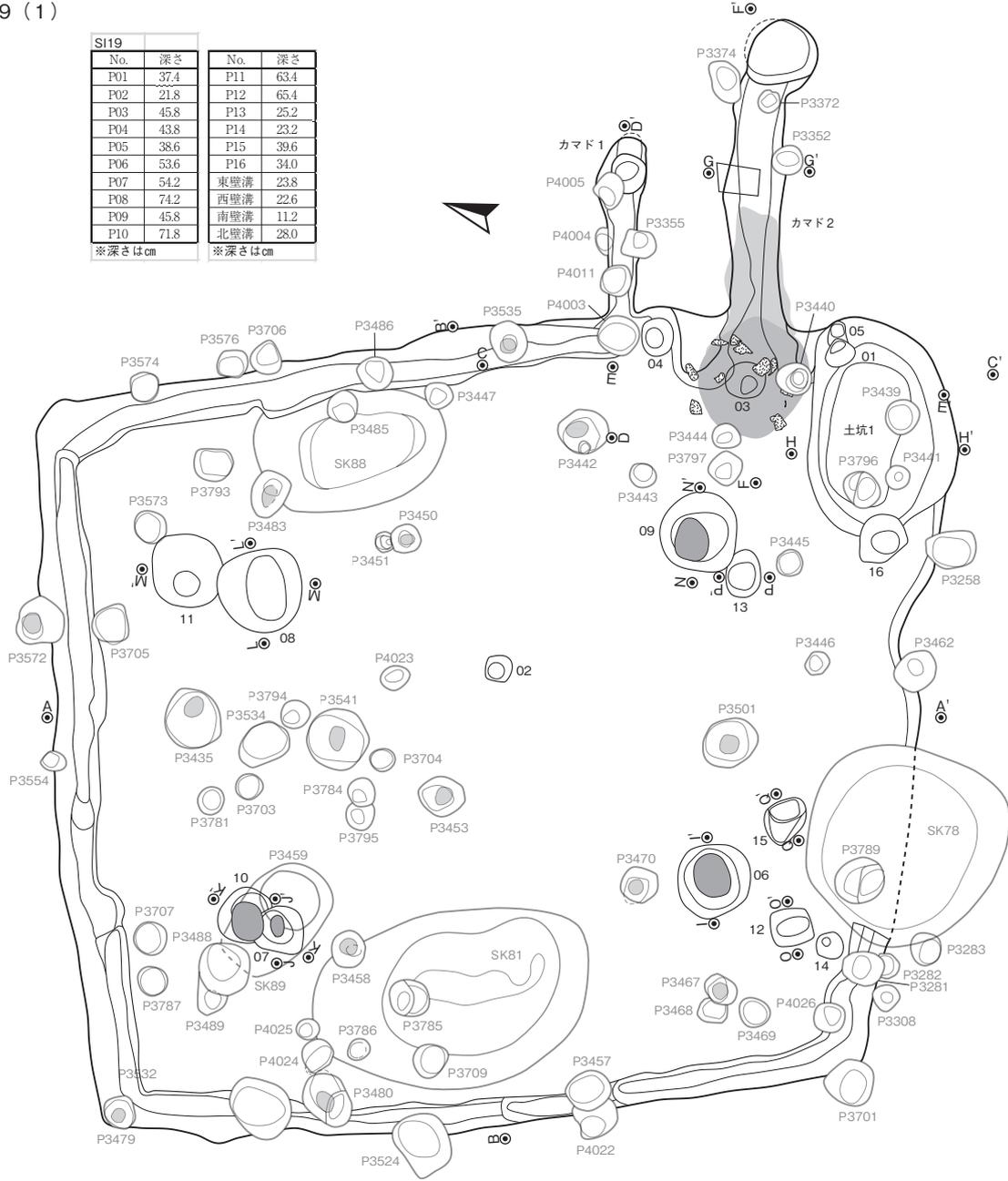
R-Ⅱ層下位で黒褐色の方形プランとして検出した。他の竪穴建物より検出プランの規模が大きく、複数の竪穴建物が重複している可能性も考えられたが、ベルトを設定して断面観察を行った結果、大型の竪穴建物1軒であることが判明した。多数の遺構と重複しており、新旧関係は古い順にSK88・89→SI19→SB67(P3258・3701)・69(P3501・3702)・72(P3488・3534・3785)・73(P3435)・74(P3459・3541・4024)・75(P3439・3535・5408)、SK78・81である。平面形は方形で、壁面はわずかに外方に開きながら立ち上がる。床面はⅢa層を掘り込み、黒~にぶい黄褐色シルトを用いて平坦に整えている。なお、掘り方の深さは均等ではなく、中央部は掘り込みが浅く壁面付近は深くなっている。堆積土は黒褐色シルトが主体で、床面構築土を含めて12層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。

付属施設として東壁南側でカマド2基を検出した。北側のものをカマド1、南側のものをカマド2とし、カマド1のほうが古い。カマド1の残存部位は、煙道と煙出しである。煙道は、東壁際から1.1m水平に延びて煙出しに至る。煙出しはピット状で、底面は煙道底面より低い。断面形は箱形で、東壁は若干オーバーハングする。カマド2の残存部位は、燃焼部焼土、左右両袖部、煙道、煙出しである。燃焼部焼土は104×96cmの円形で、被熱深度は約9cmである。カマド周辺の床面よりカマド内は若干窪んでいる。袖部は、炭や焼土を多量に混入したⅡ~Ⅲ層由来の粘質土を用いて構築されている。煙道は削り抜き式で、東壁際から約2.3m緩やかに煙出しに向かって下降している。また、東壁際から1.0mまでの壁面は被熱により変色・硬化している。煙出しはピット状で、底面は煙道底面より低い。断面形は箱形で、東壁は若干オーバーハングする。その他、床面で柱穴16個と壁溝、カマド脇で土坑1基を検出した。柱穴のうちP06・09・10・11が主柱穴で、方形の柱配置になると考えられる。また、P10・11の南側にはこれらより新しい同規模の柱穴P07・08があり、P06・07・08・09でも方

SI19 (1)

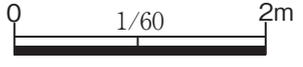
SI19			
No.	深さ	No.	深さ
P01	37.4	P11	63.4
P02	21.8	P12	65.4
P03	45.8	P13	25.2
P04	43.8	P14	23.2
P05	38.6	P15	39.6
P06	53.6	P16	34.0
P07	54.2		東壁溝 23.8
P08	74.2		西壁溝 22.6
P09	45.8		南壁溝 11.2
P10	71.8		北壁溝 28.0

※深さはcm ※深さはcm



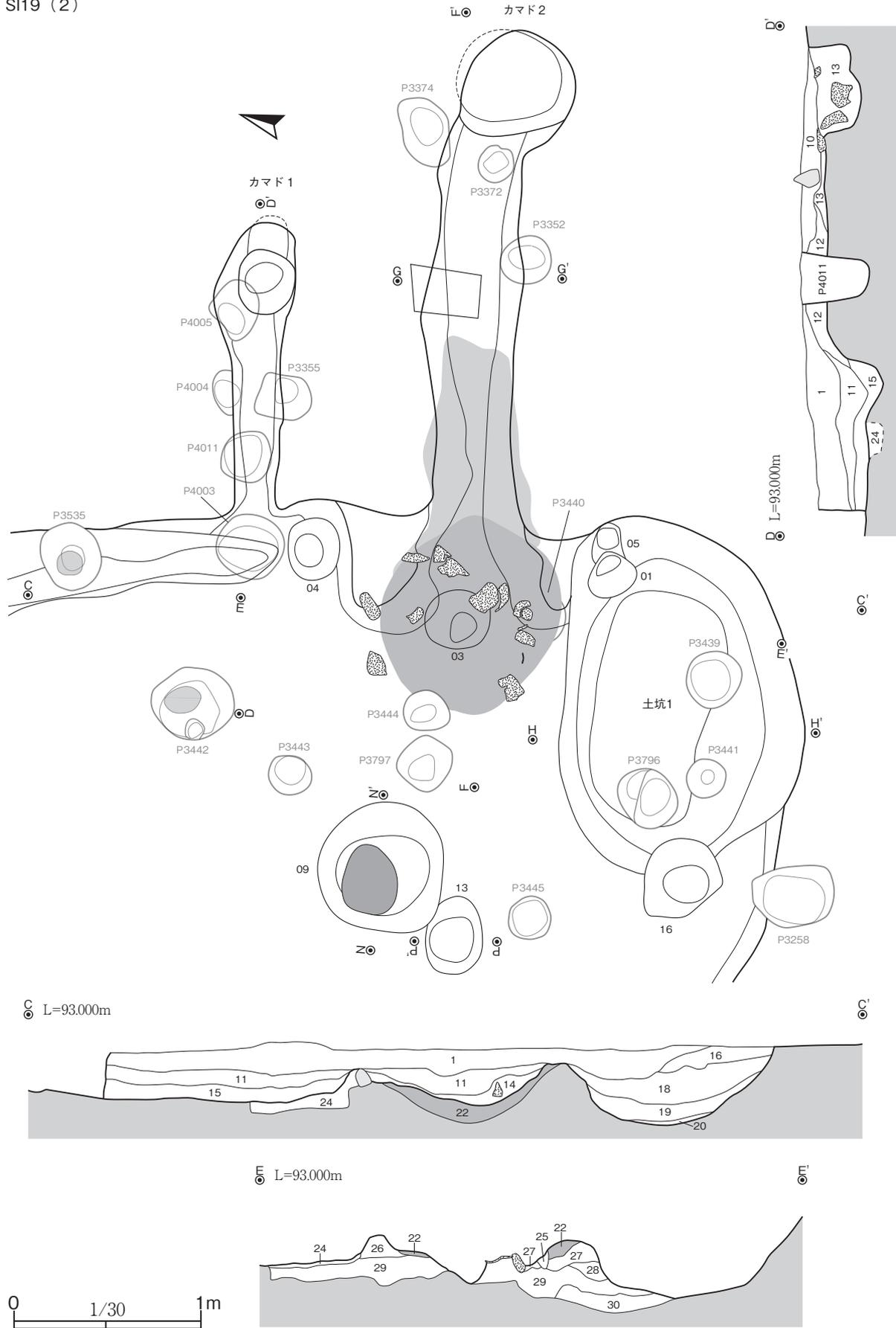
SI19・SK81  
 1.10YR3/3 暗褐色シルト 炭少量、地山ブロック (φ20 mm) 10%西側に偏在  
 2.10YR2/2 黒褐色シルト 炭少量、地山ブロック (φ30 mm) 20%下に偏在  
 3.10YR4/4 褐色砂質土と10YR3/3 暗褐色シルトの混合土  
 4.10YR3/1 黒褐色シルト 炭・焼土各少量、地山ブロック (φ10 mm) 5%  
 5.10YR2/2 黒褐色シルト 炭・焼土各少量、地山ブロック (φ30 mm) 20%  
 6.10YR2/2 黒褐色シルト 炭少量  
 7.10YR2/2 黒褐色シルト 炭少量  
 8.10YR3/1 黒褐色シルト  
 9.10YR3/1 ~ 3/2 黒褐色シルト

10.10YR2/1 黒色シルト 地山ブロック (φ20 mm) 20%  
 11.10YR3/2 黒褐色シルト 地山ブロック (φ10 mm) 30%  
 12.10YR4/2 灰黄褐色シルト・10YR4/3 におい黄褐色シルト・10YR2/1 黒色シルトの混合土。床面構築土  
 ※1~3層がSK81、4~12層がSI19堆積土



第23図 SI19 (1)

SI19 (2)

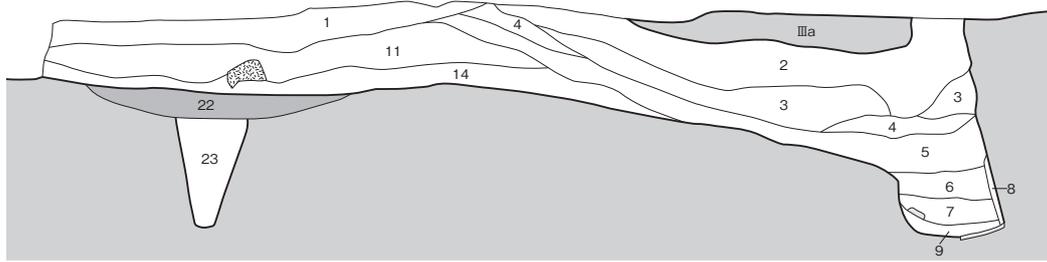


第24図 SI19 (2)

SI19 (3)

F L=93.000m

F'

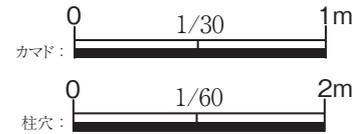
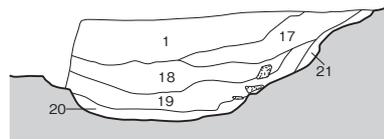
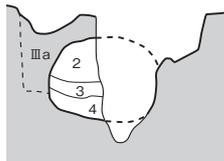


G L=93.000m

G'

H L=93.000m

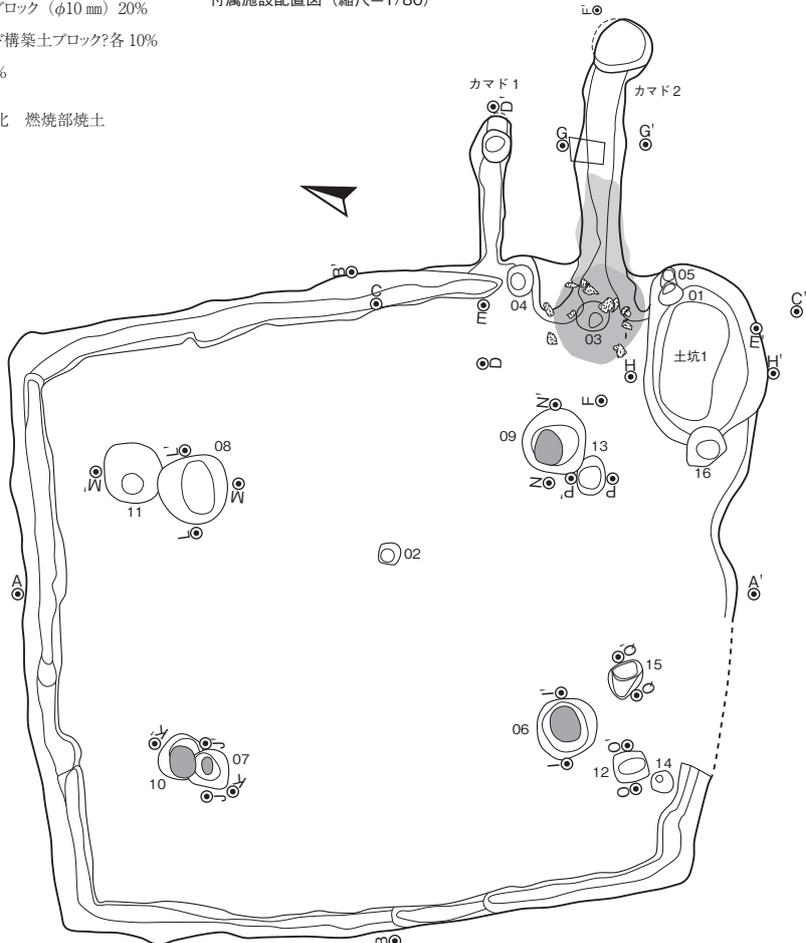
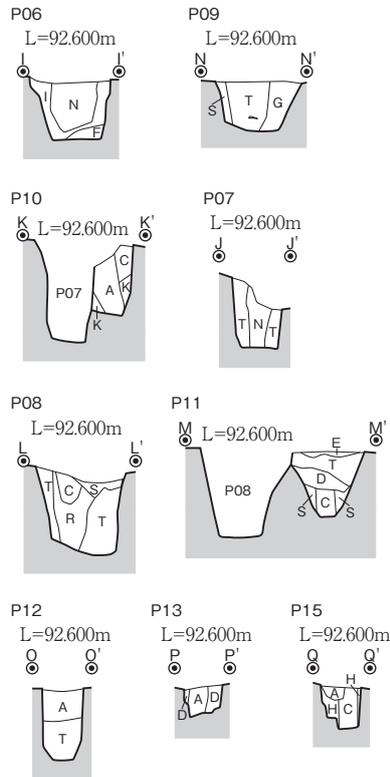
H'



- カマド1・2、土坑1 (C-C'・D-D'・E-E'・F-F'・G-G'・H-H')
- 1.10YR2/2 黒褐色シルト 炭・焼土各少量、地山ブロック (φ20mm) 10%
  - 2.10YR3/2 黒褐色シルト 炭 (φ30mm) 5%、地山ブロック (φ30~50mm) 30%
  - 3.10YR4/4 褐色シルト やや砂質 炭・焼土 (φ30mm) 各5%
  - 4.7.5YR3/3 暗褐色シルト 炭・焼土・地山土含む
  - 5.5YR2/2 黒褐色シルト 炭 (φ30mm)・地山ブロック (φ10mm) 各5%、焼土含む
  - 6.5YR2/4 暗赤褐色シルト 炭 (φ10mm) 5%、地山ブロック (φ30mm) 10%
  - 7.10YR3/4 暗褐色シルト 炭 (φ30mm) 5%
  - 8.10YR2/3 黒褐色シルト
  - 9.5YR2/2 黒褐色シルト 炭 (φ10mm) 10%
  - 10.10YR2/1 黒色シルト 炭・焼土各10%
  - 11.10YR2/3 黒褐色シルト 炭・焼土各微量、地山ブロック (φ10mm) 5%
  - 12.10YR3/3 暗褐色シルト 炭少量、焼土 (φ50mm) 20%
  - 13.10YR2/2 黒褐色シルト 炭・焼土各10%、地山ブロック (φ20mm) 30%
  - 14.10YR2/1 黒色シルト 炭・焼土併せて20%
  - 15.10YR3/3 暗褐色シルト 炭・焼土併せて20%、地山ブロック (φ10mm) 20%
  - 16.10YR2/2 黒褐色シルト カマド構築土ブロック? 25%
  - 17.10YR2/2 黒褐色シルト 地山ブロック (φ30mm)・カマド構築土ブロック? 各10%
  - 18.10YR2/1 黒色シルト 炭・焼土併せて20%
  - 19.10YR3/4 暗褐色シルト しまり無 炭・焼土併せて30%
  - 20.2.5Y2/1 黒色粘質シルト しまり無
  - 21.10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 炭・褐色シルト各少量
  - 22.2.5YR5/6 明赤褐色~7/8 橙色 しまり密、上面特に硬化 燃焼部焼土

23. 柱穴土層パターンS
- 24.10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 地山ブロック (φ20mm) 30%
  - 25.10YR2/2 黒褐色シルト 焼土多量
  - 26.10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 炭少量
  - 27.10YR4/4 褐色シルト 炭多量、焼土少量
  - 28.10YR3/4 暗褐色シルト 炭・焼土各5%
  - 29.10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 炭・焼土併せて50%
  - 30.10YR4/4 褐色シルト 炭微量
- ※2~9層がカマド2煙道、10・12・13層がカマド1煙道、16~21層が土坑1、23層がP03堆積土、24~30層がカマド及び床面構築土

付属施設配置図 (縮尺=1/80)



第25図 SI19 (3)

形の配置となる。床面には明確な痕跡は無いが、本建物では床面の拡張を行っており、それに伴って前者から後者へと柱配置を変更した可能性もある。壁溝は南壁中央を除いてほぼ全周する。幅は20～40cm、深さは11～28cmである。底面は平坦ではなく、段差が認められる部分もある。土坑1は壁面南東隅に位置し、位置関係及び堆積土の状況からカマド2に伴う貯蔵穴と考えられる。1.9×1.28mの楕円形で、北側がカマド袖部と接しているが、東・南壁は若干壁面より外側に貼り出している。断面形は逆台形で、床面からの深さは0.33mである。

遺物はカマド及び周辺、煙道、土坑、床面直上、床面構築土、堆積土中から多量に出土しており、土器（土師器・須恵器）66点、陶磁器（須恵器系）・金属製品（釘）各1点、石器（砥石等）2点を掲載した（a72～137、b20、c24・207、d37）。

本遺構は、カマドを有することから住居として使用された竪穴建物と考えられ、本遺跡内では最も規模が大きい。年代は、P07から出土した炭化材の放射性炭素年代測定結果（第4節（1）、試料R37）及び出土した土器の年代観から古代（9世紀前～中葉）と考えられる。

#### SI20（第2-22図、写真図版2-32）

R-Ⅱ層下位～Ⅲa層上面で黒褐色の長方形プランと南北壁から延びる溝状プランを検出した。検出時点では新旧関係は不明であったが、堆積土を一段掘り下げた結果、本遺構となる長方形プランがSD40となる溝状プランより新しいことが判明した。この他、SB72（P3790・4010）・73（P4012・4013・4019）・74（P3708・4030）・78（P4020）・128（P4002）と重複しており、いずれも本遺構より新しい。なお、本遺構の柱穴としたP04はSB71を構成する柱穴と考えられ、SB71は本遺構より古い。平面形は長方形で、壁面は外方に開きながら立ち上がる。床面は、Ⅲa層を平坦に整えている。堆積土は重複する柱穴を含めて12層に分層し、このうち4層（7～10層）が本遺構の堆積土である。大半が炭とⅢ層由来のブロックを多く含む黒褐色シルトで、人為堆積と考えられる。

付属施設として柱穴7個と杭20個を検出した。柱穴のうちP02・05・06が主柱穴になると考えられるが、方形の柱配置とすれば北東側の柱穴が検出されていない。杭は壁際に等間隔で位置していることから、壁材の支持材と考えられる。本遺構の上屋が壁立式であると仮定すると、主柱穴は前述のL字型に3個あるいはP05・06の南北2本配置であった可能性もある。

遺物は堆積土中から出土しており、陶磁器（渥美・美濃・青磁・白磁）・金属製品（釘）各4点、銭貨（淳化元宝）1点を掲載した（b21～24、d38～41、e15）。

本遺構は上屋を有する竪穴建物であるが、用途については不明である。年代は、床面直上から出土した炭化材の放射性炭素年代測定結果（第4節（1）、試料R38）は15世紀後葉～16世紀前葉であるが、出土した陶磁器の年代観から中世（16世紀後葉）と考えられる。

#### SI21（第2-22図、写真図版2-33）

R-Ⅲa層上面で、灰黄褐色の方形プランとして検出した。他遺構との重複は無く、単独で存在する。東側が崩落により失われているが、平面形は方形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、Ⅲa層及びⅤ層を平坦に整えているが、Ⅴ層の露出範囲が広く凹凸が認められる。堆積土は灰黄褐色土が主体で、3層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。

付属施設は検出されなかった。

遺物は堆積土中～下位を中心に出土しており、陶磁器（瀬戸美濃・染付）4点、石器（砥石・台石・石臼）3点、金属製品（釘・棒状）2点、銭貨（洪武通宝？）・生産関連遺物（埴塙）各1点を掲載し

た (b25~28、c25~27、d42・43、e16、h2)。なお、h2 については自然科学分析を実施した結果、金細工に伴う埴埦の可能性が指摘されている (第4節 (8)、試料 No.8)。

本遺構は、炉は検出されていないが生産関連遺物 (埴埦) が出土していることから鑄造を行った工房として使用された竪穴建物と考えられる。年代は、出土した陶磁器の年代観から中世 (16世紀後半) と考えられる。

#### SI22・23 (第2-26図、写真図版2-33~35)

R-II層下位及びSD107堆積土上面で灰黄褐色の方形プランが2個重複した状況で検出した。当初は新旧関係が不明であったが、両プラン及びSD107を跨ぐようにベルトを設定して断面観察を行ったところ、竪穴建物が2軒重複していることを確認し、北側をSI22、南側をSI23とした。多数の遺構と重複関係にあり、新旧関係は古い順にSI23→SD107→SK95→SI22→SB81(P4418)・89(P3874・3875)・93(P4422)である。SI23とSD107は直接的な重複関係は無いが、出土遺物の年代観からこの順序と判断した。なお、SI23床面で検出した柱穴のうち、P04はSB93、P05はSB91、P19・21はSB92を構成する柱穴と考えられる。以下では竪穴建物毎に記載を行う。

SI22の平面形は長方形で、壁面は外方に開きながら立ち上がる。床面は、ほぼ全域がSD107堆積土であり、平坦に整えているが混和物である礫による凹凸が認められる。堆積土はSI23と合わせて6層に分層し、このうち4層(1~4層)が本遺構の堆積土である。炭・焼土・Ⅲ層由来のブロックを多く含んでおり、人為堆積と考えられる。

付属施設として床面南東側で地床炉を1基検出した。47×30cmの不整楕円形で、被熱深度は約2cmである。周辺の床面は被熱により硬化しており、炭化物が集中している。

遺物は堆積土中から出土しており、陶磁器(中国・不明)2点、石器(敲磨器・金床石)・金属製品(釘・舟釘)各3点を掲載した(b29・30、c28~30、d44~46)。

本遺構は生産関連遺物は出土していないが、炉を有することから工房として使用された竪穴建物と考えられる。年代は、炉の周辺から出土した炭化材の放射性炭素年代測定結果(第4節(1)、試料R39)及び出土した陶磁器の年代観から中世(16世紀後葉~17世紀前葉)と考えられる。

SI23は北壁をSI22により壊されているが、平面形は長方形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、Ⅲa層を平坦に整えている。堆積土はSI22と合わせて6層に分層し、このうち2層(5・6層)が本遺構の堆積土である。堆積の様相は自然堆積である。

付属施設として、床面で柱穴22個を検出した。このうちP01・14・16・17が支柱穴で、方形の柱配置になると考えられる。なお、先述の通り、P04・05・19・21・22は別の掘立柱建物の柱穴になると考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、土器(かわらけ)1点、陶磁器(渥美・常滑・須恵器系)3点を掲載した(a138、b31~34)。

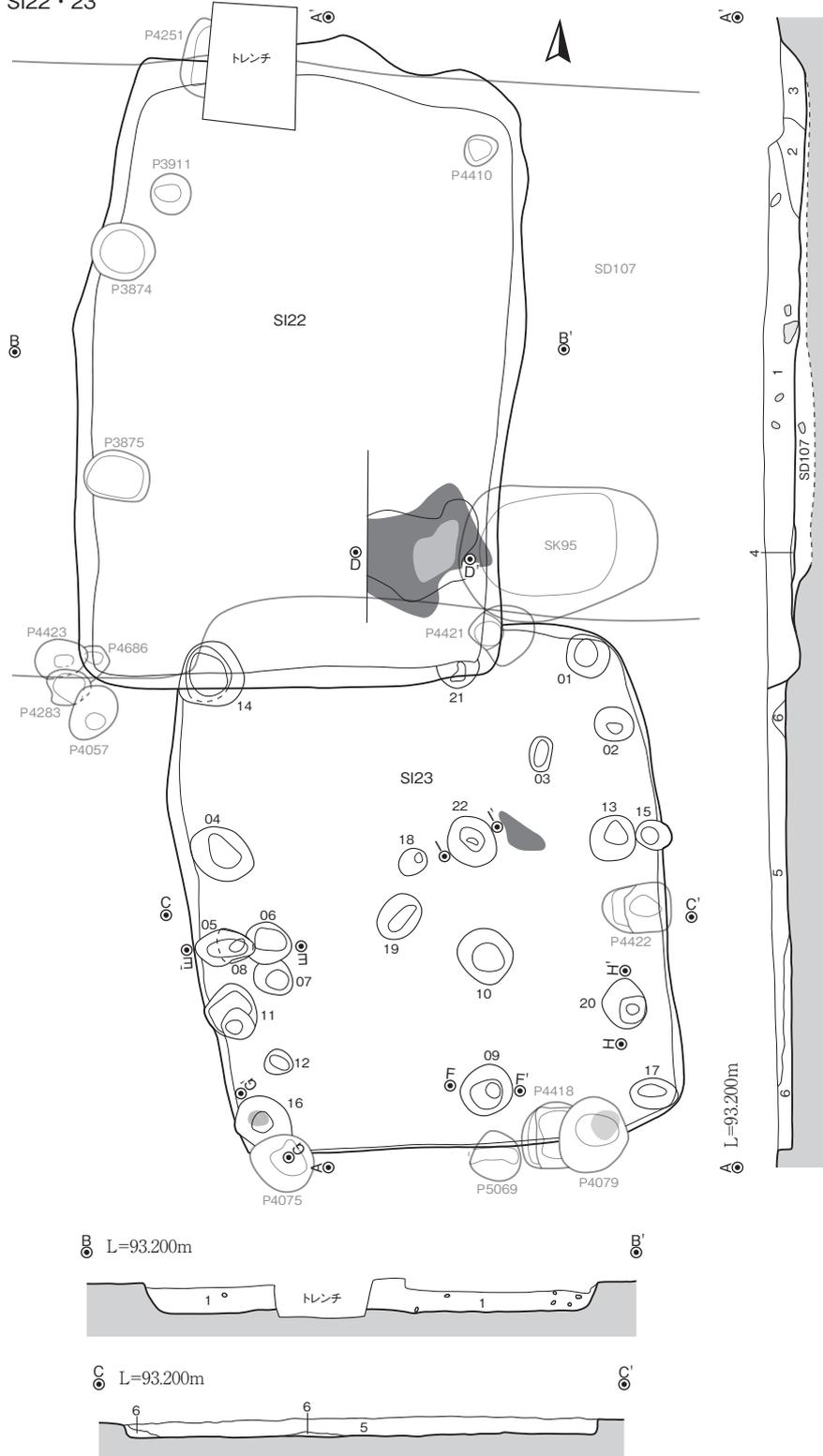
本遺構は上屋を有する竪穴建物であるが、用途については不明である。年代は、出土遺物の年代観及び他遺構との重複関係から古代末(12世紀代)と考えられる。

#### SI24 (第2-19図、写真図版2-36・37)

R-II層下位で黒褐色の方形プランとして検出した。SB72(P3959)・73(P3947)・78(P3670・3942・3947)・128(P3780)、SK86と重複しており、SB72・73・78・128より古く、SK86より新しい。平面形は長方形で、壁面は外方に開きながら立ち上がる。床面は、Ⅲa層を平坦に整えている。堆積

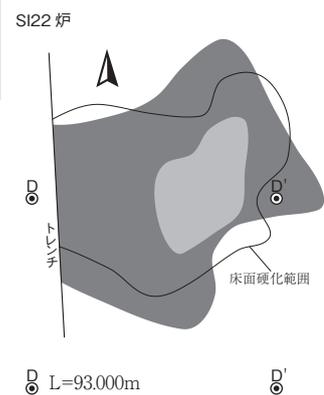
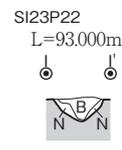
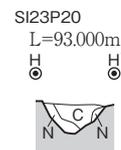
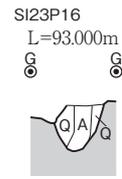
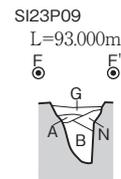
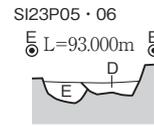
2 検出遺構

SI22・23



SI23	
No.	深さ
P01	18.8
P02	16.0
P03	7.4
P04	14.0
P05	9.8
P06	15.2
P07	8.2
P08	10.8
P09	40.0
P10	14.0
P11	40.8
P12	9.8
P13	19.6
P14	18.4
P15	19.4
P16	41.6
P17	19.2
P18	26.8
P19	14.8
P20	31.4
P21	10.4
P22	17.0

※深さはcm



SI22・23 (A-A'・B-B'・C-C')

1.10YR4/2～5/2 灰黄褐色 しまりやや密 炭 (φ1～5mm) 3%、焼土 (φ1～5mm)・地山ブロック (φ2～10mm) 各2%、礫5%

2.10YR3/2～4/2 黒褐～灰黄褐色 地山ブロック (φ5～50mm) 15%

3.10YR3/2 黒褐色 礫 (φ2～10mm) 5%、地山ブロック (φ5～50mm) 30%

4.10YR4/2 灰黄褐色 しまりやや疎 炭 50% 床面南東側のみ堆積

5.10YR5/2 灰黄褐色 しまりやや密 炭 (φ1～5mm) 2%、焼土 (φ1～5mm) 1%、地山ブロック (φ5～20mm) 5%

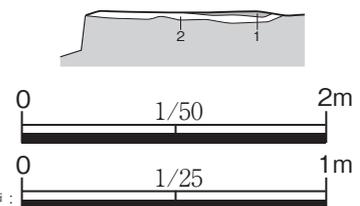
6.10YR2/2 黒褐色粘質土 しまりやや密、粘性やや強 地山ブロック (φ1～3mm) 5% 基本層序II層由来

※1～4層がSI22、5・6層がSI23 堆積土

SI22 炉 (D-D')

1.2.5Y4/4 に近い赤褐色焼土 しまり密 現地性だが黒褐色土を含み焼土はブロック状

2.10YR7/8 黄橙色と10YR3/2 黒褐色の混合土 しまり密 炉の構築時に敷設した整地土か 上面硬化



第26図 SI22・23

土は重複する柱穴を含めて9層に分層し、このうち3層(7~9層)が本遺構の堆積土である。大半がⅢ層由来の地山ブロックを含む黒褐色土で、人為堆積と考えられる。

付属施設として床面で柱穴16個を検出した。このうちP05・08・12・13・15・16が主柱穴で、長方形の柱配置になると考えられる。四隅に位置する柱穴はいずれも壁面に向かって斜めに掘削されていることから、柱は内傾して据えられていたと考えられる。なお、本遺構の柱穴として精査したP04・09はSB78、P15はSB128を構成する柱穴と考えられる。これらは床面精査時に検出しているが、SB78は本遺構の堆積土で検出したP3670・3942・3947、SB128もP3780を含んで構成されることから、P04・09・15も本来は堆積土中で検出できた可能性がある。

遺物は堆積土中から出土しており、土器(須恵器・かわらけ)4点、陶磁器(瀬戸美濃・青磁・染付)3点、石器(石臼)・金属製品(不明)各1点、銭貨(永楽通宝・至□□宝)2点を掲載した(a139~142、b35~37、c31、d47、e17・18)。土器のうちa142はSI22から出土した破片と接合している。

本遺構は上屋を有する竪穴建物であるが、用途については不明である。年代は、出土遺物の年代観から中世(16世紀後半)と考えられる。

#### SI25 (第2-27図、写真図版2-37・38)

R-Ⅱb層上面で黒~暗褐色の方形プランとして検出した。SB101(P4544)・102(P4546・4622)・105(P4737)・106(P4733)・107(P4526・4855)、108(P4528・4690)、SL34・36と重複しており、いずれも本遺構より新しい。その他、多数の柱穴と重複している。平面形は方形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はⅢa層を掘り込み、橙色・黒褐色粘質土を用いて平坦に整えている。堆積土は重複する柱穴、床面構築土を含めて9層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。

付属施設として南壁東側でカマドを1基検出した。残存部位は、燃焼部焼土、左袖部、煙道である。燃焼部焼土は大部分が新期の柱穴に壊されているが、長軸50cm、被熱深度は約2cmである。袖部は、大部分が炭・焼土を混入するⅡ層由来の黒褐色土で構築されている。煙道は南壁際から1.1m水平に延びているが、煙出し部分が柱穴に壊されており全形は不明である。

遺物はカマド付近及び堆積土下位を中心に出土しており、土器(土師器)6点、陶磁器(瀬戸美濃)・金属製品(釘)各1点、石器(台石・砥石)2点を掲載した(a143~148、b38、c32・33、d47)。なお、陶磁器・金属製品はSL36付近で出土しており、そちらに伴う遺物と考えられる。

本遺構は、カマドを有することから住居として使用された竪穴建物と考えられる。年代は、カマド袖構築土内から出土した炭化材の放射性炭素年代測定結果(第4節(1)、試料R40)及び出土した土器の年代観から古代(9世紀前~中葉)と考えられる。

#### (2) 土 坑 (第2-28~39図、写真図版2-39~64)

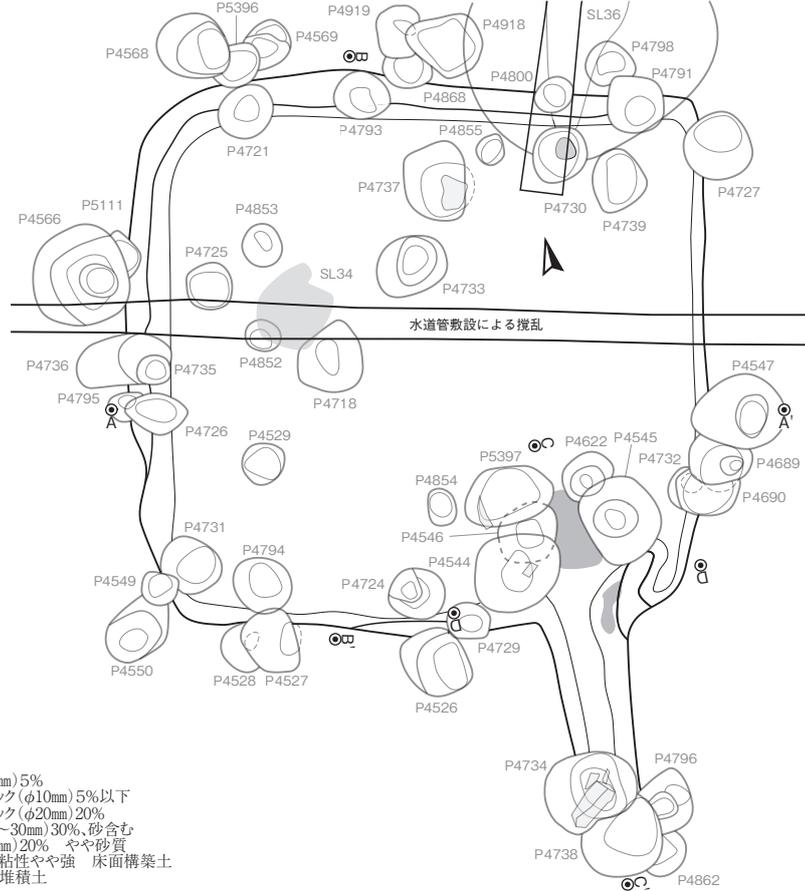
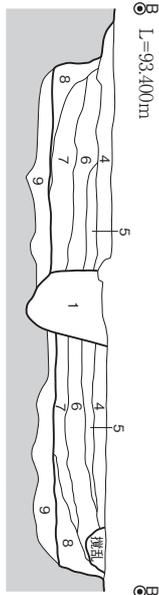
125基検出した。検出位置・規模は第2-3表の通りであり、ここでは特徴的な性格を有するものについて記載する。

#### SK03・06・12・17・25 (第2-28・29・31図、写真図版2-39・42・43・45)

平面形が円形の土坑で、出土遺物及び放射性炭素年代測定結果から12世紀代に掘削されたと考えられる。断面形は箱形で、壁面は検出面からはほぼ直線的に底面に至る。上面規模は直径0.9m前後、深さは最も深いSK25で1.18mである。遺物はかわらけ・陶磁器・石器・銭貨があり、SK17では完形の轆轤かわらけが底面直上から出土している。形態的に井戸またはトイレ状遺構の可能性も考えら

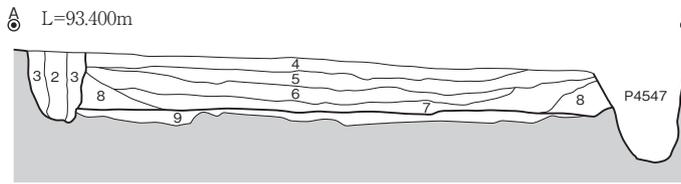
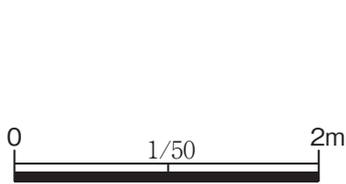
2 検出遺構

SI25

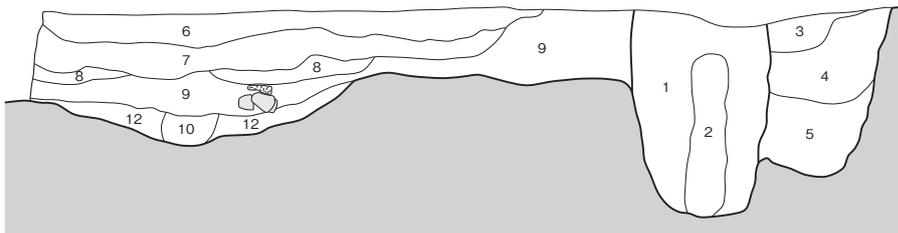


SI25

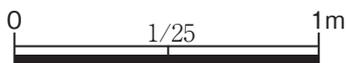
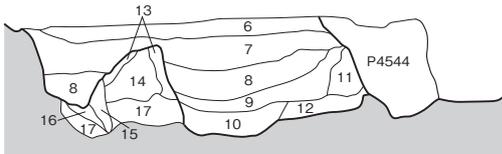
- 1. 柱穴土層パターンD
  - 2. 柱穴土層パターンC
  - 3. 柱穴土層パターンS
  - 4. 10YR3/4 暗褐色シルト 地山ブロック(φ10mm)5%
  - 5. 10YR3/3 暗褐色シルト 炭少量、地山ブロック(φ10mm)5%以下
  - 6. 10YR3/1 黒褐色シルト 炭少量、地山ブロック(φ20mm)20%
  - 7. 10YR3/2 黒褐色シルト 地山ブロック(φ10~30mm)30%、砂含む
  - 8. 10YR2/2 黒褐色シルト 地山ブロック(φ10mm)20% やや砂質
  - 9. 10YR7/8 橙色と10YR3/2 黒褐色の混合土 粘性やや強 床面構築土
- ※1層がP4718、2・3層がP4726、4~9層がSI25堆積土



◎ L=93.300m



◎ L=93.300m



SI25 カマド

- 1. 柱穴土層パターン D
  - 2. 柱穴土層パターン E
  - 3. 柱穴土層パターン B
  - 4. 柱穴土層パターン A
  - 5. 柱穴土層パターン E
  - 6. 10YR3/3 暗褐色シルト
  - 7. 10YR2/3 黒褐色シルト
  - 8. 10YR2/2 黒褐色シルト 焼土(φ10mm)5%
  - 9. 10YR2/1 黒色シルト 地山ブロック(φ10mm)40%
  - 10. 10YR2/1 黒色シルト 地山ブロック(φ30mm)30%
  - 11. 10YR2/2 黒褐色シルト
  - 12. 10YR7/8 黄褐色シルト 粘性やや強 III層由来
  - 13. 10YR2/2 黒褐色シルト しまり密 焼土(φ30mm)10%、地山ブロック(φ20mm)30%
  - 14. 10YR3/4 暗褐色シルト しまり密 炭・焼土各5%、地山ブロック(φ10~30mm)20%
  - 15. 10YR2/3 黒褐色シルト しまり無 地山ブロック(φ10mm)10%
  - 16. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまり密 黒褐色シルトブロック(φ10mm)10%
  - 17. 10YR2/2 黒褐色シルト 炭少量、地山ブロック(φ10~50mm)30%
- ※1・2層がP4734、3~5層がP4738、6~12層がSI25カマド内堆積土、13~17層がSI25カマド構築土

第27図 SI25

れたことから SK03 堆積土について土壌分析を実施したが、直接的に性格を示す様相は確認されなかった（第4節（6）参照）。

#### SK15（第2-30図、写真図版2-42）

平面形が長楕円形の土坑であるが、西側が調査区外に至る為、全形は不明である。出土遺物及び放射性炭素年代測定結果から17世紀前葉に掘削されたと考えられるが（第4節（1）、試料R5）、用途は不明である。堆積の様相は大部分が自然堆積であるが、東壁付近には円形の土坑状に掘り込まれた部分があり、その部分は人為堆積である。平面的に確認できなかった為推定となるが、本遺構の埋没後に掘削された土坑の可能性はある。

#### SK42・44・101（第2-32・33・37図、写真図版2-49・63）

SK42は平面形が長楕円形、SK44・101は平面形が円形の土坑で、出土遺物及び他遺構との重複関係から中世（16世紀代）に掘削されたと考えられる。遺物は土器・陶磁器・石器・金属製品・銭貨・木製品・生産関連遺物等多岐に渡っており、地山由来のブロックや焼土粒を含む人為堆積と考えられる堆積土が認められることから、同時期に機能していた竪穴建物や掘立柱建物で使用された器物の廃棄土坑と考えられる。

#### SK105～124（第2-38・39図、写真図版2-64）

近世～近代にかけての土坑墓で、I A4h・iグリッドに位置する。検出面はR-Ⅲa層で、SX08精査終了後に地山土を主体として炭化物や小礫が斑状に混じる土層の拡がりを確認した。一部が現代の宅地基礎に壊されており、この部分をトレンチとして掘り下げを行ったところ鉄釘や人骨が出土したことから墓坑として認定した。平面形が不整形であったことから複数の墓坑が重複しているものと考えられたが、個々の平面形の把握ができなかった為、複数の遺構に跨るように断面を設定して観察を行った。しかし、基本的に同じ性質の土で埋め戻されており新旧関係を判断することはできなかったことから、精査に際しては壁面または底面が検出される深さまで掘削し、壁面が検出されない部分については底面の深さの相違から墓坑を判別した。人骨や遺物の出土も考慮して最終的に20基を墓坑と判断した。平面形は方形・長方形・円形があり、長軸規模は0.7～1.51mである。成人の墓と仮定した場合、長軸規模から屈葬用の墓坑と考えられる。

人骨は17基から出土しており、出土した部位は第2-4表の通りである。分析鑑定を行っていない為詳細な性別や年齢は不明であるが、基本的に成人男女の人骨と考えられる。部位別にみると頭骨の出土が13基と最も多く、次いで歯・大腿骨または上腕骨・腕または脚の骨が各11基、背骨・骨盤が各3基である。なお、全ての部位が出土した墓坑はSK115のみである。この他、SK106では骨に付着して紐の可能性のある有機物が出土している。

遺物は金属製品と銭貨があり、14基で出土している。金属製品は鉄製品として釘と環状製品・鈎？、銅製品として簪がある。d126の簪は頭髪が付着していた。銭貨は全て寛永通宝で、SK111・115・120～122では複数枚が固着した状態で出土している。SK121から出土した東には銭貨に平織の布の断片が付着しており、分析の結果ワタ（綿）の繊維と判断された（第4節（7）参照）。

これらの墓坑群は、現代の整地層であるSX08との重複関係と出土遺物から近世～近代（18世紀後半～19世紀後半）に掘削されたものと考えられる。なお、先述の通り精査中には個々の新旧関係は判断できなかったが、最も新しい墓坑は洋釘が出土したSK106と考えられる。

2 検出遺構

第3表 土坑一覧 (1)

遺構名	グリッド	検出面	時代・性格	形状		計測値 (m)			出土遺物 重量 (g) [掲載番号]	備考 (重複：右側が新しい)
				平面	断面	長軸	短軸	深さ		
SK01	Ⅲ A17i	H-IV	12~13C 初・井戸か	円	箱	1.76	1.66	0.62	± 5220.8g [a149~210]、陶 4.5g [b39]	放射性炭素年代 [H28]
SK02	Ⅲ A17i	H-IV	15C 前・不明	不整方	不整	2.63	2.42	0.32	± 17.1g、石 1166.7g [c34]	放射性炭素年代 [H3・16・17]
SK03	Ⅲ A14k	H-IV	15~16C・不明	円	箱	0.98	0.93	0.87		土壌分析
SK04	Ⅲ A13e	H-IV	16C 後・不明	長楕円	逆台	1.39	0.31			放射性炭素年代 [H9・19]
SK05	Ⅲ A8g	H-IV	不明	不整楕円	不整	1.10	0.67	0.11		(SD02 → ◎ → SL02)
SK06	Ⅲ A16i	H-IV	12C・不明	円	箱	0.85	0.77	0.80	± 207.6g [a211~213]	
SK07	Ⅲ A16h	H-IV	12C・不明	円	逆台	1.88	1.75	0.81	± 332.8g [a214~216]、陶 40.4g [b40・41]	
SK08	Ⅲ A16i	H-IV	不明	円	箱	0.85	0.77	0.46	± 1.7g	
SK09	Ⅲ A14f	H-IV	不明	長楕円	逆台	1.45	0.86	0.08		
SK10	Ⅲ A8f	H-IV	不明	楕円	不整	1.50	1.00	0.08		(◎ → SD01)
SK11	Ⅲ A11f	H-IV	不明	不整楕円	皿	1.97	1.17	0.16		
SK12	Ⅱ A17i	R-II	12C・不明	円	箱	0.90	0.84	0.57	± 575.9g [a217~222]、陶 11.4g [b42]	放射性炭素年代 [R6]
SK13	Ⅱ A13k	R-II	16 末~17C 初・不明	長方	逆台	1.90	0.85	0.17	陶 5.3g [b43]、石 44.0g [c208]、金 [d49]	放射性炭素年代 [R7]、(SB32 → ◎)
SK14	Ⅱ A14k	R-II		円	逆台	0.70	0.70	0.13	± 16.4g	
SK15	Ⅱ A23g	R-II~III	17C 前葉・不明	楕円	逆台	5.38	(4.50)	0.94	± 38.5g、陶 173.9g [b44~46]	放射性炭素年代 [R5]
SK16	Ⅱ A14j	R-II		楕円	逆台	0.80	0.60	0.23	± 1.4g	
SK17	Ⅱ A17j	R-II	12C・不明	円	箱	0.80	0.68	1.15	± 566.4g [a223~226]、陶 14.8g [b47]、石 27.1g、鏡 [e19]	放射性炭素年代 [R8]
SK18	Ⅱ A14j	R-II	中~近世・不明	楕円	逆台	1.02	0.86	0.53	± 17.7g、金 [d50]	
SK19	Ⅱ A17h	R-II		不明	逆台	0.80	(0.23)	0.15		
SK20	Ⅱ A14h	R-II		楕円	逆台	1.20	0.66	0.24		(SD13 → ◎)
SK21	Ⅱ A13h	R-II		隅丸方	皿	2.31	2.20	0.32	± 9.4g	
SK22	Ⅱ A12k	R-II		隅丸方	逆台	0.96	0.85	0.26		
SK23	Ⅱ A14j	R-II	16C・掘立柱建物	楕円	箱	0.81	0.66	0.60		SB27 の柱穴
SK24	Ⅱ A17i	R-II	12C・不明	円	箱	0.83	0.80	0.50	± 1510.3g [a227~237]	(◎ → SB23)
SK25	Ⅱ A16h	R-II	12C・不明	円	箱	0.90	0.76	1.18	± 381.3g [a238~241]、陶 11.6g [b48]、石 5602.1g [c35~39]	放射性炭素年代 [R13]
SK26	Ⅱ A17j	R-II		円	逆台	0.70	0.54	0.30	± 12.3g	
SK27	Ⅱ A14k	R-II		方	逆台	0.70	0.58	0.30		
SK28	Ⅲ A2i	R-III b		方	箱	0.73	0.61	0.24		副穴 1 個、(◎ → SA101)
SK29	Ⅲ A2h	R-III b		隅丸方	逆台	0.75	0.60	0.17		(◎ → SA101)
SK30	Ⅲ A1h	R-III b	中~近世・不明	隅丸方	逆台	0.98	0.78	0.26	± 1.2g、金 [d51]	(◎ → SA101)
SK31	Ⅲ A1h	R-III b		隅丸方	皿	0.70	0.63	0.18		(◎ → SA101)
SK32	Ⅲ A2h	R-III b	12C・不明	円	皿	0.60	(0.55)	0.12	陶 31.0g [b49]	(◎ → SK33、SA101)
SK33	Ⅲ A2h	R-III b	近世・不明	不整方	逆台	(2.50)	2.42	0.43	± 110.7g [a242]、石 300.3g [c40]	(SK32、SD19 → ◎ → SD103、SA101)
SK34	Ⅲ A2g	R-III b		楕円	逆台	1.13	0.78	0.80	± 10.4g	(SK35・36 → ◎)
SK35	Ⅲ A2g	R-III b		円	箱	0.76	(0.56)	0.26		(◎ → SK34)
SK36	Ⅲ A2g	R-III b		楕円	箱	1.30	(0.90)	0.40		(SK37 → ◎ → SK34)
SK37	Ⅲ A2g	R-III b		円	箱	0.70	0.70	0.56		(◎ → SK36)
SK38	Ⅱ A14h	R-II	16C・掘立柱建物	不整	箱	0.80	0.58	0.50		(◎ → SD12)、SB27 の柱穴
SK39	Ⅲ A2h	R-III b		長方	箱	1.74	0.80	0.17		(◎ → SA101)
SK40	Ⅱ A14j	R-II	12C・不明	楕円	箱	1.40	(0.90)	0.46	± 568.0g [a243・244]、陶 69.8g [b50]、石 953.4g [c41・42]、生産 110.8g	(◎ → SK41、SL09)
SK41	Ⅱ A14j	R-II	15C 後・不明	円	皿	0.80	0.74	0.23	± 6.3g	放射性炭素年代 [R9]、(SK40 → ◎)
SK42	Ⅱ A13i	R-II	16C・廃棄土坑	楕円	逆台	3.78	2.42	0.52	± 155.4g、陶 79.5g [b51]、石 139g [c43]、金 [d52~56]、鏡 [e20]、木 [f57]、生産 633.1g	
SK43	Ⅱ A14i	R-II		不整	箱	1.72	1.12	0.28	± 15.4g [a245]	
SK44	Ⅱ A16i	R-II	16C・廃棄土坑	円	逆台	2.26	1.92	0.66	陶 46.2g [b52・53]、石 6823.1g [c44]、金 [d57]、生産 2212.1g	(SI07・09 → ◎)
SK45	Ⅲ A2k	R-III b		楕円	逆台	2.16	1.26	0.34		
SK46	Ⅱ A24h	R-II~III		楕円	逆台	1.53	1.12	0.28	± 10.5g	底面凹凸有り、(SD14 → ◎)
SK47	Ⅱ A25i	R-III b		楕円	箱	0.82	0.50	0.36		(SD47 → ◎)
SK48	Ⅱ A16j	R-II	中世・不明	円	箱	0.92	0.80	0.35	± 56.6g	(SD16 → ◎ → SB26)
SK49	Ⅱ A23i	R-II~III		隅丸方	逆台	2.25	(1.25)	0.12		(SK51 → ◎ → SD14)
SK50	Ⅱ A24i	R-III b		楕円	逆台	1.66	0.94	0.28		
SK51	Ⅱ A23i	SK49 底		楕円	逆台	0.96	0.58	0.14		(◎ → SK49)
SK52	Ⅱ A24i	R-III b		不整方	箱	1.40	1.30	0.36		
SK53	Ⅱ A23i	R-II~III		円	逆台	1.90	1.64	0.70		
SK54	Ⅱ A23i	R-II~III		楕円	逆台	0.70	0.50	0.26		
SK55	Ⅱ A25j	R-III b		不整楕円	逆台	0.90	0.76	0.34		
SK56	Ⅱ A21j	R-II		不明	逆台	(2.10)	(0.30)	0.24		
SK57	Ⅱ A24i	R-III b		不整方	逆台	1.92	1.88	0.44	± 13.9g	
SK58	Ⅱ A24j	1号沢堆		長方	逆台	1.54	0.90	0.50		
SK59	Ⅱ A19i	R-II		楕円	皿	1.22	0.84	0.10		
SK60	Ⅱ A15i	R-II	中世・不明	不整方	皿	0.90	0.52	0.18		(◎ → SI07)
SK61	Ⅱ A15i	R-II	中世・不明	半円	皿	1.42	1.14	0.10	陶 2.8g	(◎ → SI07)
SK62	Ⅱ A9g	R-II	近世・不明	楕円	逆台	1.18	(0.70)	0.52		底面付近に大礫、(SI16 → ◎)
SK63	Ⅱ A10g	SI15 堆	中世・不明	不整楕円	皿	1.76	1.22	0.14	± 72.6g [a246]、陶 3.6g、金 [d58・59]	(SI15、SK64・65 → ◎)
SK64	Ⅱ A10g	SI15 堆	中世・不明	不整楕円	逆台	1.42	1.16	0.27	陶 3.2g	(SI15、SK65 → ◎ → SK63)
SK65	Ⅱ A10g	SI15 堆	中世・不明	楕円	皿	(1.35)	1.14	0.12	± 2.0g、石 1987.7g [c45]	(SI15 → ◎ → SK63・64)
SK66	Ⅱ A17h	R-II	中世・不明	円	逆台	1.26	1.08	0.40	± 3.4g	(◎ → SB23、SD13)

第3表 土坑一覧(2)

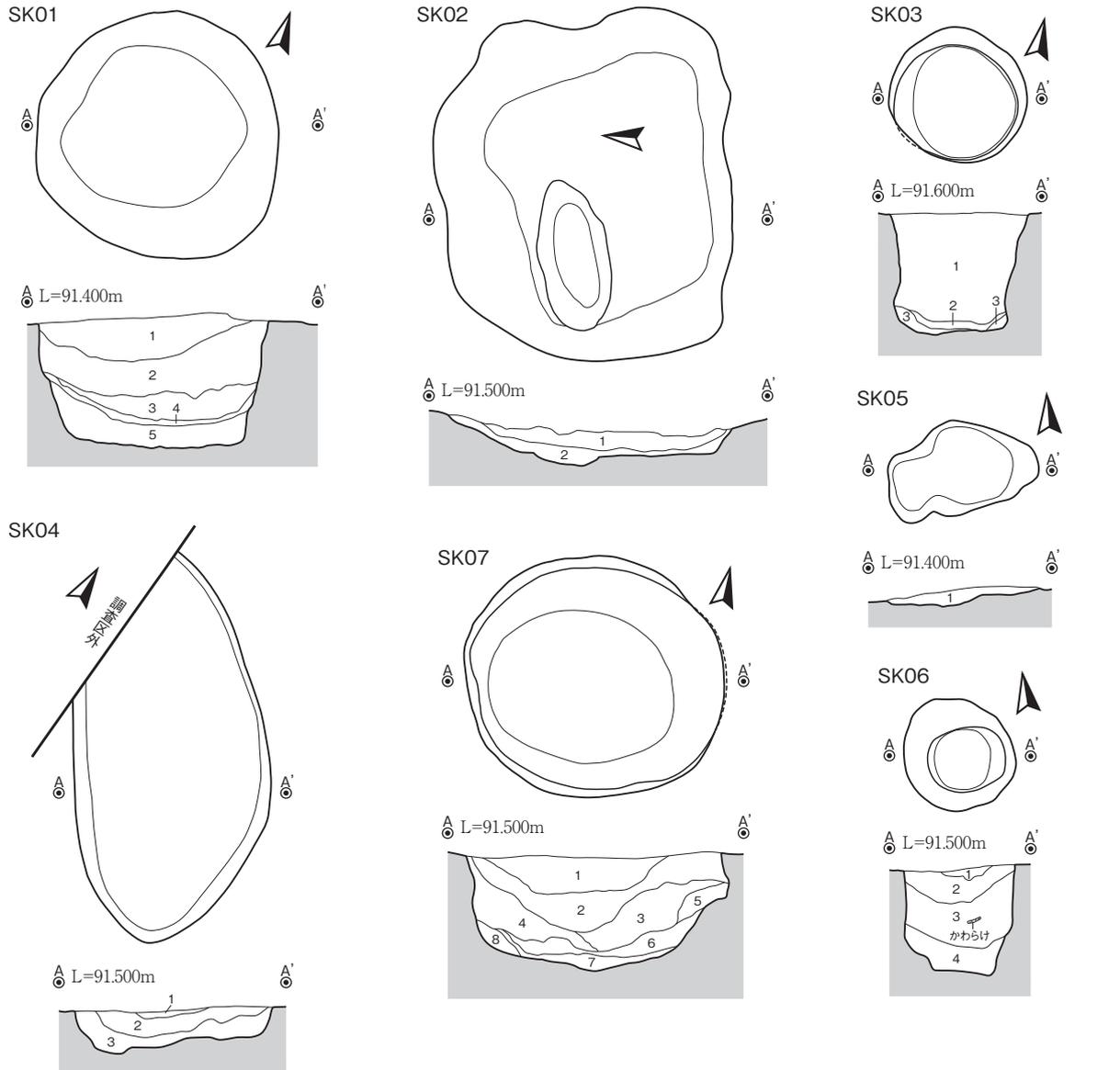
遺構名	グリッド	検出面	時代・性格	形状		計測値 (m)			出土遺物 重量 (g) [掲載番号]	備考 (重複: 右側が新しい)
				平面	断面	長軸	短軸	深さ		
SK67	II A8h	R-II		円	箱	0.88	0.74	0.37		
SK68	II A7i	R-II		不整円	箱	0.88	0.88	0.42		
SK69	II A7j	R-II		長方	逆台	1.20	0.60	0.18		
SK70	II A13h	R-II		不整楕円	逆三角	1.52	1.00	0.36		(◎→SD13)
SK71	II A14g	R-II		不整	逆台	0.78	0.58	0.32		(◎→SD11)
SK72	I A22g	R-II	中～近世・不明	円	箱	0.82	0.65	0.24		(SD40→◎)
SK73	II A9i	R-III a		円	逆台	0.76	0.62	0.28		
SK74	II A7k	R-III a		不明	不明	(1.94)	(0.96)	0.50		
SK75	I A24g	R-II	16C・不明	楕円	逆台	1.93	1.58	0.48	土 51.4g、陶 354.7g [b54・55]、金 [d60-62]	(SD38・39→◎)
SK76	II A6g	R-II	近世・不明	円	箱	(1.50)	(0.42)	0.60	生産 77.2g	(SI18→◎)
SK77	I A23h	R-II	中～近世・不明	方	箱	1.63	1.54	0.24		(SK78→◎)
SK78	I A23i	R-II		円	逆台	1.76	1.72	0.56	土 53.9g、石 1823.0g [c46・47]	(SI19→◎)
SK79	I A19g	SD106 堆	近世・不明	円	箱	0.71	0.68	0.43	土 1.6g、銭 [e52]	(SB78、SD106→◎)
SK80	I A19i	SD106 堆	12C・不明	楕円	不明	(1.27)	1.20	0.53	陶 33.6g [b56]	(◎→SD106)
SK81	I A22h	SI19 堆	12C・不明	楕円	逆三角	1.90	1.56	0.62	土 388.7g [a247]	(SI19→◎)
SK82	I A18h	R-II	12C・不明	楕円	箱	0.83	0.65	0.14	土 185.5g [a248-251]	副穴1個
SK83	I A17h	R-II	16末～17C前・不明	円	逆台	0.85	0.83	0.45	土 49.1g [a252-254]、陶 84.0g [b57]	
SK84	I A18i	R-II	近世・不明	楕円	逆台	2.26	1.21	0.45	土 605.2g [a255]	(SB129、SD106→◎)
SK85	I A19i	SD106 堆	近世・不明	楕円	箱	1.70	0.92	0.52		(SD106→◎)
SK86	I A20h	R-II	古代・不明	円	皿	1.00	0.83	0.17		(◎→SI24)
SK87	I A19g	SD106 堆	近世・不明	円	箱	0.70	0.68	0.90		(SD106→◎)
SK88	I A21i	SI19 底	8C・不明	楕円	逆台	1.65	1.05	0.30	土 384.9g [a256]	放射性炭素年代 [R41]、(◎→SI19)
SK89	I A22h	SI19 底	8C・不明	楕円	逆台	1.08	0.70	0.23		(◎→SI19)
SK90	I A19g	R-II	9C・不明	円	逆三角	1.92	(1.90)	0.47	土 206.6g [a257-260]	(◎→SD40・106)
SK91	I A19i	SD106 堆	近世・不明	不明	逆台	(1.96)	(0.66)	0.22		(SD106→◎)
SK92	I A19j	SD106 堆	近世・不明	長方	逆台	2.25	(0.80)	0.35		(SD106→◎)
SK93	I A19h	R-II	中世・不明	円	逆台	1.45	(0.90)	0.30	石 189.2g [c48]	(◎→SD106)
SK94	I A13j	R-III a		円	逆台	1.00	0.83	0.28		
SK95	I A16i	SD107 堆	中～近世・不明	隅丸方	箱	1.40	0.96	0.47		(SD107→◎)
SK96	I A18k	R-II～III		不整楕円	皿	1.85	0.92	0.10		
SK97	I A12i	R-III a	近世・不明	円	箱	1.74	1.60	0.50	土 10.2g、陶 102.1g[b58-61]、石 100.6g[c49]、金 [d63-65]	(SK98→◎)
SK98	I A12i	R-III a	中世・不明	長方	皿	(2.50)	1.40	0.10	土 3.4g、石 510.6g [c50]	(◎→SK97)
SK99	I A16i	SD107 堆	中～近世・不明	不整円	逆台	1.02	(0.82)	0.32		(SD107→◎)
SK100	I A9i	R-II		不整円	逆台	1.40	1.10	0.18		
SK101	I A10h	R-II～III	中世・不明	楕円	逆台	1.90	1.38	0.34	土 3.4g、陶 9.3g[b62]、金[d66-68]、銭[e21]	
SK102	I A5i	R-II	近世・不明	長方	箱	2.36	1.30	0.36		西側にテラス状の高まり、(◎→SX08)
SK103	I A5i	R-II	近世・不明	L字	箱	(1.92)	1.38	0.24	陶 35.5g [b63]	
SK104	I A8j	R-II～III	中～近世・不明	不整方	逆台	3.35	3.22	1.70	土 38.4g [a261]、生産 30.7g	(無し)
SK105	I A4i	R-III a	近世～近代・墓	不明	逆台	(0.90)	0.50	-	金 [d69-92]	(◎→SX08)
SK106	I A4i	R-III a	近世～近代・墓	方	箱	0.75	0.70	(0.65)	金 [d93-96]	(◎→SX08)
SK107	I A4j	R-III a	近世～近代・墓	長方	逆台	1.51	0.82	0.45		(◎→SX08)
SK108	I A4j	R-III a	近世～近代・墓	方	箱	0.87	0.80	0.25		(◎→SX08)
SK109	I A4i	R-III a	近世～近代・墓	長方	箱	1.16	0.78	0.94	金 [d97-101]	(◎→SX08)
SK110	I A4i	R-III a	近世～近代・墓	長方	逆台	1.08	0.74	(0.30)		(◎→SX08)
SK111	I A4i	R-III a	近世～近代・墓	長方	箱	0.90	0.60	0.68	土 11.2g、金 [d102]、銭 [e22]	銭は固着状態、(◎→SX08)
SK112	I A4i	R-III a	近世～近代・墓	円	逆台	1.44	(0.70)	-		(◎→SX08)
SK113	I A4h	R-III a	近世～近代・墓	長方	箱	1.33	0.96	0.61	金 [d103]	(◎→SX08)
SK114	I A4h	R-III a	近世～近代・墓	長方	箱	(1.10)	0.83	0.45	土 7.7g、金 [d104・105]	(◎→SX08)
SK115	I A4i	R-III a	近世～近代・墓	方	箱	0.70	0.65	(0.16)	金 [d106-109]、銭 [e23]	銭は固着状態、(◎→SX08)
SK116	I A4i	R-III a	近世～近代・墓	不明	不明	0.90	(0.46)	(0.16)	銭 [e24]	(◎→SX08)
SK117	I A4i	R-III a	近世～近代・墓	方	逆台	0.92	0.88	(0.18)	金 [d110-123]	(◎→SX08)
SK118	I A4i	R-III a	近世～近代・墓	不明	不明	-	-	0.43	金 [d124]	(◎→SX08)
SK119	I A4i	R-III a	近世～近代・墓	長方	箱	(1.35)	0.62	0.61		(◎→SX08)
SK120	I A4i	R-III a	近世～近代・墓	円	箱	0.82	0.67	(0.74)	金 [d125・126]、銭 [e25]	銭は固着状態、(◎→SX08)
SK121	I A4j	R-III a	近世～近代・墓	長方	逆台	1.00	0.83	(0.40)	金 [d127-129]、銭 [e26]	銭は固着状態、(◎→SX08)
SK122	I A4i	R-III a	近世～近代・墓	長方	箱	(0.92)	0.62	0.28	銭 [e27]	銭は固着状態、(◎→SX08)
SK123	I A4h	R-III a	近世～近代・墓	不整方	逆台	1.04	0.96	(0.38)		(◎→SX08)
SK124	I A4i	R-III a	近世～近代・墓	長方	逆台	(1.20)	0.73	(0.20)	金 [d130-135]、銭 [e31]	(◎→SX08)
SK125	II A20h	R-II	中世・不明	隅丸方	皿	1.86	1.65	0.32	土 9.6g	(SD30→◎)

※検出面「◎堆」は遺構堆積土、「○底」は遺構底面

※計測値欄の( )は残存値

※重複は単独の柱穴は除く

2 検出遺構



**SK01**  
 1. 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土 しまりやや密、粘性強 炭・ブロック・酸化鉄微量  
 IIIb層の人為堆積土 遺物包含  
 2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト質粘土 しまりやや密、粘性強 礫・炭・酸化鉄微量、  
 IIIb層ブロック少量  
 3. 10YR5/3 におい黄褐色粗砂 しまりやや密、粘性弱 2層・IIIb層ブロック・酸化鉄  
 少量  
 4. 5YR5/8 明赤褐色細砂 しまりやや密、粘性弱 層全体が錆化、変色し硬い  
 5. 10YR7/6 明黄褐色細砂 しまりやや密、粘性弱 地山に類似するが、層下位に  
 酸化鉄が偏在

**SK02**  
 1. 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土 しまりやや疎、粘性強 礫・炭微量、黄褐色細砂  
 少量  
 2. 10YR3/4 暗褐色シルト質細砂 しまりやや密、粘性弱 1層ブロック・地山土少量、  
 酸化鉄微量

**SK03**  
 1. 10YR5/3 におい黄褐色粘質シルトと10YR3/2黒褐色シルトの互層 しまり密、  
 粘性強 炭微量、IIIb層ブロック少量、層上下端ににおい黄褐色粗砂  
 少量偏在 人為堆積  
 2. 10YR5/1 褐灰色シルト質粘土 しまりやや密、粘性強 層下部に酸化鉄  
 3. 10YR5/2 灰黄褐色細砂 しまりやや疎、粘性弱 層下部に酸化鉄 崩落土か

**SK04**  
 1. 10YR5/4 におい黄褐色粘質シルト しまりやや密、粘性強 酸化鉄少量 表土か  
 2. 10YR2/2 暗褐色シルト質粘土 しまり密、粘性強 地山(灰白色粘土)ブロック  
 ・酸化鉄微量  
 3. 10YR5/2 灰黄褐色シルト質粘土 しまり密、粘性強 黒褐色シルトブロック少量、  
 酸化鉄微量

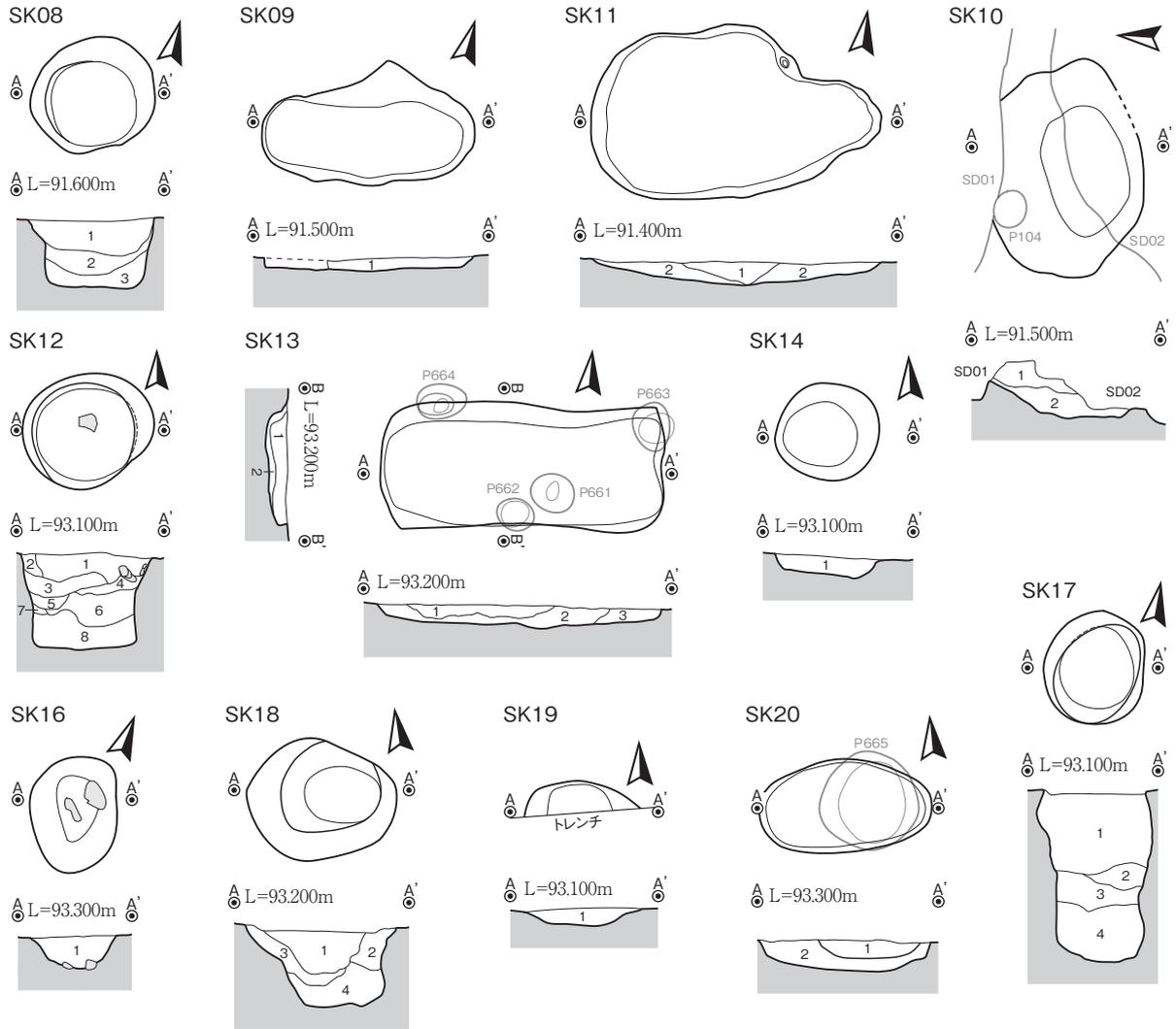
**SK05**  
 1. 10YR3/3 暗褐色粘質シルト しまりやや密、粘性やや強 炭微量、IIIb層ブロック少量

**SK06**  
 1. 10YR4/4 褐色粗シルト質粘土 しまりやや密、粘性強 表土か  
 2. 10YR3/2 黒褐色シルト しまり密、粘性強 浅黄褐色粘土ブロック少量 人為堆積  
 3. 10YR4/2 灰黄褐色シルト質粘土 しまり密、粘性強 黒褐色粘土ブロック微量、  
 礫・浅黄褐色粘土少量 人為堆積 遺物包含  
 4. 10YR5/3 におい黄褐色シルト質粘土 しまりやや疎、粘性強 V層土中量、最下部  
 に厚さ10mm程度の錆層 人為堆積

**SK07**  
 1. 10YR4/1 褐灰色粘質シルト しまりやや密、粘性やや強 炭・IIIb層ブロック微量  
 2. 10YR2/2 黒褐色～10YR8/4 浅黄褐色シルト質粘土 しまりやや密、粘性強 酸化鉄  
 微量、におい黄褐色土ブロック少量 人為堆積で、主体土はブロック状  
 ににおい黄褐色シルト質粘土 しまりやや密、粘性強 酸化鉄微量、黒褐色  
 粘土ブロック中量 人為堆積  
 3. 10YR7/2 灰白色シルト質粘土 しまり密、粘性強 酸化鉄微量、黒褐色粘土ブロック  
 少量 人為堆積  
 4. 10YR8/2 灰黄褐色シルト細砂 しまりやや疎、粘性弱 黒褐色粘土ブロック微量、  
 酸化鉄・浅黄褐色粘土ブロック少量  
 5. 10YR5/2 灰黄褐色細砂 しまりやや疎、粘性弱 酸化鉄・黒褐色・浅黄褐色粘土  
 ブロック微量  
 6. 10YR4/2 7. 7.5YR5/8 明褐色～におい黄褐色細砂 しまりやや密、粘性弱 層全体  
 が錆化、変色し硬い  
 8. 10YR4/1 褐灰色細砂 しまりやや密、粘性弱 浅黄褐色粘土ブロック微量  
 地山崩落土



第28図 SK01～07



**SK08**  
 1. 10YR5/3 におい黄褐色シルト質粘土 しまり密、粘性強 黒褐色粘土ブロック少量、Ⅲa層ブロック中量 人為堆積  
 2. 10YR3/1 黒褐色シルト質細砂 しまりやや密、粘性弱 1層ブロック少量、Ⅲa層ブロック微量  
 3. 10YR3/3 暗褐色シルト質細砂 しまりやや密、粘性弱 におい黄褐色シルト細砂ブロック少量 地山に類似するがやや暗い

**SK09**  
 1. 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土 しまり密、粘性強 Ⅲa層ブロック少量、酸化鉄微量、灰白色粘土ブロック下部に少量偏在

**SK10**  
 1. 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト しまりやや密、粘性やや強 Ⅲb層ブロック・浅黄褐色細砂少量、酸化鉄微量  
 2. 10YR7/6 明黄褐色シルト質粘土 しまり密、粘性強 Ⅲb層ブロックやや多く、黒褐色シルトブロック少量

**SK11**  
 1. 10YR5/3 におい黄褐色シルト質粘土 しまり密、粘性強 暗褐色粘土少量  
 2. 10YR3/1 黒褐色シルト質粘土 しまり密、粘性強 1層土ブロック少量、酸化鉄微量

**SK12**  
 1. 10YR5/3 におい黄褐色粘質土 しまり密、粘性強 炭(φ2~10mm)10%、焼土(φ1~2mm)1%  
 2. 10YR3/2 黒褐色粘質土 しまり密、粘性強  
 3. 10YR5/2 灰黄褐色粘質土 しまり密、粘性強 黄褐色地山ブロック30%  
 4. 10YR7/8 黄褐色粘土 しまり密、粘性非常に強 灰黄褐色ブロック10% 地山を用いた人為堆積土  
 5. 10YR5/2 灰黄褐色粘質土 しまり密、粘性強 焼土(φ2~4mm)1%  
 6. 10YR5/2 灰黄褐色粘質土 しまり密、粘性強 黄褐色地山ブロック30%  
 7. 10YR7/8 黄褐色粘土 しまり密、粘性非常に強 灰黄褐色ブロック10% 地山を用いた人為堆積土  
 8. 10YR2/2 黒褐色土 しまりやや密、粘性やや強 炭(φ2~30mm)2% 下位から遺物出土

**SK13**  
 1. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 しまり密、粘性強 炭(φ5~20mm)3%、黄褐色地山ブロック(φ5~30mm)15%  
 2. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 しまり密、粘性強 黄褐色地山ブロック(φ5~50mm)40%  
 3. 10YR7/8 黄褐色粘土 しまり密、粘性強 灰黄褐色土20%、礫微量 壁面崩落土または人為堆積土

**SK14**  
 1. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 しまり密、粘性強 焼土ブロック(φ3mm)1%、黄褐色、地山ブロック(φ5~20mm)40%

**SK16**  
 1. 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 しまり密、粘性強 黄褐色地山ブロック(φ5~20mm)40%

**SK17**  
 1. 10YR4/3 におい黄褐色 しまり密、粘性強 炭(φ5~10mm)2%、黄褐色ブロック(φ5~20mm)3%  
 2. 10YR5/3 におい黄褐色 しまりやや密、粘性強 黒褐色ブロック5%  
 3. 10YR3/2 黒褐色砂質土 しまりやや疎、粘性やや弱 黄褐色ブロック30%  
 4. 10YR3/2 黒褐色砂質土 しまりやや疎 の炭(φ2~10mm)5%

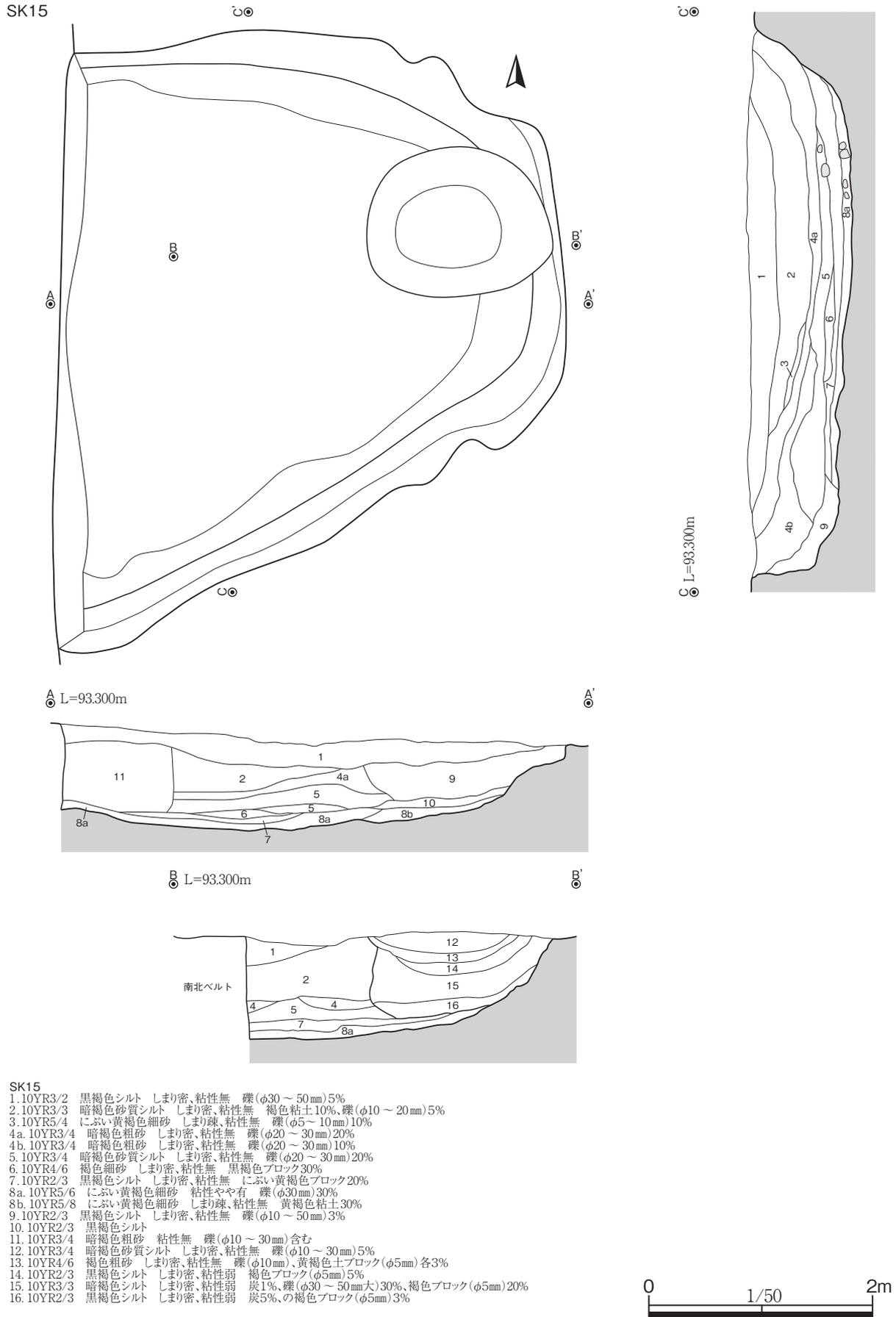
**SK18**  
 1. 10YR2/2 黒褐色 しまり密、粘性やや強 黄褐色ブロック(φ5~20mm)下位に20%  
 2. 10YR7/8~8/8 黄褐色粘土 しまり密、粘性非常に強 灰黄褐色ブロック20% 壁面崩落土  
 3. 10YR5/4 におい黄褐色砂質土 しまりやや疎、粘性やや弱 明黄褐色粘土ブロック5%  
 4. 10YR5/4 におい黄褐色砂質土 3層より粒子細かい

**SK20, P665**  
 1. 10YR4/4 におい黄褐色 しまり密、粘性やや強 黄褐色ブロックとの混合土、礫(φ5~40mm)20%  
 2. 10YR3/2 黒褐色 礫(φ5~60mm)10%  
 ※1層がP665、2層がSK20堆積土



第29図 SK08~14・16~20

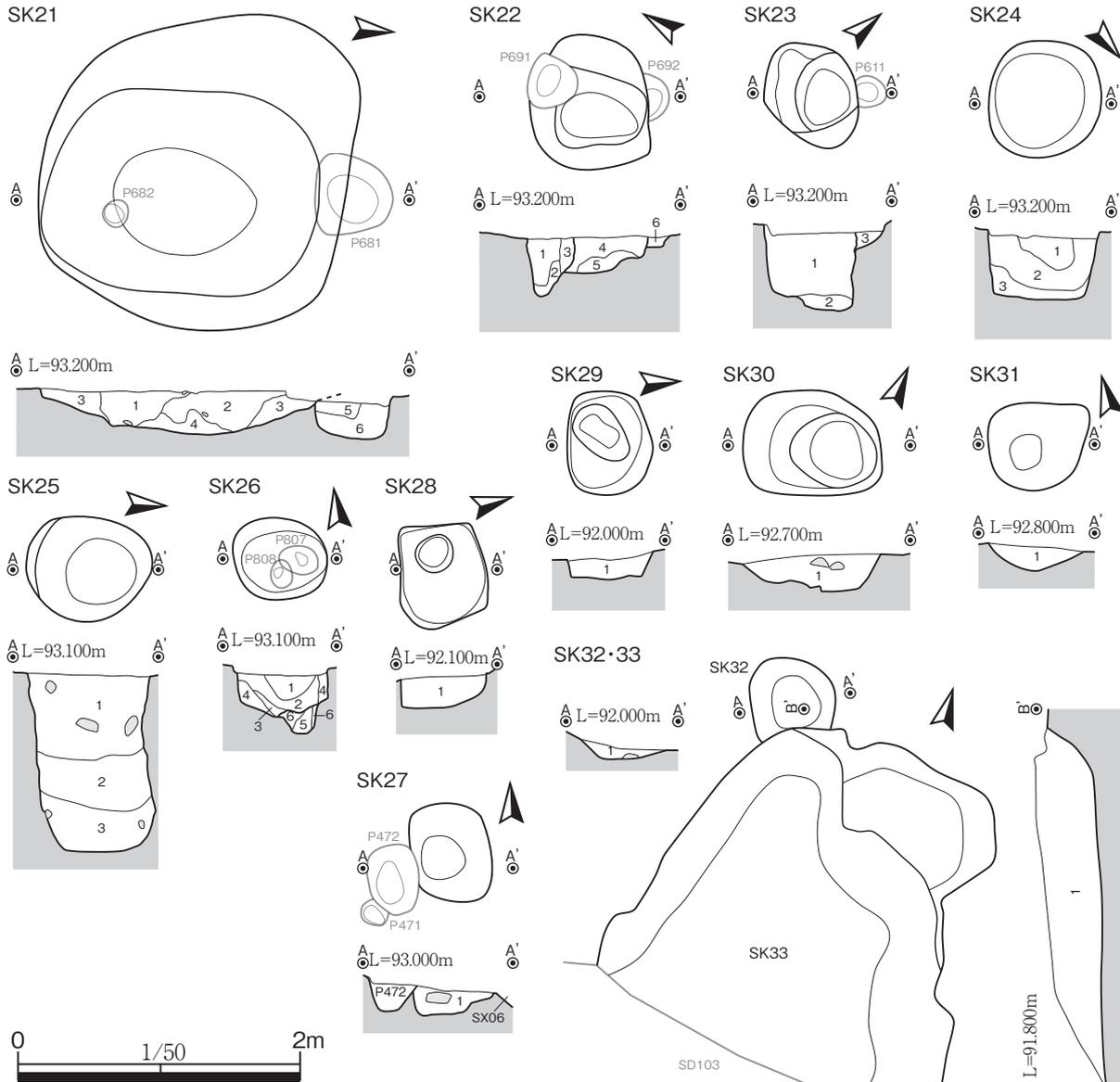
2 検出遺構



SK15

- 1. 10YR3/2 黒褐色シルト しまり密、粘性無 礫(φ30~50mm)5%
- 2. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト しまり密、粘性無 褐色粘土10%、礫(φ10~20mm)5%
- 3. 10YR5/4 にぶい黄褐色細砂 しまり疎、粘性無 礫(φ5~10mm)10%
- 4a. 10YR3/4 暗褐色粗砂 しまり密、粘性無 礫(φ20~30mm)20%
- 4b. 10YR3/4 暗褐色粗砂 しまり密、粘性無 礫(φ20~30mm)10%
- 5. 10YR3/4 暗褐色砂質シルト しまり密、粘性無 礫(φ20~30mm)20%
- 6. 10YR4/6 褐色細砂 しまり密、粘性無 黒褐色ブロック30%
- 7. 10YR2/3 黒褐色シルト しまり密、粘性無 にぶい黄褐色ブロック20%
- 8a. 10YR5/6 にぶい黄褐色細砂 粘性やや有 礫(φ30mm)30%
- 8b. 10YR5/8 にぶい黄褐色細砂 しまり疎、粘性無 黄褐色粘土30%
- 9. 10YR2/3 黒褐色シルト しまり密、粘性無 礫(φ10~50mm)3%
- 10. 10YR2/3 黒褐色シルト
- 11. 10YR3/4 暗褐色粗砂 粘性無 礫(φ10~30mm)含む
- 12. 10YR3/4 暗褐色砂質シルト しまり密、粘性無 礫(φ10~30mm)5%
- 13. 10YR4/6 褐色粗砂 しまり密、粘性無 礫(φ10mm)、黄褐色土ブロック(φ5mm)各3%
- 14. 10YR2/3 黒褐色シルト しまり密、粘性弱 褐色ブロック(φ5mm)5%
- 15. 10YR3/3 暗褐色シルト しまり密、粘性弱 炭1%、礫(φ30~50mm大)30%、褐色ブロック(φ5mm)20%
- 16. 10YR2/3 黒褐色シルト しまり密、粘性弱 炭5%、の褐色ブロック(φ5mm)3%

第30図 SK15



**SK21, P681**  
 1. 10YR3/2 黒褐色 しまり密、粘性やや強 炭(φ2~5mm)3%、焼土(φ1~2mm)2%、黄橙色地山ブロック(φ5~10mm)10%  
 2. 10YR3/2 黒褐色 しまり密、粘性やや強 炭(φ5~30mm)10%  
 3. 10YR4/2 灰黄褐色 しまり密、粘性やや強 黄橙色地山ブロック(φ2~5mm)30%  
 4. 10YR4/2 灰黄褐色 しまり密、粘性やや強 黄橙色地山ブロック(φ2~5mm)45%  
 5. 柱穴土層パターンH  
 6. 柱穴土層パターンT  
 ※1~4層がSK21、5・6層がP681堆積土

**SK22, P691・692**  
 1. 柱穴土層パターンS  
 2. 柱穴土層パターンR  
 3. 柱穴土層パターンD  
 4. 10YR2/1 黒色 しまり密、粘性やや強 黄橙色地山ブロック(φ5~10mm)10%  
 5. 10YR3/2 黒褐色と10YR7/6明黄褐色の混合土 しまり密、粘性やや強  
 6. 柱穴土層パターンQ  
 ※1~3層がP691、4・5層がSK22、6層がP692堆積土

**SK23, P611**  
 1. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや密、粘性やや強 炭(φ1~5mm)3%、黄橙色地山ブロック(φ5~10mm)40%  
 2. 5YR5/3 にぶい黄褐色砂質土 しまりやや疎、粘性やや弱 黄橙色地山ブロック(φ5~30mm)30%  
 3. 柱穴土層パターンT  
 ※1・2層がSK23、3層がP611堆積土

**SK24**  
 1. 10YR4/2 灰黄褐色 しまり密、粘性やや強 炭(φ1~3mm)1%、黄橙色ブロック(φ1~3mm)5%  
 2. 10YR4/2 灰黄褐色 粘性やや強 黄橙色土ブロック(φ2~30mm)15%  
 3. 10YR4/2 灰黄褐色 しまりやや密、粘性強 黒褐色土ブロック40%

**SK25**  
 1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 しまりやや密 黄橙色ブロック(φ1~3mm)5%、赤色粒(φ2~10mm)2%、小礫3%、大礫多量  
 2. 10YR4/2 灰黄褐色 粘性やや強 黄橙色ブロック(φ2~30mm)5%  
 3. 10YR3/2 黒褐色 しまり疎、粘性やや弱 小礫と砂で構成される層 地山再堆積土か

**SK26, P807**  
 1. 10YR3/2 黒褐色と10YR2/1 黒色の混合土 しまり密 黄橙色地山ブロック(φ2~5mm)3%  
 2. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや密 焼土(φ2~30mm)2%、黄橙色地山ブロック(φ2~10mm)15%  
 3. 10YR3/2 黒褐色 粘性やや強 黄橙色地山ブロック10%  
 4. 10YR2/1 黒色粘質土 しまり密、粘性強 地山(II層)崩落土  
 5. 柱穴土層パターンR  
 6. 柱穴土層パターンP  
 ※1~4層がSK26、5・6層がP807堆積土

**SK27**  
 1. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや密、粘性やや強 黄橙色ブロック(φ2~10mm)10%

**SK28**  
 1. 10YR3/3 暗褐色 しまりやや疎、粘性無 褐色ブロック(φ5mm)5%、礫多量

**SK29**  
 1. 10YR3/1 黒褐色と10YR4/4 褐色の混合土 酸化鉄1%、中心に礫多量

**SK30**  
 1. 10YR2/2 黒褐色 しまりやや密、粘性弱 上位に炭2%、下位に暗褐色ブロック20%、礫多量

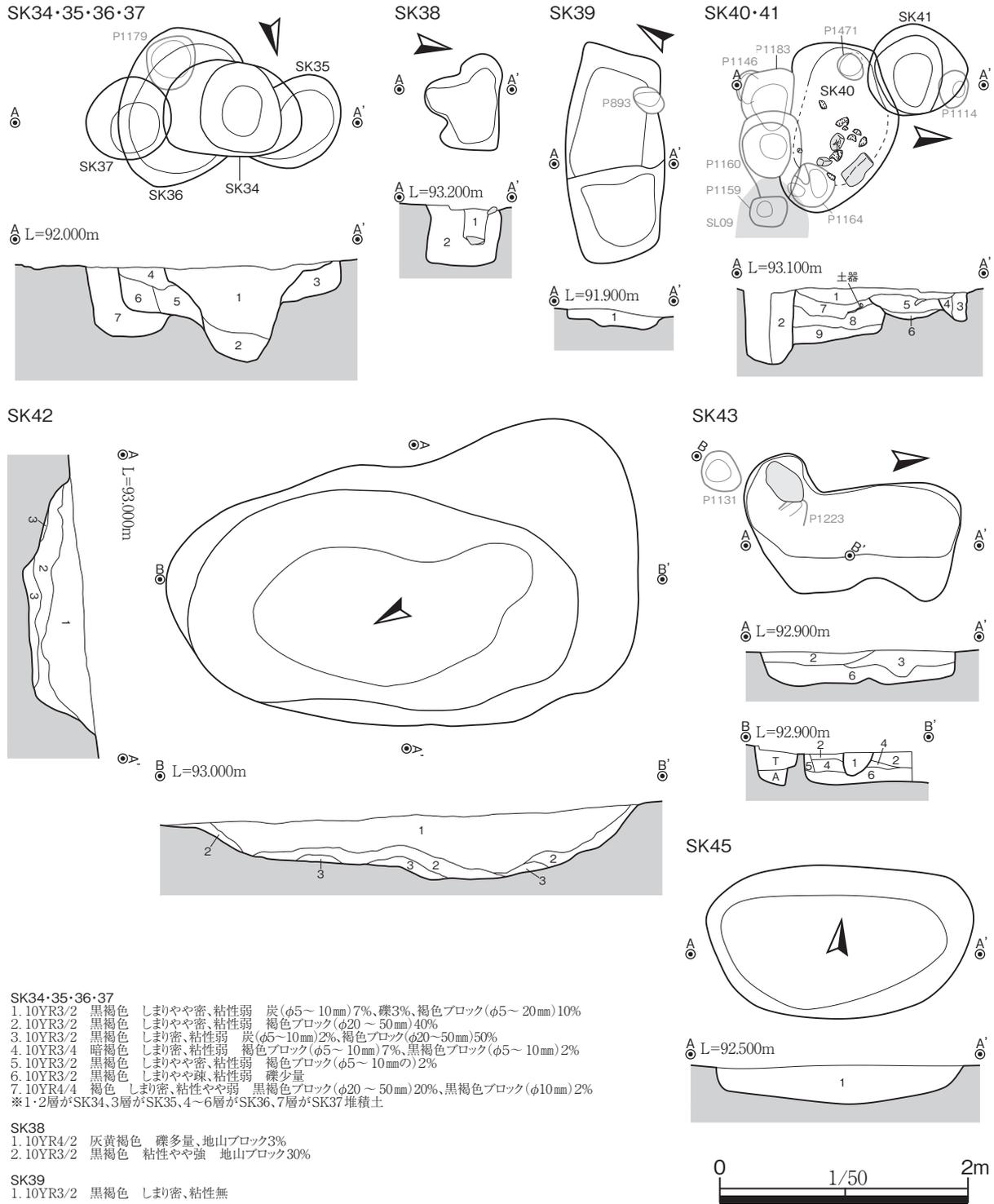
**SK31**  
 1. 10YR3/3 暗褐色砂質土 しまりやや疎、粘性無 下位に黒色ブロック少量

**SK32**  
 1. 10YR3/2 黒褐色 しまり密、粘性無 明黄褐色ブロック(φ5mm)2%、上位と下位に礫含む

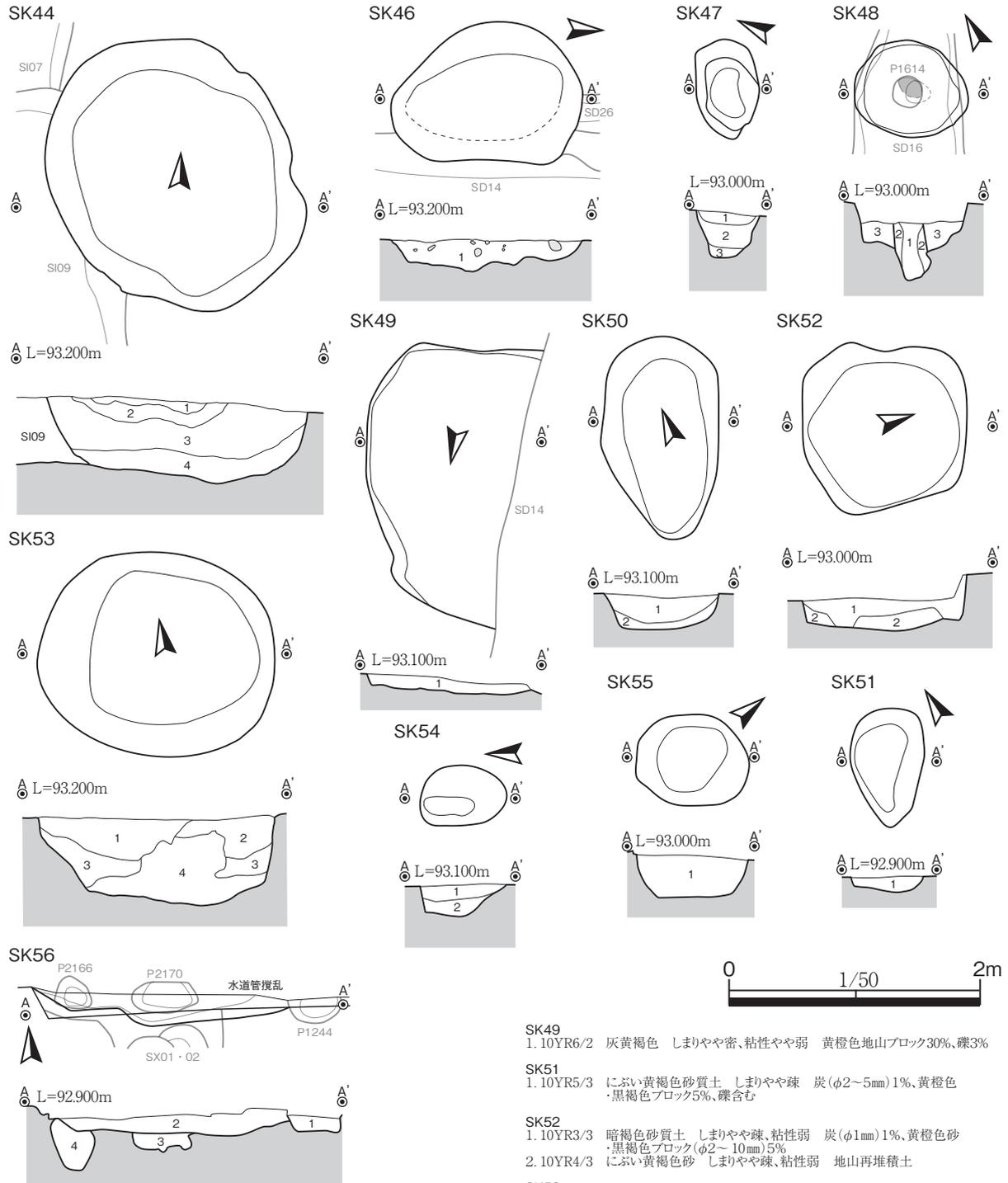
**SK33**  
 1. 10YR3/2 黒褐色 しまり密、粘性弱 褐色ブロック(φ10mm)20%、黒褐色・褐色ブロック(φ5mm)40% 人為堆積

第31図 SK21~33

2 検出遺構



第 32 図 SK34~43・45

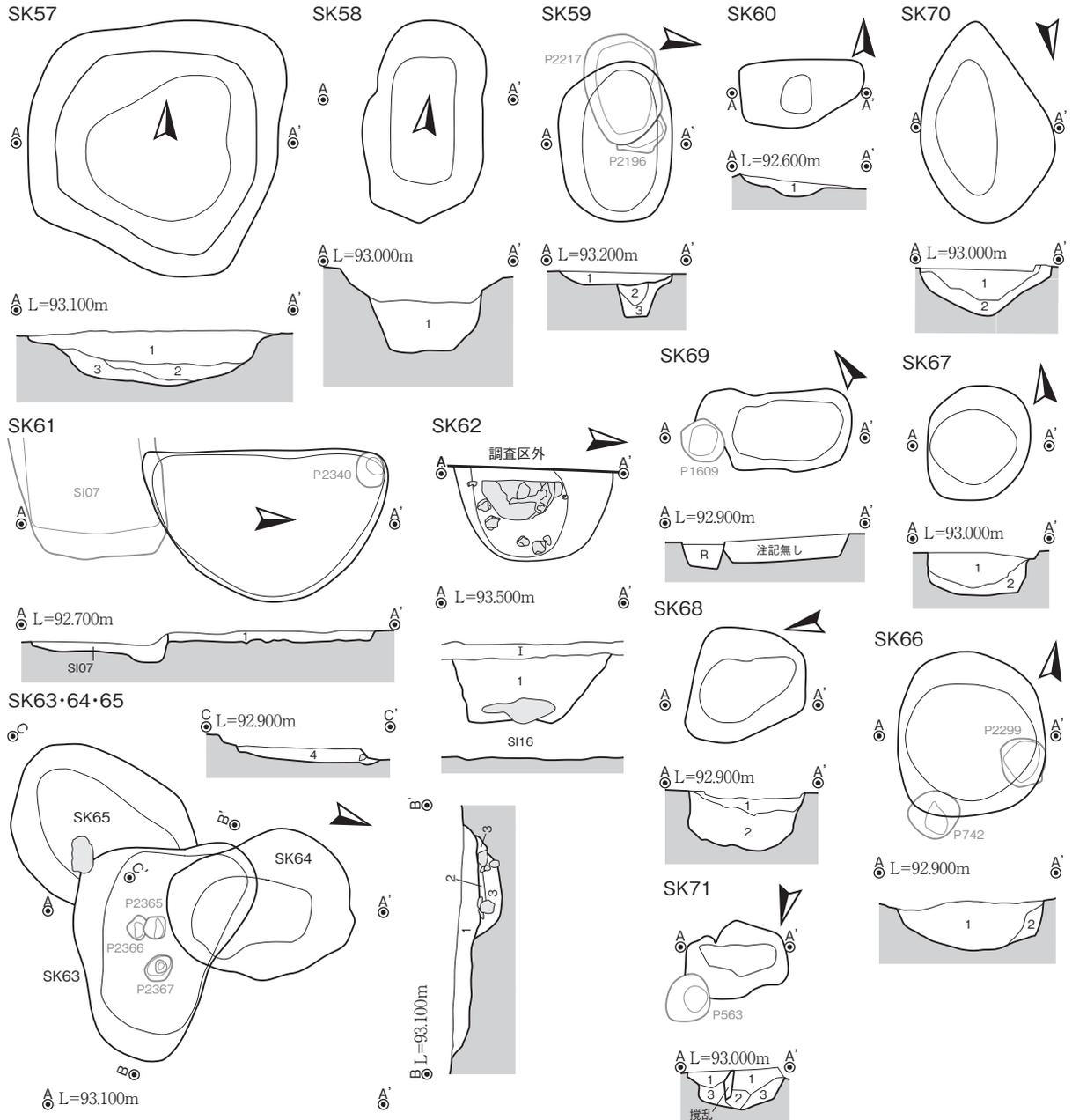


- SK44**  
 1. 10YR5/1 褐灰色シルト 小礫(φ5mm)3%  
 2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 炭20%、焼土ブロック1%、灰5%、円礫(φ50mm)10%  
 3. 10YR4/3 におい黄褐色シルト 黄褐色シルトブロック(φ10mm)10%  
 4. 10YR5/8 黄褐色シルト 黒褐色シルトブロック(φ10~20mm)20%
- SK46**  
 1. 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト におい黄褐色ブロック(φ10~50mm)10%、中礫含む
- SK47**  
 1. 10YR2/2 黒褐色 小礫1%  
 2. 10YR5/3 におい黄褐色 しまりやや弱 炭(φ1~3mm)1%、礫2%  
 3. 10YR6/8 明黄褐色砂 しまり疎、粘性弱 黒褐色ブロック5% 地山崩落土
- SK48**  
 1. 10YR2/3 黒褐色粘土質シルト 黄褐色地山ブロック(φ20~30mm)・炭各1%
- SK50**  
 1. 10YR3/2 黒褐色 粘性やや弱 黄褐色地山ブロック10%、炭(φ1~3mm)1%  
 2. 10YR7/8 黄褐色砂質土 しまり疎、粘性弱 地山崩落土

- SK49**  
 1. 10YR6/2 灰黄褐色 しまりやや密、粘性やや弱 黄褐色地山ブロック30%、礫3%
- SK51**  
 1. 10YR5/3 におい黄褐色砂質土 しまりやや疎 炭(φ2~5mm)1%、黄褐色・黒褐色ブロック5%、礫含む
- SK52**  
 1. 10YR3/3 暗褐色砂質土 しまりやや疎、粘性弱 炭(φ1mm)1%、黄褐色砂・黒褐色ブロック(φ2~10mm)5%  
 2. 10YR4/3 におい黄褐色砂 しまりやや疎、粘性弱 地山再堆積土
- SK53**  
 1. 10YR3/2 黒褐色砂質土 しまりやや疎 炭(φ1~3mm)1%、黄褐色ブロック(φ2~50mm)25%  
 2. 10YR6/4 におい黄褐色砂質土 しまりやや疎 黄褐色ブロック(φ2~50mm)10%、黒褐色ブロック3%  
 3. 10YR5/3 におい黄褐色砂 しまり疎、粘性無 地山崩落土  
 4. 10YR6/2 灰黄褐色粘土 しまりやや密、粘性強 炭(φ1~3mm)1%
- SK54**  
 1. 10YR7/8 黄褐色 黒褐色ブロック30%  
 2. 10YR5/3 におい黄褐色砂 しまり疎、粘性無 黄褐色ブロック(φ2~5mm)5% 地山崩落土
- SK55**  
 1. 10YR4/2 灰黄褐色 炭3%、黄褐色砂ブロック(φ2~30mm)・白色灰各5%、礫(φ2~5mm)3%
- SK56、P1244・2166・2170**  
 1. 柱穴土層パターンG  
 2. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 黄褐色地山ブロック(φ10mm以下)10%  
 3. 柱穴土層パターンF  
 4. 柱穴土層パターンD  
 ※1層がP1244、2層がSK56、3層がP2170、4層がP2166堆積土

第33図 SK44・46~56

2 検出遺構



**SK57**  
 1. 10YR2/2 黒褐色 しまり密、粘性弱 褐色ブロック(φ10mm)・暗褐色砂質土ブロック(φ10～30mm)各2%、黒色ブロック含む  
 2. 10YR3/3 暗褐色 褐色ブロック10%  
 3. 10YR6/4 におい黄褐色砂質土 壁面崩落土

**SK58**  
 1. 10YR6/3におい黄褐色と10YR3/2黒褐色の混合土 粘性やや強 炭(φ2～5mm)1%、黒色ブロック3% 互層に堆積

**SK59、P2169**  
 1. 10YR3/1 黒褐色  
 2. 柱穴土層/パターンB 柱痕跡  
 3. 柱穴土層/パターンC  
 ※1層がSK59、2・3層がP2169堆積土

**SK60**  
 1. 10YR4/2～4/3 灰黄褐色～におい黄褐色シルト 黄褐色地山ブロック(φ10mm)10%

**SK61**  
 1. 10YR8/8黄褐色シルトと10YR3/2黒褐色シルトの混合土

**SK62**  
 1. 10YR3/2 黒褐色シルト 炭・焼土各3%、黄褐色地山ブロック(φ5mm)1%

**SK63・64・65**  
 1. 10YR2/2 黒褐色シルト しまりやや強 炭5%、黄褐色地山ブロック(φ5mm)1%  
 2. 10YR2/2 黒褐色シルト 炭3%、円礫5%  
 3. 10YR3/1 黒褐色シルト 黄褐色地山ブロック(φ5mm)3%、礫15%  
 4. 10YR4/1 褐灰色シルト 黄褐色地山ブロック(φ5mm)1%、礫(φ10～20mm)10%  
 ※1層がSK63、2・3層がSK64、4層がSK65堆積土

**SK66**  
 1. 10YR2/2 黒褐色 黄褐色地山ブロック(φ1～5mm)3%  
 2. 10YR7/8黄褐色粘土と10YR3/2黒褐色の混合土 粘性やや強 黒褐色土は斑状に堆積

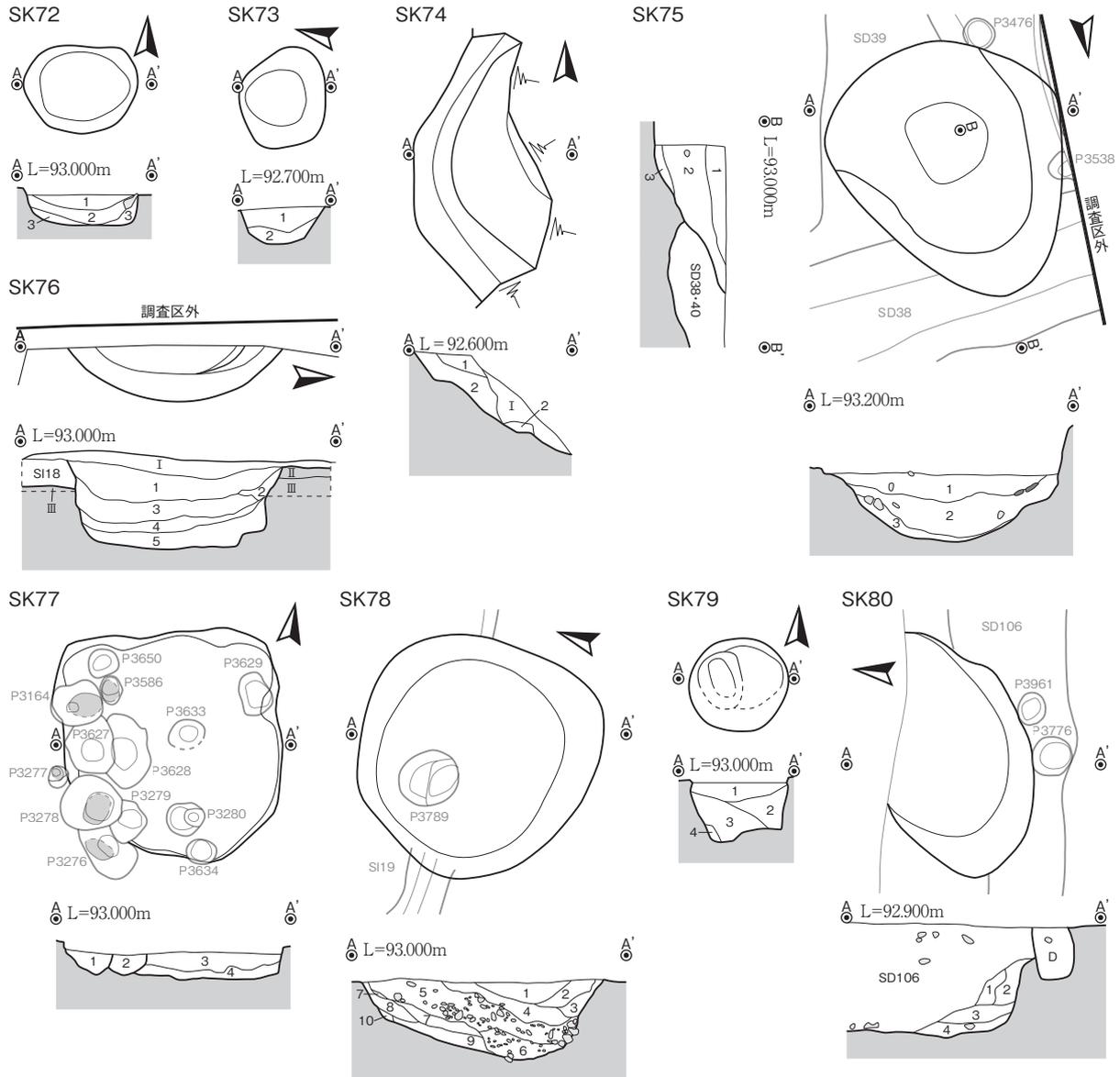
**SK67**  
 1. 10YR4/3～4/6 におい黄褐色～褐色シルト 黄褐色地山・黒褐色シルトブロック各10%  
 2. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 黄褐色地山ブロック(φ10mm以下)5%

**SK68**  
 1. 10YR4/2～4/3 灰黄褐色～におい黄褐色 地山ブロック20%  
 2. 10YR4/3～4/6 におい黄褐～褐色 地山・黒褐色ブロック併せて20%

**SK70**  
 1. 10YR3/2黒褐色 黄褐色地山ブロック(φ5～30mm)40%  
 2. 10YR7/8 黄褐色粘土 粘性やや強 黒褐色ブロック20%

**SK71**  
 1. 10YR3/2 黒褐色 黄褐色地山ブロック(φ2～10mm)5%  
 2. 10YR7/8 黄褐色粘土 粘性やや強 黒褐色ブロック20%  
 3. 10YR7/8 黄褐色 しまりやや疎 灰黄褐色ブロック1%

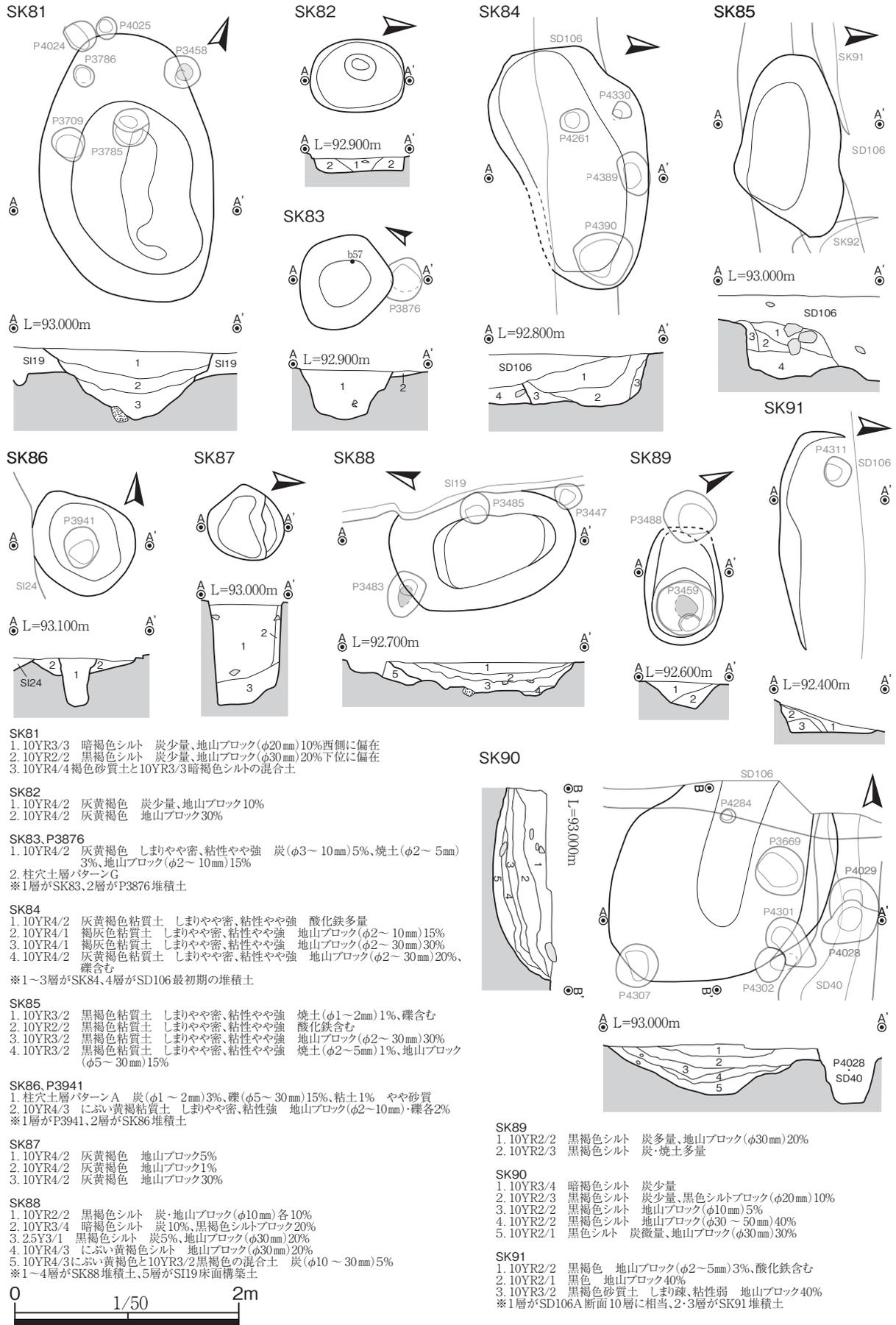
第34図 SK57～71



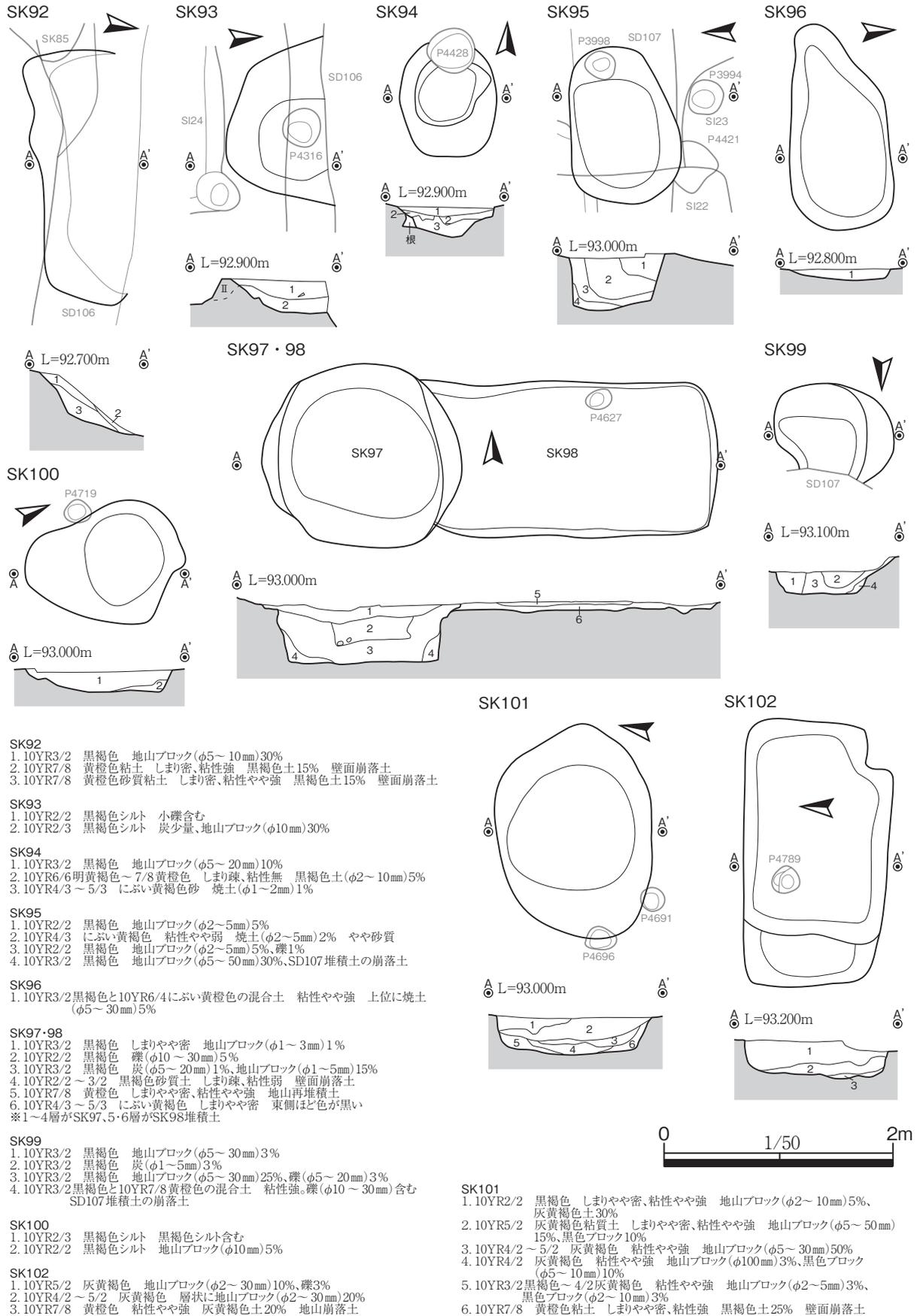
- SK72**  
 1. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト しまり疎、粘性弱 黄橙色地山ブロック(φ5mm以下)1%  
 2. 10YR4/1 褐色シルト 黄橙色地山ブロック10%(φ5mm以下)、円礫3%  
 3. 10YR5/8 黄褐色シルト 褐色シルトブロック(φ5~10mm)5%
- SK73**  
 1. 10YR2/2 黒褐色 黄橙色地山ブロック(φ1~3mm)3%  
 2. 10YR6/4 におい黄橙色 10YR3/2黒褐色ブロック20%
- SK74**  
 1. 10YR3/2 黒褐色 黄橙色地山ブロック(φ5~10mm)1%  
 2. 10YR7/6明黄褐色と10YR3/2黒褐色の混合土 しまりやや疎、粘性やや弱  
 地山崩落土
- SK75**  
 1. 10YR4/3 におい黄褐色粘土質シルト しまりやや密、粘性やや強 炭3%、黄橙色地山ブロック(φ5mm以下)1%  
 2. 10YR2/3 黒褐色粘土質シルト しまりやや密、粘性やや強 炭5%、黄橙色地山ブロック(φ5mm以下)3%  
 3. 10YR2/1 黒色粘土質シルト しまりやや密、粘性やや強 黄橙色地山ブロック(φ5mm以下)1%、礫(φ50mm)3%
- SK76**  
 1. 7.5YR5/4 におい褐色砂 しまり疎、粘性弱 黄橙色ブロック(φ20~50mm)2%、小礫(φ2~10mm)5%  
 2. 10YR5/2 灰黄褐色 しまりやや疎 黄褐色ブロック10%  
 3. 10YR4/2 灰黄褐色 粘性やや強 炭・焼土(φ1~3mm)各1%、におい黄褐色ブロック3%  
 4. 2.5Y6/4 におい黄色粘質土 粘性強 地山崩落土か  
 5. 10YR2/2~3/2 黒褐色 粘性やや強 炭(φ1~3mm)1%、黄褐色ブロック5%
- SK77, P3627・3628**  
 1. 柱穴土層パターンD  
 2. 柱穴土層パターンE 上面に炭・焼土散布  
 3. 10YR3/2 黒褐色 黄橙色地山ブロック(φ2~30mm)20%、礫微量  
 4. 10YR7/8 黄褐色砂質土 しまりやや疎、粘性やや弱 黒褐色ブロック15%  
 ※1層がP3627、2層がP3628、3・4層がSK77堆積土
- SK78**  
 1. 10YR2/2 黒褐色シルト 炭・焼土少量  
 2. 10YR4/3 におい黄褐色シルト 地山ブロック(φ20mm)5%  
 3. 10YR3/3 暗褐色シルト 地山ブロック(φ10mm)5%  
 4. 10YR3/1 黒褐色シルト 部分的に地山ブロック(φ10mm)  
 5. 10YR3/2 黒褐色シルト 礫多量  
 6. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 小礫多量  
 7. 10YR2/2 黒褐色シルト 地山ブロック(φ30mm)10%  
 8. 10YR3/2 黒褐色シルト 地山ブロック(φ30mm)20%  
 9. 10YR4/3 におい黄褐色シルト 暗褐色シルトブロック(φ30mm以下)20% やや砂質  
 10. 10YR3/3 暗褐色シルト 地山ブロック(φ50mm)30%
- SK79**  
 1. 10YR3/2 黒褐色 粘性やや強 地山ブロック10%、礫多量  
 2. 10YR4/2 灰黄褐色 地山ブロック10%  
 3. 10YR4/2 灰黄褐色砂質土 地山ブロック5%、礫多量  
 4. 10YR4/2 灰黄褐色粘土 粘性強
- SK80**  
 1. 10YR3/2 黒褐色 しまり密、粘性強 炭(φ5mm)2%、焼土(φ1~3mm)1%、地山ブロック10%  
 2. 10YR3/2 黒褐色と10YR7/8黄褐色の混合土 しまりやや密、粘性強 酸化鉄少量  
 3. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや密、粘性やや強 炭(φ2~10mm)3%、地山ブロック20%  
 4. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや密、粘性やや強 炭(φ2~10mm)3%、地山ブロック40% やや砂質

第 35 図 SK72~80

2 検出遺構



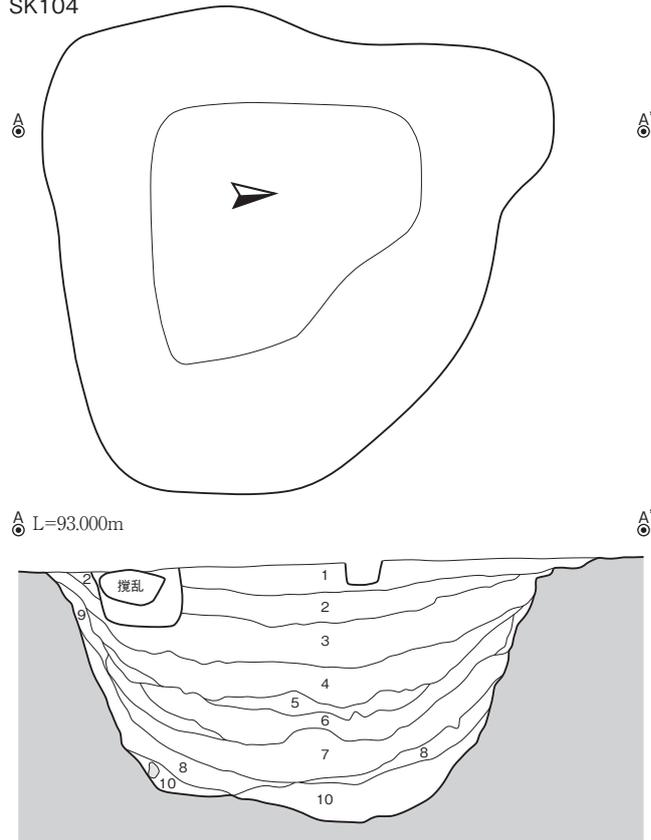
第36図 SK81~91



第 37 図 SK92~102

2 検出遺構

SK104



SK103



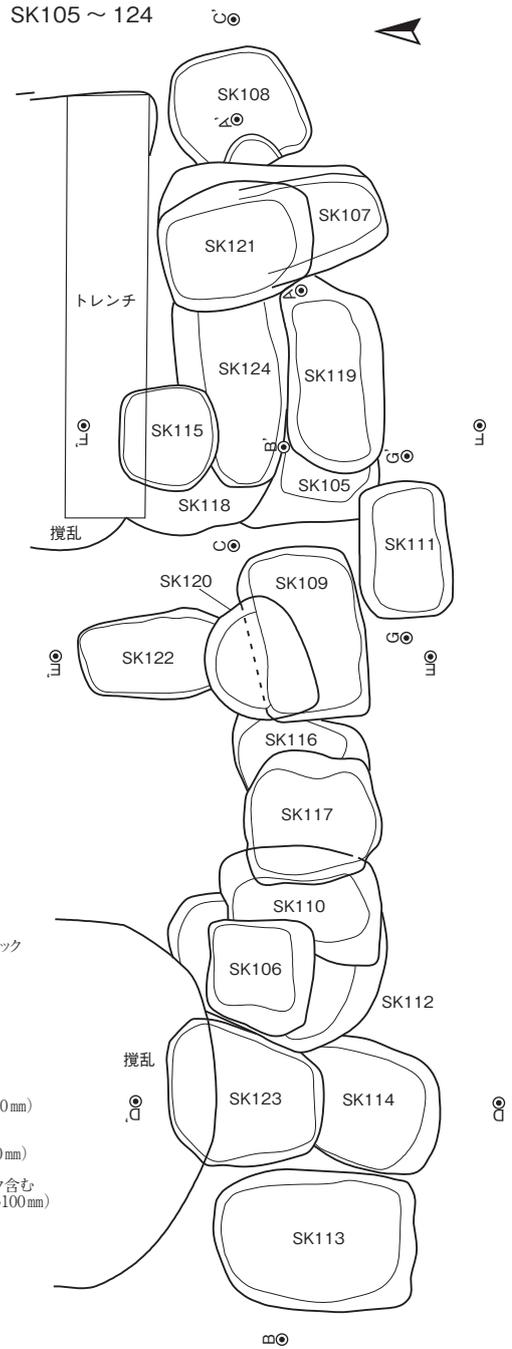
SK103

1. 10YR2/2 黒褐色 しまりやや密 中央に地山ブロック (φ2~10mm)15% 人為堆積土
2. 10YR2/2 黒褐色 しまりやや密、粘性やや強 地山ブロック (φ5~30mm)40%

SK104

1. 10YR2/2 黒褐色シルト 炭少量 II層の再堆積土
2. 10YR2/1 黒色シルト 炭少量、焼土(φ5mm)5%
3. 2.5Y3/1 黒褐色シルト 炭30%、白色粒子(骨?)少量
4. 5Y2/2 オリーブ黒色シルト 炭、白色粒子(骨?)少量
5. 5Y3/1 オリーブ黒色シルト 黒色シルトブロック(φ10mm) 5%、砂・白色粒子(骨?)少量
6. 5Y2/2 オリーブ黒色粘質シルト 地山ブロック(φ10~100mm) 20%、白色粒子(骨?)少量
7. N2/0 黒色粘質シルト 砂・白色粒子(骨?)少量
8. 2.5GY3/1 暗オリーブ灰色粘土 地山ブロック(φ10~50mm) 40%
9. 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質シルト 暗褐色シルトブロック含む
10. N2/0 黒色粘質シルト 暗オリーブ灰色粘土ブロック(φ100mm) 30%、粗砂10%

SK105 ~ 124



L=93.200m

L=93.100m

SK107・108

1. 10YR5/6 黄褐色~6/8明黄褐色 地山・黒褐色土ブロック(φ2~30mm)各20% 人為堆積土
  2. 10YR4/2 灰黄褐色~5/3にぶい黄褐色 しまりやや密 地山ブロック(φ2~30mm) 20% 人為堆積土
  3. 10YR4/2 灰黄褐色と10YR7/8 黄橙色の混合土 焼土少量 人為堆積土
- ※1層がSK107、2・3層がSK108堆積土

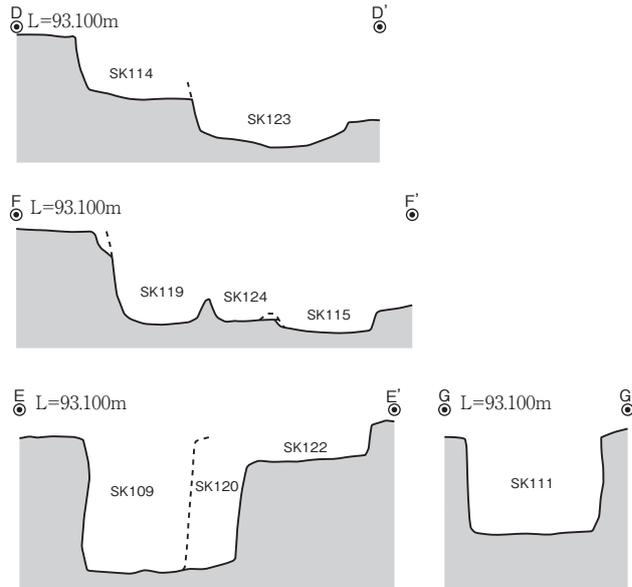


第 38 図 SK103~124

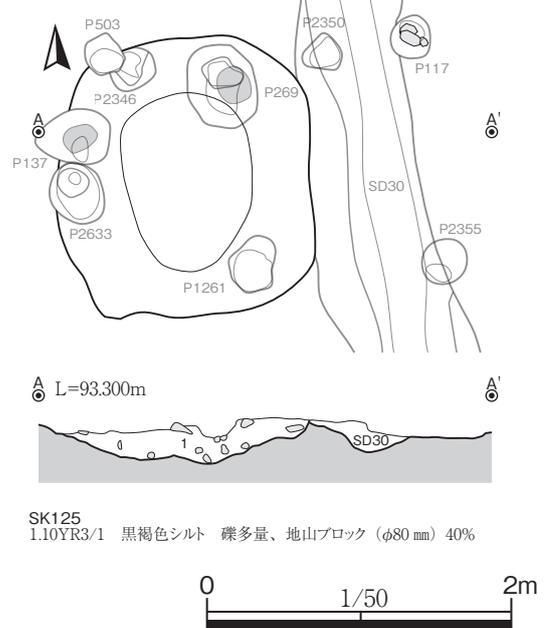
第4表 墓坑出土人骨部位一覧

遺構名	頭骨	歯	大腿骨又は 上腕骨	背骨	骨盤	腕又は足の骨	不明
SK105	○	○	○			○	
SK106			○				紐?
SK107	未出土						
SK108	未出土						
SK109	○		○				
SK110		○					
SK111	○						○
SK112	未出土						
SK113	○	○					
SK114	○	○	○		○	○	
SK115	○	○	○	○	○	○	
SK116	○	○					
SK117	○		○	○	○	○	
SK118	○	○				○	
SK119			○			○	
SK120	○	○	○	○		○	
SK121	○	○	○			○	
SK122	○	○				○	
SK123			○			○	
SK124	○	○	○			○	

SK105～124 断面



SK125



第39図 SK105～124 断面、SK125

## (3) 溝 (第2-40～51 図、写真図版 2-65～77)

50条検出した。形状・規模等は第2-5表の通りで、以下では特徴的なものについて記載を行う。

## SD11・12 (第41・42 図、写真図版 2-67)

II A13 g～16h グリッドに位置し、黄褐色ブロックを含む黒褐色の溝状プランとして検出した。2条は併行して掘削されており、SD11 東側上端とSD12 西側上端との距離は3.0～3.5mである。南北

方向に直線的に走る溝であるが、SD12は中央付近でクランク状に若干屈曲する。両溝とも底面には掘削痕が多数認められる。当初は布掘り溝の底面柱穴と考えられたが、掘り下げたところ平面・断面形ともに不整形であったことから柱穴ではなく掘削痕と判断した。出土遺物が乏しく詳細な年代は不明であるが、他遺構との重複関係から中世に属する溝であり、両溝の東側に位置する掘立柱建物SB26・27と主軸方向が一致することから、SD11はSB27、SD12はSB26に付随する施設と考えられる。明確な根拠はないが、SB26・27の西側を遮蔽する植栽痕であった可能性がある。

#### SD17・19（第2-46図、写真図版2-69）

II A2g～3iグリッドに位置し、褐色ブロックを含む黒褐色の溝状プランとして検出した。いずれも南西隅は近世の土坑に壊されており全長は不明である。2条は併行しており、両溝間の距離は4.3m前後である。2条の規模はほぼ同じであるが、底面形状が異なる。SD17の底面は平坦であるが、SD19の底面は凹凸が著しく、柱穴が多数認められる。出土遺物が無い為詳細な年代は不明であるが、門と考えられるSB06との位置関係からそれに付随する道路側溝と考えられる。

#### SD38～40・42・43（第2-49～51図、写真図版2-74～76）

SD38～40はI A19～II A1g、I A23g～jグリッドに位置し、遺物を包含する灰褐色土の溝状プランとして検出した。SD38は東西方向、SD39・40は南北方向に走る溝で、規模が大きいことから交差部に位置する時期の新しい遺構であるSK75を境界に遺構名を分けているが、3条とも連結する一連の溝である。SD38は全体を検出しているが、SD39は南側が調査区外、SD40は北側をSI20とSD106に壊されており全長は不明である。遺物はかわらけ・国産陶器・石器・金属製品等が出土しており、特にSD38では底面直上で完形のかかわらけが多数出土している（第2-50図上）。出土遺物及び他遺構との重複関係から12世紀代に掘削された区画溝と考えられる。

SD42はI A18f～k、SD43はI A16g～17hグリッドに位置し、いずれも灰黄褐色の溝状プランとして検出した。2条とも先述のSD38と走行方向が同じであり、特にSD42は規模も類似している。遺物もかわらけや国産陶器が主体であることから、SD38～40と同じく12世紀代に掘削された区画溝と考えられる。

#### SD45～50（第2-43・44図、写真図版2-76・77）

II A25i～III A1jグリッドに位置し、複数の溝が重複する状況で確認した。弧状又は直線状に掘削された溝で、新旧関係はSD47→48→46→50である。また、直接的な重複関係は無いがSD45・49はSD50より新しい可能性がある。SD45・48・49は南側が開口する弧状の溝で、SD45は底面が平坦であるが、SD48・49は底面に柱穴が多数認められる。SD45はII A25iグリッド内で消失しているが、西側のII A25hグリッド内にSD45の弧状の延長線上に位置する柱穴が7個確認されている。また、SD49は西端が二股に分かれているが、分岐する部分がSB06を構成する柱穴であるP1504に壊されており、両溝の新旧関係は不明である。SD47・48は東西方向に直線的に走る溝で、両溝とも底面に柱穴が少数認められる。SD50は南北方向に直線的に走る溝で、中央から北側の底面に柱穴が多数認められる。

出土遺物が無い為詳細な年代は不明であるが、SB06等との重複関係から中世以前に掘削されたものと考えられる。削平も著しく性格についても推定となるが、弧状に巡るSD45・48・49は縄文時代後期以降の竪穴建物の壁溝が残存したものの可能性も考えられる。

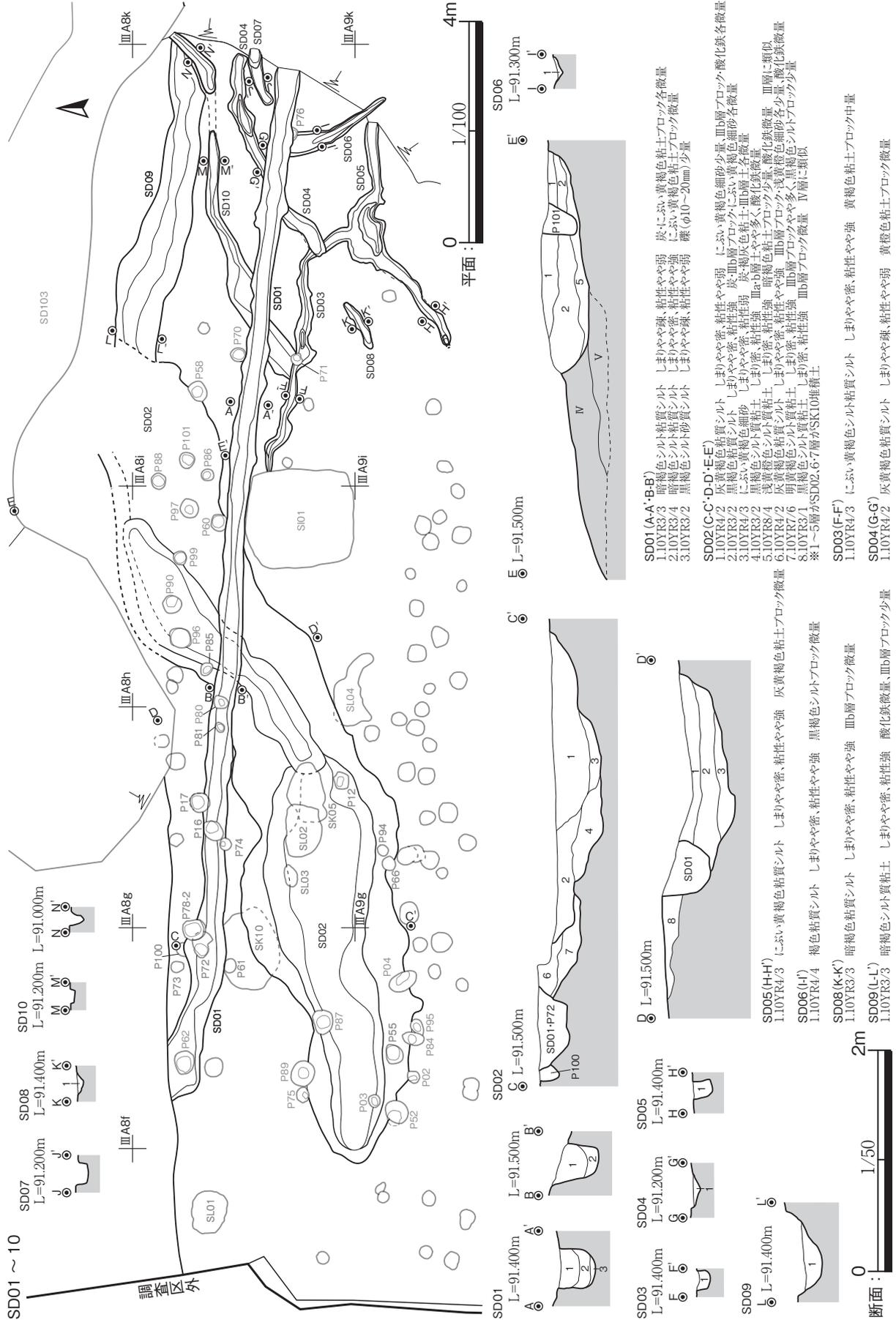
第5表 溝一覧

遺構名	グリッド (西・北)	検出面	時代・性格	主軸方向	形状		規模 (m)			出土遺物 重量 (g) [掲載番号]	備考 (重複: 右側が新しい)
					平面	断面	長	幅	深さ		
SD01	III A8f	R-III b	中世・不明	N-85°W	直線	箱	(18.50)	0.40	0.40	土 57.0g [a262]	(SI01, SD02・04・06・10 → SD103)
SD02	III A7h	R-III b	中世・不明	N-120°W	略直線	逆台	(15.00)	2.30	0.45	土 755.9g [a263~272], 陶 81.9g [b65・66], 石 187.6g [c51]	(SK10, SD12 → SK05, SD01, SL02~04)
SD03	III A8i	R-III b	古代~中世・不明	N-70°W	蛇行	箱	(4.50)	0.30	0.10		(◎ → SI01, SD04・05)
SD04	III A8j	R-III b	中世・不明	N-65°E	弧状	逆三角	(3.80)	0.25	0.50	土 7.0g	(SD03 → SD01)
SD05	III A9i	R-III b	中世・不明	N-55°E	蛇行	箱	4.60	0.25	0.05		(SD03 → ◎)
SD06	III A8j	R-III b	古代~中世・不明	N-300°W	弧状	逆三角	(1.80)	0.40	0.05		(◎ → SD01)
SD07	III A8j	R-III b	不明・不明	N-55°E	直線	箱	(1.10)	0.20	0.05		
SD08	III A8i	R-III b	不明・不明	N-60°E	直線	逆三角	0.95	0.20	0.06		
SD09	III A7i	R-III b	古代~中世・不明	N-75°W	直線	逆三角	(5.90)	1.10	0.25	土 8.2g	(◎ → SD02・10)
SD10	III A8i	R-III b	古代~中世・不明	N-60°E	蛇行	箱	(5.45)	0.50	0.25	土 3.1g	(SD09 → SD01・03)
SD11	II A13g	R-II	中世・植栽痕か	N-6°W	直線	逆台	(12.15)	0.3~0.68	0.35	土 9.9g	底面に掘削痕、(SK71 → ◎ → SB23・29)
SD12	II A13h	R-II	中世・植栽痕か	N-5°W	直線	逆台	(12.25)	0.4~0.7	0.27	土 4.2g	底面に掘削痕、(SB27, SK38 → ◎ → SL08, SB23)
SD13	II A11g	R-II	中世・区画溝	N-3°W	蛇行	皿	(33.90)	0.4~1.15	0.15	土 23.9g [a273], 陶 2.9g	(SI17, SK66・70 → ◎ → SK20)
SD14	II A23i	R-II ~ III	中世・区画溝	N-4°E	略直線	逆台	12.75	0.35~1.0	0.66	土 50.7g, 陶 4.1g, 石 1507.9g [c52], 銭 [e32]	(SK49, SD46・48 → ◎ → SK46)
SD15	II A17k	R-II	近世以降・不明	N-4°W	直線	箱	(14.55)	0.20	0.10	土 43.8g, 陶 3.1g	(SI04・05, SD31 → ◎)
SD16	II A16i	R-II	12C・不明	"N-39~87° -E"	L字	逆台	(3.20)	0.8~1.0	0.20	土 213.2g [a274~276]	(◎ → SI04, SB28, SK48)
SD17	III A2g	R-III b	中世・道路側溝	N-55°E	直線	逆台	(6.00)	0.25~0.45	0.15		(◎ → SK34~36)
SD18	III A2i	R-III b	不明・区画溝か	N-67°W	直線	逆台	(1.70)	0.26	0.14		底面に柱穴多数、(◎ → SB07, SD19)
SD19	III A3i	R-III b	中世・道路側溝	N-50°E	直線	逆台	(3.90)	0.2~0.42	0.13		底面に柱穴多数、(SD18・20 → ◎ → SK33)
SD20	III A3i	R-III b	不明・区画溝か	N-65°E	直線	逆台	(0.80)	0.30	0.15		(◎ → SK33, SD19)
SD21	II A22h	R-II ~ III	中世・区画溝	"N-6°E N-15°W"	弧状	逆台	(6.55)	0.35~0.6	0.25	石 1285.3g [c53・54]	中央部 SK15 に壊され分断、(SD24 → ◎ → SK15, SL20)
SD22	II A25j	R-III b	中世・不明	N-14°W	直線	逆三角	5.60	0.40	0.15	石 88.9g [c55]	SD23 との新田不明、石器は SD23 との境界で出土、(SL11 → ◎ → SL24)
SD23	II A25j	R-III b	中世・不明	N-11°W	直線	逆三角	6.20	0.3~0.7	0.18		SD22 との新田不明、(SL11 → ◎ → SL24)
SD24	II A24h	R-II	不明・不明	N-21°E	直線	逆台	(2.20)	0.45	0.18		(SD25 → ◎ → SK15, SD21)
SD25	II A24h	R-II	不明・不明	N-41°W	直線	皿	(0.90)	0.35	0.05		(◎ → SK15, SD24)
SD26	II A24h	R-II	不明・不明	N-17°W	直線	逆台	(0.60)	0.30	0.10		(◎ → SK15)
SD27	II A23g	R-II	不明・不明	N-80°E	直線	箱	(0.40)	0.30	0.24		
SD28	II A18g	R-II	中世・区画溝か	N-21°W	L字	逆三角	(3.90)	0.25~0.5	0.33	石 2597.2g [c56]	(SD29 → ◎)
SD29	II A18g	R-II	中世・不明	N-21°W	直線	逆台	(3.90)	0.2~0.4	0.13		(◎ → SD28)
SD30	II A18h	R-II	中世・不明	N-8°W	直線	逆三角	(11.45)	0.4~0.9	0.16	土 26.8g [a277], 陶 5.1g [b67]	(◎ → SK125, SE01)
SD31	II A17j	R-II	中世・不明	N-20°W	直線	逆台	(4.80)	0.4~0.7	0.15	陶 5.2g, 陶 [b68]	底面に柱穴多数、(◎ → SI04, SD15)
SD32	II A16k	R-II	不明・不明	N-1°W	直線	逆台	(1.10)	(0.40)	0.20		(◎ → SI09)
SD33	II A8g	R-II	12C・区画溝	"N-86°-E N-12°-W"	L字	逆台	14.25	1.1~1.5	0.24	土 41.0g [a278], 陶 10.7g [b70], 石 3888.6g [c57・58], 金 [d136・137]	(SD37 → ◎)
SD34	II A20g	SI18 堆	中世以降・不明	N-14°W	直線	逆三角	(5.30)	0.5~1.05	0.40		(SI18 → ◎ → SE01)
SD35	II A5g	R-III a	中世・堀か	N-82°E	略直線	逆台	(17.80)	0.50	0.30	土 11.1g, 金 [d138]	底面に杭列 2 列、(◎ → SB56・59)
SD36	II A17i	R-II ~ III	中世・不明	N-5°E	直線	逆台	8.25	0.3~0.85	0.33	土 6.4g	
SD37	II A8g	R-II	古代・不明	N-9°E	直線	皿	(2.20)	0.75	0.10		(◎ → SD33)
SD38	I A24g	R-II	12C・区画溝	N-84°E	直線	逆台	(15.50)	1.2~1.5	0.35	土 2757.2g [a279~299], 陶 2975.5g [b71~87], 石 2803.7g [c59・60], 金 [d139], 銭 [e33]	SD39・40 と一連の溝、(◎ → SK75)
SD39	I A24g	R-II	12C・区画溝	N-3°E	直線	逆台	(7.50)	(0.80)	0.20	土 616.6g [a298・299], 陶 324.7g [b85・88~91], 石 267.5g [c60]	SD38・40 と一連の溝、(◎ → SK75)
SD40	I A19g	R-II	12C・区画溝	N-3°E	直線	逆台	(18.50)	0.8~1.1	0.30	土 251.7g [a300], 陶 192.7g [b73・86・87・92・93], 金 [d140・141]	SD38・39 と一連の溝、(SK90 → ◎ → SI20, SD106)
SD41	I A25k	R-III a	近世・不明	N-66°E	直線	逆台	(2.40)	1.00	0.25	土 39.0g, 陶 4.0g [b69]	
SD42	I A18f	R-II	12C・区画溝	N-85°E	直線	逆台	(16.50)	1.50	0.26	土 516.4g [a301~305], 陶 63.8g [b94・95], 石 2172.1g [c61]	(◎ → SB80~82・91・129)
SD43	I A16f	R-II	12C・区画溝	N-85°E	直線	逆台	(7.70)	0.5~1.35	0.24	土 24.8g	(◎ → SB82~84・94)
SD44	I A18k	R-II	中世以降・不明	N-1°E	直線	逆台	2.50	1.10	0.50	土 43.1g [a306], 陶 12.7g [b96], 石 75.2g [c62]	(SD106 → ◎)
SD45	III A1i	R-III b	縄文・堅穴壁溝か	"N-15°E N-56°-W"	弧状	箱	(2.80)	0.25	0.06		西側に同一遺構になる可能性のある柱穴 7 個、(◎ → SB06)
SD46	II A25i	R-III b	縄文?・不明	N-80°W	直線	逆台	(2.90)	0.25	0.10		(SD48 → ◎ → SD14・50)
SD47	II A25i	R-III b	縄文?・不明	N-75°W	直線	逆台	(3.20)	0.15~0.4	0.10		(◎ → SK47, SD48・50)
SD48	II A25i	R-III b	縄文・堅穴壁溝か	"N-8~113° -W"	弧状	箱	(6.82)	0.15~0.33	0.22		底面に柱穴多数、(SD47 → ◎ → SD14・46・50)
SD49	III A1i	R-III b	縄文・堅穴壁溝か	"N-75°E N-38°-W"	弧状	逆三角	(4.00)	0.18~0.28	0.24		底面に柱穴多数、西側二股に分かれる、(◎ → SB06)
SD50	II A25i	R-III b	中世以前・不明	N-1°W	直線	逆三角	(3.80)	0.16~0.4	0.13		底面に柱穴多数、(SD46~48 → ◎)

※検出面「〇〇堆」は遺構堆積土

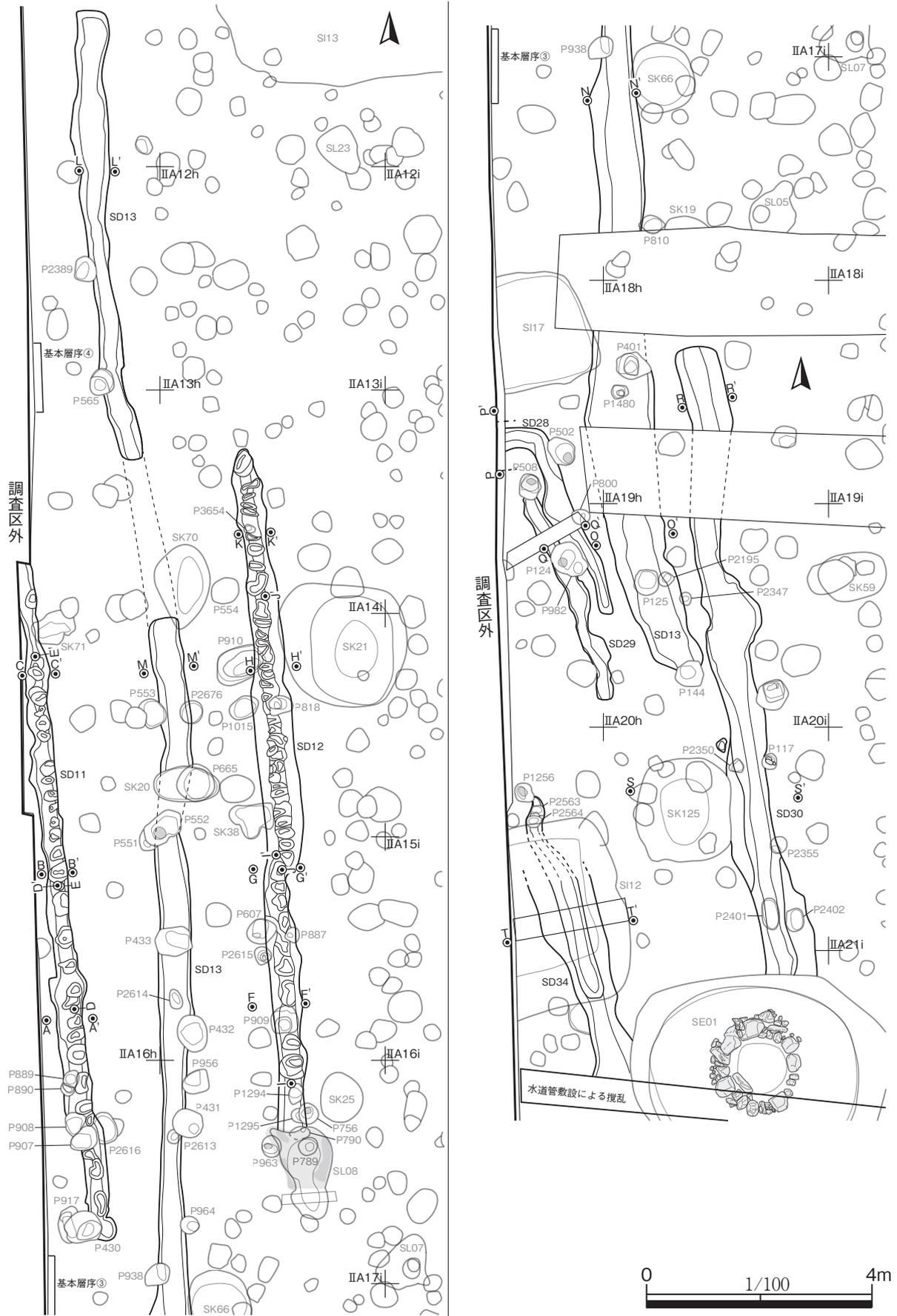
※計測値欄の ( ) は残存値

※重複は単独の柱穴は除く



第40図 SD01~10

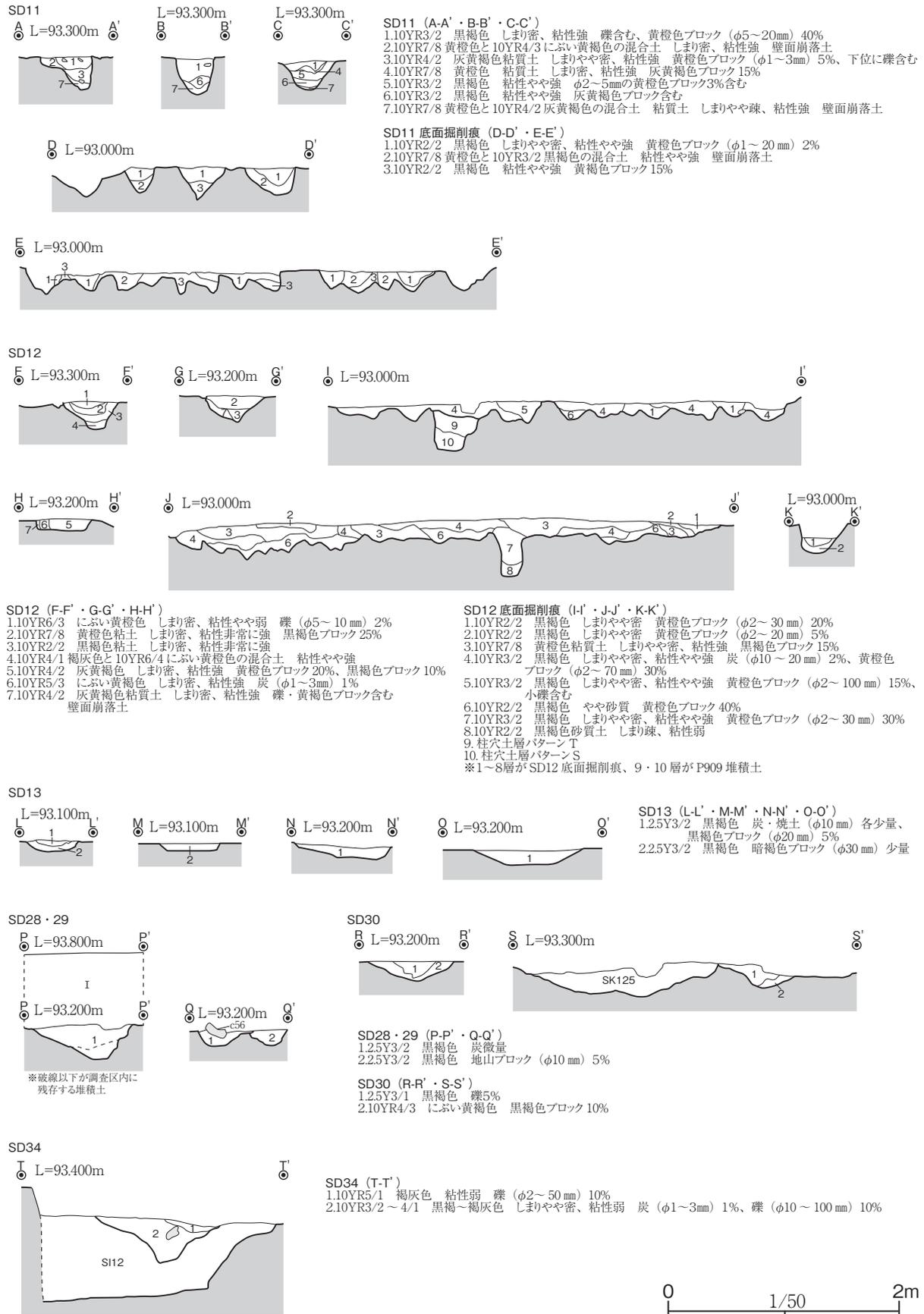
SD11・12・13・28・29・30・34 (1)



第41図 SD11~13・28~30・34 (1)

2 検出遺構

SD11・12・13・28・29・30・34 (2)



第42図 SD11~13・28~30・34 (2)

SD14・21～27・45～50 (1)



SD14(A-A'・B-B'・C-C')

- 1.10YR2/3 黒褐色シルト しまり密、粘性無 炭1%、礫(φ10~100mm)15%、黄褐色ブロック(φ10mm)5%
- 2.10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 しまり密、粘性弱 礫(φ40mm)5%、黒褐色土20%
- 3.10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 黄褐色土3%
- 4.10YR4/3 にぶい黄褐色砂 粘性無 黒褐色土10%
- 5.10YR3/4暗褐~4/4褐色砂 粘性無
- 6.10YR4/3 にぶい黄褐色 しまり密 炭1%、礫(φ20mm)3%

SD21(D-D'・E-E')

- 1.10YR3/2 黒褐色 しまりやや密 礫20%、両端に灰黄褐色ブロック5%

SD22・23(F-F')

- 1.10YR5/2 灰黄褐色 粘性やや弱 炭(φ1~3mm)1%
- 2.10YR4/2 灰黄褐色 粘性やや弱 下位に焼土微量

※1層がSD22、2層がSD23堆積土

SD24(G-G')

- 1.10YR4/2 灰黄褐色 しまりやや密 炭(φ5~10mm)2%、焼土(φ1mm)・礫各1%

SD25(H-H')

- 1.10YR4/2 灰黄褐色 しまりやや密、粘性やや強 酸化鉄含む

SD26(I-I')

- 1.10YR4/2 灰黄褐色 しまりやや密 炭(φ5~10mm)2%、焼土(φ1mm)・礫各1%

SD27、P1963・2070(J-J')

- 1.柱穴土層がターンH
- 2.柱穴土層がターンD
- 3.柱穴土層がターンO
- 4.10YR4/2 灰黄褐色 黄褐色地山ブロック10%

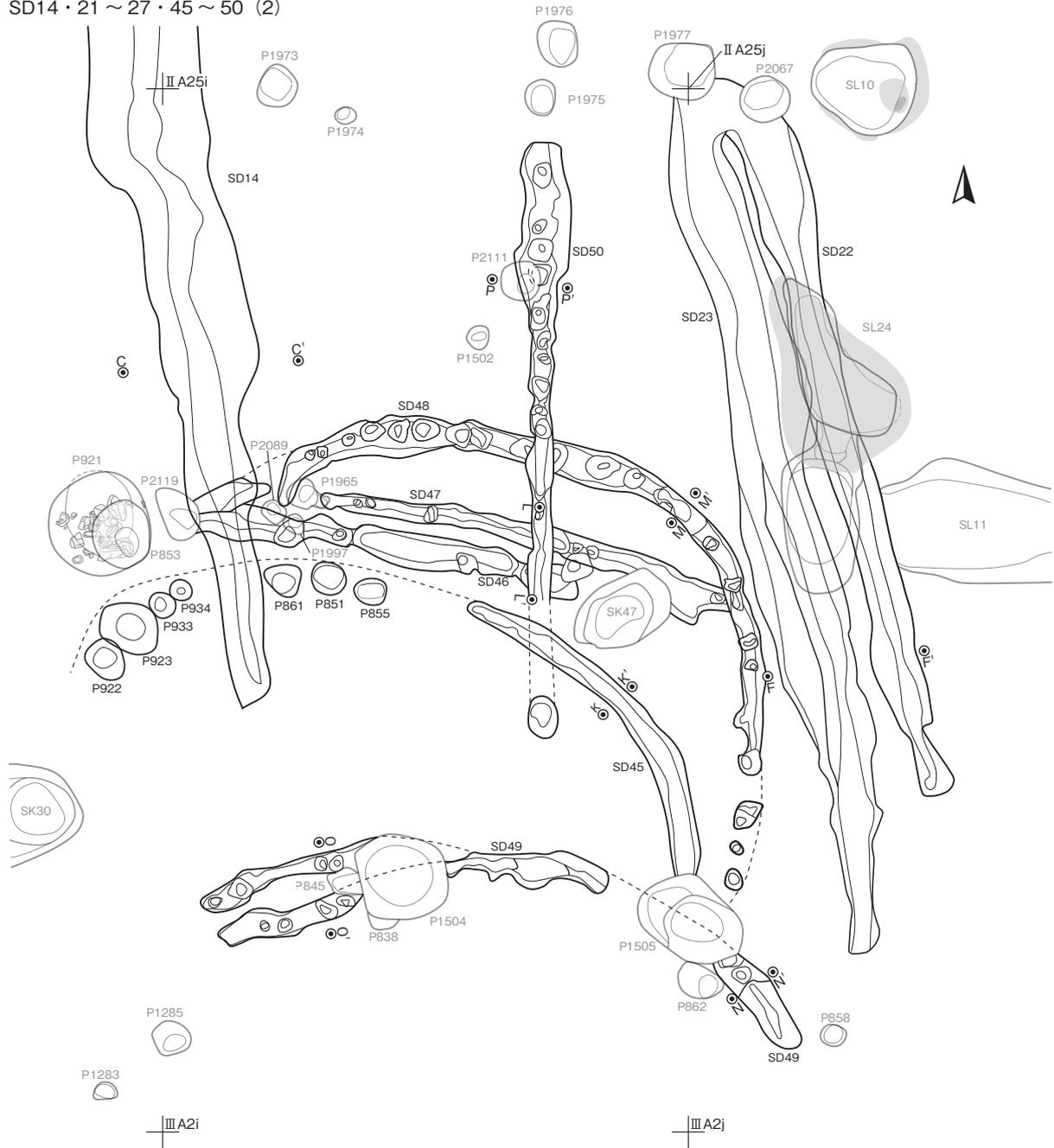
※1層がP1963、2・3層がP2070、4層がSD27堆積土



第43図 SD14・21～27・45～50 (1)

2 検出遺構

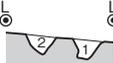
SD14・21～27・45～50 (2)



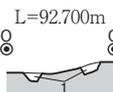
SD45  
L=93.000m



SD46・47  
L=93.100m



SD49  
L=92.700m



SD45(K-K')  
1.10YR5/2~6/2 灰黄褐色砂質土 しまりやや密、粘性弱 酸化鉄含む

SD46・47(L-L')  
1.10YR2/2 黒褐色砂質土

SD48(M-M')  
1.10YR3/2 黒褐色 しまりやや密、粘性強 黄褐色砂質ブロック5%  
2.10YR3/2黒褐色と10YR7/8黄褐色の混合土 流土と地山崩落の混合

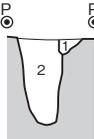
SD49(N-N'・O-O')  
1.10YR7/8黄褐色と10YR3/2黒褐色の混合土 砂質 粘性弱 炭(φ1~2mm)1%

SD50, P2111(P-P')  
1.柱穴土層パターンR  
2.10YR3/2 黒褐色砂質土 砂(φ2~5mm)5%  
※1層がP2111、2層がSD50堆積土

SD48  
L=93.100m

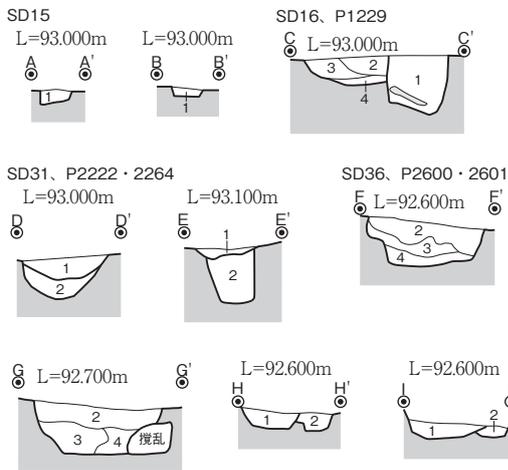
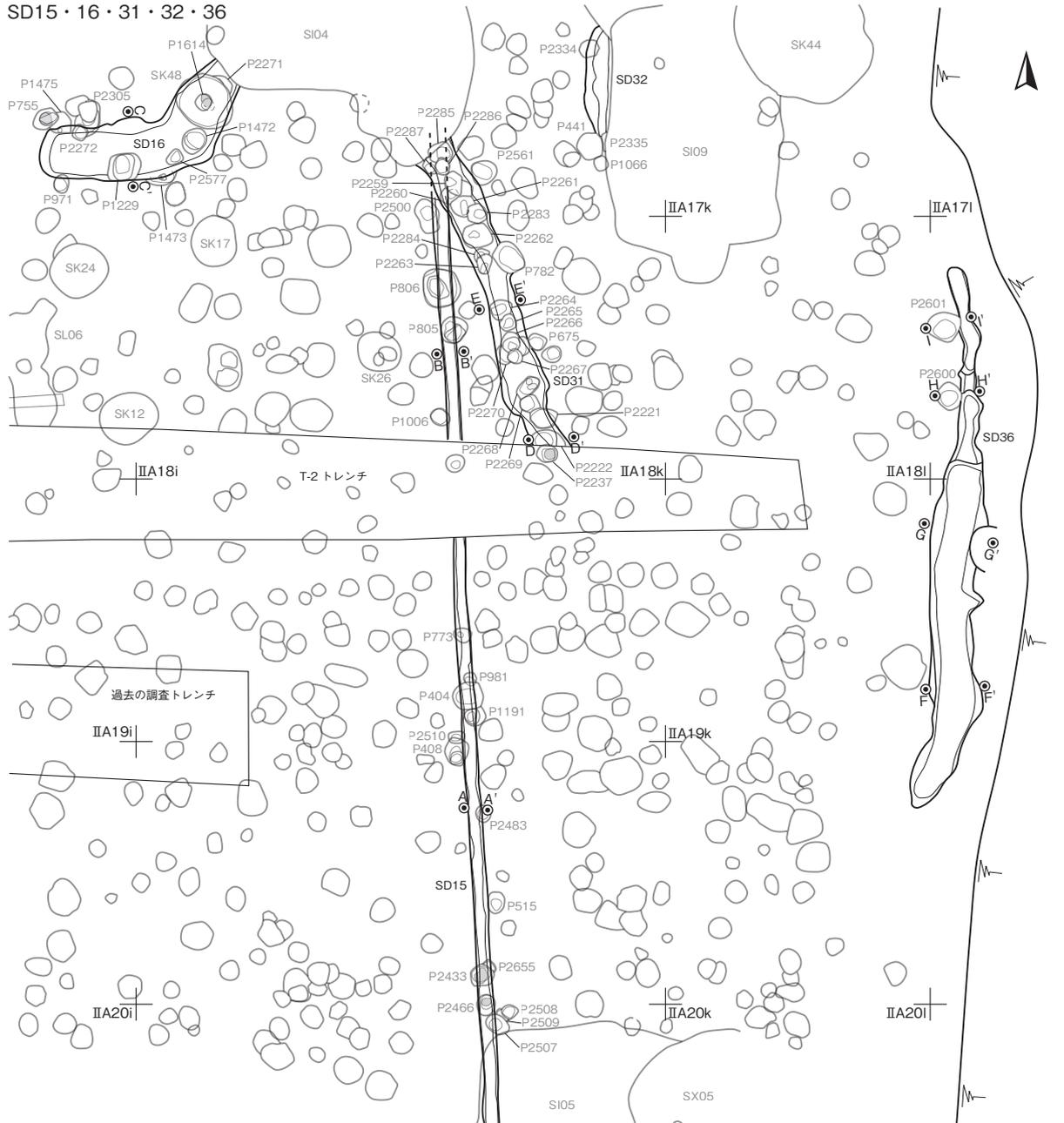


SD50, P2111  
L=93.200m



第44図 SD14・21～27・45～50 (2)

SD15・16・31・32・36



SD15 (A-A'・B-B')

1.10YR3/3 暗褐色シルト しまりやや疎、粘性無

SD16、P1229 (C-C')

1. 柱穴土層パターンD  
 2.10YR4/2 灰黄褐色 炭 (φ1~5mm) 3%、土器片少量  
 3.10YR3/2 黒褐色 粘性やや強 炭 (φ2~10mm) 5%、地山ブロック (φ5~20mm) 5%  
 4.10YR5/3 にぶい黄褐色 粘性やや強 地山ブロック (φ2~10mm) 2% 地山の  
 流れ込みか  
 ※1層がP1229、2~4層がSD16 堆積土

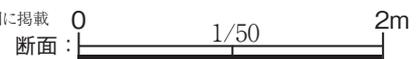
SD31、P2222・2264 (D-D'・E-E')

1.10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 地山ブロック (φ5~10mm) 1%  
 2. 柱穴土層パターンG  
 3. 柱穴土層パターンC  
 ※1層がSD31、2層がP2222、3層がP2264 堆積土

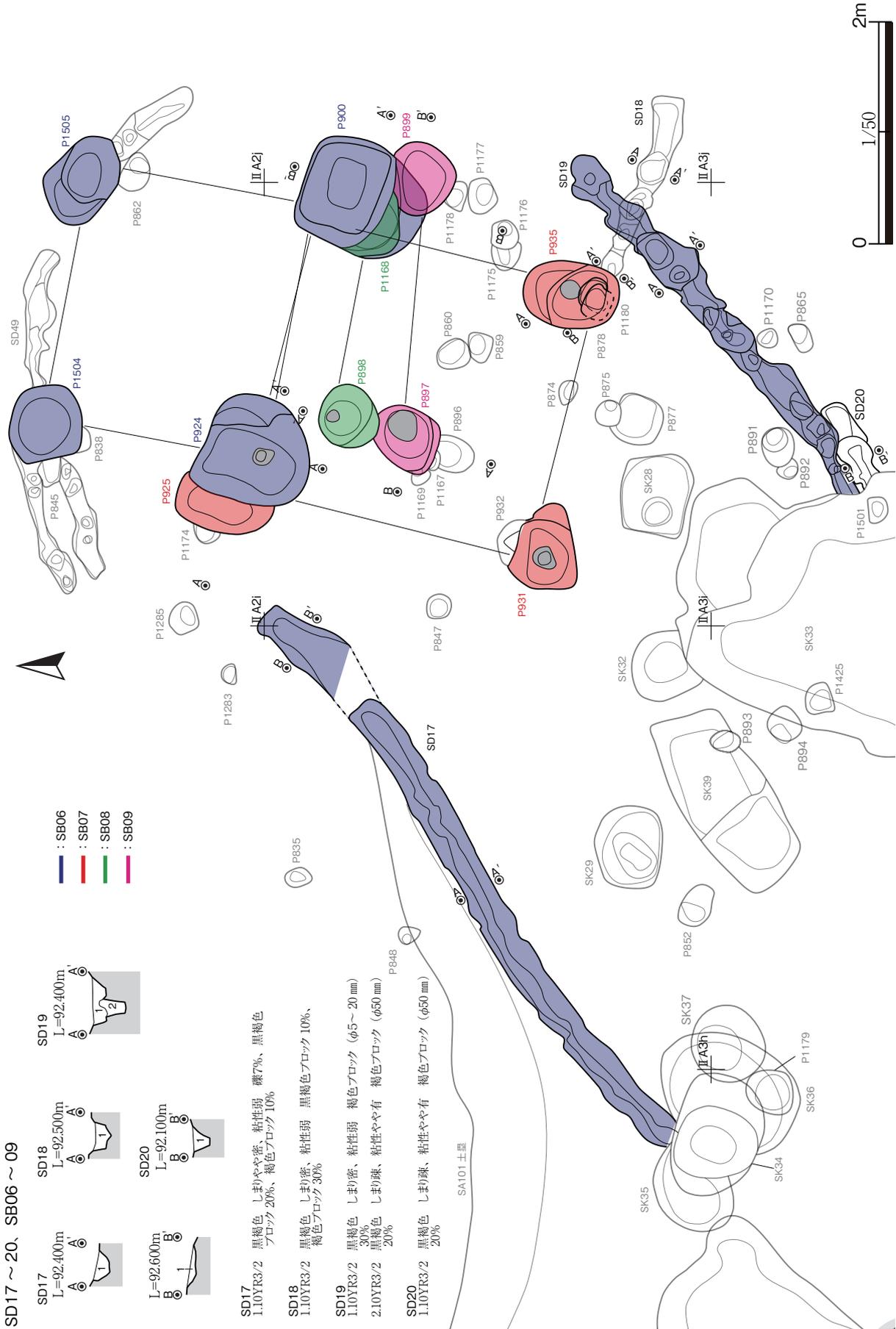
SD36 (F-F'・G-G'・H-H'・I-I')

1. 柱穴土層パターンJ  
 2.10YR7/8 黄褐色砂質土 しまりやや密 黒褐色ブロック 10%  
 3.10YR3/2 黒褐色 黄褐色ブロック (φ5~50mm) 35%  
 4.10YR7/8 黄褐色と10YR3/2 黒褐色の混合土  
 ※1層がP2600・2601、2~4層がSD36 堆積土

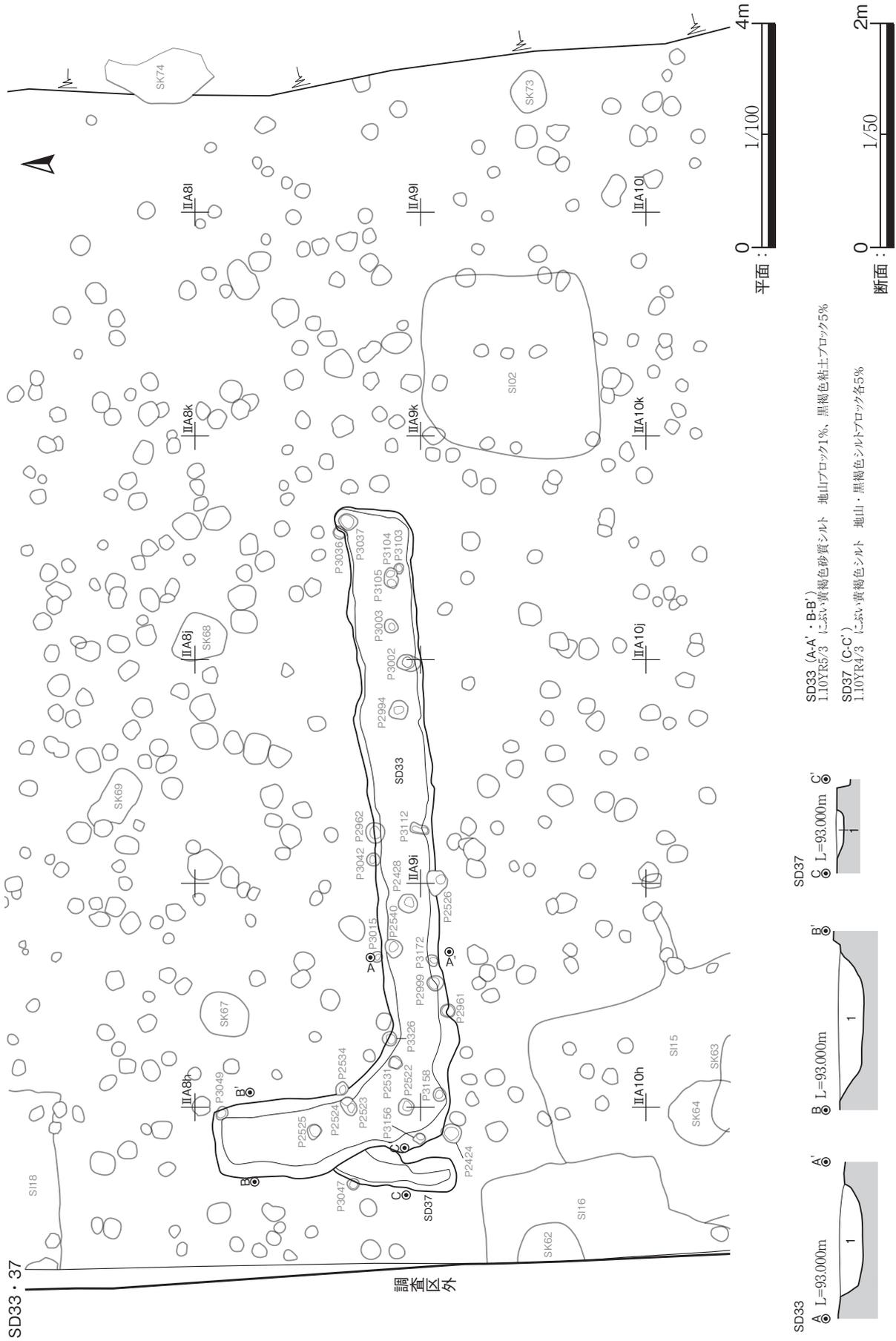
※SD32の断面図及び注記は第17図に掲載



第45図 SD15・16・31・32・36



第46図 SD17~20、SB06~09



SD33・37

第47図 SD33・37

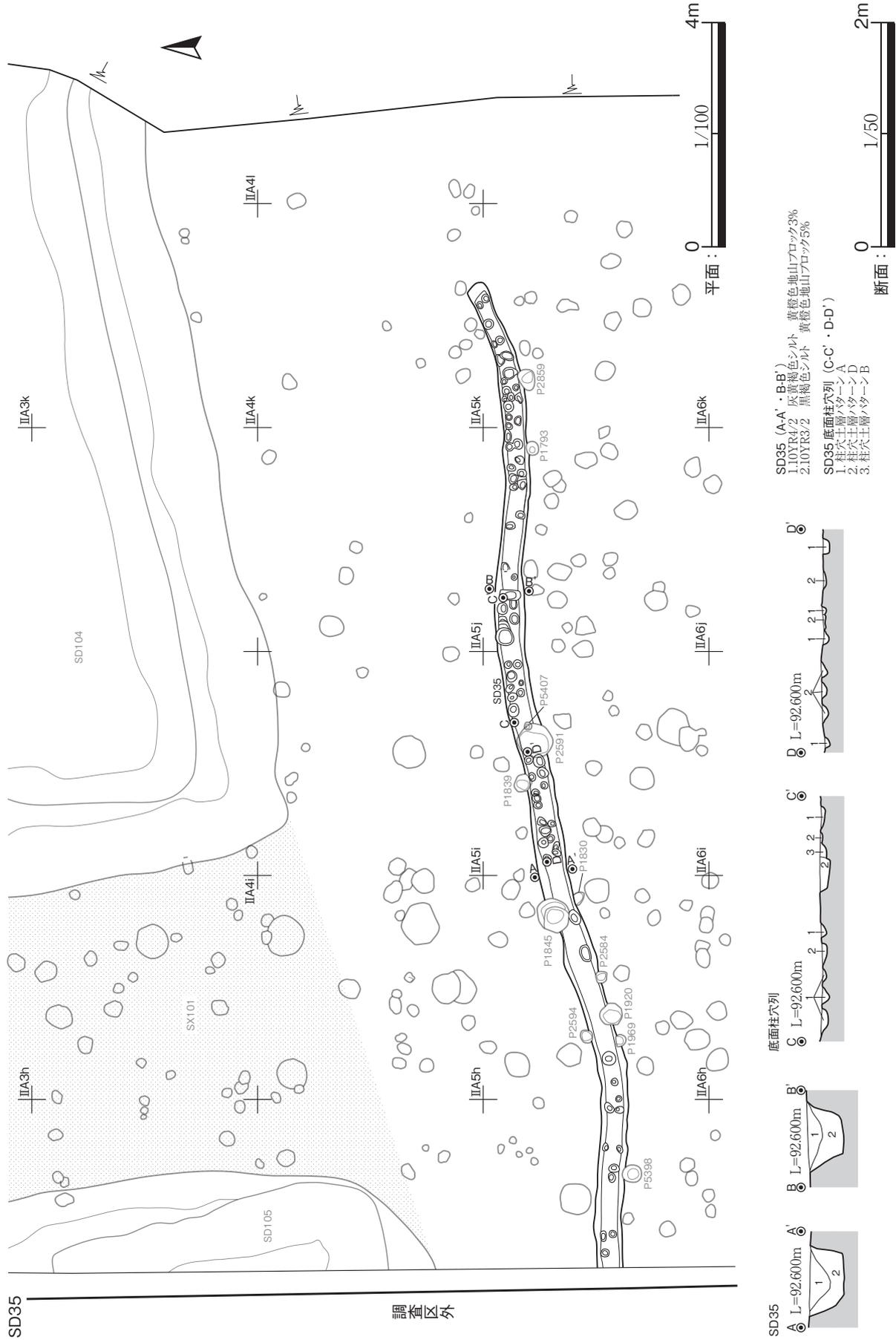
SD33 (A-A'・B-B')  
L.1.0YR5/3 に富み、黄褐色砂質シルト 地山ブロック1%、黒褐色粘土ブロック5%

SD37 (C-C')  
L.1.0YR4/3 に富み、黄褐色シルト 地山・黒褐色シルトブロック各5%

SD37  
C L=93.000m C'

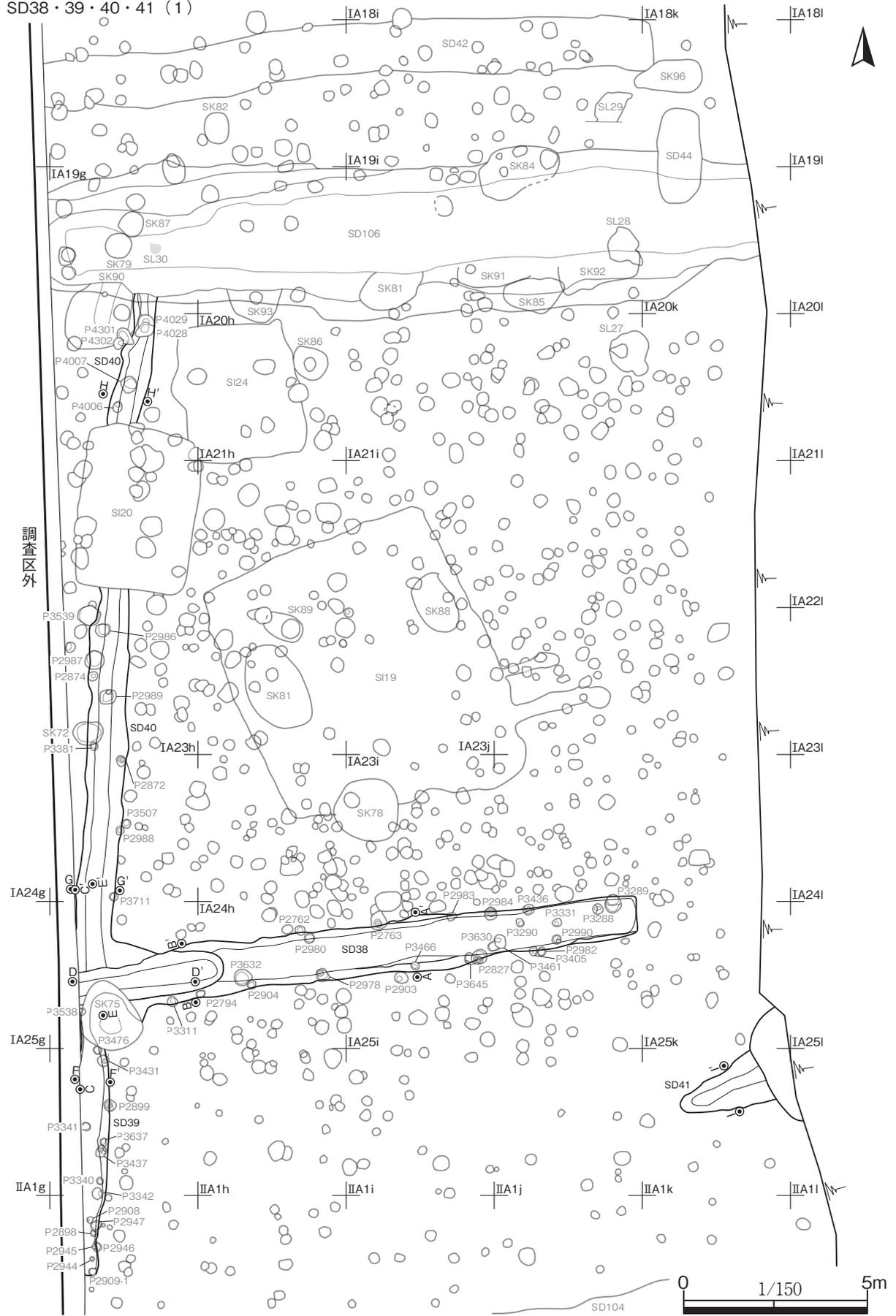
B L=93.000m B'

SD33  
A L=93.000m A'



第 48 図 SD35

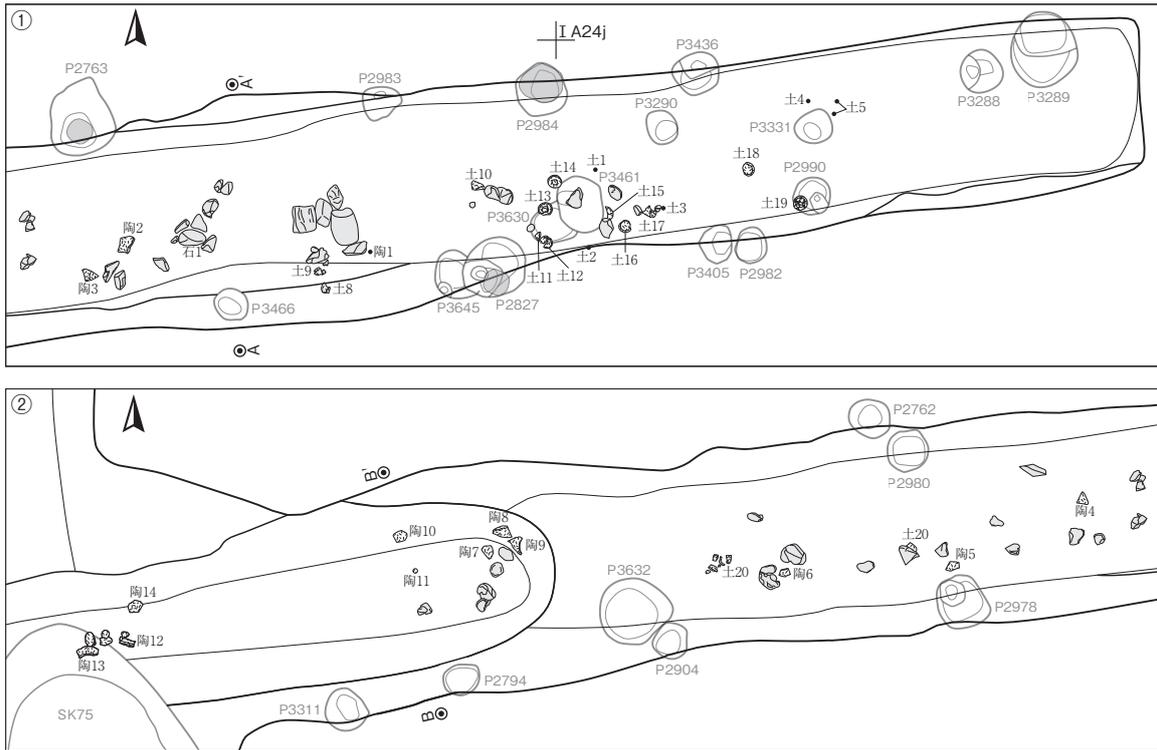
SD38・39・40・41 (1)



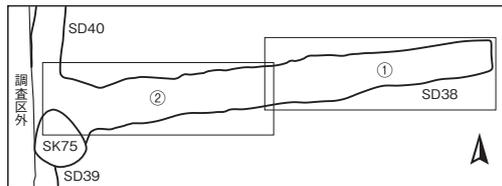
第49図 SD38~41 (1)

2 検出遺構

SD38・39・40・41 (2)

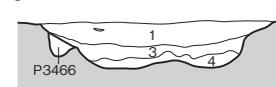


SD38遺物出土状況拡大位置図

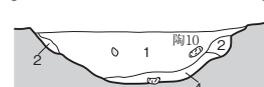


SD38

Ⓐ L=93.000m

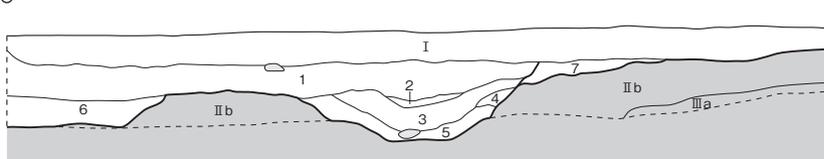


Ⓑ L=93.000m

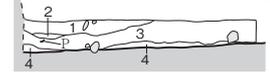


SD38・39・40交差部

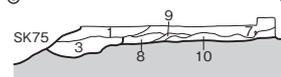
Ⓒ L=93.300m



Ⓓ L=93.100m

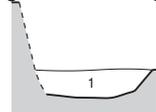


Ⓔ L=93.100m



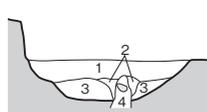
SD39

Ⓕ L=93.100m



SD40

Ⓖ L=93.300m



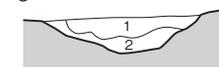
SD41

Ⓗ L=92.400m



SD41

Ⓘ L=92.400m



SD38 (A-A'・B-B')

- 1.10YR4/2 灰黄褐色 しまりやや密 炭(φ1~10mm)3%、黄橙色ブロック(φ1~5mm)1%、礫微量
- 2.10YR2/1 ~ 2/2 黒色粘土 しまりやや密、粘性強 壁面崩落土
- 3.10YR4/2 灰黄褐色 しまりやや密 黄橙色ブロック(φ2~20mm)20%
- 4.10YR7/8 黄橙色粘土 しまりやや密、粘性強 灰黄褐色ブロック30%

SD38・39・40交差部 (C-C'・D-D'・E-E')

- 1.10YR4/2 灰黄褐色 炭・焼土(φ1~3mm)各1%、礫3% やや砂質
- 2.10YR4/2 灰黄褐色 しまりやや密、粘性やや弱 黄橙色ブロック20%
- 3.10YR4/2 灰黄褐色 =SD38-1層
- 4.10YR4/2 灰黄褐色 =SD38-3層
- 5.10YR7/8 黄橙色粘土 =SD38-4層
- 6.10YR4/3 におい黄褐色粘質土 =SD39-1層
- 7.10YR4/2 灰黄褐色 =SD40-1層
- 8.10YR4/2 灰黄褐色 黄橙色ブロック3%、黒褐色ブロック15%
- 9.10YR4/2 灰黄褐色 黄橙色ブロック2%
- 10.10YR4/2 灰黄褐色 =SD40-3層

SD39 (F-F')

- 1.10YR4/3 におい黄褐色粘質土 粘性やや強 黄橙色ブロック1%、黒褐色ブロック3%

SD40 (G-G'・H-H')

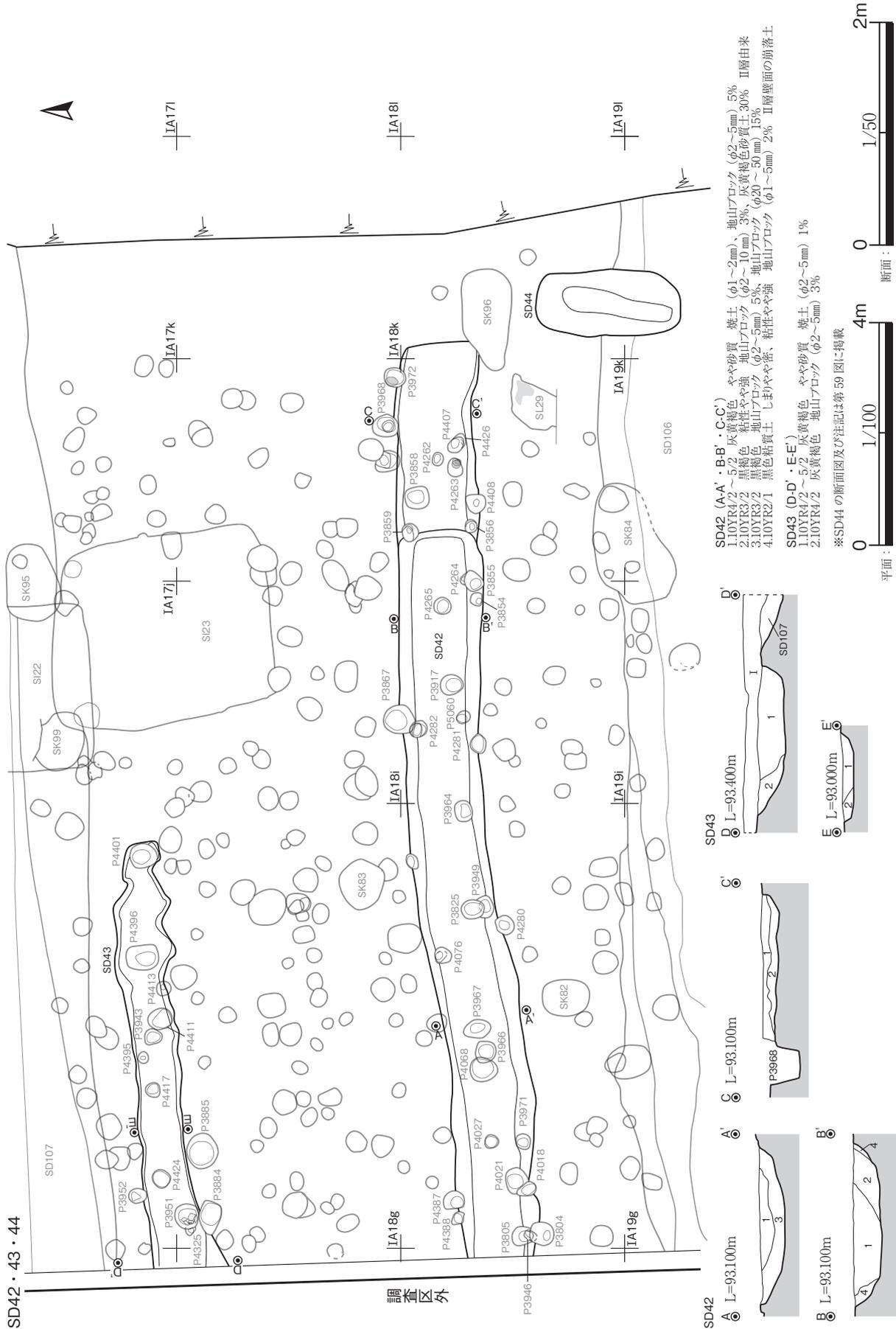
- 1.10YR4/2 灰黄褐色 しまりやや密、粘性やや強 炭・焼土(φ1~3mm)各2%
- 2.10YR4/2 灰黄褐色 しまりやや密、粘性やや強 炭(φ1~3mm)1%
- 3.10YR4/2 灰黄褐色 しまりやや密、粘性やや強 黄橙色ブロック(φ2~30mm)15%
- 4.10YR3/2 黒褐色 炭(φ2~5mm)2% 杭跡または擾乱
- 5.10YR3/2 黒褐色 炭微量、黄橙色ブロック(φ10mm)5%
- 6.10YR3/2 黒褐色 黒褐色ブロック(φ30mm)10%
- 7.10YR2/3 黒褐色 黄褐色ブロック(φ10mm)5%

SD41 (I-I')

- 1.10YR3/3 暗褐色砂質土 しまり弱、粘性弱
- 2.10YR3/4 暗褐色 しまり弱、粘性弱 礫(φ50mm)多量、褐色ブロック10%



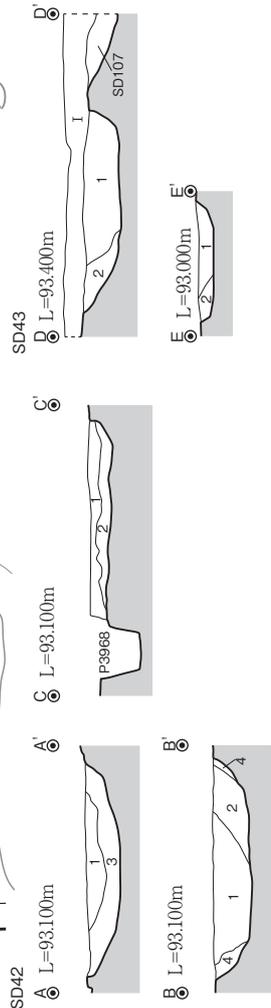
第50図 SD38~41 (2)



SD42・43・44

調査区外

- SD42 (A-A'・B-B'・C-C')
- 1.10YR4/2 ~ 5.0% 灰黄褐色 焼土 (φ1~2mm)、地山プロック (φ2~5mm) 5%
  - 2.10YR3/2 黒褐色 粘土・粘質土、地山プロック (φ2~10mm) 3%、灰黄褐色砂質土 30% II層由来
  - 3.10YR3/2 黒褐色 粘土・粘質土、地山プロック (φ2~5mm) 5%、地山プロック (φ20~30mm) 15%
  - 4.10YR2/1 黒色粘質土 粘土・粘質土、粘土・粘質土、地山プロック (φ1~5mm) 2% II層壁面の崩落土
- SD43 (D-D'・E-E')
- 1.10YR4/2 ~ 5.0% 灰黄褐色 焼土 (φ2~5mm) 1%
  - 2.10YR4/2 灰黄褐色 地山プロック (φ2~5mm) 3%
- ※SD44 の断面図及び注記は第 59 図に掲載



第 51 図 SD42~44

## (4) 堀・土塁・土橋

堀 7 条、土塁 1 箇所、土橋 1 箇所を検出した。以下では各遺構毎に記載を行う。

## SD101 堀（第 2-52・53 図、写真図版 2-78）

調査区南端、ⅣA5～7e～m グリッドに位置し、H-Ⅲb 層上面で地山よりやや暗い色調の粘土の広がりとして検出した。他遺構との重複は無く単独で存在する。なお、本遺構より北側は削平によりⅢb 層が消失しており、本来の遺構検出面より 10cm 以上低い。西側は調査区外、東側は削平の為全長は不明であるが、東西方向に直線的に走る堀で、主軸方位は N-85°-W である。検出範囲での規模は長さ 35.3 m、幅は西端で 12.8 m、東端で 6.6 m である。断面形は底面の広い逆台形で、H-VI 層まで掘り込まれている。壁面は外方に開きながら立ち上がり、南北壁とも中位でさらに外方に屈曲する。検出面からの深さは西端が 2.2 m、東端が 3.3 m、底面の幅は 5.5～8.5 m である。

堆積土は 3 箇所を観察し、41 層に分層した。西端から中央付近までは上位に厚い粘土層(2～4 層)、下位に細砂・粘土層、北壁付近には礫を多く含む崩落土が堆積する。東端付近には細砂・粘土の互層堆積が確認できる。出土遺物の内容から 1～5 層までが近世以降、6 層以下がそれ以前の堆積土と考えられる。いずれも自然堆積であり、掘り返しと考えられる堆積状況は確認されていない。

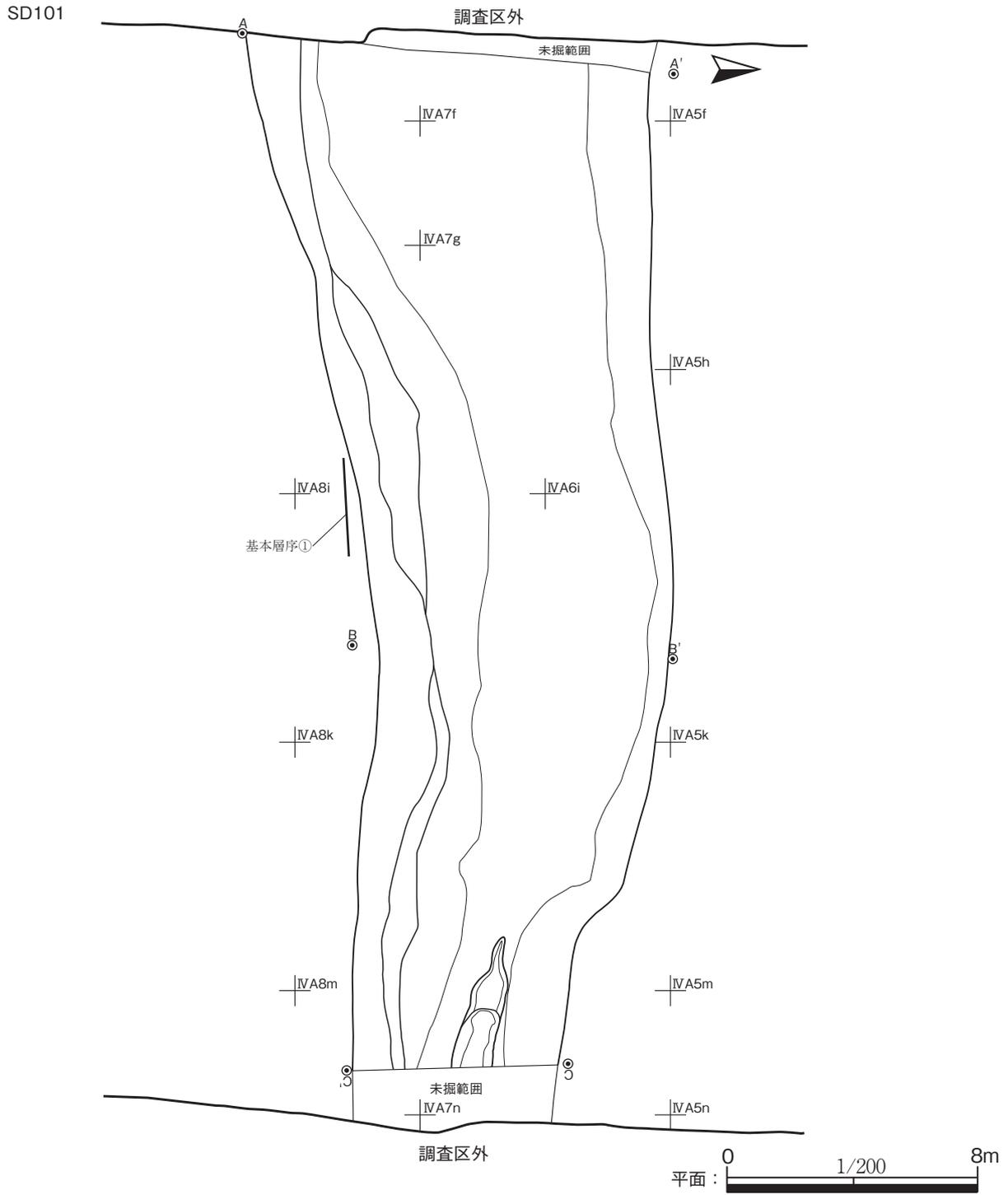
付属施設として南壁中央でテラス状の範囲を検出した。壁面の崩落ではなく人為的に形成されたものと考えられ、規模は長さ約 11 m、幅約 1.5 m である。また東端底面では幅 1 m、深さ 0.2 m の溝状の掘り込みを検出した。

遺物は堆積土上～下位にかけて出土しており、土器(土師器・須恵器・かわらけ) 3 点、陶磁器(常滑・須恵器系・瀬戸美濃・唐津・肥前・相馬等) 15 点、石器(敲磨器・臼等) 4 点、金属製品(釘) 1 点、木製品(折敷・曲物・下駄・杭・部材等) 55 点、ガラス製品 2 点を掲載した(a307～309、b97～111、c63～66、d142、f1～55、g1・2)。古代～近代まで幅広い時代のものが出土しているが、近世以降の遺物は基本的に 1～5 層から出土しており、6 層以下からは中世以前の遺物しか出土していない。なお、木製品は大半が堆積土下位から出土しており、中世(15～16 世紀代)に属するものと考えられるが、杭等の一部には近世以降に埋没途中の堆積土に打ち込まれたものも含まれている(第 4 節(3) 註参照)。

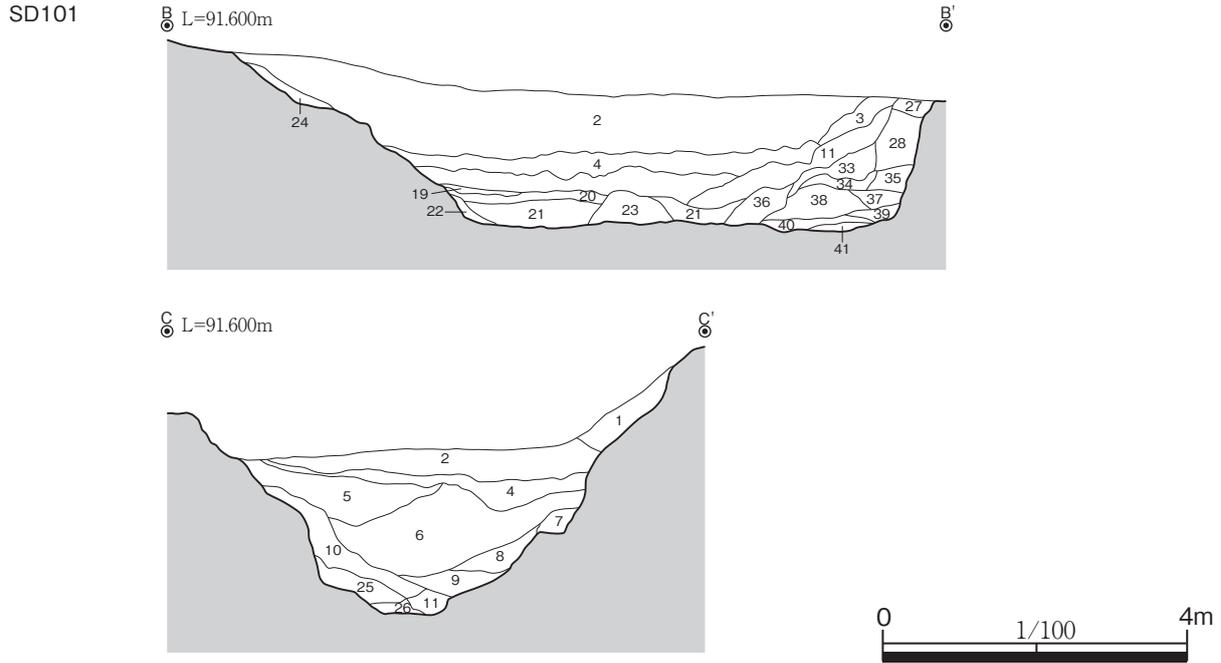
本遺構は城館を区画する堀であり、断面形から箱堀と考えられる。隣接する北日詰城内 I 遺跡で堀が検出されていないことから(第 1 分冊第 V 章参照)、城館範囲の南端部である曲輪 V と城外を区画する堀と考えられる(縄張りとは曲輪名については第 5 節(1) に記載)。なお、本遺構は西側がさらに調査区外へと延びるが、本遺跡を含む範囲の地籍図等の検討から調査区外に至り直ぐに北側へと角度を変えるものと想定される。年代は、2・5・6・34 層から採取した炭化物(第 4 節(1)、試料 H1・2・4・5) 及び出土木製品(第 4 節(3)、試料 f3・5・6) の放射性炭素年代測定結果から 15 世紀後半～17 世紀前半に機能していたと考えられる。本遺構は 6 層下位から採取した炭化物(試料 H2) の年代測定結果から 16 世紀後半～17 世紀前半には埋没を開始したものと考えられるが、遺構の規模が大きいことや出土遺物の内容から、完全に埋没するまでにはかなりの時間がかかったと考えられる。

## SD102 堀（第 2-54 図、写真図版 2-79）

ⅢA9～11e～1 グリッドに位置し、H-Ⅲb 層上面で黒い色調の粘土の広がりとして検出した。他遺構との重複は無く単独で存在する。西側は調査区外、東側は削平の為全長は不明であるが、東西方向



2 検出遺構



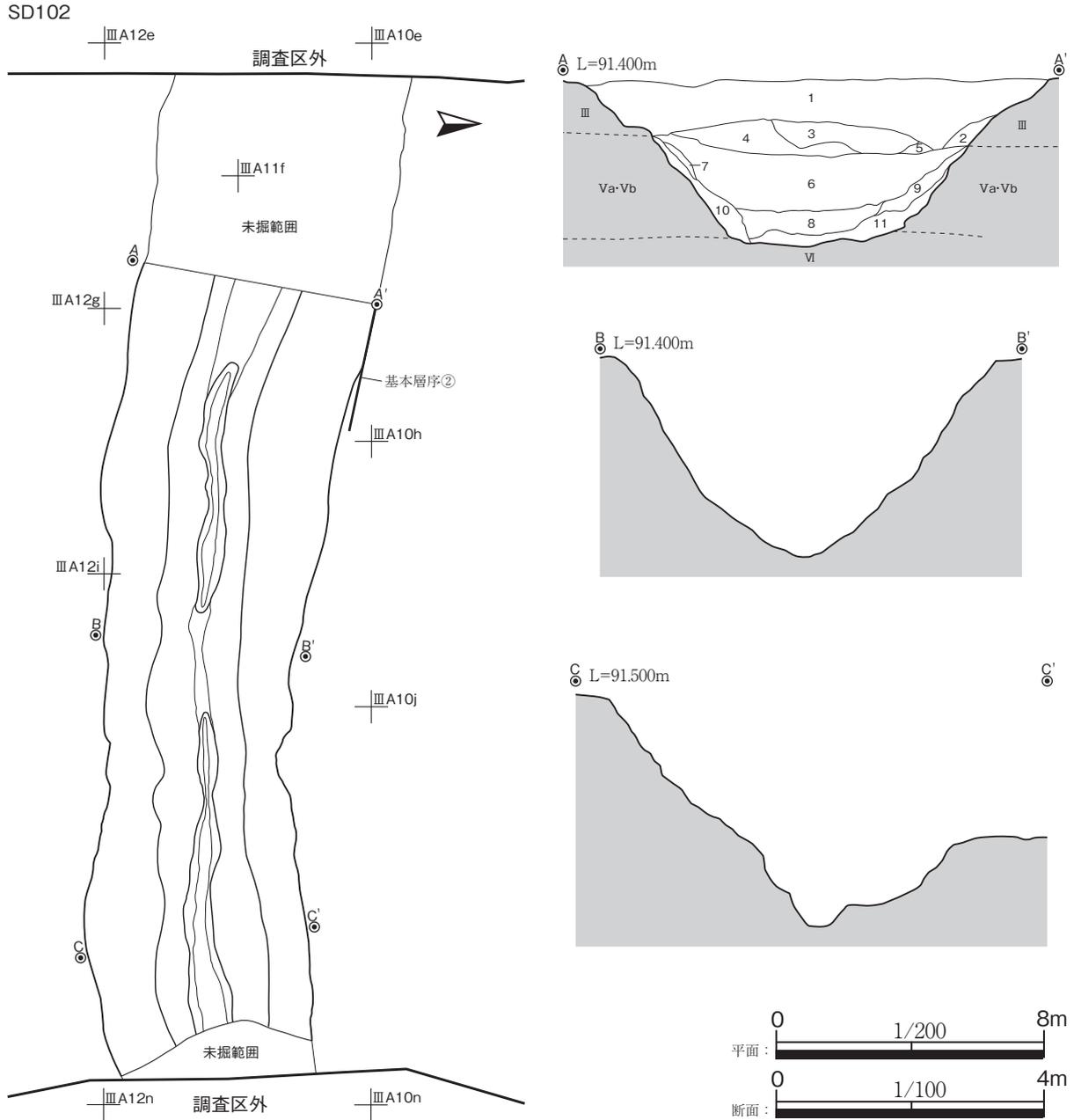
- SD101
- 1.10YR4/3 におい黄褐色砂質シルト しまりやや疎、粘性やや強 炭・礫(φ5mm)各微量
  - 2.10YR4/2 灰黄褐色シルト質粘土 しまり密、粘性強 炭・礫微量、酸化鉄(φ5~10mm)・灰黄褐色細砂・おい黄褐色細砂ブロック各少量
  - 3.10YR3/3 暗褐色シルト質粘土 しまり密、粘性強 炭・礫微量、酸化鉄・黒褐色シルト質粘土ブロック各少量、浅黄褐色砂質シルトブロック(φ5~10mm)含む 人為堆積か
  - 4.10YR4/3 におい黄褐色粘質シルト しまりやや密、粘性やや弱 炭微量、礫(φ50~100mm)・クライ化したオリープ灰色粘土ブロック各少量
  - 5.N4/ 灰色シルト質粘土 しまりやや密、粘性強 炭・礫(φ50~100mm)各微量、におい黄褐色細砂少量がラミナを形成
  - 6.10YR4/1 褐灰色シルト質粘土 しまりやや密、粘性強 炭微量、におい黄褐色細砂と灰白色細砂少量がラミナを形成
  - 7.10YR5/2 灰黄褐色粗砂 しまり疎、粘性弱 礫(φ100~200mm)含む 地山崩落土
  - 8.10YR5/3 におい黄褐色粗砂 しまり疎、粘性弱 礫(φ50mm)少量、褐灰色粘土ブロック少量が中位に層状に堆積 川砂か
  - 9.10YR3/3 暗褐色シルト質粘土 しまりやや疎、粘性強 褐灰色粘土ブロック微量、礫(φ50~100mm)・褐色粗砂含む
  - 10.10YR3/2 黒褐色シルト質粘土 しまり密、粘性強 礫(φ10~50mm)微量、褐色細砂含む
  - 11.10YR2/2 黒褐色シルト質粘土 しまりやや密、粘性強 炭微量、におい黄褐色粘土ブロック少量、下部に礫(φ10~50mm)少量偏在 壁面崩落土
  - 12.10YR4/4 褐色シルト質粘土 しまり密、粘性強 灰白色シルト質粘土(φ50~100mm)少量、におい黄褐色細砂がラミナを形成
  - 13.10YR4/2 灰黄褐色砂 しまり密、粘性弱 酸化鉄含む
  - 14.10YR3/3 暗褐色シルト質粘土 しまり密、粘性強 炭微量、5層より広範囲におい黄褐色細砂がラミナを形成、下に酸化鉄分布
  - 15.10YR6/3 におい黄褐色砂質シルト しまり密、粘性弱 地山崩落土
  - 16.10YR3/2 黒褐色シルト質粘土 しまり密、粘性強 炭・酸化鉄・黄褐色砂質シルトブロック各微量、水気強く自然遺物等出土
  - 17.10YR7/3 におい黄褐色細砂 しまりやや疎、粘性弱 地山崩落土
  - 18.10YR7/4 におい黄褐色細砂 しまりやや密、粘性弱 上面が酸化鉄により変色 地山崩落土
  - 19.N3/ 暗灰色シルト質粘土 しまり密、粘性強 炭微量、酸化鉄少量
  - 20.10YR5/4 におい黄褐色粗砂 しまりやや疎、粘性弱 炭・酸化鉄各微量、礫(φ50mm)少量
  - 21.10YR5/1 褐灰色シルト質粘土 しまりやや疎、粘性強 炭・礫(φ50mm)・自然遺物各微量、褐色細砂少量がラミナを形成
  - 22.10YR4/4 褐色粗砂 しまり疎、粘性弱 礫(φ10~100mm)やや多い 地山崩落土
  - 23.10YR4/2 灰黄褐色粗砂 しまり疎、粘性弱 礫(φ10~100mm)やや多い 酸化鉄を全体に含む、13層より粗い
  - 24.10YR5/3 におい黄褐色細砂 しまり密、粘性弱 酸化鉄・黄褐色粘土ブロック各微量 地山崩落土
  - 25.10YR3/3 黒褐色シルト質粘土 しまり疎、粘性強 炭微量、礫(φ50~200mm)やや多い
  - 26.10YR5/4 におい黄褐色粗砂 しまり疎、粘性弱 礫(φ100~200mm)多量 水気を帯び自然遺物微量出土
  - 27.10YR4/4 褐色粘質シルト しまりやや密、粘性やや弱 酸化鉄・黒褐色粘土ブロック少量
  - 28.10YR7/3 におい黄褐色細砂 しまり疎、粘性弱 礫やや多い 地山崩落土
  - 29.10YR5/4 におい黄褐色細砂 しまり疎、粘性弱 黒褐色粘質シルトブロック少量、部分的に酸化鉄により変色 壁面崩落土
  - 30.10YR5/6 黄褐色粗砂 しまり疎、粘性弱 上位に黒褐色シルトブロック少量、礫含む 壁面崩落土
  - 31.10YR6/1 褐灰色粗砂 しまり疎、粘性弱 礫微量 壁面崩落土
  - 32.5YR5/8 明赤褐色粗砂 しまり疎、粘性弱 礫含む 酸化鉄により変色 壁面崩落土
  - 33.10YR5/4 におい黄褐色粗砂 しまり疎、粘性弱 上位に褐灰色粘土ブロック少量 壁面崩落土
  - 34.10YR3/2 黒褐色シルト質粘土 しまり密、粘性強 炭・酸化鉄・褐灰色粗砂ブロック各微量
  - 35.10YR5/2 灰黄褐色粗砂 しまり疎、粘性弱 礫(φ50~100mm)含む 8層に類似
  - 36.10YR3/2 黒褐色シルト質粘土 しまり密、粘性強 炭・礫(φ50mm)各微量、泥炭層で自然遺物(木片)少量出土
  - 37.10YR3/1 黒褐色シルト質粘土 しまりやや密、粘性強 炭微量、上位で褐色細砂少量がラミナを形成
  - 38.10YR3/3 暗褐色シルト質粘土 しまりやや疎、粘性強 炭・礫(φ50mm)微量
  - 39.10YR6/1 褐灰色粗砂 しまり疎、粘性弱 酸化鉄少量、礫(φ50~100mm)含む
  - 40.10R4/1 褐灰色シルト質粘土 しまりやや疎、粘性強 緑灰色に変色した細砂少量がラミナを形成
  - 41.10YR7/1 灰白色粗砂 しまり疎、粘性弱 灰白色粘土ブロック少量

第53図 SD101 (2)

に直線的に走る堀で、主軸方位はN-88°-Wである。検出範囲での規模は長さ30.0m、幅は西端で7.0m、東端で5.0mである。

断面形は西側は逆台形であるが、中央から東側は逆三角形で、H-VI層まで掘り込まれている。壁面は外方に開きながら立ち上がり、細かい凹凸が認められる。中央~東側は直線的に立ち上がるが、西側では南北壁とも中位でさらに外方に屈曲する。検出面からの深さは西端が2.5m、東端が3.1m、底面の幅は平坦部分で約2.5mである。

堆積土は11層に分層した。黒褐色シルト質粘土が主体であるが、全体的に水気を帯びており、グライ化して変色している層もある(7・8層)。6層以下には炭や地山ブロックを含む層が多く、各層



SD102

- 1.10YR5/4にぶい黄褐色細砂～10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト しまりやや疎、粘性やや弱 炭微量、上位にぶい黄褐色細砂多量、下に礫(φ100)少量 洪水堆積層
- 2.10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト しまりやや密、粘性強 1層に類似するが色調暗い 壁面崩落土か
- 3.5B5/1 青灰色細砂 しまりやや密、粘性やや弱 炭微量 グライ化
- 4.5B4/1 暗青灰色細砂 しまりやや密、粘性強 炭・礫(φ50mm)各微量、3層ブロックやや多い
- 5.10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト しまりやや密、粘性やや強 炭微量、礫(φ100mm)少量、酸化鉄含む
- 6.10YR3/2 黒褐色シルト質粘土 しまりやや密、粘性強 炭・礫(φ50mm)にぶい黄褐色細砂各微量、泥炭質で自然遺物(植物片)少量 人為堆積か
- 7.10YR7/1 灰白色シルト質粘土 しまり密、粘性強 酸化鉄少量、下に6層ブロック少量
- 8.10YR5/2 灰黄褐色シルト質粘土 しまり密、粘性強 炭・灰白色粘土ブロック各微量、にぶい黄褐色細砂ブロック少量 グライ化 6層に類似
- 9.10YR6/1 褐灰色シルト質粘土 しまりやや密、粘性強 炭微量、にぶい黄褐色細砂ブロック含む 壁面崩落土か
- 10.10YR3/2 黒褐色シルト質粘土 しまり疎、粘性強 礫(φ50～150mm)やや多い、上位にぶい黄褐色細砂少量 壁面崩落土
- 11.10YR6/3 にぶい黄褐色粗砂 しまり疎、粘性弱 礫(φ50～100mm)多量 V層崩落土

第54図 SD102

の堆積も厚いことから壁面崩落土を除き大部分は人為堆積の可能性がある。

付属施設として底面中央で東西方向に走る溝を検出した。B断面付近と西側は途切れており、検出した長さは約16.0m、幅0.5～1.0m、深さ0.2～0.3mである。

遺物は堆積土上位から出土しており、陶磁器(唐津・不明)7点、石器(敲磨器等)2点、木製品(板状)・ガラス製品各1点を掲載した(b112～118、c67・68、f56、g3)。

本遺構は曲輪Ⅳ・Ⅴを区画する堀であり、西側の断面形から本来は箱堀であったと考えられる。年代は、3・6層から採取した炭化物の放射性炭素年代測定結果（第4節（1）、試料H6・7）から16世紀前半～17世紀前半に機能していたと考えられる。なお、試料H6とH7では年代に1世紀近い開きがあることから、1～5層と6層以下では堆積に時間差があった可能性がある。大部分が人為堆積であることから、16世紀末の廃城の際に意図的に埋没させた可能性がある。また、堆積土中に明確な痕跡は確認できなかったが、中央より東側と西側で断面形が異なり、壁面にも凹凸が認められることから、部分的に機能維持の為の掘り返しが行われていたと考えられる。

#### SD103堀、SA101土塁（第2-55・56図、写真図版2-80・86・87）

曲輪Ⅲ・Ⅳを区画する堀とそれに付属する土塁である。SD103は現況地形でも形状が確認でき、現在まで平沢川に向かって流れる水路として利用されていた。調査区内では東西方向に走るが、西側の調査区外で北西方向に角度を替えている。SA101は、SD103に並行して北西-南東方向に延びる地形の高まりとして現存していた。以下ではまず個別に内容について記載を行う。

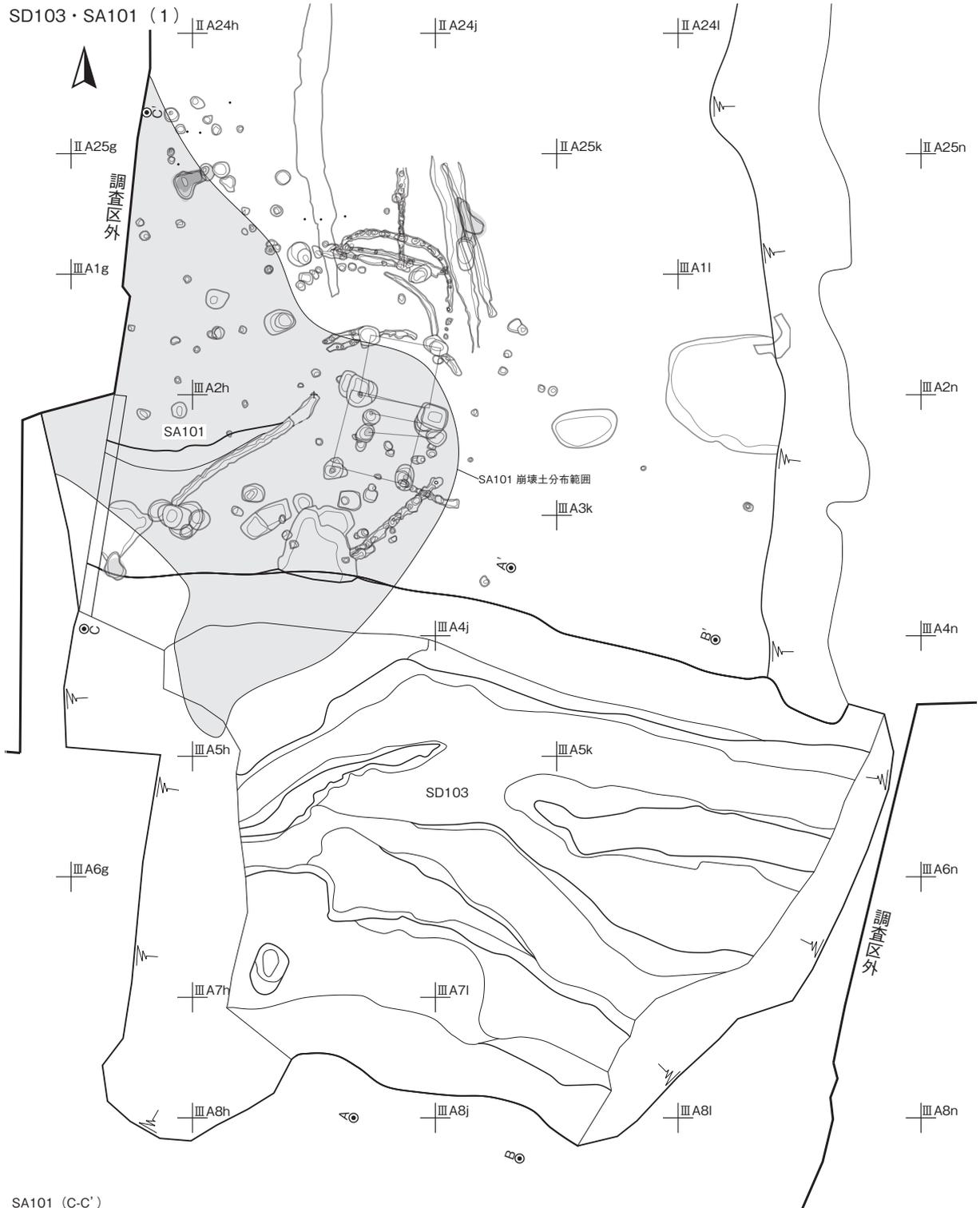
SD103はⅢA3g～7mグリッドに位置し、東西方向に走る大規模な窪みとして認められた。SK33より新しく、SL21より古い。東西側が調査区外に延びる為全長は不明であるが、東西方向に直線的に走る堀で、主軸方位はN-75°-Wである。検出範囲での規模は長さ27.2m、幅は中央付近で16.4mである。断面形は底面の広い逆台形で、H-Ⅵ層まで掘り込まれている。掘削後から常時水が流れていたと考えられ、流路の変化に伴って削られている部分が複数ある為底面は平坦ではない。壁面は外方に開きながら立ち上がるが、南壁は38～45°、北壁は55°前後と南北壁で斜度が大きく異なる。特に北壁は凹凸も少なく、切岸状に造成されている。北壁上端を基準とした遺構の深さは西側で2.7m、中央付近で4.0m、東側で3.5m、底面の幅は3.0～11.0mである。なお、南壁西側の中位付近で柱穴状の掘り込みを1個検出したが、湧水が著しく堆積土の観察ができなかった為、性格については判断できなかった。

本遺構は全域がR-I層に被覆されていたものの、水路として利用されていたことから完全には埋没しておらず、堆積土としては底面付近にグライ化した壁面崩落土と考えられる青灰色粘土・砂礫層を確認することができたのみである。それらの層より上位にはR-I層または近現代の廃棄物を含む新しい時代の層が堆積していた為、堆積土断面図作成及び写真撮影は行っていない。

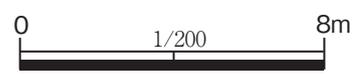
遺物は新しい時代の堆積土から出土しており、土器（須恵器）・石器（砥石）各1点、陶磁器（相馬・不明）2点を掲載した（a310、b120・121、c69）。

SA101は、ⅡA24g～ⅢA4hグリッドで礫を多く含む黒褐～明黄褐色土が分布する不整形な範囲として検出した。調査区西壁から東西13.5m、南北18mの範囲に拡がっており、当初は表土であるR-I層と同じく近現代の堆積土と考えていたが、調査区西壁際に設定したトレンチで断面観察を行ったところ、土塁の基底部と考えられる高まり（17層）であることと、その周辺に堆積する前述の土層が土塁構築土の崩落層であることを確認した。このことから、調査区外に現存する土塁は本来は調査区内まで構築されており、崩落により構築土が失われた為地形の高まりとしては認識できなくなっていたことが判明した。基底部はSD103北壁際から4～5m北側に位置し、調査区西壁から東側に約7m分検出した。東端がSD17と接しており、その部分で基底部が終わっていることからこれより東側には構築されていなかったと考えられる。なお、崩落土は範囲内に位置する全ての遺構を被覆しているが、基底部は直接重複する遺構は無い。

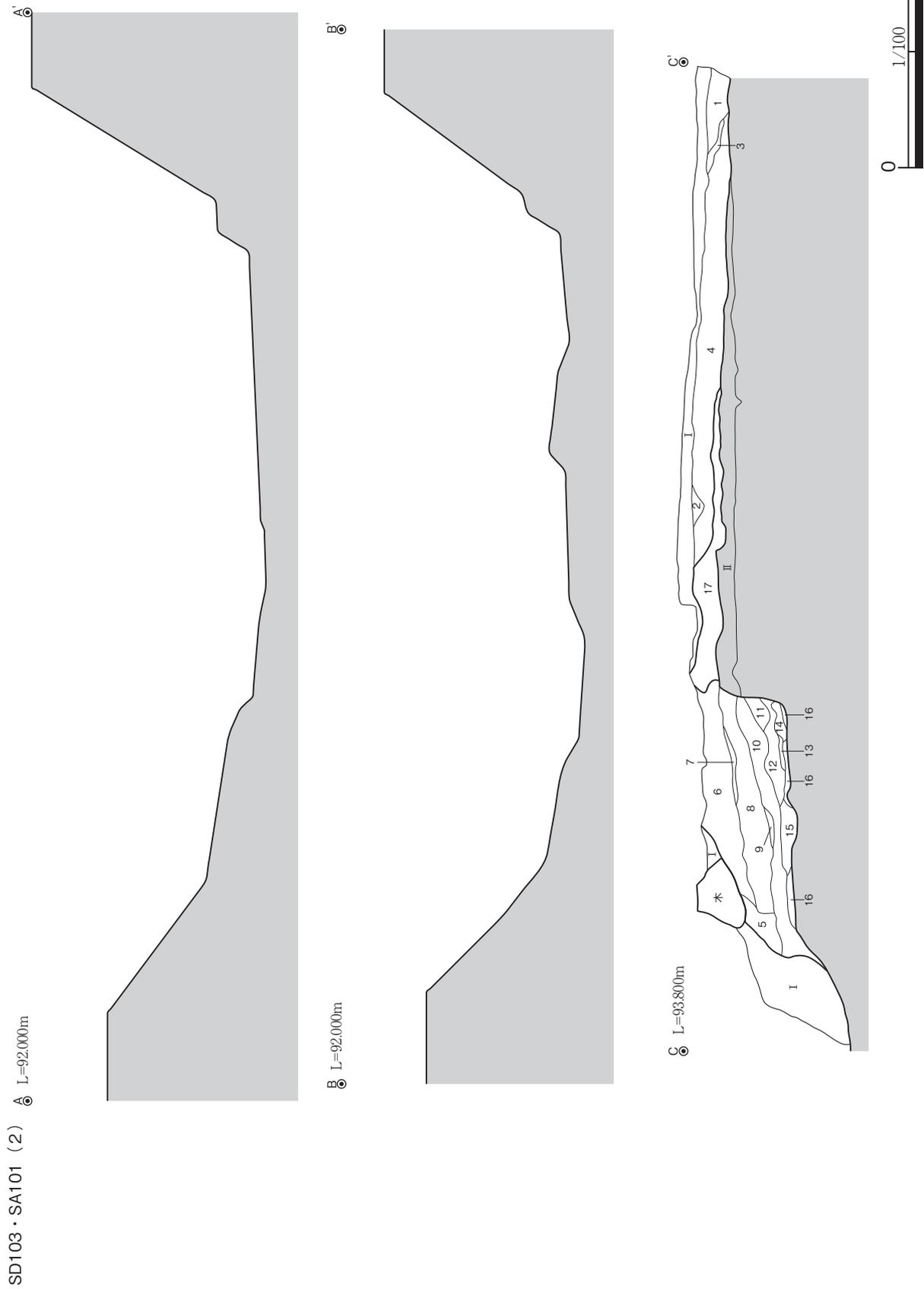
基底部付近の観察から、SA101は①R-II及びⅢa層をほぼ直角に高さ約1mの切土を行う、②次



- SA101 (C-C')
- 1.10YR4/3 におい黄褐色 礫 (φ2~20mm) 3%
  - 2.10YR3/2 黒褐色 II層の再堆積土
  - 3.10YR7/8 黄褐色と10YR3/2 黒褐色の混合砂質土 粘性やや弱 礫5%
  - 4.10YR3/2 黒褐色 粘性弱 礫40%
  - 5.10YR6/4 におい黄褐色砂礫層 しまり・粘性共に無
  - 6.10YR6/6 ~ 6/8 明黄褐色砂礫層 しまり・粘性共に無
  - 7.10YR7/8 黄褐色砂質土 しまり疎、粘性やや弱 礫10%
  - 8.10YR3/2 黒褐色 粘性弱 礫60%
  - 9.10YR6/6 ~ 6/8 明黄褐色砂礫層 しまり・粘性共に無
  - 10.10YR4/3 におい黄褐色 礫15%、黒色ブロック2%
  - 11.10YR3/2 黒褐色砂礫層 しまり・粘性共に無
  - 12.10YR5/2 灰黄褐色 しまりやや密 礫1%
  - 13.10YR3/2 黒褐色 しまりやや密
  - 14.10YR2/1 ~ 2/2 黒色~黒褐色 しまりやや密、粘性やや強 II層由来
  - 15.10YR3/2 黒褐色 しまり密、粘性やや有 礫2%
  - 16.10YR7/6 ~ 7/8 明黄褐色~黄褐色粘質土 しまりやや密、粘性強 III層由来
  - 17.10YR5/4 におい黄褐色粘質土 しまりやや密、粘性やや強 礫1%
- ※1~14層がSA101の崩壊土、15層がSL21前庭部堆積土、17層がSA101基底部



第55図 SD103、SA101 (1)



第56図 SD103、SA101 (2)

に切土の北側の R-II 層上面に幅約 5 m の範囲に基底部となるにぶい黄褐色粘質土を敷設する、③上部構造は推定になるが、崩落土（1～14 層）の土質から SD103 掘削時に排出された R-II～V 層を用いて版築状に構築する、という順序で構築されていたと考えられる。本来の高さについては崩落している可能性を考慮する必要はあるが、調査区外に現存する土塁から 2 m 前後であったと推定される。なお、本遺構に関連する土層からの出土遺物は無い。

SD103 と SA101 は曲輪Ⅲ・Ⅳを区画する施設であり、SD103 は今回の調査で検出した堀の中で最も規模が大きく、壁面も切岸状に急角度になっている等、他の堀と構造が異なる。また、SA101 は調査区内で唯一確認された土塁であり、若干間隔は開いているが SD103 に並行して構築されている。SA101 は門と考えられる SB06～09 及び道路側溝と考えられる SD17 より東側には構築されておらず、曲輪Ⅲの入口施設より西側にのみ構築されていたと考えられる。出土遺物は乏しいが、両遺構は放射性炭素年代測定を実施した遺構（SB06、SL21）等との関係から 15～16 世紀後半に機能していたと考えられ、SD103 は城館の堀としての機能を終えた後も現代まで水路として利用されていた。SA101 は調査区内では基底部を残して崩落していたが、これが人為的なものか否かについては断面観察等から判断することはできなかった。

#### SD104・105 堀、SX101 土橋（第 2-57 図、写真図版 2-81・82）

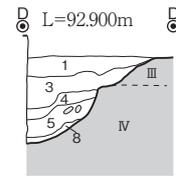
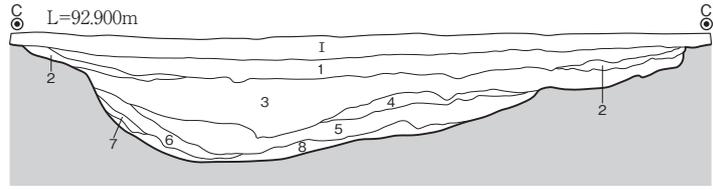
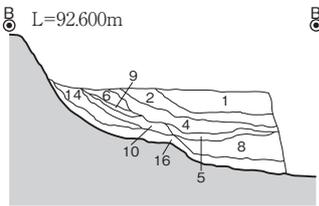
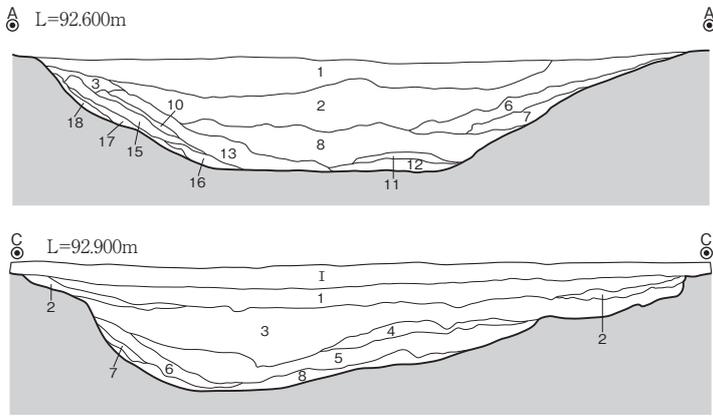
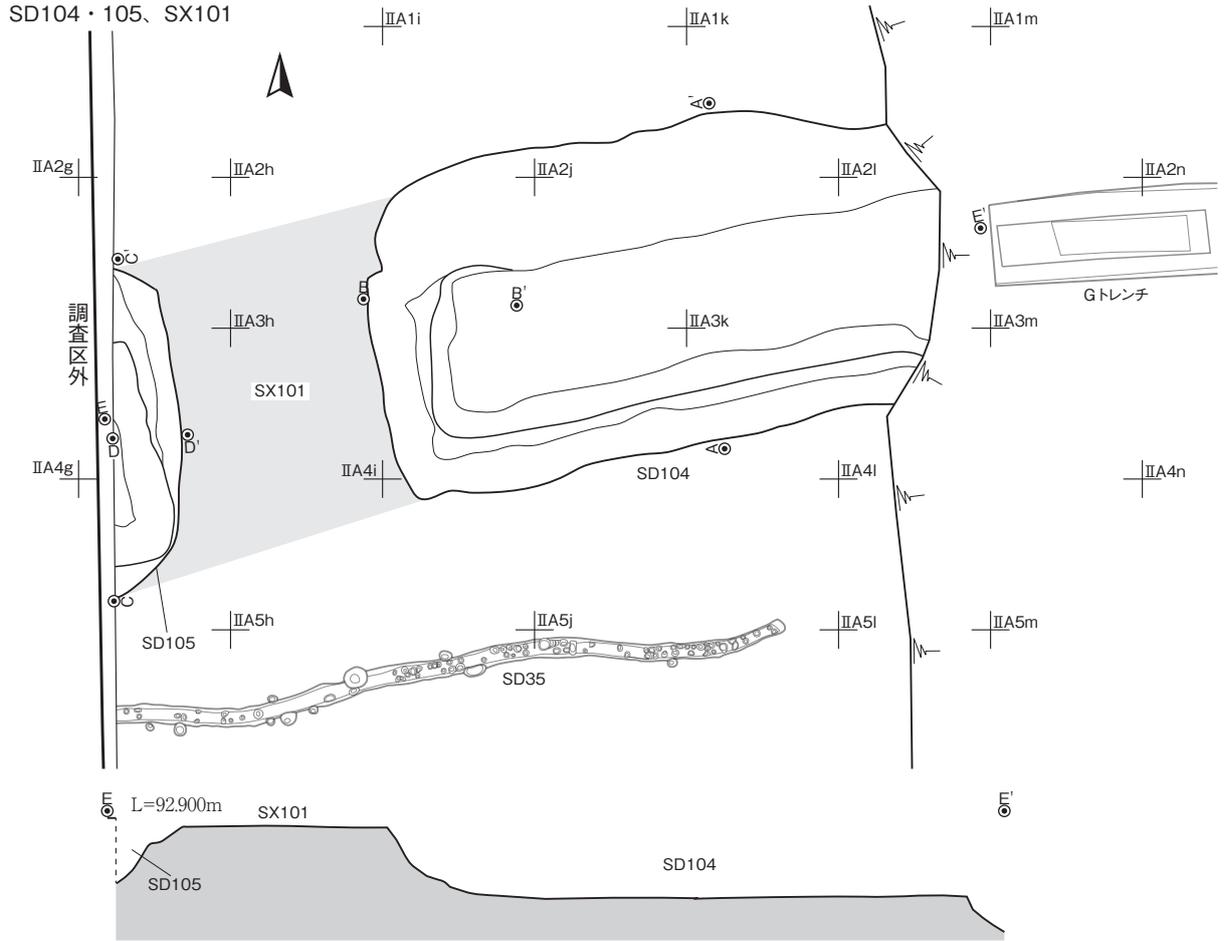
II A2～4 g～1 グリッドに位置する。検出面は R-Ⅲa 層上面で、平成 30 年度の試掘トレンチ T-5・12 内で広範囲に遺物を含む黒褐色土を検出し、堀（SD104）の存在を確認した。一方、令和元年度に追加で堀の規模・走行方向を確認するために設定した試掘トレンチ T-14 内で黒褐色土は検出されなかったことから、この堀が途切れていることが判明した。その後、周辺の表土除去を行って遺構検出を行ったところ調査区西壁付近で黒褐色土の拡がりを確認した。遺構検出面である R-Ⅲa 層を挟んで直線的に並んでいることから、これらは一連の堀であり、その間に位置する R-Ⅲa 層の部分が土橋であると判断した。ただし、堀については直接的に繋がる部分が無い為、便宜上遺構名は別名とした。SD105 は SB60（P2708）・61（P2861）と重複しており、SD105 のほうが新しい。また、SD104・105 とも壁面で複数の柱穴と重複しているが、いずれも本遺構より古い。また、直接重複する柱穴は無いが、検出状況から SB59 も本遺構より古いと判断できる。

SD104 は東側を削平、SD105 は西側が調査区外の為全長は不明であるが、いずれも東西方向に走る堀で、主軸方位は N-80°-E である。検出範囲での規模は、SD104 が長さ 15.0 m、幅 8.4 m、SD105 が長さ 1.7 m、幅 8.4 m である。断面形はいずれも底面の広い逆台形で、R-V 層まで掘り込まれている。壁面は大きく外方に開きながら立ち上がり、SD104 の南壁は中位付近で一度屈曲する。検出面からの深さは SD104 が 1.4～1.7 m、SD105 が 1.4 m である。底面の幅は SD104 は 3.4 m 前後、SD105 は東端部のみの検出である為不明である。

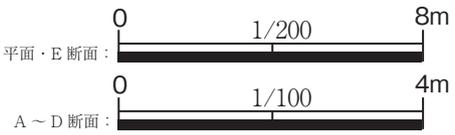
堆積土は SD104 は 17 層、SD105 は 8 層に分層した。SD104 は大部分が自然堆積と考えられるが、南壁付近では人為堆積と考えられる炭・焼土・大型の地山ブロックを含む黒～暗褐色土（10～15 層）が層状に堆積している。SD105 も基本的に自然堆積と考えられるが、中位に地山ブロックを多量に含む層（3 層）が厚く堆積している。3 層は上面がほぼ水平であることから、途中まで埋没した堀を埋めて平坦に整える為の人為堆積層と考えられるが、堆積の時期は不明である。なお、両遺構とも堆積状況としては確認されていないが、壁面が屈曲している状況から特に SD104 では機能維持の為に中央部付近で掘り返しを行った可能性がある。

遺物は両遺構とも堆積土中から出土しており、SD104 では土器（土師器・須恵器・手づくね土器）

2 検出遺構



- SD104(A-A'・B-B')**
- 1.10YR3/2 黒褐色 しまりやや密、粘性やや強 炭・焼土(φ2~5mm)各1%、礫(φ5~30mm)3%、黄橙色ブロック(φ2~10mm)10%
  - 2.10YR3/2 黒褐色 しまりやや密、粘性やや強 炭・焼土(φ1~5mm)各1%、礫(φ10~100mm)10%、黄橙色ブロック(φ1~5mm)3%
  - 3.10YR5/3 にぶい黄褐色 しまりやや密 黄橙色ブロック(φ2~20mm)15%
  - 4.10YR3/3 暗褐色粘質土 礫20%
  - 5.10YR2/3 黒褐色 礫5%、黄橙色ブロック(φ30mm)20%
  - 6.10YR3/2 黒褐色 しまりやや密、粘性やや強 黒色・黄橙色・灰黄褐色粘土ブロック(φ20~400mm)併せて80% 土壁の崩落土か
  - 7.10YR7/8黄褐色粘土と10YR6/2灰黄褐色粘土の混合土 粘性強 粘土はブロック状
  - 8.10YR3/2 黒褐色 しまりやや密、粘性やや強 炭(φ2~5mm)3%、焼土(φ2~20mm)15%、下に黄橙色ブロック(φ5~50mm)2%
  - 9.10YR2/2 黒褐色 炭5%、黄橙色ブロック(φ30mm)10%
  - 10.10YR3/3 暗褐色 炭微量、黄橙色ブロック(φ50mm)20% 人為堆積土
  - 11.10YR3/2 黒褐色 しまりやや密、粘性やや強 炭(φ1~5mm)1%、焼土(φ1~5mm)5%、黄橙色ブロック(φ10~60mm)30% 人為堆積土
  - 12.10YR3/2 黒褐色 しまりやや密、粘性やや強 焼土(φ2~5mm)・黒色ブロック(φ5~20mm)各5% 人為堆積土
  - 13.10YR3/2 黒褐色 しまりやや密、粘性やや強 焼土(φ1~3mm)1%、黒色・黄橙色・灰黄褐色粘土ブロック(φ10~30mm)併せて80% 人為堆積土
  - 14.10YR2/2 黒褐色 粘性やや強 焼土(φ1~5mm)2%、黄橙色ブロック5% 人為堆積土
  - 15.10YR7/8黄褐色粘土と7.5YR5/2灰褐色砂質土と10YR4/2灰黄褐色土の混合土 粘性強 人為堆積土
  - 16.5YR5/2 灰褐色粘質土 しまりやや密、粘性強 炭・焼土(φ1~3mm)各1%
  - 17.2.5YR5/1 褐灰色~5/2灰褐色 粘性やや強 焼土(φ1~5mm)1%、黄橙色ブロック(φ2~10mm)5% やや砂質
  - 18.10YR7/8 黄褐色粘土 しまりやや密、粘性強 炭(φ1~3mm)1% 壁面崩落土



- SD105(C-C'・D-D')**
- 1.10YR2/3 黒褐色 黄橙色ブロック(φ1~5mm)5%
  - 2.10YR2/2 黒褐色 炭少量、黄橙色ブロック(φ10mm)5%
  - 3.10YR2/3 黒褐色 黄橙色ブロック(φ50mm)40%
  - 4.10YR3/1 黒褐色粘質土 粘性やや強 炭・砂粒各少量
  - 5.10YR3/3 暗褐色 黄橙色ブロック(φ30mm)20%
  - 6.2.5Y3/1 黒褐色粘質土 粘性やや強 砂粒がラミナを形成
  - 7.5Y3/1 オリーブ黒粘質土 粘性やや強
  - 8.10YR2/2 黒褐色砂質土 しまりやや疎、底面付近に黄橙色ブロック(φ10mm)含む

第 57 図 SD104・105、SX101

9点、陶磁器（渥美・常滑・須恵器系・瀬戸美濃・中国）14点、石器（臼・鉢・硯・砥石等）7点、金属製品（斧・板状）2点、銭貨（元豊通宝）1点を掲載し（a311～319、b122～135、c70～75・209、d143・144、e34）、SD105では土器（土師器）・金属製品（板状）各1点、陶磁器（中国等）2点を掲載した（a320、b136・137、d145）。

SX101は、II A2 g～4i グリッドに位置する。SD104・105の間の地山を掘り残すことで構築された土橋であるが、上面が削平されている為上部に整地や版築等の造成が行われていたかは不明である。現存規模は、幅5.3m、長さ8.4mである。SB59（P2688・2691・2699）・60（P2669・2681・2692・2701・2704・2708）・61（P2695・2861・2728）と重複しており、SD105との関係からいずれも本遺構より古い。また、直接重複する柱穴は無いがSB58とも重複しており、SB59との関係から本遺構より古いと判断できる。なお、本遺構直上のR-I層からの出土はあるが、構築土等が検出されていない為、本遺構に伴うと判断できる遺物は無い。

以上のように、SD104・105は曲輪II・IIIを区画する堀、SX101はこれらを横断する為の土橋であることが判明した。SD104・105はいずれも箱堀で、水成堆積と考えられる堆積土が確認されていないことから空堀であったと考えられる。SX101は調査区内で唯一確認された土橋であるが、後述するようにSD106西側にも土橋が存在した可能性がある。年代は、SD104の堆積土下位から出土した陶磁器の年代観から16世紀代に機能していたと考えられる。また、SD104では南壁付近で人為堆積が確認されており、16世紀末の廃城の際に小規模ではあるが意図的に埋め戻しを行っていた可能性がある。なお、SD104では最上位の1層から近世遺物が出土していることから、完全な埋没は江戸時代に入ってからと考えられる。

#### SD106 堀（第2-58・59図、写真図版2-83・84）

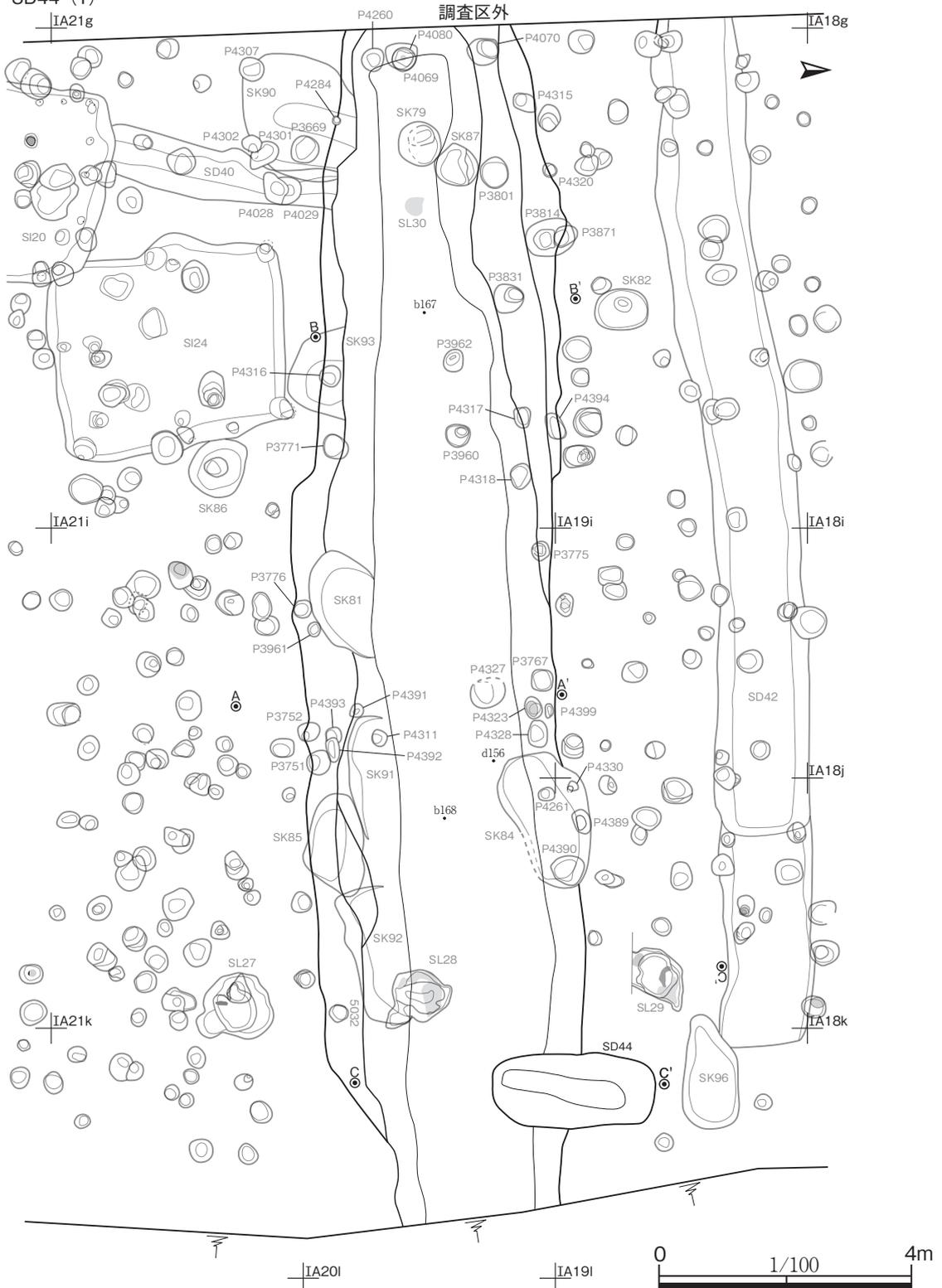
I A18 g～19k グリッドに位置する。R-II層上面で広範囲に広がる遺物や炭・焼土を含む黒褐色土を検出し、土質がSD104・105の堆積土と類似していたことから堀の可能性を考慮して精査を開始した。当初は北東隅の黒褐色土が張り出していた為、直角に曲がるL字形のプランと考えていたが、精査の結果、この部分に新期の溝（SD44）が重複していることが判明した。この他にも多数の遺構と重複しており、新旧関係は古い順にSK81・85・90～93、SD40→SD106→SB78（P3771・3960・3962・4077・4316）・80（P3767・3775・3801・3831・4070・4317）・SB129（P3814・4394）、SK79・84・87、SD44、SL28・30である。また、SB76（P3752・3776）とも重複しているが、新旧関係は不明である。

東西方向に直線的に走る堀で、主軸方位はN-87°-Eである。他の堀と同じく西側は調査区外へと直線的に伸びていると考えられたが、底面まで掘り下げたところ、調査区西壁直下が地山となっていたことからこの部分が堀の西端部であることが判明した。このことから、本遺構にもSD104と同じく地山削り出しの土橋が付属していると考えられる。東側が削平されており全長は不明であるが、検出範囲での規模は長さ19.0m、幅は西端で3.0m、東端付近で4.0mである。断面形は逆台形で、R-V層まで掘り込まれている。壁面は外方に開きながら立ち上がるが、南北壁共に中位でさらに外方に屈曲する為、傾斜は直線的ではない。西端部は直線的に外方に立ち上がる。検出面からの深さは中央から西端付近が0.9m、東端付近が0.6m、底面の幅は1.0～2.2mである。

堆積土は中央から西側とSD44が重複する東端付近で様相が異なる為、それぞれに断面図を作成した（A・C断面）。A断面ではP4327と合わせて11層、C断面ではSD44と合わせて12層に分層した。C断面周辺の底面で人為堆積と考えられる黒褐色と黄橙色の混合土が確認されているが（12層）、そ

他の層は自然堆積と考えられ、掘り返しと考えられる堆積状況も確認されていない。なお、SK84とSD44は南側が堆積土中位付近から掘り込まれており、SD106が完全に埋没する以前に掘削されたと考えられる。

遺物は堆積土中から多量に出土しており、土器（縄文土器・土師器・須恵器・かわらけ）13点、陶磁器（渥美・常滑・瀬戸美濃・中国・肥前等）28点、石器（臼・鉢・皿・台石・金床石・砥石・SD106、SD44（1）



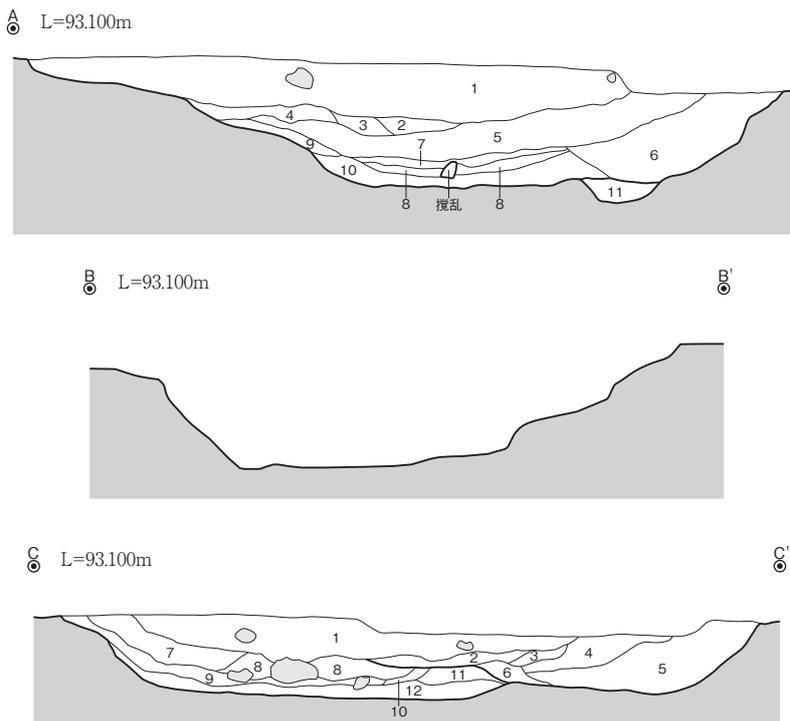
第 58 図 SD106、SD44（1）

敲磨器等) 54 点、金属製品 (目貫・留金具・刀子・釘等) 15 点、銭貨 (景德元宝・洪武通宝・永楽通宝) 4 点、生産関連遺物 (埴埴・鉄滓) 2 点を掲載した (a321~333、b138~165、c76~127・210・211、d147~161、e35~38、h1・6)。なお、埴埴 h1 については自然科学分析を実施しており (第 4 節 (8) 参照)、銅-鉛系の鑄造製品の製作に使用されたものと考えられる。

本遺構は曲輪 I・II を区画する堀である。箱堀で、水成堆積と考えられる堆積土が確認されていないことから空堀であり、西端部の状況から SD104・105 と同じく土橋を伴っていたと考えられる。年代は、堆積土中~下位で採取した炭化物の放射性炭素年代測定結果 (第 4 節 (1)、試料 R42) 及び出土遺物の年代観から、15~16 世紀代に機能していたと考えられる。堆積土最下位から 16 世紀後半代、最上位から 17 世紀後半~18 世紀前半代の陶磁器が出土していることから、本遺構は 16 世紀後半以降に埋没を開始し、18 世紀代に完全に埋没したものと考えられる。

SD107 堀 (第 2-60 図、写真図版 2-83~85)

I A15f~16k グリッドに位置する。遺物を包含する黒褐色土 (SD106・107 間遺物包含層) に被覆されており、この層を除去したところ地山ブロックを多く含む黒褐~灰黄褐色土の拡がりとして検出した。多数の遺構と重複しており、新旧関係は古い順に SI23→SD107→SK95→SI22→SB79(P4056)・82 (P4031・4034・4403)・83 (P3954・3956・3958・4037・4053・4109)・84 (P4035・4045・4054・4241)・85 (P4039・4059・4094)・86 (P4095・4100・4246)・88 (P4129・4245)・89 (P3874・SD106、SD44 (2))



- SD106 A 断面**
- 1.10YR2/2 黒褐色 炭 (φ2~5mm) 2%、焼土 (φ2~5mm) 5%、礫含む
  - 2.10YR2/2 黒褐色 しまりやや密 Ⅲ層ブロック (φ3~10mm) 3%
  - 3.10YR2/2 黒褐色 しまりやや密 Ⅲ層ブロック (φ3~10mm) 30%
  - 4.10YR7/8 黄褐色粘土 しまりやや密、粘性強 Ⅱ層ブロック 15% 壁面崩落土
  - 5.10YR2/2~3/2 黒褐色 しまりやや密 炭 (φ2~10mm) 5%、焼土 (φ1~3mm) 1%
  - 6.10YR2/2 黒褐色 しまりやや密 炭・焼土 (φ1~3mm) 各1%、酸化鉄含む
  - 7.10YR2/2~3/2 黒褐色 しまりやや密 Ⅲ層ブロック 20%
  - 8.10YR2/2 黒褐色 しまりやや密 Ⅲ層ブロック (φ3~10mm) 30%
  - 9.10YR7/8 黄褐色粘土 しまりやや密、粘性強 Ⅱ層ブロック 15% 壁面崩落土
  - 10.10YR2/2 黒褐色 Ⅲ層ブロック (φ2~5mm) 3%
  - 11. 柱穴土層パターン A 酸化鉄含む
- ※1~10層がSD106、11層がP4327堆積土

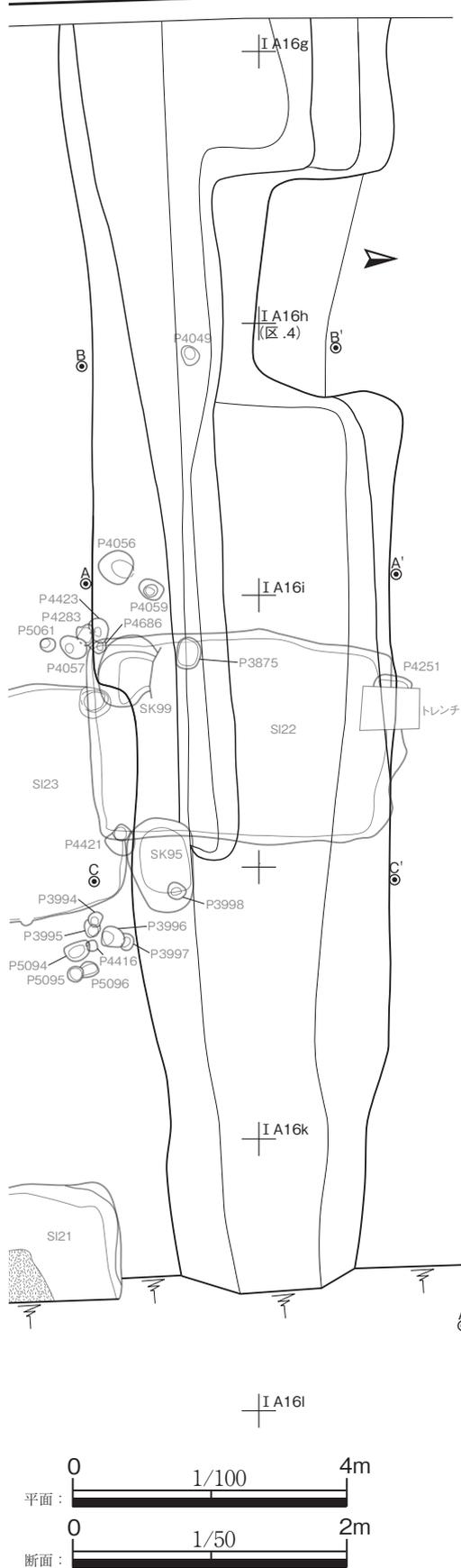
- SD106 C 断面・SD44**
- 1.10YR2/2 黒褐色 =A断面1層
  - 2.10YR2/2黒褐色と5YR6/3~7/4にぶい橙色の混合土 炭(φ5~10mm)10% 焼土の人為廃棄層
  - 3.10YR2/2 黒褐色
  - 4.10YR3/2 黒褐色 焼土(φ1~2mm)焼土1% やや砂質
  - 5.10YR2/2 黒褐色 炭(φ5~10mm)3%、焼土(φ1~3mm)1%
  - 6.10YR2/2 黒褐色 炭(φ5~20mm)・焼土(φ1~3mm)各3%
  - 7.10YR2/2 黒褐色 炭(φ5~20mm)10%、焼土または土器片(φ5~30mm)3%、礫含む
  - 8.10YR2/2 黒褐色 炭(φ2~5mm)10%、大型の礫含む
  - 9.10YR3/2 黒褐色 しまりやや密 炭(φ2~10mm)3%、焼土(φ1~3mm)1%、Ⅲ層ブロック10%
  - 10.10YR3/2 黒褐色 Ⅲ層ブロック(φ3~10mm)20%
  - 11.10YR2/2 黒褐色 炭(φ5~10mm)2%、Ⅲ層ブロック(φ2~10mm)10%
  - 12.10YR3/2黒褐色と10YR7/8黄褐色の混合土 粘性やや強 焼土(φ5mm)1% 人為堆積土
- ※2~6層がSD44、7~12層がSD106堆積土



第 59 図 SD106、SD44 (2)

SD107

調査区外



SD107 (A-A')

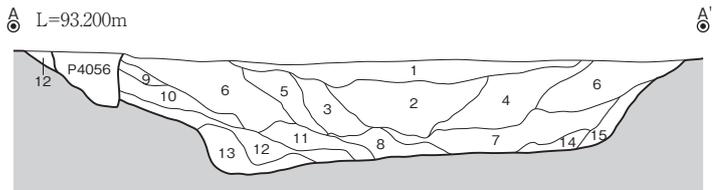
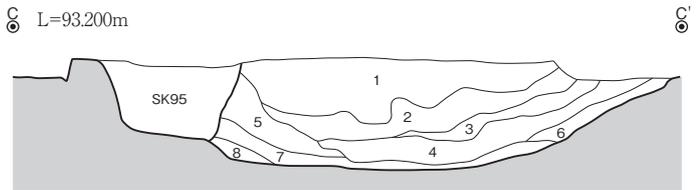
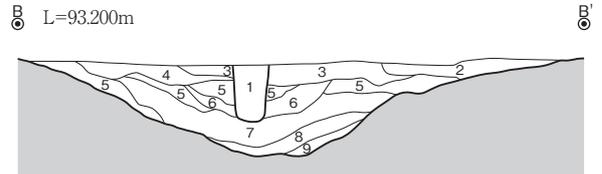
- 1.10YR4/2 灰黄褐色粘質土 粘性やや強 炭 (φ2~5mm) 3%、Ⅲ層ブロック (φ2~10mm) 15% =B断面2層
- 2.10YR3/2 黒褐色 粘性やや強 焼土 (φ1~3mm) 1%、礫 (φ10~40mm) 3%、Ⅱ層ブロック (φ5~30mm) 5%、Ⅲ層ブロック (φ5~50mm) 40%
- 3.10YR3/2 黒褐色 粘性やや強 Ⅲ層ブロック (φ5~100mm) 40%
- 4.10YR3/2 黒褐色 粘性やや強 Ⅱ層ブロック (φ5~50mm) 3%、Ⅲ層ブロック (φ5~50mm) 30%
- 5.10YR3/2 黒褐色 粘性やや強 礫 (φ10~30mm) 3%、Ⅲ層ブロック (φ5~60mm) 40% =C断面1層
- 6.10YR3/2 黒褐色 粘性やや強 炭 (φ5~10mm)・赤褐色粒 (φ5~50mm) 各1%、Ⅲ層ブロック (φ5~50mm) 30%
- 7.10YR3/2 黒褐色 粘性やや強 Ⅱ層ブロック (φ5~30mm) 5%、Ⅲ層ブロック (φ5~30mm) 15%、酸化鉄含む
- 8.10YR2/2 ~ 3/2 黒褐色 粘性やや強 礫 (φ10~50mm) 3%、Ⅲ層ブロック (φ5~100mm) 30% =C断面4層
- 9.10YR4/2 灰黄褐色 粘性やや強 礫 (φ10~30mm) 5%、Ⅲ層ブロック (φ10~100mm) 40%
- 10.10YR7/8 黄橙色粘質土 粘性強 礫 (φ10~50mm) 5%、Ⅲ層ブロック (φ10~50mm) 30% =C断面7層
- 11.10YR2/2 黒褐色 粘性やや強 礫 (φ20~50mm) 3%、Ⅲ層ブロック (φ20~100mm) 40%
- 12.10YR7/8 黄橙色粘土 しまりやや密、粘性強 礫 (φ10~20mm) 2% 壁面崩落土
- 13.10YR7/8 黄橙色粘土 しまりやや密、粘性強 礫 (φ10~20mm) 20% 壁面崩落土
- 14.10YR7/4 にぶい黄橙色粘土 しまりやや密、粘性強 Ⅱ層土 20%
- 15.10YR2/2 黒褐色 Ⅲ層ブロック (φ3~20mm) 25%、酸化鉄含む Ⅱ層の再堆積土

SD107 (B-B')

- 1. 柱穴土層パターンF やや砂質
  - 2.10YR4/2 灰黄褐色粘質土 =A断面1層
  - 3.10YR4/2 灰黄褐色 粘性やや強 炭 (φ1~5mm) 1%、Ⅲ層ブロック (φ1~5mm) 3%
  - 4.10YR3/2 黒褐~4/2 灰黄褐色 粘性やや強 Ⅲ層ブロック (φ5~30mm) 3%
  - 5.10YR3/2 黒褐色 粘性やや強 Ⅲ層ブロック (φ10~50mm) 40%
  - 6.10YR3/2 黒褐色 粘性やや強 Ⅲ層ブロック (φ1~10mm) 3%、酸化鉄含む
  - 7.10YR3/2 黒褐~4/2 灰黄褐色 根にやや強 Ⅱ層ブロック3%、Ⅲ層ブロック15%、酸化鉄多量
  - 8.10YR3/2 黒褐色 粘性やや強 Ⅱ層ブロック (φ5~30mm) 5%、Ⅲ層ブロック (φ30~100mm) 50%
  - 9.10YR5/1 褐灰色砂 しまり・粘性共に無 礫 (φ5~30mm) 5%、壁面崩落土
- \*1層がP4049、2~9層がSD107堆積土  
\*SD107は9層以外全て人為堆積土

SD107 (C-C')

- 1.10YR3/2 黒褐色 =A断面5層
  - 2.10YR3/2 黒褐色 粘性やや強 Ⅲ層ブロック (φ10~100mm) 70%
  - 3.10YR3/2 黒褐色 粘性やや強 Ⅲ層ブロック (φ5~30mm) 15%
  - 4.10YR2/2 ~ 3/2 黒褐色 =A断面8層
  - 5.10YR2/2 ~ 3/2 黒褐色 粘性やや強 Ⅲ層ブロック (φ3~30mm) 60%
  - 6.10YR2/2 黒褐色 粘性やや強 Ⅲ層ブロック (φ10~50mm) 40%
  - 7.10YR7/8 黄橙色粘質土 =A断面10層
  - 8.10YR3/1 黒褐色砂礫と10YR7/8黄橙色粘土の混合土 しまりやや疎、粘性弱
- \*8層以外全て人為堆積土



第 60 図 SD107

3875・4047・4062・4083・4092・4107)・96 (P4125) である。

西側が調査区外、東側が削平の為全長は不明であるが、東西方向に走る堀で、主軸方位はN-87°-Eである。検出範囲での規模は、長さ18.8m、幅は西端が4.8m、東端が2.9mである。断面形はいずれも底面の広い逆台形で、R-V層まで掘り込まれている。また、中央から西側の南壁付近の底面は浅く二段に掘り込まれている。壁面は大きく外方に開きながら立ち上がり、南北壁の中央付近は中位でさらに外方に屈曲する。検出面からの深さは中央から東端付近が0.7~0.8m、西端付近が0.65m、底面の幅は1.4~3.0mである。北壁では、調査区西壁から2.5m東側の部分が内側に大きく張り出している状況が確認されている。張出しの幅は約3.0mで、地山を削り出して成形されている。規模は異なるもののSD104・105に伴うSX101土橋に類似していることから、この部分は本遺構に伴う土橋と考えられ、本来南壁と繋がっていたものが造り替えあるいは排水等の浚渫作業に伴って南側が壊されたものと考えられる。

堆積土はほとんどが人為堆積であり、3箇所ベルトを設定して確認を行った。全体的な堆積の様相は、底面付近には地山由来の崩落土と考えられる自然堆積があるが、それより上位は炭・焼土・礫・地山ブロックを多量に含む人為堆積土である。堆積土中に掘り返しの痕跡は無く、上面まで一度に埋め戻されている。

遺物は堆積土中から出土しており、土器(土師器・須恵器・かわらけ)7点、陶磁器(渥美・中国)6点、石器(臼・敲磨器等)10点、金属製品(釘)・銭貨(鉄銭)各1点、生産関連遺物(鉄滓)3点を掲載した(a334~340、b166~171、c128~134・212~214、d162、e39、h7~9)。なお、石器は自然礫も含めて被熱したものが多い(c128・130等)。

本遺構は、曲輪I・IIを区画する堀である。箱堀で、本来はSD104・105と同じく土橋を伴っていたと考えられる。年代は、人為堆積である堆積土の中位から中世に属する石臼が出土していることから15~16世紀代に機能し、その後人為的に埋め戻されたと考えられる。なお、堆積土中~下位で採取した炭化物の放射性炭素年代測定結果(第4節(1)、試料R43)は11世紀後半代、堆積土中から12世紀代の遺物が出土しているが、これらは周辺あるいは埋め戻し土を採掘した場所にあるこの時期の遺構(SI23等)に伴っていたものと考えられる。なお、直接的な重複関係は無いが、本遺構はSD106に先行する堀であり、本遺構を埋めた後にSD106を掘削したものと考えられるが、これについては第5節(1)で検討を加える。

#### (5) 炉(第2-60~65図、写真図版2-88~97)

38基検出した。検出地点・規模等は第2-6表の通りである。以下では全体的な傾向及び特徴的なものについて記載を行う。

#### カマド状遺構

地面を掘り込んで、内部で燃焼行為を行ったものをカマド状遺構とし、33基検出した。平面形は楕円形と円形があり、全形がわかるものをみると長軸規模は1.0~1.3m、短軸規模は0.7~0.8m前後である。深さは0.2m前後で、掘り込みの内面が被熱している。被熱する部分は①底面のみ被熱しているもの、②側面のみ被熱しているもの、③底面・側面とも被熱しているもの、に分類することができる。掘り方を有するものは10基あり、SL01のように底面に粘土を敷設するものもある。

焚口と考えられる張出しは16基で検出した。平面形の長軸側に付けられるもの(SL07)、短軸側につけられるもの(SL04・26)、コーナー部に付けられるもの(SL06・09)がある。方位は南西方

第6表 炉一覽

遺構名	グリッド	検出面	時代・性格	平面形	本体部規模 (m)			張出し	掘り方	前庭部	出土遺物 重量 (g) [掲載番号]	備考 (重複: 右側が新しい)
					長軸	短軸	深さ					
SL01	Ⅲ A8e	H-Ⅲ b	中世・カマド状	楕円形	0.79	0.63	0.16	×	○	×	土 127.7g [a341~343]	
SL02	Ⅲ A8g	H-Ⅲ b	15C 後~16C 前・カマド状	楕円形	0.93	0.64	0.09	×	×	×		放射性炭素年代 [H8]、(SK05、SD02 → ◎→ SL03)
SL03	Ⅲ A8g	H-Ⅲ b	中世・地床炉	楕円形	0.41	0.23	-	×	×	×		(◎→ SL02)
SL04	Ⅲ A8g	H-Ⅲ b	15C 後~16C 前・カマド状	楕円形	1.38	0.72	0.12	東	○	×	金 [d163]	放射性炭素年代 [H18]
SL05	Ⅱ A17h	R-Ⅱ	15C 中~後・カマド状	楕円形	1.10	0.82	0.20	北東	○	×		放射性炭素年代 [R3]、(SB23 →◎)
SL06	Ⅱ A17i	R-Ⅱ	中世・カマド状	楕円形	1.26	0.85	0.21	北東	×	○	土 8.1g	
SL07	Ⅱ A16i	R-Ⅱ	中世・カマド状	楕円形	1.05	0.77	0.05	南東	○	×		
SL08	Ⅱ A16h	R-Ⅱ	中世・カマド状	楕円形	1.12	0.94	0.13	北西	×	○	陶 2.5g	(SB19・23、SD12 →◎)
SL09	Ⅱ A15j	R-Ⅱ	中世・カマド状	楕円形	1.15	0.60	0.17	南東	×	×	土 7.5g、陶 2.6g	
SL10	Ⅱ A24j	R-Ⅲ b	中世・カマド状	長方形	0.80	0.76	0.23	×	×	×		
SL11	Ⅱ A25j	R-Ⅲ b	中世・カマド状	台形	1.23	0.63	0.15	北東	○	○	石 51.4g [c135・136]	
SL12	Ⅱ A21j	SI06 堆	中世・カマド状	不整形	0.85	0.55	0.20	×	×	×		(SI06 →◎)
SL13	Ⅱ A20i	SI06 堆	中世・カマド状	長方形	1.00	0.60	0.08	×	×	×	土 21.3g	(SI06、SL14 →◎)
SL14	Ⅱ A20i	SI06 堆	中世・カマド状	円形	0.92	(0.80)	0.15	×	×	×	陶 17.6g [b172]	(SI06 →◎→ SL13)
SL15	Ⅱ A21j	SI06 堆	中世・カマド状	隅丸方形	0.83	0.72	0.18	北東	×	×	陶 2.2g	(SI06、SL16 →◎)
SL16	Ⅱ A21j	SI06 堆	中世・カマド状	三角形	0.90	0.80	0.18	北西	×	×		(SI06 →◎→ SL15)
SL17	Ⅱ A21j	R-Ⅱ	16C 前~中・カマド状	長方形	0.88	0.45	0.15	×	×	×		放射性炭素年代 [R4]
SL18	Ⅱ A21k	R-Ⅱ	中世・カマド状	不整形	0.94	(0.38)	0.30	×	×	×		
SL19	Ⅲ A1j	R-Ⅲ b	中世・カマド状	円形	0.85	0.80	0.15	×	×	○		
SL20	Ⅱ A25g	R-Ⅲ b	中世・カマド状	不整形	1.03	0.93	0.23	×	×	×	土 8.2g	(SD21 →◎)
SL21	Ⅲ A3g	R-Ⅲ b	15C 中~後・カマド状	楕円形	0.92	0.78	0.15	×	×	○	陶 2.2g	放射性炭素年代 [R14]、(◎→ SD103、 SA101)
SL22	Ⅱ A15k	R-Ⅱ~Ⅲ	中世・カマド状	不整形	1.00	0.93	0.06	×	○	×		(SI08、SB26 →◎)
SL23	Ⅱ A11h	R-Ⅱ	中世・カマド状	三角形	0.90	0.68	0.10	×	×	×		
SL24	Ⅱ A25j	R-Ⅲ b	15C 中~後・カマド状	不整形	1.36	0.60	0.30	×	×	○		放射性炭素年代 [R15]、(◎→ SD22・23)
SL25	Ⅱ A21g	R-Ⅱ	中世・カマド状	楕円形	1.40	0.74	0.18	×	×	○		
SL26	Ⅱ A11k	R-Ⅱ~Ⅲ	中世・カマド状	楕円形	1.21	0.56	0.13	西	×	×	土 2.8g	(SB38 →◎)
SL27	Ⅰ A20j	R-Ⅱ	中世・カマド状	円形	1.24	1.10	0.21	南東	×	×		
SL28	Ⅰ A19j	SD106 堆	近世・カマド状	不整形	1.21	0.90	0.16	南東	×	×		(SD106 →◎)
SL29	Ⅰ A28j	R-Ⅱ	15C 前~中・カマド状	長方形	(1.00)	0.70	0.10	北東	○	×		放射性炭素年代 [R16]
SL30	Ⅰ A29g	SD106 堆	中世以降・地床炉	円形	0.68	0.62	-	×	×	×		(SD106 →◎)
SL31	Ⅰ A12l	R-Ⅳ	17~18C・カマド状	円形	1.00	0.78	0.15	×	×	×	石 2.2g	放射性炭素年代 [R17]
SL32	Ⅰ A9h	R-Ⅱ	不明・地床炉	楕円形	0.65	0.50	-	×	×	×		
SL33	Ⅰ A10g	R-Ⅱ	中世・カマド状	円形	1.30	0.72	0.18	南東	×	×	土 6.0g、石 5.0g [c215]、 生産 151.6g [h10・11]	
SL34	Ⅰ A7g	SI25 堆	古代以降・地床炉	不整形	0.55	0.50	-	×	×	×		(SI25 →◎)
SL35	Ⅰ A2f	R-Ⅲ a	中世・カマド状	三角形	0.72	0.50	0.13	北東	○	×		
SL36	Ⅰ A6h	R-Ⅱ	16C 後~17C 前・カマド状	楕円形	1.23	0.92	0.16	×	○	○	陶 31.5g [b173・174]、金 [d164・165]	放射性炭素年代 [R44]、(SI25、SB105・ 110・130 →◎→ SB120)
SL37	Ⅰ A4h	R-Ⅲ a	中世・カマド状	方形	0.95	0.92	0.20	南	○	×		(◎→ SB111、SX08)
SL38	Ⅰ A6i	R-Ⅲ a	不明・地床炉	円形	0.54	0.52	-	×	×	×		(◎→ SX09)

※検出面「○堆」は遺構堆積土

※計測値欄の ( ) は残存値

※重複は単独の柱穴は除く

向を除いて全ての方位があり、規則性は認められない。

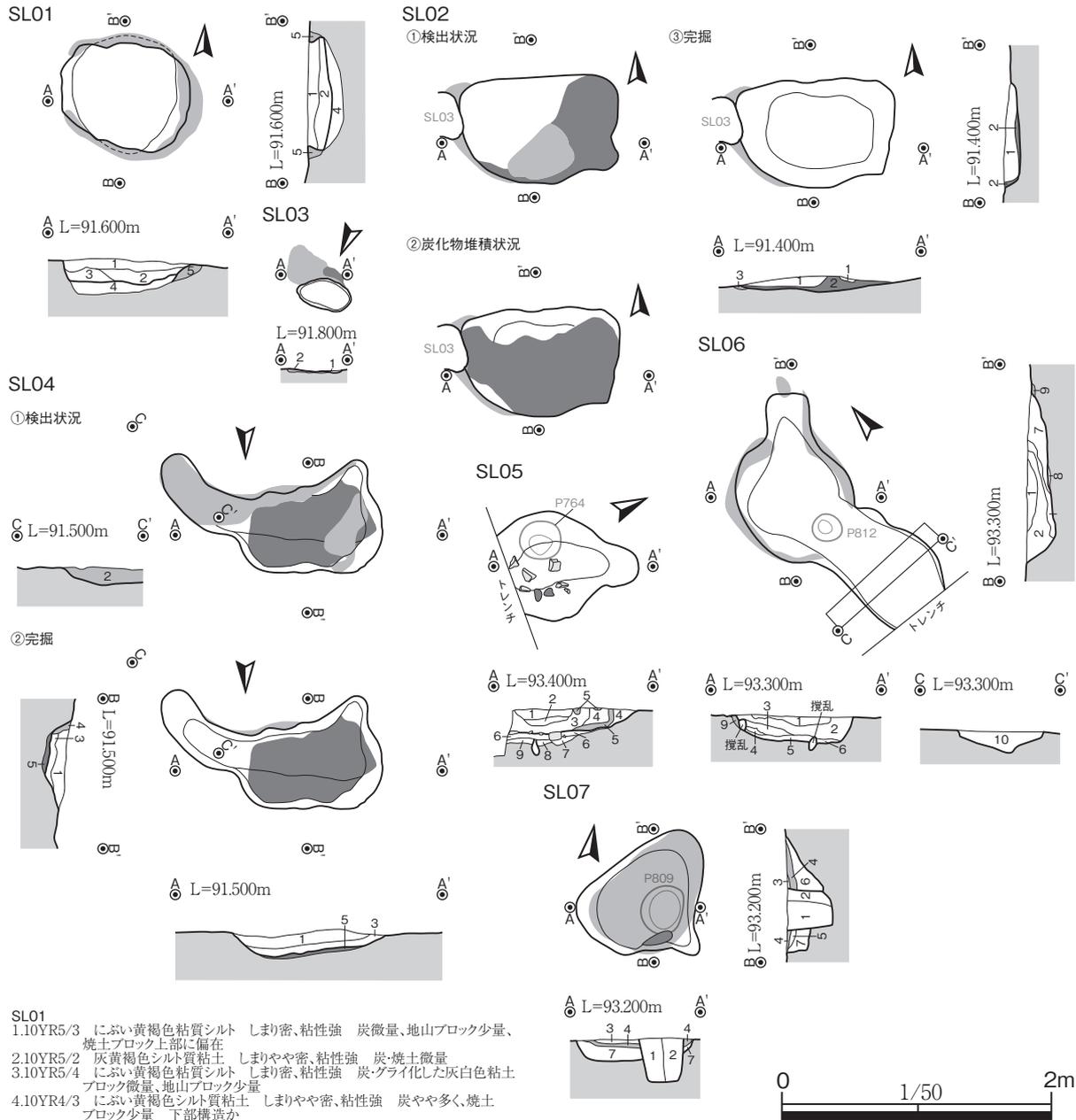
前庭部は8基で検出した。燃焼部からの廃棄物を掻き出すための施設と考えられ、堆積土中には小型の焼土・炭化物が多量に含まれている。平面形は不整形なものが多く、最も大きいSL21前庭部は長軸規模が1.9mである。

### 地床炉

5基検出した。SL03を除いて調査区の北側に分布する傾向がある。平面形は円形を基調とし、長軸規模は0.41~0.65m、被熱深度は3cm前後である。

### 年代

カマド状遺構・地床炉ともに出土遺物が乏しい為、放射性炭素年代測定結果及び他遺構との重複関係からの推定となる。カマド状遺構としたものは9基から採取した炭化物の年代測定結果からほとんどが中世(15~16世紀代)に属すると考えられる。ただし、SL31のように近世(17~18世紀代)に属するものも含まれている。



**SL01**  
 1.10YR5/3 におい黄褐色粘質シルト しまり密、粘性強 炭微量、地山ブロック少量、焼土ブロック上部に偏在  
 2.10YR5/2 灰黄褐色シルト質粘土 しまりやや密、粘性強 炭・焼土微量  
 3.10YR5/4 におい黄褐色粘質シルト しまり密、粘性強 炭・グライ化した灰白色粘土ブロック微量、地山ブロック少量  
 4.10YR4/3 におい黄褐色シルト質粘土 しまりやや密、粘性強 炭やや多く、焼土ブロック少量 下部構造か  
 5.5YR4/6 赤褐色焼土 しまり密、粘性強 5YR5/6明赤褐色に変色 地山変色層

**SL02**  
 1.10YR5/3 におい黄褐色シルト質粘土 しまりやや密、粘性強 炭・酸化鉄微量、焼土ブロック上部に少量偏在  
 2.10YR2/1 黒色炭化物層 しまりやや密、粘性強 焼土・黒褐色シルトブロック微量  
 3.5YR4/6 赤褐色焼土 しまり密、粘性強 地山変色層

**SL03**  
 1.10YR2/1 黒色シルト質粘土 しまりやや密、粘性やや強  
 2.5YR3/6 暗赤褐色焼土 しまりやや疎、粘性やや強 暗褐色シルトブロック少量 弱変成の焼土

**SL04**  
 1.10YR5/3 におい黄褐色シルト質粘土 しまりやや密、粘性強 炭少量、焼土塊中量、灰白色粘土ブロック微量 天井崩落土か  
 2.5YR4/6 赤褐色焼土 しまり密、粘性強 炭微量、におい黄褐色粘土ブロック少量 天井崩落土か  
 3.10YR4/2 灰黄褐色シルト質粘土 しまり密、粘性強 炭・灰白色粘土ブロック微量  
 4.5YR4/6 赤褐色焼土 しまり密、粘性強 内側に炭少量偏在 2層に類似  
 5.10YR2/1 黒色炭化物層 しまり密、粘性やや強 底面に敷いた炭化物層か

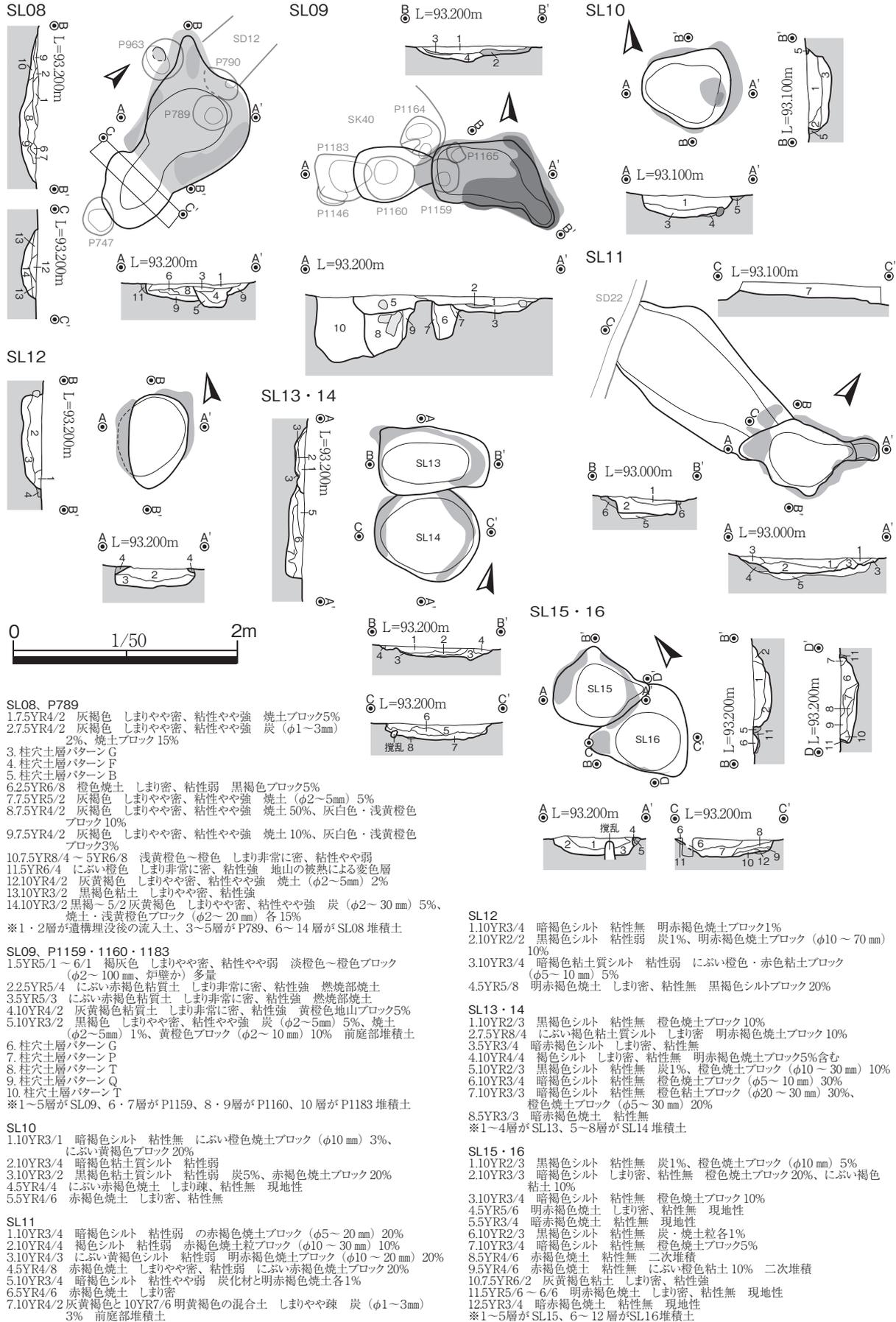
**SL05**  
 1.10YR2/2 黒褐色 しまり密、粘性やや強 炭(φ2~5mm)・礫(φ30~60mm)各3%  
 2.10YR2/2 黒褐色 しまり密、粘性やや強  
 3.10YR3/2 黒褐色 しまりやや密、粘性やや強 焼土(φ2~5mm)10% 上位に多い  
 4.10YR3/3 暗褐色 しまり密、粘性やや強 焼土(φ1~3mm)20%  
 5.10YR3/3暗褐色と焼土ブロックの混合土 しまり非常に密、粘性やや強 壁体か  
 6.5YR8/3~6/8 淡橙色~橙色 しまりやや疎、粘性やや弱 ブロック状に堆積 黒褐色ブロック(φ2~30mm)30%、上面に炭化材と礫含む  
 7.10YR4/2 灰黄褐色粘質土 炭・焼土(φ1~3mm)10%、灰白色の灰20%  
 8.10YR4/2 灰黄褐色粘質土 炭・焼土(φ1~3mm)10%  
 9.10YR4/2 灰黄褐色粘質土 焼土(φ2~5mm)3%

**SL06**  
 1.10YR4/3 におい黄褐色 粘性やや弱 炭(φ2~5mm)3%、焼土ブロック15%  
 2.10YR4/2 灰黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 焼土ブロック(φ2~50mm)40%  
 3.10YR4/2 灰黄褐色 しまりやや密、粘性やや強 浅黄褐色ブロック(φ2~30mm)50%  
 4.10YR7/6 明黄褐色 しまり密、粘性弱  
 5.10YR3/2 黒褐色粘質土 しまりやや密、粘性強 上面に黒色土を層状に含む  
 6.10YR7/6 明黄褐色 しまり密、粘性弱 灰黄褐色ブロック30%  
 7.10YR4/2 灰黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 淡橙色~橙色焼土ブロック(φ2~50mm)含む  
 8.10YR3/2 黒褐色粘質土 しまり密、粘性強 底面構築土  
 9.2.5Y4/6~6/8 赤褐色~橙色 被熱による変色層  
 10.10YR2/2 黒褐色 粘性やや強 炭(φ2~10mm)2%、黄橙~赤色ブロック(φ2~20mm)、灰白色ブロック(φ10~50mm)各5% 前庭部堆積土

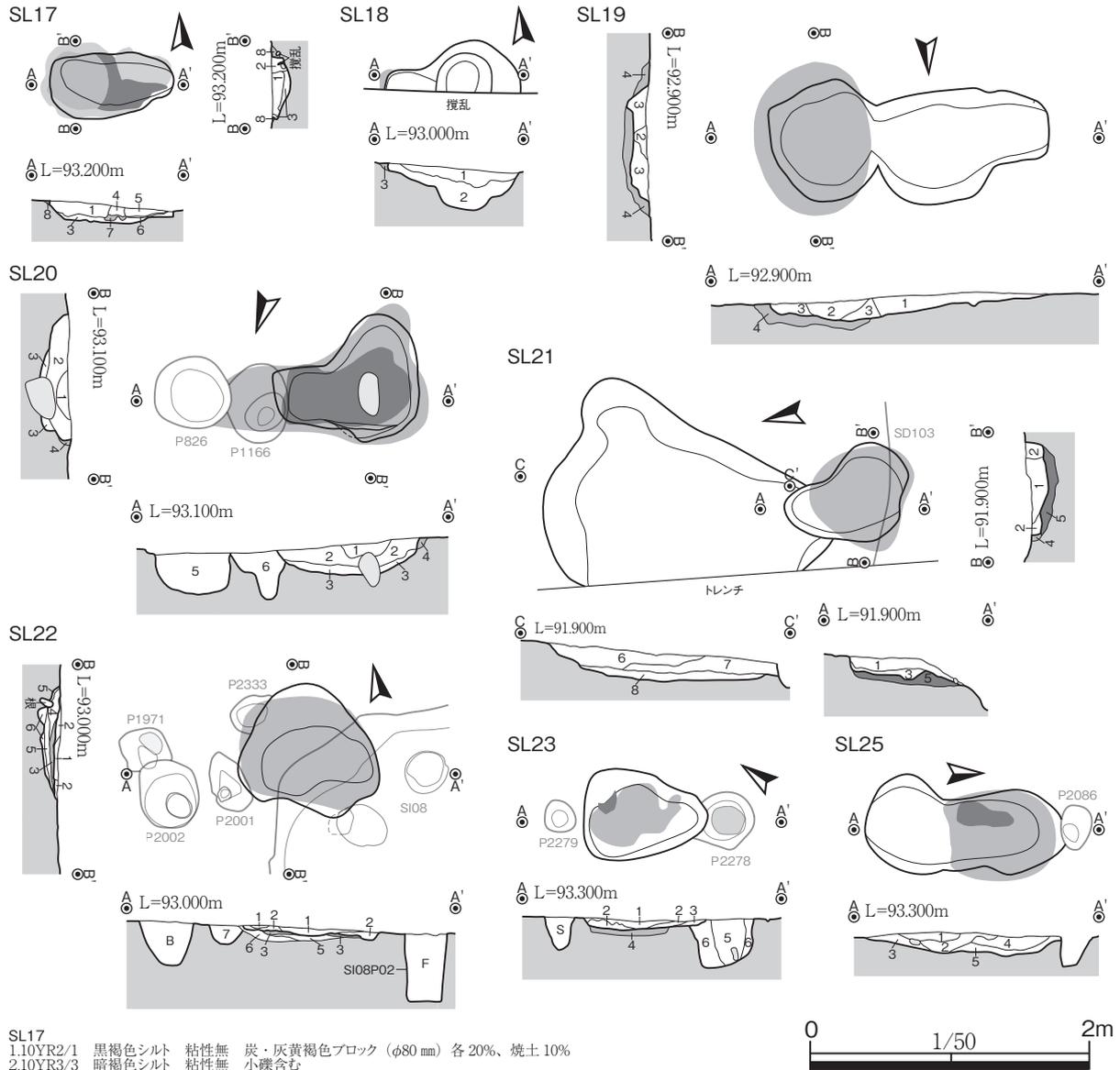
**SL07, P809**  
 1.柱穴土層パターンD  
 2.柱穴土層パターンB  
 3.10YR4/2 灰黄褐色 しまりやや疎  
 4.10YR3/2 黒褐色 赤色・黄褐色ブロック(φ2~50mm)40% 焼土の二次堆積  
 5.10YR4/3 におい黄褐色 しまりやや密、粘性やや強 黄褐色ブロック(φ2~10mm)20%、小礫含む  
 6.10YR2/2 黒褐色 しまりやや密、粘性強 赤色・黄褐色ブロック(φ2~5mm)各2%  
 7.10YR2/2 黒褐色 しまりやや密、粘性強 黄褐色ブロック(φ2~3mm)1%  
 ※1~2層がP809、3~7層がSL07堆積土

第 61 図 SL01~07

2 検出遺構



第 62 図 SL08~16



**SL17**  
 1.10YR2/1 黒褐色シルト 粘性無 炭・灰黄褐色ブロック(φ80mm)各20%、焼土10%  
 2.10YR3/3 暗褐色シルト 粘性無 小礫含む  
 3.10YR2/3 黒褐色 しまりやや密、粘性強 暗赤褐色焼土5%  
 4.10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 橙色粘土ブロック3%  
 5.10YR4/6 褐色粘土質シルト 粘性弱 赤褐色焼土30%、橙色粘土ブロック10%  
 6.10YR2/1 黒褐色シルト 粘性無  
 7.5YR3/4 暗赤褐色焼土 粘性無 二次堆積  
 8.5YR5/8 明赤褐色焼土 しまり密、粘性無 現地性

**SL18**  
 1.10YR3/2 暗褐色シルト 粘性無 明赤褐色焼土ブロック(φ10mm)1%  
 2.10YR4/4 褐色シルト 粘性弱 西側に明赤褐色焼土ブロック(φ1~5mm)30%、黒褐色ブロック40%  
 3.5YR5/6 明赤褐色焼土 しまり密、粘性無 現地性

**SL19**  
 1.10YR3/3 暗褐色 しまり密、粘性無 前庭部堆積土  
 2.10YR3/2 暗褐色 しまりやや疎、粘性無 炭(φ1mm)・焼土ブロック各1%  
 3.10YR3/3 暗褐色 しまり密、粘性無 赤褐色焼土・橙色粘土ブロック(φ2~20mm)併せて30%  
 4.5YR4/6 赤褐色焼土 しまり密、粘性無 現地性

**SL20、P826・1166**  
 1.10YR3/2 黒褐色 しまり密 炭・明赤褐色焼土ブロック(φ5mm)各2%  
 2.10YR3/2 黒褐色 しまり密、粘性弱 炭5%、明赤褐色焼土ブロック(φ5mm)50%、明赤褐色ブロック1%  
 3.10YR3/2 黒褐色 しまりやや密、粘性弱 炭50%、礫2%、褐色砂質ブロック30%  
 4.5YR4/6 赤褐色焼土 しまり密、粘性弱 現地性  
 5.柱穴土層パターンS 炭2%  
 6.柱穴土層パターンT 炭1%、礫2%  
 ※1~4層がSL20、5層がP825、6層がP1166堆積土

**SL21**  
 1.10YR3/2 黒褐色 しまり密、粘性やや弱 灰白色ブロック(φ10mm)2%  
 2.5YR5/8 明赤褐色 しまり密、粘性弱 焼土ブロック30%  
 3.2.5YR5/8 明赤褐色 しまりやや密  
 4.5YR4/6 赤褐色焼土 しまり密 現地性  
 5.10YR1.7/1 黒色炭化物層 炉の下部構造か  
 6.10YR3/2 黒褐色 しまり密、粘性やや有 礫2% 前庭部堆積土  
 7.10YR4/4 褐色 しまりやや疎、粘性やや有 炭2%、黒褐色ブロック(φ2~10mm)10% 前庭部堆積土  
 8.10YR3/2 黒褐色 しまり密、粘性やや強 炭20%、焼土1% 前庭部堆積土

**SL22、P2001**  
 1.10YR5/2 灰黄褐色 粘性弱 炭(φ1~3mm)2%、灰(φ2~5mm)20%  
 2.10YR5/2 灰黄褐色 しまりやや密、粘性やや弱 焼土ブロック40%  
 3.2.5YR5/4 にぶい赤褐色焼土 しまりやや密、粘性やや強 現地性  
 4.10YR3/2 黒褐色 しまりやや密、粘性強 焼土(φ2~5mm)1% 下部構造  
 5.10YR4/1 褐色 粘性やや強 下位に黒色炭化物を層状に含む 下部構造  
 6.10YR6/2 灰黄褐色砂質土 粘性やや弱 黄褐色地山ブロック(φ2~10mm)15% 下部構造  
 7.柱穴土層パターンC  
 ※1~6層がSL22、7層がP2001堆積土

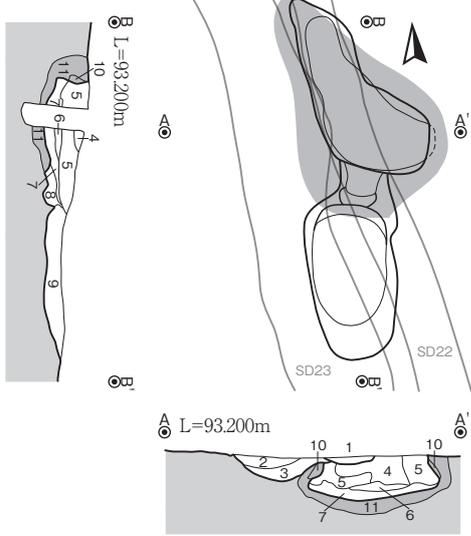
**SL23、P2278**  
 1.10YR3/1 黒褐色シルト 炭・地山ブロック(φ10mm)各10%  
 2.10YR3/1 黒褐色シルトと5YR5/8明赤褐色焼土ブロックの混合土 炭5%  
 3.10YR2/2 黒褐色シルト しまりやや密  
 4.5YR4/4 にぶい赤褐色焼土 現地性  
 5.柱穴土層パターンE 柱痕跡  
 6.柱穴土層パターンT  
 ※1~4層がSL23、5・6層がP2278堆積土

**SL25**  
 1.10YR7/3 にぶい黄褐色 しまりやや密 焼土(φ2~10mm)5%  
 2.10YR2/2 黒褐色 粘性やや強 大型焼土ブロック30%、灰(φ2~10mm)3%  
 3.10YR6/2 灰黄褐色 しまりやや密 炭10%、焼土(φ2~5mm)3% 底面付近に酸化鉄集中  
 4.10YR1.7/1 黒色炭化物層 焼土(φ2~20mm)2%、灰黄褐色ブロック10%  
 5.10YR5/2 灰黄褐色粘質土 しまりやや密、粘性やや強 炭・焼土(φ2~20mm)各5% 炉底面構築土

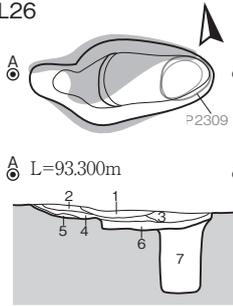
第63図 SL17~23・25

2 検出遺構

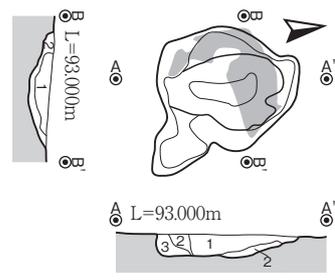
SL24



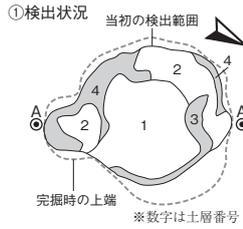
SL26



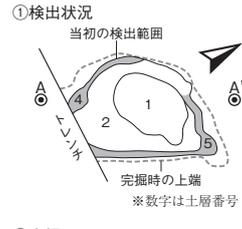
SL28



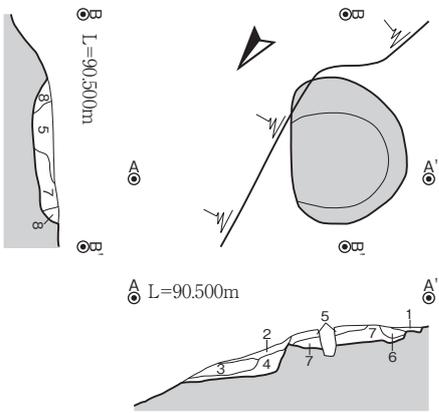
SL27



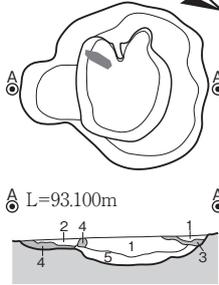
SL29



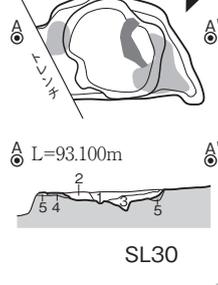
SL31



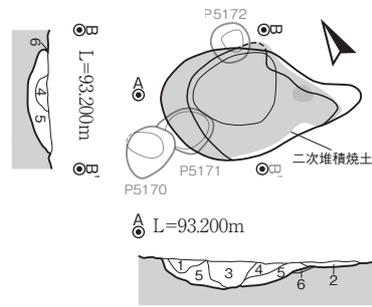
②完掘



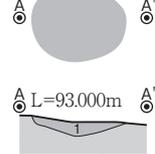
②完掘



SL33



SL30



SL24、SD22・23

- 1.10YR5/2 灰黄褐色 粘性やや弱 炭(φ1~3mm)1%
  - 2.10YR3/2 黒褐色 粘性やや弱 炭(φ1~2mm)、黄橙色ブロック(φ1~5mm)各1%
  - 3.10YR4/2 灰黄褐色 粘性やや弱 下位に焼土含む
  - 4.10YR4/2 灰黄褐色 炭・焼土(φ1~3mm)各1%、明黄褐色砂5%
  - 5.7.5YR5/1 褐灰色 焼土ブロック20%、上に灰白色の灰含む
  - 6.10YR6/4 にぶい黄橙色砂質土 しまり疎、粘性弱 炭(φ5~20mm)10%
  - 7.10YR1.7/1 ~3/1 黒~黒褐色炭化物層 しまり疎、粘性弱 炉壁・焼土各2%
  - 8.10YR2/1 黒色 しまり疎、粘性やや弱 焼土(φ1~5mm)・小礫各2%
  - 9.10YR3/2 黒褐色 炭・灰(φ5~10mm)各2%、焼土(φ5~20mm)10% 前庭部堆積土
  - 10.2.5Y6/8 橙色焼土 しまり密、粘性やや弱 現地性
  - 11.2.5Y6/6 ~5/4 橙~にぶい赤褐色焼土 粘性やや弱 現地性
- ※1層がSD22、2・3層がSD23、4~11層がSL24堆積土

SL26、P2309

- 1.10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 焼土1~3%
  - 2.7.5YR6/8 橙色シルト 粘性弱 焼土ブロックの集積
  - 3.10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 焼土ブロック30~50%
  - 4.10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 焼土ブロック10%、炭化材多量
  - 5.7.5YR6/8 橙色シルト 粘性弱 焼土ブロックの集積
  - 6.7.5YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱 底面の掘り方
  - 7.柱土層ハブーンS
- ※1~6層がSL26、7層がP2309堆積土

SL27

- 1.10YR4/2 ~5/2 灰黄褐色 焼土(φ2~5mm)1%
- 2.10YR3/2 黒褐色 しまりやや疎 焼土ブロック(φ2~30mm)10%
- 3.10YR3/2 黒褐色 橙色ブロック20% 壁面崩落土
- 4.10YR3/2 黒褐色と5YR6/6 橙色の混合土 しまりやや密 橙色焼土ブロック状に含む
- 5.10YR2/2 黒褐色 しまりやや密、粘性やや強 大型の炭化物と明黄褐色粘土ブロック含む

SL28

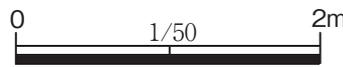
- 1.10YR4/2 ~5/2 灰黄褐色 炭(φ2~10mm)・小礫各1%、焼土2%
- 2.10YR4/2 灰黄褐色 焼土ブロック(φ5~50mm)30%、小礫1%
- 3.10YR4/2 灰黄褐色 SD106付近に焼土ブロック(φ2~20mm)10%

SL29

- 1.10YR4/2 ~5/2 灰黄褐色 炭(φ2~10mm)2%、焼土ブロック1%
- 2.10YR4/2 灰黄褐色 しまり疎、粘性弱 焼土ブロック(φ2~20mm)50%
- 3.10YR4/2 ~5/2 灰黄褐色 1層に大型の炭と明黄褐色粘土ブロック含む
- 4.5YR6/4 ~6/6 にぶい橙色~橙色焼土 しまりやや密、粘性やや弱 現地性
- 5.5YR5/3 にぶい赤褐色焼土 しまりやや密 現地性だが熱変成弱い

SL30

- 1.5YR5/8 明赤褐色 しまり密、粘性無 灰黄褐色ブロック(φ10mm)5%



SL31

- 1.10YR6/3 にぶい黄橙色砂質土
- 2.10YR5/2 灰黄褐色 炭・焼土(φ2~5mm)各5%
- 3.10YR5/2 灰黄褐色 明黄褐色ブロック(φ2~10mm)15%
- 4.10YR4/2 灰黄褐色砂質土 粒子粗い
- 5.10YR2/2 黒褐色と10YR4/3~5/3にぶい黄褐色の混合土 しまりやや疎 炭(φ2~20mm)・焼土(φ1~5mm)各3%
- 6.10YR4/3 ~5/3 にぶい黄褐色 橙色焼土ブロック30%、礫10% 壁面崩落土
- 7.10YR1.7/1 ~2/1 黒色炭化物層 しまり疎、粘性弱 黄褐色ブロック(φ1~3mm)5%
- 8.10YR4/3 ~5/3 にぶい黄褐色 橙色焼土ブロック50% 壁面崩落土

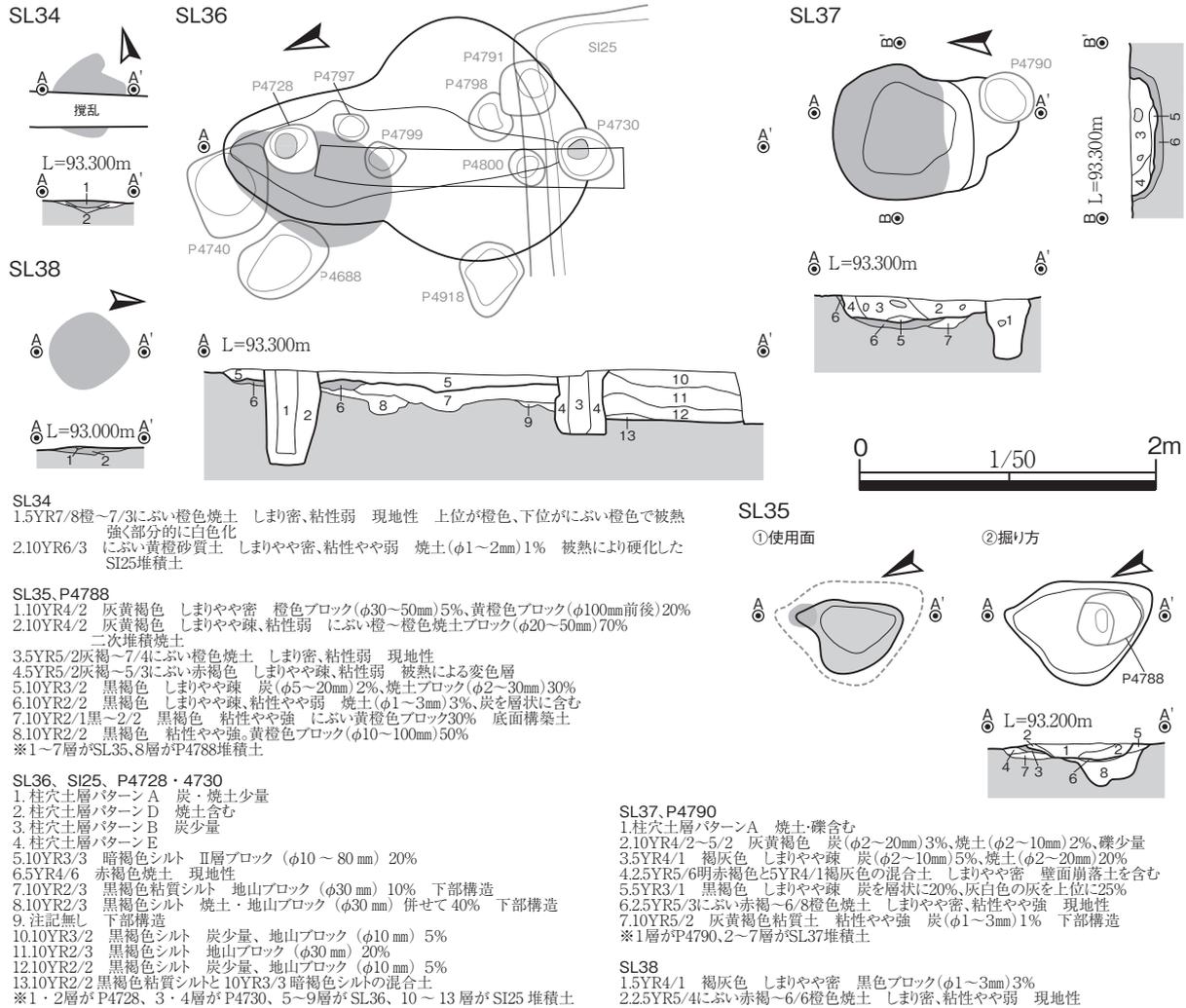
SL32

- 1.10YR6/2 灰黄褐色 しまりやや密、粘性弱 焼土ブロック10%、灰白色の灰40%
- 2.10YR4/2 灰黄褐色 しまりやや密、粘性弱 被熱による硬化範囲
- 3.5YR6/4にぶい橙~6/6橙色焼土 しまり密、粘性弱 現地性 上位は被熱によりブロック状
- 4.10YR4/2 灰黄褐色 しまりやや密、粘性弱 焼土(φ1~5mm)10%

SL33

- 1.7.5YR4/2 灰褐色 しまりやや密 炭(φ2~5mm)1%
- 2.7.5YR5/2 灰褐色 焼土ブロック(φ5~30mm)15%、礫少量
- 3.10YR2/2 黒褐色 炭・焼土(φ1~3mm)各1%
- 4.10YR2/2 黒褐色 炭(φ2~10mm)1%、焼土(φ2~10mm)5%
- 5.10YR2/2 黒褐色 しまりやや疎 二次堆積焼土ブロック60% ブロックの入り方は疎密あり
- 6.2.5YR3/2 極赤褐色焼土 しまりやや密、粘性やや弱 現地性

第64図 SL24・26~33



第 65 図 SL34～38

(6) 井 戸

SE01 (第 2-66 図、写真図版 2-98)

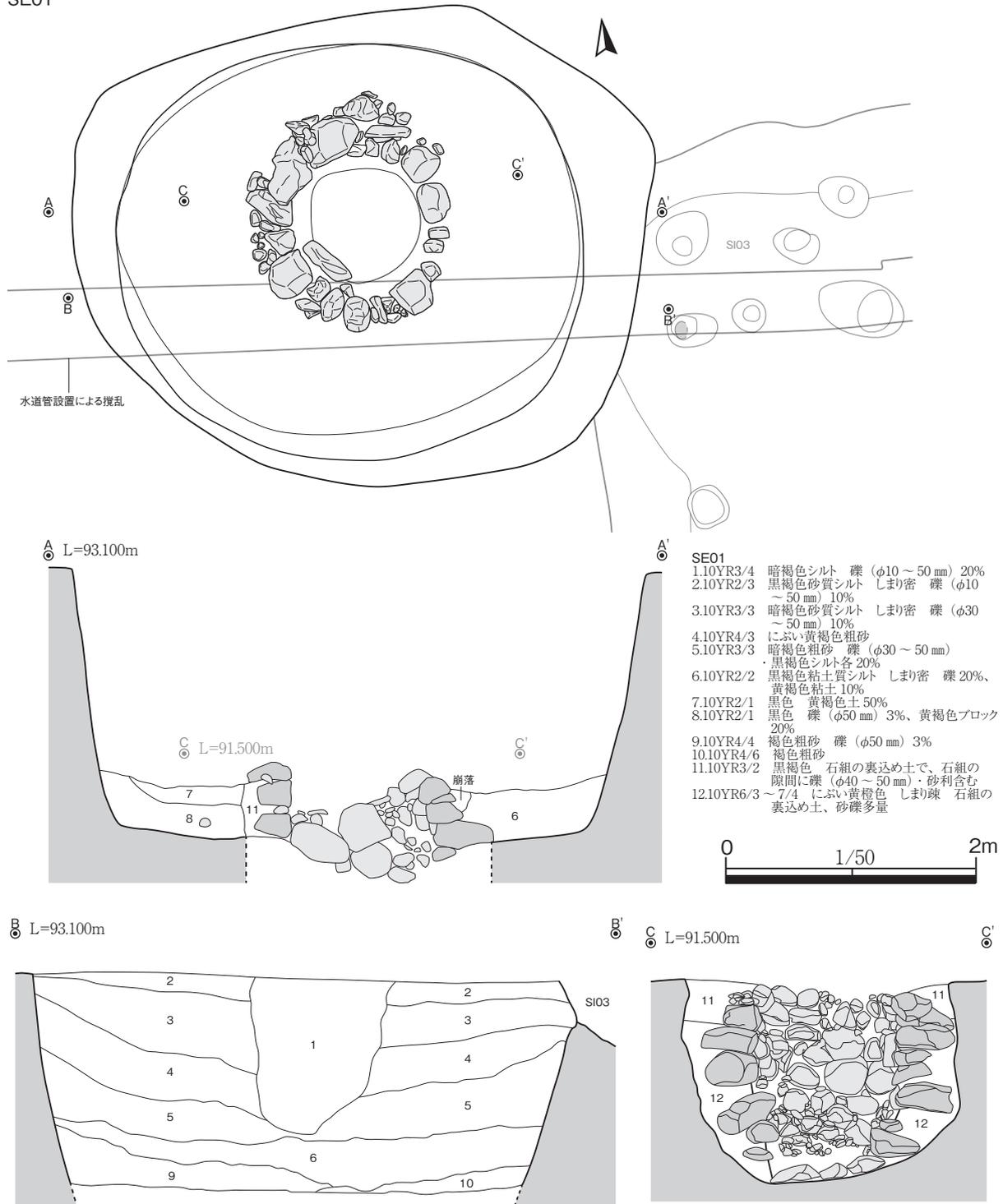
Ⅱ A21h グリッドに位置する。R-Ⅱ～Ⅲa 層上面で、東西方向に走る水道管理設痕を除去したところ、大型の礫を含む黒褐色で直径 1.5 m 前後の円形プランとそれより規模の大きい暗褐色の円形プランとして検出した。当初は大型の土坑と考えていたが、精査の結果、石組の井戸であることが判明した。SI03、SD30・34 と重複しており、いずれも本遺構より古い。掘り方は東西方向に長い楕円形で、上面規模は 4.55×3.8 m である。検出面からの深さは 2.15 m で、R-V 層まで掘り込んでいる。壁面はわずかに外方に開きながら立ち上がり、底面はほぼ平坦である。石組は、検出面から約 1.7 m の深さで大小の礫が集中する状況で検出した。当初はプランの把握ができなかったが、礫を数点除去したところ大型の礫が円形に配置されている状況が確認されたことから、石組の井戸枠であると判断した。井戸枠は掘り方底面のほぼ中央を直径約 2 m の円形に掘り込み、その内側に礫を積み上げることで構築している。検出した石組頂部からの深さは約 1.9 m で、石組は 9 段確認した。枠に使用された礫は自然礫で、長さ 0.3～0.5 m、高さ 0.1～0.25 m と大きさは様々であるが、小口面を揃えるように組まれている。また、大礫の隙間には小礫を裏込めとして充填している。なお、内部にも大型の礫が複

2 検出遺構

数落ち込んでいたことから、井戸枠は検出した礫の頂部よりも数段高い位置まで組まれていたと考えられる。堆積土は黒～暗褐色土が主体で、12層に分層した。6層以下が裏込め等の構築土で、それより上位は廃絶後の堆積と考えられる。掘り方の規模が大きい為人為堆積により埋め戻された可能性もあるが、地山ブロック等の混和物は少ない。遺物は4～6層から陶磁器が110.6g出土しているのみで、3点（須恵器系・中国）を掲載した（b175～177）。

本遺構は、大型の掘り方を有する石組の井戸である。年代は、出土遺物は乏しいが中世の竪穴建物（SI03）壊していることから近世以降に掘削・使用されたと考えられる。

SE01



第66図 SE01

## (7) その他

前節までに記載した遺構と異なる特徴を有するものを一括した (SX01～09)。以下では個別に記載を行う。

## SX01～04 柱穴列 (第 2-67 図、写真図版 2-99・100)

Ⅱ A22j～1・23 k グリッドに位置する。R-Ⅱ層上面で、多数の柱穴が重複する状況で検出された。柱穴が列状に配置された遺構であり、規模や主軸方位がほぼ同じであることから同一の意図を持って構築されたものと考えられる。他の掘立柱建物や柱列と異なり柱穴間の間隔が均等でないことから不明遺構としたが、目隠し等の柵列であった可能性もある。北端は現代の水道管理設により壊されており、この部分まで柱穴が存在していたかは不明である。

SX01 は 9 個の柱穴 (P2106・2139・2413・2159・2374・2376・2379・2382・2386) で構成され、全長は 5.1 m、主軸方位は N-4°-W である。柱穴の間隔は 5～42cm で、重複するものは P2139・2159 のみである。堆積土は上位に黒褐色土、中～下位ににぶい黄褐～黄橙色土が確認されるものが多い。また、P2374・2379 は上面を削平されており、その上部には人為堆積の可能性のある粘性の高い黒褐色土等が確認されている。

SX02 は 9 個の柱穴 (P2107・2138・2144・2160・2375・2377・2380・2384・2385) で構成され、全長は 5.1 m、主軸方位は N-6°-W である。全ての柱穴が SX01 の柱穴と重複しており、本遺構のほうが古い。柱穴の間隔は 5～42cm で、P2107・2375 のように接する部分もある。堆積土は、灰黄褐～にぶい黄褐色土が主体である。

SX03 は 9 個の柱穴 (P1242・1246・1247・1271・2018・2154・2156・2157・2158) で構成され、全長は 3.45 m、主軸方位は N-6°-W である。柱穴の間隔が離れる部分は無く、南北に位置する柱穴と重複関係にある。堆積土は、灰黄褐～にぶい黄褐色土の単層である、

SX04 は、8 個の柱穴 (P1241・1988・1990・2051・2052・2148・2149・2150) で構成され、全長は 3.3 m、主軸方位は N-4°-W である。柱穴の間隔は 5～20cm で、P2051・2052 のように 2 個が重複するものもある。堆積土は、灰黄褐～にぶい黄褐色土の単層である。

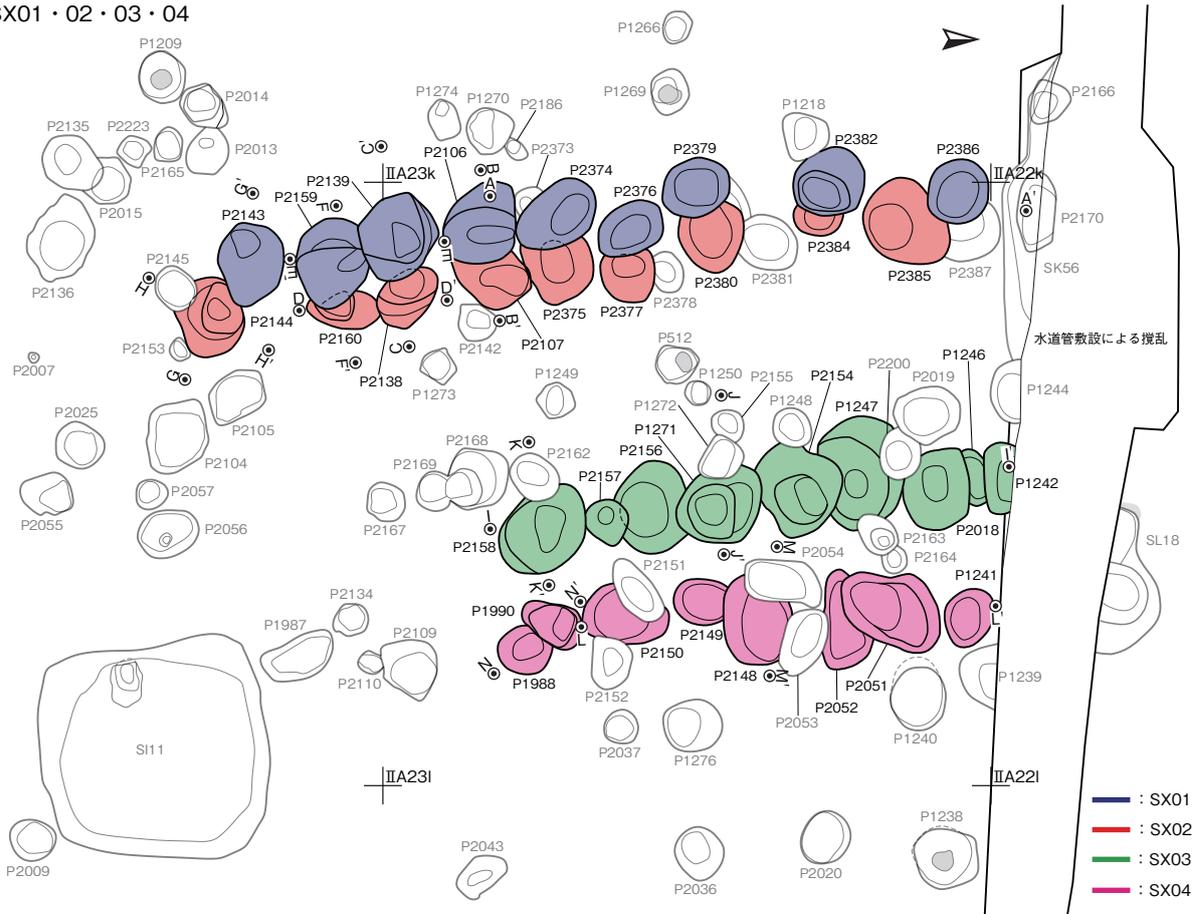
年代については出土遺物が無く、他遺構との重複関係も乏しい為不明である。規模と主軸方向から SX01 と 03、SX02 と 04 が対になっていたと考えられ、これらが仮に柵列であったとすればまず SX02・04 が構築され、次に SX01・03 に造り替えられたものと考えられる。

## SX05 竪穴状遺構 (第 2-68 図、写真図版 2-101)

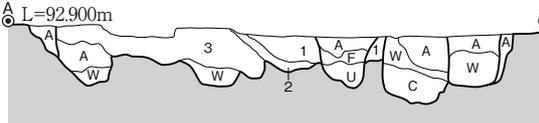
Ⅱ A20 k・1 グリッドに位置する。R-Ⅱ層上面で、楕円形の黒褐色の楕円形プランとして検出した。SI05、SB12 (P1184) と重複しており、いずれも本遺構より古い。縄文時代の竪穴建物の可能性も考えられたが、中世に属する竪穴建物や掘立柱建物より新しく、壁面や床面の形状が不定形であることから竪穴建物からは除外した。平面形は東西に長い楕円形で、主軸方位は N-85°-E である。上面規模は 4.3×2.7 m、深さは 0.53 m である。R-Ⅲa 層まで掘り込んでおり、壁面は大きく外方に開きながら立ち上がる。床面はわずかに凹凸がみられるが、ほぼ平坦である。付属施設は確認されなかったが、西壁付近は床面より一段高くテラス状になっている。堆積土は黒褐色土が主体で、7 層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。遺物は堆積土中から出土しており、土器 (かわらけ) 3 点、陶磁器 (渥美・瀬戸美濃・中国) 4 点、石器 (敲磨器) 1 点、金属製品 (鑊子・釘・板状等) 5 点を掲載した (a344～346、b178～181、c177、d166～170)。

2 検出遺構

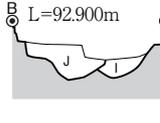
SX01・02・03・04



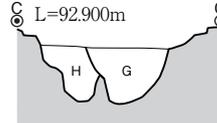
SX01・02



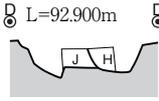
P2106・2107



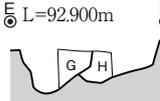
P2138・2139



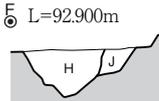
P2138・2160



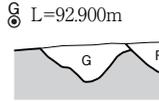
P2139・2159



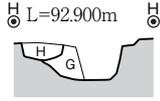
P2159・2160



P2143・2144



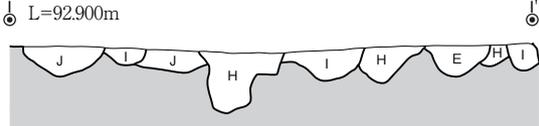
P2144・2145



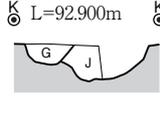
SX01・02 (A-A')

1.10YR3/4 暗褐色粘土質シルト 焼土・土器片含む  
 2.10YR5/4 に近い黄褐色粘土 しまりやや疎、粘性やや強 黒褐色ブロック 20%  
 3.10YR2/3 黒褐色粘質シルト 炭1%、黄褐色ブロック (φ30mm) 5%

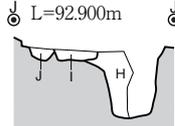
SX03



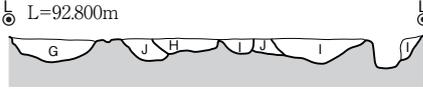
P2158・2162



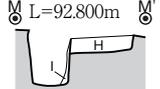
P1271・1272・2155



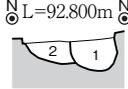
SX04



P2054・2148



P1988・1990



※各柱穴の土層パターンは第8表を参照

第67図 SX01~04

本遺構は竪穴状に掘り込まれているが、平面形が他の竪穴建物と異なり、柱穴等も検出されていないことから上屋構造を有するものであったかは不明である。年代は、出土遺物の年代観及び他遺構との重複関係から中世以降と考えられるが、性格は不明である。

#### SX06 不明遺構 (第 2-68 図、写真図版 2-102)

II A13・14 k グリッドに位置する。検出面は R-II 層上面で、黒褐色の楕円形プランとして検出した。SB26 と重複関係にあり、本遺構のほうが新しい。また、SB31・34 とも重複しているが、直接的に重複する柱穴が無く、新旧関係は不明である。平面形は南北に長い楕円形で、上面規模は 2.3×1.5 m である。底面は平坦ではなく、中央部が浅く南北側が深くなっている。なお、底面の状況から複数の重複する土坑である可能性も考慮したが、堆積土が一連であることから単一の遺構と判断した。検出面からの深さは、中央部が 0.15 m、南北側が 0.35 m 前後である。堆積土は黒褐色土が主体で、6 層に分層した。壁面付近に崩落土と考えられる自然堆積 (4・5 層) があるが、大部分は地山ブロックを含む人為堆積である。遺物は、堆積土中から土器 62.2 g と金属製品 1 点が出土したのみである。このうち、金属製品 (不明) 1 点を掲載した (d171)。

本遺構は土坑状に掘り込まれているが、性格は不明である。また、出土遺物や他遺構との重複関係も乏しいが、SB26 より新しいことから近世以降に掘削されたものと考えられる。

#### SX07 竪穴状遺構 (第 2-68 図、写真図版 2-102)

I A7h~8i グリッドに位置する。R-II 層上面で灰褐色の方形プランとして検出した。南壁南東側が張出しており、当初は中世の竪穴建物と考えて精査を開始したが、堆積土中から近現代の遺物が出土し、底面直上から円礫が多量に出土したことから竪穴建物から除外した。SB101 (P4910)・108 (P4858)・130 (P4864) と重複しており、いずれも本遺構より古い。平面形は南北に長い長方形で、先述の通り南壁南東側に張出しを有する。主軸方位は N-5°-W、規模は 5.2×2.7 m である。R-II 層中で掘り込みは終わっており、壁面は外方に開きながら立ち上がる。底面は中央付近が若干低くなっており、深さは 0.25 m 前後である。底面には φ 10~30cm 程度の円礫が広範囲に敷設されていたが、用途は不明である。なお、堆積土はほぼ全域が灰褐色粘質土であったが、近現代の遺物が出土したことから断面図作成及び写真撮影は行っていない。遺物は円礫除去後の底面直上及び堆積土から出土しており、土器 (土師器・かわらけ)・金属製品 (煙管・板状) 各 2 点、陶磁器 (渥美・中国・肥前・相馬) 7 点を掲載した (a347・348、b182~188、d172・173)。

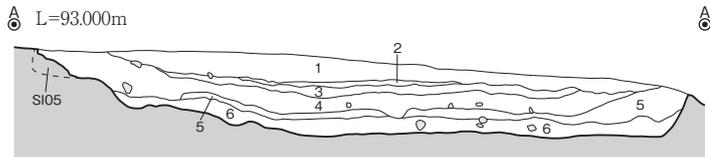
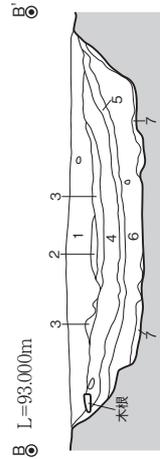
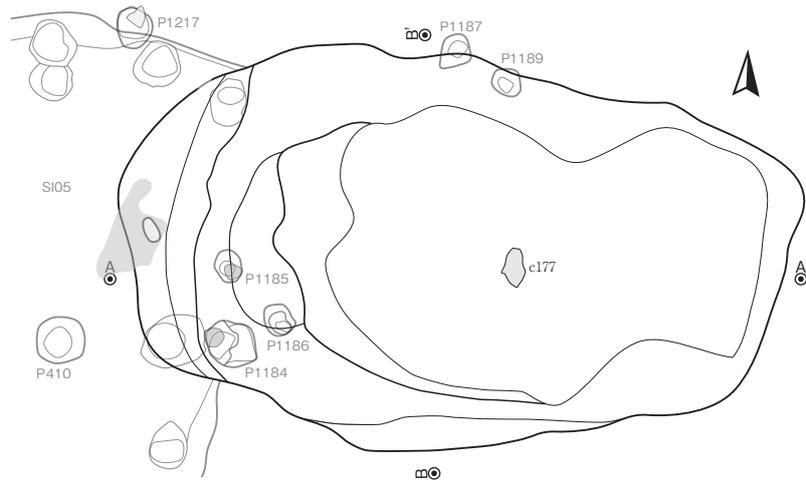
本遺構は、近現代に属する竪穴状の掘り込みである。張出しを有することから馬屋の可能性も考えられたが、馬の蹄に影響のある円礫の敷設を行っていることから不明である。

#### SX08・09 盛土整地 (第 2-69・70 図、写真図版 2-103)

SX08 は I A4f~5j グリッド、SX09 は I A6h~7j グリッドに位置する。調査区北端で R-II 層下位~IIIa 層にかけて遺構検出を行ったところ、地山ブロックを含む R-II 層に類似した灰褐~黒褐色土の範囲を検出した。周辺の R-II 層と異なりこの層の上面では遺構が確認できなかったことから、時代は不明であるが人為的な盛土範囲としてベルトを残しながら掘り下げを行った。堆積土中から現代の遺物が出土したことから結果として現代の宅地造成に伴う盛土層であることが確認されたが、近世以前の遺物も一定量出土していることから整地範囲として登録した。いずれも平面プランは東西に長い長方形で、SX08 の規模は東西 13.6 m、南北 5.0 m、高さは 0.2~0.28 m、SX09 の規模は東西 6.2 m、

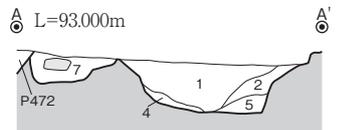
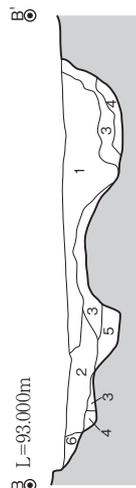
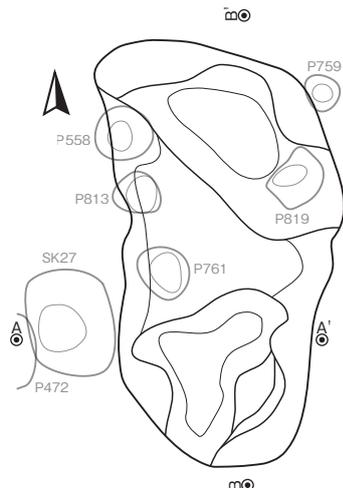
2 検出遺構

SX05



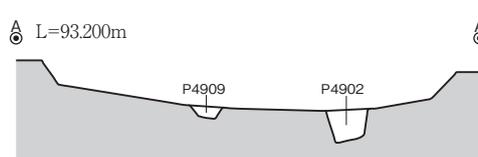
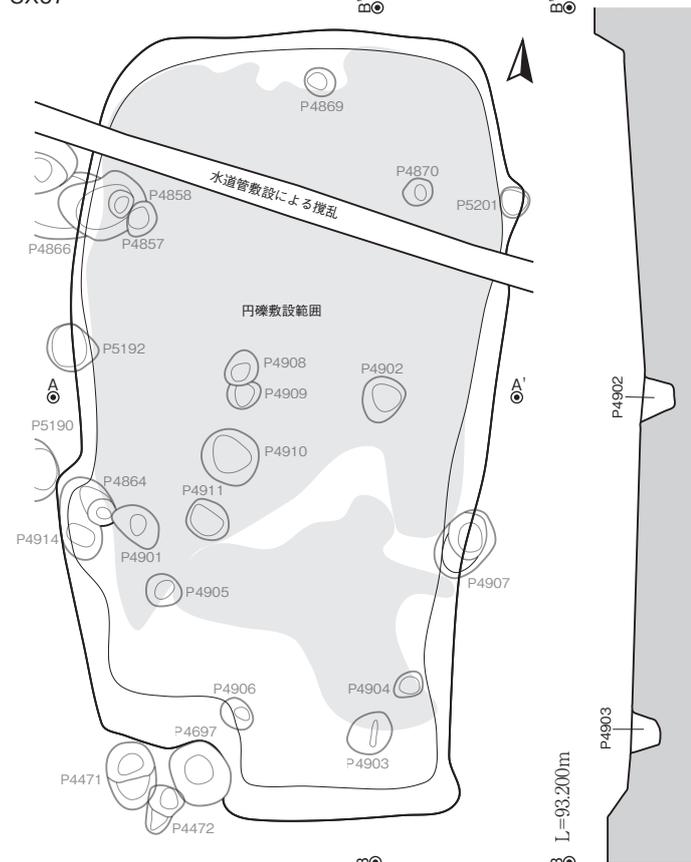
- SX05
- 1.10YR3/1 黒褐色シルト 粘性無 礫(φ10mm)含む
  - 2.10YR2/2 黒褐色シルト 粘性無 炭1%
  - 3.10YR4/4 褐色粘土質シルト 粘性弱
  - 4.10YR3/2 黒褐色シルト 粘性無 礫(φ30~50mm)
  - 5.10YR2/1 黒色シルト 粘性無 炭3%
  - 6.10YR3/3 暗褐色シルト 粘性無 炭3%、礫(φ30~50mm)含む
  - 7.10YR4/4 褐色粘土 しまり密、粘性無

SX06

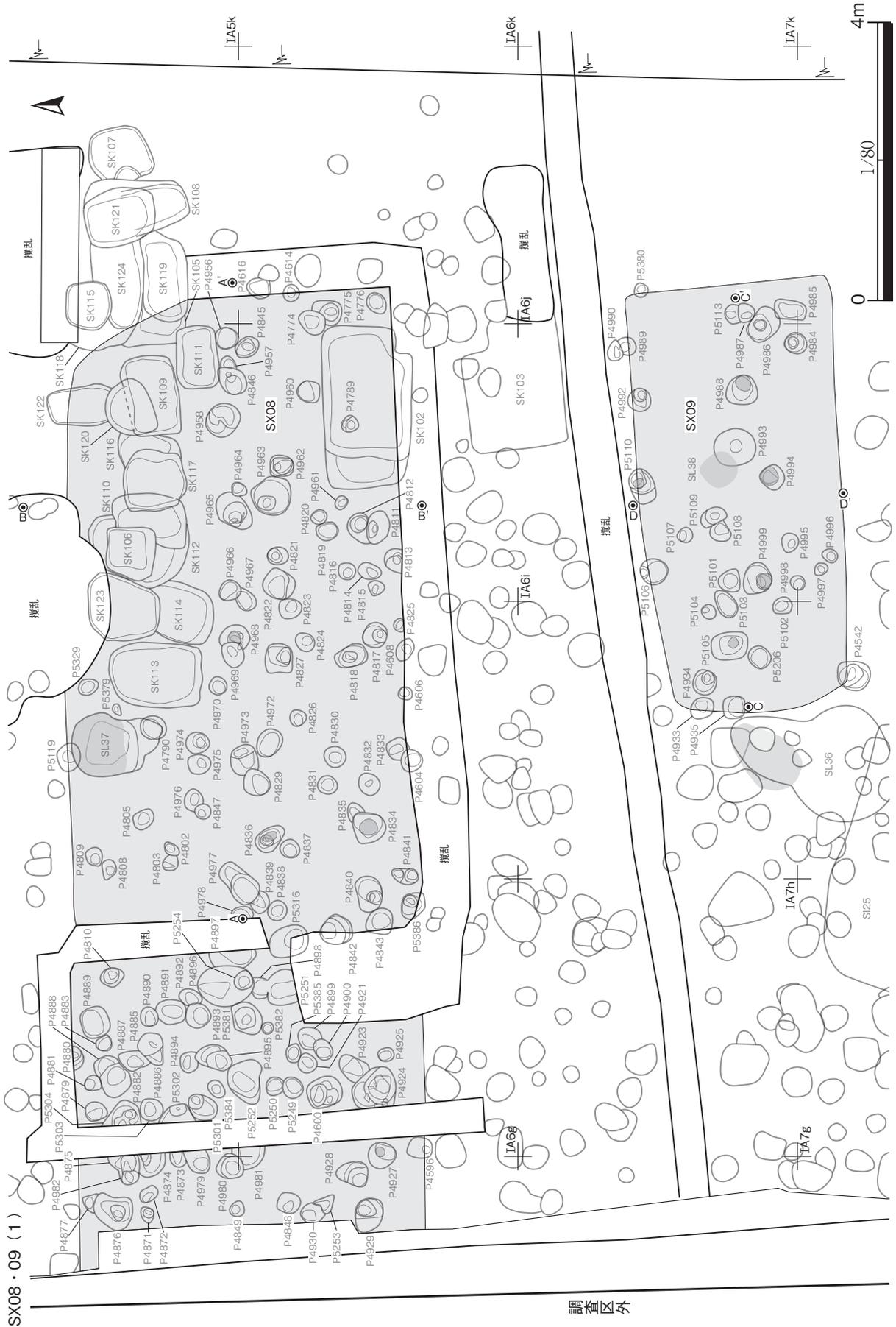


- SX06, SK27
- 1.10YR2/2 黒褐色 しまりやや密、粘性やや強 焼土(φ1~3mm)1%、黄褐色ブロック(φ2~30mm)10%
  - 2.10YR2/2 黒褐色 しまりやや密、粘性やや強 黄褐色ブロック(φ2~50mm)30%
  - 3.10YR7/8 黄褐色と10YR2/1黒色の混合土 しまりやや密、粘性強
  - 4.10YR5/2 ~ 5/3 灰黄褐色~こぶい黄褐色砂質土 しまり疎、粘性弱 黄褐色ブロック(φ2~5mm)3% 壁面崩落土
  - 5.10YR2/1 黒色粘質土 しまりやや密、粘性強
  - 6.10YR7/8 黄褐色 粘性やや強 壁面崩落土
  - 7.10YR3/2 黒褐色 しまりやや密、粘性やや強 黄褐色ブロック(φ2~10mm)10%
- ※1~6層がSX06、7層がSK27堆積土

SX07



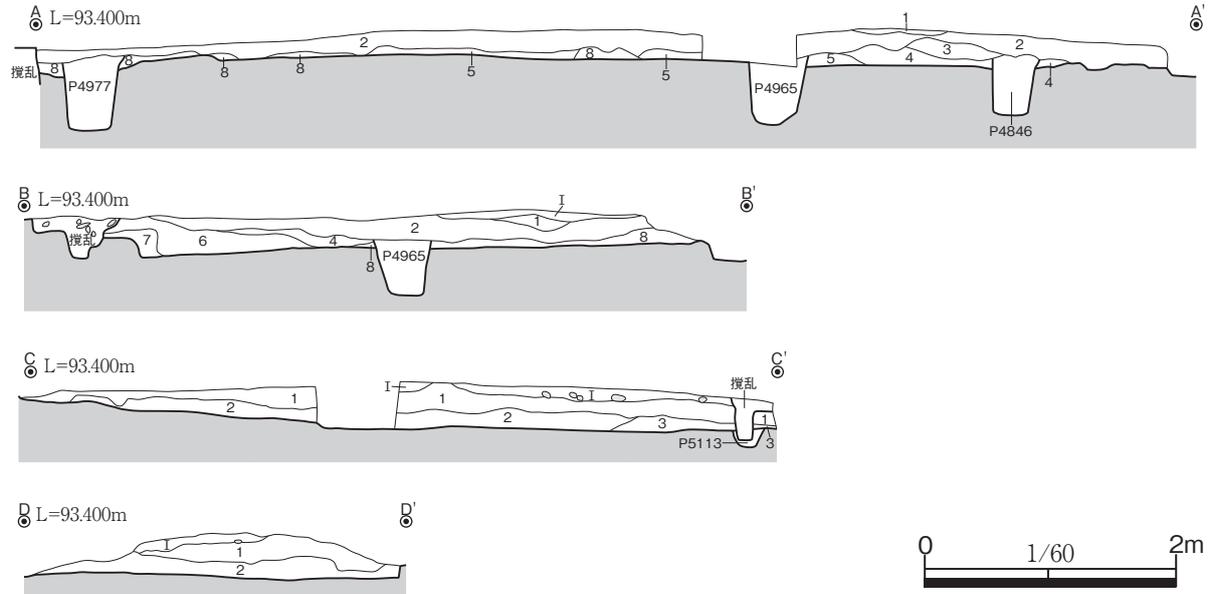
第 68 図 SX05~07



第 69 図 SX08・09 (1)

2 検出遺構

SX08・09 (2)



SX08 (A-A'・B-B')

- 1.10YR3/2 黒褐色 地山ブロック (φ5~10mm) 15%
- 2.10YR3/2 黒褐色 やや砂質 礫 (φ10~50mm)・地山ブロック (φ2~10mm) 各3%
- 3.10YR4/2 灰黄褐色 粘性やや強 Ⅲ層由来の黄橙色土 40%
- 4.10YR3/2 黒褐色 炭 (φ2~5mm) 1%、地山ブロック (φ2~10mm) 5%
- 5.10YR3/2 黒褐色 地山ブロック (φ2~10mm) 3%、黒色ブロック (φ2~10mm) 5%
- 6.10YR3/2 黒褐色 やや砂質 礫 (φ10~50mm)・地山ブロック (φ2~10mm) 各3%
- 7.10YR3/2 黒褐色 地山ブロック (φ10~30mm) 5%、黒色ブロック (φ5~30mm) 10%
- 8.10YR2/2 黒褐色粘質土 粘性やや強 地山ブロック (φ10~50mm) 20%

SX09 (C-C'・D-D')

- 1.10YR4/2~5/2 灰黄褐色 やや砂質 礫微量、地山ブロック (φ2~10mm) 3%  
水成堆積
- 2.10YR2/2~3/2 黒褐色 炭 (φ2~5mm) 2%、地山ブロック (φ2~20mm) 5%
- 3.10YR3/2 黒褐色 炭 (φ2~10mm) 3%、地山ブロック (φ5~30mm) 20%

第70図 SX08・09 (2)

南北2.9m、高さ0.2~0.35mである。遺物は、SX08では土器(かわらけ)1点、陶磁器(瀬戸美濃・中国・肥前・相馬等)12点、石器(楔形石器等)2点、金属製品(煙管・留金具・釘等)6点、銭貨(寛永通宝・一銭銅貨・一円玉)7点、ガラス製品3点(a349、b189~200、c178・228、d174~179、e62~68)、SX09では金属製品(釘)・銭貨(熙寧元宝)各1点(d180、e69)を掲載した。

年代は、SX08は1円玉(e62)が出土していることから1955(昭和30)年以降の造成であり、SX09も構築土がSX08とほぼ同じであることから同時期と考えられる。

(8) 掘立柱建物(第2-71~109図、写真図版2-104~138、第2-7~9表)

130棟検出した。本遺跡では第1分冊で報告した南日詰大銀Ⅱ遺跡や北日詰城内Ⅰ遺跡以上に柱穴の検出数が多かったことから、野外調査の段階から以下の方針で精査を行った。

1. 堆積土は色調と地山ブロックの混入量を基準としてパターン化し(第2-8表)、その他に特徴的な土質や混和物が確認された場合は別途記載した(付属CD第2-9表詳細版参照)。
2. 柱穴同士の重複が激しく、柱筋のエレベーションを作成できるものが少なかった為、断面図を作成したもののみ併せて掲載した。

検出地点・規模・使用柱穴等は第2-7表の通りで、ここでは分類・規模、建物方位、出土遺物について記載する。なお、分布や年代については第5節(2)で検討を加える。

建物の分類は、中村隼人による分類を使用した(第2-71図)。掘立柱建物の一般的な呼称としては総柱式建物・庇付建物・側柱式建物等があるが、今回使用する分類は身舎梁間の間数(=梁間の長さ)を基準としている為、同じ類型の中に複数の型式が含まれている。本報告での分類表記は第2-71図に記載しているが、個別の建物の記載に際しては上記の呼称を使用する場合がある。

1類は身舎梁間一間（1.5間（3.0m）以下）の建物で、12棟検出した（建物総数の9.2%、以下同じ）。このうち、SB01・94・102は総柱式建物である。全形が判明する建物の身舎面積は、8.46～22.0㎡である。身舎桁行は、総柱式のSB01・94を除き3または4間である。

2類は身舎梁間二間（1.5間（3.0m）以上2.5間（5.0m）以下）の建物で、今回認識できた類型の中で最も多い81棟を検出した（62.3%）。庇・下屋を持たない2.0類が63棟、一重の庇・下屋を持つ2.1類が18棟である。2.0類のうち、SB54・92・114・116は総柱式建物である。全形が判明する建物の身舎面積は、9.61～49.92㎡である。身舎桁行は、2～7間である。

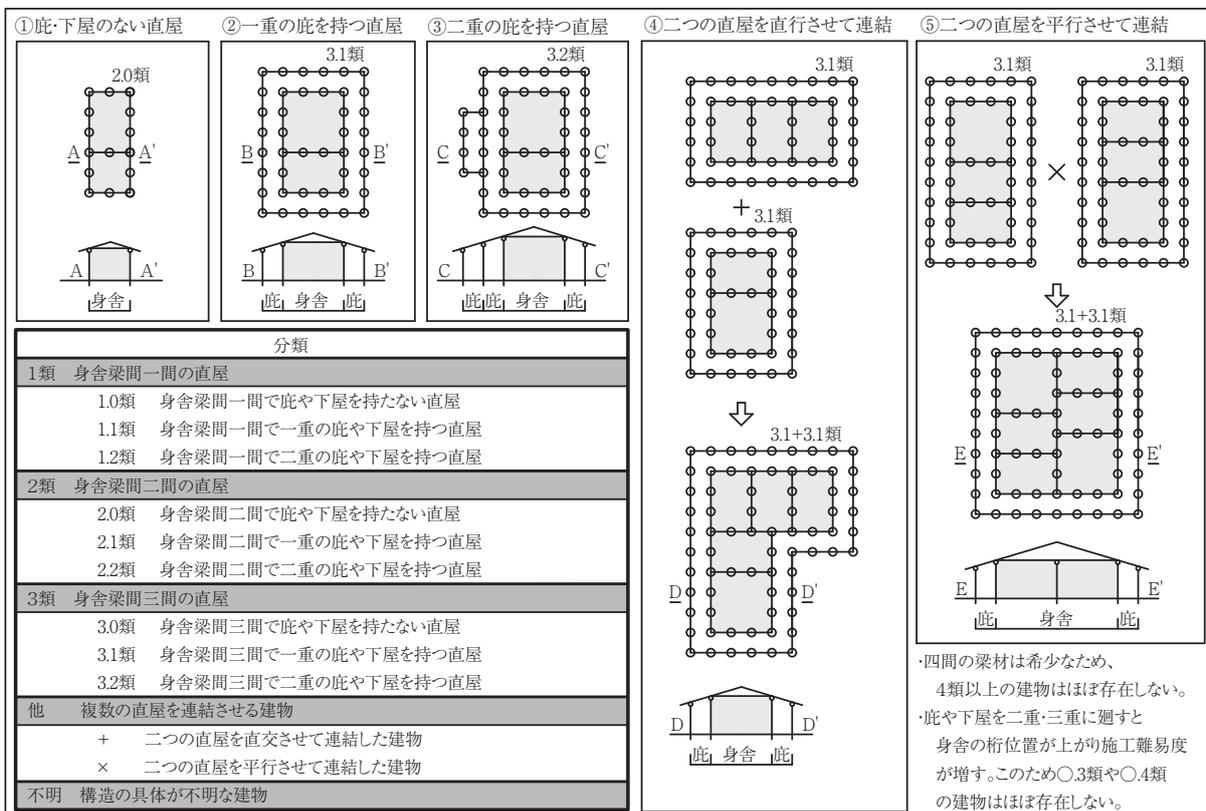
3類は身舎梁間三間（2.5間（5.0m）以上3.5間（7.0m）以下）の建物で、14棟検出した（10.7%）。3.0類と3.1類が各7棟である。3.0類のうち、SB58・76は総柱式建物である。全形が判明する建物の身舎面積は、27.6～46.02㎡である。

なお、2.1類と3.1類の庇・下屋は一面又は二面のものが多く、取付位置は東側（SB12等）、南側（SB15等）、西側（SB36等）、北側（SB38等）、東・南側（SB16等）等がある。

二つの直屋を連結する建物としては2.1×2.1類のSB26と3.2×2.2類のSB27がある。このうちSB27は、身舎面積が112.32㎡と今回検出した掘立柱建物のなかで最大である。柱穴使用数も68個と最も多く、本遺跡で唯一の二重に庇・下屋を持つ。SB26はSB27に次いで大きく、身舎面積99.54㎡、柱穴使用数38個である。なお、両建物については第5節（2）で詳述する。

その他とした建物には、1×1間の小型建物（SB06・07）と二本柱建物（SB08・09）がある。これらは曲輪Ⅲの南側、SD103付近のほぼ同一地点で検出されており、新旧関係はSB09→08→07→06である。第5節（3）で検討するが、1×1間のSB06・07は冠木門等、二本柱のSB08・09は棟門といった簡素な構造の門と考えられる。

一部が調査区外に至る、柱間が一定ではない等で類型不明とした建物は17棟検出した（13.1%）。このうちSB23・89は、未検出の部分もあるが総柱式建物と考えられる。



第71図 北条館跡掘立柱建物分類図

2 検出遺構

第7表 掘立柱建物一覧(1)

遺構名	グリッド (北西側)	分類	棟方向	主軸方位	身舎梁間		身舎桁行		身舎面積 (㎡)	最大長 (m)	他遺構との新旧関係 (右側が新しい、< >内は新旧不明)
					間数	長(m)	間数	長(m)			
SB01	Ⅲ A8f	1.0	南北	N-17°E	2	2.80	2	3.20	8.96	3.20	◎→SK10、SD02
SB02	Ⅲ A8f	2.0	東西	N-81°W	1	3.60	4	9.20	33.12	9.20	◎→SB04 <SK04・05、SD01・02、SL02~04>
SB03	Ⅲ A8f	2.0	東西	N-87°W	2	4.40	4	9.85	43.34	9.85	<SB01・02、SK04・05、SD01・02、SL02~04>
SB04	Ⅲ A8g	2.0	東西	N-87°W	2	4.30	4	8.10	34.83	8.10	SB02→◎ <SB01、SK04・05、SD01・02、SL02~04>
SB05	Ⅲ A8g	2.0	東西	N-85°W	1	4.80	4	10.40	49.92	10.40	<SB01~04、SK04・05、SD01・02、SL02~04>
SB06	Ⅲ A1i	その他	東西	N-11°E	1	2.30	1	2.00	4.60	2.30	SB07・08・09→◎
SB07	Ⅲ A1i	その他	東西	N-13°E	1	2.60	1	2.50	6.50	2.60	SB08・09→◎→SB06
SB08	Ⅲ A2i	その他	東西	N-13°E	1	1.70	0	-	-	1.70	SB09→◎→SB06・07
SB09	Ⅲ A2i	その他	東西	N-5°E	1	2.20	0	-	-	2.20	◎→SB06・07・08
SB10	Ⅱ A23j	3.1	東西	N-77°W	2	4.90	(4)	(6.10)	(29.89)	(6.10)	SD22→◎ <SK58、SL10>
SB11	Ⅱ A22j	2.0	南北	N-0°E	1	3.95	3	6.40	25.28	6.40	◎→SX03
SB12	Ⅱ A19j	2.1	南北	N-3°W	3	4.70	5	9.80	46.06	9.80	SI05→◎→SD15、SX05
SB13	Ⅱ A19j	2.0	東西	N-87°W	1	3.00	3	6.25	18.75	6.25	<SB12>
SB14	Ⅱ A18k	2.0	南北	N-3°W	2	4.40	3	5.60	24.64	5.60	◎→SD05 <SB12・13・124>
SB15	Ⅱ A18h	2.1	東西	N-85°E	2	4.15	4	8.10	33.62	8.10	◎→SB13 <SB12・18・123、SK59>
SB16	Ⅱ A18f	3.1	東西	N-85°E	3	5.50	(5)	(7.35)	(40.43)	(8.60)	SI12、SK125、SD13・28~30→◎ <SB15・17・18・123、SK59>
SB17	Ⅱ A17h	2.0	東西	N-87°E	2	4.00	4	6.85	27.40	6.85	<SB18、SK12、SL05・06>
SB18	Ⅱ A18h	2.1	東西	N-85°E	2	3.70	(5)	(9.80)	(36.26)	(9.80)	SK59、SD29・30→◎→SI17 <SB15>
SB19	Ⅱ A16h	2.1	東西	N-85°E	2	3.60	7	13.10	47.16	13.10	SI04、SB18、SD13・16・31、SL06・08→◎ <SB17・22>
SB20	Ⅱ A18l	2.0	東西	N-85°E	2	4.15	(2)	(1.70)	(7.06)	4.15	<SB21・124、SD36>
SB21	Ⅱ A17k	3.1	東西	N-86°W	3	5.70	(2)	(3.00)	(17.10)	5.70	◎→SB13 <SB20・124、SD36>
SB22	Ⅱ A17j	2.1	南北	N-5°W	2	4.10	3	6.05	24.81	7.20	◎→SB25、SD05 <SB14・17・19・124>
SB23	Ⅱ A16g	不明	東西	N-4°W	3	5.80	(5)	(8.05)	(46.69)	(8.05)	SK24・66、SD11・13、SL08→◎→SL05 <SB17・25・26>
SB24	Ⅱ A16h	2.0	南北	N-3°W	1	3.18	3	6.25	19.88	6.25	<SB19、SK25・66、SD12・13、SL05・07・08>
SB25	Ⅱ A16i	2.0	東西	N-88°E	2	3.05	4	7.25	22.11	7.25	SB23→◎→SB22・27、SD05・31 <SI04、SK17、SD16>
SB26	Ⅱ A13h	2.1×2.1	南北	N-5°W	4	7.90	6	12.60	99.54	13.30	SI04・07・08、SB27・34・125・126、SK22・40・48、SD16、SL09・22→◎→SX06 <SI09、SB19・25・31~33、SK13・14・16・18・21・27>
SB27	Ⅱ A11g	3.2×2.2	南北	N-77°W	5	9.60	6	11.70	112.32	15.70	SI14、SB38・125、SK40、SD13→◎→SI04、SB26・29・126、SK21、SD12、SL09 <SK14・16・18・20・70、SL23>
SB28	Ⅱ A15i	2.0	東西	N-90°E	2	4.00	3	4.85	19.40	4.85	SB125、SK48、SD16→◎→SI04 <SB25~27>
SB29	Ⅱ A13g	不明	東西	N-85°E	3	5.90	(2)	(2.00)	(11.80)	5.90	SB27、SK71、SD11→◎
SB30	Ⅱ A12i	2.0	南北	N-1°W	1	4.18	4	8.85	36.99	8.85	◎→SB26・27・40、SK40
SB31	Ⅱ A12k	2.0	南北	N-5°W	2	4.25	5	9.40	39.95	9.40	◎→SK42 <SB26・32・34・127、SK13・22・43、SX06>
SB32	Ⅱ A12k	2.0	東西	N-85°E	2	3.70	3	5.05	18.69	5.05	SK13→◎ <SB26・32・35~37・127、SK22>
SB33	Ⅱ A13i	2.0	東西	N-77°E	2	4.05	3	5.95	24.10	5.95	<SB26・27・30・34、SK16>
SB34	Ⅱ A13j	2.0	南北	N-1°E	1	4.10	3	6.60	27.06	6.60	SI08、SK40→◎→SB26、SX06 <SB31・32・125、SK14・18・27、SL22>
SB35	Ⅱ A10k	2.0	東西	N-86°E	2	3.90	3	6.70	26.13	6.70	◎→SB42、<SB38、SL26>
SB36	Ⅱ A11j	3.1	東西	N-90°E	2	4.90	3	6.50	31.85	6.20	SB38→◎ <SB26・31・32・35・127>
SB37	Ⅱ A11j	2.0	東西	N-89°E	2	4.90	4	8.40	41.16	8.40	SB26、SK22→◎ <SB27・31・32・35・36・38・127>
SB38	Ⅱ A11j	2.1	東西	N-85°E	2	4.45	5	9.00	40.05	9.00	SI14→◎→SB27・36、SL26 <SB127、SK14・16・18・20・70、SL23>
SB39	Ⅱ A12g	2.0	東西	N-80°E	2	3.70	4	7.35	27.20	7.35	<SB27・40・41、SD13>
SB40	Ⅱ A11h	2.0	東西	N-85°E	2	4.40	3	6.15	27.06	6.15	SI14、SB30→◎→SB27 <SB38・39>
SB41	Ⅱ A11i	2.0	東西	N-88°W	2	4.20	3	5.20	21.84	5.20	SI14→◎→SI13 <SB27・37・39・40・127>
SB42	Ⅱ A9k	3.1	東西	N-89°E	2	5.20	3	6.05	31.46	7.20	SI02、SB35→◎→SB43 <SK73>
SB43	Ⅱ A8k	不明	東西	N-90°E	1	6.45	(2)	(3.60)	(23.22)	6.45	SB42→◎ <SK73>
SB44	Ⅱ A9h	3.0	東西	N-87°E	2	5.25	5	8.40	44.10	8.40	SI15→◎、<SB45・47>
SB45	Ⅱ A9h	2.0	東西	N-85°E	1	3.10	3	6.25	19.38	6.25	<SB44・47>
SB46	Ⅱ A7i	2.1	東西	N-85°E	1	3.20	4	8.10	25.92	8.10	SD33→◎ <SB47・49・51・53・127、SK68・69>
SB47	Ⅱ A8g	2.0	南北	N-5°W	2	4.70	5	9.30	43.71	9.30	SI15、SK63、SD33→◎ <SB44~46・48・49、SK67>
SB48	Ⅱ A6h	2.0	南北	N-1°E	1	3.16	3	4.90	15.48	4.90	<SB47・49~51、SK67>
SB49	Ⅱ A7g	2.0	東西	N-81°E	1	3.35	(5)	(7.10)	(23.79)	(7.10)	SD33・37→◎ <SB46~48、SK67>
SB50	Ⅱ A6g	2.0	東西	N-90°E	1	4.40	3	6.40	28.16	6.40	◎→SI18、SK69 <SB48・51・54>

個数	使用柱穴 柱穴番号	掲載遺物 (柱穴番号:種別[掲載番号])	備考	曲輪
6	21・36・52・75・84・87			IV
7	04・13・16・51・68・72・80			IV
10	06・09・14・17・25・60・62・78-2・85・89		P09・85:炭素年代 [H13・21]	IV
11	11・15・47・53・56・58・64・67・96・97・98		P98:炭素年代 [H30]	IV
8	07・10・26・55・63・78-1・90・101		P07:炭素年代 [H11]	IV
4	900・924・1504・1505	P900: 敲磨 A[c147]、P1505: 金属 [d203]	冠木門か、P924:炭素年代 [R26]	Ⅲb
4	900・925・931・935	P900: 敲磨 A[c147]	冠木門か	Ⅲb
2	898・1168		棟門か	Ⅲb
2	897・899	P897: 須恵器 [a355]	棟門か	Ⅲb
(9)	1205・1981・1983・2017・2027・2049・2055・2067・2223	P1981: 志野 [b218]	東側削平により不明	Ⅲb
7	1195・1200・1207・2022・2168・2228・2357		P2168:炭素年代 [R29]	Ⅲb
20	147・163・167・168・175・177・188・263・410・1184・1215・2091・2096・2194・2203・2241・2367・2487・2488・SI05P03	P2194: 染付 [b220]		Ⅲb
7	307・309・402・1173・2415・2434・2490			Ⅲb
10	221・258・262・454・458・516・774・777・778・2124	P262: 陶器 [b201]、P774: 金属 [d196]		Ⅲb
15	112・115・117・120・132・141・150・155・1161・1171・2079・2348・2361・2491・2649	P150: 砥石 [c138]	P141:炭素年代 [R25]	Ⅲb
(25)	105・107・110・111・114・119・122・123・127・128・132・144・240・241・243・246・248・250・269・270・501・502・982・1261・1263	P122: 台石 [c138]、P982: 石臼 [c149]	P105・114・248:炭素年代 [H15、R21・22]	Ⅲb
8	228・235・420・679・937・968・974・2349			Ⅲb
(20)	108・118・121・125・135・139・142・181・232・239・242・255・265・401・412・413・505・508・1230・1231	P142: 金属 [d182]、P401: 永楽通宝 [e41]	P239:炭素年代 [R28]	Ⅲb
21	389・395・411・414・440・741・745・748・767・782・811・814・938・963・975・988・1009・1229・2031・2233・2268	P411: 石器 [c143・144]、P741: 永楽通宝 [e45]、P938: 須恵器 [a358]		Ⅲb
(5)	459・2183・2474・2558・2560	P2474: 染付 [b223]	東側削平により不明	Ⅲb
(10)	256・305・457・683・787・1071・2447・2448・2513・2559			Ⅲb
16	226・229・259・388・390・404・424・460・677・806・817・916・1003・1226・2409・2500	P226: 石皿 [c141]、P677: 天目 [b207]		Ⅲb
(20)	387・397・426・427・429・430・431・742・747・749・755・756・764・810・908・918・964・967・984・992	P429: 金属 [d187]、P755: 金属 [d193・194]	P429・431:炭素年代 [R23・24]	Ⅲb
8	739・740・746・751・753・936・961・1044			Ⅲb
10	361・365・443・752・881・978・1004・1068・1227・2261	P978: 染付 [b211]		Ⅲb
38	203・276・313・324・334・341・357・375・445・461・468・535・539・556・559・564・599・632・640・648・685・691・720・813・819・904・979・1051・1078・1086・1160・1967・2002・2234・2243・2250・2271・5404	P276: 金属 [d185]、P313: 志野 [b202]・敲磨 BC[c142]、P445: 羽目 [h19]	P313:炭素年代 [R19]	Ⅲb
68	281・293・311・314・319・327・328・334・348・353・355・367・374・432・433・450・462・525・529・549・552・553・554・565・602・604・607・612・619・624・628・635・651・666・681・711・719・723・736・754・909・956・998・1015・1016・1029・1049・1148・1152・1156・1163・1183・1222・1345・1374・1410・1455・1535・1889・2002・2281・2291・2327・2388・2389・5405・SK23・38	P427: 青磁 [b205]、P462: 紹熙元宝 [e42]、P604: 金属 [d189・190]、P1374: 石皿 [c151]	P462・681:炭素年代 [R18・31]	Ⅲb
7	358・386・437・903・976・1041・1614			Ⅲb
(6)	434・436・550・561・563・1014	P1014: 永楽通宝 [e48]		Ⅲb
9	292・347・352・463・586・658・705・725・1056			Ⅲb
14	207・211・218・272・280・489・497・594・630・729・763・886・1088・1142			Ⅲb
11	215・271・275・279・287・475・636・664・1117・1128・1133			Ⅲb
10	294・298・312・316・343・617・645・1058・1478・2292			Ⅲb
6	557・600・646・650・715・1084・1164		P646:炭素年代 [R33]	Ⅲa
8	682・1414・1500・1934・1939・2318・2929・3072			Ⅲa
14	522・638・653・1126・1132・1138・1144・1301・1342・1397・1454・1929・1931・2311	P1397: 金属 [d202]		Ⅲb
13	495・526・597・652・659・660・667・686・743・1120・1129・1130・2312			Ⅲb
16	637・655・672・727・1036・1128・1343・1347・1453・1457・1815・1938・2296・2304・2309・2610	P1347: 須恵器系 [b215]	P1347:炭素年代 [R32]	Ⅲb
9	689・1012・1021・1403・2245・2810・2923・2928・2930・3658	P689: 染付 [208]		Ⅲb
(8)	330・447・623・1149・1162・2257・2301・2533			Ⅲb
(7)	527・626・697・717・1404・2288・2315			Ⅲb
(12)	1321・1326・1332・1491・1499・1936・1937・2952・3006・3007・3026・SI02P10	P1499:かわらけ [a368・369]、P1937: 縄文 [a371]	北東側削平により不明	Ⅲa
(6)	1497・2951・3066・3106・3161・3336			Ⅲa
(13)	1334・1362・1386・1406・1427・1483・2372・2425・2927・2931・3013・3014・3032	P1483: 石臼 [c154]		Ⅲa
8	1338・1381・1378・1417・2965・2968・3111・3328			Ⅲa
(14)	1398・1434・1438・1446・1464・1514・1545・1702・1774・2994・3040・3043・3104・3112		SB51と柱穴1個共有	Ⅲa
11	1382・1411・1439・1524・2522・2637・2962・2963・3001・3049・3089			Ⅲa
8	1586・1587・1604・1623・1685・1696・1781・3120			Ⅲa
(10)	1521・1558・1661・1693・2523・2536・3017・3044・3117・3661			Ⅲa
6	1637・1644・1687・1712・1782・2530			Ⅲa

2 検出遺構

第7表 掘立柱建物一覧(2)

遺構名	グリッド (北西側)	分類	棟方向	主軸方位	身舎梁間		身舎桁行		身舎面積 (㎡)	最大長 (m)	他遺構との新旧関係 (右側が新しい、< >内は新旧不明)
					間数	長(m)	間数	長(m)			
SB51	II A6h	2.0	東西	N-90°E	1	4.25	5	10.25	43.56	10.25	<SK69, SB46~50・52~55・127>
SB52	II A6i	2.0	東西	N-87°E	1	4.00	4	8.70	34.80	8.70	SB127 →◎ <SB50・51・53・54>
SB53	II A6i	2.0	南北	N-0°E	2	4.37	3	5.70	24.91	5.70	<SB46・51・52・55・57・127>
SB54	II A 5h	2.0	南北	N-3°E	2	4.20	2	4.30	18.06	4.30	◎→SB59, SD35 <SB55~58>
SB55	II A 5h	2.0	東西	N-89°E	1	3.25	3	7.10	23.08	7.10	SB54, SD35 →◎→SB51 <SB56~59>
SB56	II A4h	2.0	南北	N-1°W	1	4.40	3	5.85	25.74	5.85	SD35 →◎→SB59 <SB55・57・58>
SB57	II A5h	2.0	東西	N-89°E	2	4.50	4	7.50	33.75	7.50	<SB50~56>
SB58	II A4h	3.0	南北	N-0°E	2	5.05	3	6.30	31.82	6.30	SD35 →◎→SB59 <SX101>
SB59	II A3g	2.1	東西	N-82°E	2	4.55	(4)	(8.30)	(37.77)	9.00	SB54・56・58, SD35 →◎→SD104・105, SX101
SB60	II A3g	2.1	東西	N-81°E	1	3.10	2	3.10	9.61	3.90	SB59, SD105, SX101 →◎
SB61	I A25g	2.0	南北	N-0°E	2	3.93	4	8.40	33.01	8.40	SD105, SX101 →◎
SB62	I A24h	2.0	東西	N-87°E	1	3.95	3	7.35	29.03	7.35	<SB63・64・67>
SB63	I A24g	2.0	東西	N-83°E	2	4.10	3	5.40	22.14	5.40	SD38 →◎ <SB62・63・67~69>
SB64	I A23i	2.1	南北	N-4°E	2	4.10	2	3.80	15.58	4.65	SD38 →◎ <SB63・65・67~70>
SB65	I A23j	3.1	東西	N-89°E	2	4.50	(3)	(5.40)	(24.30)	6.00	SD38 →◎ <SB66・70>
SB66	I A22j	不明	南北	N-4°W	1	2.05	5	8.10	16.61	8.10	SI19, SD38 →◎ <SB65・75>
SB67	I A23h	2.1	南北	N-8°W	2	4.70	3	5.80	27.26	5.70	SI19, SB64, SD38 →◎→SK78 <SB62・63・68・69, SK77>
SB68	I A23h	1.0	東西	N-85°E	1	2.20	3	6.20	13.64	6.20	SK77, SD38 →◎
SB69	I A22h	2.0	南北	N-9°W	2	4.00	3	6.20	24.80	6.20	SI19, SK77・81 →◎ <SB63・67・68, SK78>
SB70	I A23h	1.0	東西	N-86°E	1	1.90	4	8.20	15.58	8.20	SK77 →◎ <SB62・67~69, SK78>
SB71	I A21g	不明	南北	N-0°E	1	2.10	3	5.40	11.34	5.40	SI19 →◎→SI20, SB74 <SB72・73>
SB72	I A20g	2.1	東西	N-85°E	2	4.80	(4)	(8.50)	(40.80)	8.50	SI19・20・24, SB71, SK81・89, SD40 →◎→SB74 <SB73・128>
SB73	I A20g	2.0	東西	N-83°E	2	4.60	(5)	(8.05)	(37.03)	(8.05)	SI19・20・24, SB78, SD40 →◎→SB74 <SB72・74・128>
SB74	I A21g	3.0	東西	N-85°E	2	5.10	(5)	(8.10)	(41.31)	(8.10)	SI19・20・24, SB72, SK89, SD40 →◎ <SB71・128>
SB75	I A21i	2.0	南北	N-6°W	2	4.00	3	5.10	20.40	5.10	SI19 →◎ <SB66・77>
SB76	I A19i	3.0	東西	N-90°E	2	5.10	3	5.92	30.19	5.92	SK80・85, SD106 →◎ <SB77・128, SL27>
SB77	I A20j	2.0	東西	N-90°E	1	4.30	(3)	(6.10)	(26.23)	(6.10)	<SB75・76>
SB78	I A18g	3.1	東西	N-84°E	3	5.70	(3)	(5.80)	(33.06)	(7.00)	SI20・24, SK79・86・90・93, SD40・106 →◎→SB73・129 <SB79・80・128, SK87, SL30>
SB79	I A16h	2.0	南北	N-5°W	1	3.10	3	5.40	16.74	5.40	SI23, SK95・99, SD107 →◎ <SB81>
SB80	I A18g	2.0	東西	N-84°E	2	3.30	5	10.00	33.00	10.00	SB129, SD42・106 →◎→SB82 <SB78・81, SK82>
SB81	I A17h	2.0	東西	N-70°E	1	4.05	3	6.95	28.15	6.95	SI23, SD42 →◎ <SB79・80・129, SK83>
SB82	I A16f	不明	東西	N-87°E	5	9.85	(2)	(3.10)	(30.54)	9.50	SD42, SB80 →◎→SB84 <SD43>
SB83	I A16f	2.1	東西	N-83°E	1	3.10	(4)	(7.40)	(22.94)	6.85	◎→SB94, SK83 <SB81・82, SD43>
SB84	I A16f	3.0	東西	N-84°E	1	5.40	(4)	(7.50)	(40.50)	(7.50)	SB82 →◎→SB83・94 <SD43>
SB85	I A14g	2.0	南北	N-0°E	1	4.90	4	9.20	45.08	9.20	SB86, SD107 →◎→SB89 <SB82・83・95~97>
SB86	I A14f	2.0	東西	N-83°E	1	4.05	3	6.90	27.95	6.90	SD107 →◎→SB85・97 <SB88・89・96>
SB87	I A13f	不明	南北	N-2°W	(2)	(3.50)	3	7.30	(25.55)	7.30	◎→SB97 <SB88・90・96>
SB88	I A14f	不明	不明	N-81°E	3	5.60	(1)	-	-	5.60	SD107 →◎ <SB86・87・96・97>
SB89	I A14h	不明	東西	N-85°E	3	5.50	4	7.90	43.45	7.90	SI22, SD107 →◎ <SB83~86>
SB90	I A12f	不明	南北	N-86°E	(2)	7.50	3	(3.60)	(27.00)	7.50	SB97 →◎ <SB87・96>
SB91	I A17h	2.0	東西	N-83°W	2	3.90	3	8.00	31.20	8.00	SI23, SD42 →◎→SK83 <SB79・93>
SB92	I A16i	2.0	南北	N-5°W	2	3.85	2	3.70	14.25	3.85	SI23, SK95, SD107 →◎→SI22, SB89 <SB81・93>
SB93	I A16i	2.0	南北	N-5°E	1	3.05	3	6.30	19.22	6.30	SI23, SB81, SD42 →◎ <SB79・91・93>
SB94	I A16h	1.0	東西	N-84°E	2	2.85	2	2.97	8.46	2.97	SB84, SD43 →◎ <SB83>
SB95	I A13g	2.0	東西	N-85°E	2	3.20	3	7.60	24.32	7.60	<SB85・97>
SB96	I A14f	1.0	東西	N-53°W	1	2.90	(2)	(7.00)	(20.30)	(7.00)	SD107 →◎ <SB85~88>
SB97	I A14f	1.0	東西	N-59°E	1	2.80	(3)	(6.50)	(18.20)	(6.50)	SB87 →◎→SB90 <SB85~88, SD107>
SB98	I A10h	2.0	南北	N-11°W	1	3.90	2	3.95	15.41	3.95	SB98 →◎→SB100
SB99	I A10g	不明	不明	N-2°W	(2)	(2.50)	(2)	(3.00)	7.50	(3.00)	<SB100>
SB100	I A8g	3.0	南北	N-0°E	3	5.90	4	7.80	46.02	7.80	SB98・106 →◎ <SB101~103, SL33>
SB101	I A7h	不明	南北	N-7°W	3	6.40	4	8.00	51.20	8.00	SI25 →◎→SB105, SX07 <SB100・102・103・106~108, SK100, SL32>
SB102	I A7g	1.0	南北	N-23°W	2	3.00	3	6.00	18.00	6.00	SI25 →◎→SB103・106 <SB100・101・105・108, SL32>
SB103	I A7h	2.1	南北	N-66°E	2	3.00	3	4.80	14.40	4.80	SB102 →◎ <SB100・101, SL32>

個数	使用柱穴 柱穴番号	掲載遺物 (柱穴番号: 種別 [掲載番号])	備考	曲輪
11	1537・1582・1596・1641・1713・1749・1774・1818・1966・3097・3293	P1966: 青磁 [b217]	SB46と柱穴1個共有	Ⅲa
10	1566・1591・1595・1607・1620・1631・1648・1665・1675・3080			Ⅲa
(9)	1506・1508・1549・1610・1679・1742・1769・3084・3088			Ⅲa
9	1650・1676・1721・1744・1755・1763・1788・1800・5407		P1650: 炭素年代 [R34]	Ⅲa
8	1611・1642・1668・1714・1743・1777・2584・2670			Ⅲa
(6)	1740・1745・1798・1846・1912・1920	P1920: 金属 [d205]		Ⅲa
12	1565・1580・1624・1663・1681・1707・1708・1725・1742・1764・1765・1792			Ⅲa
(9)	1737・1786・1778・1828・1839・1840・1868・1904・2667			Ⅲa
(15)	1730・1845・1850・1894・1905・2541・2542・2576・2591・2688・2691・2699・2714・3129			Ⅲa
(7)	2669・2681・2692・2697・2701・2708・2724			Ⅲa
(11)	2693・2694・2728・2736・2746・2752・2757・2761・2861・2964・2979			Ⅱ
(7)	2715・2777・2779・2842・2889・3623・3624			Ⅱ
(9)	2794・2830・2832・2846・2881・2903・3174・3271・3464			Ⅱ
10	2880・2900・2915・2917・2920・2985・2990・3177・3190・3202	P2880: 白磁 [b226]、P2985: かわらけ [a374]		Ⅱ
(8)	2875・3216・3228・3237・3263・3331・3401・3652			Ⅱ
12	2894・2906・3211・3218・3220・3227・3289・3316・3351・3358・3380・3402			Ⅱ
10	2827・2834・2883・2884・3176・3188・3258・3272・3466・3701			Ⅱ
8	2762・2763・2983・3242・3247・3305・3436・3629			Ⅱ
(9)	3164・3180・3249・3270・3307・3501・3517・3702・3720	P3501: かわらけ [a380]		Ⅱ
10	3178・3196・3206・3232・3256・3278・3282・3286・3306・3692	P3196: 石鉢 [c157]		Ⅱ
7	3509・3513・3515・3524・3530・3571、SI20P04	P3509: 金属 [d209]		Ⅱ
(13)	2986・2989・3488・3534・3549・3599・3675・3694・3785・3790・3959・4010・4306			Ⅱ
(12)	3435・3478・3539・3662・3676・3693・3947・4012・4013・4019・4309・4310	P3947: 金属 [d217]		Ⅱ
(12)	2987・3459・3531・3532・3541・3553・3555・3674・3680・3708・3791・4030	P3532: 金属 [d210]、P3541: 瀬戸美濃 [b232]、P3680: 金属 [d211]		Ⅱ
12	3230・3266・3352・3362・3396・3417・3422・3429・3433・3439・3535・5408	P3352: 縄文 [a375]、P3417: 土師器 [a377]、P3535: 土師器 [a381]		Ⅱ
(11)	3687・3696・3699・3723・3724・3730・3744・3752・3756・3776・5026	P3776: 陶器 [b236]		Ⅱ
(7)	3408・3419・3424・3727・3735・3759・5409			Ⅱ
(19)	3663・3665・3669・3670・3771・3803・3871・3941・3942・3960・3962・4007・4020・4077・4316・4321・4322、SI24P04・09			Ⅱ
(7)	3863・3870・3919・3933・4056、SI23P09・22	P3870: かわらけ・須恵器 [a386・387]	P3870: 炭素年代 [R47]	I b
16	3767・3770・3775・3801・3809・3824・3825・3831・3917・3964・3965・3967・4027・4070・4317・5050	P3965: かわらけ [a389]		I b
7	3769・3818・3826・3916・3950・4408・4418			I b
(9)	3805・3807・3808・3821・3888・3971・4031・4034・4403			I b
(14)	3811・3817・3822・3880・3892・3899・3909・3954・3956・3958・4037・4053・4109・4242	P3892: 陶器 [b240]、P3899: 敲磨 C [c160]	P3817: 炭素年代 [R46]	I b
8	3877・3891・3902・3912・4035・4045・4054・4241			I b
10	4039・4059・4094・4120・4186・4207・4224・4232・4240・4435		P4232: 炭素年代 [R53]	I b
7	4095・4100・4143・4205・4215・4234・4246			I b
(6)	4135・4137・4152・4292・4294・4337	P4137: 縄文 [a391]、P4152: 金属 [d220]、P4337: 相馬 [b247]	P4137: 炭素年代 [R51]	I b
(4)	4129・4142・4155・4245		P4155: 炭素年代 [R52]	I b
(16)	3874・3875・4047・4062・4083・4092・4107・4114・4177・4183・4188・4192・4200・4201・4247・4252	P4183: 石器 [c163]、P4252: かわらけ [a392]	P4114: 炭素年代 [R49]	I b
(6)	4157・4169・4285・4331・4358・4360			I b
9	3857・3865・3876・3932・3944・3970・3976・4282、SI23P05			I b
(7)	3980・3985・3991・3996・4081、SI23P19・21			I b
(7)	3848・3851・3860・3868・4079・4422、SI23P04			I b
8	3901・3905・3914・3930・3943・4072・4396・4401	P3943: 須恵器 [a388]・金属 [d216]、P4401: 石臼 [c168]		I b
8	4209・4220・4225・4268・4271・4279・4338・4618	P3905: 染付 [b241]、P4338: かわらけ [a393]		I b
(5)	4116・4125・4133・4149・4158		P4125: 炭素年代 [R50]	I b
(7)	4134・4147・4156・4175・4235・4437・5078	P4147: 金属 [d219]		I b
6	4376・4386・4441・4445・4446・4681		P4681: 炭素年代 [R61]	I b
(3)	4365・4447・4667		北・西側掘乱により消失	I b
(12)	4478・4494・4506・4509・4511・4650・4654・4661・4705・5164・5167・5168	P4494: 鉄滓 [h12・13]、P4654: 台石 [c173]	南側掘乱により消失	I a
16	4453・4454・4458・4461・4468・4495・4501・4533・4544・4548・4648・4652・4707・4738・4910・4940	P4495: 縄文 [a391]・敲磨 C [c169]・銭貨 [e56]・鉄滓 32.8g		I a
9	4474・4476・4477・4500・4523・4622・4625・4702・4724	P4546: 鉄滓 [h14]		I a
(10)	4471・4473・4489・4499・4504・4703・4851・4860・5190・5194	P4851: 銅鏡 [d232]		I a

第7表 掘立柱建物一覧 (3)

遺構名	グリッド (北西側)	分類	棟方向	主軸方位	身舎梁間		身舎桁行		身舎面積 (㎡)	最大長 (m)	他遺構との新旧関係 (右側が新しい、< >内は新旧不明)
					間数	長 (m)	間数	長 (m)			
SB104	I A7f	21	東西	N-69°-E	3	4.50	(2)	(3.40)	(15.30)	(4.70)	<SB105~107・109>
SB105	I A7f	21	東西	N-90°-E	2	4.00	(2)	(6.00)	(24.00)	(7.20)	SI25、SB106 →◎→ SB107、SL36 <SB101~104・108~110、SL34>
SB106	I A7g	不明	南北	N-27°-W	2	4.35	3	6.30	27.41	6.30	SI25、SB102 →◎→ SB100・105・107 <SB103~105・108~110、SL34>
SB107	I A 6i	2.0	東西	N-63°-E	2	4.20	4	9.80	41.16	9.80	SI25、SB105・120 →◎→ SX09 <SB104・106・108・109、SL34・36>
SB108	I A6g	21	南北	N-5°-W	1	3.15	3	6.70	21.11	6.70	SI25 →◎→ SB105・107、SX07・09 <SB101・102・106、SL34・36>
SB109	I A6g	不明	東西	N-85°-E	2	5.20	2	(2.00)	(10.40)	5.20	◎→ SB104 <SB105~107>
SB110	I A6g	2.0	東西	N-73°-E	1	4.00	4	8.40	33.60	8.40	SI25、SB120 →◎→ SL36・38、SX09 <SB105~109・111・112>
SB111	I A4h	不明	東西	N-52°-E	3	4.90	3	5.20	25.48	5.20	SB117、SL37 →◎→ SK106・110・113・114、SX08 <SB110・112・116>
SB112	I A4h	1.0	東西	N-71°-W	1	2.90	3	5.65	16.39	5.65	◎→ SX08 <SB110・111・116・117、SK102>
SB113	I A3f	不明	東西	N-30°-E	3	5.00	(2)	(3.90)	(19.50)	(5.00)	SB114~116 →◎→ SX08
SB114	I A4f	2.0	東西	N-16°-W	2	3.10	2	3.50	10.85	3.50	SB115・116 →◎→ SB113、SX08
SB115	I A3f	不明	東西	N-28°-W	1	2.60	5	8.05	20.93	8.05	SB116 →◎→ SB113・114、SX08 <SB117>
SB116	I A4g	2.0	南北	N-8°-W	2	4.10	2	4.20	17.22	4.20	SB117 →◎→ SB113・115、SX08 <SB111・112・114>
SB117	I A5g	1.0	東西	N-80°-E	1	2.25	3	5.75	12.94	5.75	◎→ SB111・116、SX08 <SB110・112・115>
SB118	I A3g	2.0	東西	N-84°-E	1	3.70	3	7.35	27.20	7.35	<SB113・115>
SB119	I A4g	1.0	東西	N-65°-E	1	2.70	(2)	(3.70)	(9.99)	(3.70)	<SB113~116>
SB120	I A6f	1.0	東西	N-72°-E	1	2.50	4	7.30	18.25	7.30	SL36 →◎→ SB107・110、SX09 <SB105・108・109>
SB121	I A4i	2.0	東西	N-85°-E	1	3.00	2	3.65	10.95	3.65	<SK102、SB111・112>
SB122	II A23g	3.0	東西	N-10°-W	1	4.60	3	6.00	27.60	6.00	SD22・23 →◎→ SK15、SL20 <SK46・49~52・54・57、SD14・21>
SB123	II A20i	2.0	東西	N-77°-E	1	3.60	3	6.25	22.50	6.25	◎→ SI06、SL12~16 <SB15・16>
SB124	II A18k	2.0	南北	N-3°-W	1	4.80	3	5.40	25.92	5.40	SD31 →◎→ <SB14・20~22>
SB125	II A14h	2.0	東西	N-83°-E	1	3.60	4	9.70	34.92	9.70	◎→ SI04、SB26~28 <SB34、SK40・41、SL09>
SB126	II A12i	2.0	南北	N-14°-W	2	4.65	4	5.80	26.97	5.80	SI14、SB27 →◎→ SB26 <SB31・32・36~38・41>
SB127	II A7j	2.0	東西	N-63°-E	1	3.00	3	5.10	15.30	5.10	◎→ SB52 <SB46・51・53>
SB128	I A20g	2.0	東西	N-85°-E	2	4.00	4	7.10	28.40	7.10	SI19・20・24 →◎→ <SB72~74・76・78>
SB129	I A18g	1.0	東西	N-88°-E	1	2.50	3	8.80	22.00	8.80	SB78、SD42・106 →◎→ SK84、SB80 <SB81、SK82>
SB130	I A7g	2.1	東西	N-71°-W	3	4.80	3	5.70	27.36	6.55	SI25、SB104・109 →◎→ SB106・110・120、SL36、SX07 <SB101~103・105・108、SL34>

建物方位は、東西棟 88 棟、南北棟 40 棟、不明 2 棟で、東西棟が南北棟の倍以上となる。東西棟のうち、東に傾くものは N-59~90°-E、西に傾くものは N-53~87°-W である。ただし、傾きが 50° 代のものは SB96・97 の 2 棟のみで、その他は 80~90° の範囲に収まる。

遺物は基本的に柱穴からの出土であり、51 棟の建物（柱穴 93 個）から出土した遺物を掲載した。出土遺物の種別は、土器（縄文土器・土師器・須恵器・かわらけ）、陶磁器（常滑・須恵器系・瀬戸美濃・唐津・肥前・相馬）、石器（敲磨器・台石・石皿・石臼・砥石等）、金属製品（刀子・釘・鏡等）、銭貨（永楽通宝・紹熙元宝）、漆膜、生産関連遺物（鉄滓・羽口）である。

なお、堆積土中から炭化物が採取できる柱穴が多く、29 棟の掘立柱建物を構成する柱穴 36 個を含む 47 個から出土した炭化物について放射性炭素年代測定を実施した（第 4 節（1）参照）。測定結果は 14 世紀後半~19 世紀前半までと幅があるが、多くは 15~16 世紀代に収まる。

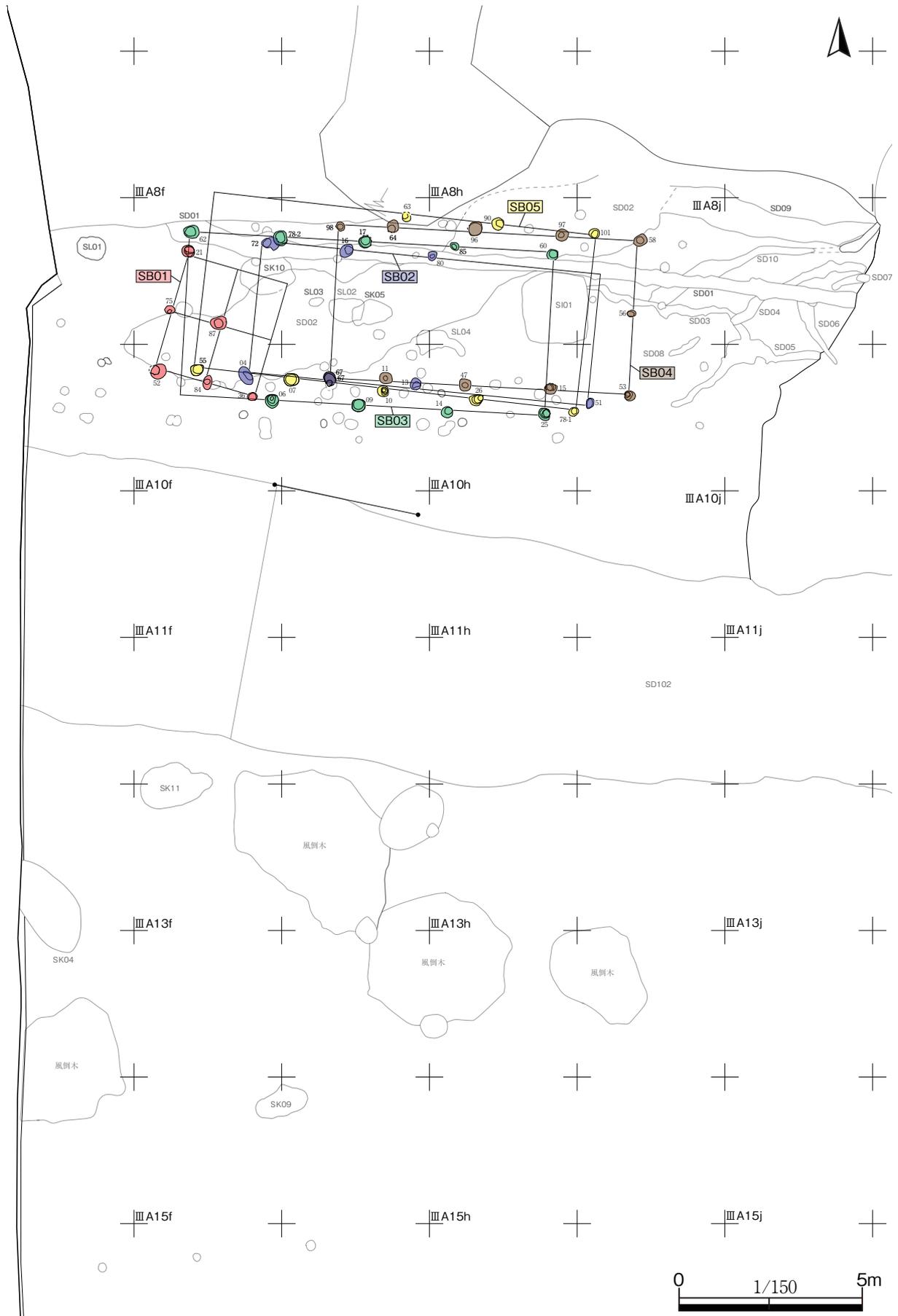
### (9) 柱 穴 (第 2-110~128 図、第 2-9 表)

野外調査の段階では 5,409 個登録したが、木根や攪乱として除外あるいは堅穴建物の柱穴から変更したものがあり、最終的には 4,985 個を柱穴と認定した。このうち、掘立柱建物または柱穴列を構成する柱穴と判断したものは 1,149 個である（総検出数の約 23%）。残りの柱穴にも掘立柱建物を構成するものが含まれていると考えられるが、本報告では確認することができなかつた為、今後の検討材料として全柱穴の配置図及び掘立柱建物以外の柱穴の断面図を掲載した。

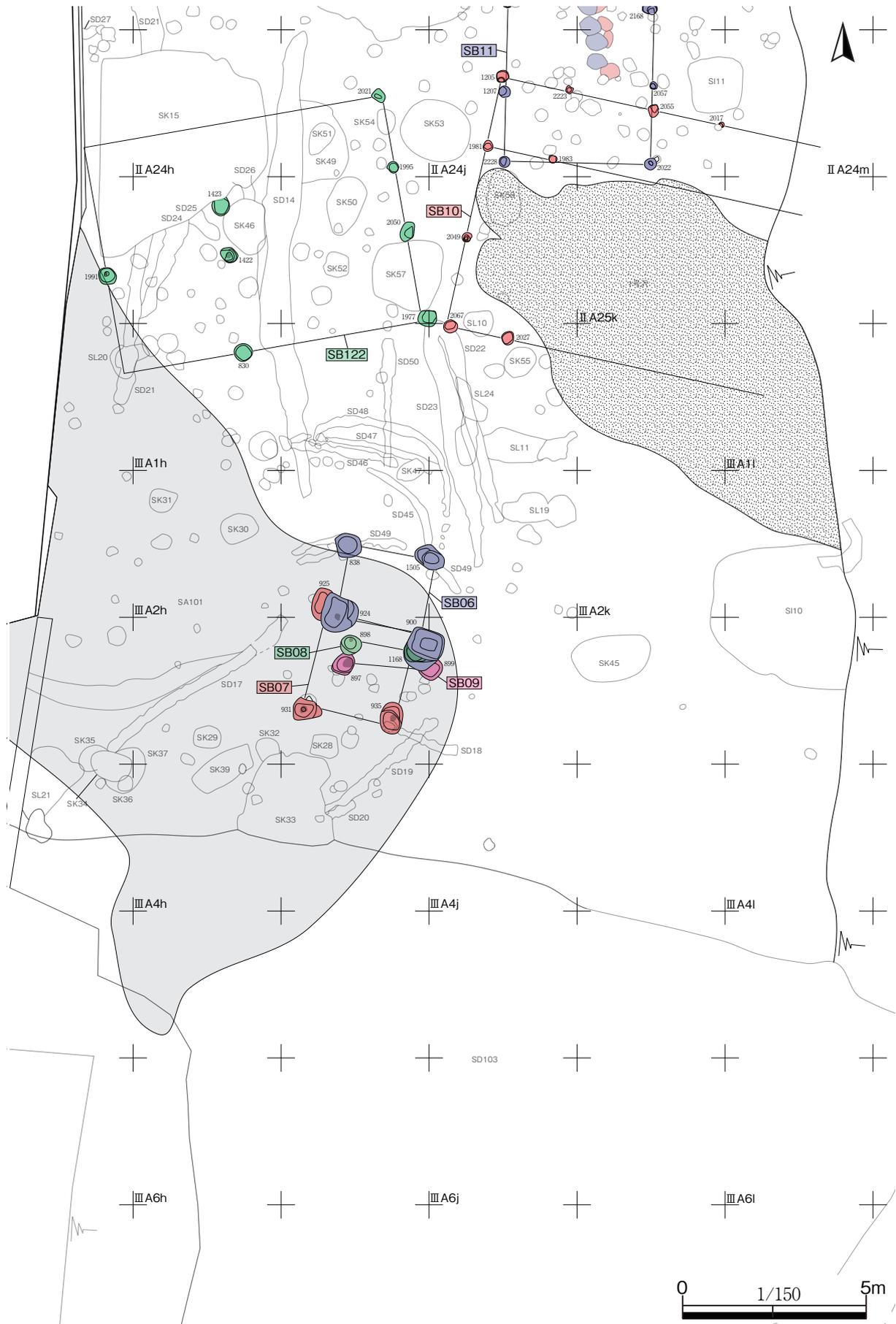
個数	使用柱穴		掲載遺物 (柱穴番号: 種別 [ 掲載番号 ])	備考	曲輪
	柱穴番号				
(9)	4512・4515・4551・4556・4628・5150・5153・5163・5176		P4551: 柴付 [b249]、P4851: 金属 [d232]、P5163: 鉄滓 [h18]	P4551: 炭素年代 [R58]	Ia
(11)	4571・4636・4689・4734・4737・4791・4799・5143・5147・5160・5397		P4571: 縄文・かわらけ [a391・398]		Ia
(9)	4503・4545・4552・4565・4568・4632・4635・4733・5159			P4545: 炭素年代 [R56]	Ia
13	4514・4526・4538・4541・4547・4553・4559・4570・4629・4855・5109・5208・5230		P4547: 陶器 [b248]・金属 [d226・227]・鉄滓 [h15]	P4526・4547: 炭素年代 [R54・57]	Ia
11	4528・4563・4581・4688・4690・4736・4739・4858・5105・5205・5223				Ia
(6)	4519・4521・4557・4562・5142・5149		P4562: 柴付 [b251]		Ia
9	4566・4578・4583・4588・4793・4993・4999・5222・5234				Ia
11	4597・4805・4811・4827・4833・4839・4958・4962・4972・5119・5330				Ia
8	4599・4607・4834・4960・4963・4967・4975・5237			P4607: 炭素年代 [R60]	Ia
(8)	4768・4873・4878・4888・4896・4929・5249・5269				Ia
(6)	4890・4930・5250・5254・5302・5361				Ia
(11)	4840・4871・4880・4891・4924・4981・5098・5273・5286・5316・5392				Ia
9	4591・4831・4842・4847・4897・4923・5134・5215・5252				Ia
8	4787・4818・4819・4842・4843・5135・5213・5235				Ia
8	4745・4759・5257・5265・5275・5323・5328・5337				Ia
(5)	4600・4874・4882・4928・5251				Ia
(9)	4579・4589・4630・4740・4792・4934・5117・5145・5217			P4579: 炭素年代 [R59]	Ia
6	4778・4953・4956・4964・5236・5246				Ia
(8)	830・1422・1423・1977・1995・2021・2050		P830: 縄文 [a353]		Ⅲb
(6)	152・407・504・911・1237・2365				Ⅲb
8	675・928・1073・2126・2237・2450・2473・2475			P928: 炭素年代 [R27]	Ⅲb
(9)	291・333・356・373・382・804・1042・1106・2307				Ⅲb
12	283・317・499・523・532・577・587・696・734・1344・2293・2303		P1344: 常滑 [b214]		Ⅲb
8	1510・1520・1547・1559・1571・1594・1654・2640				Ⅲa
(12)	3554・3561・3581・3582・3678・3683・3698・3748・3780・3834・4002・SI24P15		P3748: 陶器 [b234]、P3834: かわらけ [a384]	P3748: 炭素年代 [R45]	II
8	3768・3814・3855・3949・4068・4281・4330・4394				Ib
(13)	4518・4522・4549・4687・4725・4800・4864・4916・4917・5152・5178・5200・5396				Ia

第8表 柱穴土層パターン

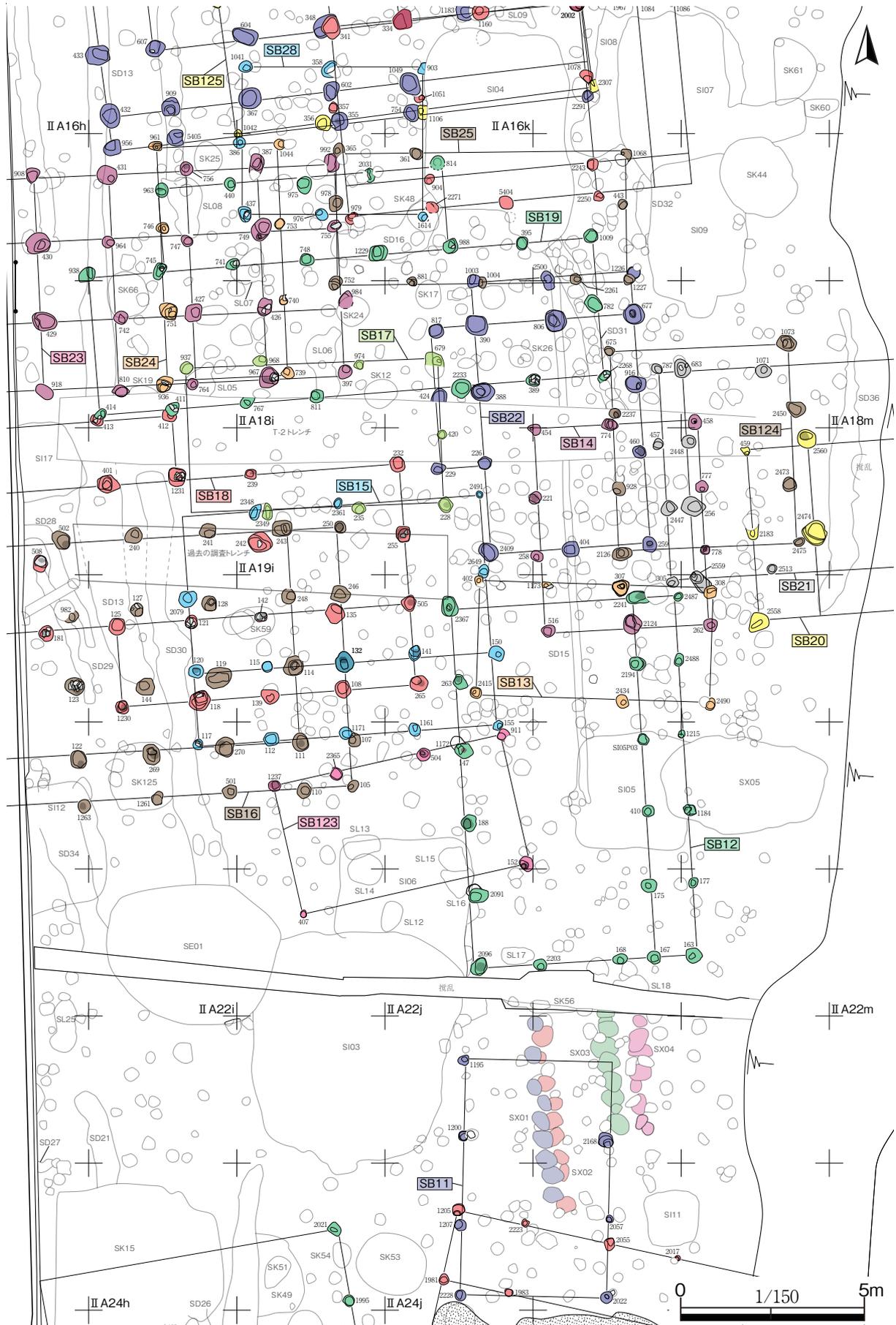
パターン	土色・性質・混和物
A	10YR2/1 黒色～3/2 黒褐色 粘性やや強 地山ブロックを1%前後含む
B	10YR2/1 黒色～3/2 黒褐色 粘性やや強 地山ブロックを1～5%含む
C	10YR2/1 黒色～3/2 黒褐色 粘性やや強 地山ブロックを5～20%含む
D	10YR2/1 黒色～3/2 黒褐色 粘性やや強 地山ブロックを20～30%含む
E	10YR2/1 黒色～3/2 黒褐色 粘性やや強 地山ブロックを30～40%含む
F	10YR4/2 灰黄褐色～4/3 におい黄褐色 地山ブロックを1%前後含む
G	10YR4/2 灰黄褐色～4/3 におい黄褐色 地山ブロックを1～5%含む
H	10YR4/2 灰黄褐色～4/3 におい黄褐色 地山ブロックを5～20%含む
I	10YR4/2 灰黄褐色～4/3 におい黄褐色 地山ブロックを20～40%含む
J	10YR4/2 灰黄褐色～4/3 におい黄褐色 地山ブロックを40%以上含む
K	10YR4/3 におい黄褐色～4/6 褐色 地山・黒褐色ブロックをいずれか又は併せて1～5%含む
L	10YR4/3 におい黄褐色～4/6 褐色 地山・黒褐色ブロックをいずれか又は併せて5～20%含む
M	10YR4/3 におい黄褐色～4/6 褐色 地山・黒褐色ブロックをいずれか又は併せて20～40%含む
N	10YR4/3 におい黄褐色～4/6 褐色 地山・黒褐色ブロックをいずれか又は併せて40%以上含む
O	10YR6/6 明黄褐色～7/8 黄橙色粘土 粘性強 地山由来
P	10YR6/6 明黄褐色～7/8 黄橙色 10YR2/1 黒色～3/2 黒褐色ブロックを1～10%含む
Q	10YR6/6 明黄褐色～7/8 黄橙色 10YR2/1 黒色～3/2 黒褐色ブロックを20～30%含む
R	10YR3/2 黒褐色～3/4 暗褐色 粘性やや強 地山ブロックを1～5%含む
S	10YR3/2 黒褐色～3/4 暗褐色 粘性やや強 地山ブロックを5～20%含む
T	10YR3/2 黒褐色～3/4 暗褐色 粘性やや強 地山ブロックを20～30%含む
U	10YR5/3 におい黄褐色～6/4 におい黄橙色 粘性やや強 黒褐色ブロックを1～5%含む
V	10YR5/3 におい黄褐色～6/4 におい黄橙色砂質土 粘性やや弱 黒褐色ブロックを1～5%含む
W	10YR5/3 におい黄褐色～6/4 におい黄橙色砂質土 粘性やや弱 黒褐色ブロックを5～20%含む
X	10YR5/3 におい黄褐色～6/4 におい黄橙色砂質土 粘性やや弱 黒褐色ブロックを20～30%含む
Y	2.5Y3/2 黒褐色砂質土 地山ブロックを1～20%含む
Z	2.5Y3/2 黒褐色砂質土 地山ブロックを20～40%含む



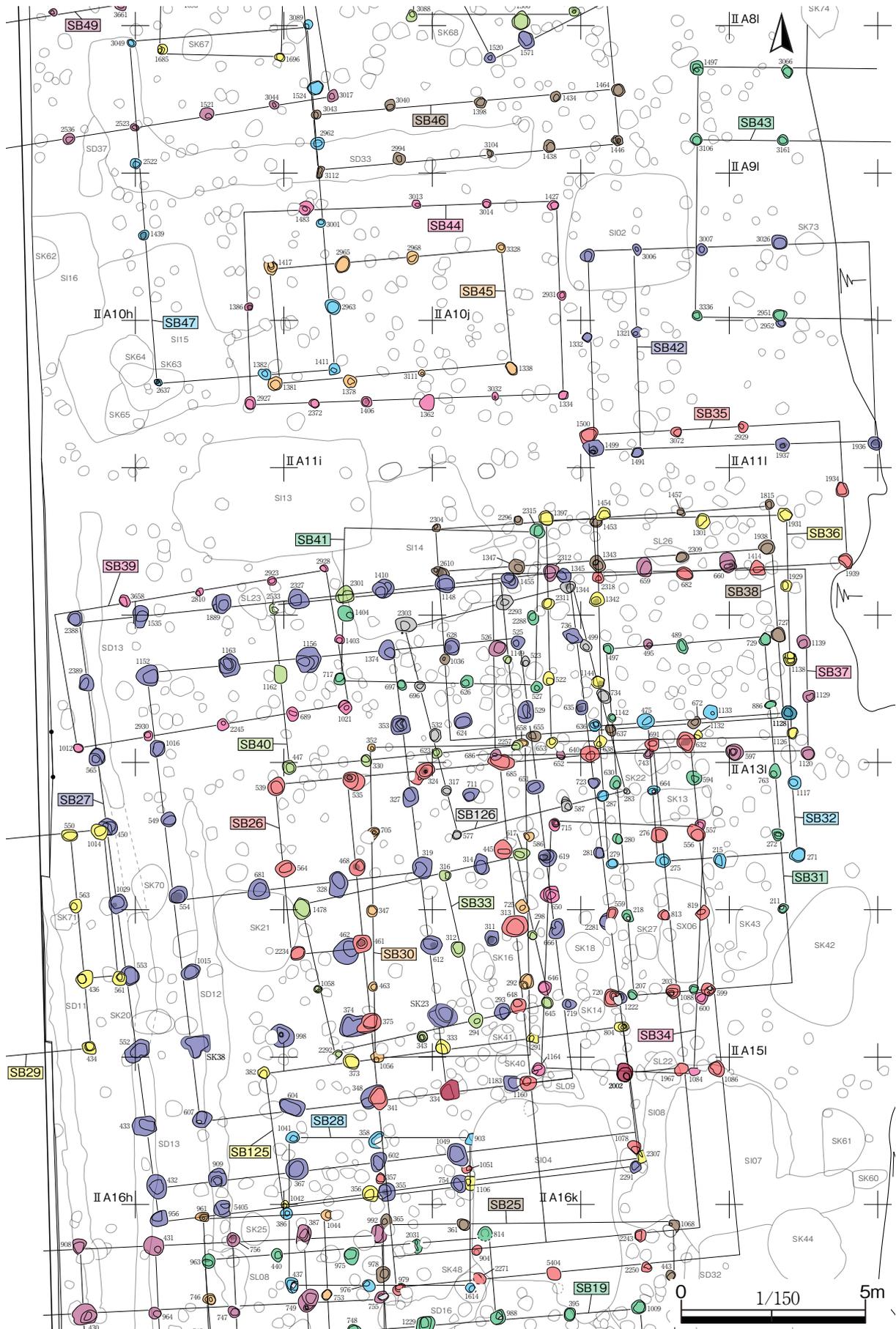
第72図 掘立柱建物配置図(1)



第 73 図 掘立柱建物配置図 (2)

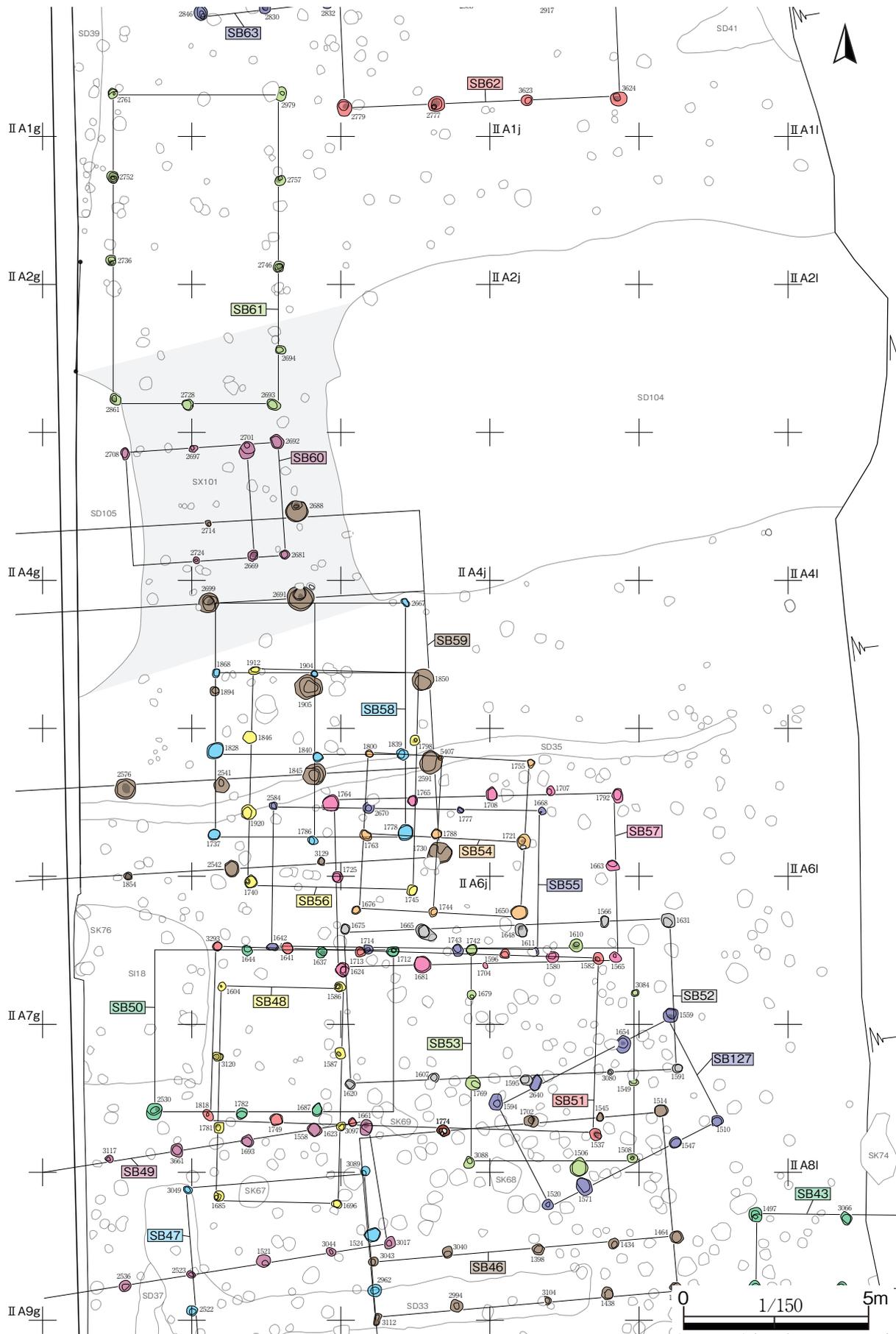


第74図 掘立柱建物配置図(3)

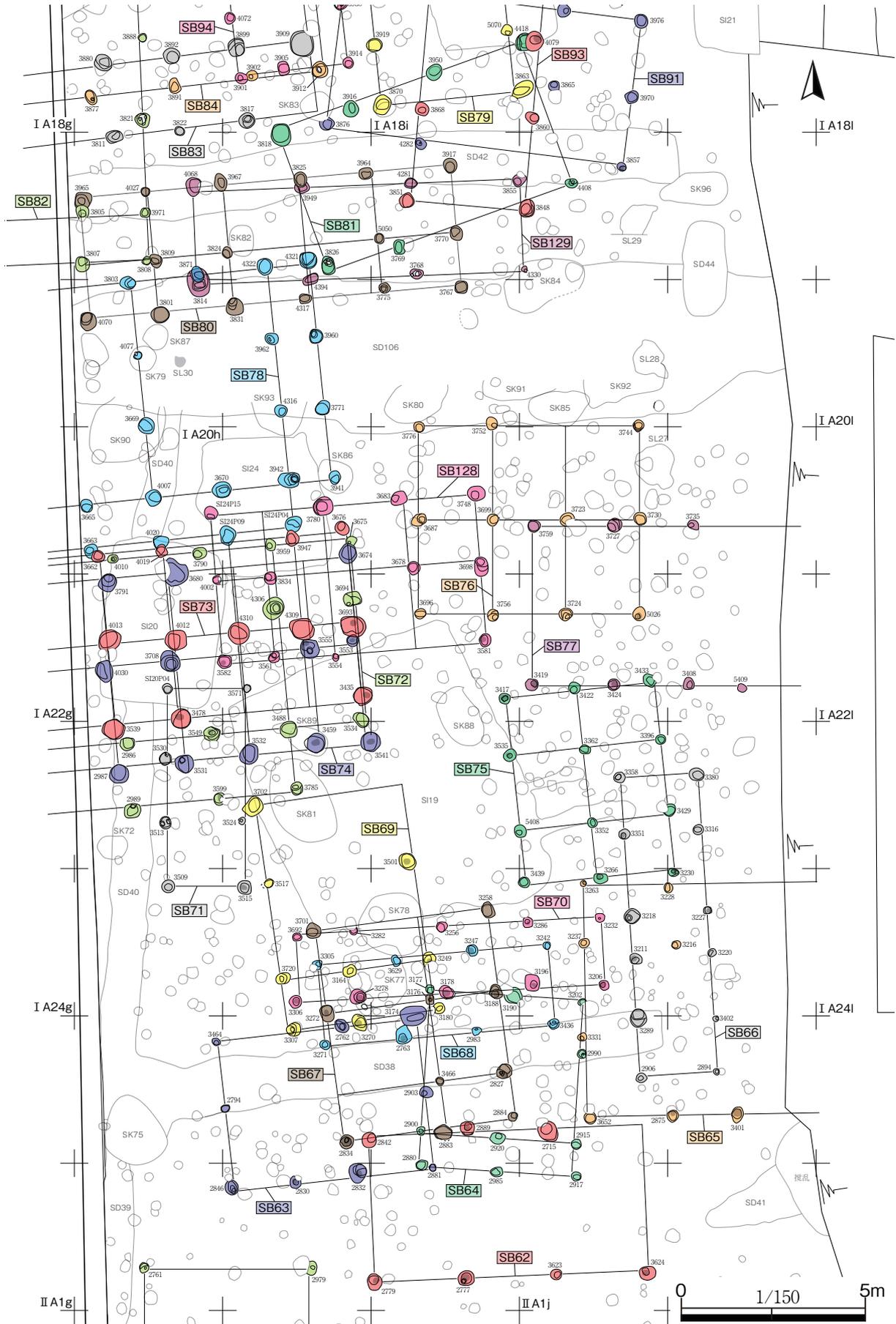


第75図 掘立柱建物配置図(4)

2 検出遺構

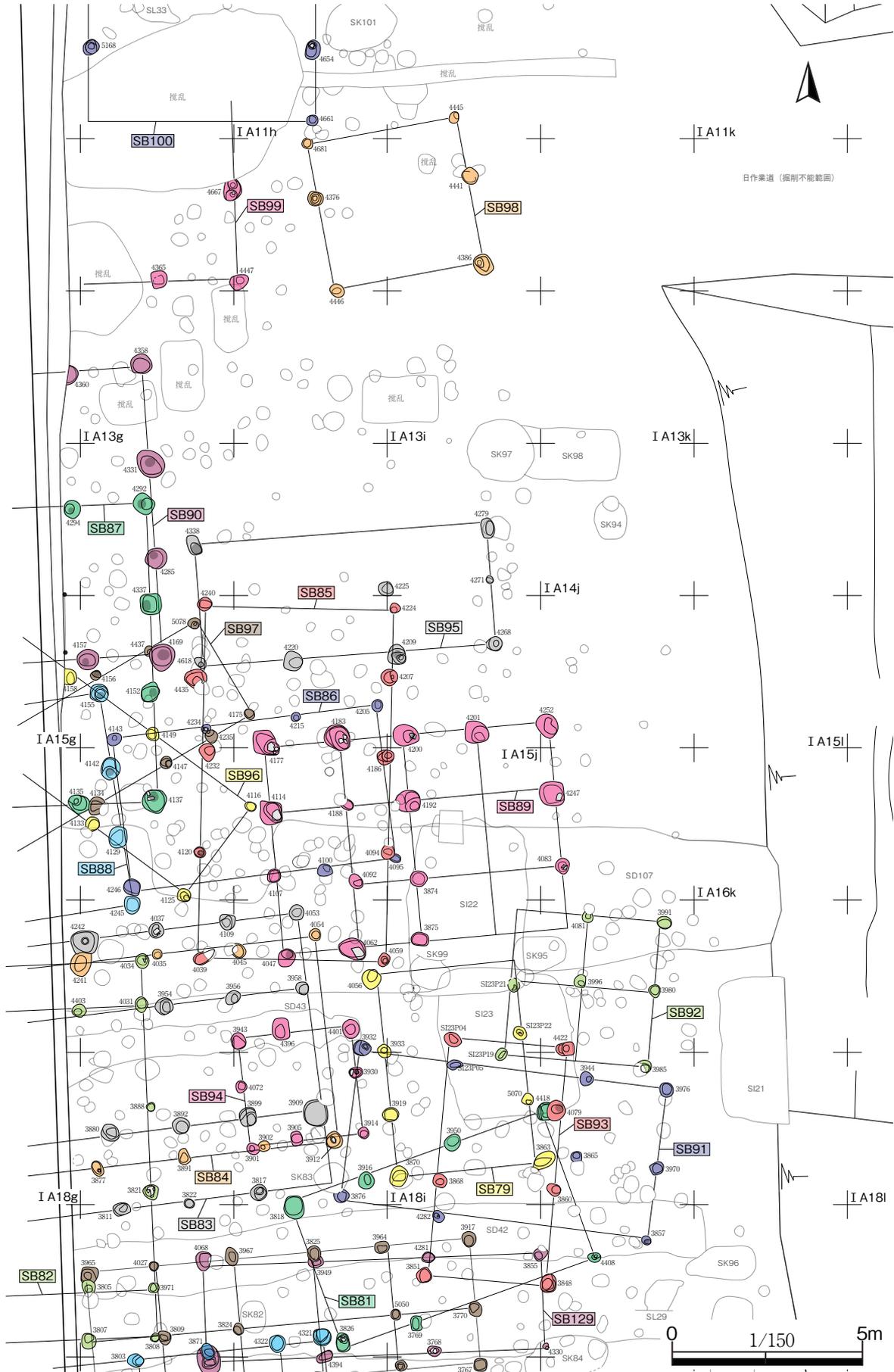


第76図 掘立柱建物配置図(5)

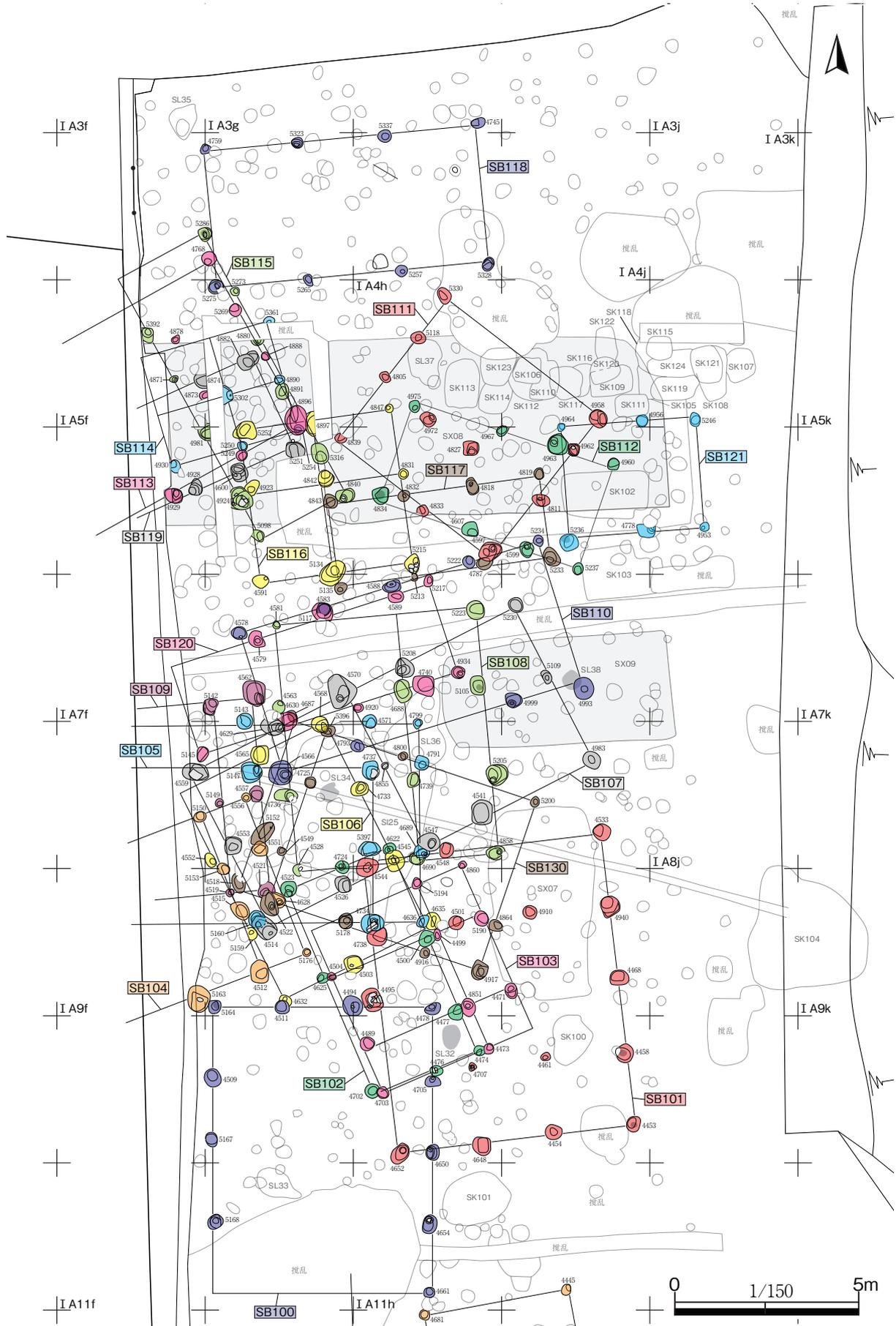


第 77 図 掘立柱建物配置図 (6)

2 検出遺構



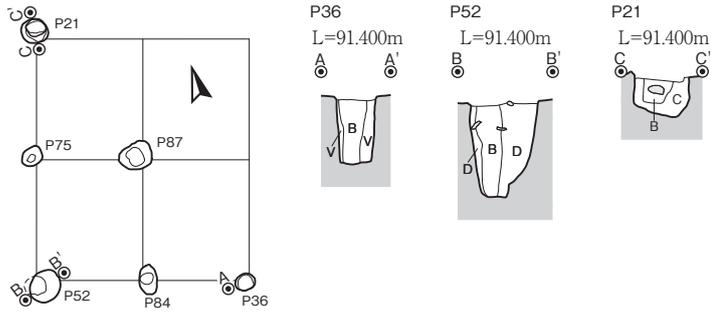
第 78 図 掘立柱建物配置図 (7)



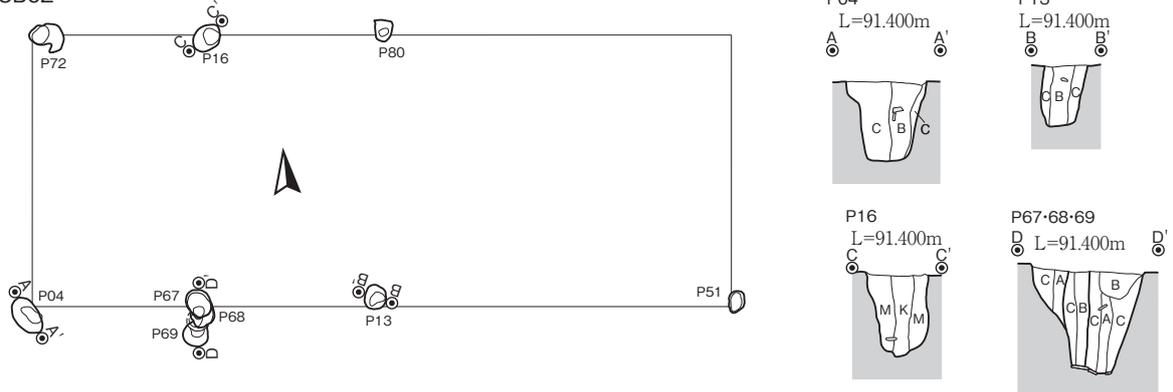
第 79 図 掘立柱建物配置図 (8)

2 検出遺構

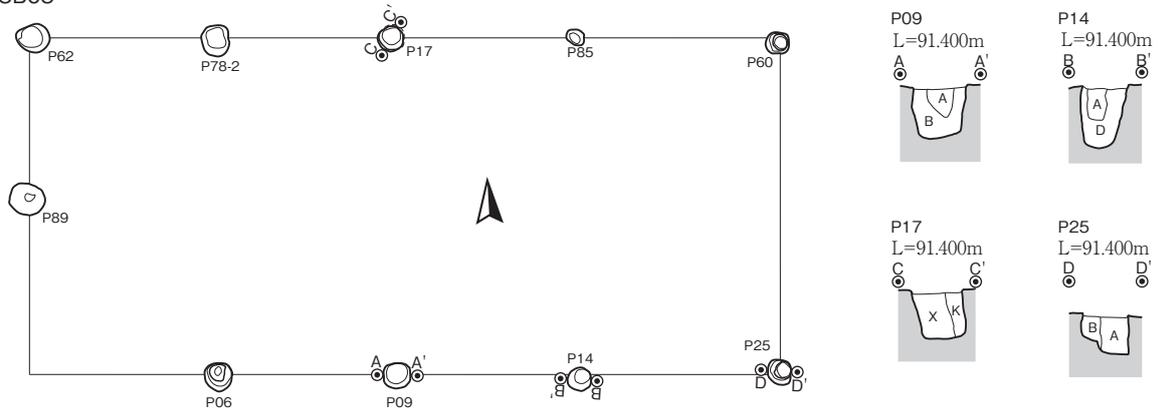
SB01



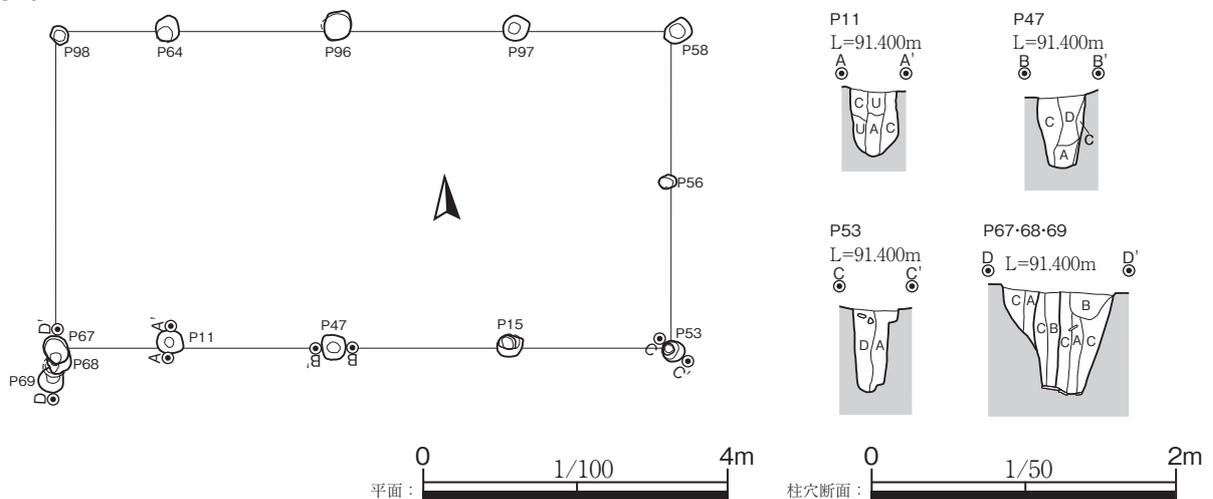
SB02



SB03



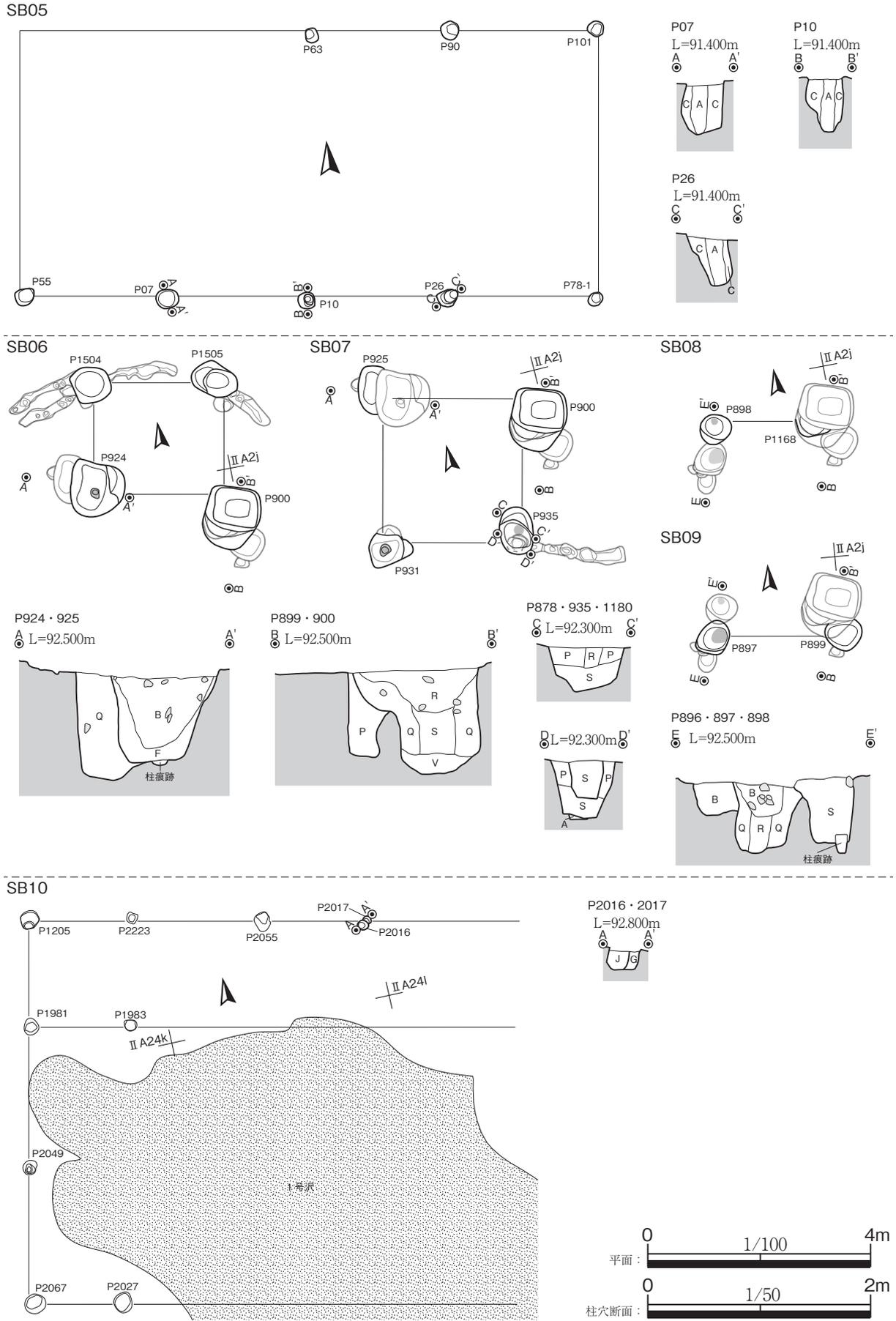
SB04



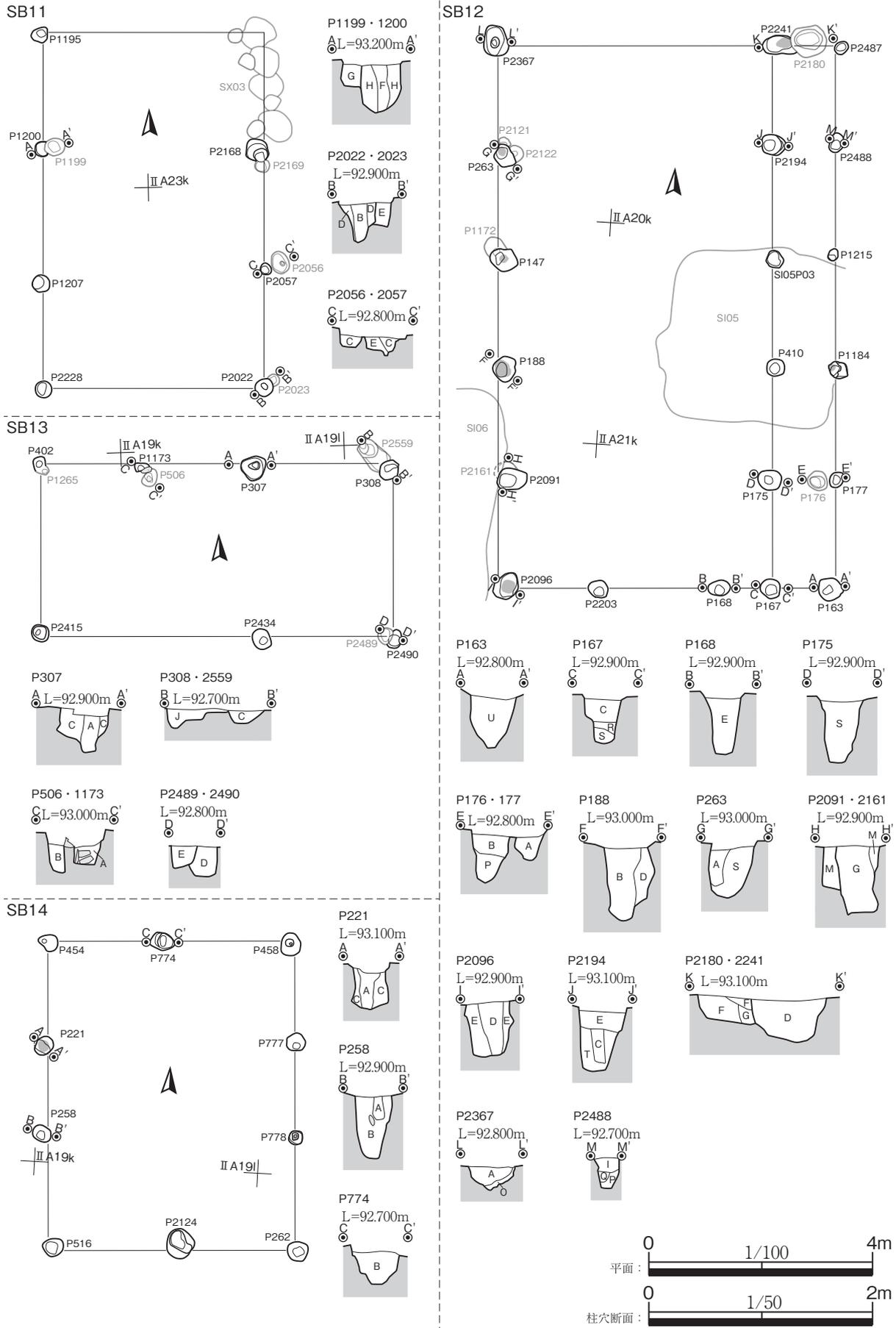
平面： 0 1/100 4m

柱穴断面： 0 1/50 2m

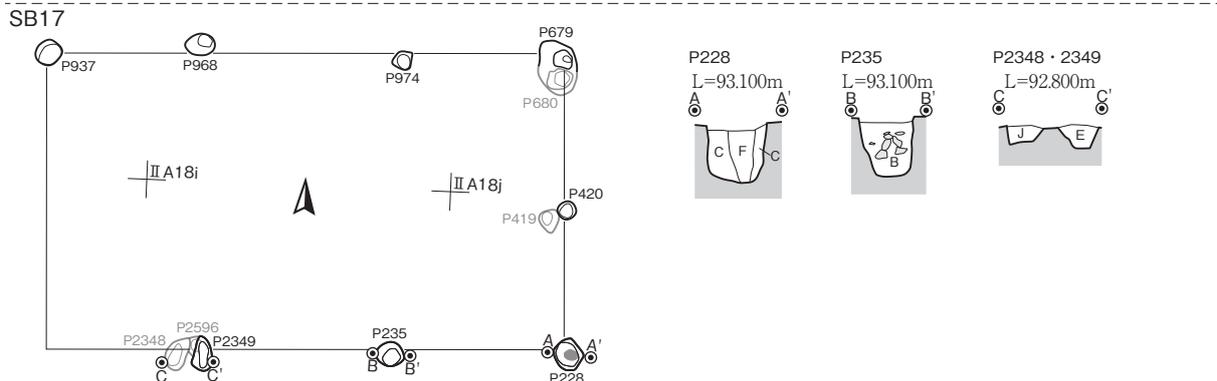
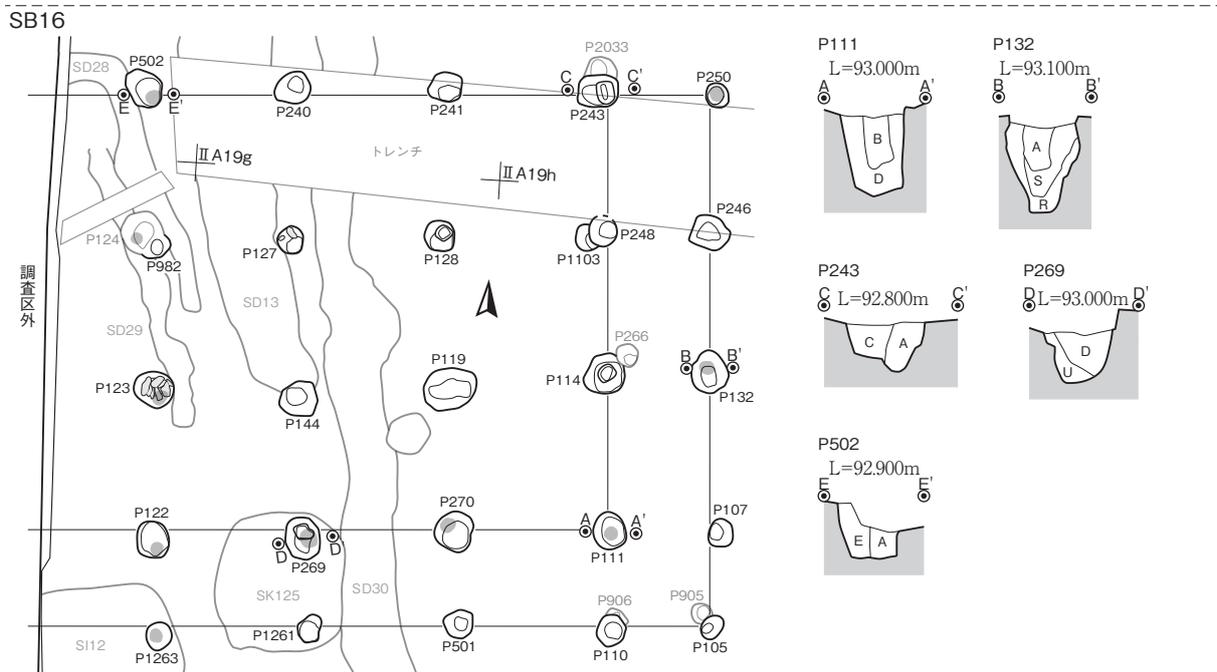
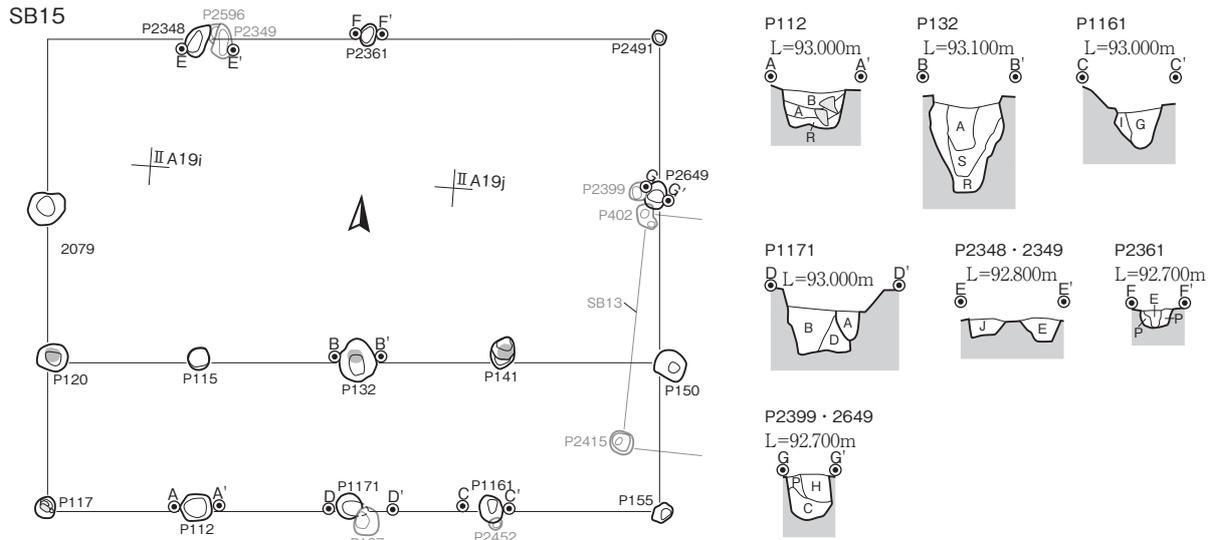
第 80 図 SB01~04



第 81 図 SB05~10

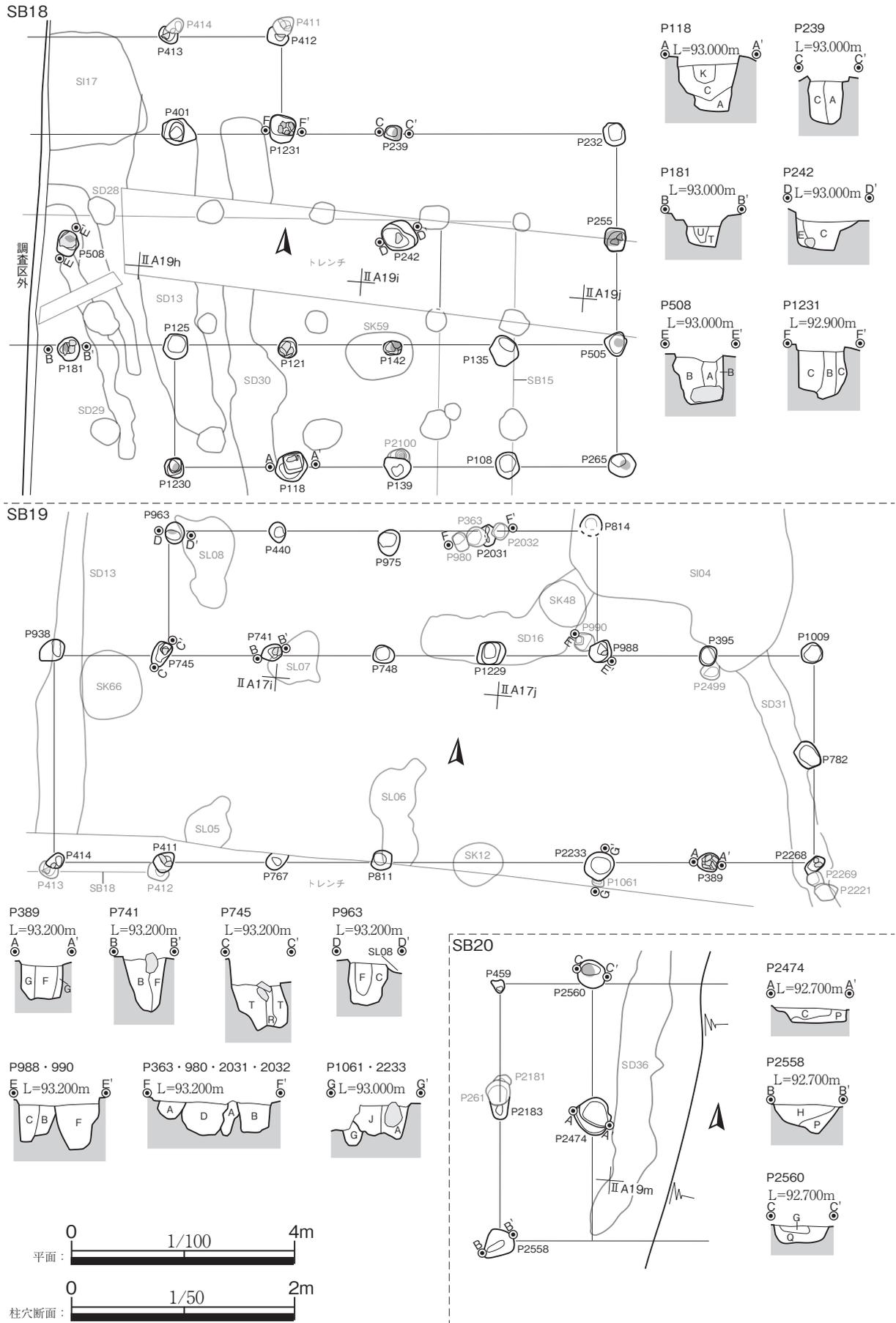


第 82 図 SB11~14

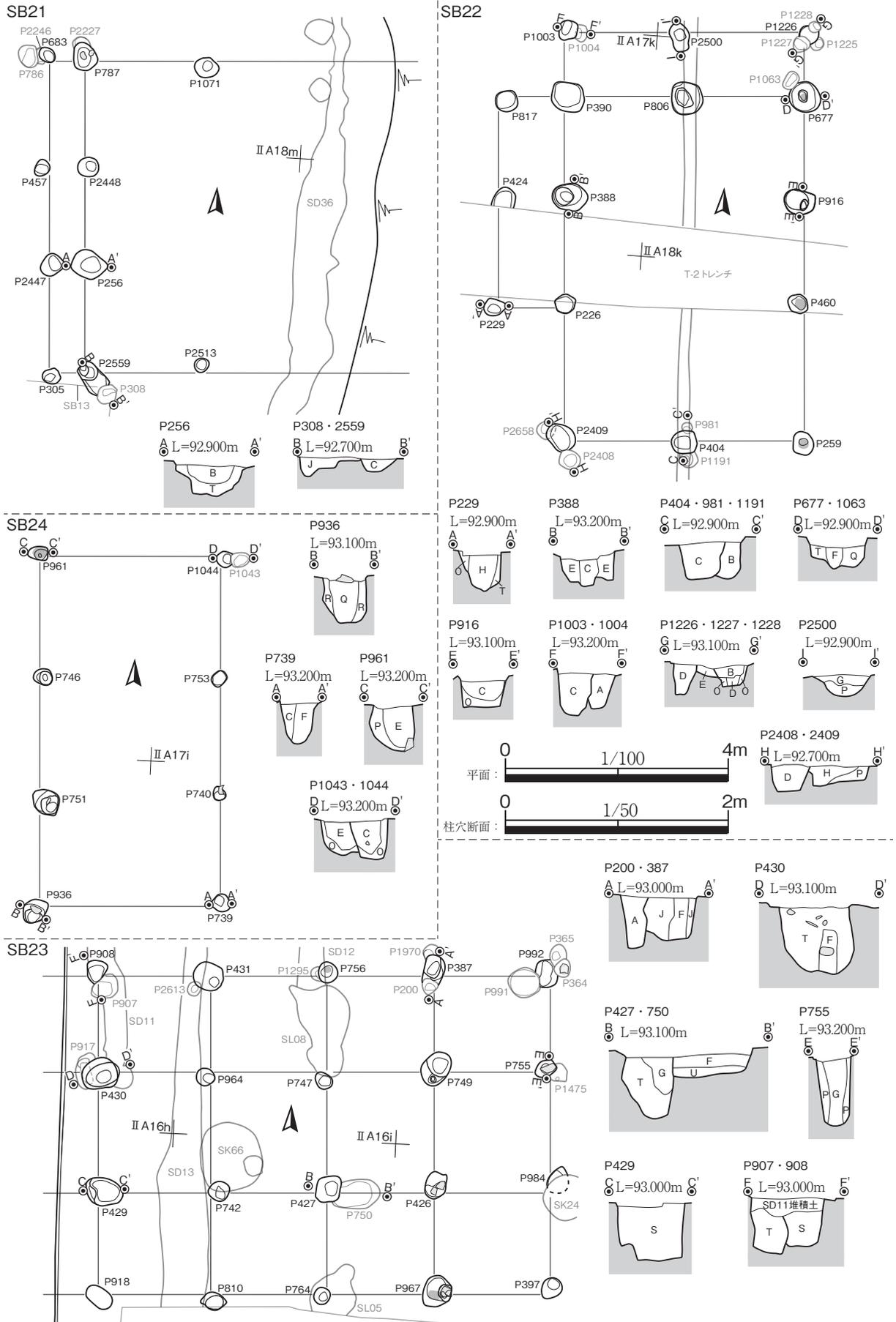


第 83 図 SB15~17

2 検出遺構

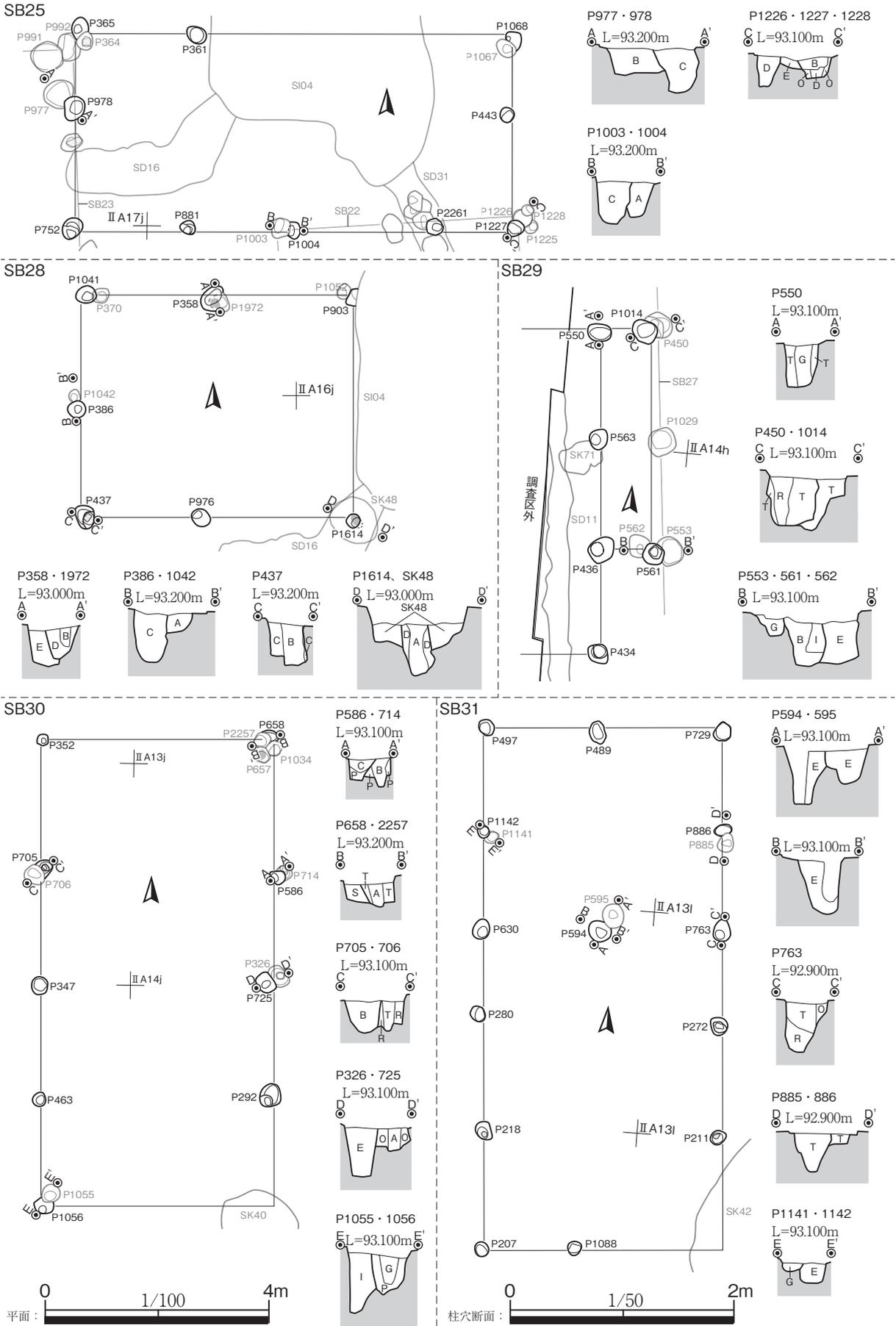


第 84 図 SB18~20



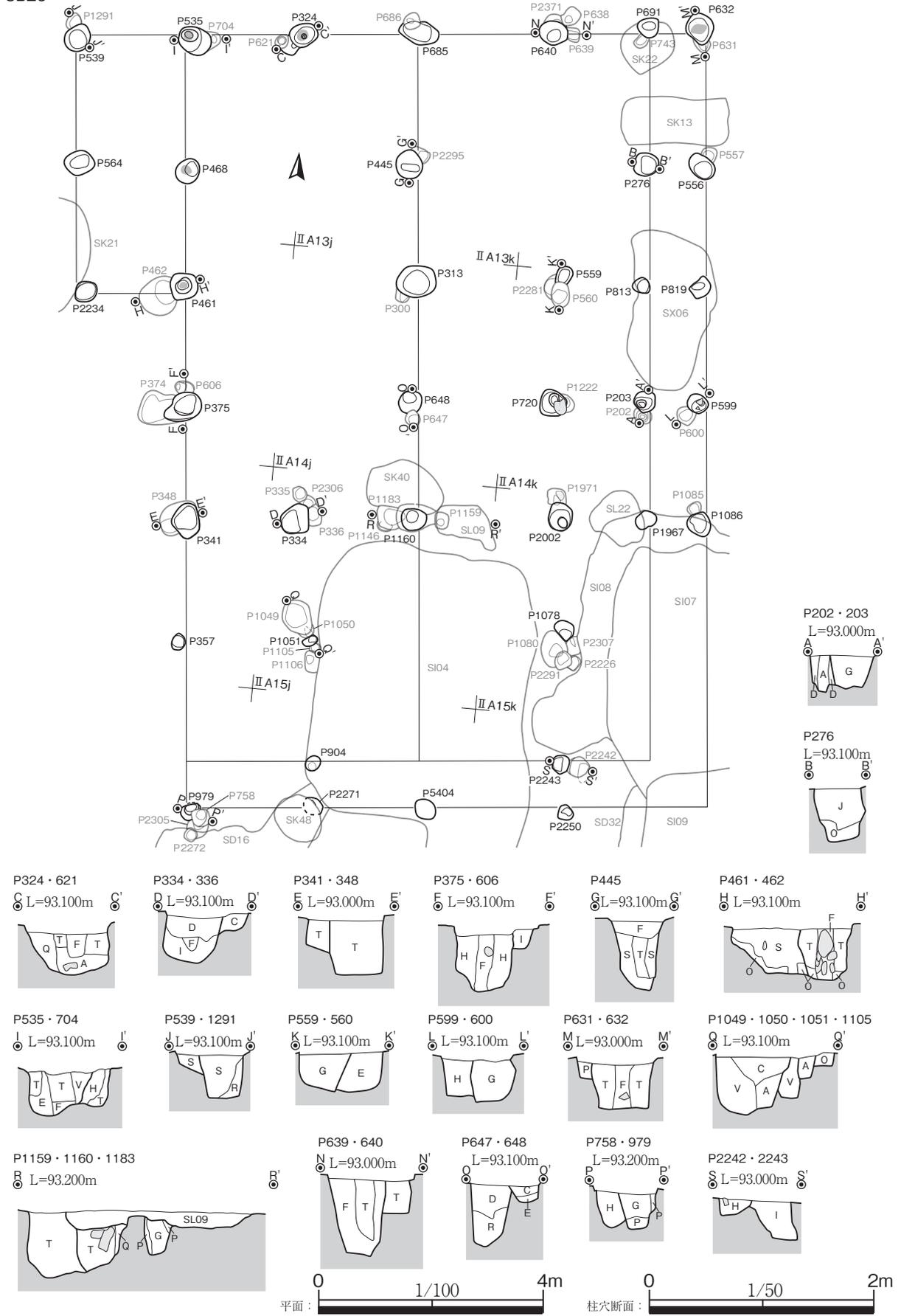
第 85 図 SB21~24

2 検出遺構



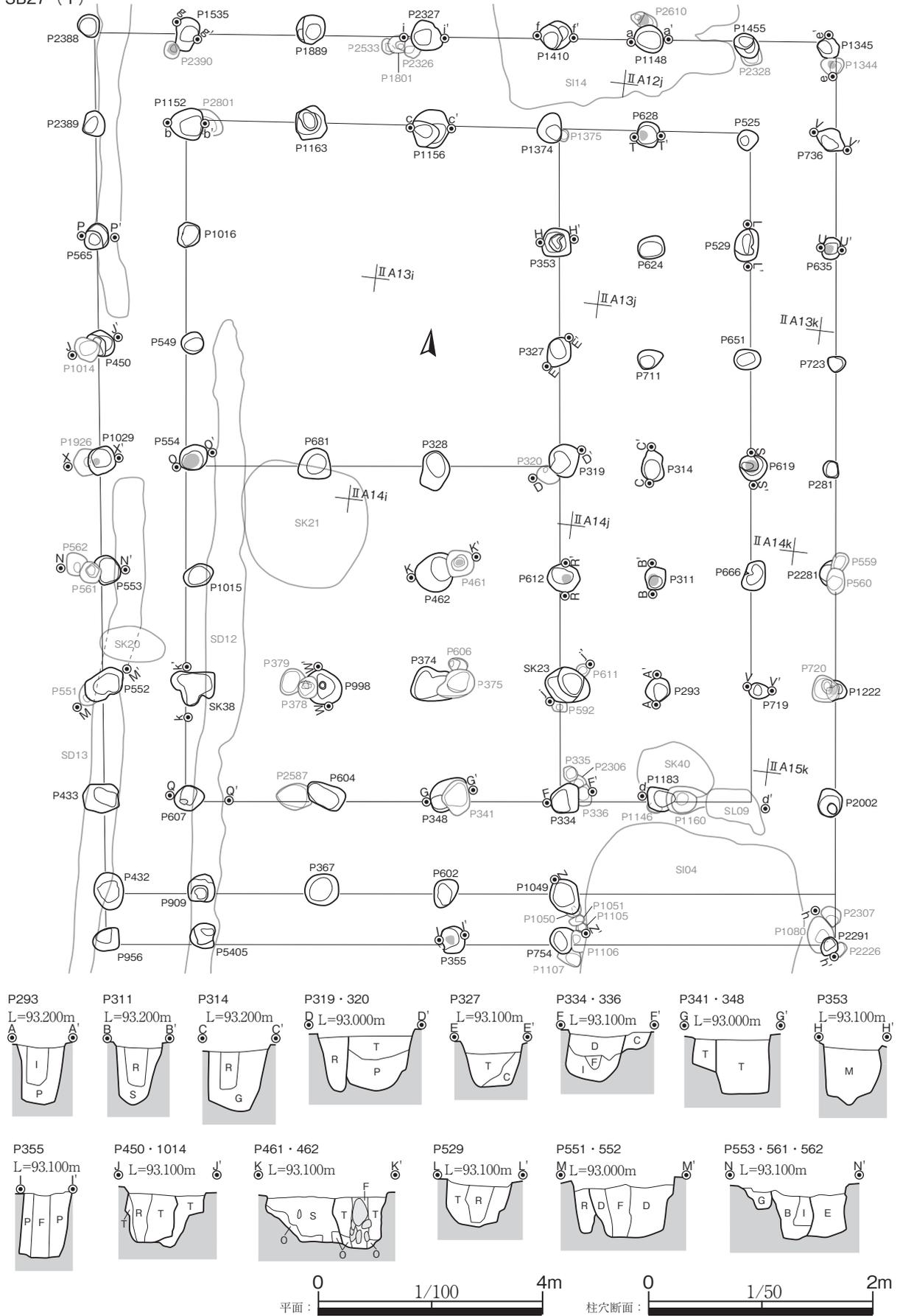
第 86 図 SB25・28~31

SB26



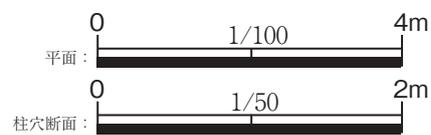
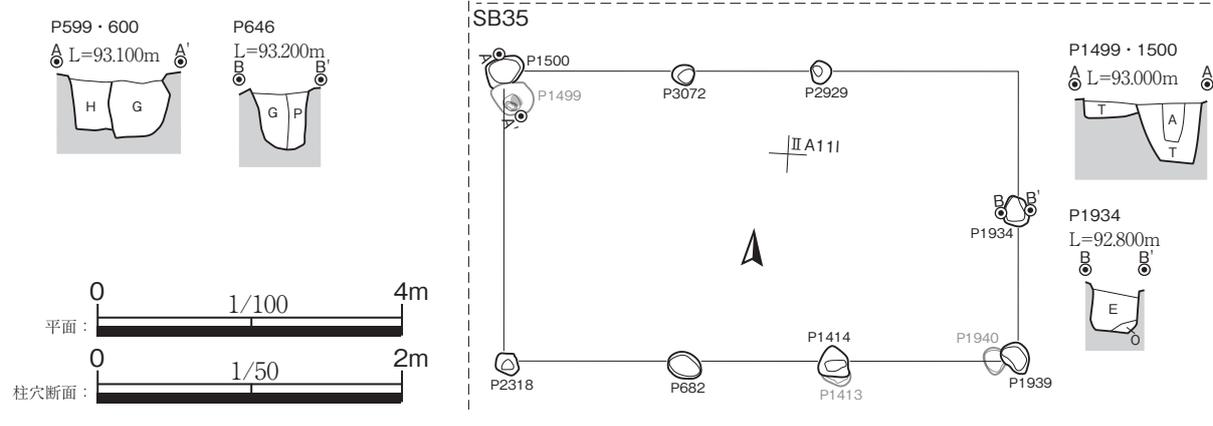
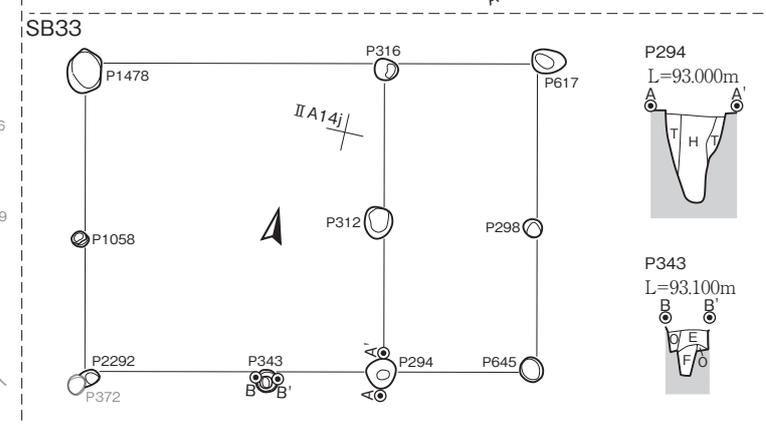
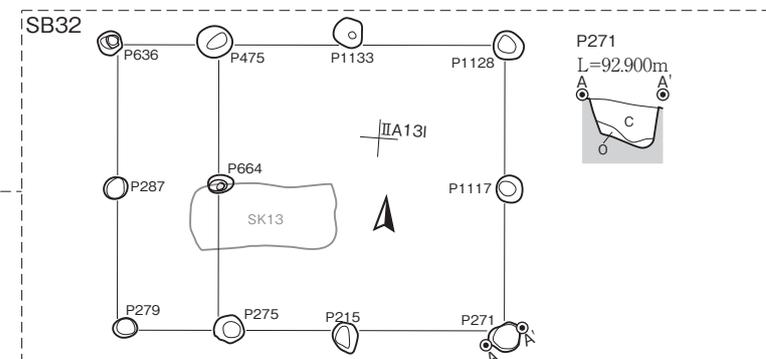
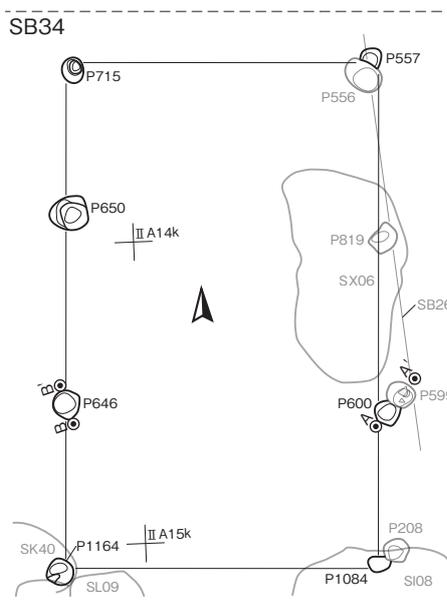
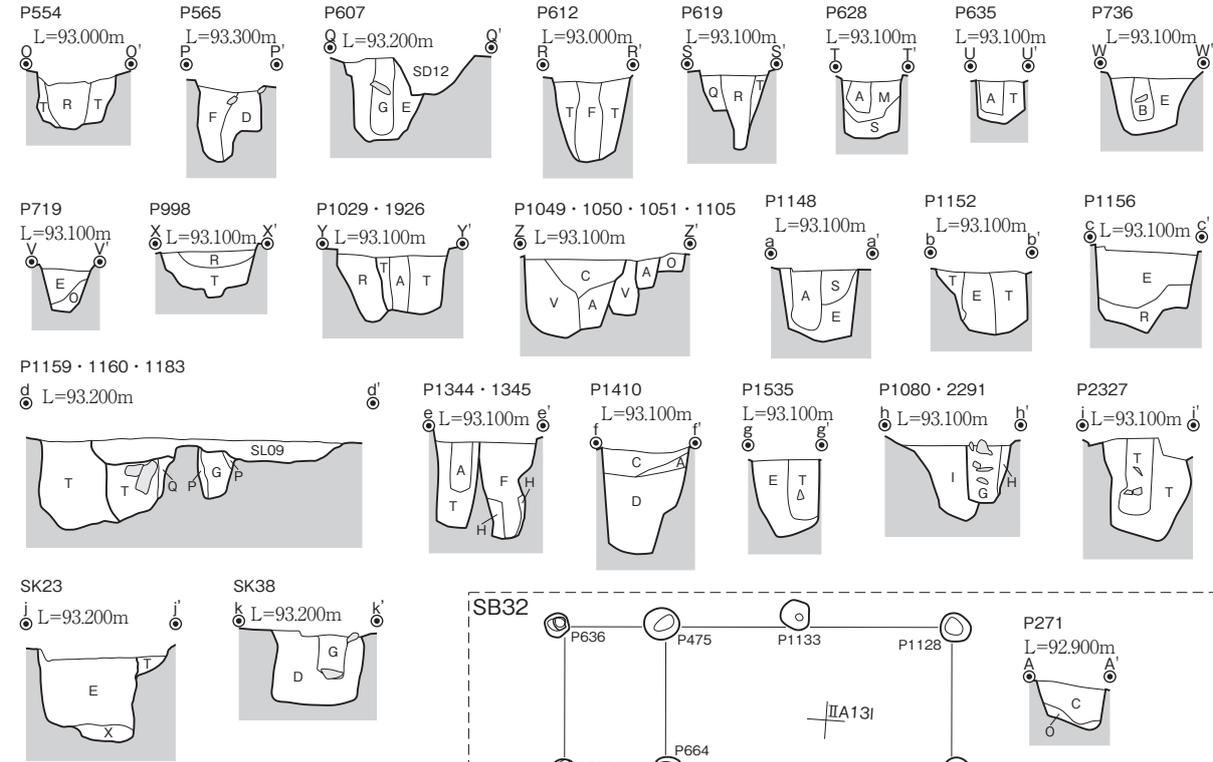
第 87 図 SB26

SB27 (1)



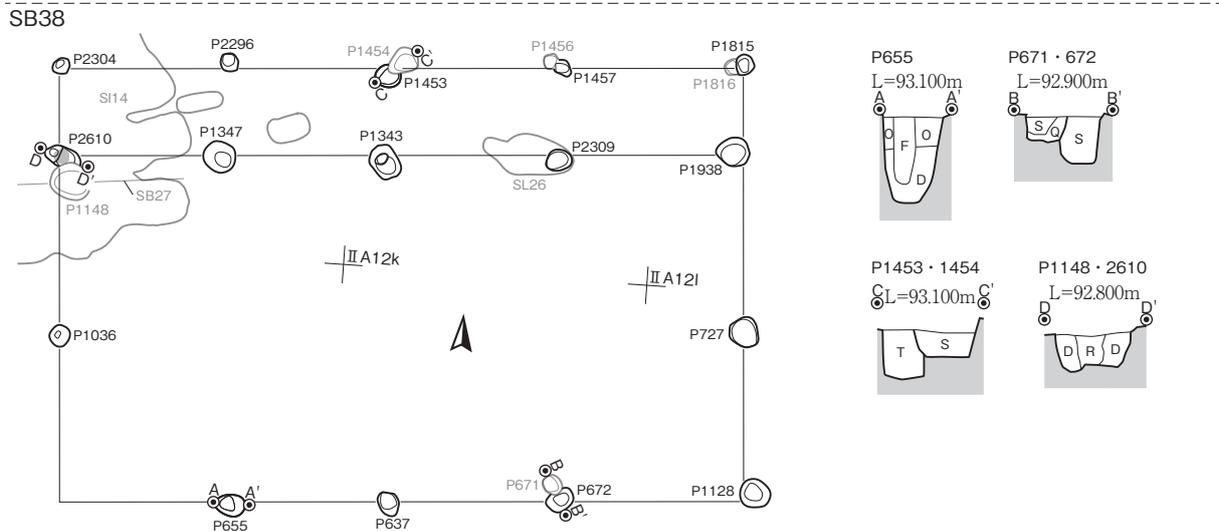
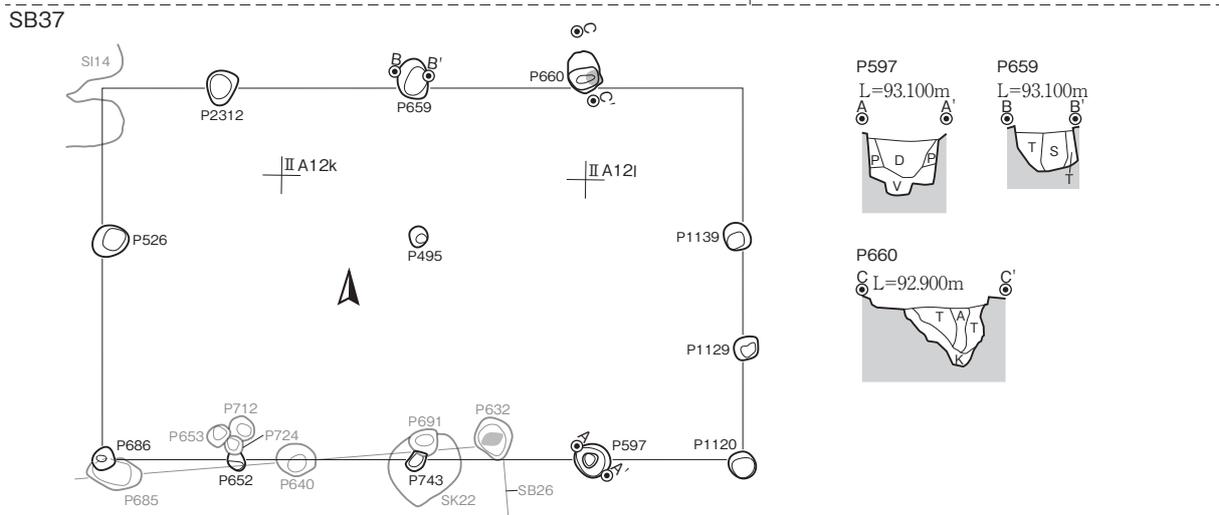
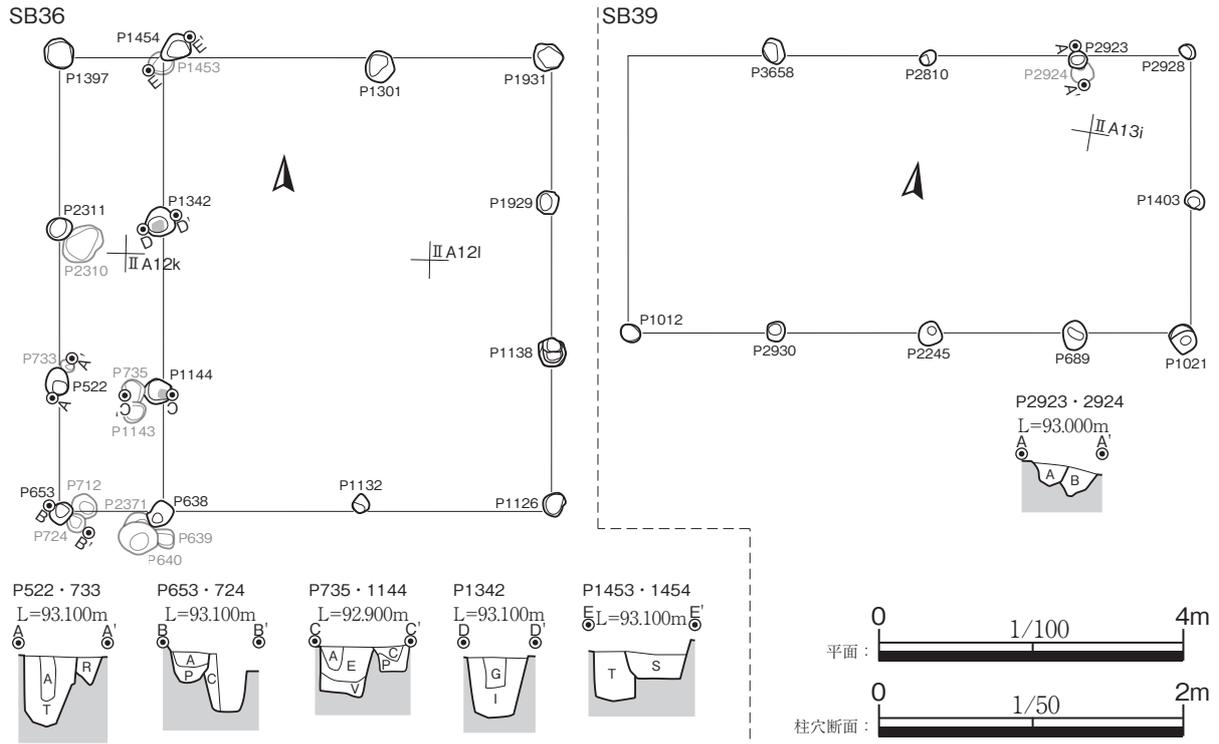
第88図 SB27 (1)

SB27 (2)

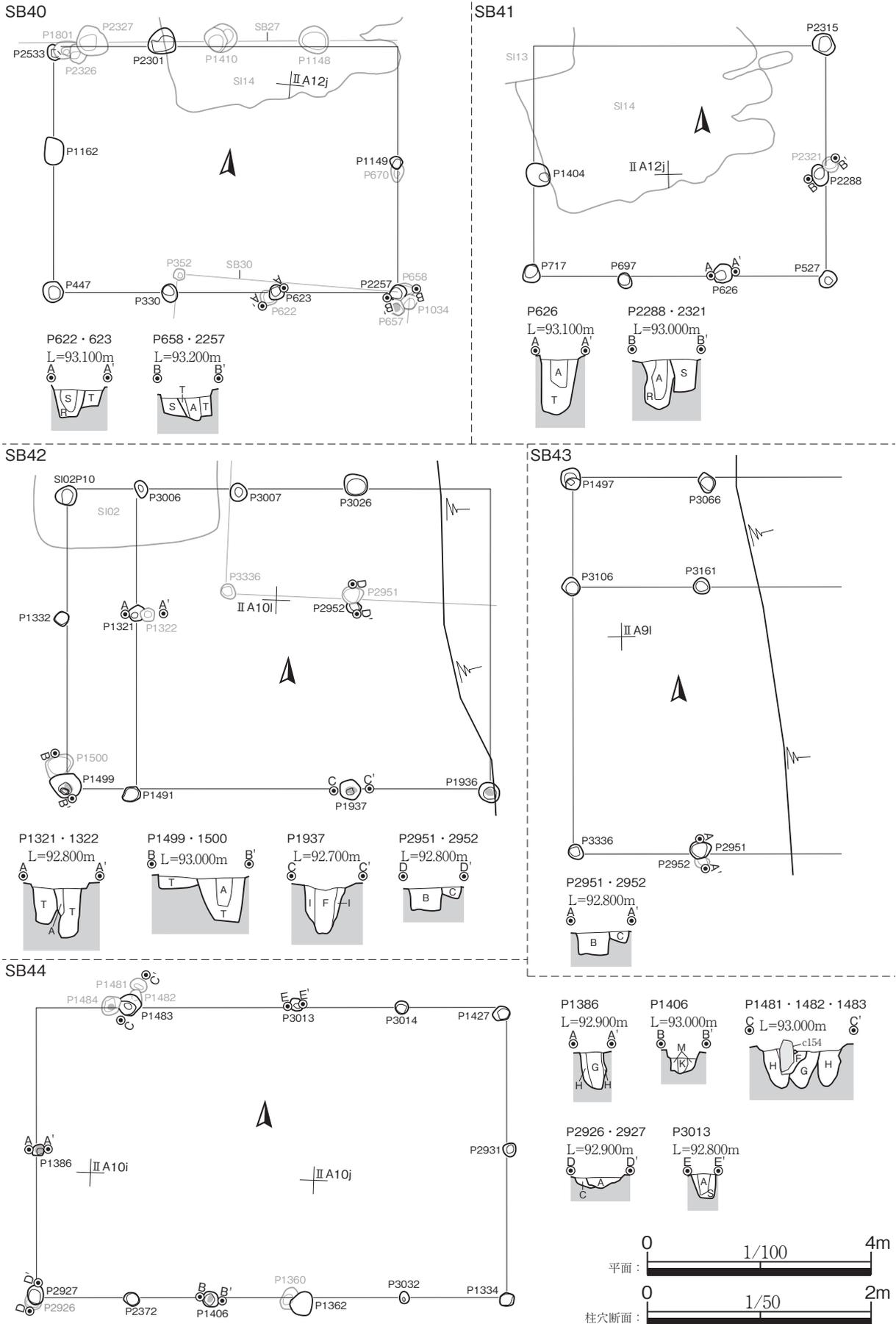


第 89 図 SB27 (2)、SB32~35

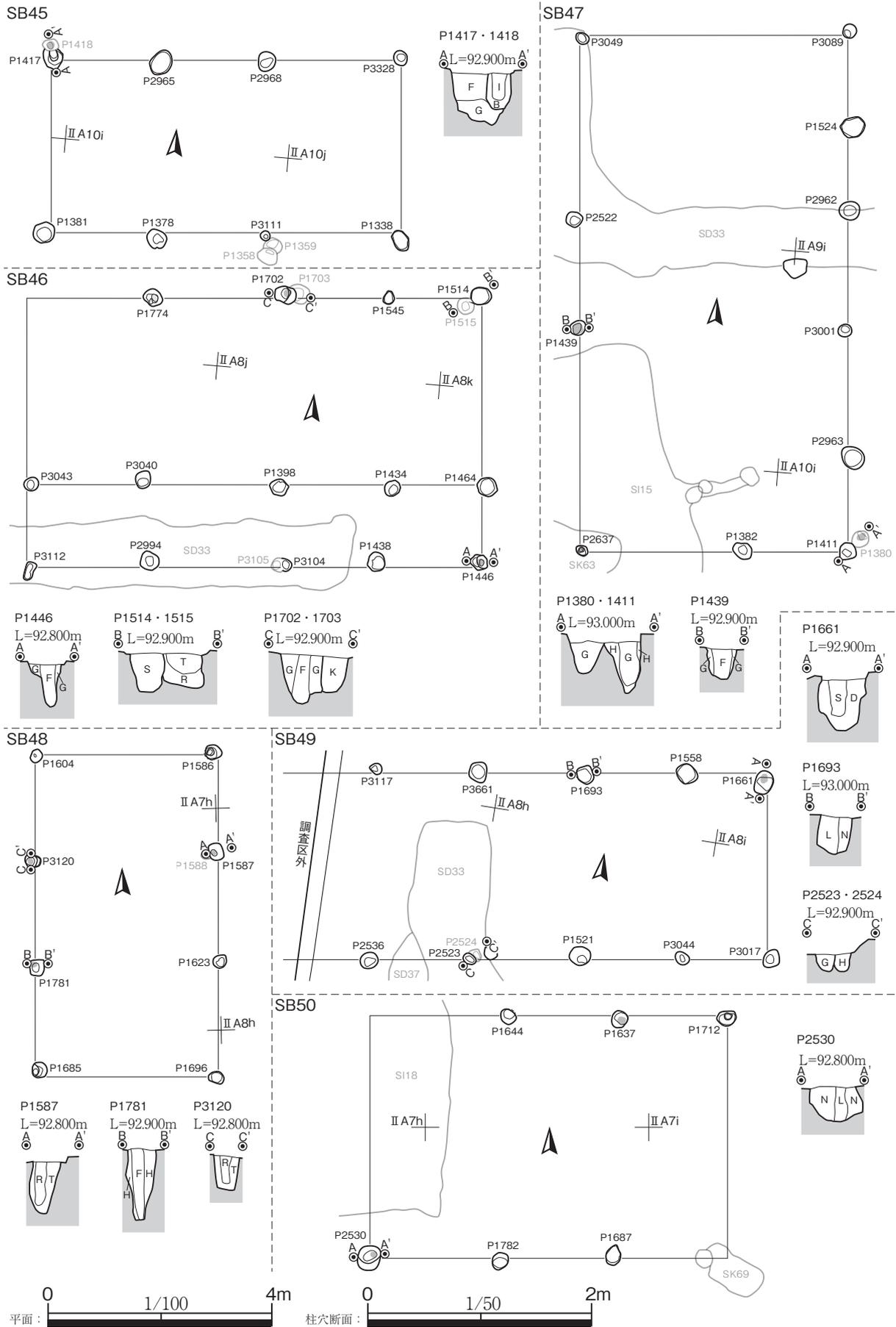
2 検出遺構



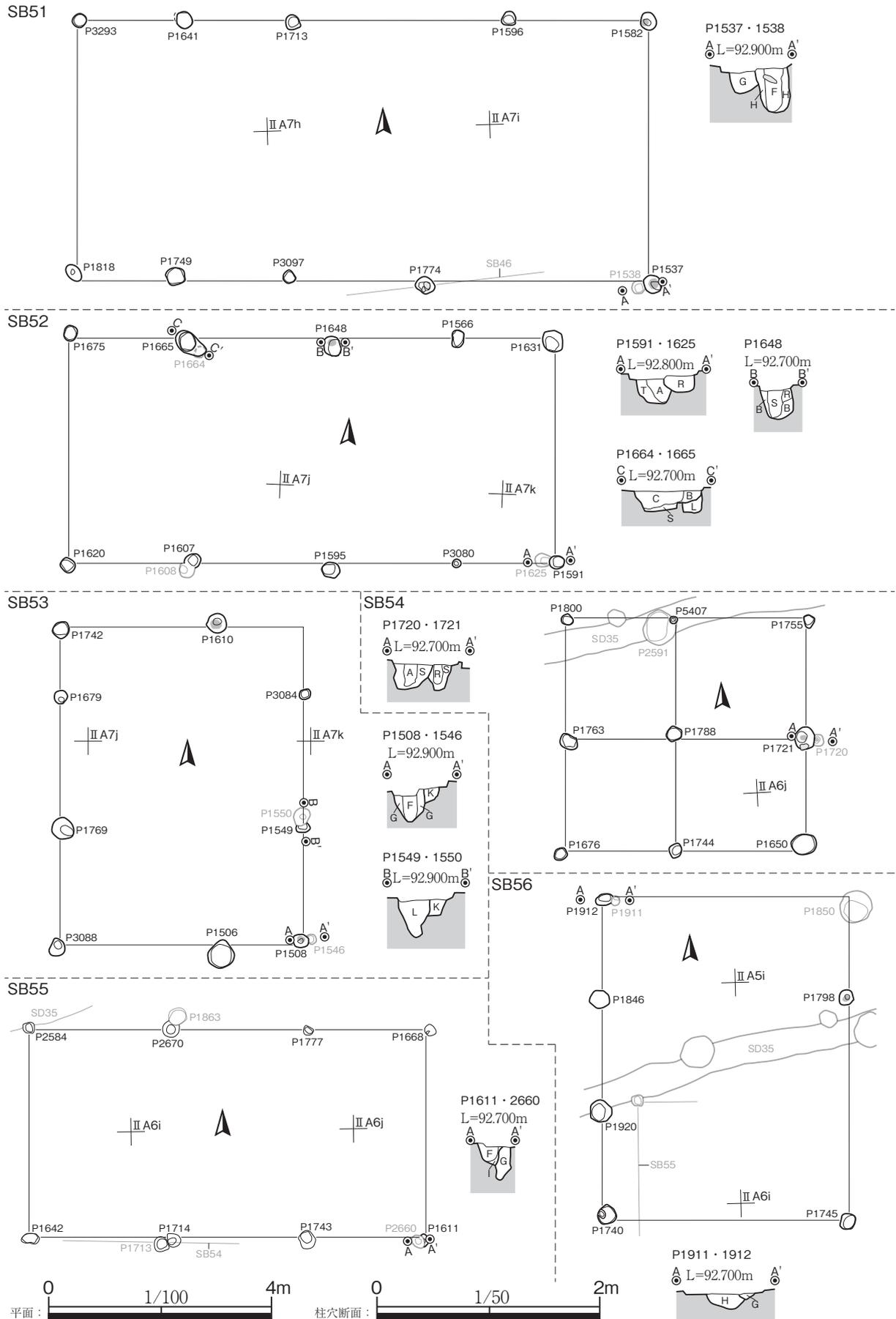
第 90 図 SB36~39



第91図 SB40~44

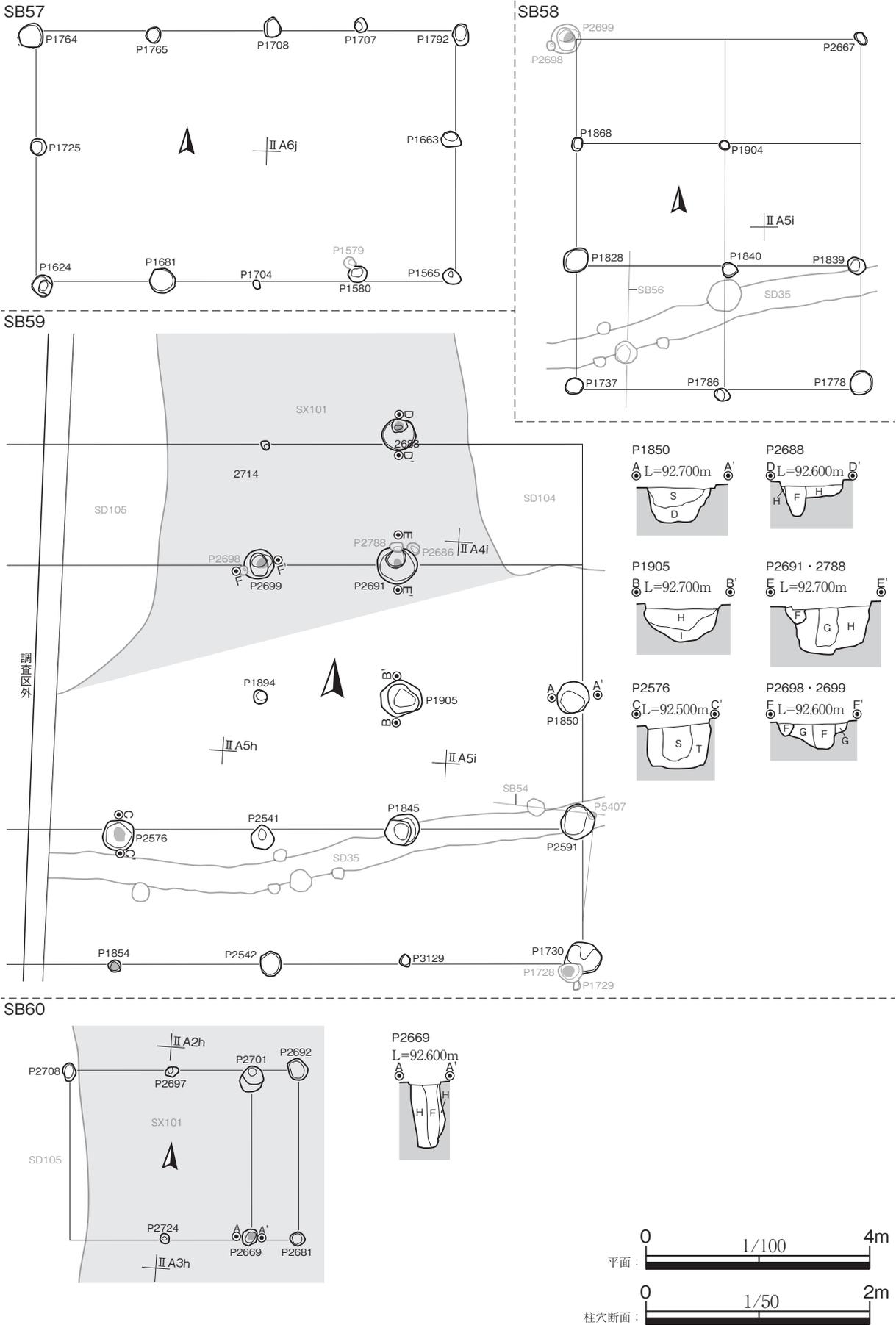


第92図 SB45~50

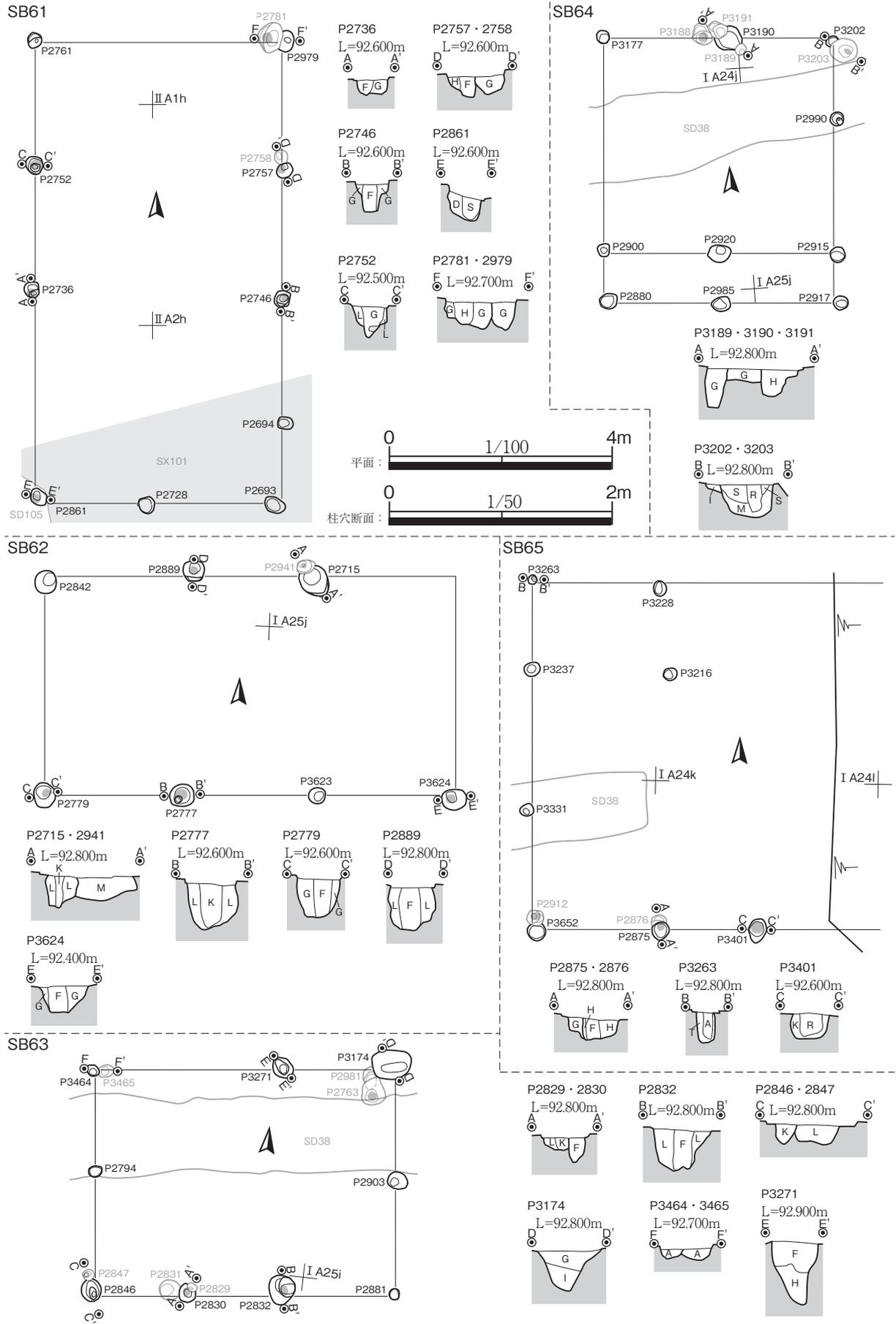


第93図 SB51~56

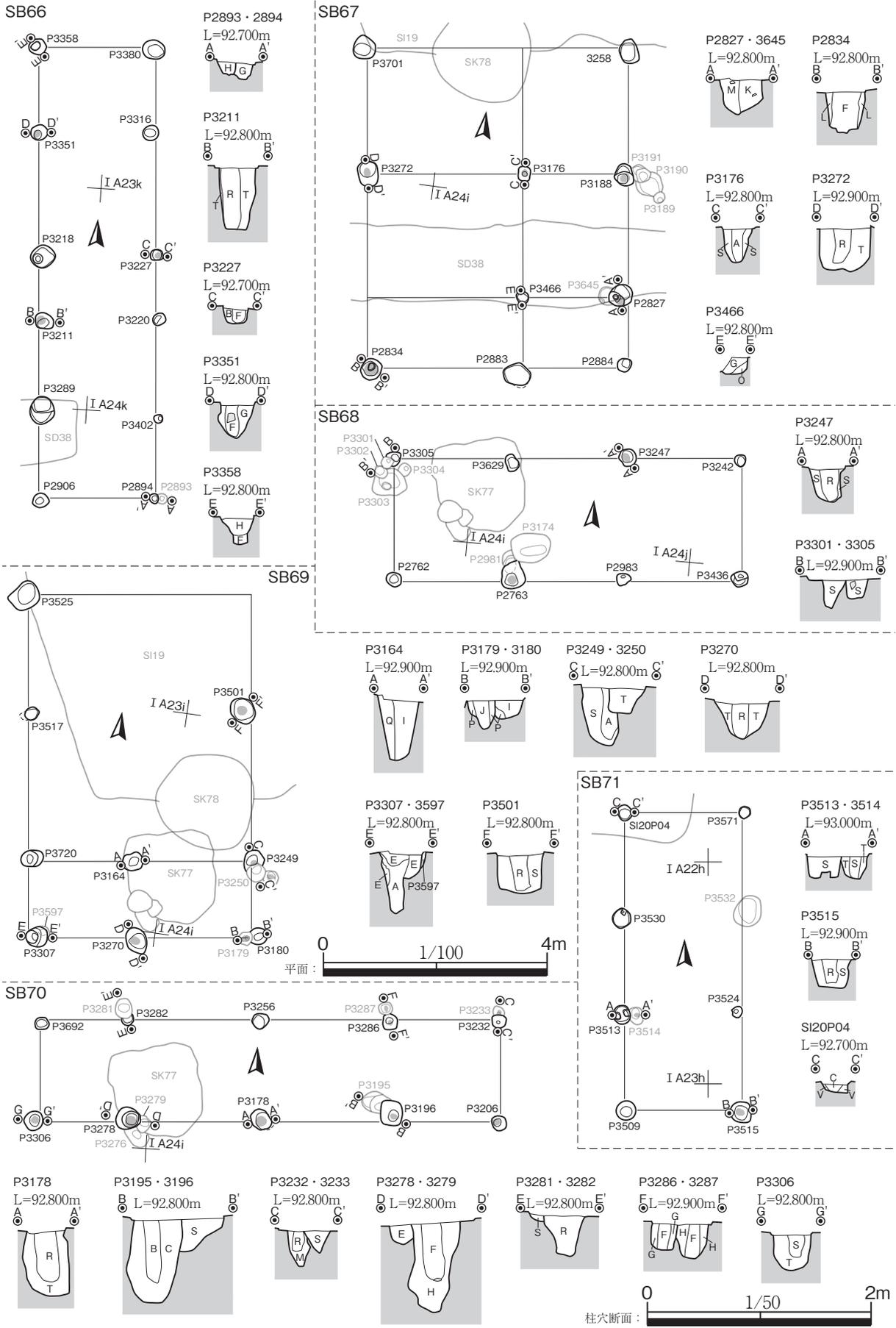
2 検出遺構



第94図 SB57~60

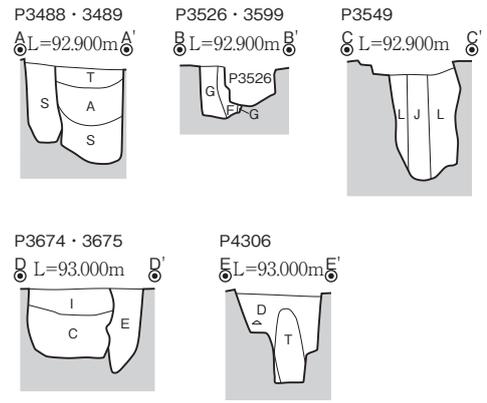
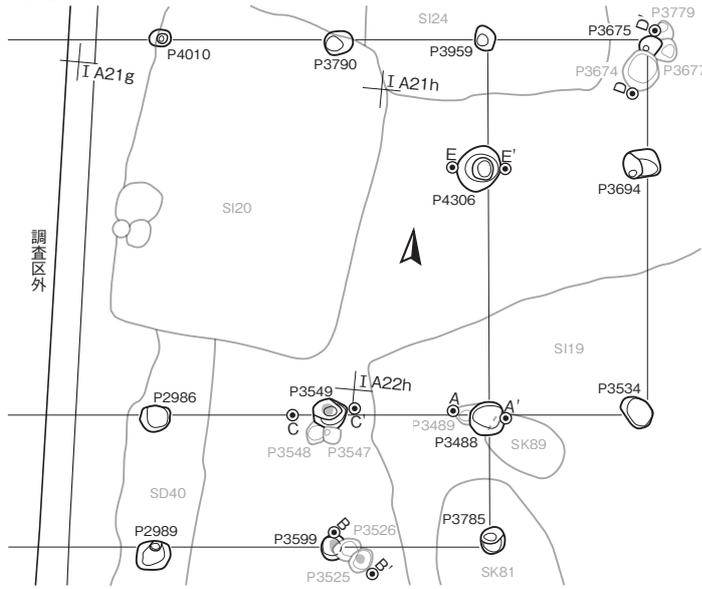


第95図 SB61~65

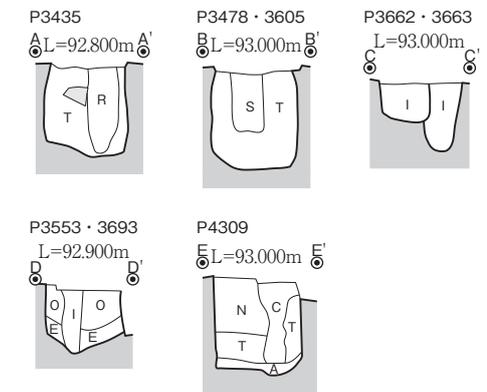
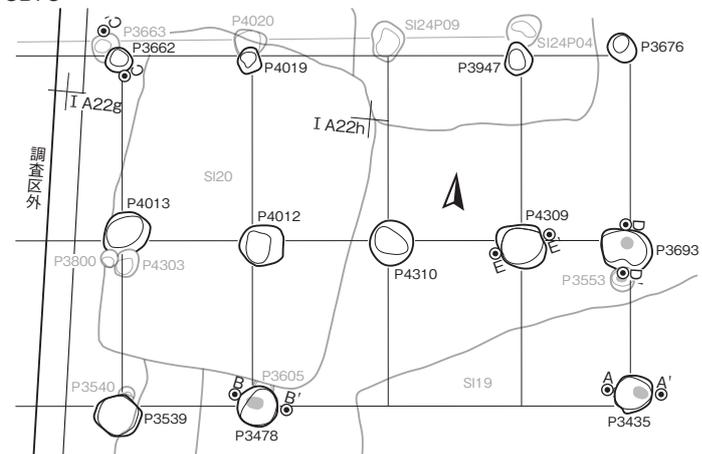


第96図 SB66~71

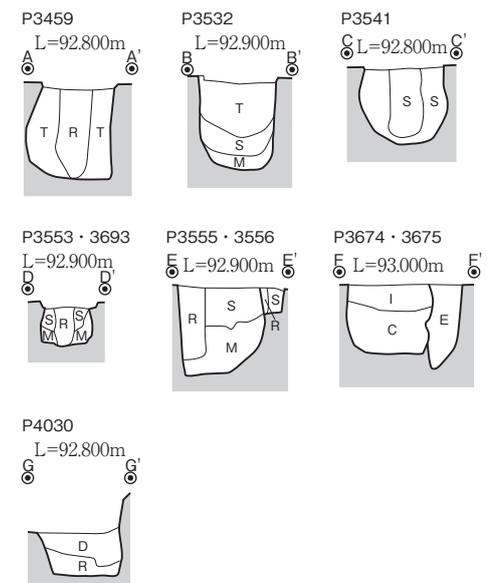
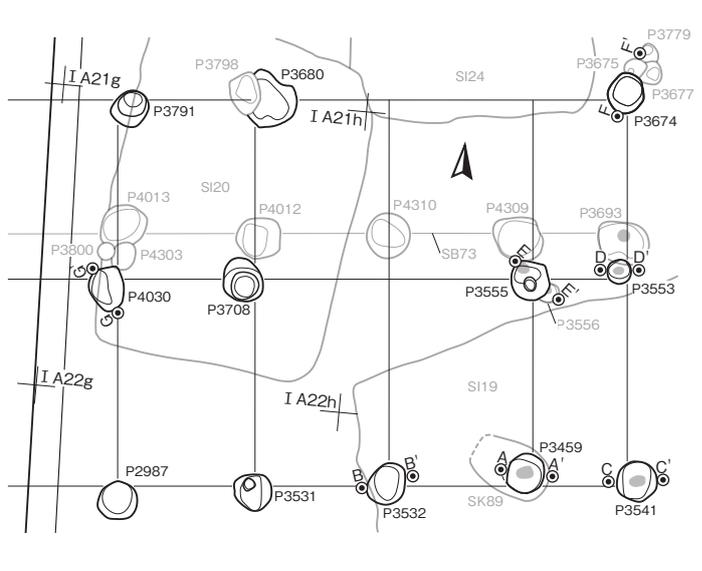
SB72



SB73

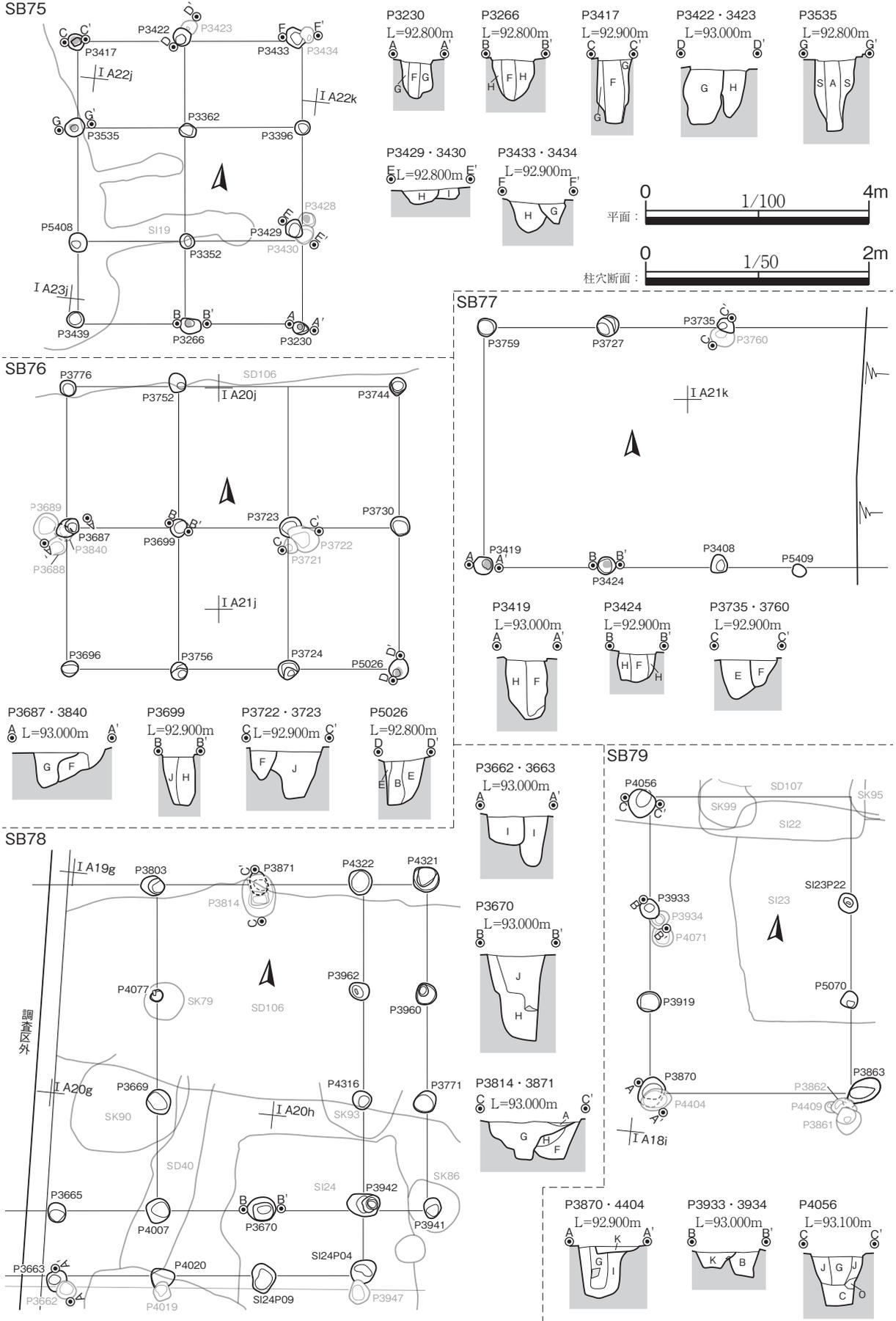


SB74



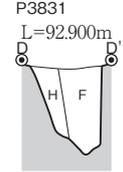
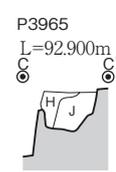
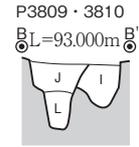
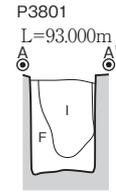
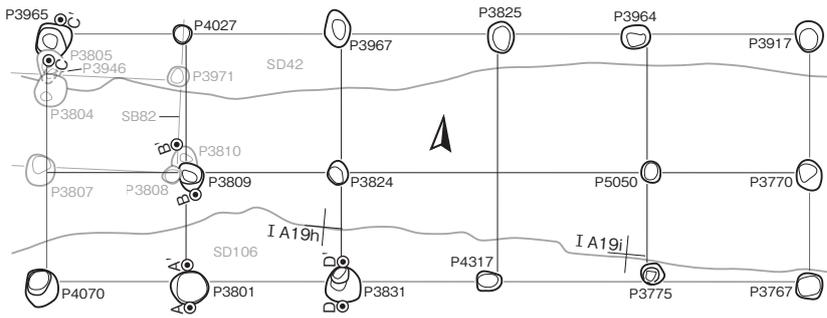
第97図 SB72~74

2 検出遺構

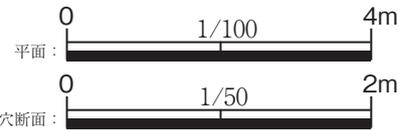
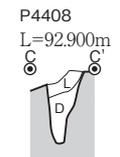
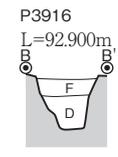
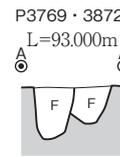
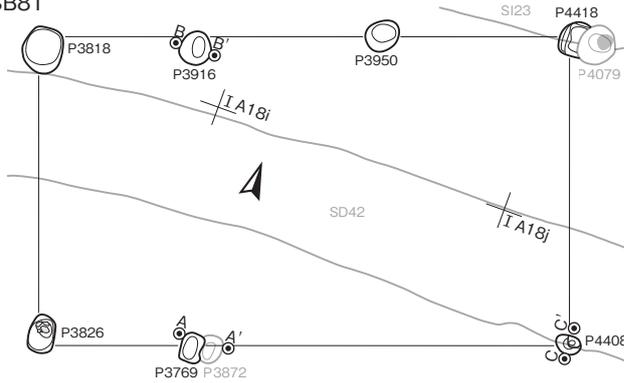


第98図 SB75~79

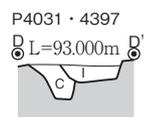
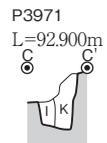
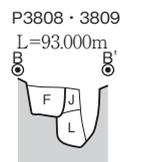
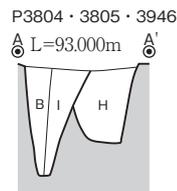
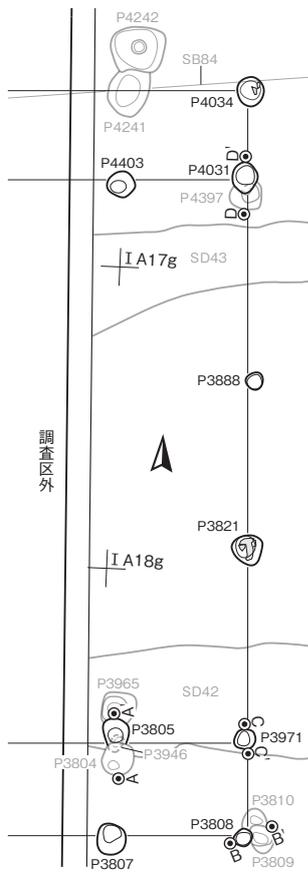
SB80



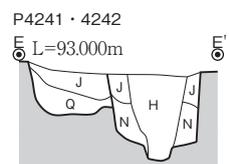
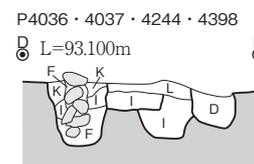
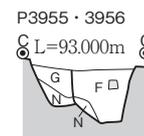
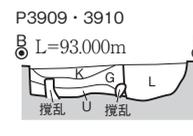
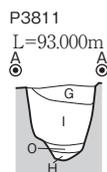
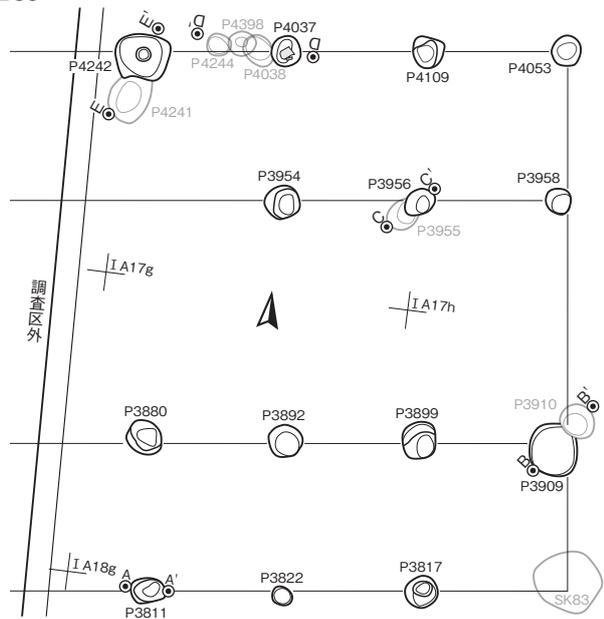
SB81



SB82



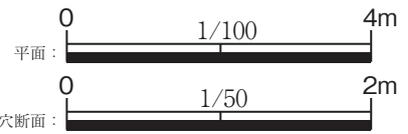
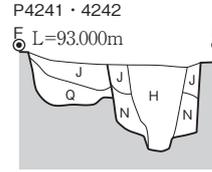
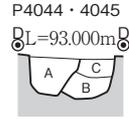
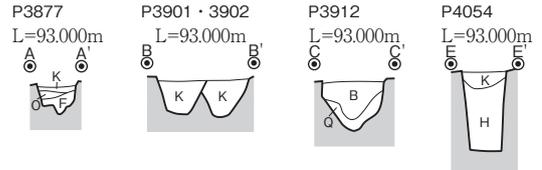
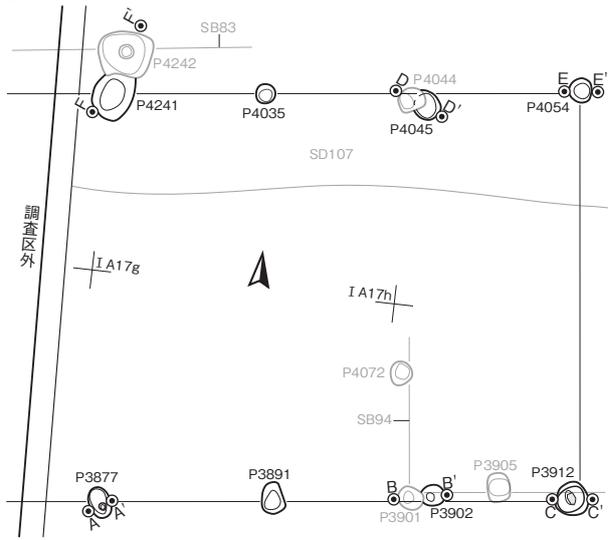
SB83



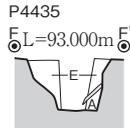
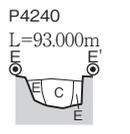
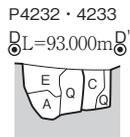
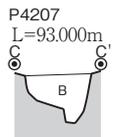
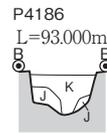
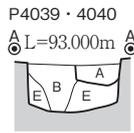
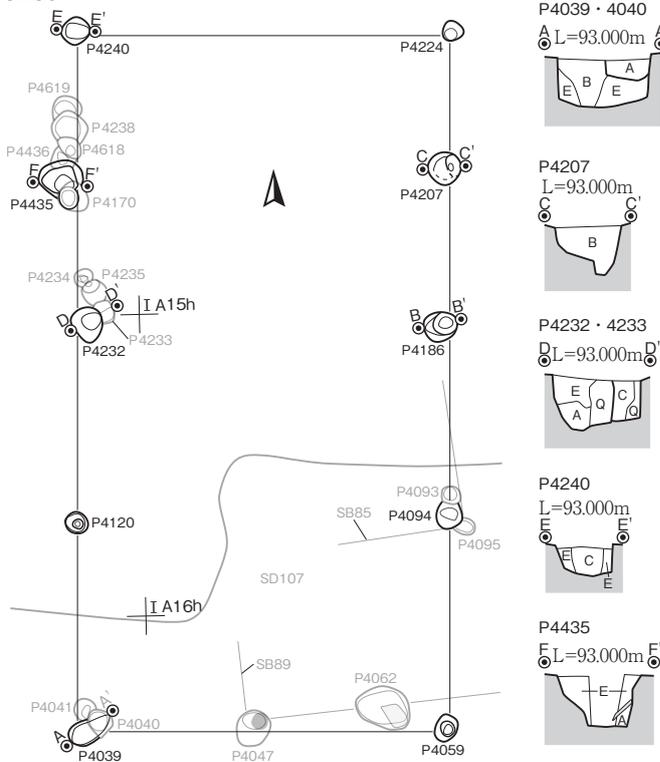
第99図 SB80~83

2 検出遺構

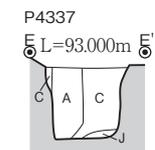
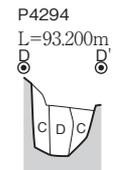
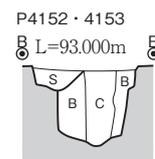
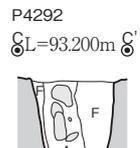
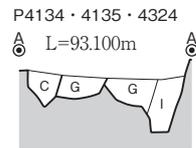
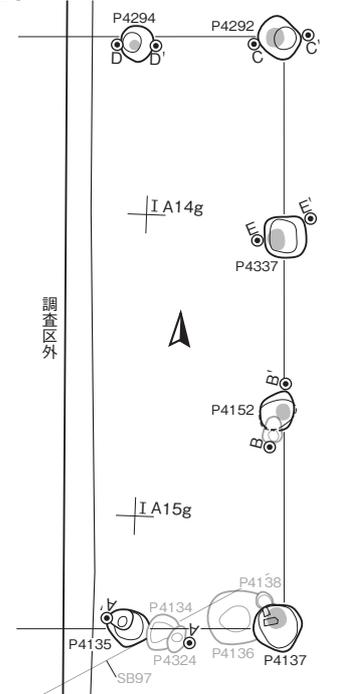
SB84



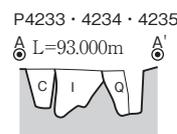
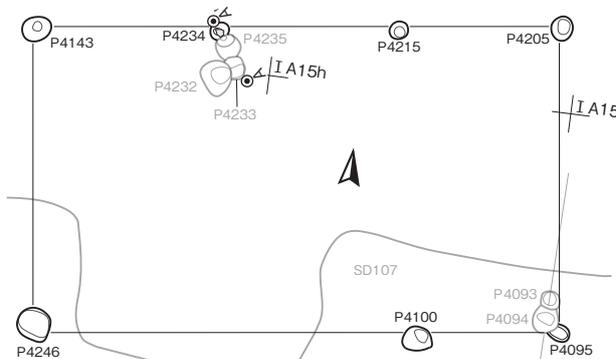
SB85



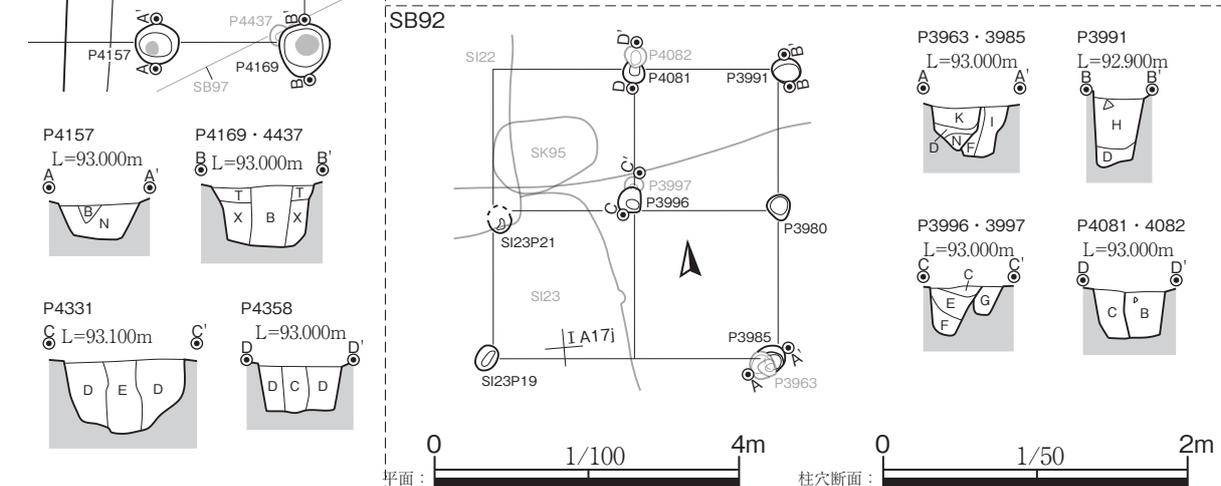
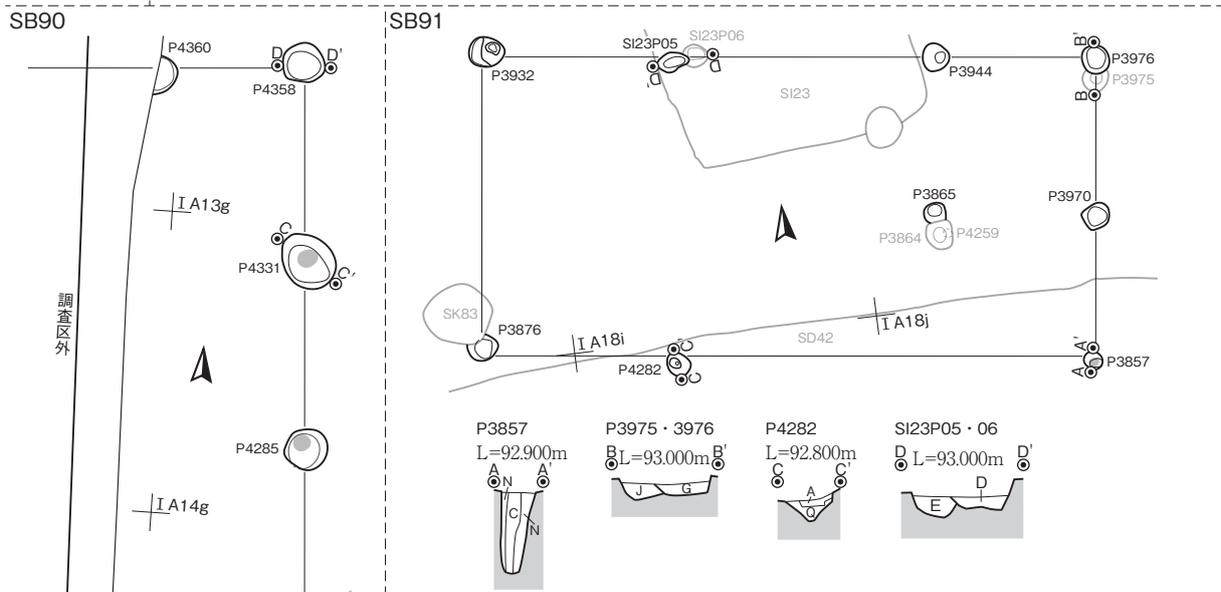
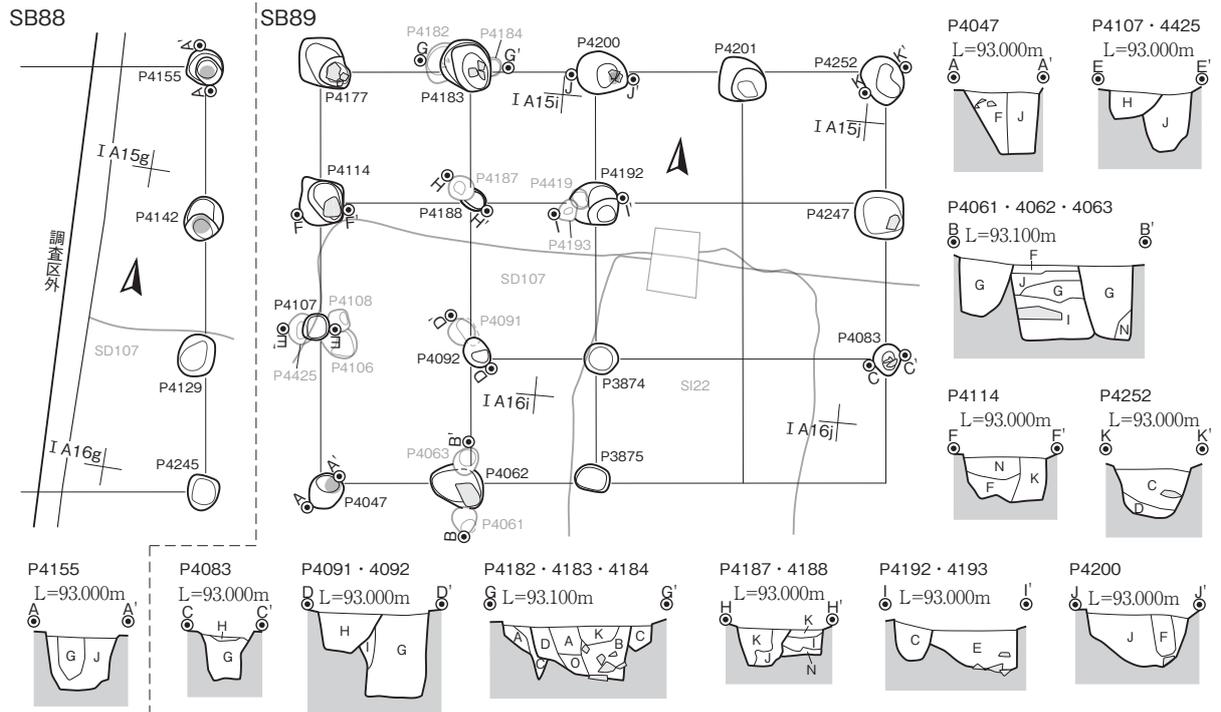
SB87



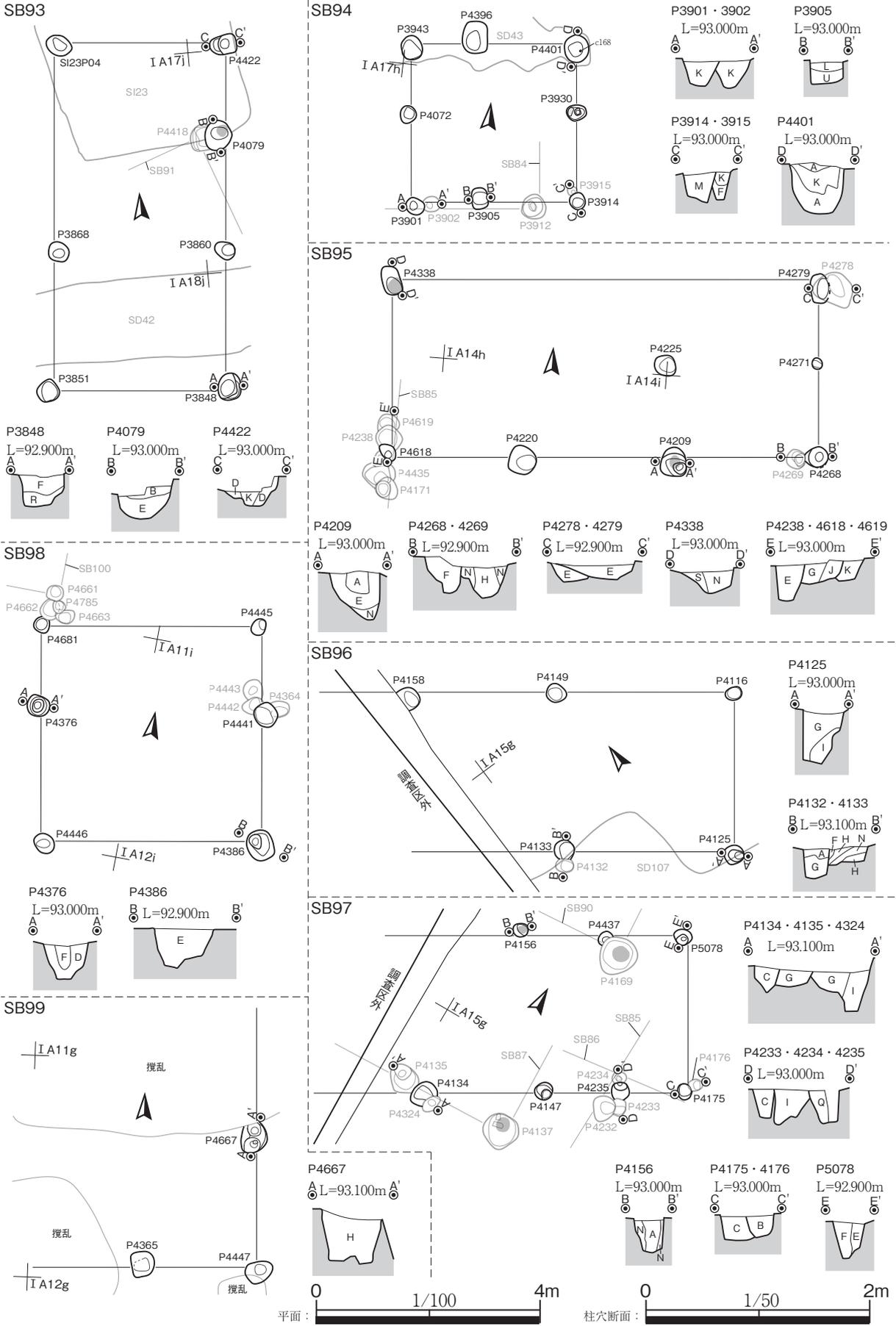
SB86



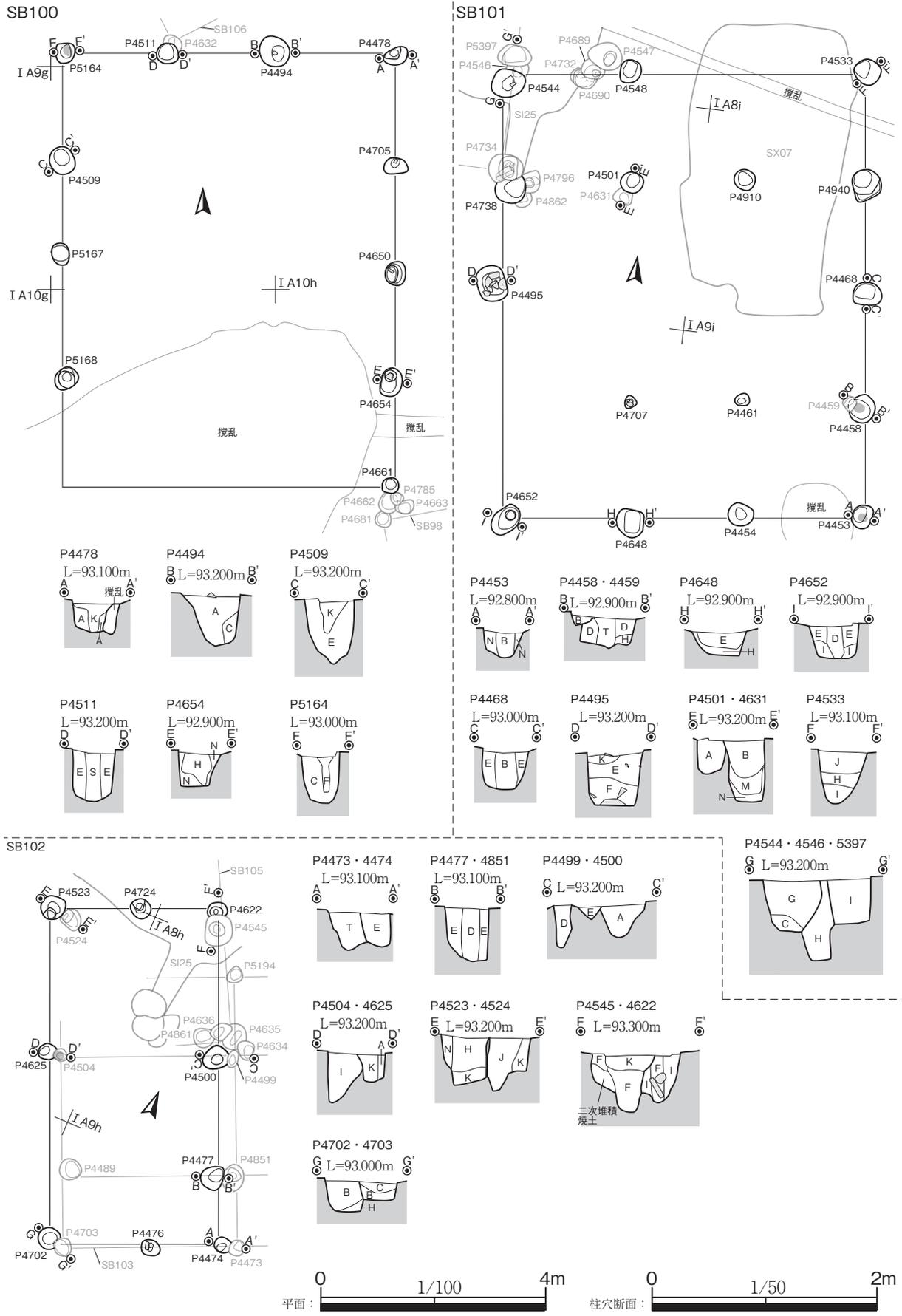
第 100 図 SB84~87



第 101 図 SB88~92



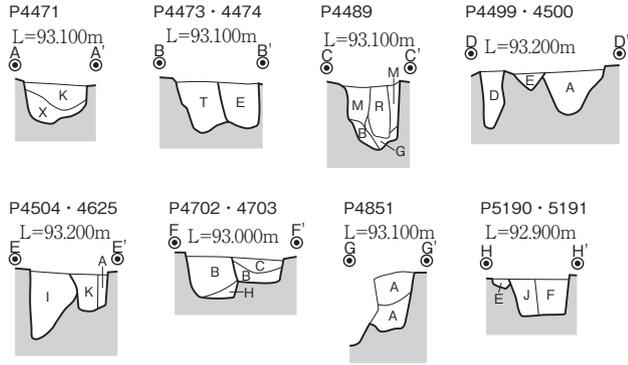
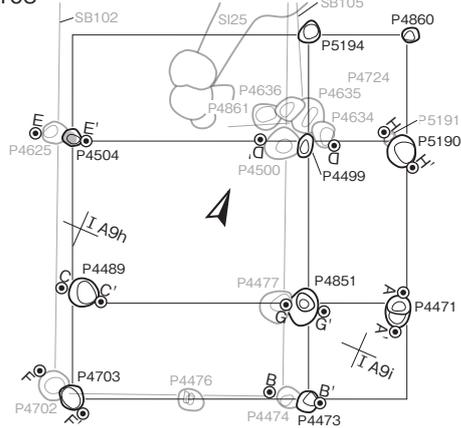
第102図 SB93~99



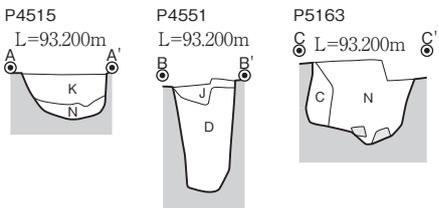
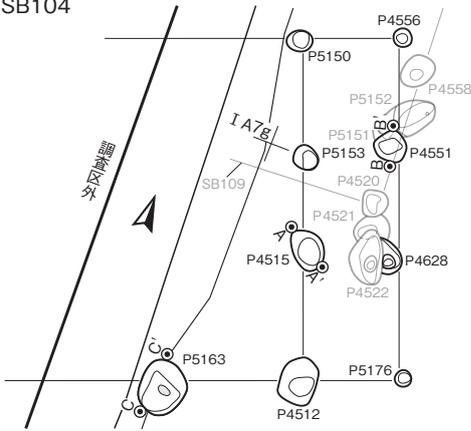
第 103 図 SB100~102

2 検出遺構

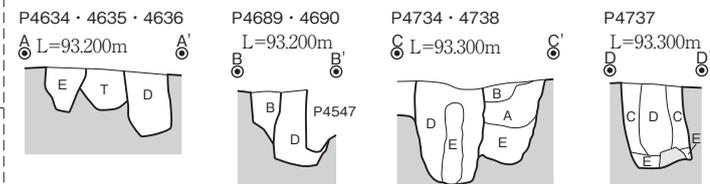
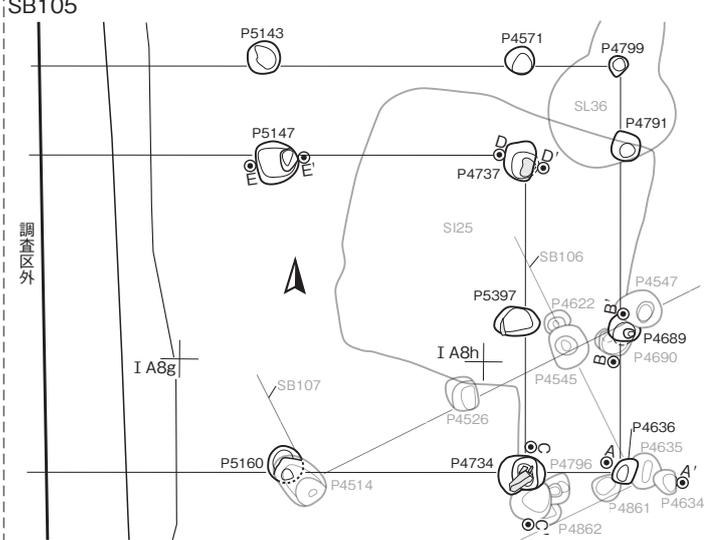
SB103



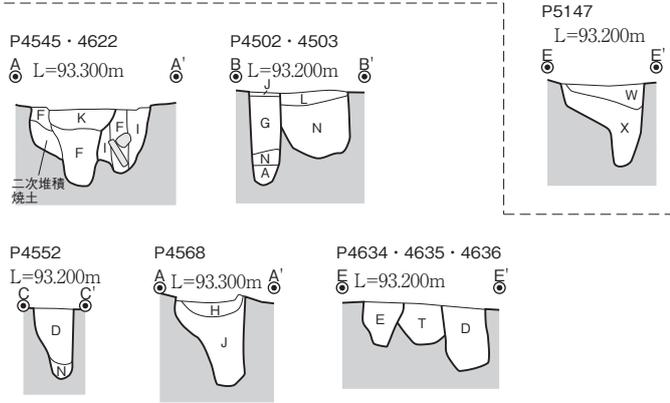
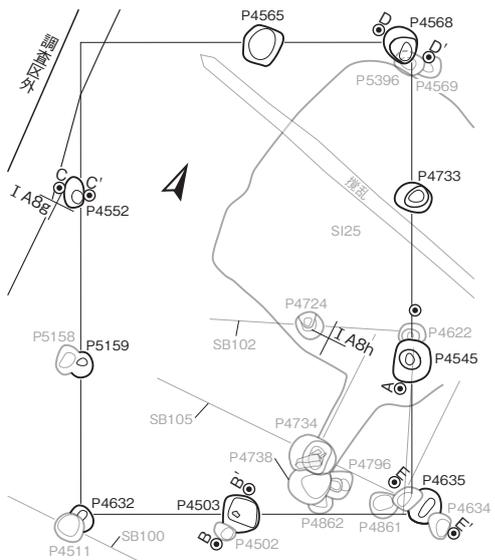
SB104



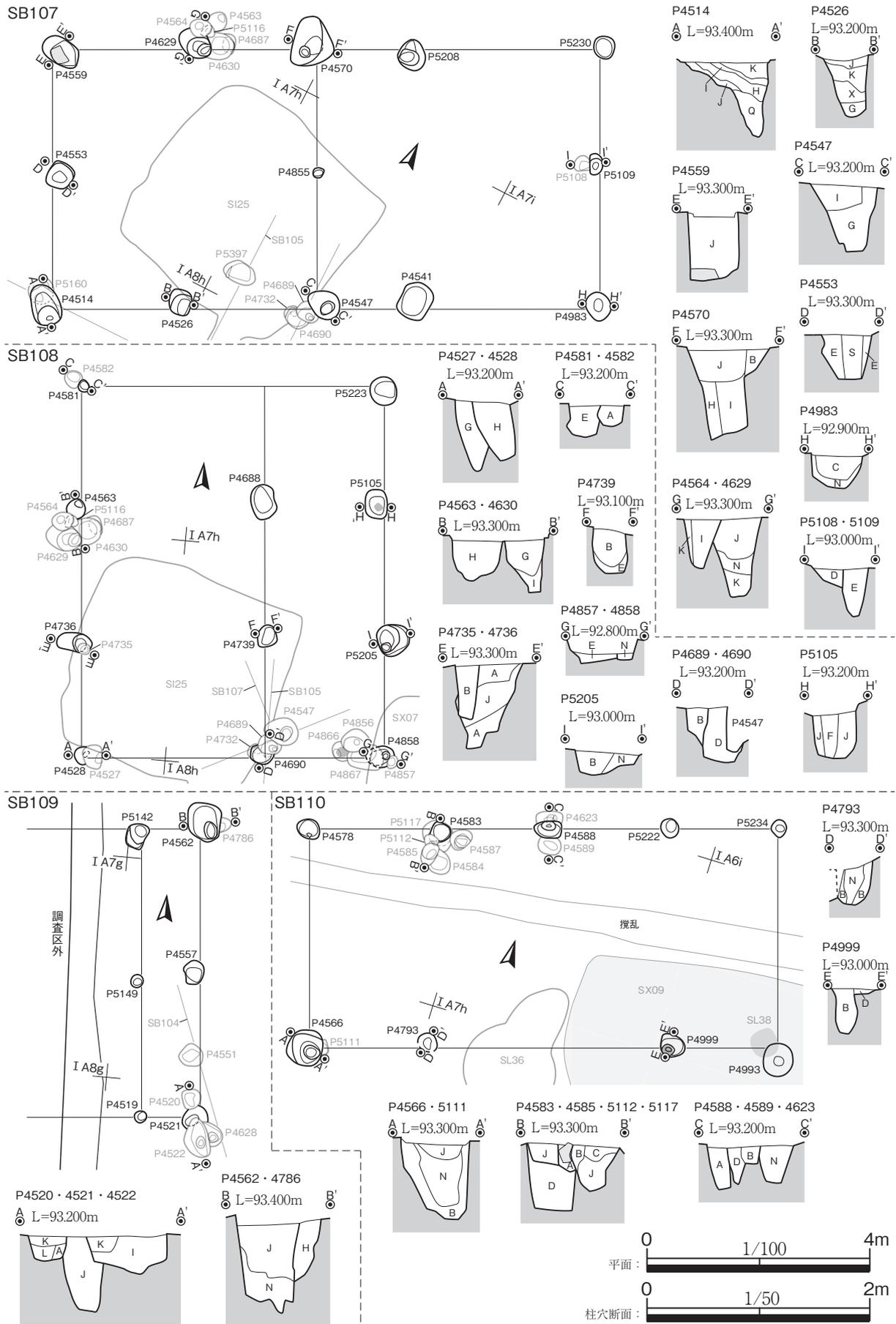
SB105



SB106

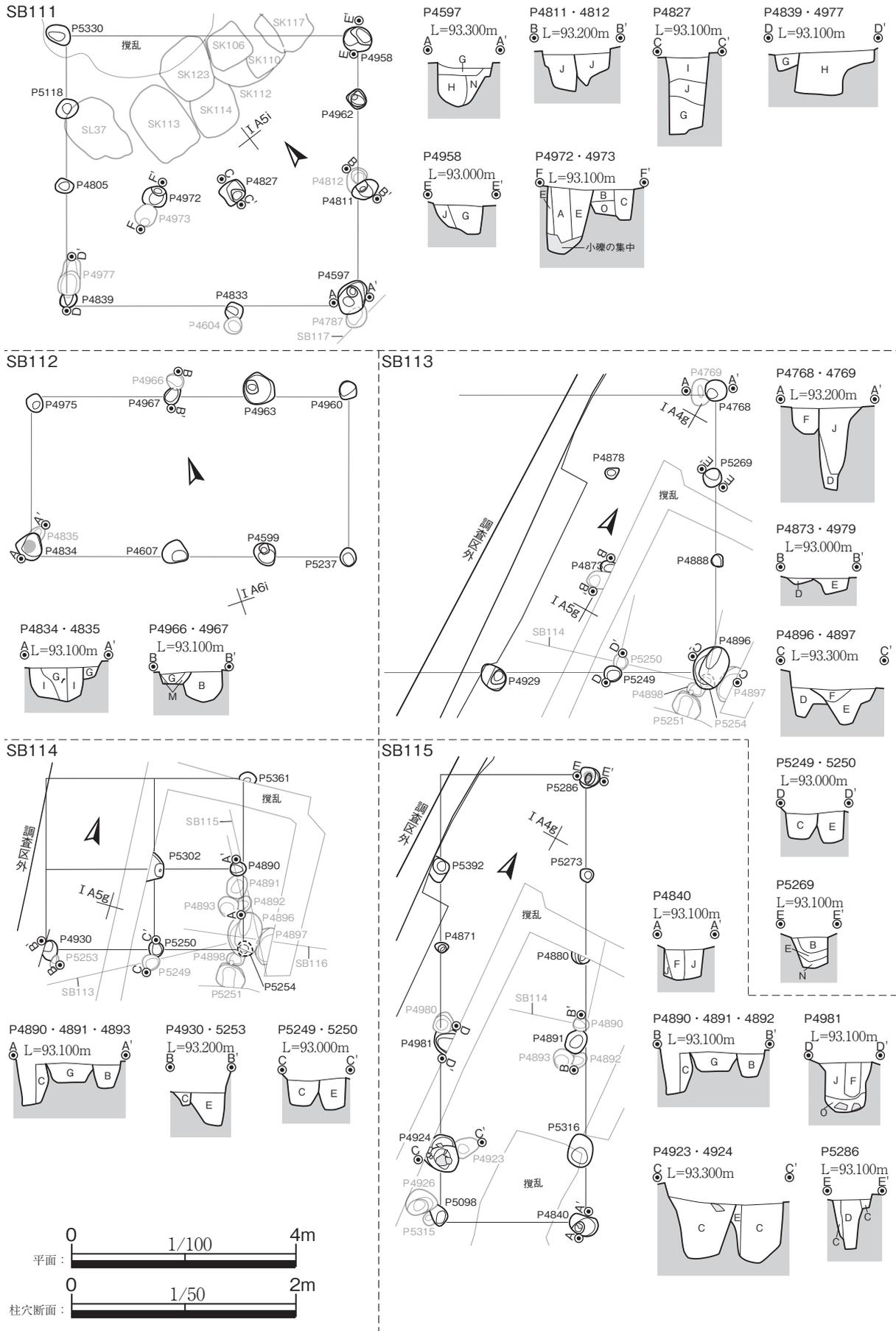


第104図 SB103~106

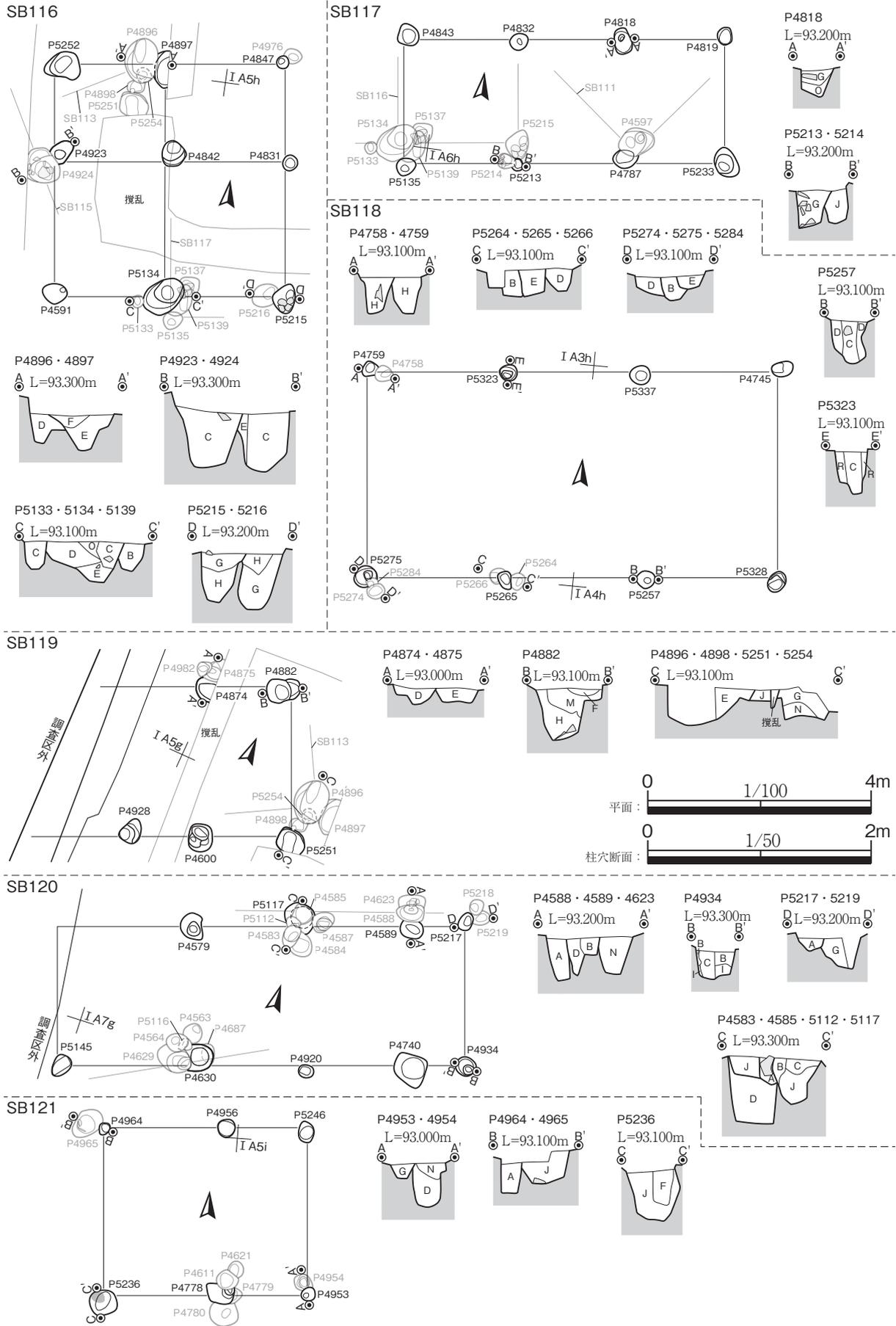


第105図 SB107~110

2 検出遺構

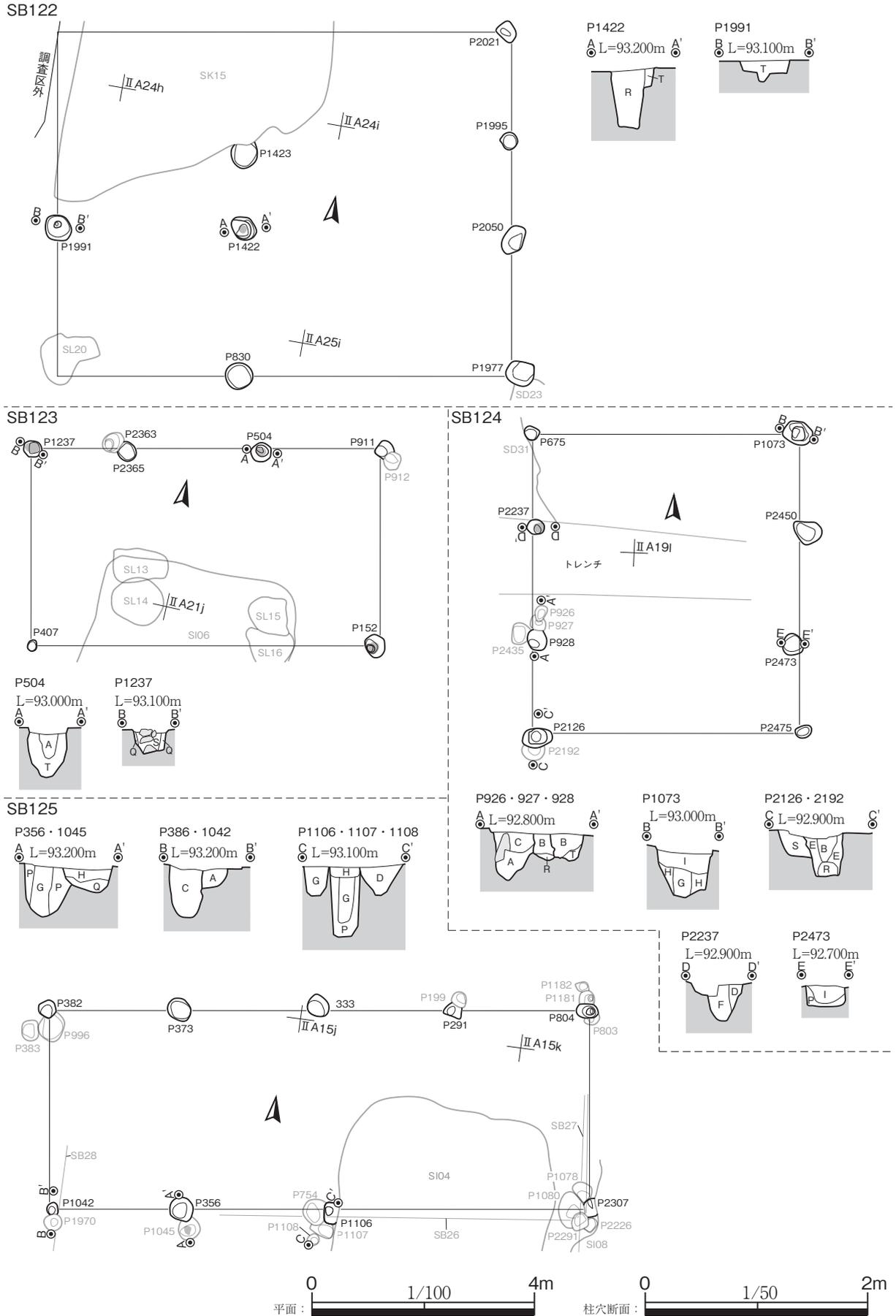


第106図 SB111~115

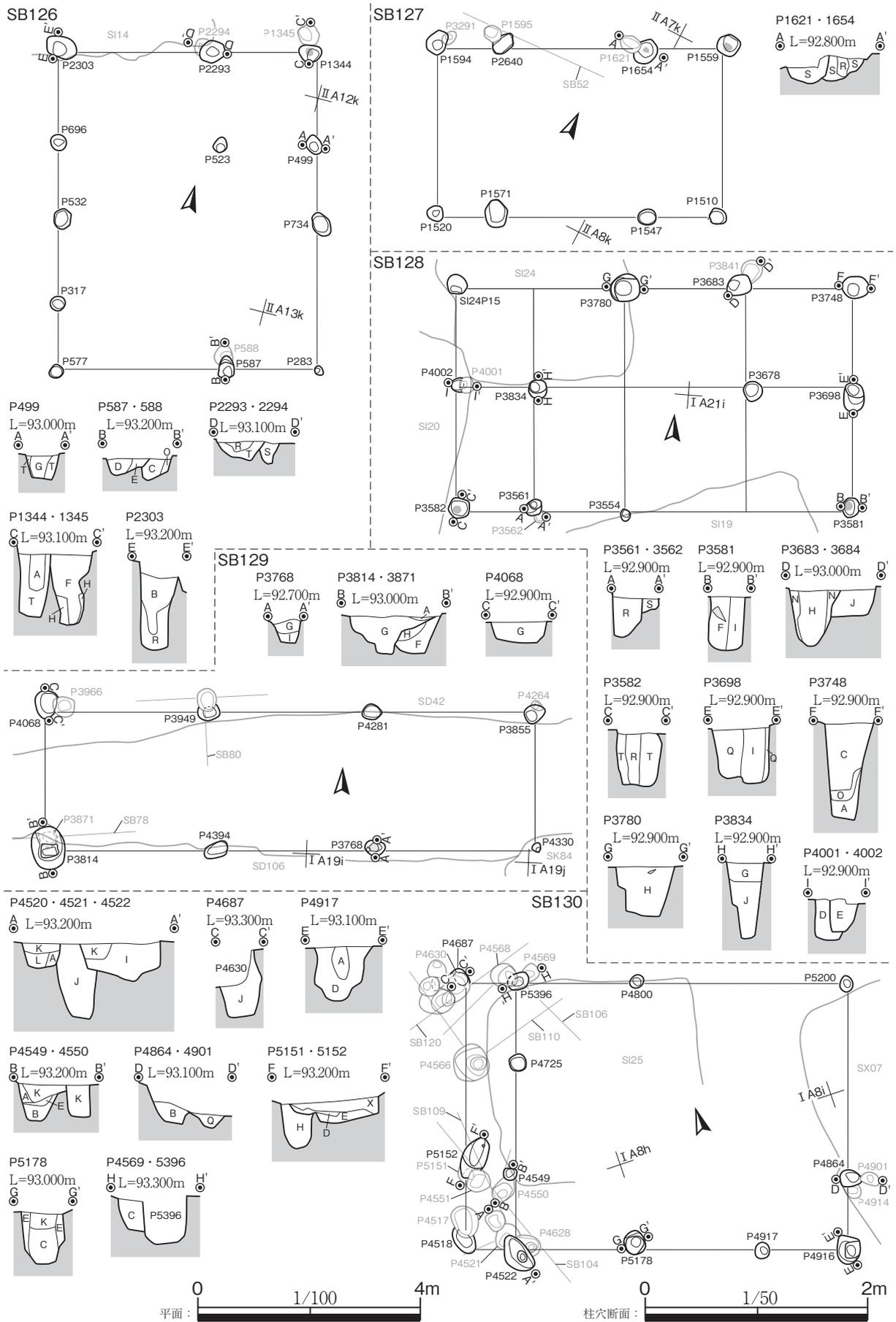


第107図 SB116~121

2 検出遺構



第108図 SB122~125



第109図 SB126~130































第9表 柱穴一覧 (16)

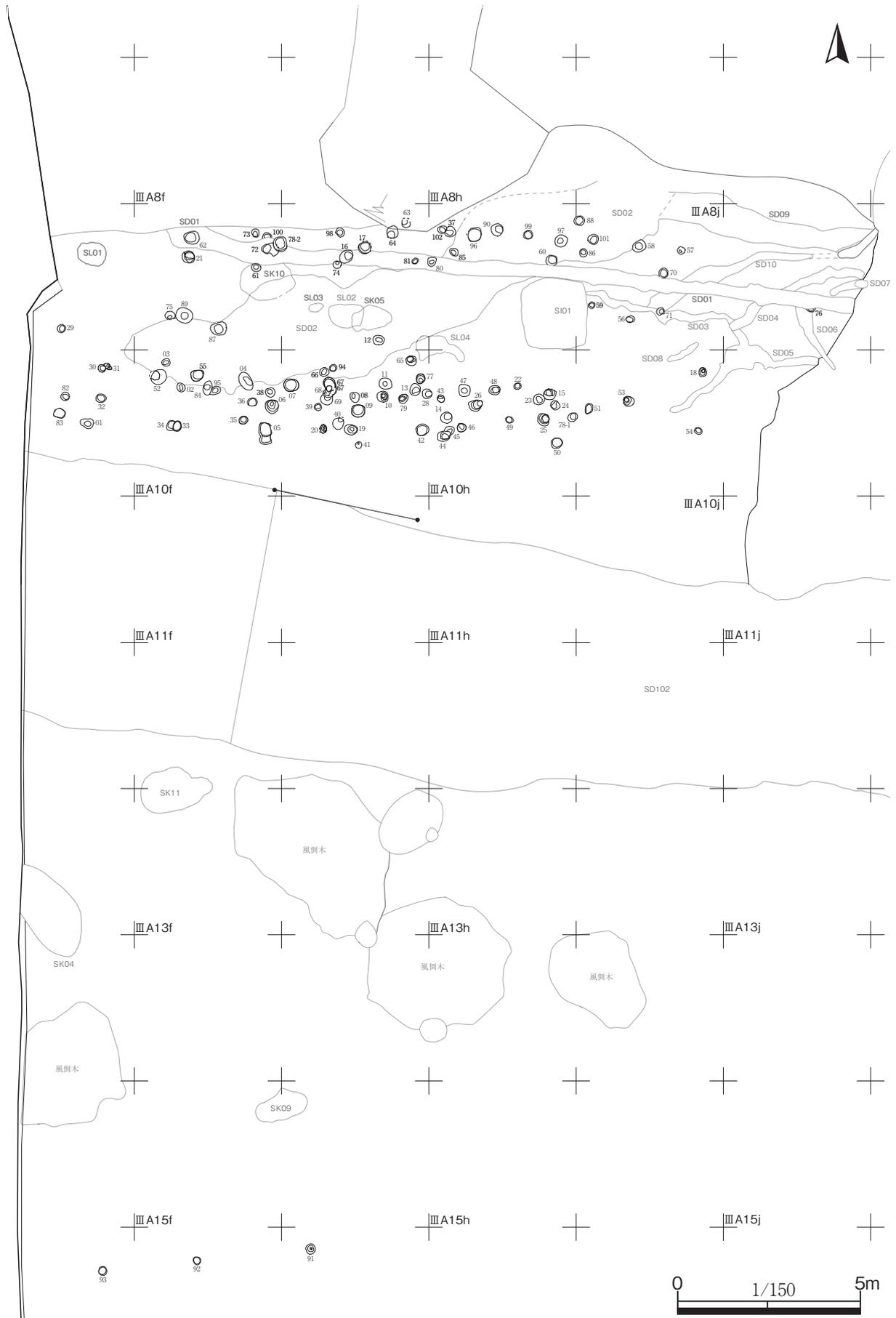
柱穴 No.	グリッド	深さ (cm)	帰属遺構
5155			
5156	I A8g	28.0	
5157	I A8g	14.0	
5158	I A8g	18.2	
5159	I A8g	28.4	SB106
5160	I A8g	60.6	SB105
5161	I A8f	22.0	
5162	I A8g	33.0	
5163	I A8f	83.4	SB104
5164	I A8g	45.6	SB100
5165	I A8g	20.4	
5166	I A9g	22.6	
5167	I A9g	7.6	SB100
5168	I A10g	45.4	SB100
5169	I A10g	25.8	
5170	I A10g	52.6	
5171	I A10g	9.0	
5172	I A10g	31.2	
5173	I A9g	31.4	
5174	I A9g	21.0	
5175	I A8g	27.6	
5176	I A8g	14.0	SB104
5177	I A8g	12.2	
5178	I A8g	49.6	SB130
5179			
5180	I A9g	6.8	
5181	I A9g	11.0	
5182	I A9g	3.0	
5183	I A9g	10.0	
5184	I A9g	19.8	
5185	I A10g	25.4	
5186	I A10h	23.2	
5187			
5188			
5189			
5190	I A8h	30.6	SB103
5191	I A8h	15.4	
5192	I A8h	34.6	
5193	I A8h	24.0	
5194	I A8h	9.4	SB103
5195			
5196			
5197	I A7h	20.2	
5198	I A7h	26.0	
5199			
5200	I A7i	39.2	SB130
5201	I A7i	8.8	
5202			
5203	I A7i	52.8	
5204	I A7i	56.6	
5205	I A7h	33.2	SB108
5206	I A6h	19.4	
5207	I A6h	25.8	
5208	I A6h	43.8	SB107
5209	I A6h	21.6	
5210	I A6h	18.0	
5211	I A5g	54.0	
5212	I A5g	33.4	
5213	I A6h	68.8	SB117
5214	I A6h	48.8	
5215	I A5h	49.0	SB116
5216	I A5h	57.8	
5217	I A6h	25.4	SB120
5218	I A5h	48.4	
5219	I A6h	35.2	
5220	I A6h	25.6	
5221			
5222	I A5h	21.8	SB110
5223	I A6h	55.8	SB108
5224	I A7h	15.6	
5225	I A6h	47.4	
5226	I A5i	47.6	
5227	I A5i	41.8	
5228	I A5i	34.8	
5229	I A6i	32.6	
5230	I A6i	18.2	SB107
5231	I A6i	11.4	
5232	I A6i	58.8	
5233	I A5i	20.0	
5234	I A5i	34.8	SB110
5235	I A5i	52.8	SB117
5236	I A5i	49.4	SB121
5237	I A5i	29.4	SB112
5238	I A5i	15.6	
5239	I A5i	38.2	
5240	I A5i	15.2	

柱穴 No.	グリッド	深さ (cm)	帰属遺構
5241	I A5j	13.2	
5242	I A5j	37.8	
5243	I A5j	13.0	
5244			
5245			
5246	I A4j	26.0	SB121
5247	I A3g	50.0	
5248	I A8f	22.2	
5249	I A5g	30.0	SB113
5250	I A5g	29.6	SB114
5251	I A5g	29.6	SB119
5252	I A5g	55.6	SB116
5253	I A5f	20.8	
5254	I A5g	45.0	SB114
5255	I A4h	22.6	
5256	I A4h	15.6	
5257	I A3h	41.4	SB118
5258	I A4h	12.6	
5259	I A4h	49.6	
5260	I A4g	23.4	
5261	I A4h	15.8	
5262	I A4g	40.4	
5263	I A4h	49.0	
5264	I A4g	24.6	
5265	I A4g	27.2	SB118
5266	I A3g	28.8	
5267	I A4g	38.4	
5268	I A4g	13.8	
5269	I A4g	30.6	SB113
5270	I A4g	14.2	
5271	I A4g	37.6	
5272	I A4g	30.0	
5273	I A4g	19.8	SB115
5274	I A4g	17.8	
5275	I A4g	30.2	SB118
5276	I A4f	13.8	
5277	I A4i	38.4	
5278	I A3i	20.6	
5279	I A4i	12.0	
5280	I A3i	41.6	
5281			
5282	I A3g	51.8	
5283	I A3h	13.8	
5284	I A4g	23.2	
5285	I A3g	35.4	
5286	I A3f	48.6	SB115
5287	I A3h	29.0	
5288	I A2i	18.2	
5289	I A2i	20.0	
5290	I A2i	6.6	
5291	I A2h	18.2	
5292	I A2h	13.2	
5293	I A3f	30.2	
5294	I A3f	14.2	
5295	I A3h	20.4	
5296	I A3f	7.8	
5297	I A3h	48.4	
5298	I A3i	37.2	
5299	I A2i	16.6	
5300	I A5j	38.2	
5301	I A4g	23.8	
5302	I A4g	37.0	SB114
5303	I A4g	22.2	
5304	I A4g	35.6	
5305	I A2i	11.2	
5306	I A2i	12.2	
5307	I A2i	48.2	
5308	I A2i	46.4	
5309	I A3i	24.8	
5310	I A2i	18.4	
5311	I A3i	20.4	
5312	I A3i	23.2	
5313	I A3i	57.2	
5314	I A3i	19.6	
5315	I A5g	34.0	
5316	I A5g	51.2	SB115
5317	I A3g	44.8	
5318	I A3f	17.8	
5319	I A3f	14.4	
5320	I A2f	12.8	
5321	I A3g	10.8	
5322	I A3g	27.4	
5323	I A3g	40.8	SB118
5324	I A4h	20.8	
5325	I A4h	23.4	
5326	I A4h	42.0	

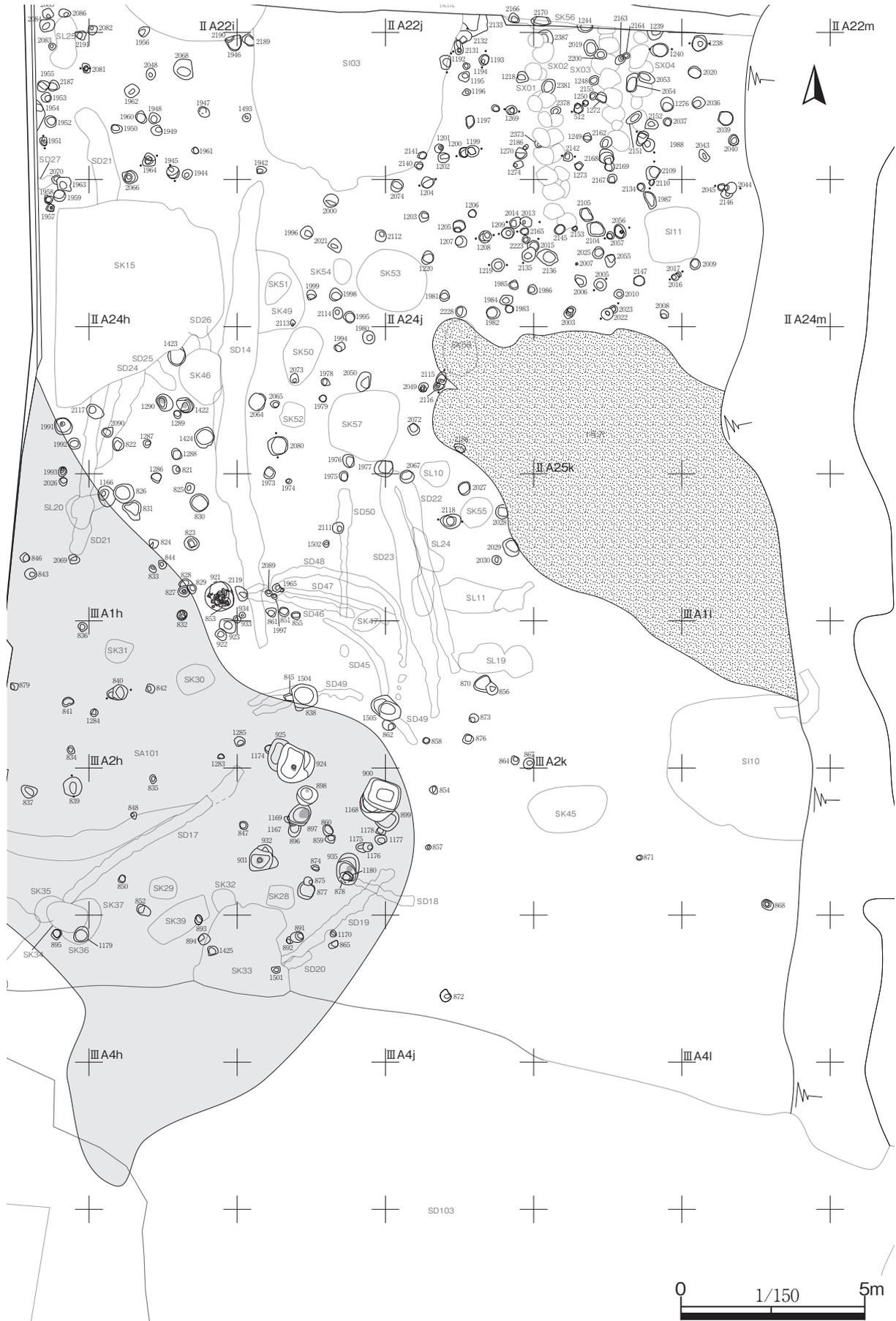
柱穴 No.	グリッド	深さ (cm)	帰属遺構
5327	I A4h	26.6	
5328	I A3h	25.6	SB118
5329	I A4h	23.0	
5330	I A4h	24.6	SB111
5331	I A2g	19.2	
5332	I A3g	36.6	
5333	I A2g	19.6	
5334	I A2g	29.8	
5335	I A2h	16.8	
5336	I A3f	14.0	
5337	I A3h	26.6	SB118
5338	I A3h	37.4	
5339	I A3i	17.0	
5340	I A3h	41.2	
5341	I A3g	41.6	
5342	I A3h	50.8	
5343	I A3h	50.8	
5344			
5345	I A3h	15.8	
5346	I A3h	35.2	
5347	I A3h	16.8	
5348	I A3h	29.4	
5349	I A3h	25.6	
5350	I A2g	14.6	
5351	I A3g	19.8	
5352	I A3g	48.8	
5353	I A3g	19.0	
5354	I A3g	45.6	
5355	I A3h	42.0	
5356	I A3i	34.6	
5357	I A3h	10.6	
5358	I A2i	15.2	
5359	I A2i	19.0	
5360	I A2i	18.8	
5361	I A4g	40.2	SB114
5362	I A4g	21.6	
5363	I A4f	39.0	
5364	I A2j	9.6	
5365	I A2i	22.8	
5366	I A3i	35.4	
5367	I A4g	25.0	
5368	I A3j	55.2	
5369	I A3i	42.4	
5370	I A3j	18.4	
5371	I A3j	39.8	
5372	I A3j	28.0	
5373	I A3j	8.6	
5374	I A3j	10.6	
5375	I A2i	23.0	
5376	I A4h	17.6	
5377	I A5j	45.4	
5378	I A7j	13.2	
5379	I A4h	12.8	
5380	I A6j	14.8	
5381	I A5g	35.2	
5382	I A5g	8.0	
5383	I A3j	18.2	
5384	I A4g	13.4	
5385	I A5g	14.6	
5386	I A5g	26.6	
5387	I A2f	28.4	
5388	I A3f	10.8	
5389	I A3f	44.4	
5390	I A2j	21.0	
5391	I A4f	14.0	
5392	I A4f	30.8	SB115
5393	I A3h	27.0	
5394	I A3j	20.4	
5395	I A15g	31.4	
5396	I A7g	39.2	SB130
5397	I A8h	45.8	SB105
5398	II A4h	-	
5399	II A5j	12.0	
5400	II A6k	26.2	
5401	II A9k	16.4	
5402	II A11k	16.6	
5403	II A10j	12.8	
5404	II A16j	-	SB26
5405	II A16h	34.2	SB27
5406	II A15h	18.4	
5407	II A5h	-	SB54
5408	I A2j	13.0	SB75
5409	I A21k	-	SB77
SK23	II A14j	60.0	SB27
SK38	II A14h	50.0	SB27

柱穴 No.	グリッド	深さ (cm)	帰属遺構
SI02P10	II A9k	14.4	SB42
SI05P03	II A20k	43.0	SB12
SI20P04	I A21g	10.2	SB71
SI23P04	I A16i	14.0	SB93
SI23P05	I A17i	9.8	SB91
SI23P19	I A17i	14.8	SB92
SI23P21	I A16i	10.4	SB92
SI23P22	I A16i	17.0	SB79
SI24P04	I A20h	15.0	SB78
SI24P09	I A20h	14.4	SB78
SI24P15	I A20g	88.0	SB128

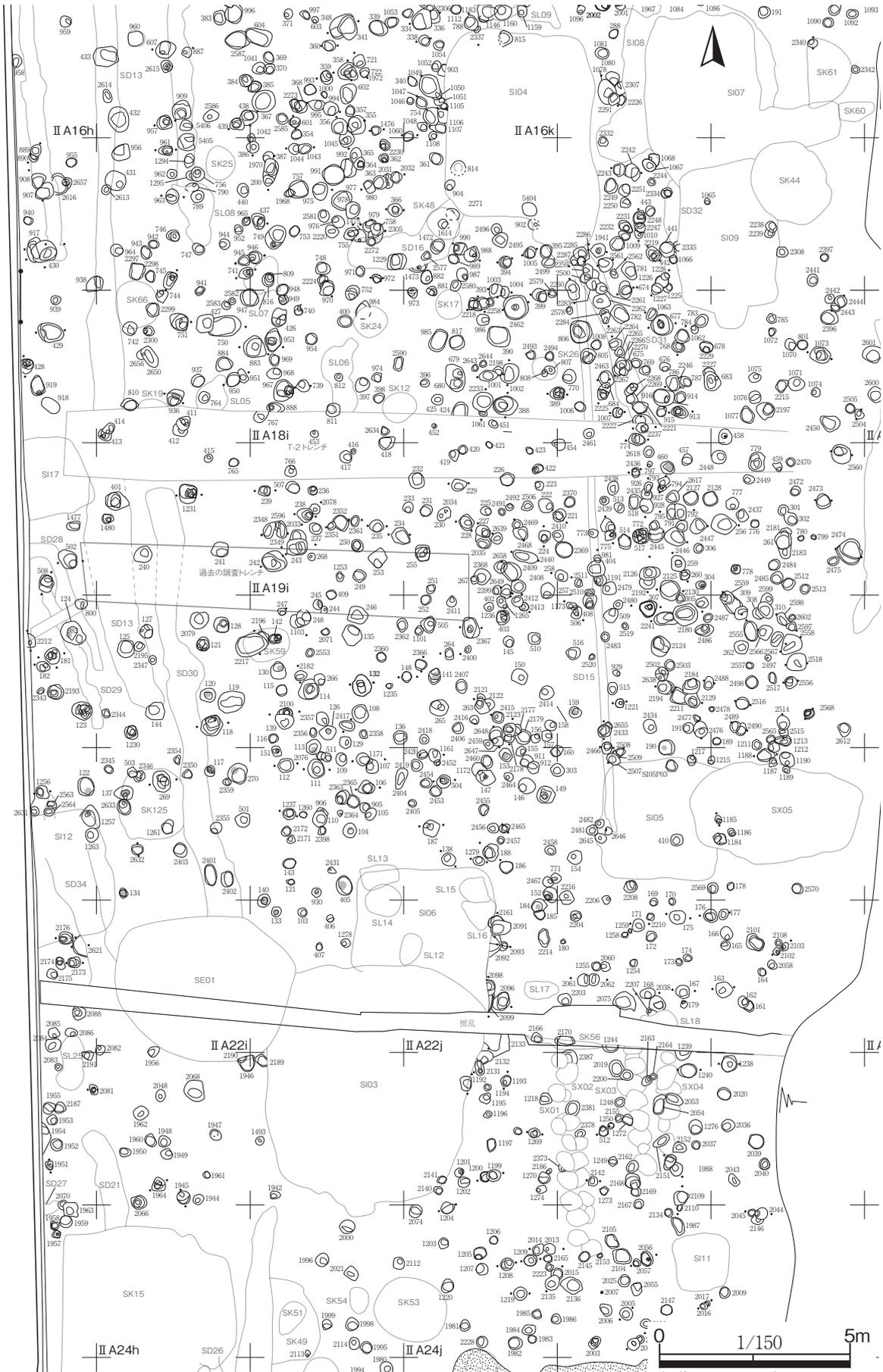
※網掛けは欠番または番号変更



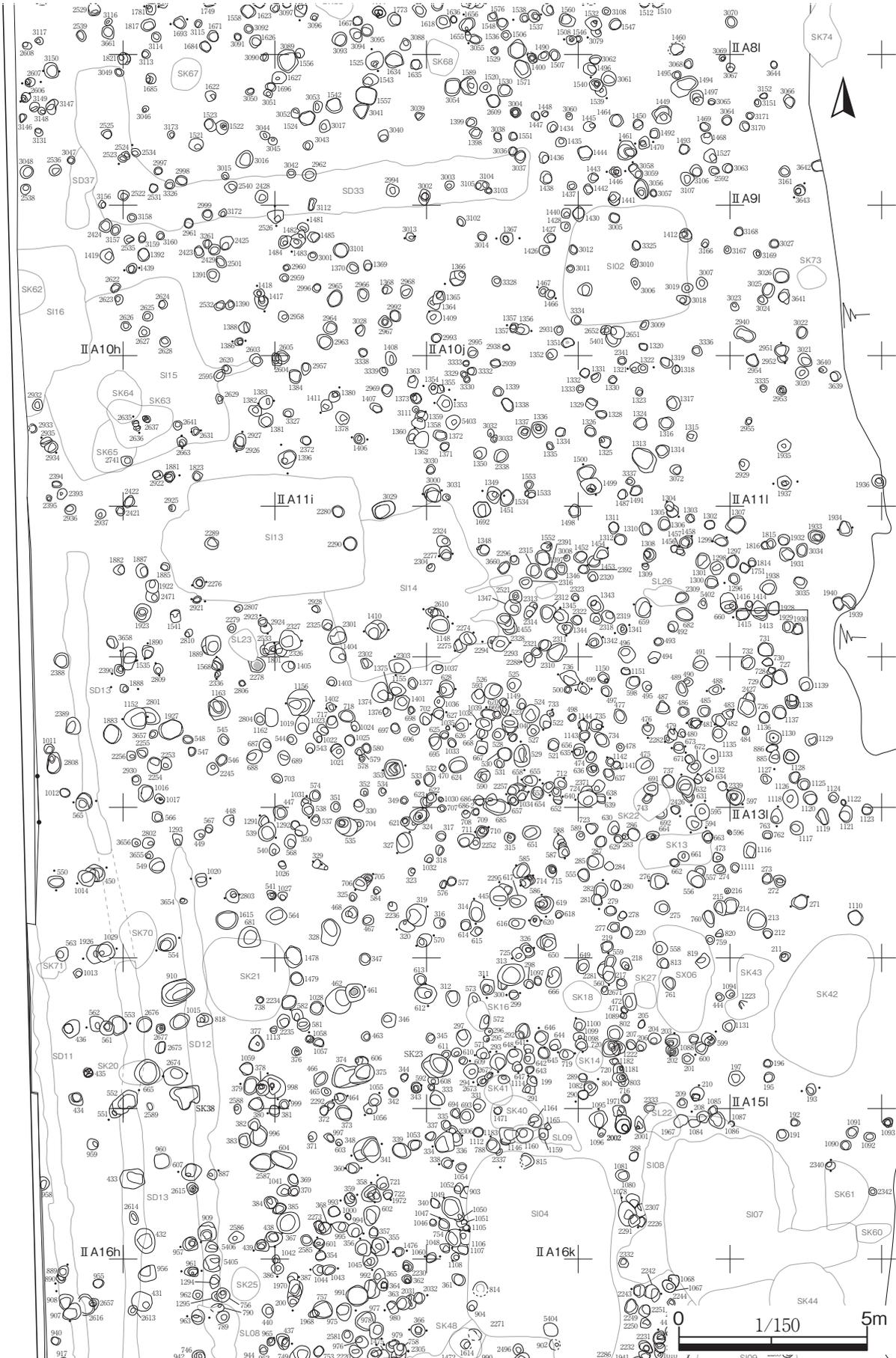
第 110 図 柱穴配置図 (1)



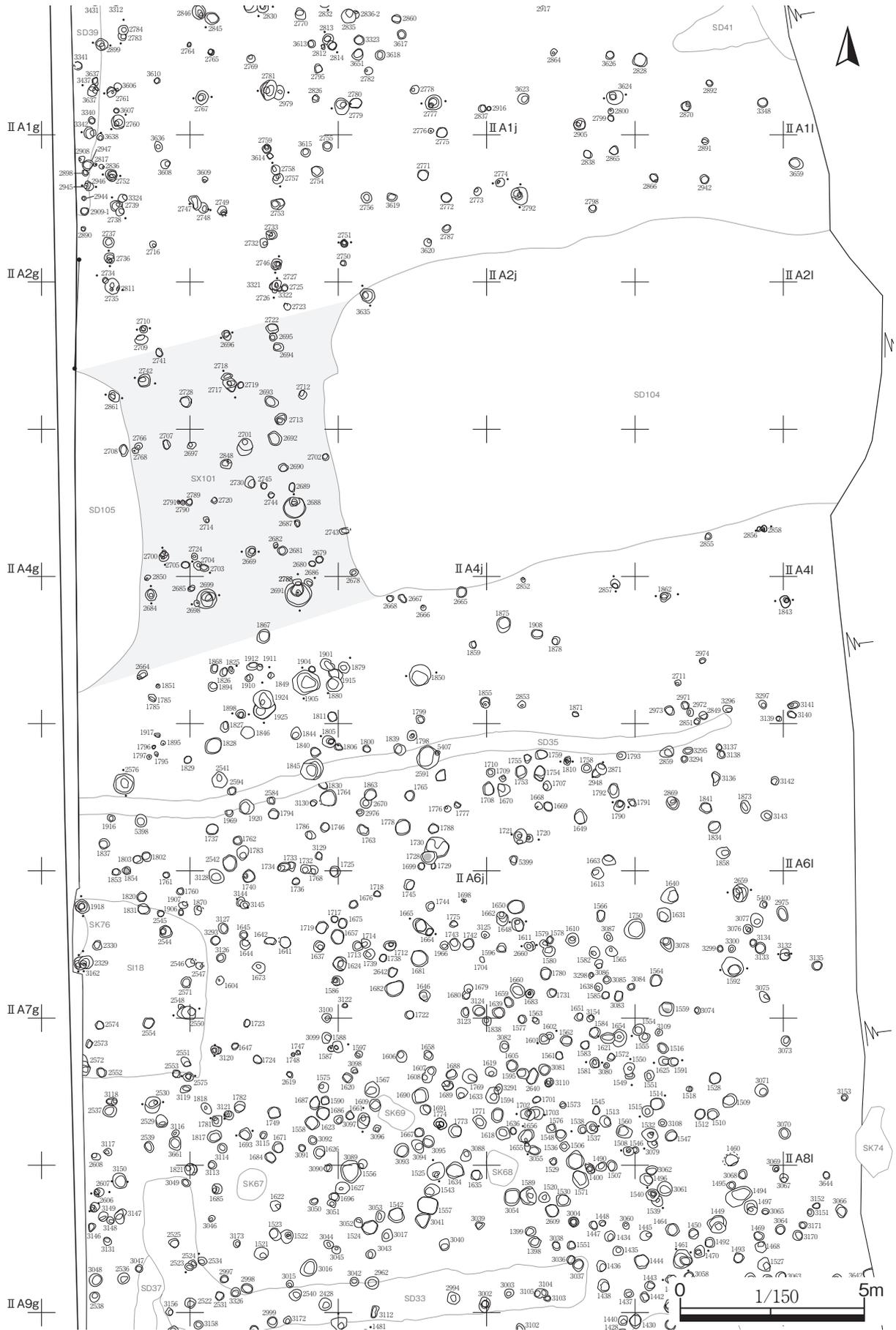
第 111 図 柱穴配置図 (2)



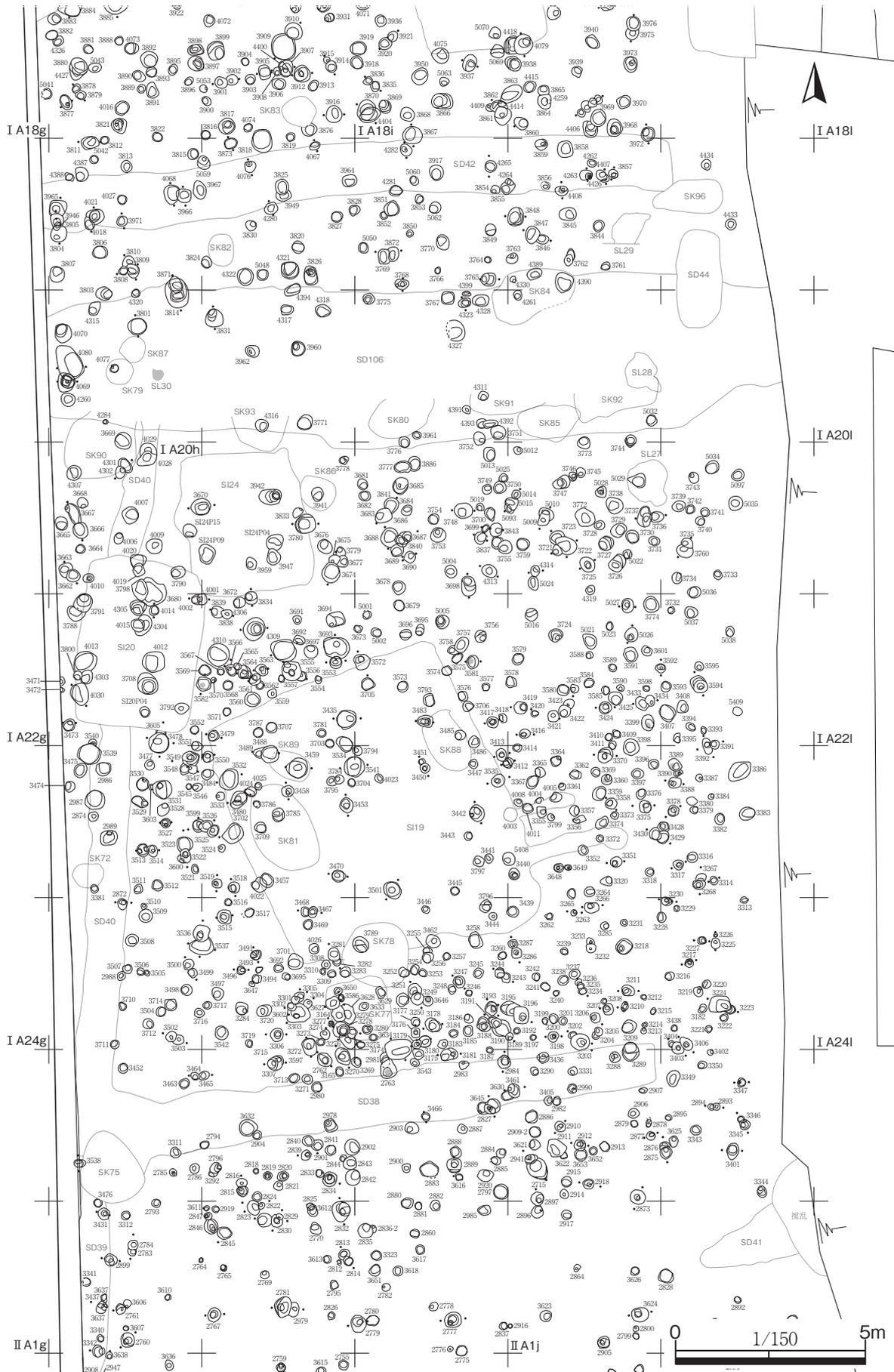
第112図 柱穴配置図(3)



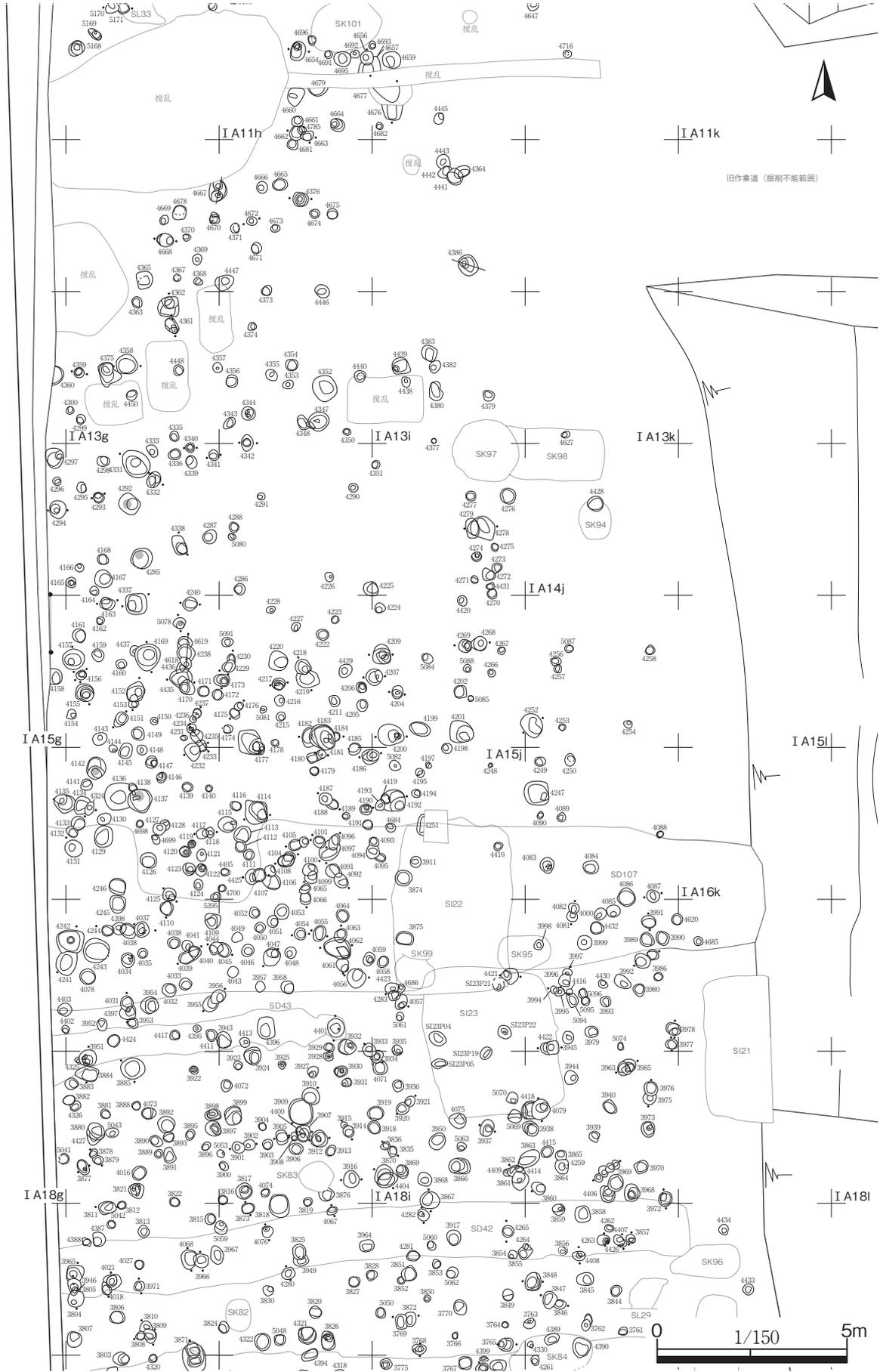
第 113 図 柱穴配置図 (4)



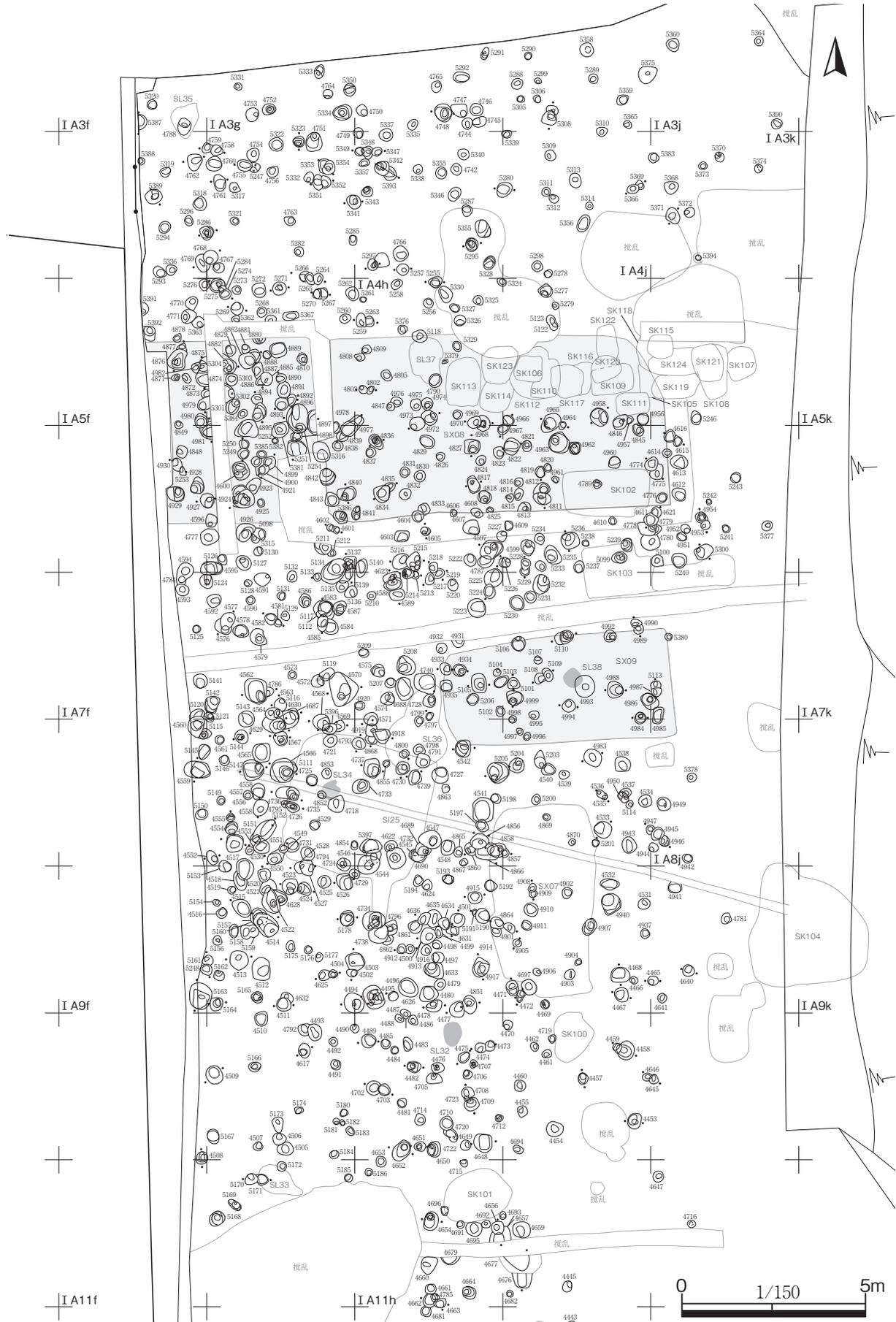
第 114 図 柱穴配置図 (5)



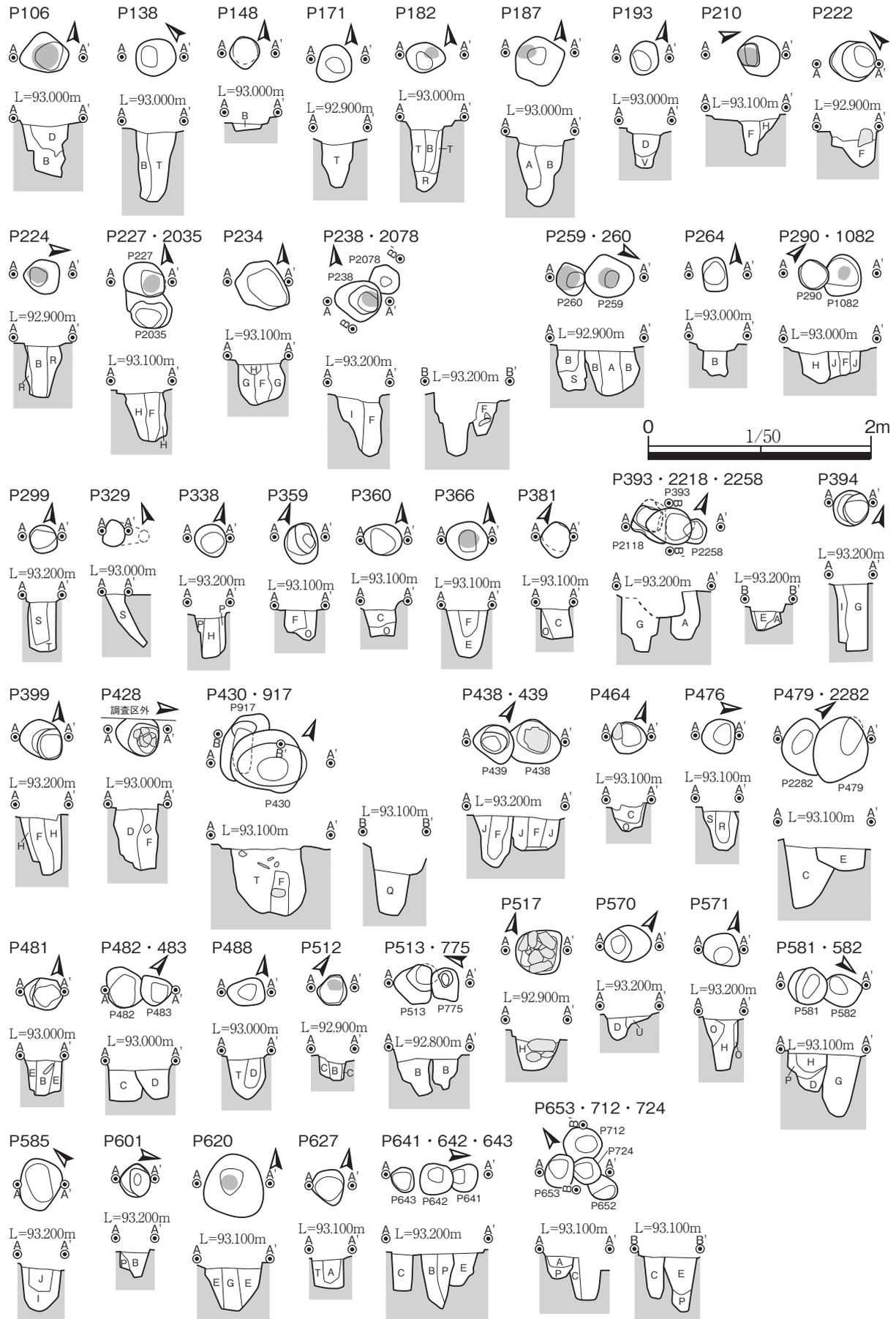
第115図 柱穴配置図(6)



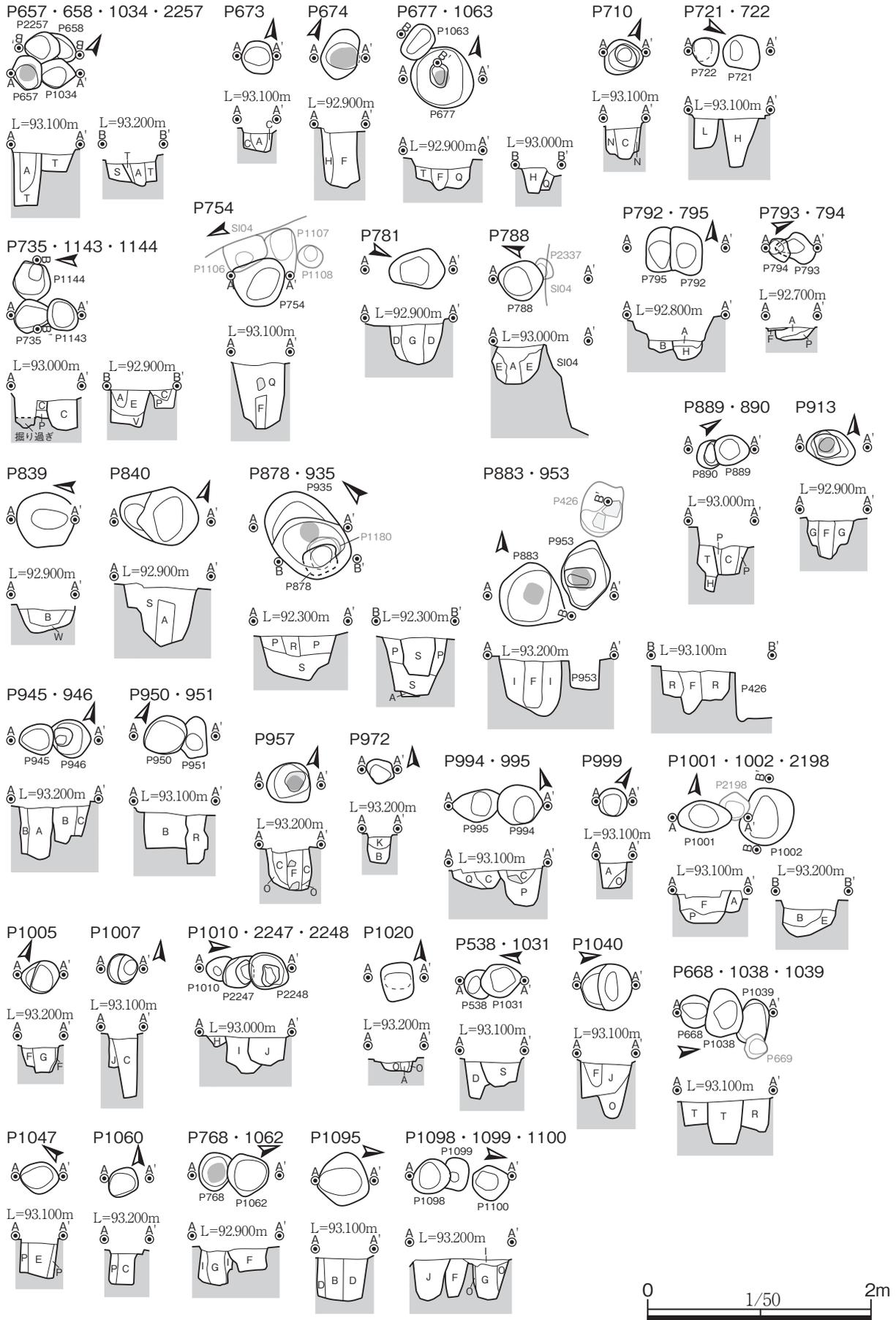
第 116 図 柱穴配置図 (7)



第117図 柱穴配置図(8)

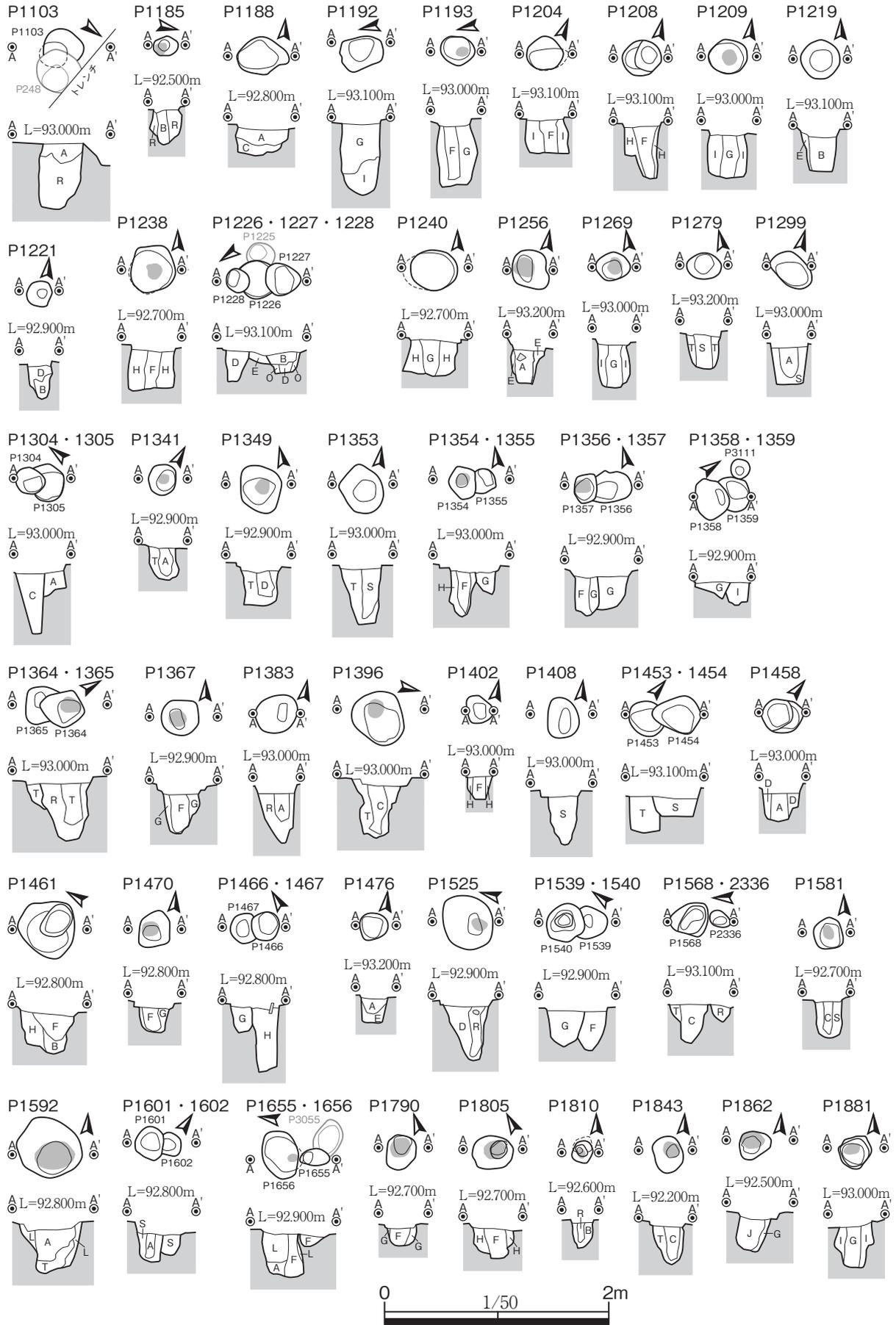


第 118 図 柱穴個別図 (1)

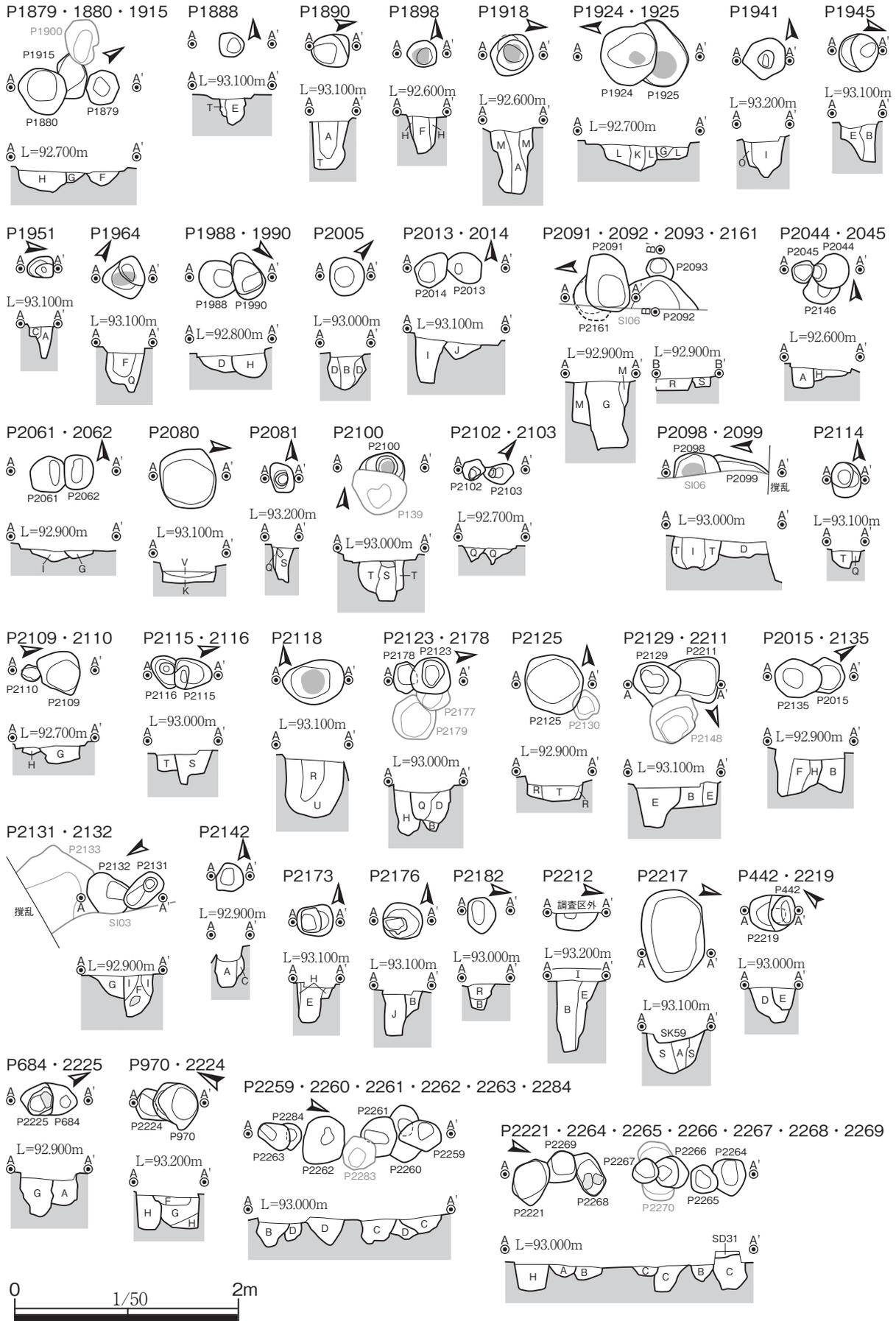


第 119 図 柱穴個別図 (2)

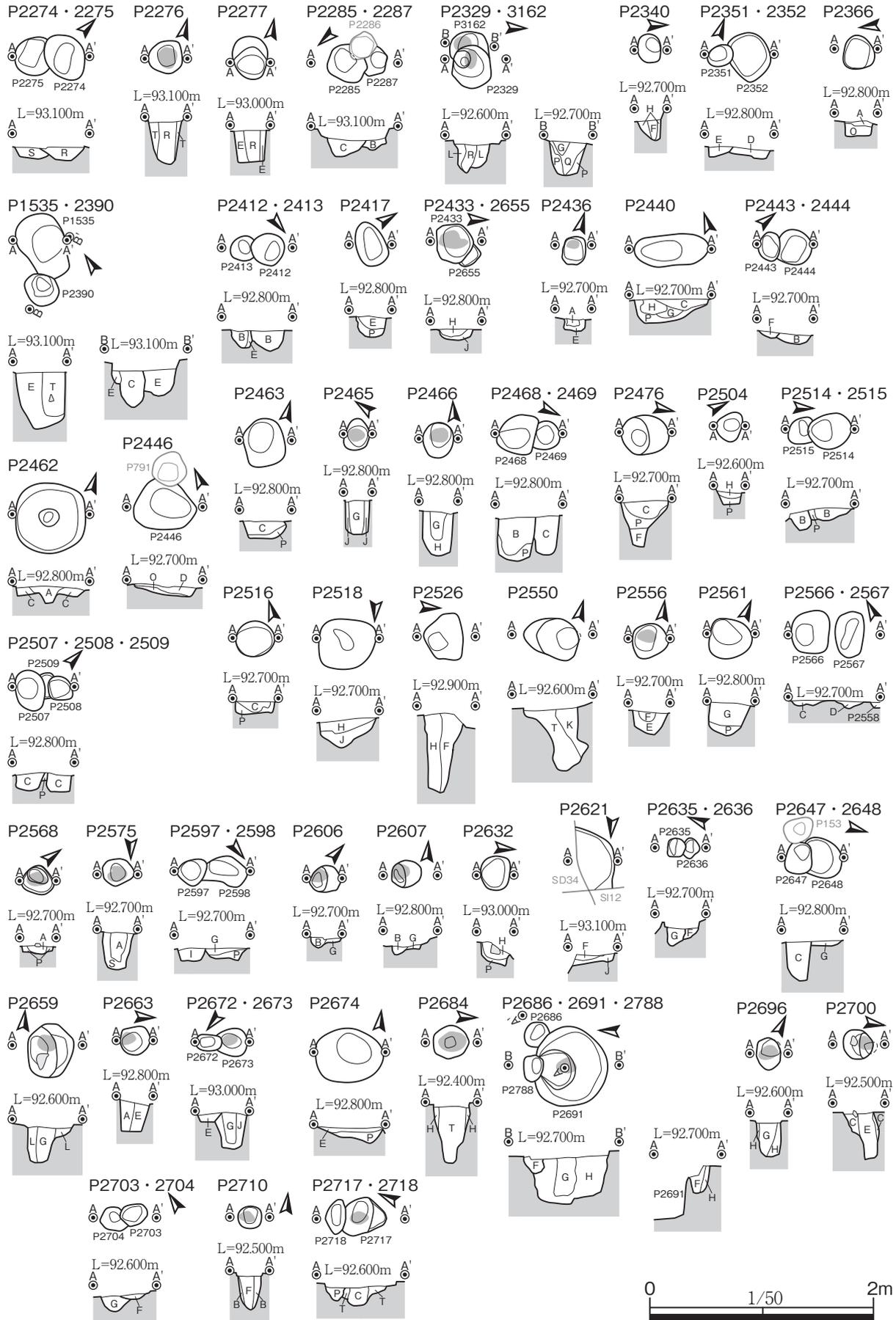
2 検出遺構



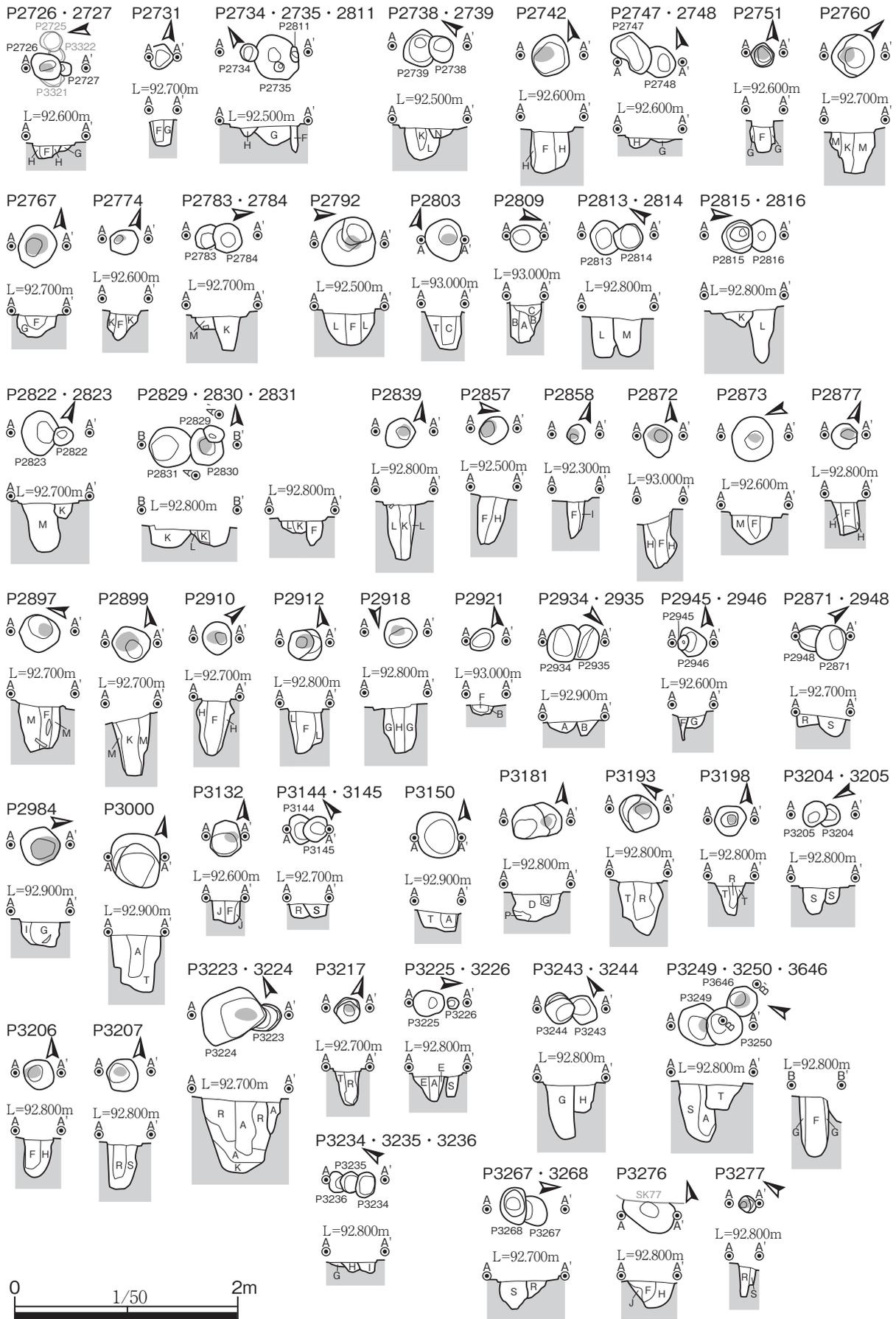
第120図 柱穴個別図(3)



第 121 図 柱穴個別図 (4)

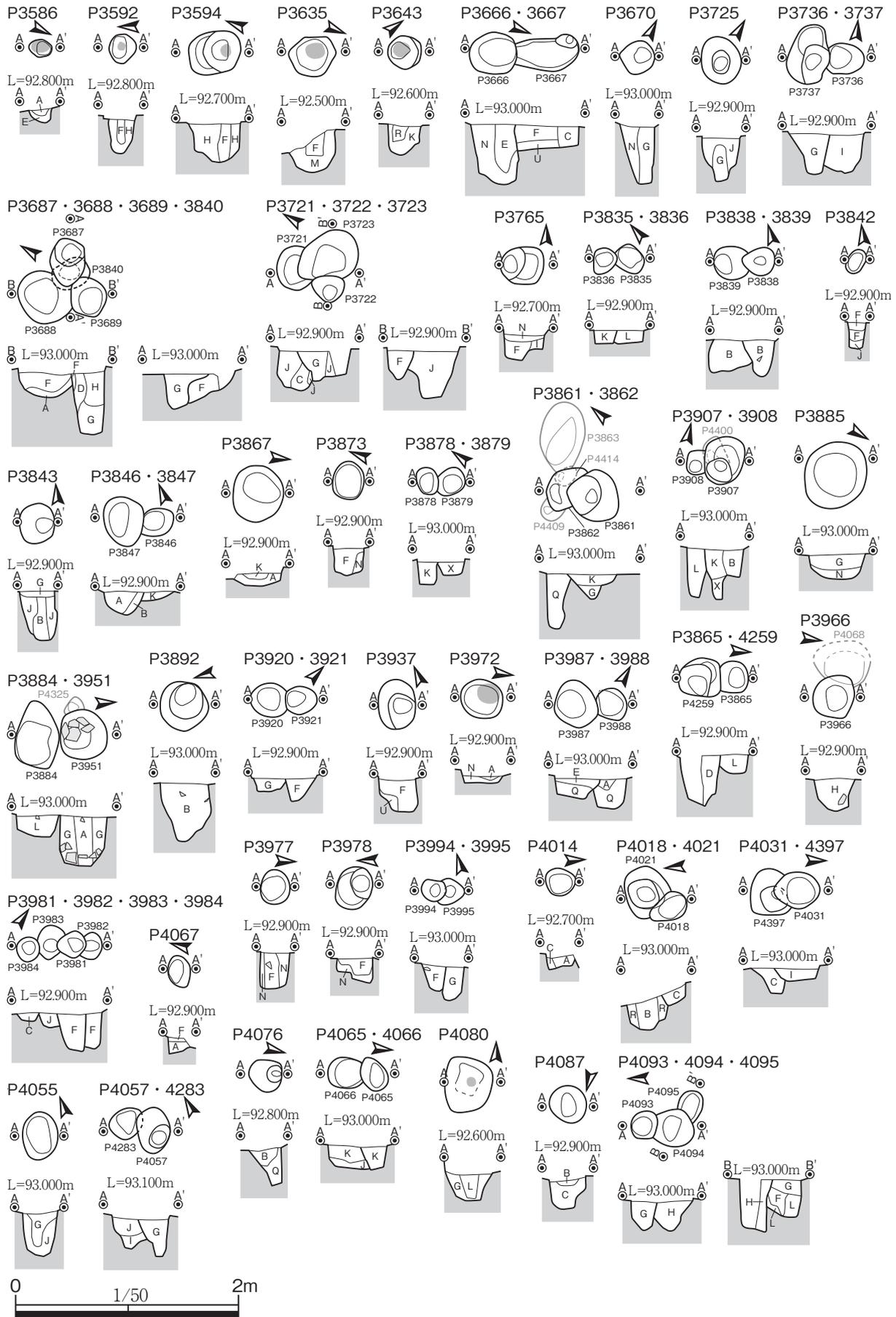


第 122 図 柱穴個別図 (5)

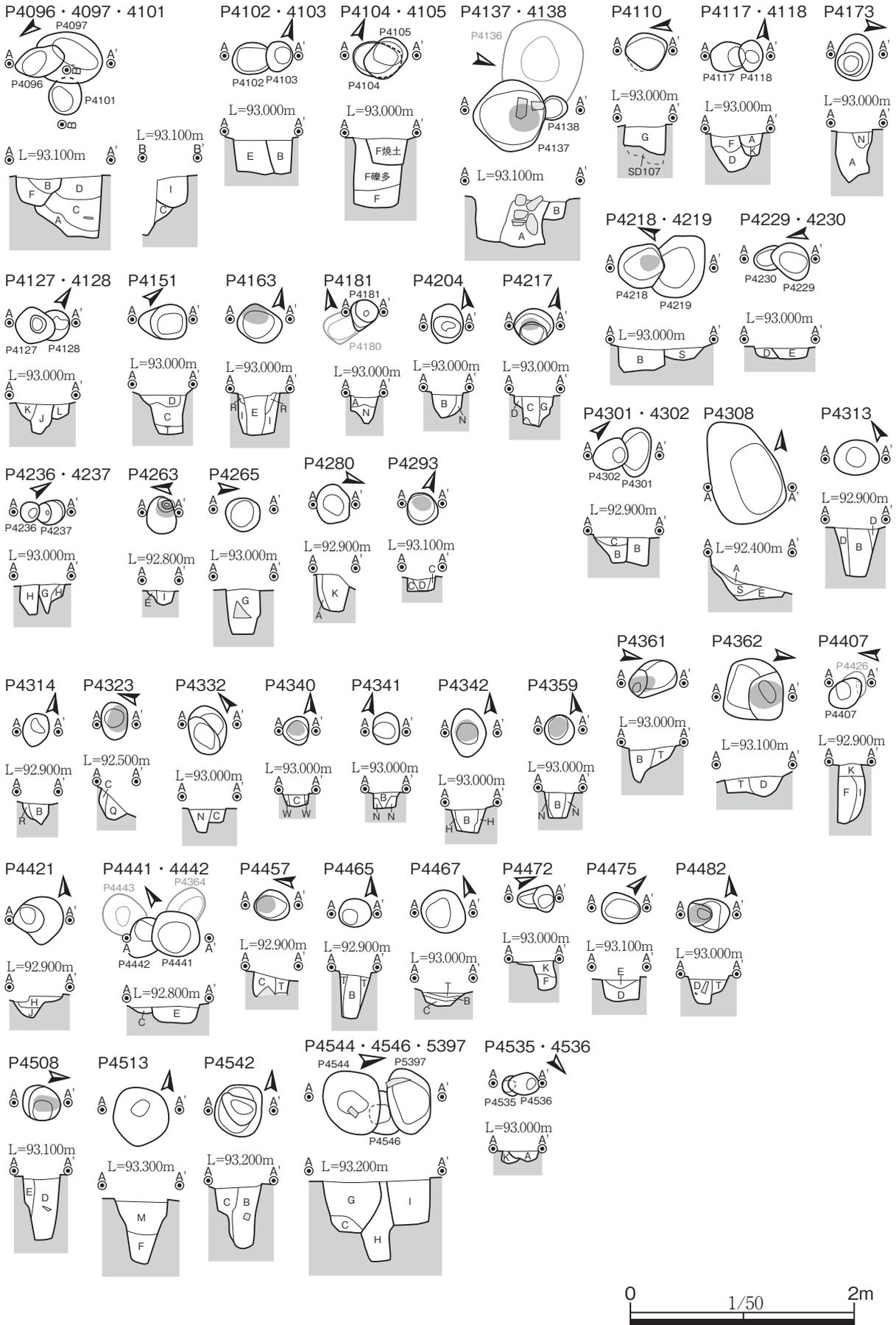


第 123 図 柱穴個別図 (6)

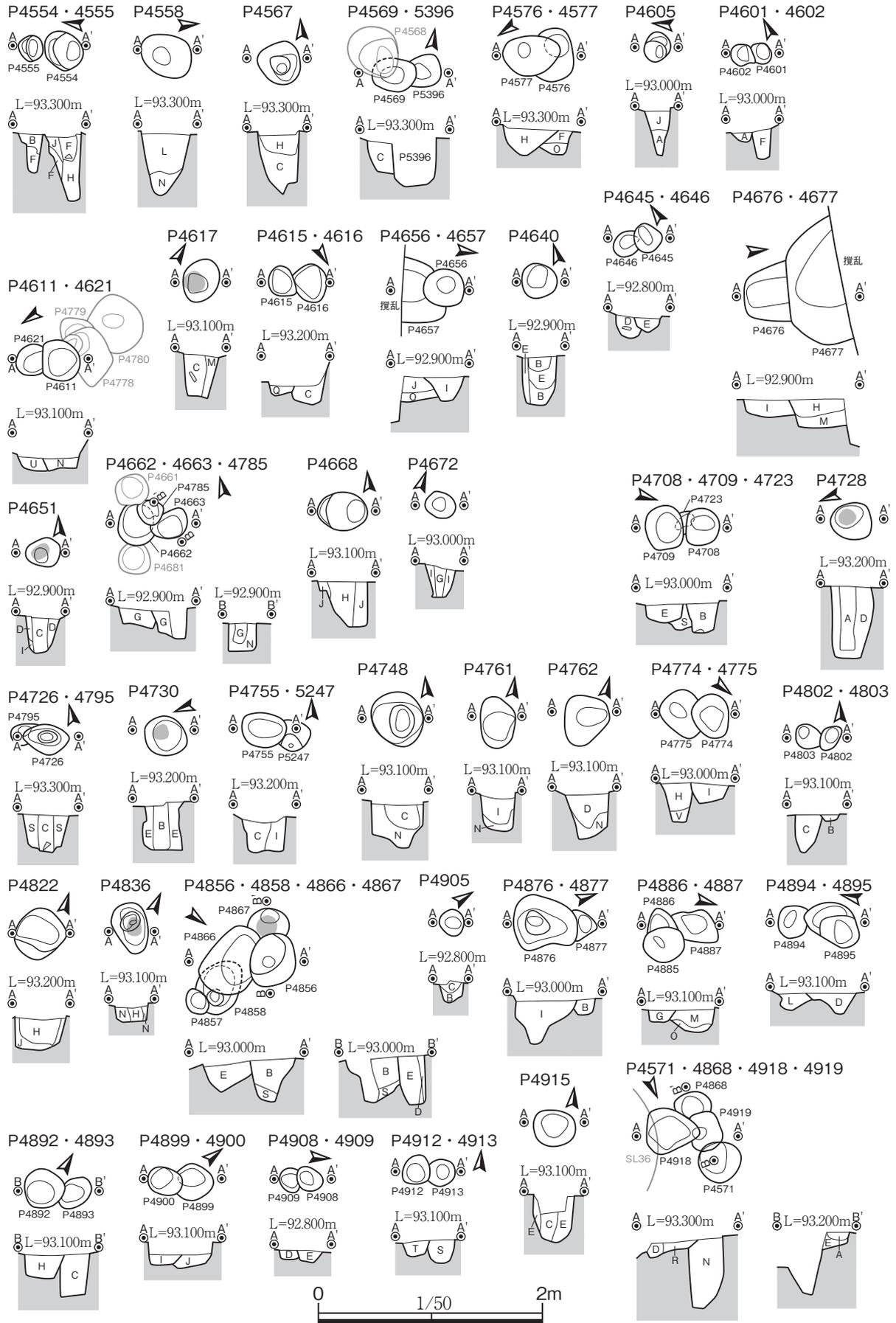




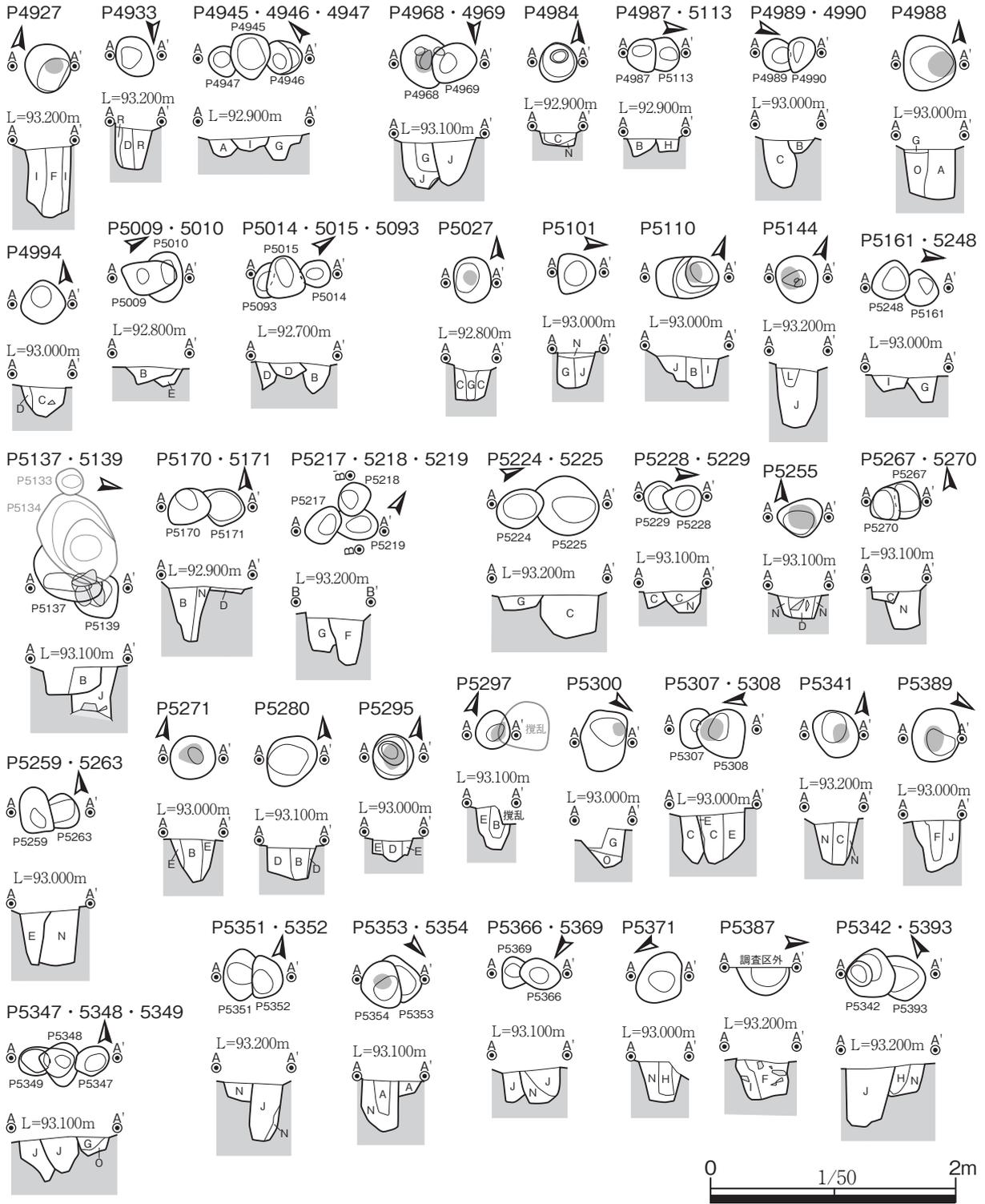
第 125 図 柱穴個別図 (8)



第 126 図 柱穴個別図 (9)



第 127 図 柱穴個別図 (10)



第 128 図 柱穴個別図 (11)

### 3 出土遺物

今回の調査で出土した遺物は、土器、陶磁器、石器・石製品、金属製品、銭貨、木製品、ガラス製品、生産関連遺物等多岐にわたる。以下では、各種別の分類基準について記載を行う。遺物実測図の縮尺は各図版中のスケールの通りであり、遺物写真図版についても基本的には実測図と同じ縮尺としている。実測図の表現方法は、目次の後に凡例図を掲載した。

#### (1) 土器 (第 2-129~147 図、第 2-10 表、写真図版 2-139~152)

縄文土器・土師器・須恵器・かわらけ・手づくね土器があり、452 点掲載した。重量については土師器坏とかかわらけ、縄文土器深鉢と土師器甕で判別が困難な小破片が多いことから全種別を一括して計測しており、総重量は 67,891.4 g である (掲載重量 31,112.3 g、以下括弧内は掲載重量)。

##### A. 縄文土器

深鉢・浅鉢・脚付浅鉢・壺・高坏形があり、31 点掲載した (掲載重量 1,054.7 g)。

**深鉢** 23 点掲載した (811.0 g)。完形品は無く、地文のみあるいは器面が摩耗しているものが大半であるが、a359・361 は中期中葉 (大木 8a 式)、a119 は中期中~後葉 (大木 8b~9 式)、a391 は晩期中葉 (大洞 C2~A 式) と考えられる。

**浅鉢・脚付浅鉢** 5 点掲載した (100.4 g)。完形品は無いが、雲形文や工字文が施されることからいずれも晩期後葉 (大洞 A1~2 式) と考えられる。

**壺** 可能性があるものを含めて 2 点掲載した (21.2 g)。完形品は無く、器面が摩耗していて判然としないが a383 は晩期に属すると考えられる。

**高坏形** 1 点掲載した (a371、122.1 g)。ほぼ完形で、器壁は厚く高台は中実である。

##### B. 土師器

坏・高台坏・甕・鍋があり、105 点掲載した (掲載重量 14,220.1 g)。

**坏・高台坏** 坏は 28 点掲載した (1,995.1 g)。轆轤使用の有無を大分類 (不使用 = I 類、使用 = II 類)、黒色処理の有無を小分類 (有り = a 類、無し = b 類) とし、例えば轆轤使用で黒色処理を施すものは「II a 類」とした。I 類は非轆轤成形の製品で、8 点掲載した。このうち内面に黒色処理を施す a 類は 1 点 (a424) のみで、その他は b 類である。胴部調整はナデ・横ナデ、外面下位~底部付近はケズリである。II 類は轆轤成形の製品で、20 点掲載した。大きさや口縁部の屈曲度合いに若干の差異はあるが、いずれも胴部が丸みを持って立ち上がる器形である。胴部調整は、内面に黒色処理を施す a 類は外面が回転ナデ、内面がミガキと黒色処理、黒色処理を施さない b 類は内外面とも回転ナデである。底部切り離し技法は a・b 類とも回転糸切りが基本で、胴部下位~底部にかけて回転ヘラケズリを施すものもある (a103・146・252・417)。

高台坏は 2 点掲載した (47.4 g)。高台は欠損しているが、底部脇に接合痕がある。坏の分類に合わせると、a54 は II a 類、a307 は II b 類である。

**甕** 71 点掲載した (11,650.7 g)。全形がわかるものが少ない為、轆轤使用の有無で大分類、器形で小分類 (長胴 = a 類、球胴 = b 類) を行った。I 類は非轆轤成形の製品で、39 点掲載した。このうち 38 点が長胴タイプの I a 類で、器形の判明するものをみると胴部調整は外面が縦方向のナデ・ハケ・ケズリ、内面は横・斜め方向のナデ・ハケである。口縁部は「く」の字状に斜め上方に立ち上がる単純口縁で、横ナデによる頸部の屈曲が明瞭なもの (a41・76・87・95 等) と屈曲

が弱く不明瞭なもの（a88・90・381等）がある。底部はナデを施すものがあり、a94では砂目が付着している。球胴タイプのIb類は1点のみで（a258）、赤彩球胴甕の可能性はあるが赤彩は残存していない。II類は轆轤成形の製品で、32点掲載した。全て長胴タイプのIIa類で、器形の判明するのを見ると胴部調整は内外面とも回転ナデで、胴部下～底部にかけて縦方向のケズリ・ハケ・ナデ、または叩きが施される。叩きが施されるものはいわゆる「出羽型甕」で、小破片だが叩きが確認できるものは本類に含めた。口縁部は端部が直立する受口状で、a96・303は若干内傾する。

鍋 SI19からのみ出土しており、3点掲載した（526.9g）。全形は不明であるが、口縁は外側に鋭角に屈曲し、口径が30cmを超える大型のものである。

### C. 須恵器

坏・高台坏・瓶・壺・甕・蓋があり、101点掲載した（7,922.7g）。

坏・高台坏 坏は34点掲載した（1,567g）。いずれも轆轤成形で、胴部は底部脇から直線的に立ち上がるものと胴部下半が丸みを持って立ち上がり中位から直線的になるものがある。内外面とも回転ナデが基本で、a367のみ胴部下位にケズリが施される。底部切り離し技法は回転糸切りと回転ヘラ切りがあり、再調整を施すものは少ない（a367・407・408）。

高台坏は1点掲載した（a97、20.3g）。角高台で、底部外面にヘラケズリが施される。

瓶 完形品は無いが、残存する器形や調整から頸部径が胴部最大径の1/2以下になると考えられるもので、14点掲載した（474.9g）。いずれも轆轤成形で、外面には回転ナデが施される。内面には回転ナデ・ナデが施されるものが多いが、細頸のものはコテ状工具の押圧痕が残されている。a312は頸部と胴部の境界にリング状突帯が付けられている。

壺 瓶と同じく完形品は無いが、残存部の特徴から頸部径が胴部最大径の1/2以上になると考えられるもので、5点掲載した（336.3g）。いずれも轆轤成形で、胴部下～半には縦・斜め方向のケズリが施される。また、胴部上位にカキメ状の工具痕が明瞭に残るものもある（a66・70）。

甕（大甕） 瓶・壺より大型と考えられる貯蔵用具を一括し、46点掲載した（5,445.4g）。全形がわかるものは無いが、いずれも粘土紐積み上げによる成形で、内外面にナデ・叩きが施される。叩きの工具痕には格子・平行・青海波がある。a332は頸部の破片で、外面に波状の沈線が施される。なお、a26は内外面・断面いずれも摩耗しており、研磨陶片として二次使用された可能性がある。

蓋 1点掲載した（a317、78.0g）。轆轤成形で、外面は回転ナデの後に頂部付近に回転ヘラケズリが施される。頂部にはボタン状の摘みが付けられている。

### D. かわらけ

轆轤かわらけと手づくねかわらけがあり、213点掲載した（8,100.9g）。

轆轤かわらけ 大皿と小皿があり、174点掲載した（6,940.3g、大皿82点、小皿92点）。大皿の大きさは、口径12.6～15.8cm、底径5.0～9.8cm、器高2.3～5.1cmである。胴部調整は内外面とも回転ナデで、底部切り離し技法は回転糸切りである。a197・343では底部にスノコ痕が確認されている。色調は、赤褐色または橙色のものがほとんどである。器形は、口径／器高の比率と底部脇の形状から以下の通り分類した。

轆轤大A類…口径に対して器高が高く底部が突出する碗形（a195・223・226・439等）

轆轤大B類…口径に対して器高が低く底部が突出しない皿形（a15・194・234・275等）

小皿の大きさは、口径7.4～10.7cm、底径5.2～7.4cm、器高1.3～2.9cmである。胴部調整は内外面とも回転ナデで、底部切り離し技法は回転糸切りである。器形は、底部脇と胴部の立ち上がり形

状により以下の通り分類した。

轆轤小 A 類…底部脇が屈曲して胴部は外反気味に立ち上がる (a149・154・176・181 等)

轆轤小 B 類…底部脇が屈曲せず胴部は直線的に立ち上がる (a19・155・215・251 等)

轆轤小 C 類…底部脇が屈曲せず胴部は内弯しながら立ち上がる (a169・228・283 等)

なお、大皿・小皿ともに油煙が付着しているものがある (a223・277・351 等)。

手づくねかわらけ 大皿と小皿があり、39点掲載した(1,160.6 g、大皿 33 点、小皿 5 点、不明 1 点)。大皿の大きさは、口径 12.8~16.8cm、器高 3.1~3.8cm である。胴部調整はナデが主体で、口縁部には横ナデが施され、胴部下半から底部は指頭圧痕が残る。小皿の大きさは、口径 7.8~9.8cm、器高 1.5~2.4cm である。胴部調整は大皿と同じである。なお、大皿・小皿ともに油煙が付着しているものがある (a218・250・304・413・419)。

### E. 手づくね土器

3点掲載した (53.8 g)。厚手でナデや指頭押圧痕が明瞭なことから製塩土器の可能性はある。胎土が土師器やかわらけより粗く、このうち a127 は羽口の胎土に類似している。

### (2) 陶磁器 (第 2-148~157 図、第 2-11 表、写真図版 2-153~160)

陶器と磁器があり 331 点掲載した。総重量は 39,982.8g である (31,501.8g)。産地・器種・年代のバリエーションが多様であることから、以下では年代・産地別に記載を行う。なお、分類については以下の文献を参考に行った。

#### 平安時代~中世の陶磁器

上田秀夫 1982 「14~16 世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁研究』No. 2 日本貿易陶磁研究会

小野正敏 1982 「15、16 世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』No. 2 日本貿易陶磁研究会

藤澤良祐 2008 『中世瀬戸窯の研究』高志書院

森田 勉 1978 「大宰府出土の輸入中国貿易陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』第 4 集

1982 「14~16 世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』No. 2 日本貿易陶磁研究会

#### 近世以降の陶磁器

大橋康二 1989 『考古学ライブラリー 55 肥前陶磁』ニュー・サイエンス社

九州近世陶磁学会 2000 『九州陶磁の編年 九州近世陶磁学会 10 周年記念』

瀬戸市史編纂委員会 1998 『瀬戸市史 陶磁史編 六』

### A. 平安時代・国産陶器

猿投窯産 灰釉陶器の瓶で、1点掲載した (5.8 g)。胴部調整は、外面が回転ナデの後に回転ヘラケズリが施される。

渥美窯産 壺・甕・片口鉢があり、35点掲載した (3,016.9 g)。いずれも全形がわかるものは無い。壺は 28 点掲載した。胴部調整は外面はナデ・回転ナデで、b90・180 には三筋文、b281 には袈裟襷文が施される。また、b281 は双耳壺と考えられるが耳部は欠損している。内面はいずれもナデが施される。甕は 6 点掲載した。胴部調整は、内外面ともナデが施される。片口鉢は 1 点掲載した。胴部調整は、内外面とも回転ナデである。

常滑窯産 壺・甕・片口鉢があり、20点掲載した (1,488.9 g)。いずれも全形がわかるものは無い。壺は 2 点掲載した。胴部調整は、内外面ともナデが施される。甕は 11 点掲載した。胴部調整は、外面はナデの後に粘土紐の接合部に押印が施される。押印の種類は、格子・長格子・平行がある。

片口鉢は7点掲載した。胴部調整は外面は回転ナデ後に回転ヘラケズリ、内面は回転ナデが施される。また、内面は使用により摩耗している。

**須恵器系** 壺・甕があり、24点掲載した(1,371.3g)。いずれも全形がわかるものは無い。壺は3点掲載した。胴部調整は、内外面とも回転ナデである。甕は須恵器の可能性のあるものも含めて21点掲載した。胴部調整は内外面にナデ・叩きが施される。叩きの工具痕には格子と平行がある。格子状の叩きは、須恵器より単位が細かく多い。

#### B. 平安時代・輸入陶磁器

**白磁** 碗と壺があり、8点掲載した(76.8g)。いずれも全形がわかるものは無い。壺は5点掲載した。内外面ともに回転ナデ調整で、外面に透明釉が施される。碗は3点掲載した。b142は大宰府分類白磁碗Ⅷ-2類(以下、大宰府分類を省略)、b318は白磁碗Ⅳ類と考えられる。また、b48は外面の一部が露胎であることから白磁碗Ⅱ類の可能性はある。

**青磁** 碗のみ出土しており、4点掲載した(89.2g)。口縁部及び胴部破片で、全形がわかるものは無い。このうちb39・50は内面に櫛目文が描かれており、b39は龍泉窯産青磁碗Ⅰ型式、b50は同安窯産青磁碗Ⅲ-1b型式と考えられる。

**青白磁** 合子が2点出土しており、全点掲載した(3.4g)。b141は合子の蓋で、二次的に被熱している。b169は合子の身としたが、蓋付小壺の可能性もある。

#### C. 中世・国産陶器

**古瀬戸** 壺・盤があり、可能性のあるものを含めて3点掲載した(34.9g)。いずれも全形がわかるものは無い。古瀬戸後期様式に属するもので、外面に灰釉・鉄釉が施される。

**瀬戸美濃窯産** 碗・皿類・向付があり、55点掲載した(729.7g)。一部の志野製品を除いて瀬戸窯産と美濃窯産の判別が難しいものが多いことから今回は瀬戸美濃窯産として一括した。碗は天目茶碗と端反碗があり、天目茶碗11点と端反碗1点を掲載した。天目茶碗は内外面とも回転ナデ調整で、b28はさらに外面下位に回転ヘラケズリが施される。釉薬は内外面ともに鉄釉が施され、b12・179は下地に錆釉を施した後に鉄釉が施される。皿は丸皿・折縁皿・端反皿・小皿・内禿皿があり、42点掲載した。皿は瀬戸美濃窯産大窯編年3~4期に属するものがほとんどである。志野皿は6点掲載した。いずれも内外面回転ナデ調整で、長石釉が施される。また、b218は内面に鉄絵、b43は内面に緑釉が落とし掛けされている。向付は1点掲載した。三足の付くタイプと考えられ、内面に鉄絵が施される。

**信楽産** 壺があり、5点掲載した(280.3g)。全形がわかるものは無い。胴部調整は内外面ともナデで、口縁部には横ナデが施される。色調は赤褐色で、黒色・白色砂の吹き出しがある。15~16世紀代の製品と考えられるが、詳細な年代は不明である。

#### D. 中世・輸入陶磁器

**白磁** 碗・皿があり、8点掲載した(41.0g)。いずれも全形がわかるものは無い。このうち年代がわかるものとしては、口縁部の外反が強いb21と高台が薄手の三日月高台であるb177が16世紀代と考えられる。この他、b127は口縁部の外反が弱いことから14~16世紀、他の胴部・底部破片も釉薬や胎土の様相から同時期と考えられる。

**青磁** 碗・皿・鉢があり、34点掲載した(476.3g)。碗は30点掲載した。いずれも全形がわかるものは無い。外面に蓮弁文が施されるものは6点あり、鎬蓮弁文であるb132は14世紀後半~15世紀前半、その他は15~16世紀代と考えられる。b165は外面に雷文が施されることから14世紀後半~15世紀前半と考えられる。b133・264・290は内面に花文が印刻された後に青磁釉が

施される。また、高台内の釉が輪上に削り取られていることから 15 世紀代と考えられる。

**染付** 中国産と考えられる染付磁器製品には碗と皿があり、43 点掲載した (197.9 g)。全形がわかるものは無いが、いずれも 16 世紀代と考えられる。碗は 17 点掲載した。染付の描かれる位置は内外面のいずれか 1 面、または内外面ともに描かれるものがある。草花文が描かれるものも多く、b220 では高台内に「□□福」の銘が書かれている。皿は 25 点掲載した。染付の描かれる位置は碗と同じである。外面に草花文、内面に波濤文・玉取獅子・吉祥文字「□貴□□」等が描かれる。また、b147 は内面の染付が鉄釉で描かれている。

#### E. 近世・国産陶磁器

**肥前産陶器** 碗・皿・徳利があり、12 点掲載した (228.9 g)。いずれも全形がわかるものは無い。

このうち b4・57・103・112・236・256 は唐津焼あるいはその可能性がある製品で、大橋康二による肥前陶磁編年 I-2 期（以下、大橋〇期と略記）に属すると考えられる。b151・287・324 は陶胎染付の碗で、大橋Ⅲ～Ⅳ期と考えられる。

**肥前産磁器** 碗・皿・猪口・徳利があり、13 点掲載した (287.4 g)。いずれも全形がわかるものは無い。皿は 9 点掲載した。このうち b193 は大橋Ⅱ期、b254 も同時期の可能性がある。この他は大橋Ⅳ期のものが主体となる。

**瀬戸美濃産陶器** 播鉢があり、1 点掲載した (25.8 g)。片口を有する口縁部の破片であり、全形は不明である。

**相馬産陶器** 碗・皿・鉢・徳利があり、可能性があるものを含めて 17 点掲載した (142.7 g)。いずれも全形がわかるものは無い。碗は、緑色で透明な灰釉が施されるもの (b121・238・247・268) と失透性の灰釉が施されるもの (b253) がある。皿は丸皿・小皿・鉄絵皿があり、b194・293・294 は胴部が深い玉縁口縁の皿で、全体に灰釉を施したのちに口縁部に藁灰釉を重ね掛けしている。b98 は小皿で、口縁部は指頭押圧により輪花状になる。b184・289・294 は鉄絵皿で、b289 は体部内面に海浜風景文が描かれている。18～19 世紀代と考えられる。

#### F. 近現代・国産陶磁器

19 世紀以降と考えられる陶磁器類を一括した。種別には陶器・磁器・土器があり、産地不明のものが大半である。

**陶器** 碗・壺・香炉・火鉢・播鉢・便器・H 鋼形陶器があり、7 点掲載した (20,546.0 g)。産地が分かるものは、b317 の信楽産火鉢のみである。b317 は体部中央から口縁部にかけて多角形で、上面から見ると十二角形である。b316 は金属製のいわゆる H 鋼形をした陶器である。上面のみ海鼠釉が施されているが、大部分は露胎である。

**磁器** 碗・皿・盃・ボタンがあり、8 点掲載した (448.8 g)。産地が分かるものは、b118 の小碗がある。岐阜県で昭和 15～21 年の間に製作された統制陶器で、高台内に「岐 61」の銘が確認できる。碗・皿類は、染付磁器製品が主体である。染付製品 (b111・116・117・182・274) は、内外面に型紙摺絵又は銅板転写により文様が描かれている。b301 は浮絵盃で、外面に上絵付で「松島」の文字と五大堂と考えられる建物が描かれている。また、内底面には底部側からガラス玉が嵌め込まれている。

**土器** 植木鉢と考えられる口縁部破片を 1 点掲載した (26.1 g)。

## (3) 石器・石製品（第 2-158～189 図、第 2-12 表、写真図版 2-161～177）

229 点掲載し、総重量は 329,986.8 g である (266,495.9 g)。剥片石器・礫石器・石製品があり、以下では種別毎に記載を行う。また、厳密には石器ではないが、自然礫の中で被熱しているもの及び石質が特徴的なものについても一部掲載している。

**A. 剥片石器**

石匙・筥状石器・楔形石器・石核・剥片があり、7 点掲載した (232.6 g)。石材は、頁岩 5 点、デイサイト・粘板岩各 1 点である。いずれも縄文時代に属すると考えられる。

**B. 礫石器**

敲磨器・石皿・台石・金床石・石錘? があり、115 点掲載した (151,601.0 g)。

**敲磨器** 表面に敲打あるいは摩滅痕跡があるもので、85 点掲載した (75,057.0 g)。使用痕の位置等により以下のように細分類を行った。

敲磨 A 類…表面が摩滅しており、磨石として使用されたもの

敲磨 B 類…端部に敲打痕があり、敲石として使用されたもの

敲磨 C 類…表面に敲打による凹みが認められるもの

使用痕は、c46・53・87・117・177 のように同種の使用痕が複数面で確認されるものもあり、c9・34・104 のように異なる種類の使用痕が確認されるものもある（「敲磨 AC 類」等と表記）。

石材は、安山岩 32 点、玄武岩 15 点、デイサイト 13 点、流紋岩 10 点、流紋岩質砂岩 6 点、凝灰岩 4 点、花崗閃緑岩・頁岩・礫岩・チャート・ホルンフェルス各 1 点である。

**石皿** 扁平で側面に縁が付くと考えられるものを石皿とし、可能性があるものを含めて 7 点掲載した (1,337.7 g)。全体として使用痕は微弱で、自然礫との判別が困難なものもある。石材は、安山岩 3 点、流紋岩 2 点、砂岩・デイサイト各 1 点である。

**台石** 扁平であるが縁の付かないものを台石とし、15 点掲載した (53,412.4 g)。使用痕は微弱であるが、被熱しているものがある (c85・110・166・173・175)。石材は、安山岩 9 点、玄武岩 2 点、花崗閃緑岩・流紋岩質砂岩・デイサイト・ホルンフェルス各 1 点である。

**金床石** 台石のうち表面の敲打痕が明瞭なものを金床石とし、7 点掲載した (22,590.2 g)。石材は、デイサイト 3 点、流紋岩 2 点、安山岩・ホルンフェルス各 1 点である。

**C. 石製品**

石臼・石鉢・硯・碁石? ・用途不明があり、45 点掲載した (93,522.2 g)。

**石臼** 茶臼と粉挽臼があり、31 点掲載した (86,926.3 g)。上臼は茶臼と粉挽臼の判別が困難なものもあるが、上面には縁が形成され、中央または縁の近くに円形の投入口がある。下面には八分割の放射状に目が掘られているが、茶臼のほうが目が細い傾向があり、これは下臼も同様である。側面には挽手の差し込み口があり、差し込み口を中心に二重の菱形が掘り込まれているものもある (c61 等)。下臼は、受け皿部があるまたはあると推定できるものを茶臼、受け部が無く上面径と下面径の差が小さいものを粉挽臼とした。上面中央には軸を入れる穴があり、それを中心に八分割の放射状に目が掘られている。なお、特に茶臼は摩耗が著しく上臼・下臼とも片減りしているものが多い。石材は、安山岩 17 点、凝灰質砂岩 8 点、玄武岩 3 点、花崗閃緑岩 2 点、デイサイト 1 点である。

**石鉢** 8 点掲載した (6,338.1 g)。鉢形の器形で、平底であったと考えられる。c56 では内面に摺り

目状の彫り、c113 は底面に成形時の鑿の痕跡が確認されている。石材は、安山岩 4 点、凝灰質砂岩・凝灰岩質礫岩各 2 点である。

**硯** 4 点掲載した (147.7 g)。全形がわかるものは無いが、いずれも平面形は長方形と考えられ、内面には擦痕が確認されている。石材は、凝灰岩 3 点、頁岩 1 点である。

#### (4) 金属製品 (第 2-190~198 図、第 2-13 表、写真図版 2-178~184)

253 点掲載した。鉄製品と銅製品があり、以下では材質別に細分類が可能なものや特徴的なものについて記載を行う。

#### A. 鉄製品

大きく武器・武具 (鎌・小刀・小札)、農工具 (刀子・斧・鎌・錐?)、建築具 (釘・留金具)、茶道具 (釜)、素材 (鉄鋌状)、その他 (鉸具・鑿?) に分けられ、器種は多様である。

**鎌** 可能性があるものを含めて 6 点掲載した。形態がわかるものとしては、d223 が方頭式、d224 が長頸三角形式、d228 が柳葉式で、関部は台形関である。

**小札** 可能性があるものを含めて 3 点掲載した。d219・252 は大鎧の小札で、穿孔は 2 列 6 段確認できる。d140 は手甲の小札で、穿孔は 2 列 6 段、穿孔箇所には溝状の窪みが施されている。

**釘** 金属製品の中で最も出土量が多く、147 点掲載した。横断面形から和釘 (141 点)・舟釘 (3 点)・洋釘 (3 点) に分類できる。和釘は断面形が方形または長方形で、中世の竪穴建物と近世以降の墓坑から多く出土している。長さは 3.0~17.8cm までと幅があるが、欠損の無い 78 点をみると 4.1~6.0cm のものが 43 点と半数以上を占めており、5 cm 前後が主体であったと考えられる。舟釘は断面形が扁平な長方形で、上端部は L 字状に折り返されている。洋釘は断面形が円形で、SK106 からのみ出土している。いずれも棺材と考えられる木質が付着している。

**釜** 1 点掲載した。d240 は、茶釜と考えられる口縁部破片で、形状から「車軸釜」の可能性はある。口縁部は直立気味に立ち上がり、復元口径は 15.8cm である。

**鉄鋌状** 鉄製品加工用の素材と考えられる板状の製品で、7 点掲載した。平面形は上端部幅より下端部幅のほうが狭い板状で、長さ 13.6~20.7cm、幅 2.0~2.9cm、厚さ 0.6~1.2cm である。

**鉸具** 馬具の鐙を構成するもので、鐙の本体部と鞍を連結するための道具である (d165)。杵金は正方形で、刺金は T 字状である。

#### B. 銅製品

刀装具・鏡・鑷子・煙管・簪等があり、12 点掲載した。

**刀装具** 中世~近世初頭に属すると考えられる切羽 2 点と目貫 1 点を掲載した。切羽 (d9・146) は、鐔を表裏面から挟んで動くのを抑えるための金具である。平面形は楕円形で、外縁部には細かい刻みが施されている。目貫 (d149) は、柄に付ける装飾金具である。連獅子をモチーフとしたもので、鑄造品と考えられる。

**鏡** 1 点掲載した。d232 は蓬萊鏡で、鏡背には荒磯・松の木・鶴が描かれ、紐座は亀をモチーフとしている。図像の特徴から江戸時代の製品と考えられる。

## (5) 銭 貨 (第 2-199~203 図、第 2-14 表、写真図版 2-185~188)

86 点掲載した。複数の銭が固着したのも 7 点出土しており、総数は 146 点になる。銭種が判明したものは 14 種で、古い順に開元通宝・淳化元宝・景德元宝・祥符通宝・点聖元宝・皇宋通宝・嘉祐通宝・熙寧元宝・元豊通宝・紹熙元宝・洪武通宝・永樂通宝・朝鮮通宝・寛永通宝である (初鑄年は第 2-14 表参照)。出土量が最も多いのは寛永通宝で、主に墓坑から出土している。次いで多いのは永樂通宝で、竪穴建物や掘立柱建物を構成する柱穴から出土している。この他、「至□□宝」と読める e17 は至和通宝など複数の銭種の可能性があり、紀年の無い無文銭や鉄銭も確認されている。

なお、固着した個体のうち 2 点で付着した繊維の材質同定を行った (第 4 節 (7) 参照)。e74-1 (試料 No.1) は永樂通宝の束で、穿 (中央の穴) の内部に付着していた紐状の繊維質はイネ科茎部、e26-1 (試料 No.2) は寛永通宝の束で、包んでいた布状の繊維質は平織のワタと同定されている。その他、同定は行っていないが e22・25・31 に付着していた繊維については保存処理の際に顕微鏡写真撮影を行っている (第 2-203 図)。

## (6) 木 製 品 (第 2-204~206 図、第 2-15 表、写真図版 2-189~191)

ほとんどが SD101 から出土しており、木製品 57 点と漆膜 1 点を掲載した。器種は、折敷・曲物・下駄・箸・ちゅう木・杭板材・角材等があり、杭が最も多い。樹種はヒノキ属とスギが多く、その他にイヌガヤ・エゴノキ・カエデ・カヤ・クリ・コナラ・サクラ・トチノキ・トネリコ・ニレ・ブナ・マツ・マンサク・モクレン・ヤナギがある。曲物・折敷・箸といった食器類にはスギ、板材や角材等の部材にはヒノキ属が多用される傾向があるが、各器種とも多様な樹種が使用されている。f58 は漆膜のみ残存している為厳密には木製品ではないが、木製椀に塗られていたものの可能性があることからここで掲載した。

## (7) ガ ラ ス 製 品 (第 2-207 図、第 2-16 表、写真図版 2-184)

I 層及び近現代の攪乱を中心に出土しているが、SD101・102 や SX08 の堆積土上位からも出土している。ビール瓶・牛乳瓶・薬瓶・化粧瓶・クリーム瓶等 7 点を掲載した。

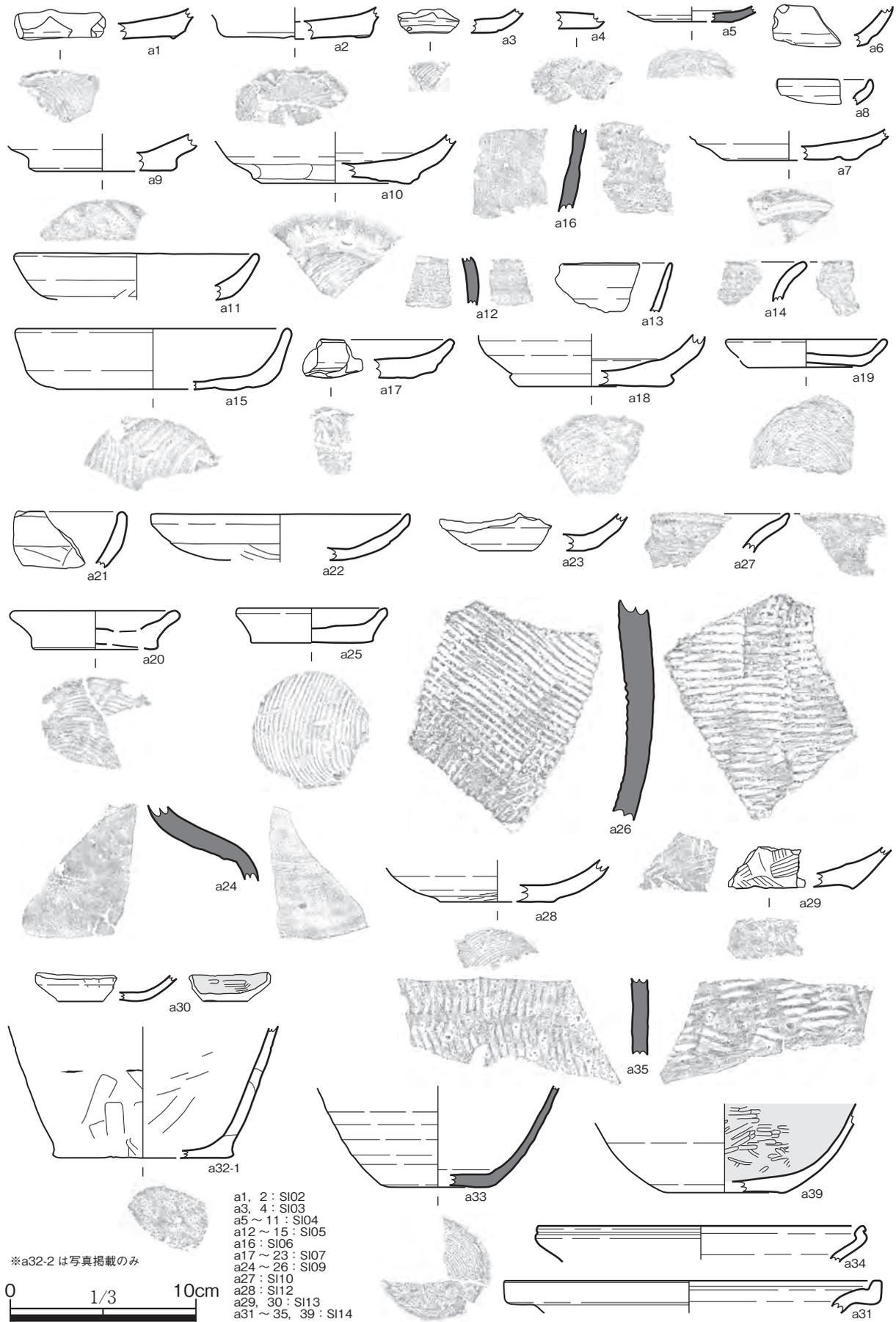
## (8) 生産関連遺物 (第 2-147 図、第 2-17 表、写真図版 2-192)

埴埴・鉄滓・羽口があり、鉄または銅生産・加工に伴う遺物を一括した。出土重量は、埴埴 13.7 g、鉄滓 4,955.1 g、羽口 636.5 g である。竪穴建物・土坑・柱穴・炉等から出土しており、SK44 からの出土量が最も多い。なお、一部は自然科学分析を行っている (第 4 節 (8) 参照)。

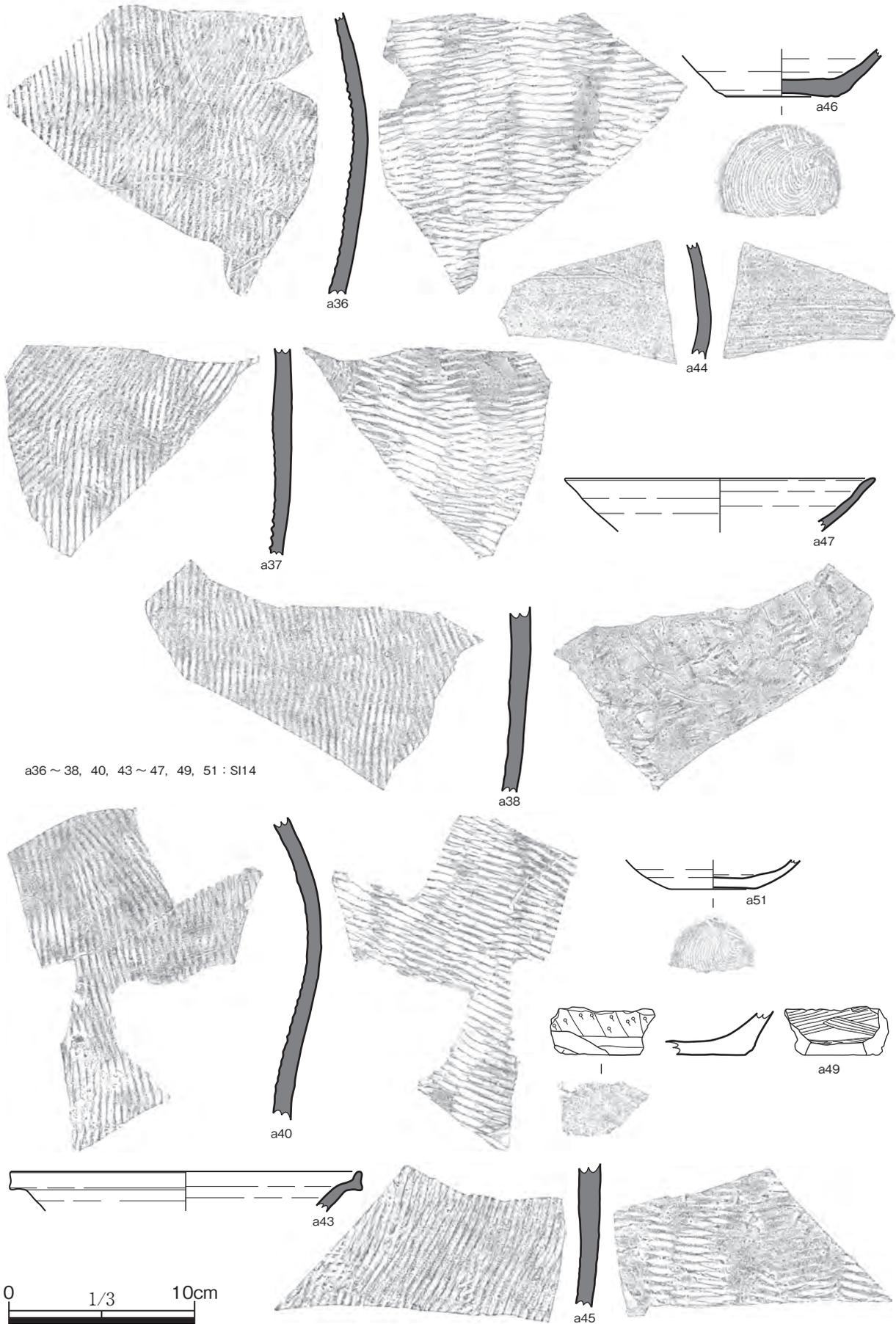
**埴埴** 2 点掲載した (13.7 g)。いずれも口縁部の破片で、全形は不明である。内面には金属が溶着しており、h1 は鉛 (Pb) と銅 (Cu)、h2 は金 (Au) であることが確認されている。

**鉄滓** 16 点掲載した (1,053.6 g)。鍛錬及び精錬工程で生成された鍛冶滓が主体である。なお、分析により鑄造鉄器片と判断された h5 は厳密には鉄滓ではないが、鍛冶原料として利用された可能性があることから鉄滓に含めた。

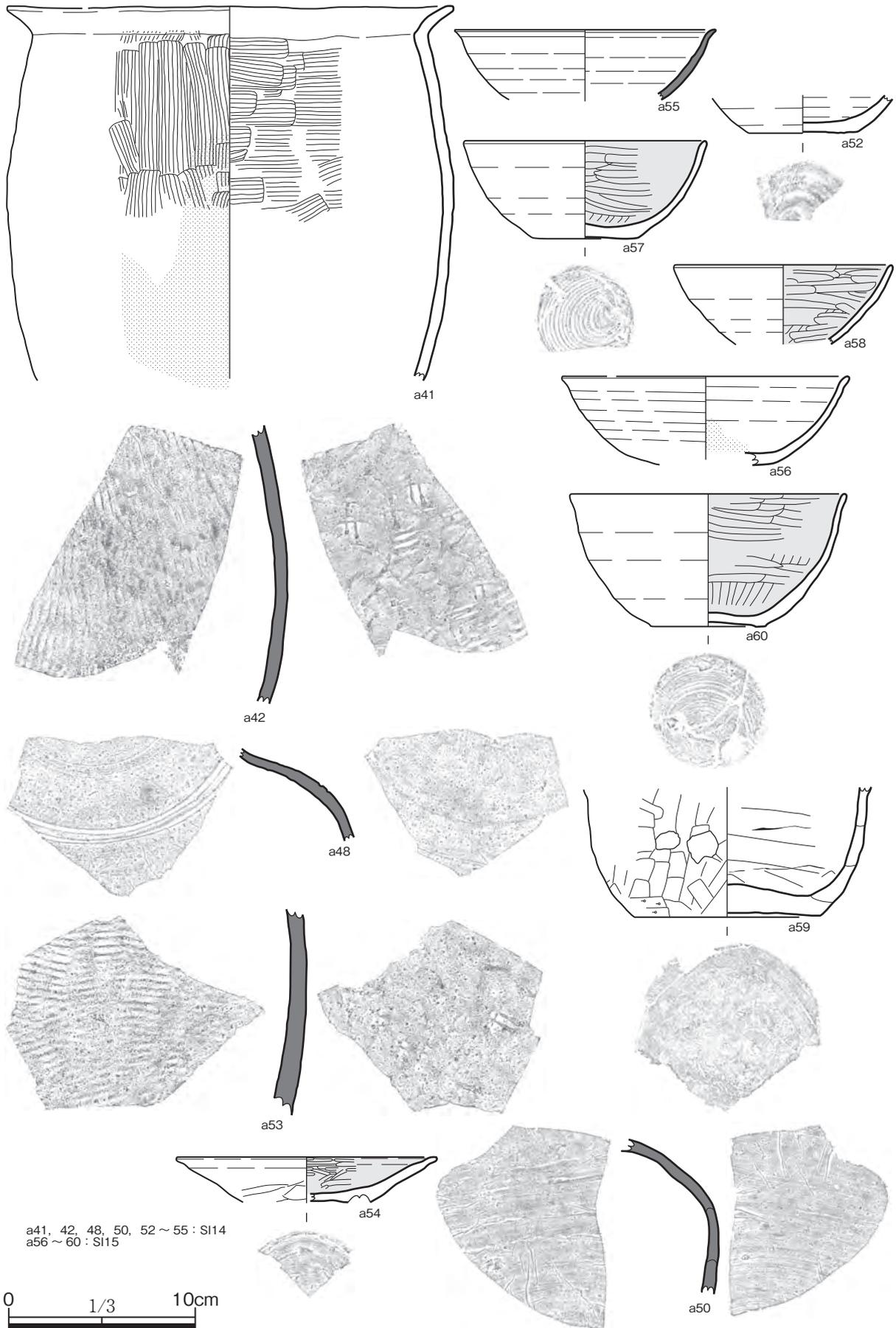
**羽口** 2 点掲載した (196.8 g)。粗い胎土を使用した手づくねの製品である。いずれも全形は不明であるが、残存部から内径は 2.0~2.5cm と考えられる。



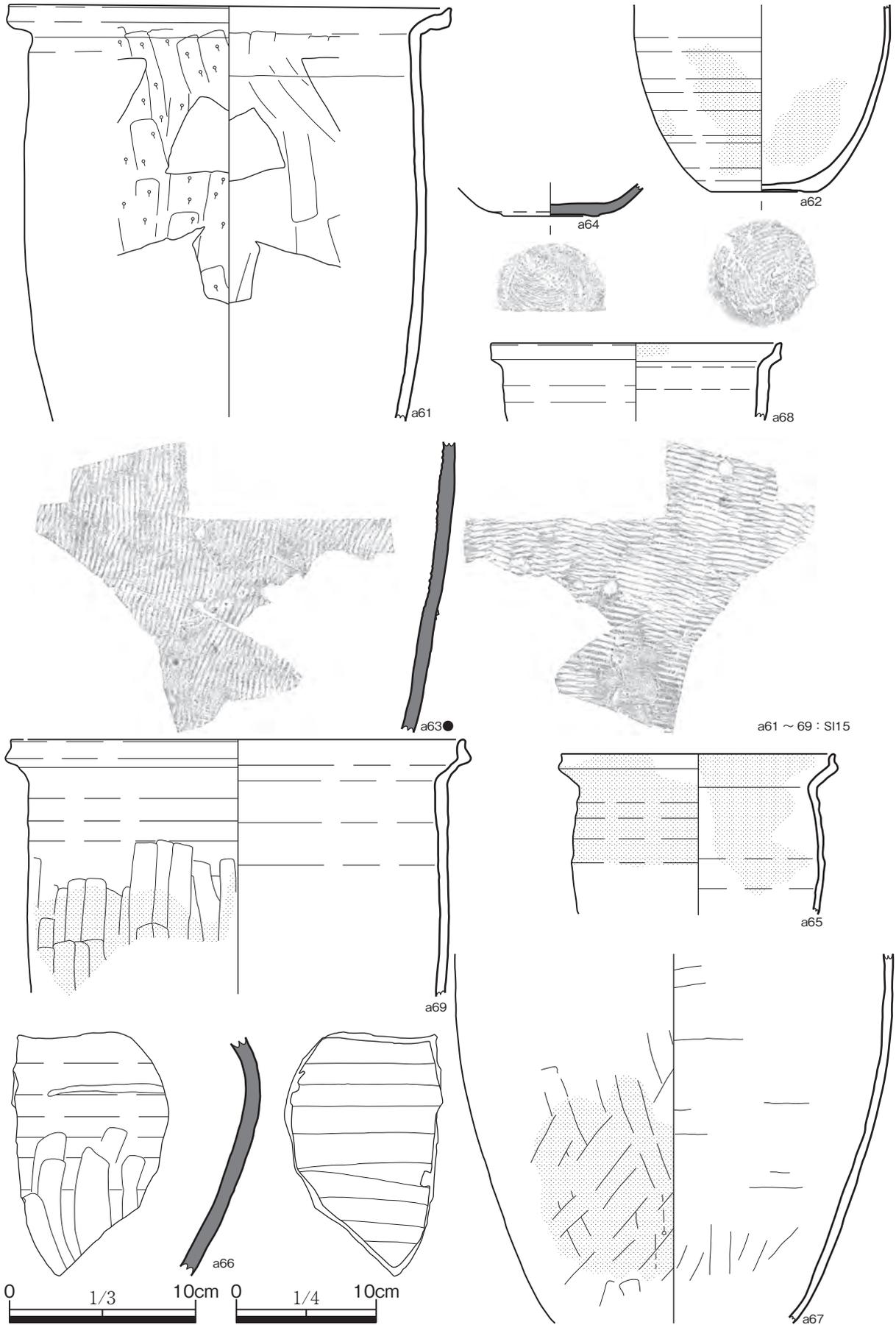
第129図 土器 (1)



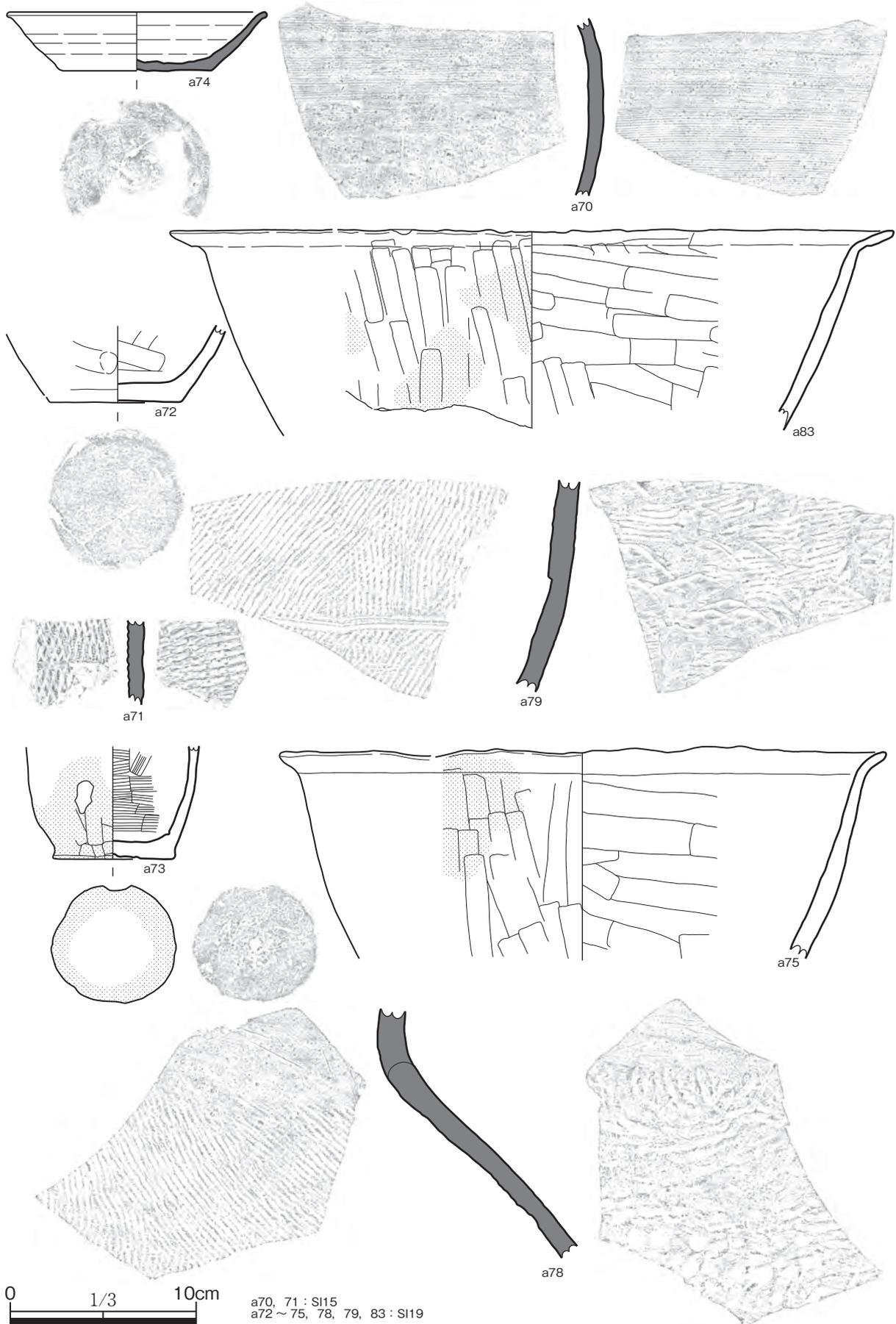
第130図 土器(2)



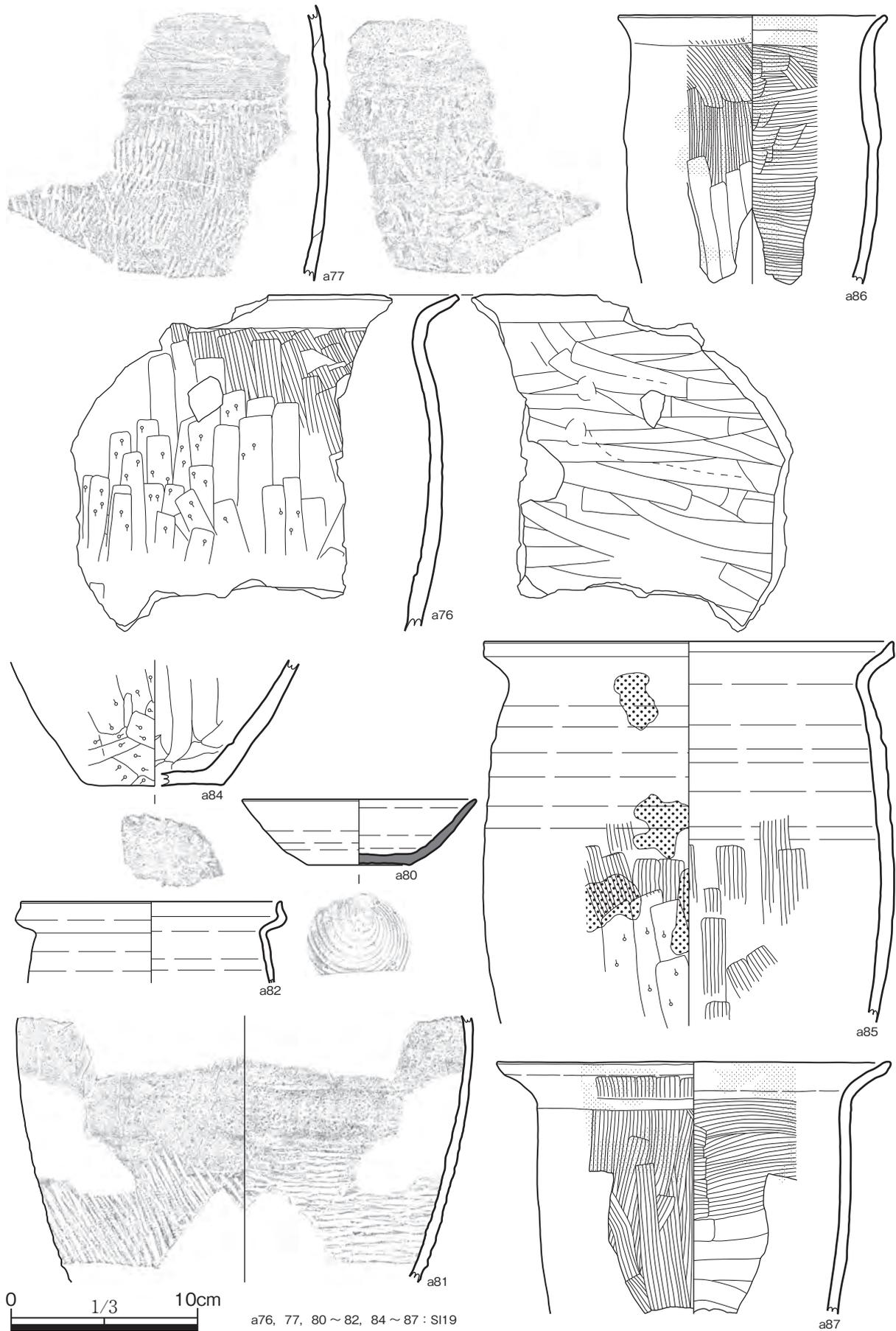
第131図 土器(3)



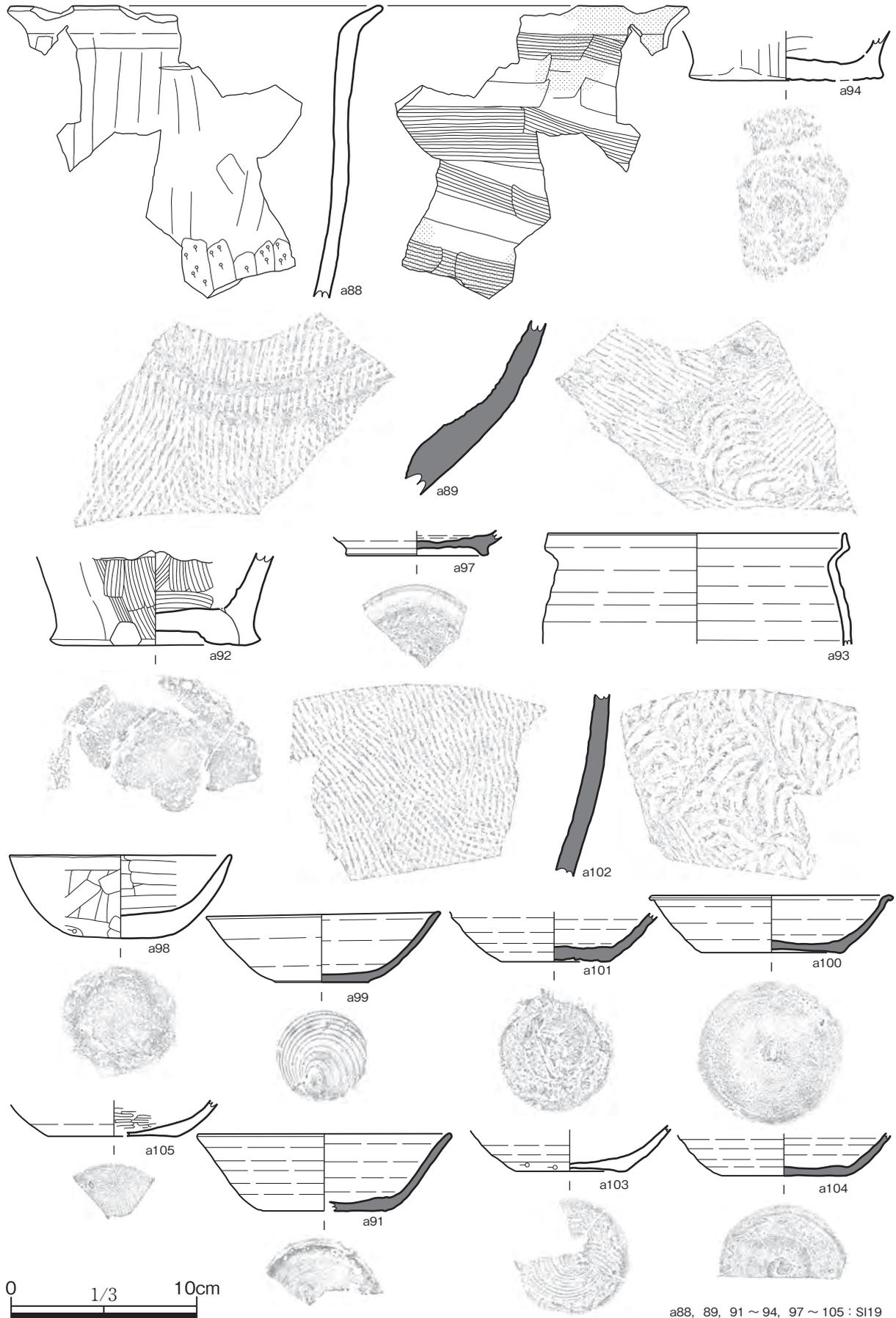
第132図 土器(4)



第133図 土器 (5)

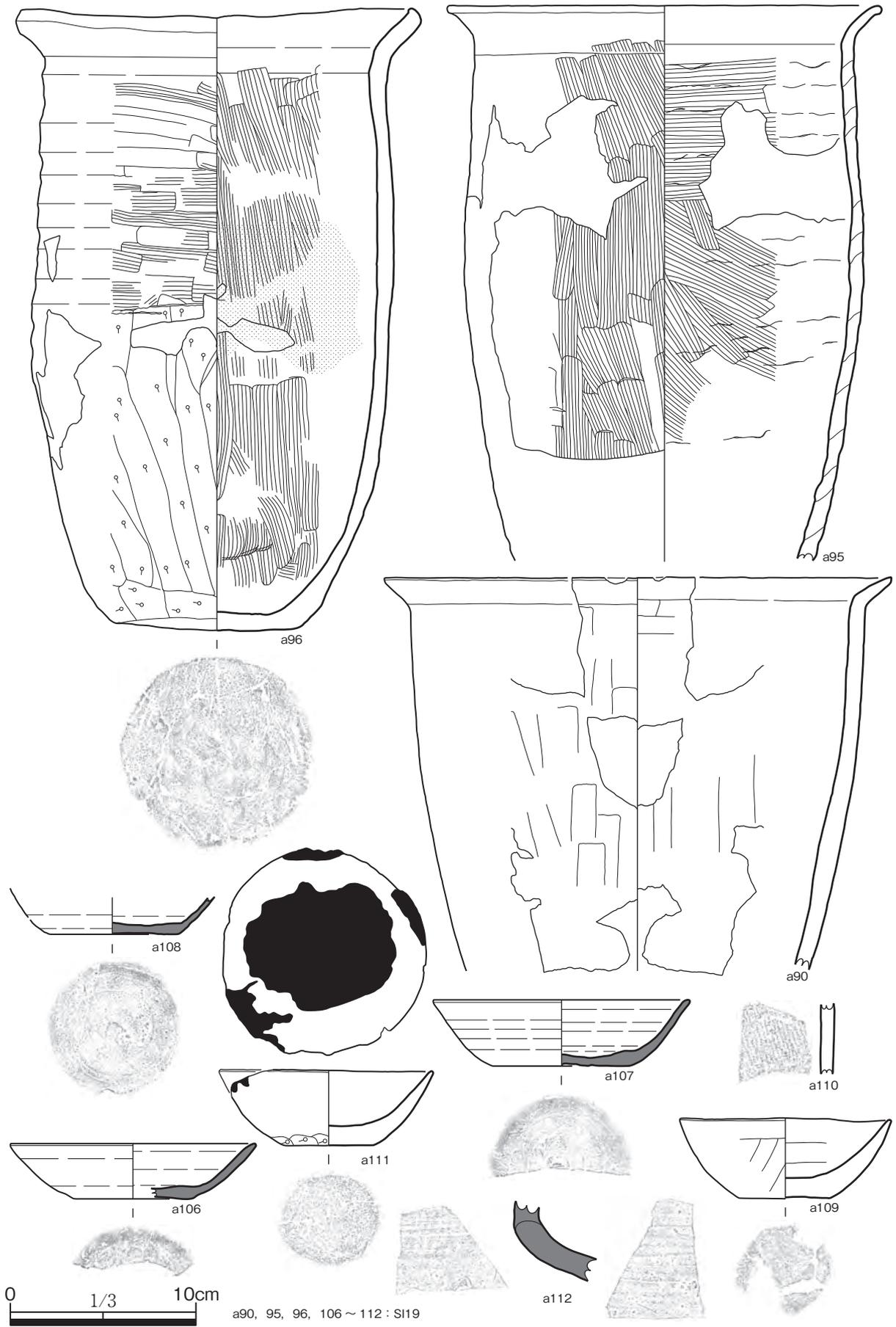


第134図 土器 (6)

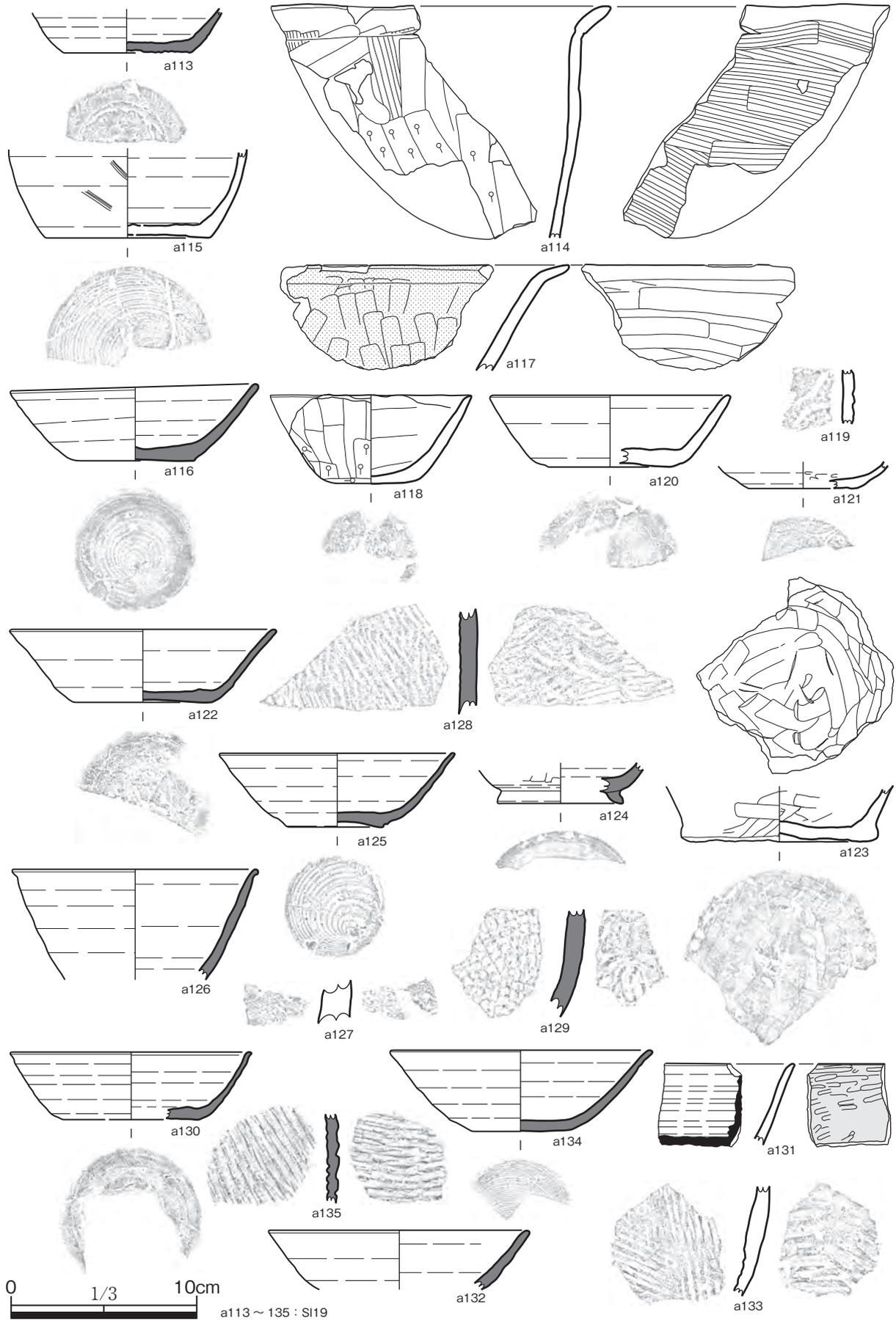


a88, 89, 91 ~ 94, 97 ~ 105 : SI19

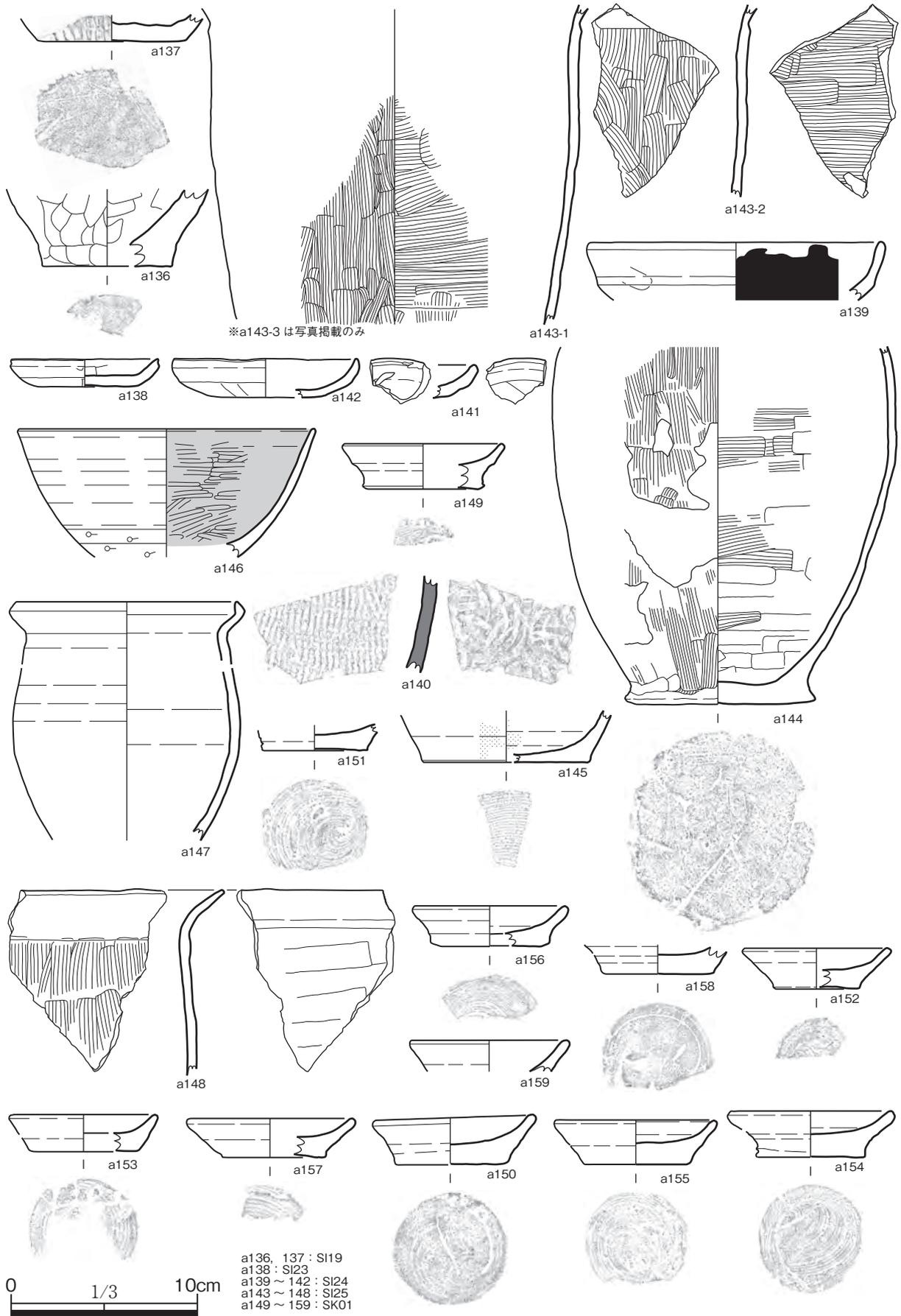
第135図 土器(7)



第136図 土器(8)



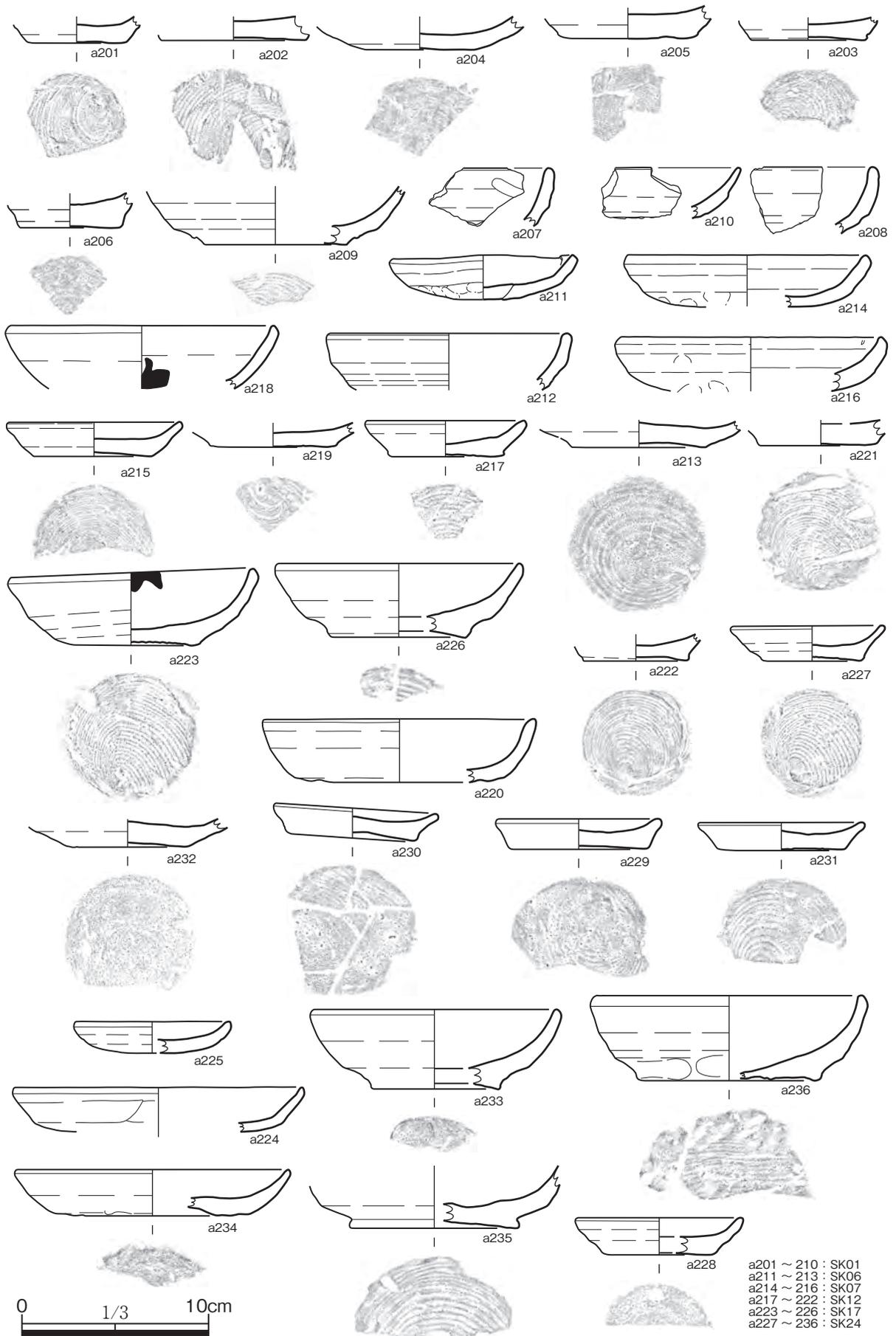
第137図 土器(9)



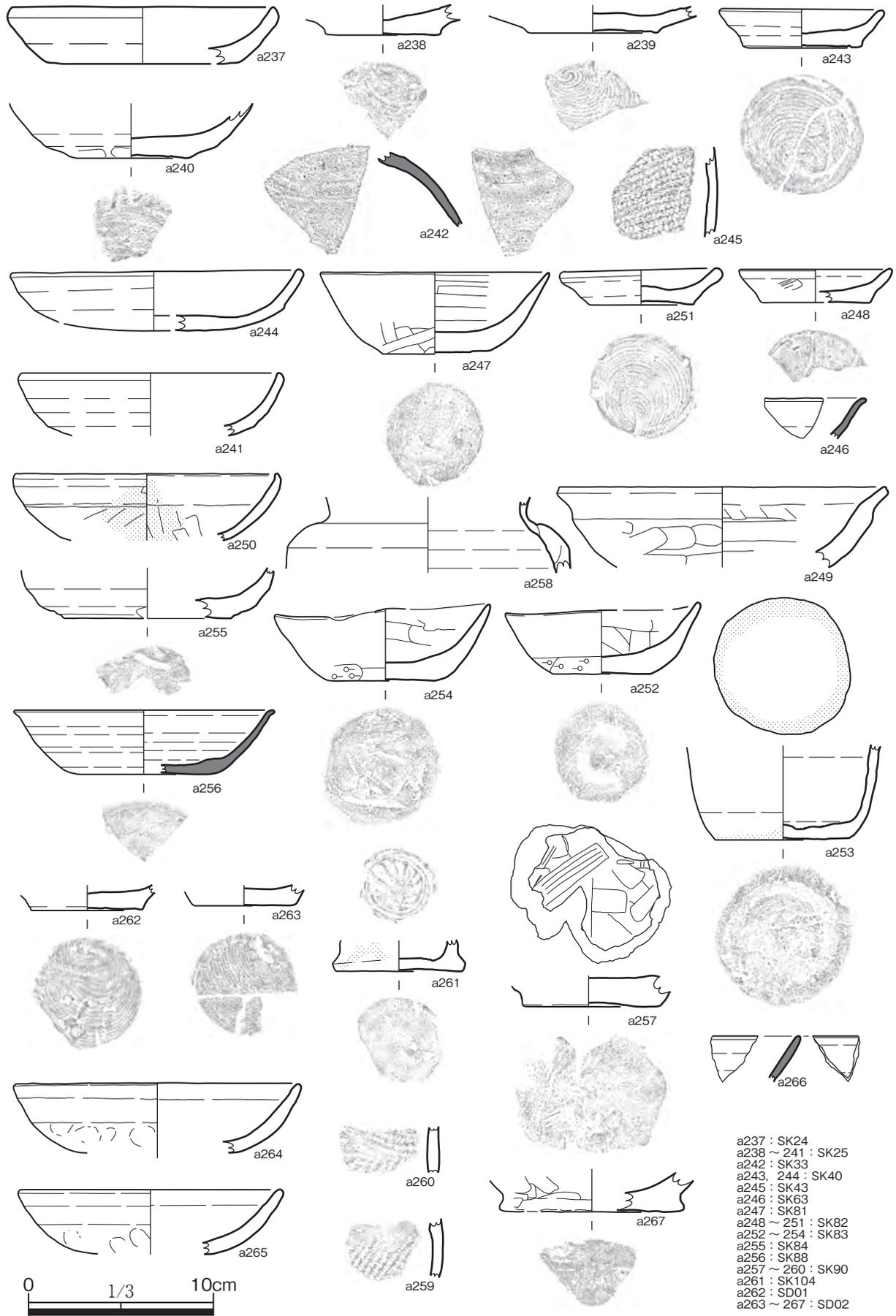
第138図 土器 (10)



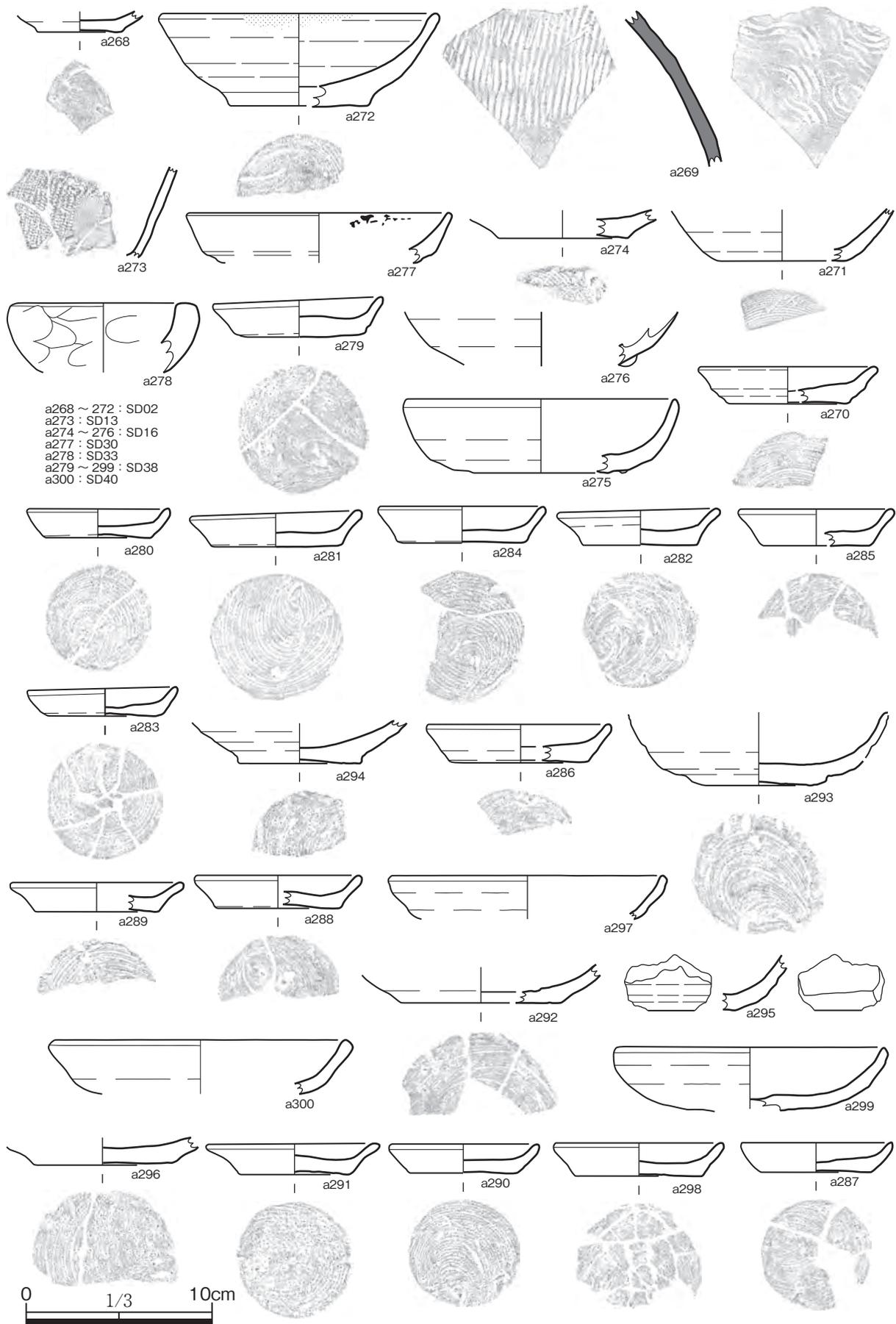
第139図 土器 (11)



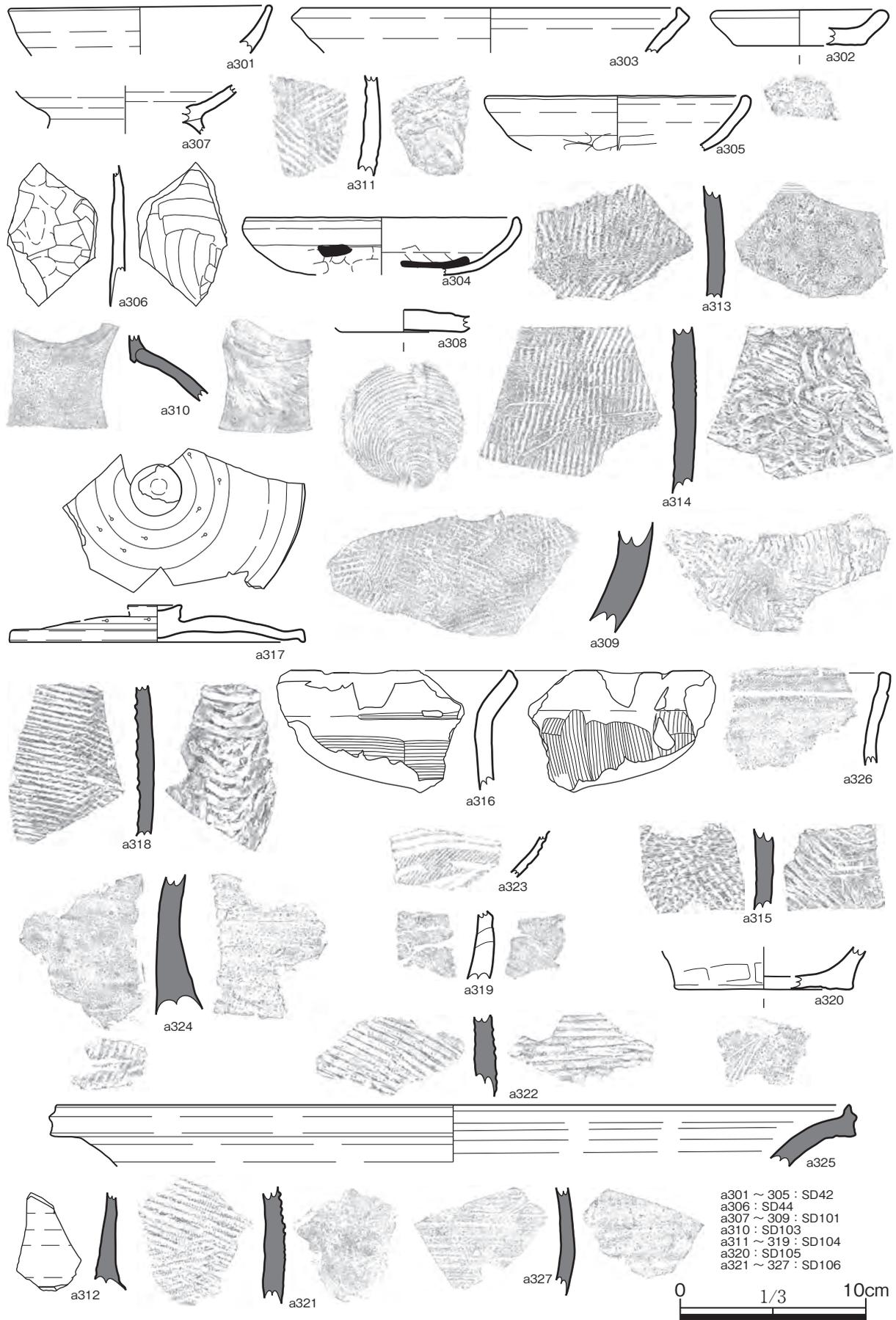
第140図 土器 (12)



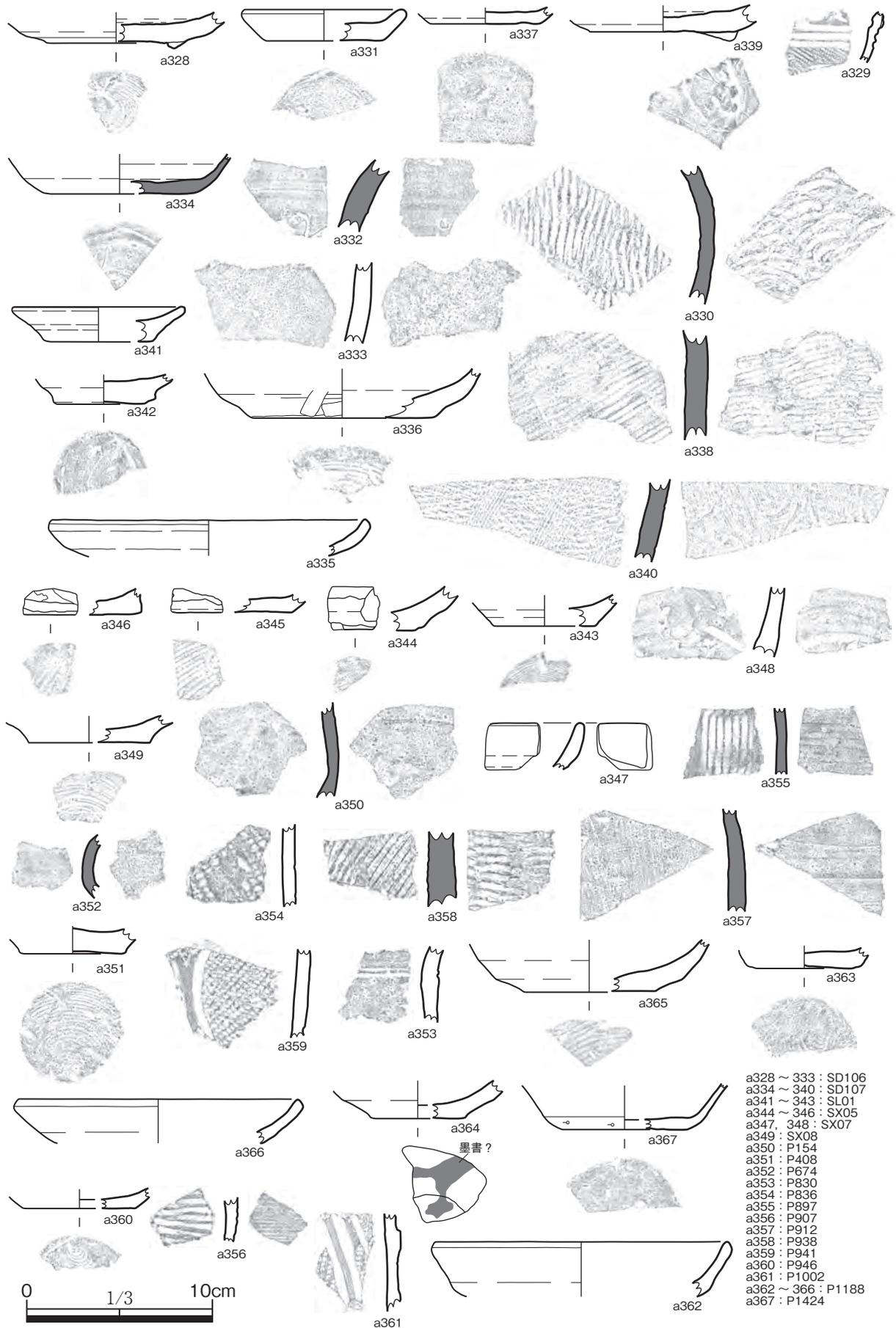
第141図 土器 (13)



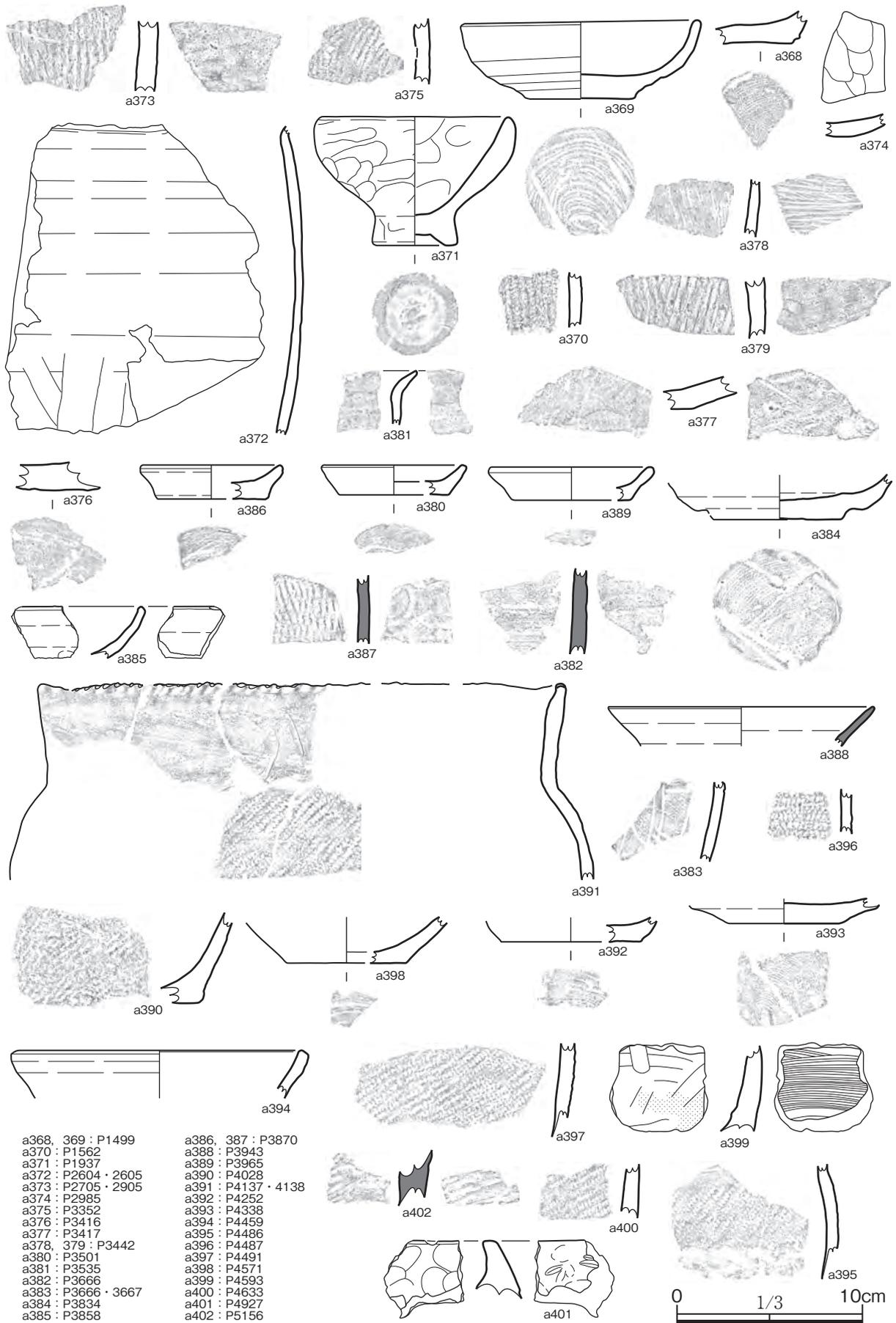
第142図 土器 (14)



第143図 土器 (15)



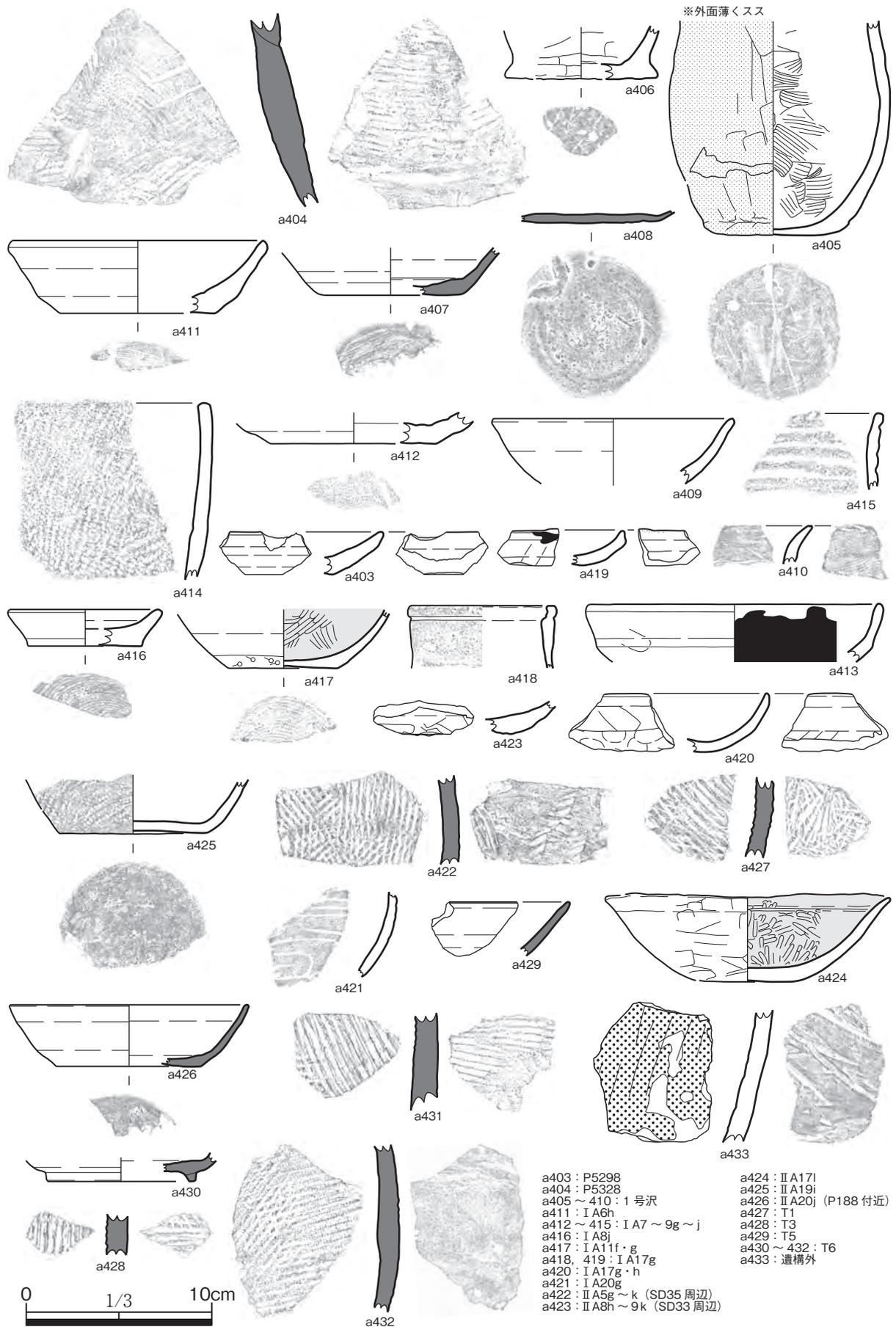
第 144 図 土器 (16)



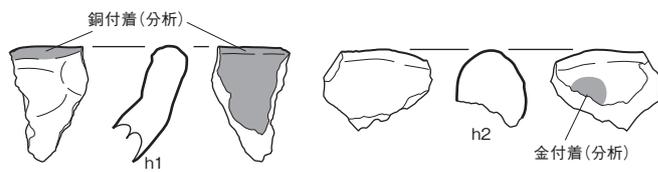
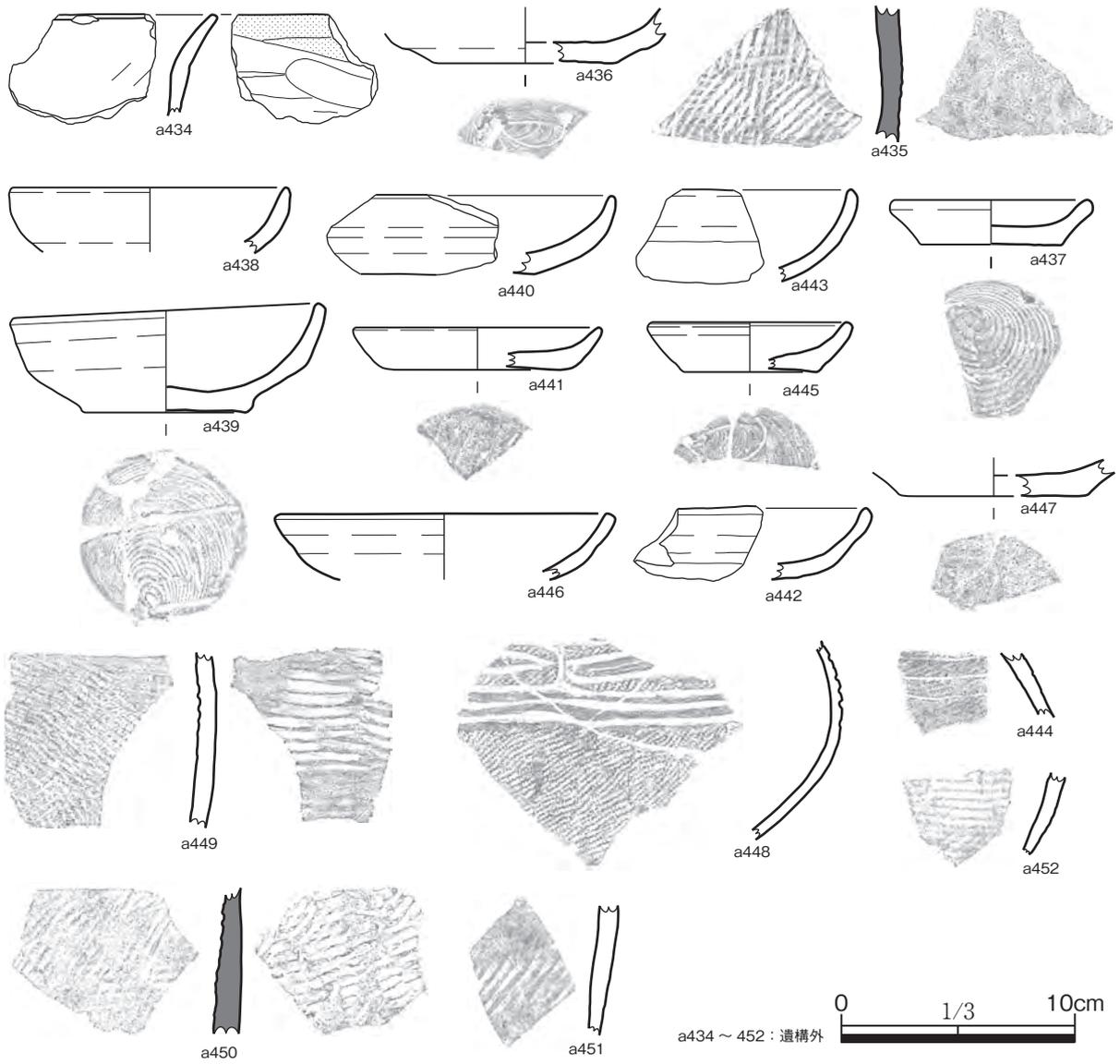
a368, 369 : P1499  
 a370 : P1562  
 a371 : P1937  
 a372 : P2604・2605  
 a373 : P2705・2905  
 a374 : P2985  
 a375 : P3352  
 a376 : P3416  
 a377 : P3417  
 a378, 379 : P3442  
 a380 : P3501  
 a381 : P3535  
 a382 : P3666  
 a383 : P3666・3667  
 a384 : P3834  
 a385 : P3858

a386, 387 : P3870  
 a388 : P3943  
 a389 : P3965  
 a390 : P4028  
 a391 : P4137・4138  
 a392 : P4252  
 a393 : P4338  
 a394 : P4459  
 a395 : P4486  
 a396 : P4487  
 a397 : P4491  
 a398 : P4571  
 a399 : P4593  
 a400 : P4633  
 a401 : P4927  
 a402 : P5156

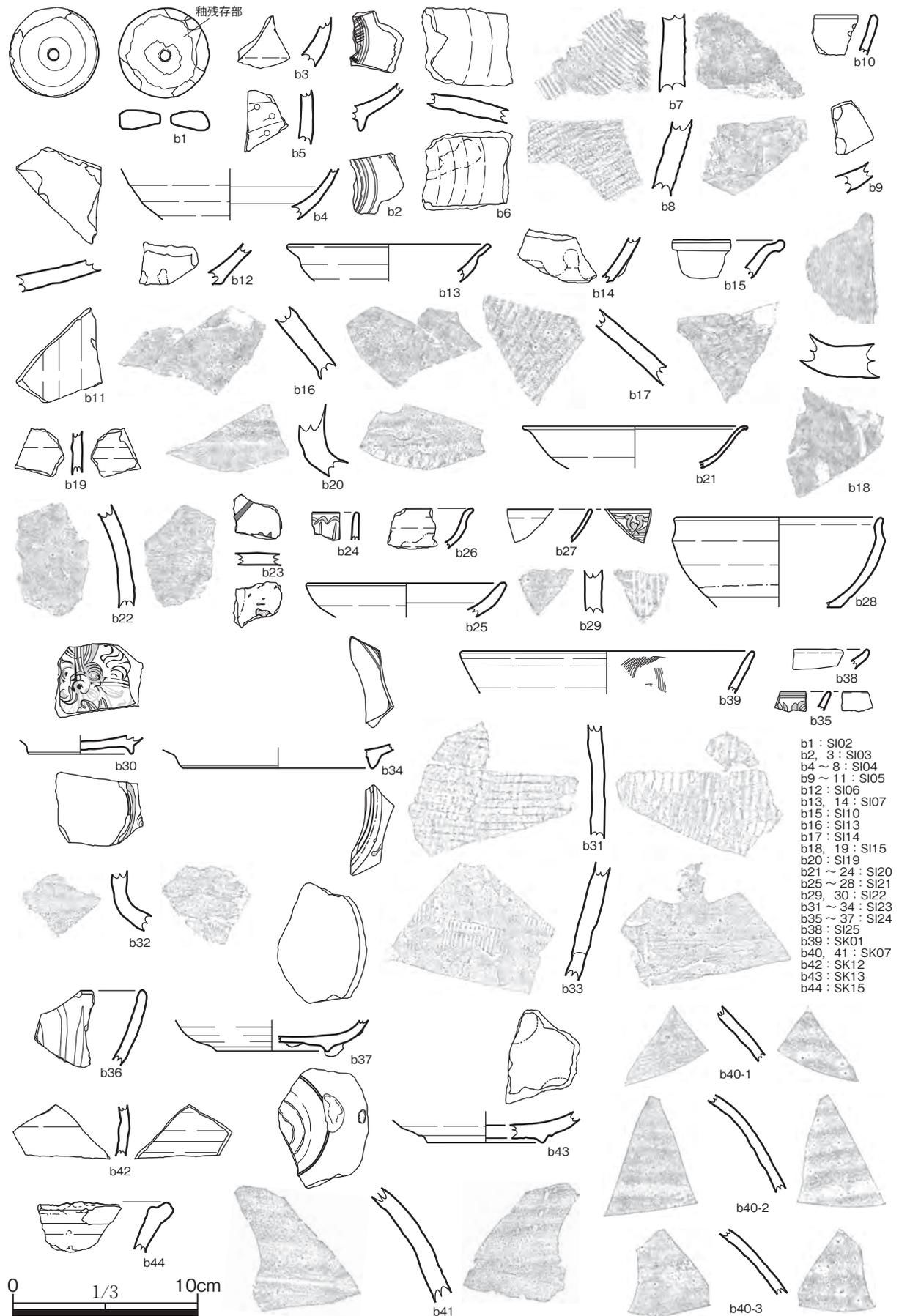
第 145 図 土器 (17)



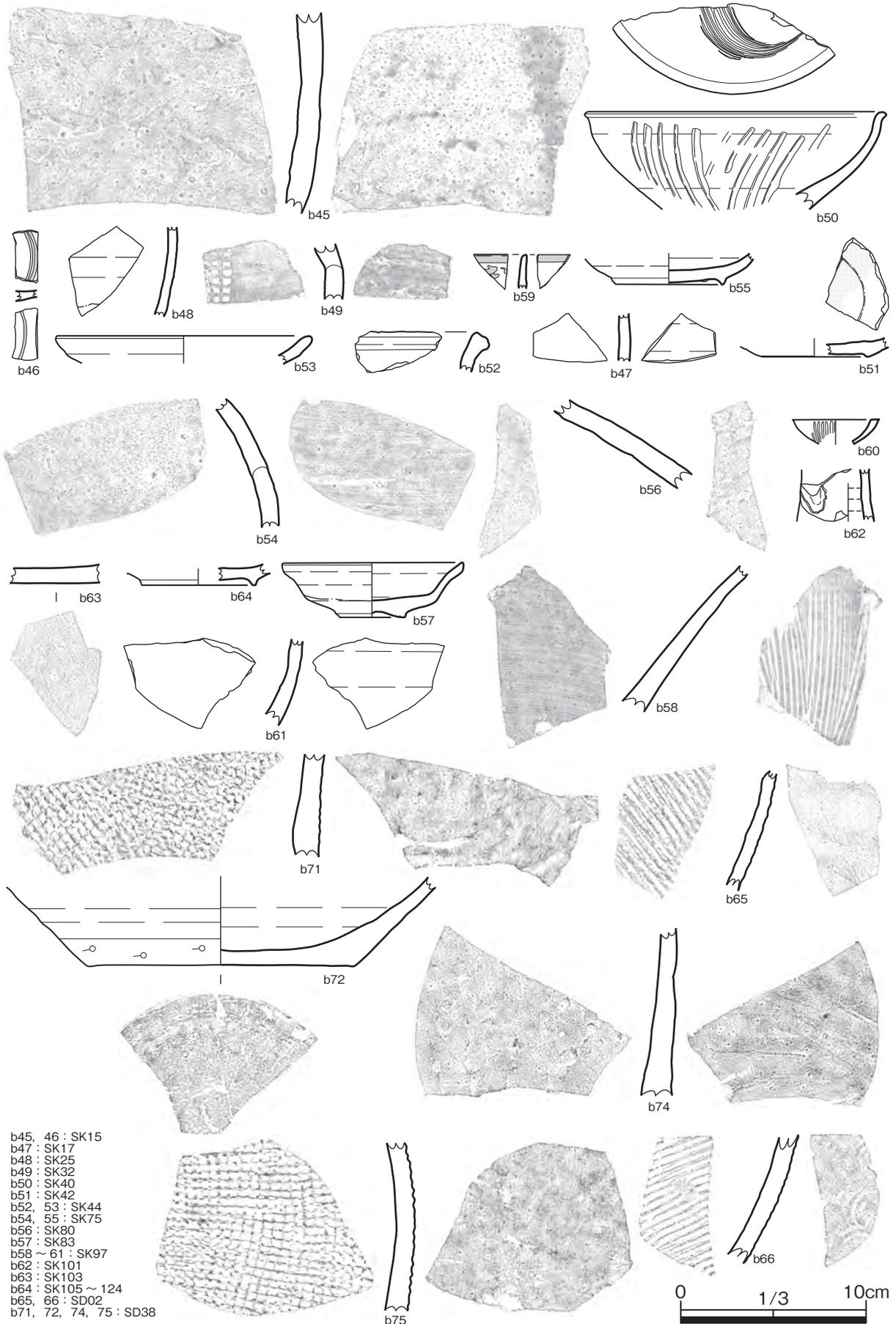
第 146 図 土器 (18)



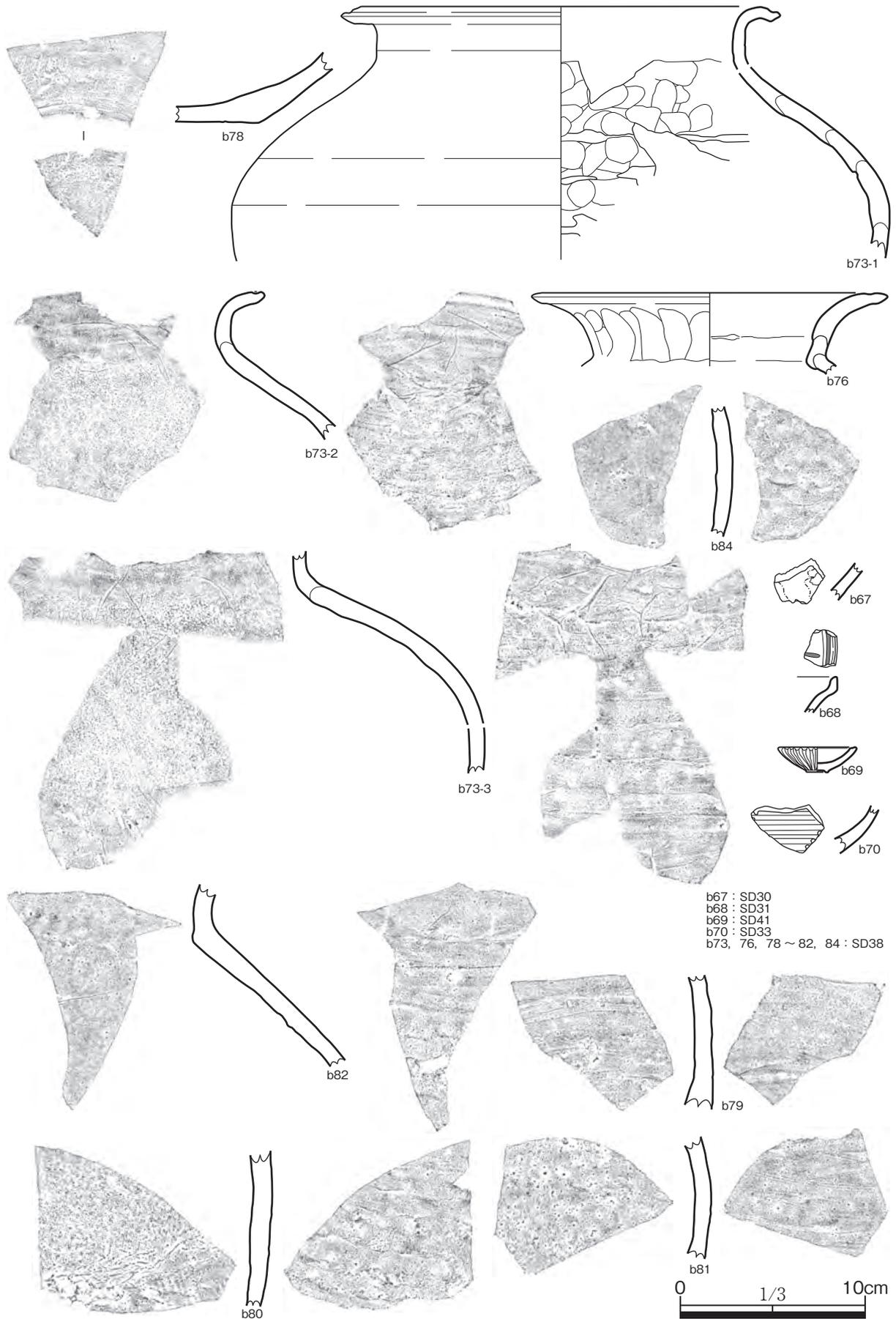
第147図 土器(19)、生産関連遺物



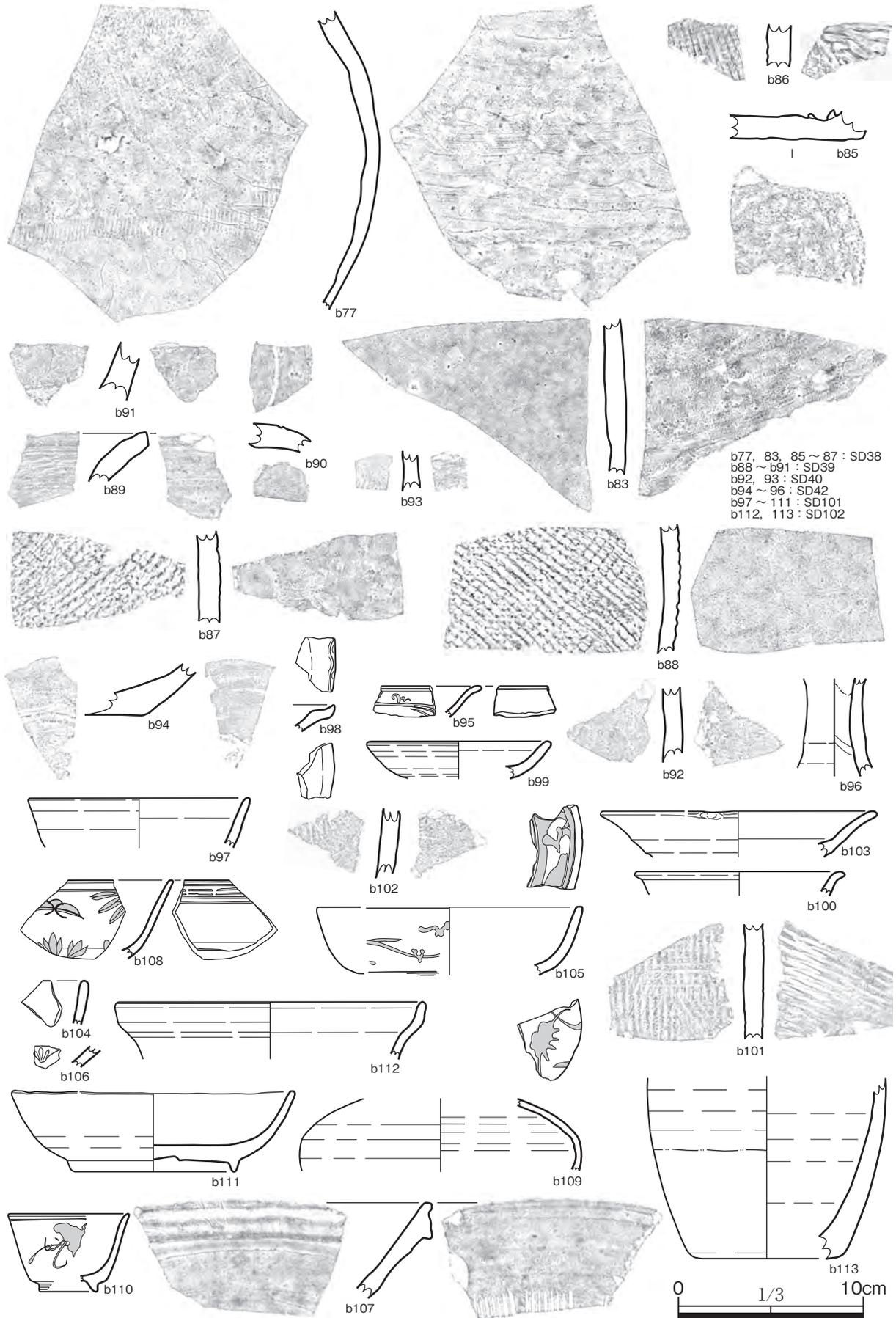
第 148 図 陶磁器 (1)



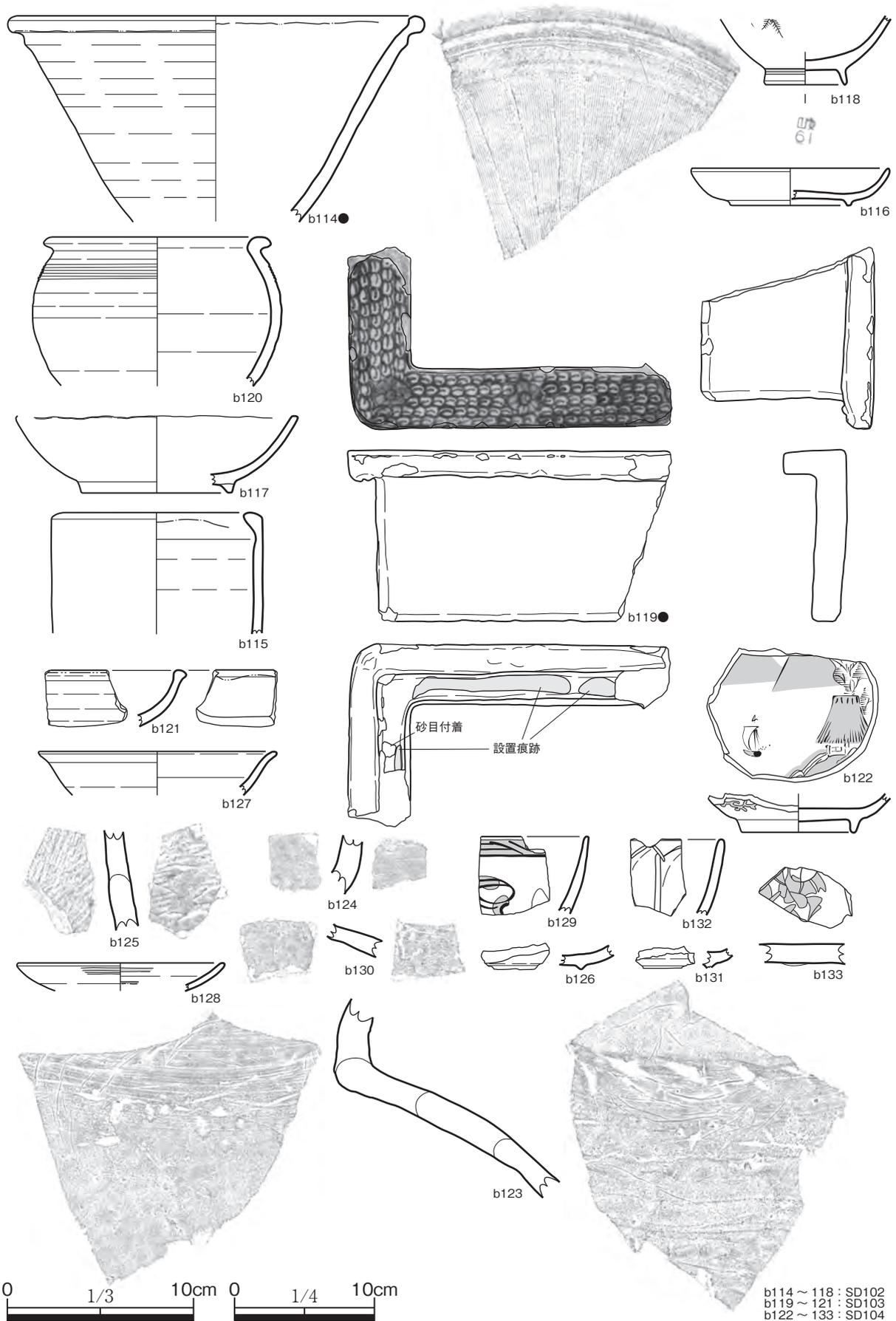
第 149 図 陶磁器 (2)



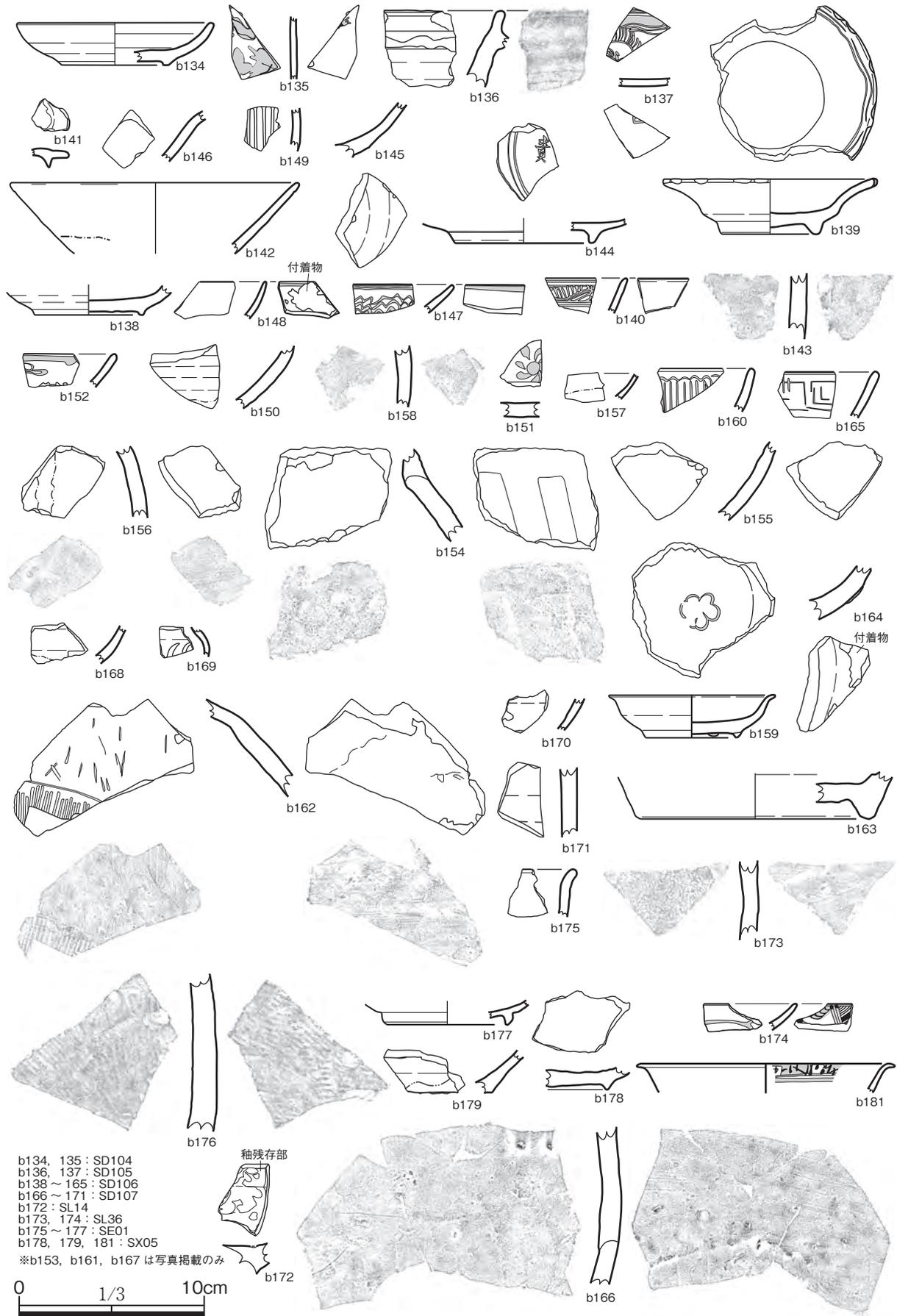
第150図 陶磁器 (3)



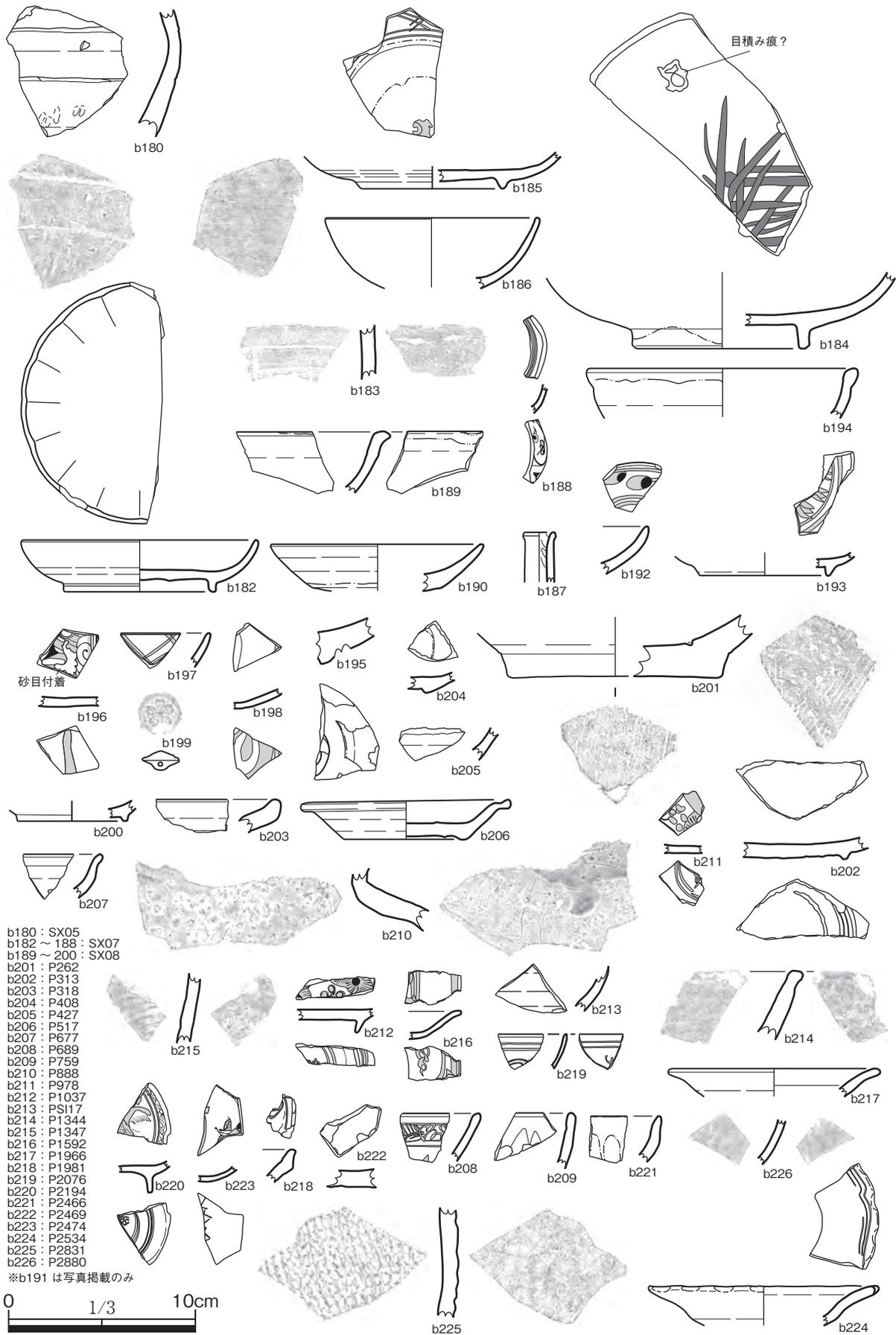
第 151 図 陶磁器 (4)



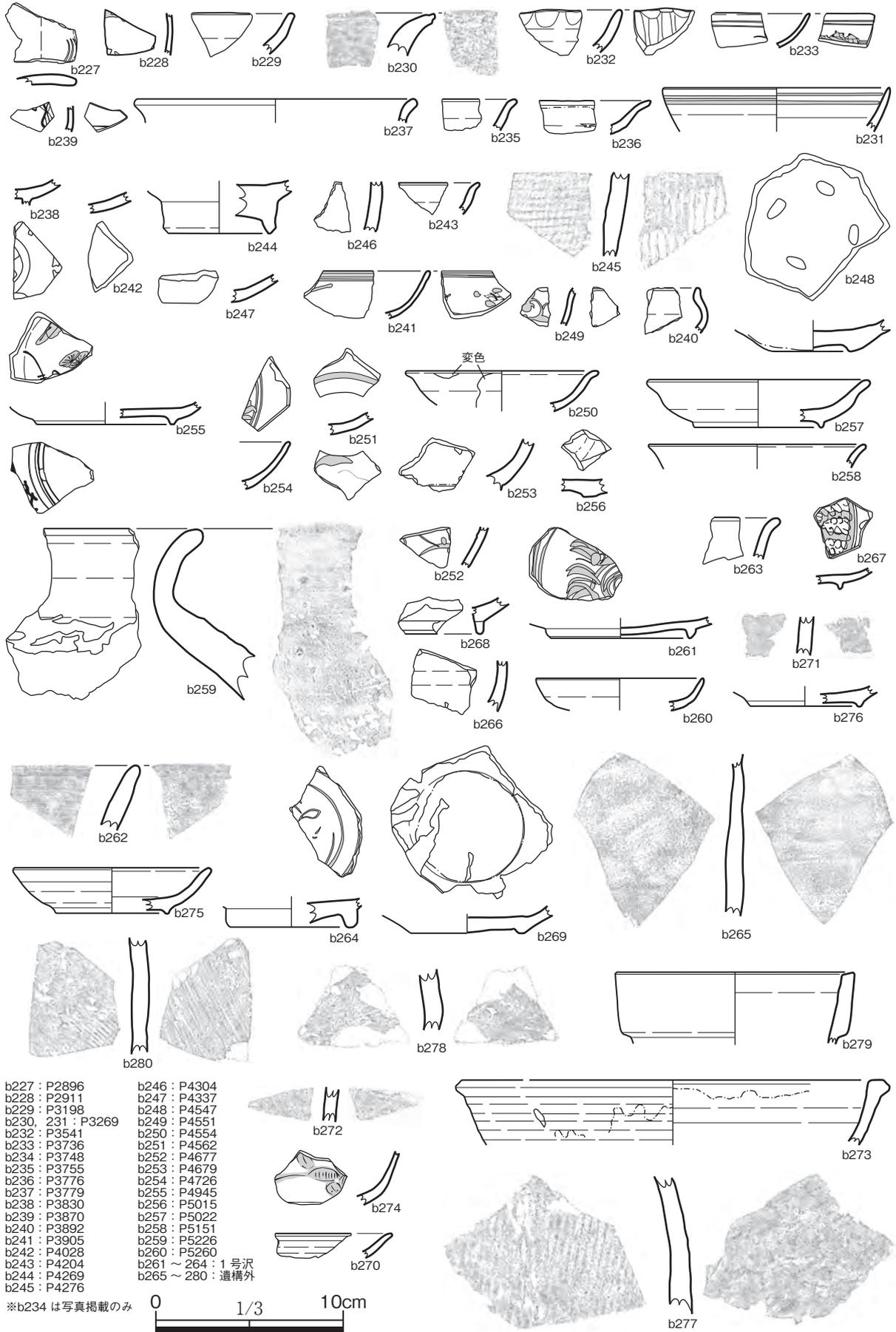
第 152 図 陶磁器 (5)



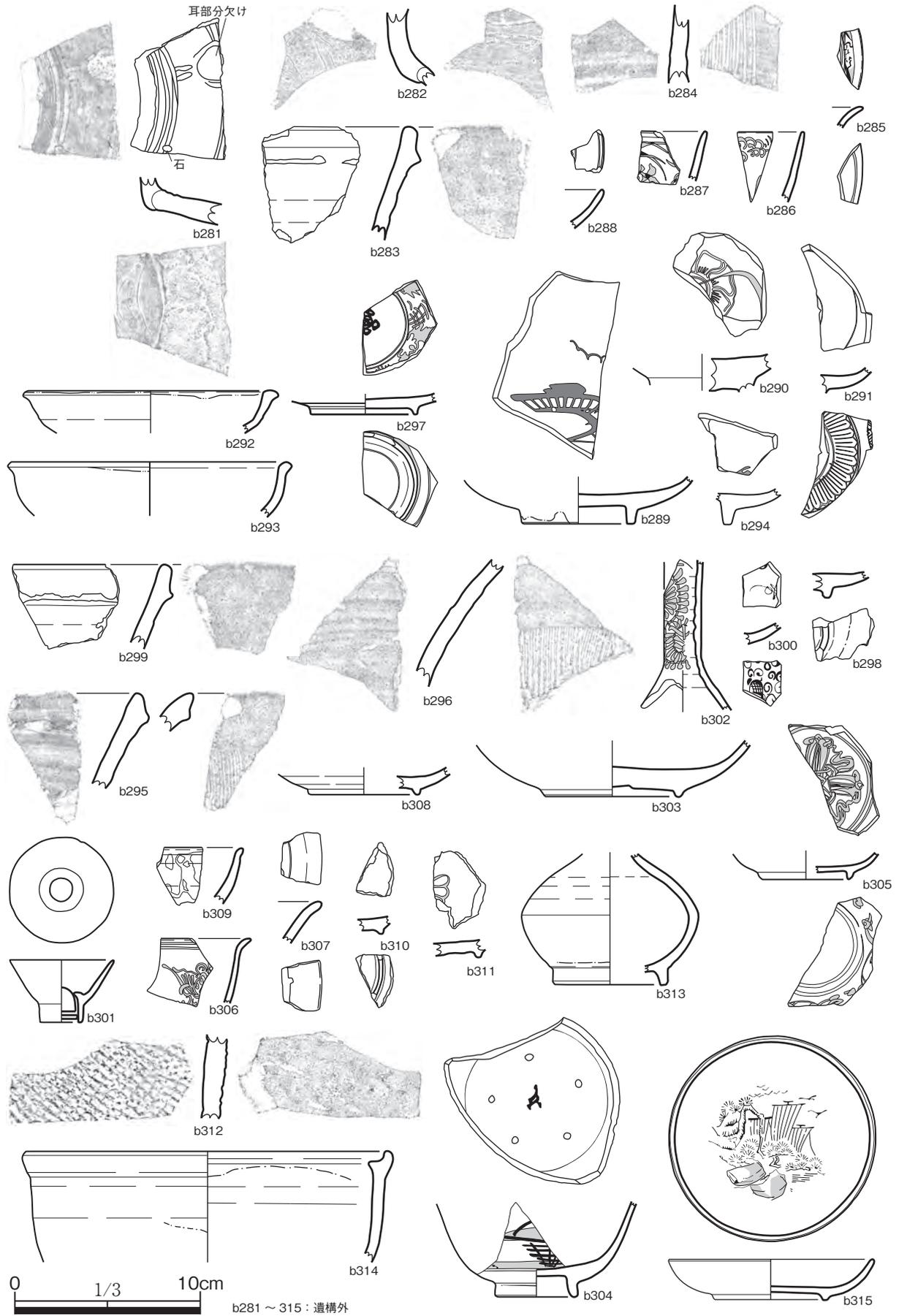
第153図 陶磁器(6)



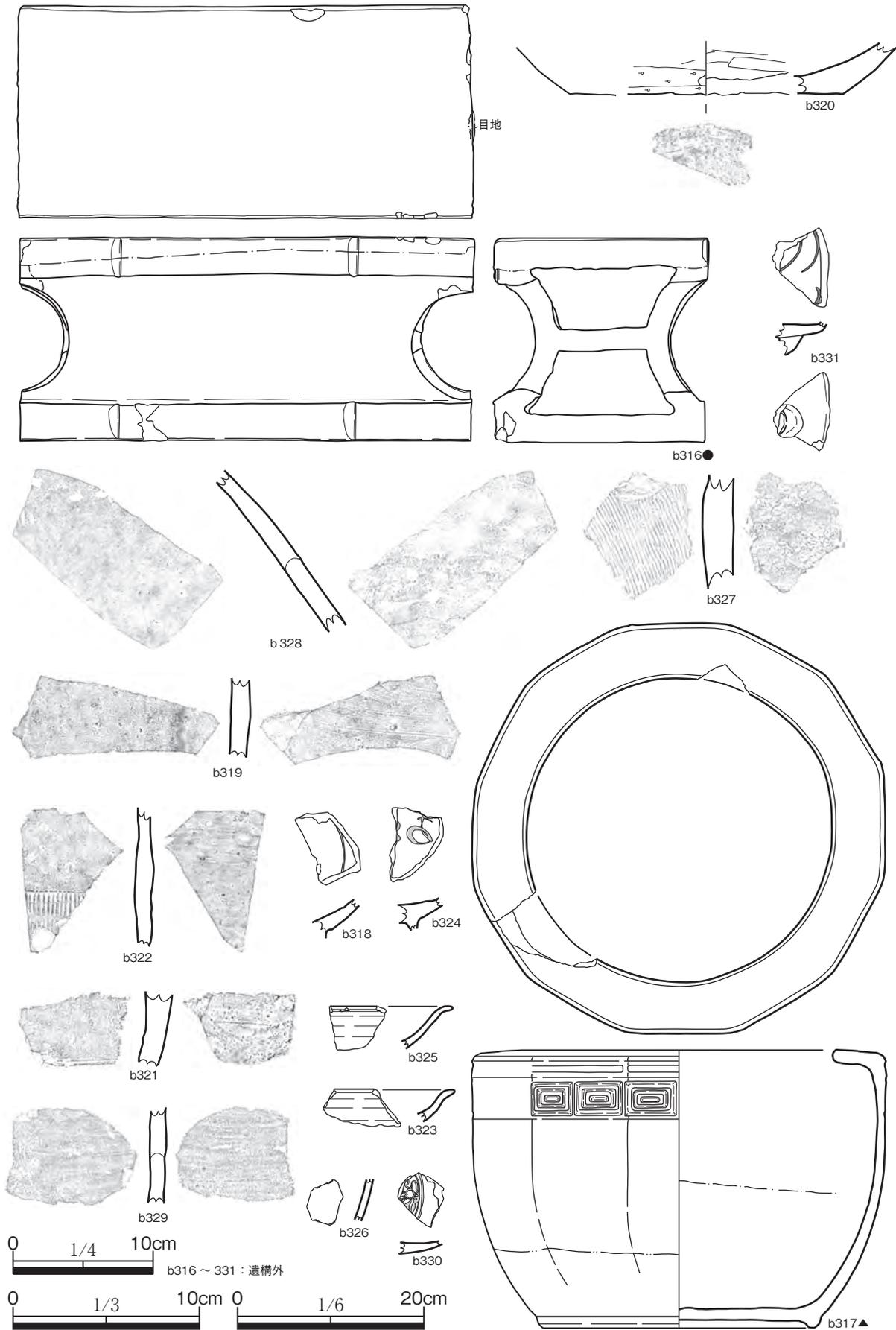
第 154 図 陶磁器 (7)



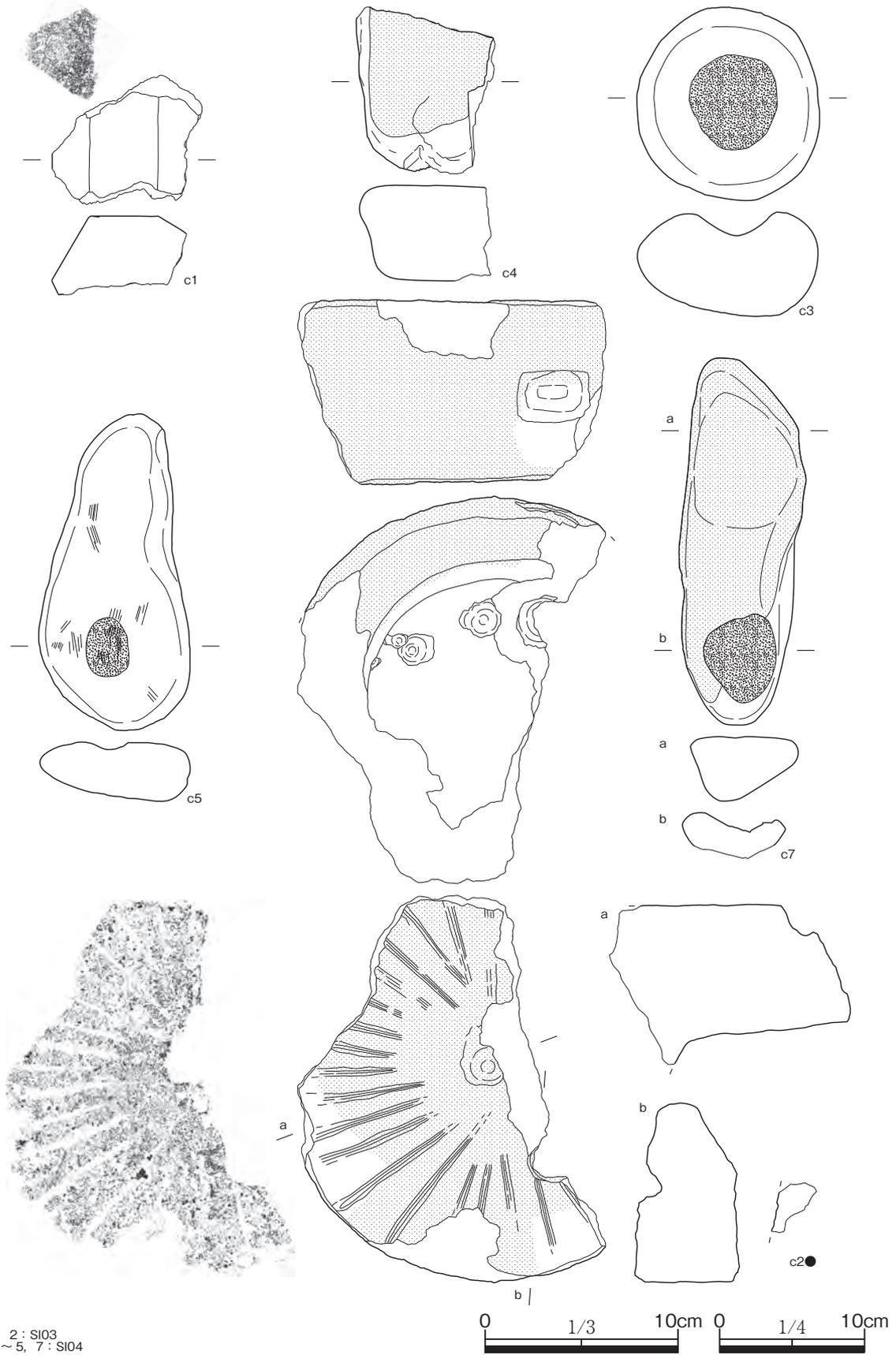
第155図 陶磁器(8)



第 156 図 陶磁器 (9)

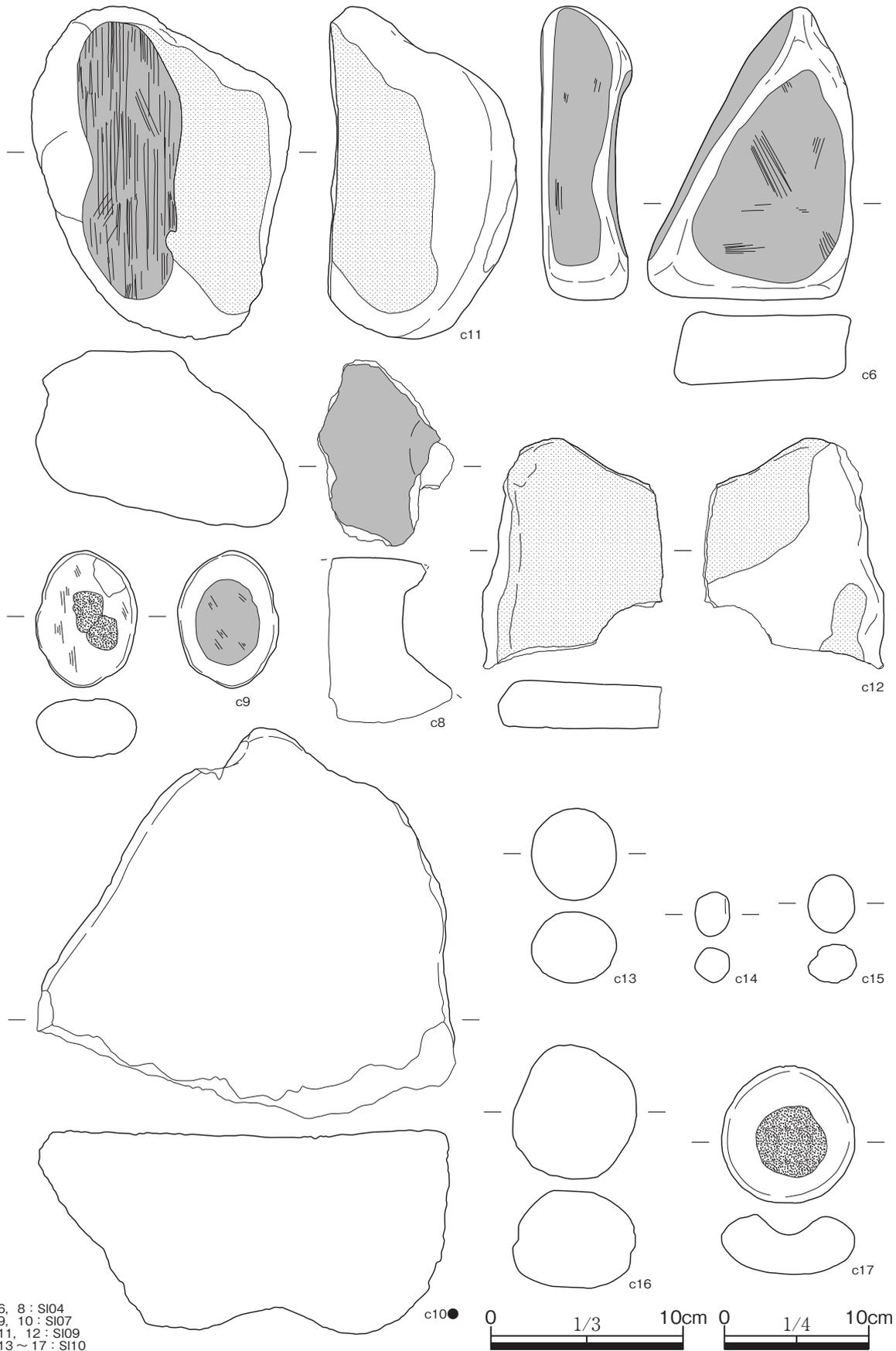


第157図 陶磁器 (10)



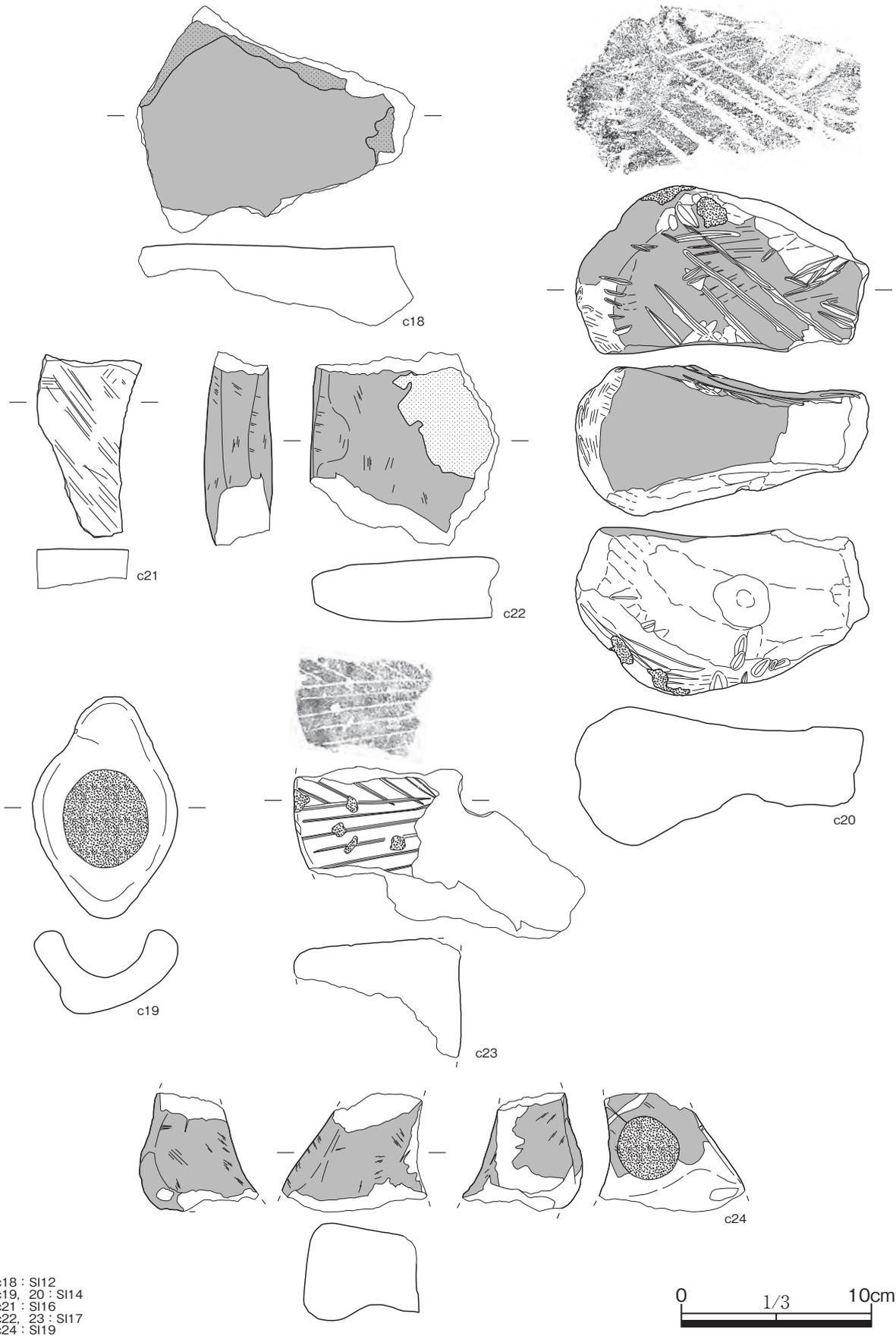
c1, 2: SI03  
c3~5, 7: SI04

第158図 石器(1)



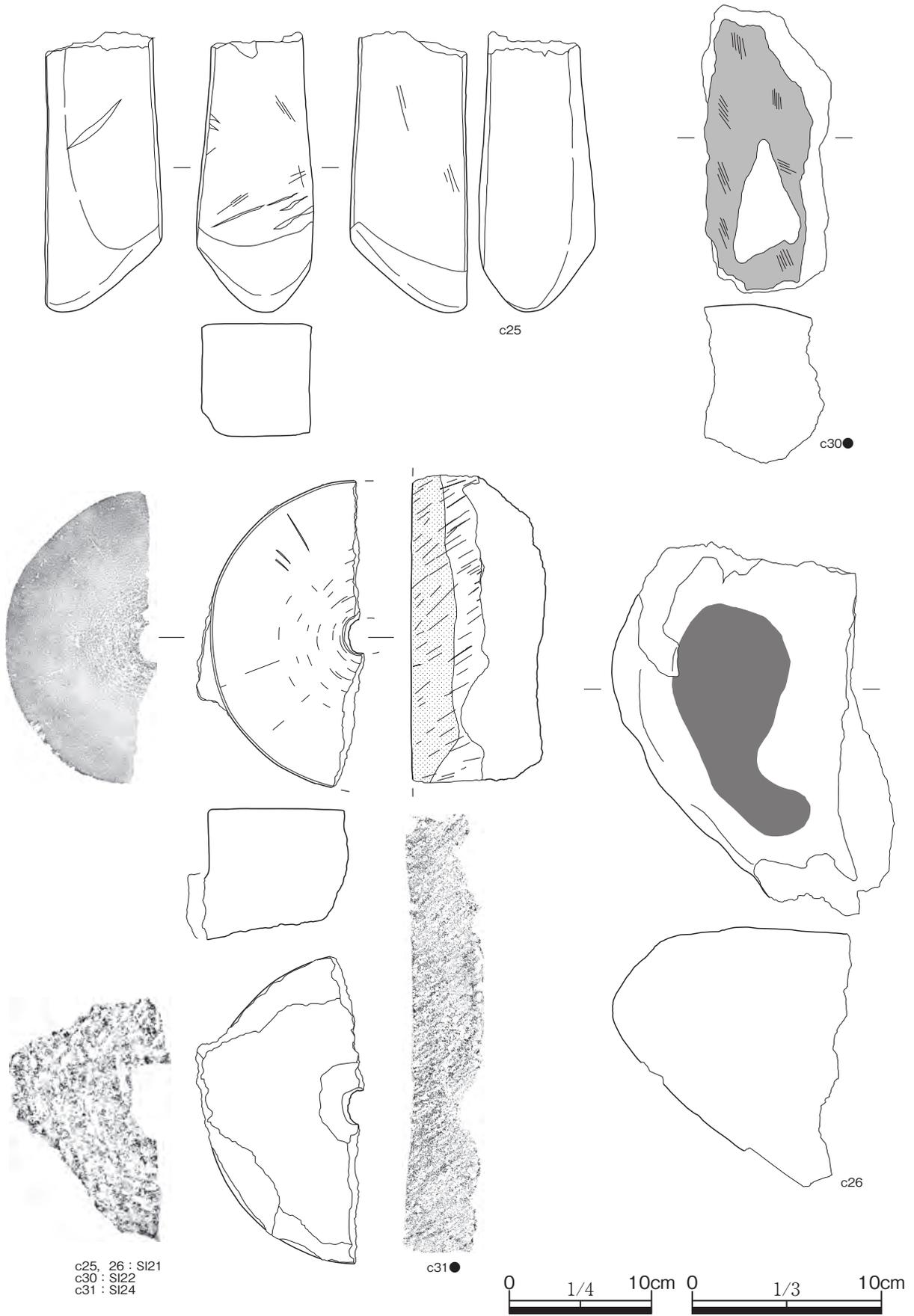
c6, 8 : SI04  
 c9, 10 : SI07  
 c11, 12 : SI09  
 c13 ~ 17 : SI10

第159図 石器 (2)

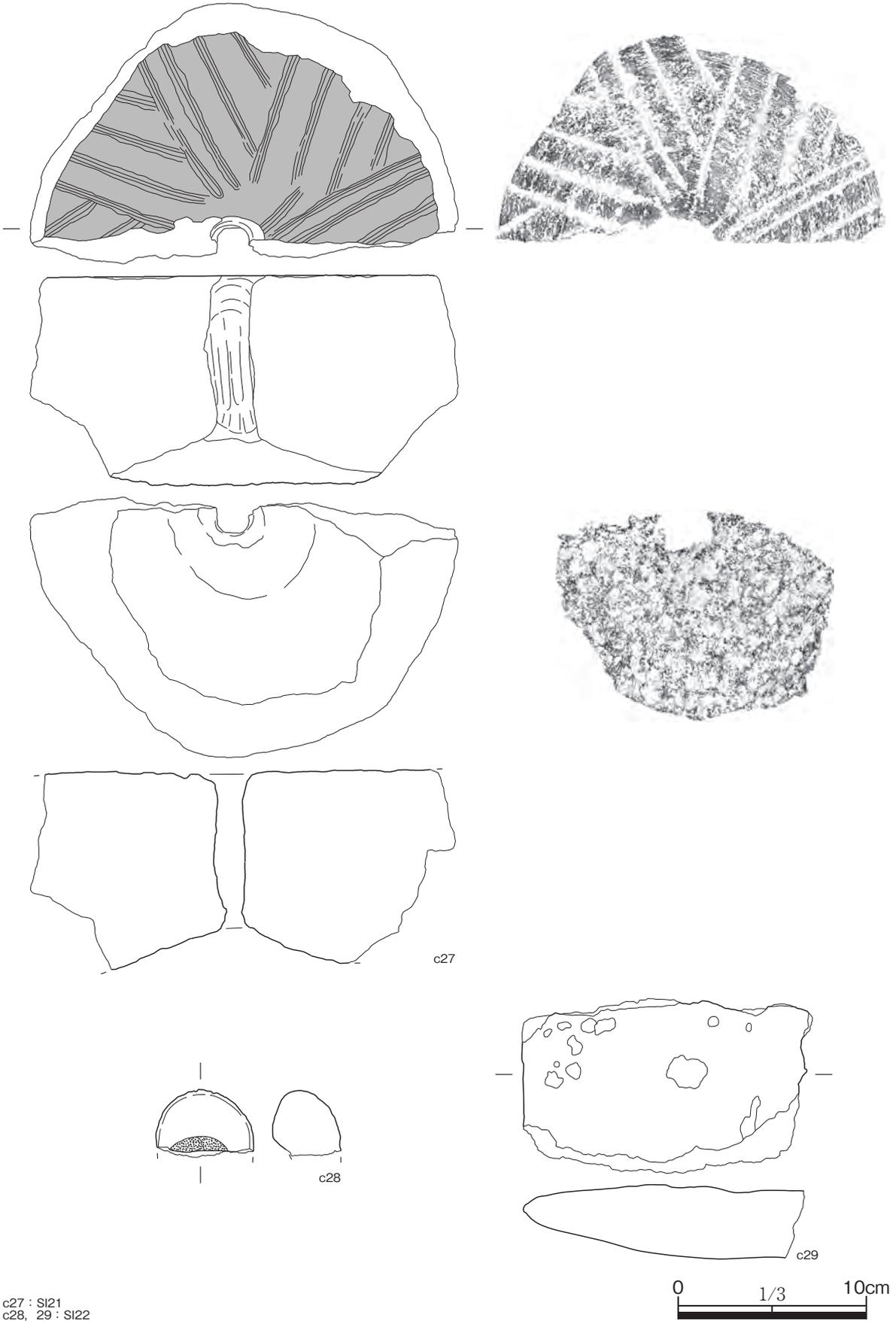


c18 : SI12  
 c19, 20 : SI14  
 c21 : SI16  
 c22, 23 : SI17  
 c24 : SI19

第160図 石器 (3)

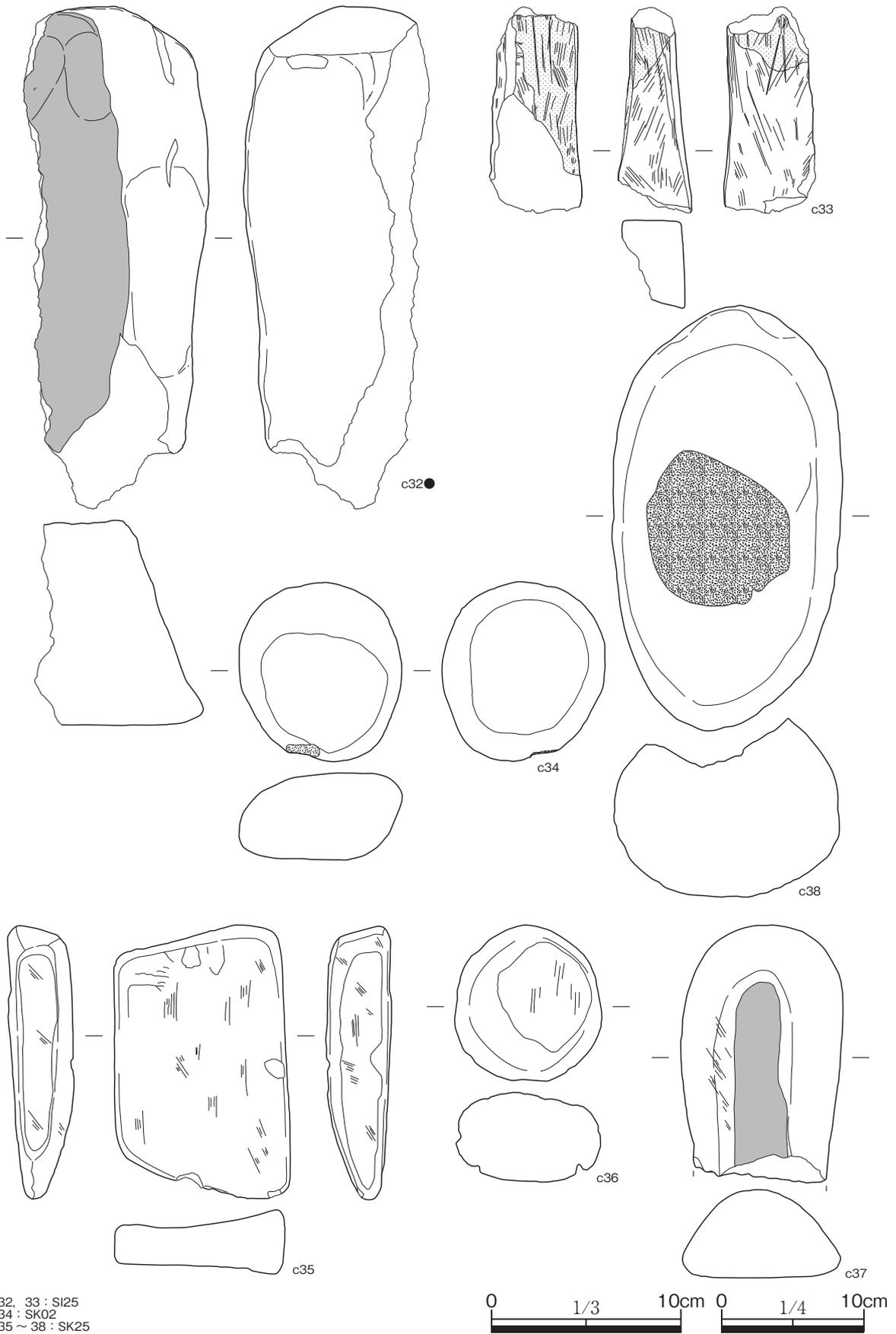


第161図 石器(4)



c27 : SI21  
c28, 29 : SI22

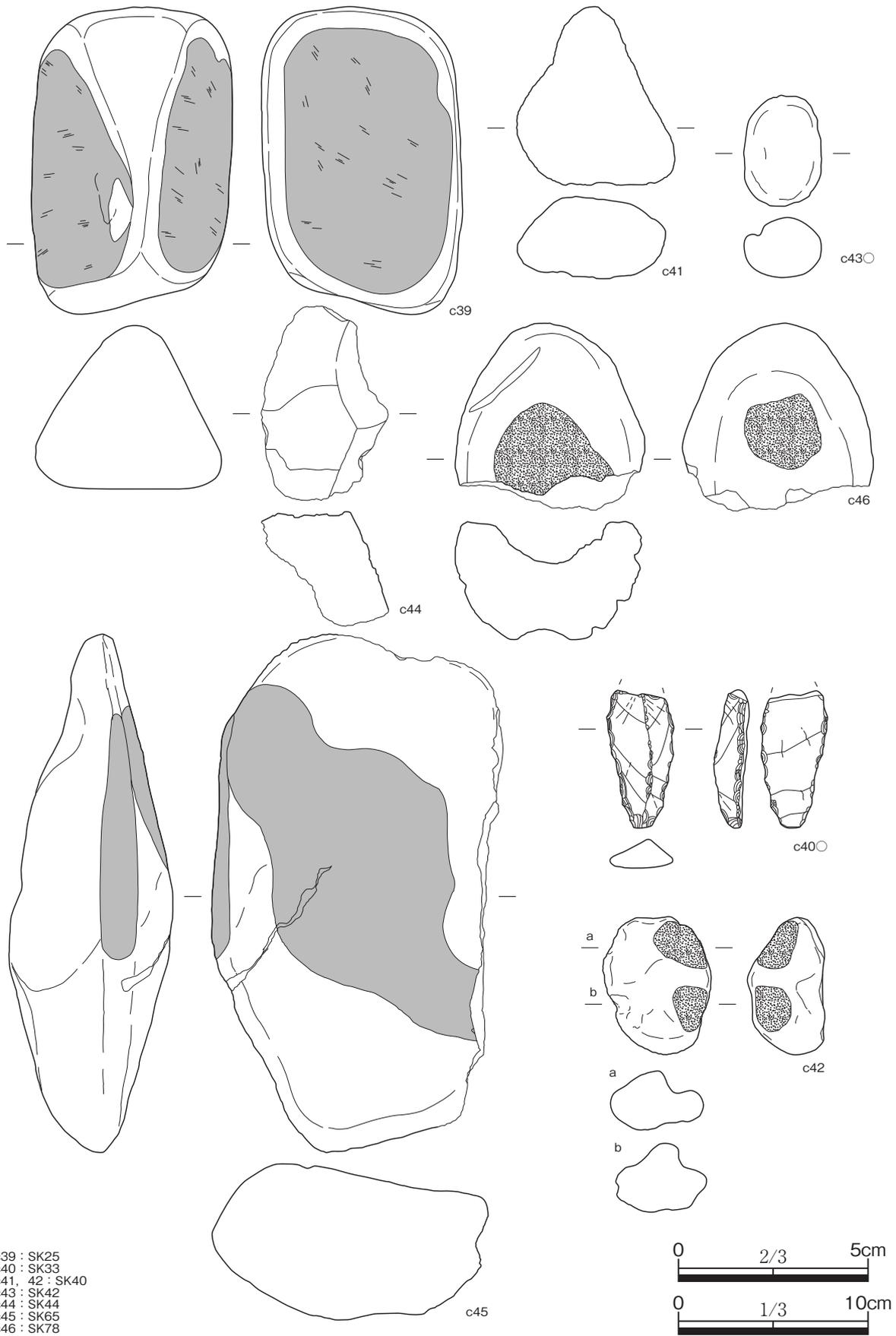
第162図 石器(5)



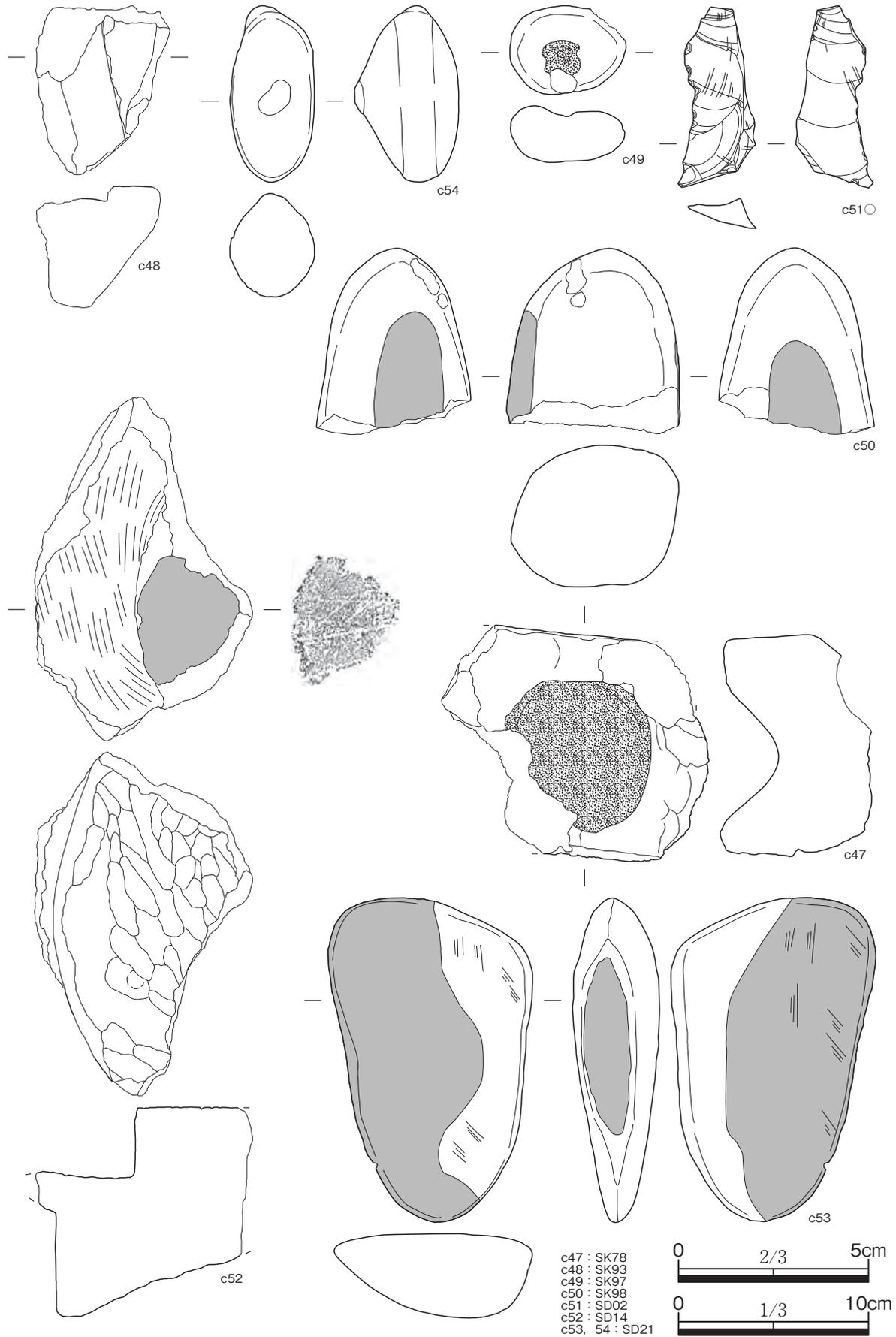
c32, 33 : SI25  
 c34 : SK02  
 c35 ~ 38 : SK25

0 1/3 10cm 0 1/4 10cm

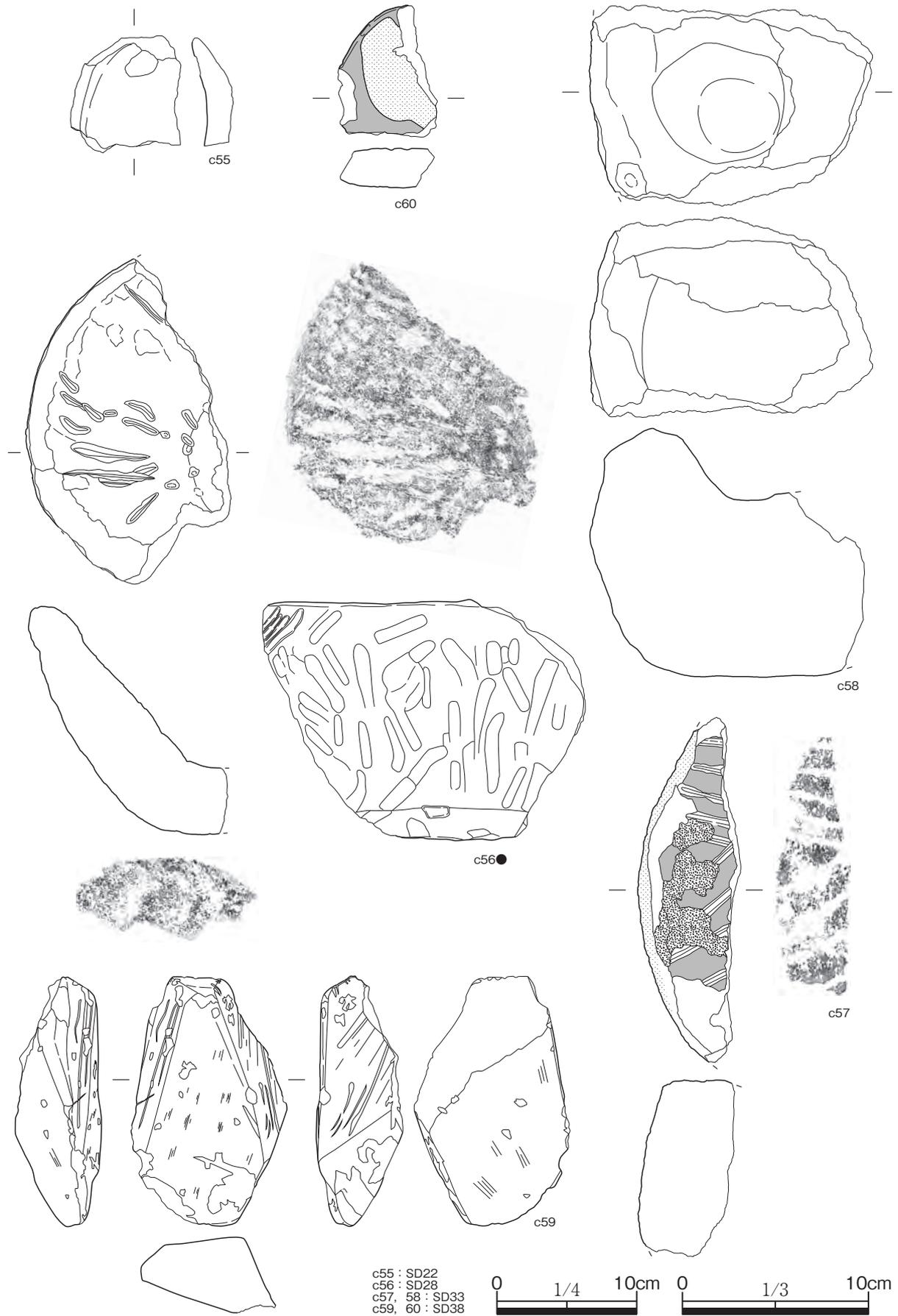
第163図 石器 (6)



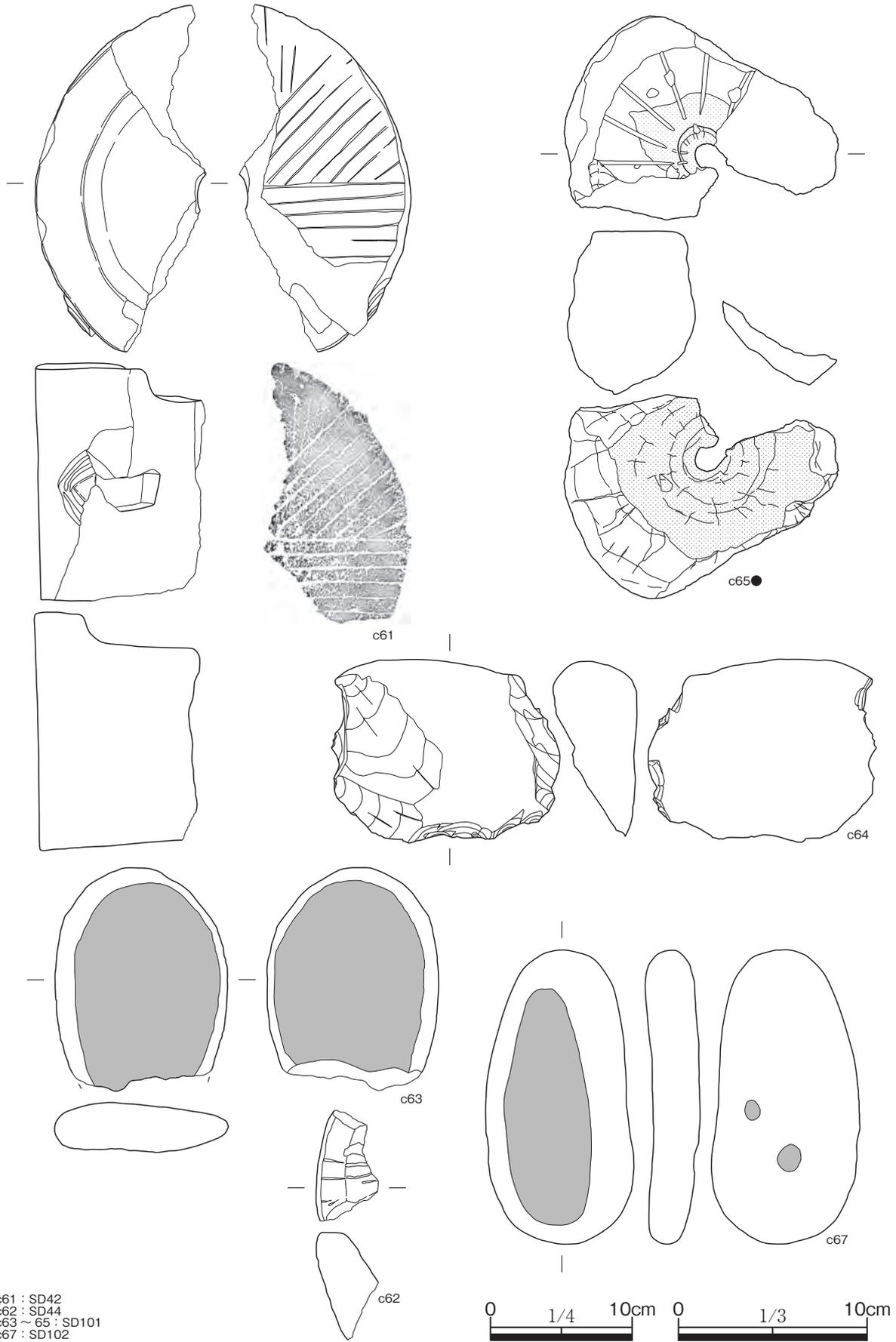
第164図 石器 (7)



第165図 石器 (8)

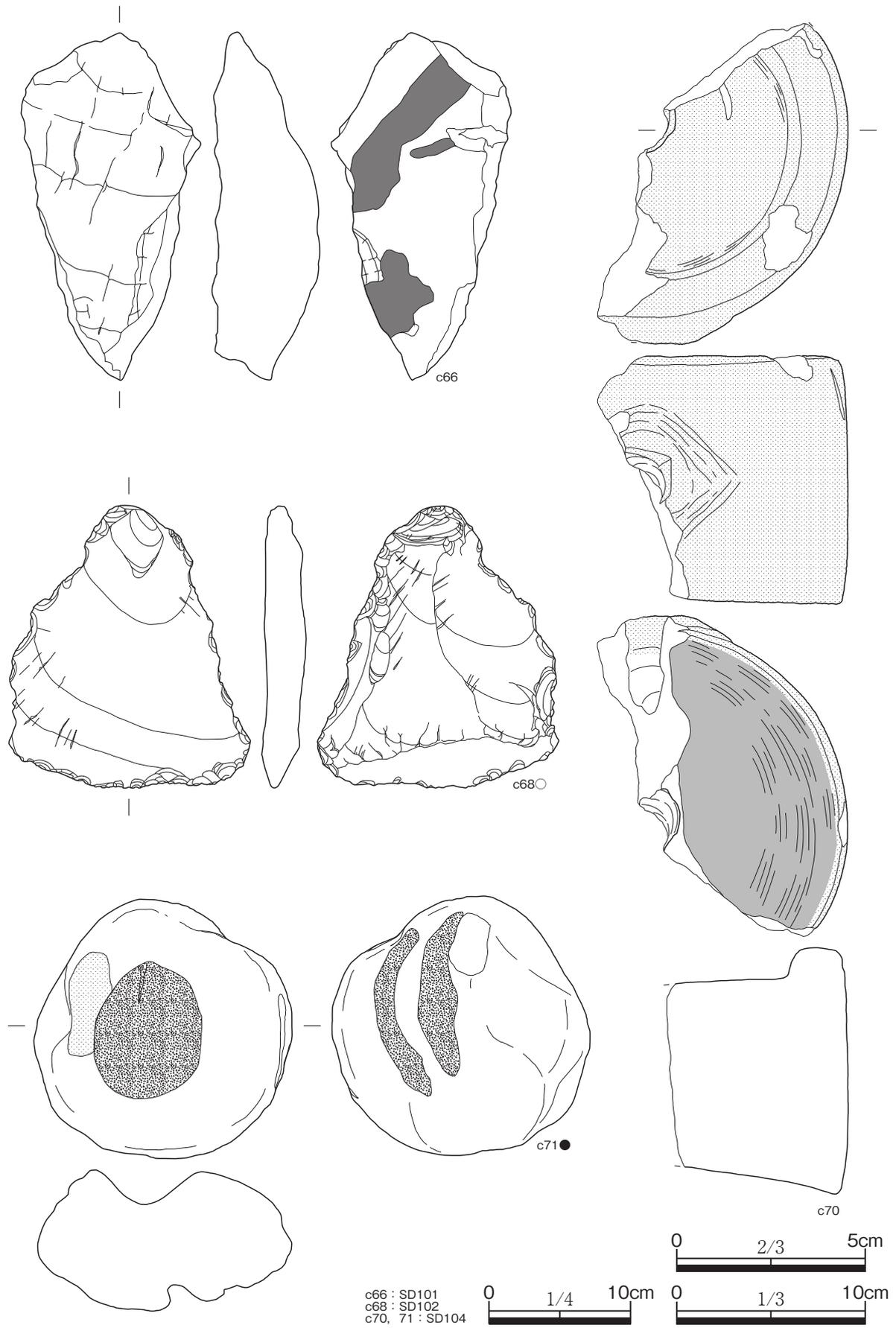


第166図 石器 (9)

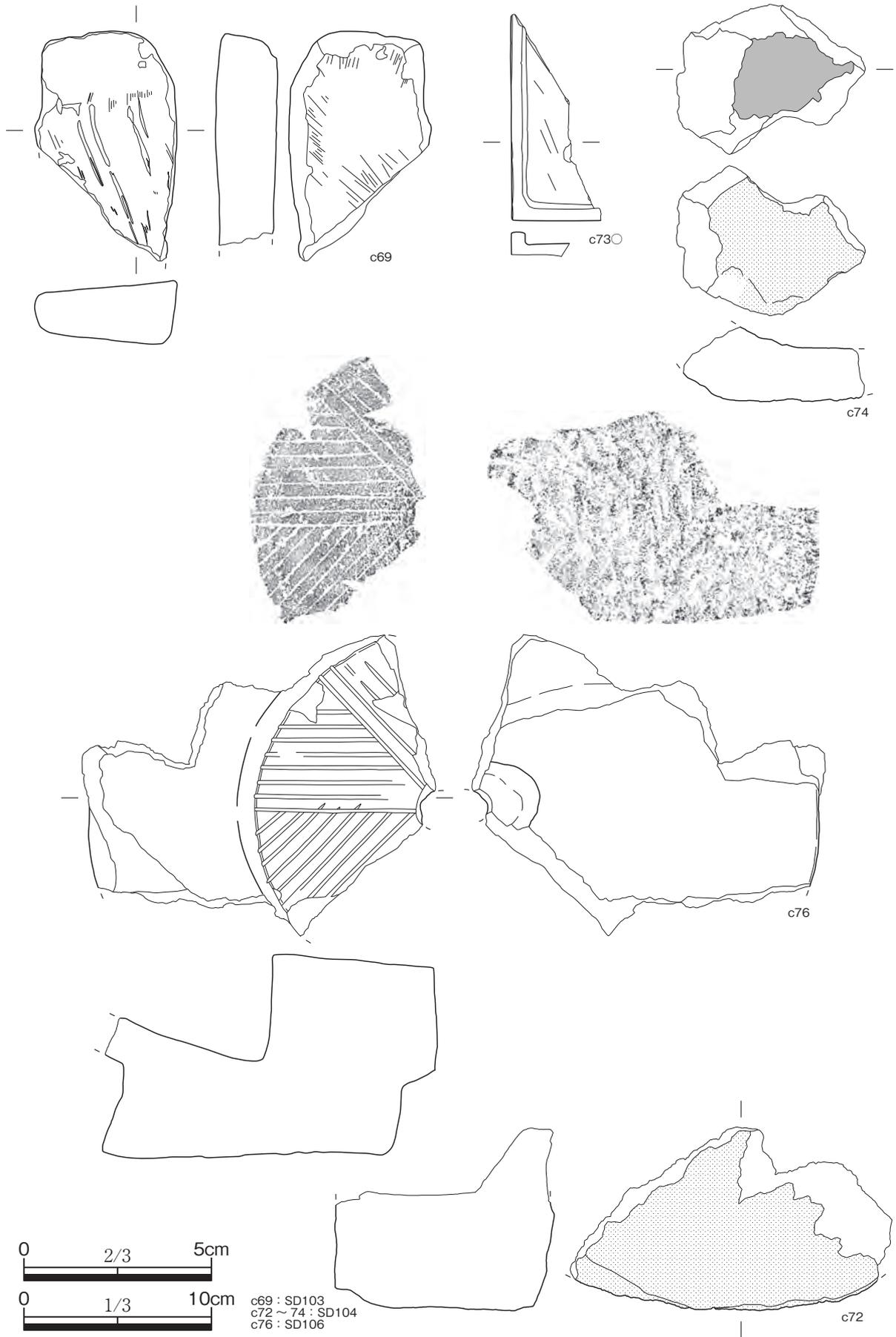


c61 : SD42  
 c62 : SD44  
 c63 ~ 65 : SD101  
 c67 : SD102

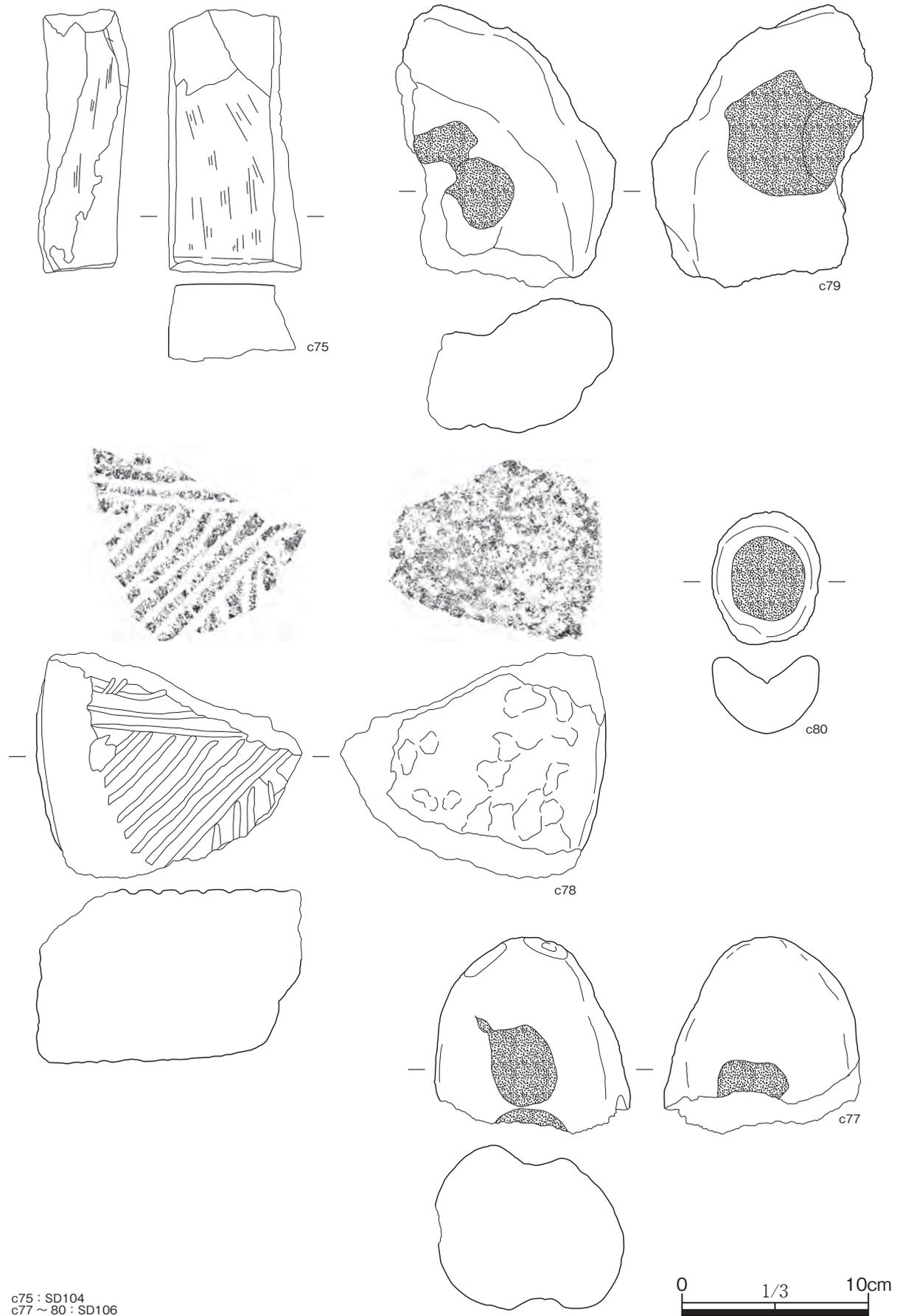
第 167 図 石器 (10)



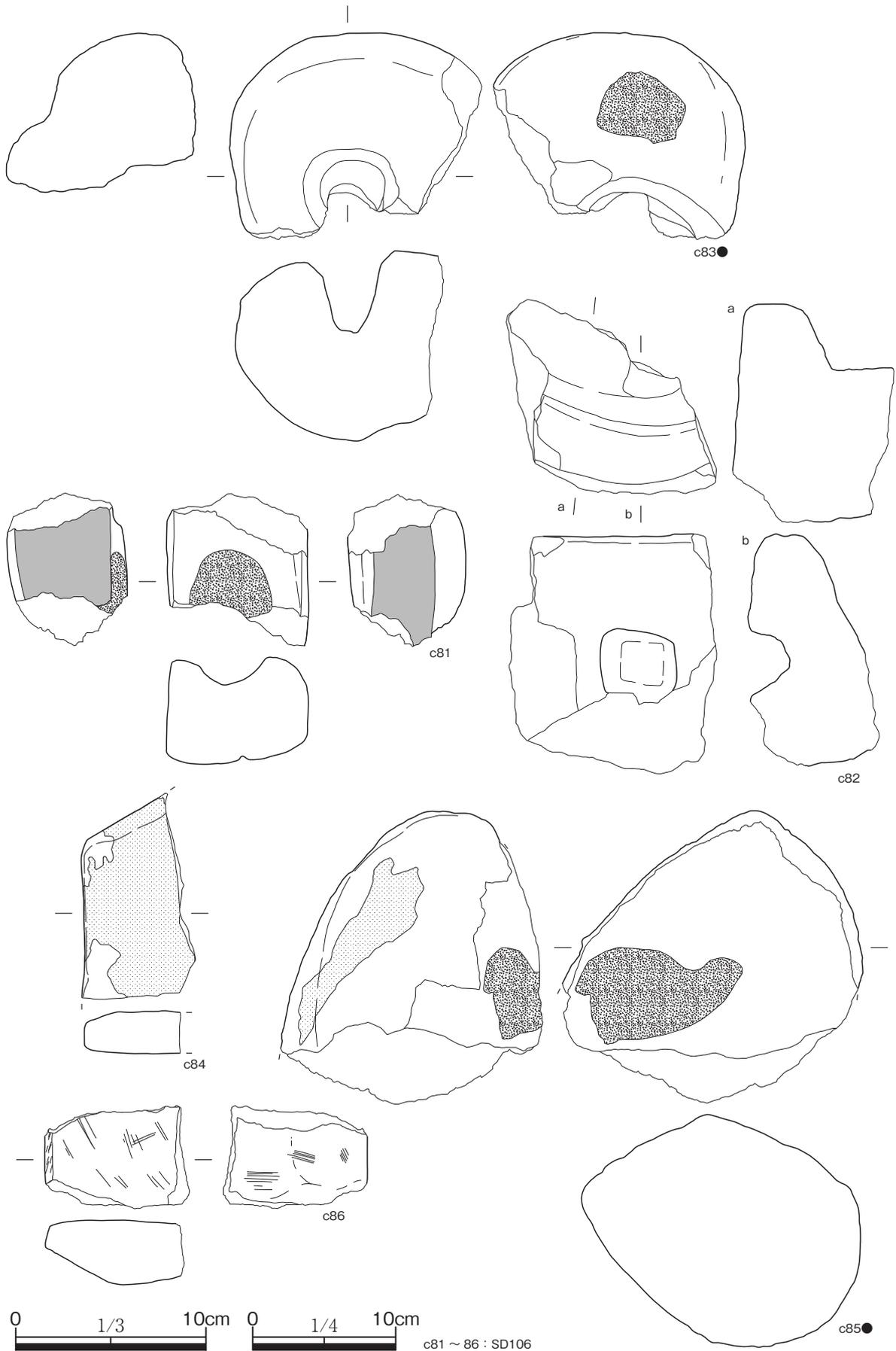
第 168 図 石器 (11)



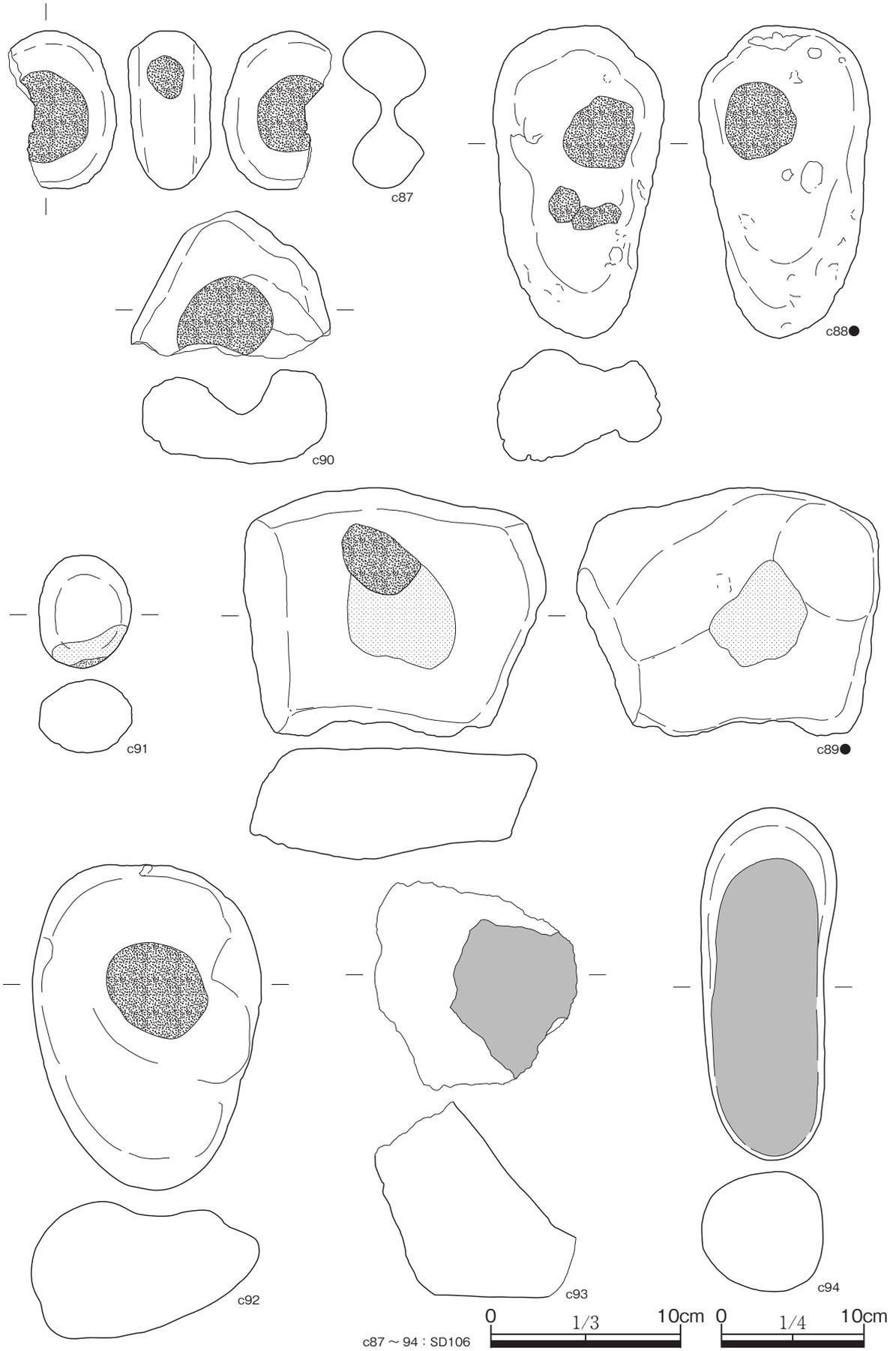
第169図 石器 (12)



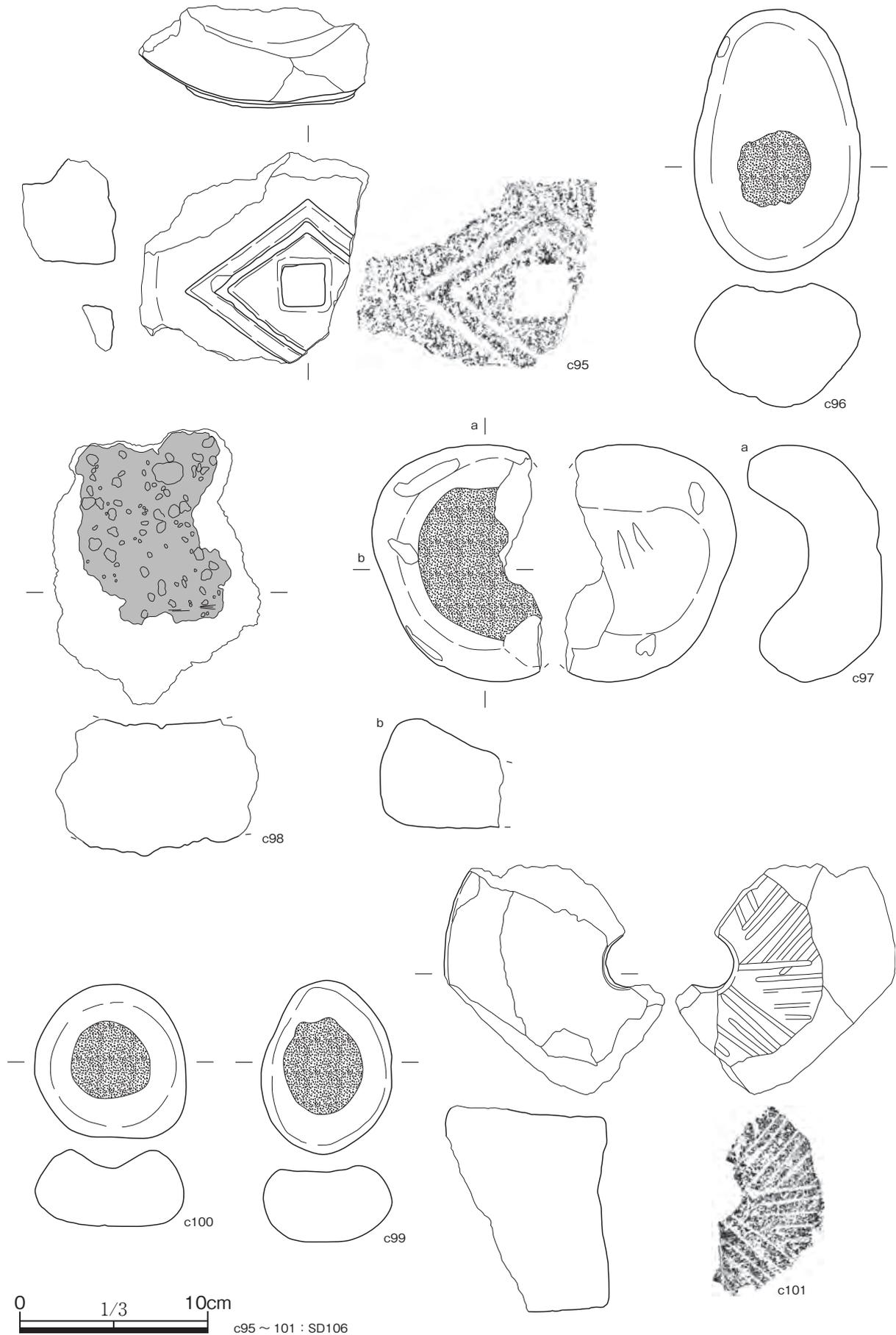
第170図 石器 (13)



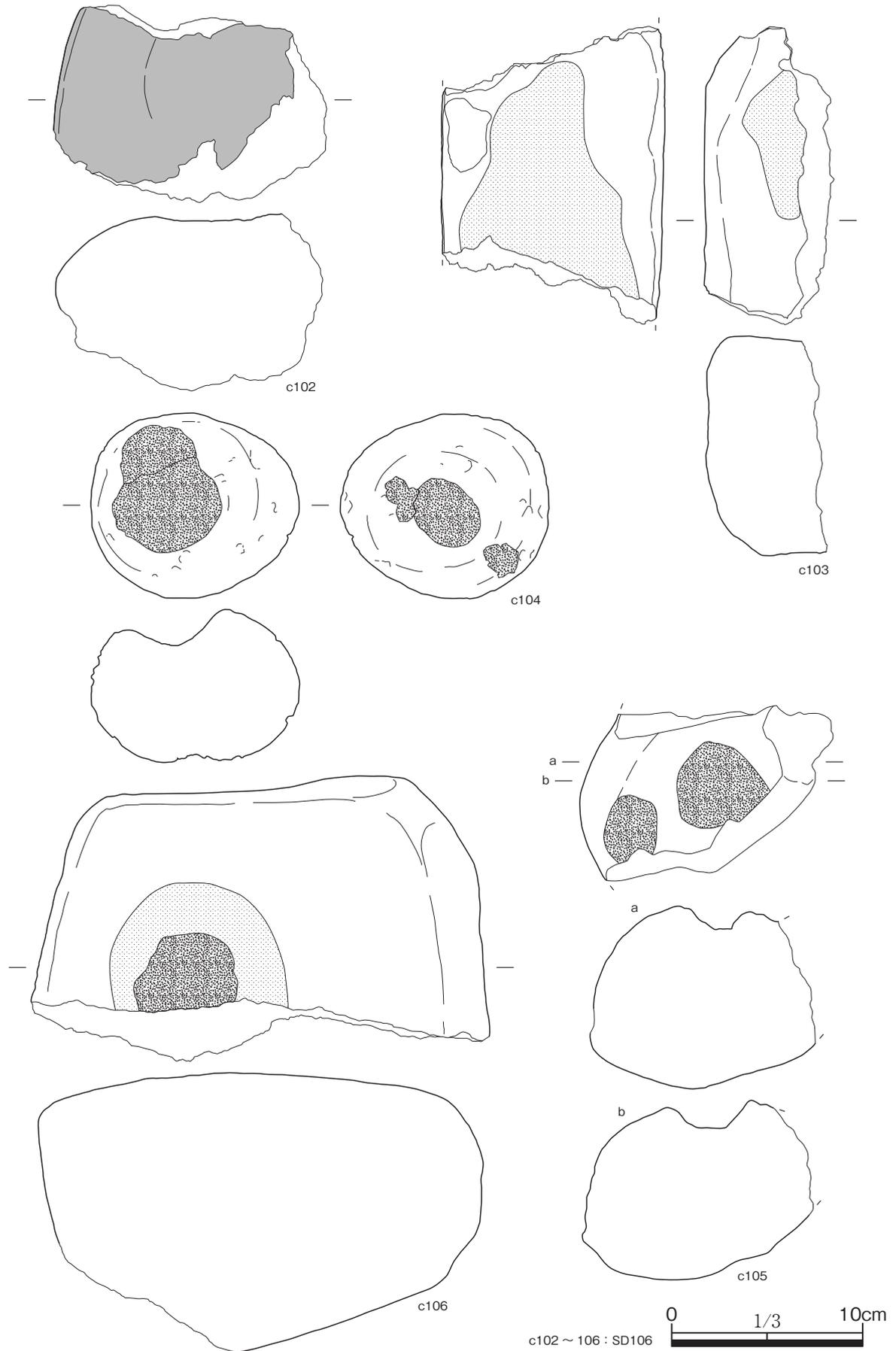
第171図 石器 (14)



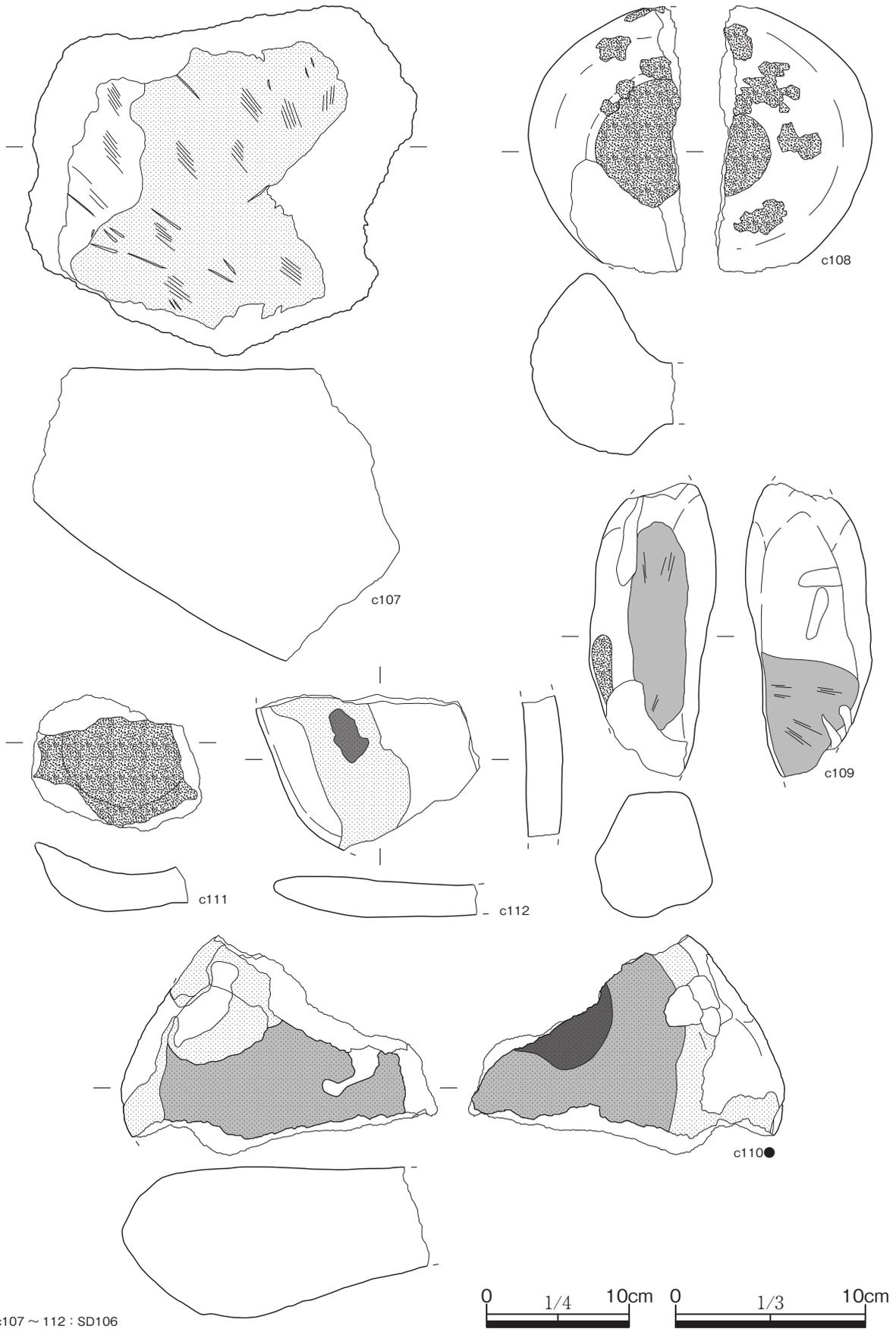
第172図 石器 (15)



第173図 石器 (16)



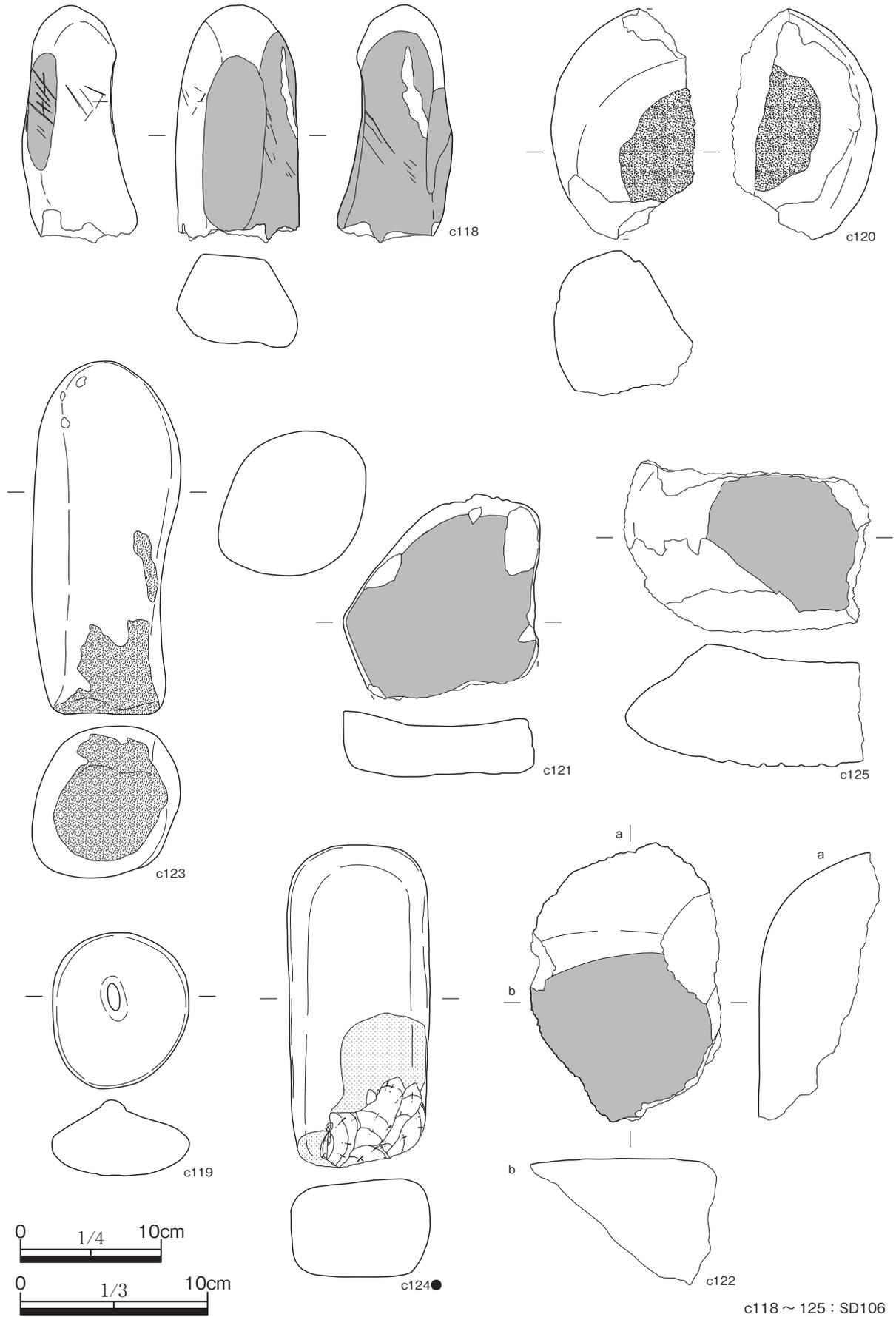
第174図 石器 (17)



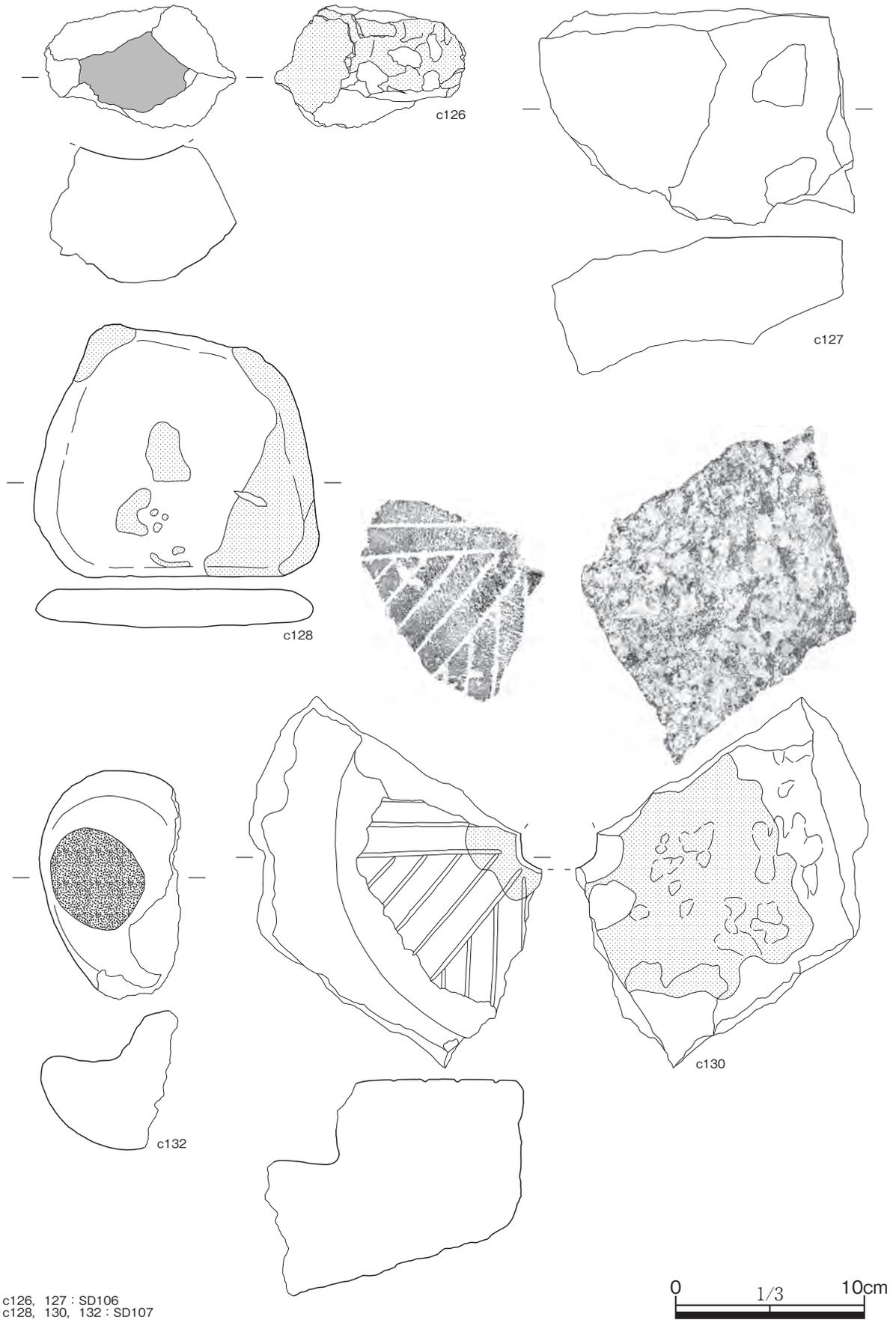
第175図 石器 (18)



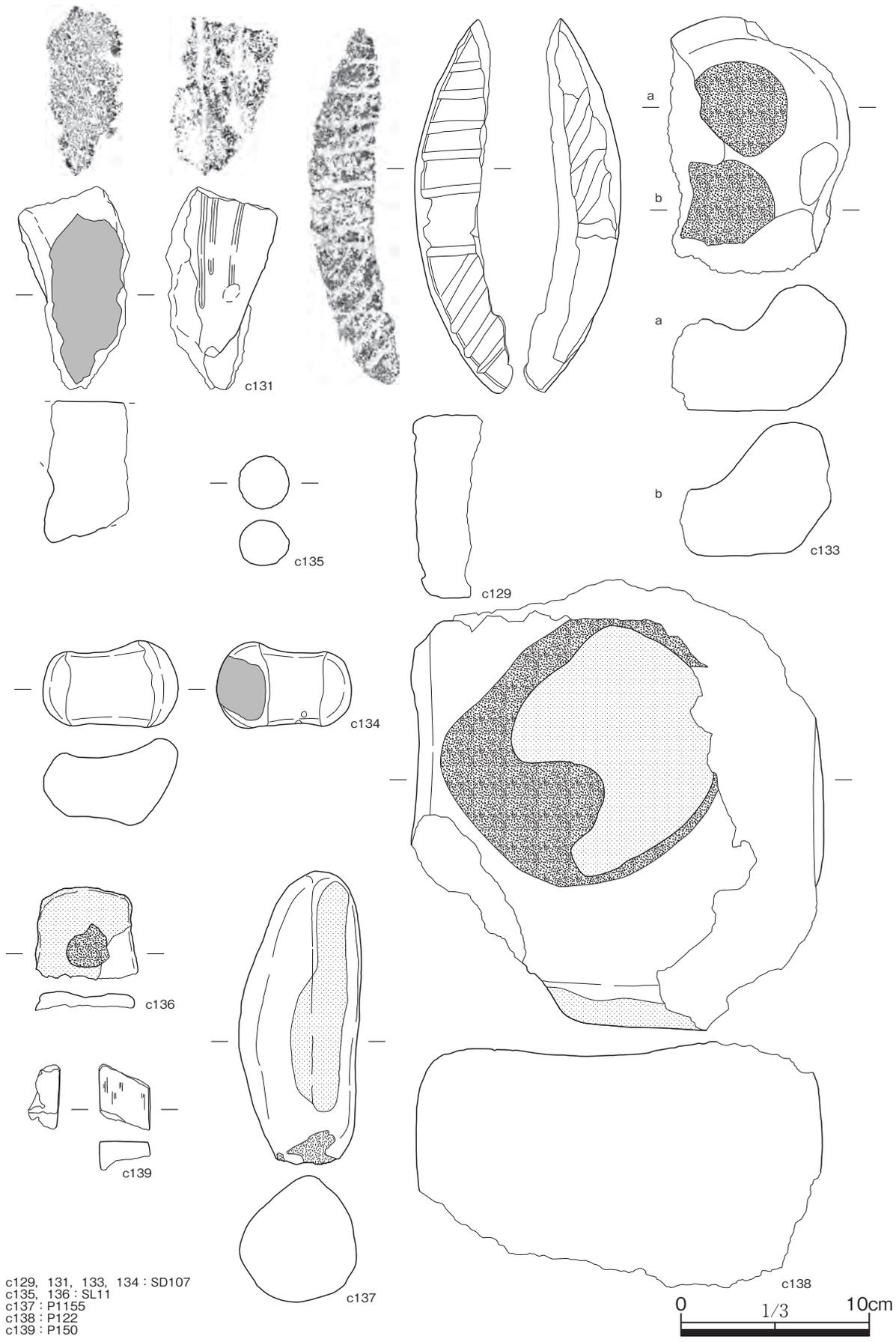
第 176 図 石器 (19)



第177図 石器 (20)

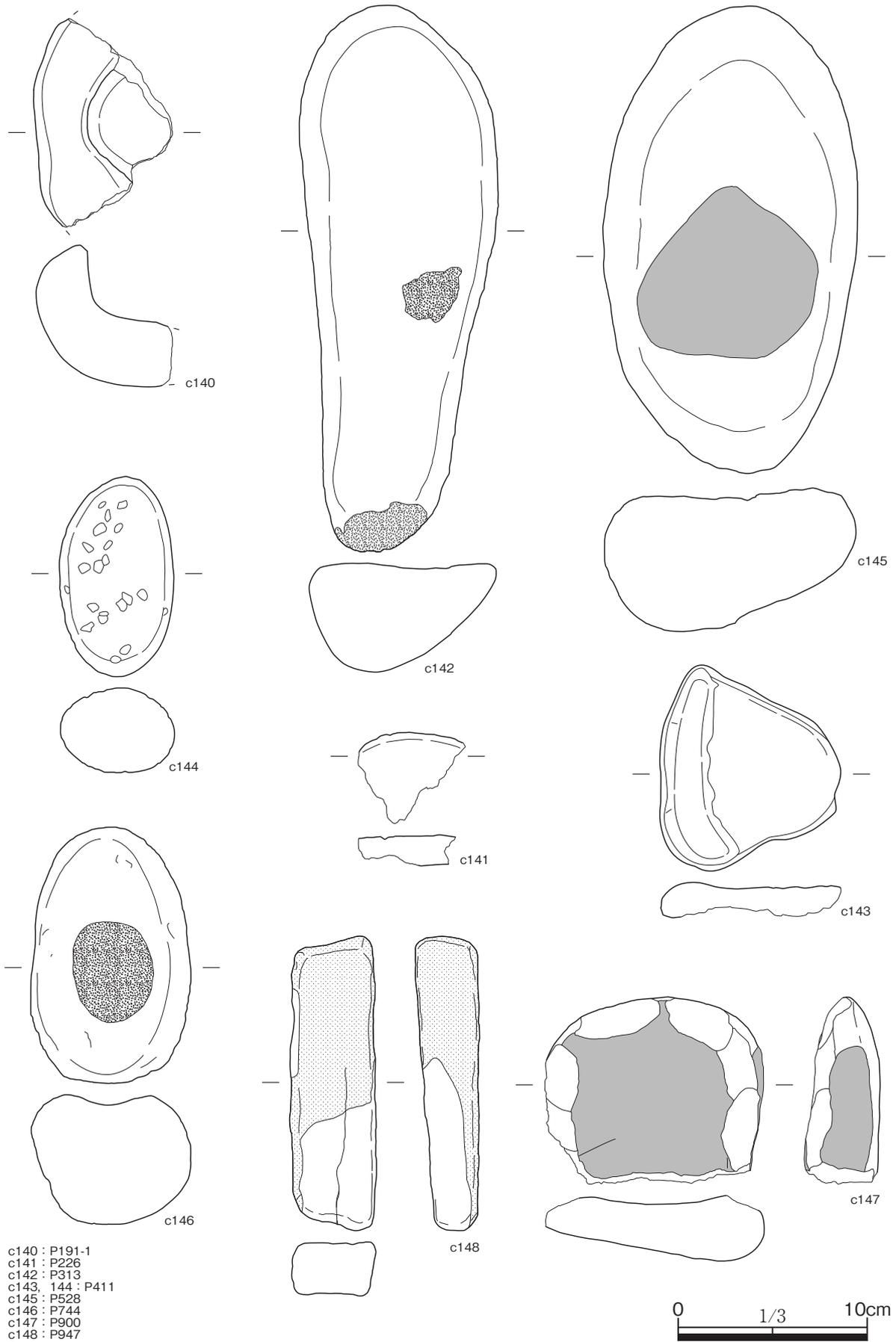


第178図 石器 (21)



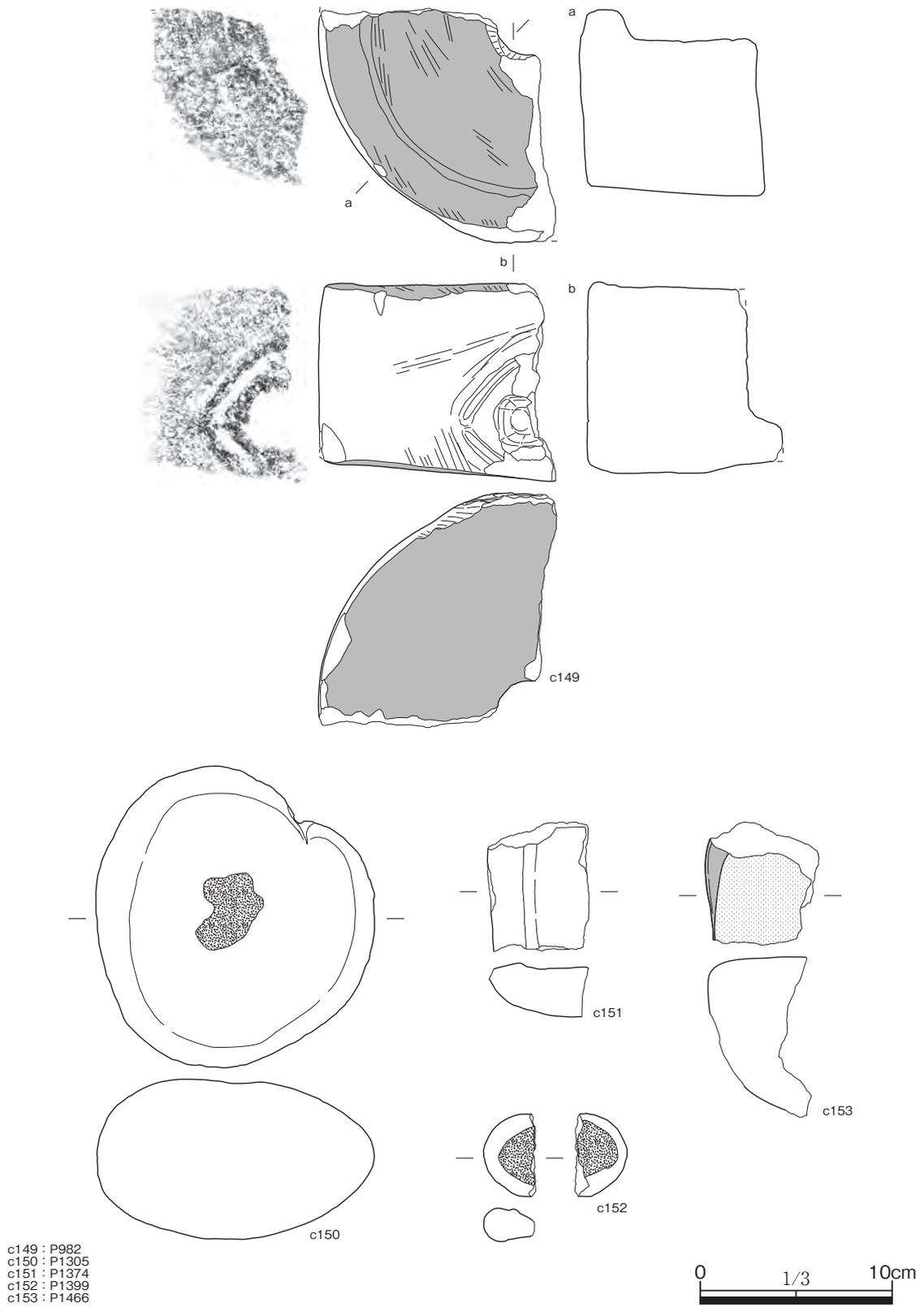
c129, 131, 133, 134 : SD107  
 c135, 136 : SL11  
 c137 : P1155  
 c138 : P122  
 c139 : P150

第179図 石器 (22)

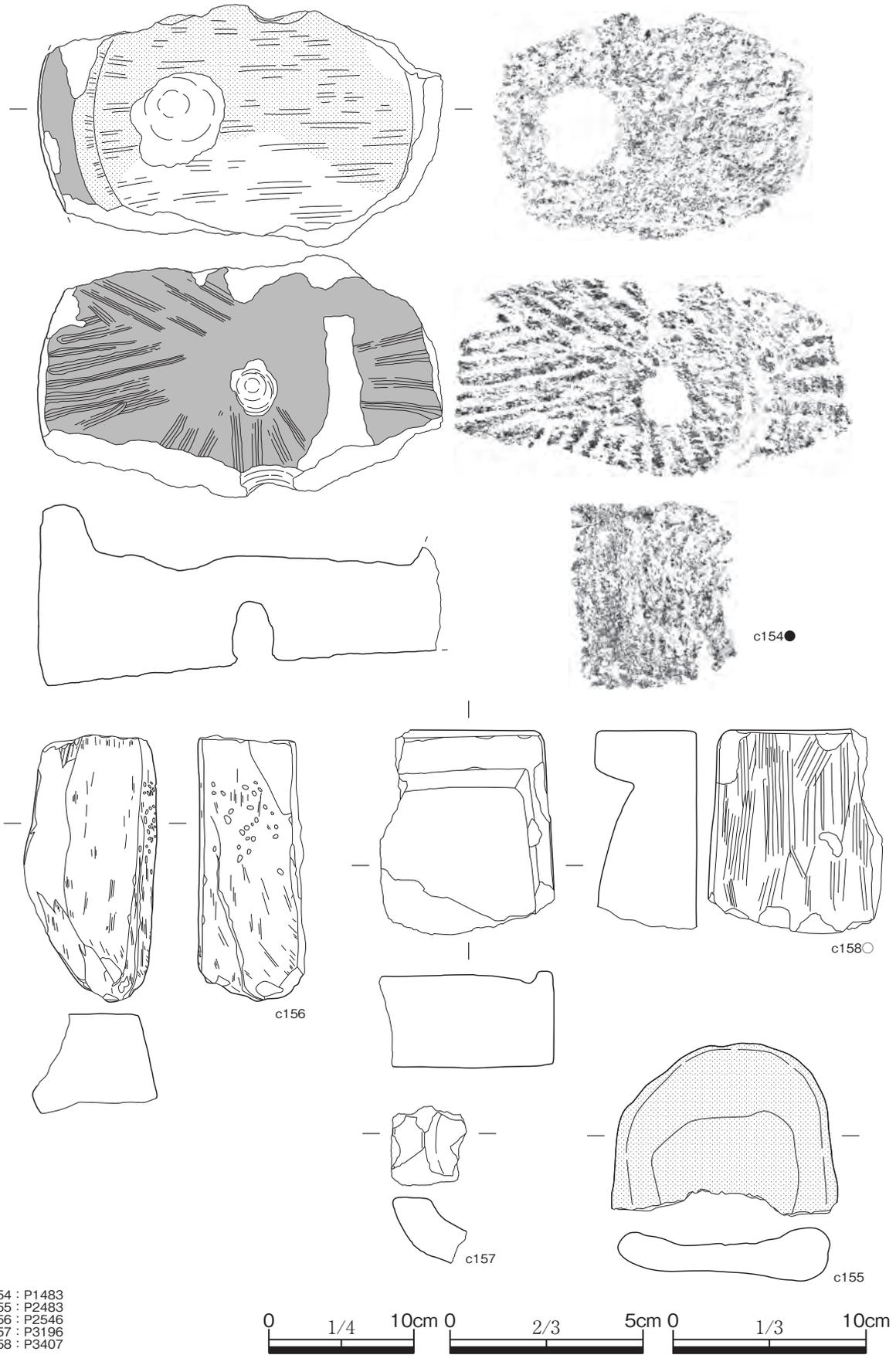


c140 : P191-1  
 c141 : P226  
 c142 : P313  
 c143, 144 : P411  
 c145 : P528  
 c146 : P744  
 c147 : P900  
 c148 : P947

第180図 石器 (23)

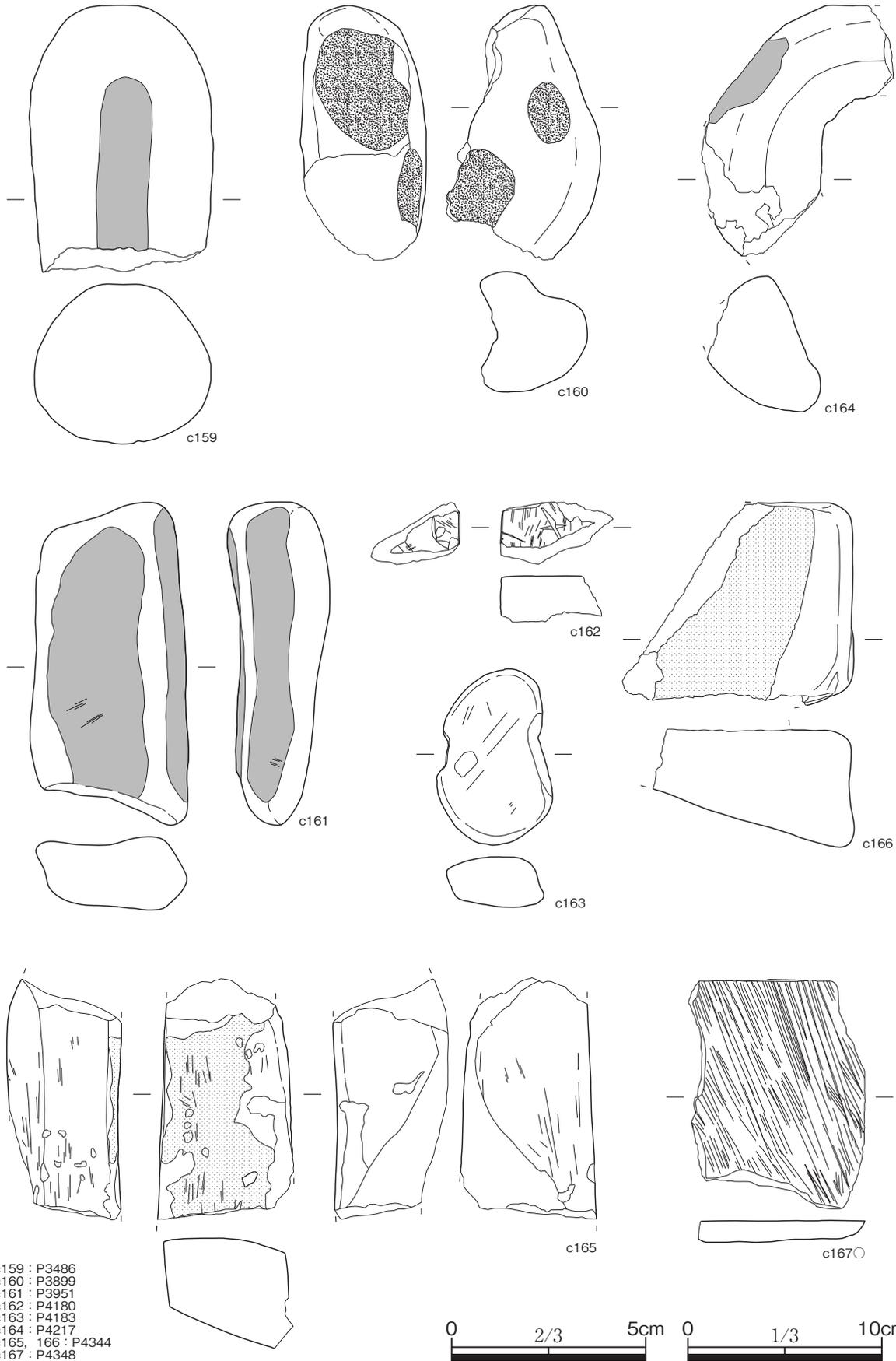


第181図 石器 (24)



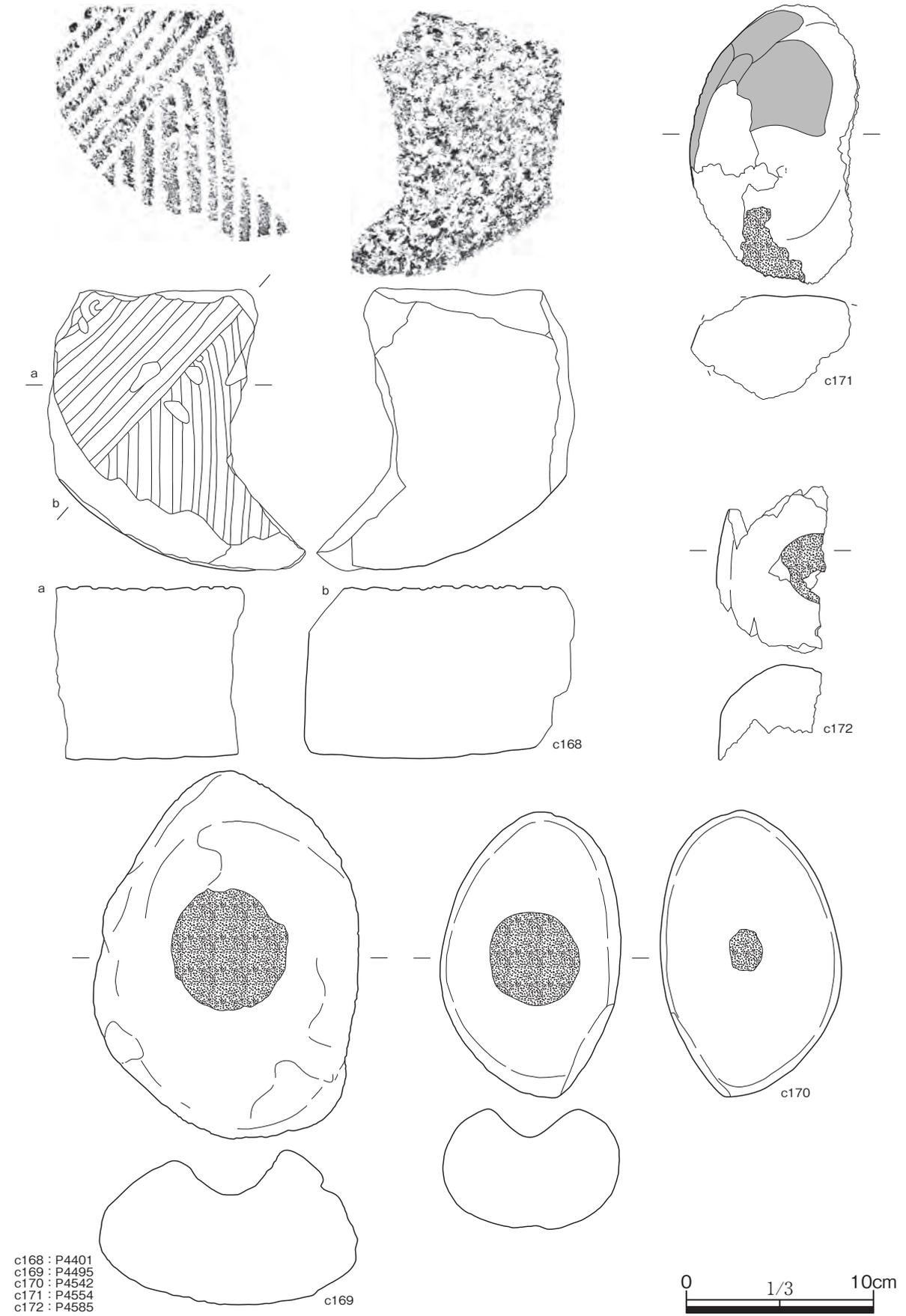
c154 : P1483  
 c155 : P2483  
 c156 : P2546  
 c157 : P3196  
 c158 : P3407

第 182 図 石器 (25)

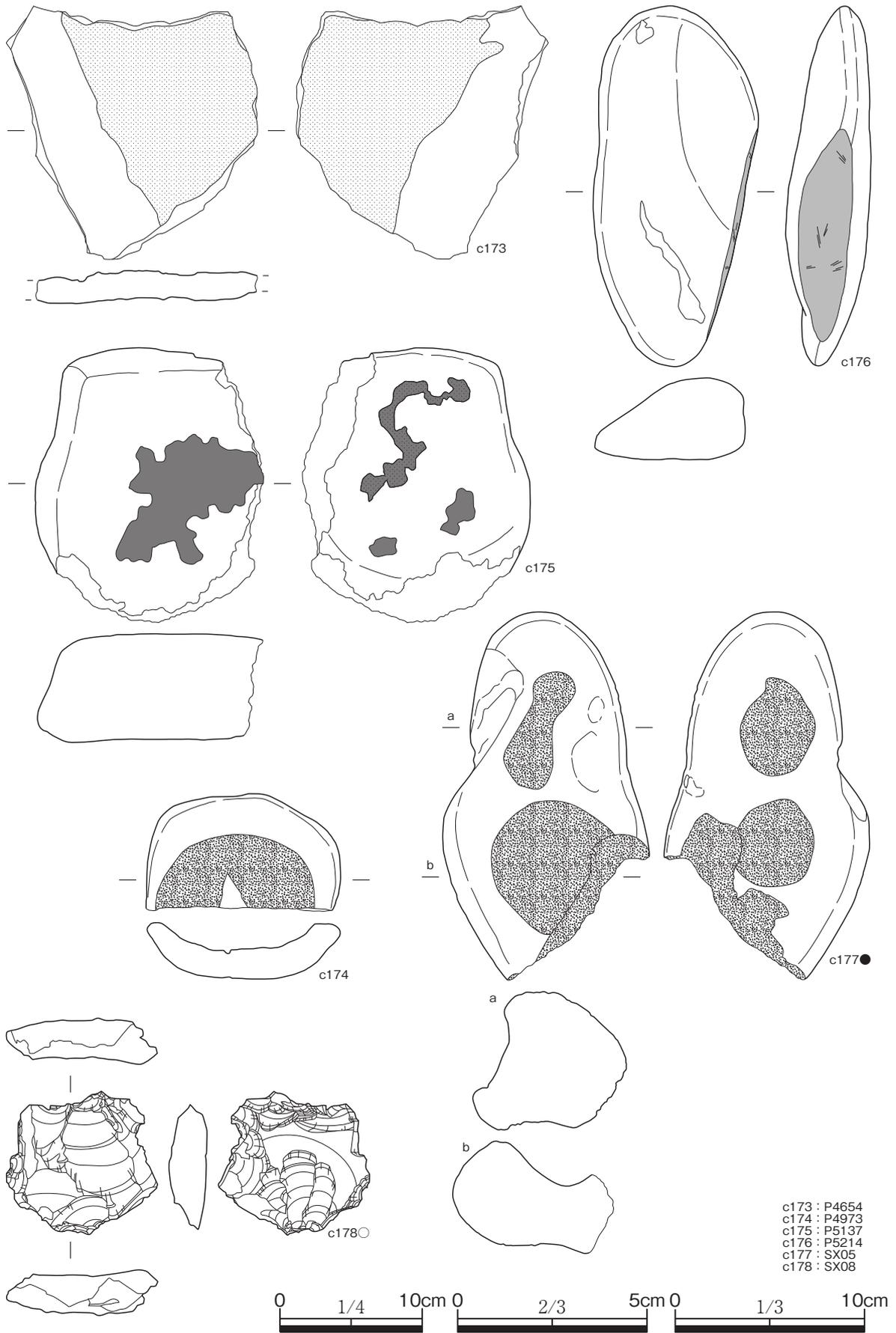


- c159 : P3486
- c160 : P3899
- c161 : P3951
- c162 : P4180
- c163 : P4183
- c164 : P4217
- c165, 166 : P4344
- c167 : P4348

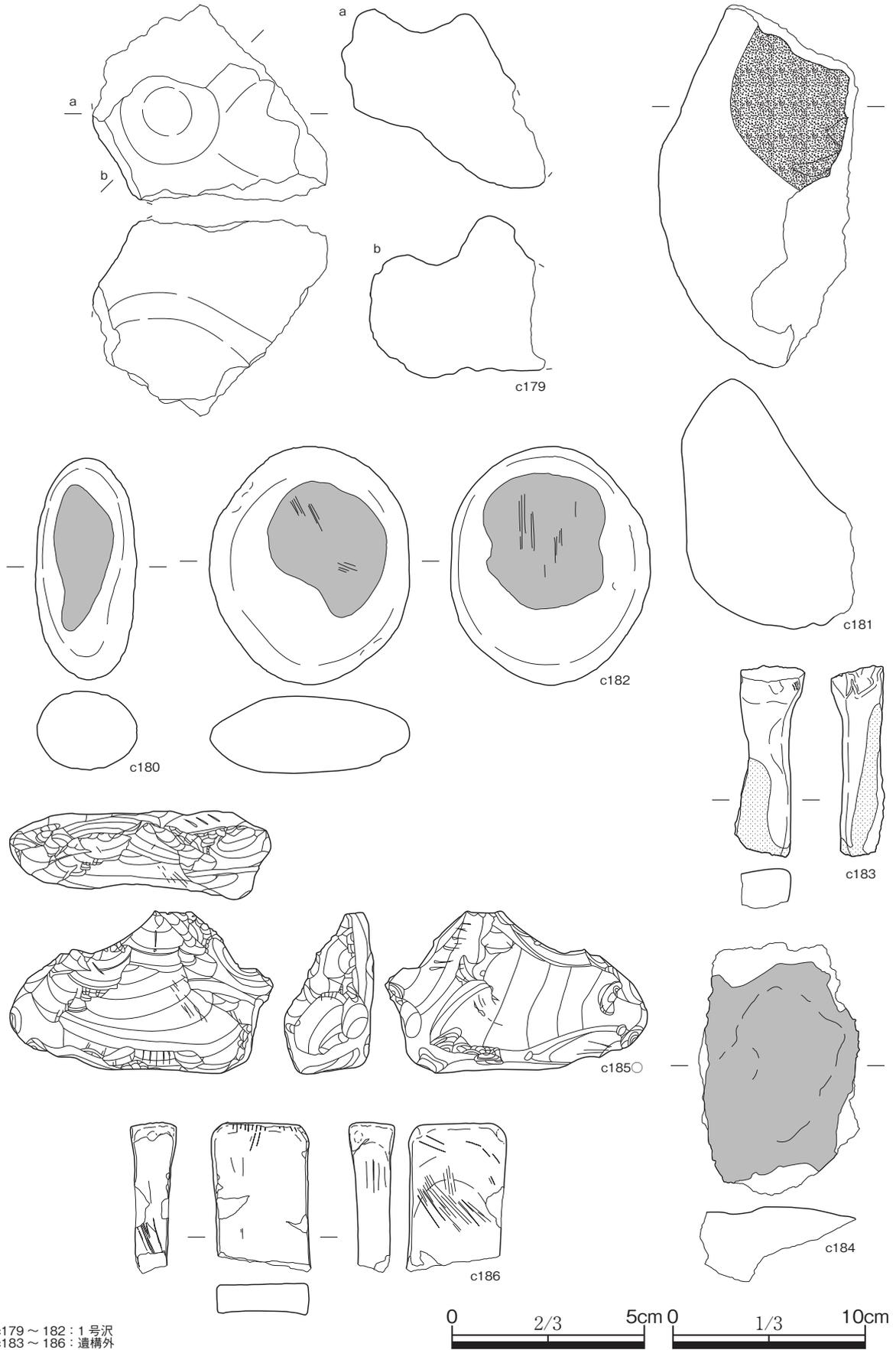
第 183 図 石器 (26)



第184図 石器 (27)

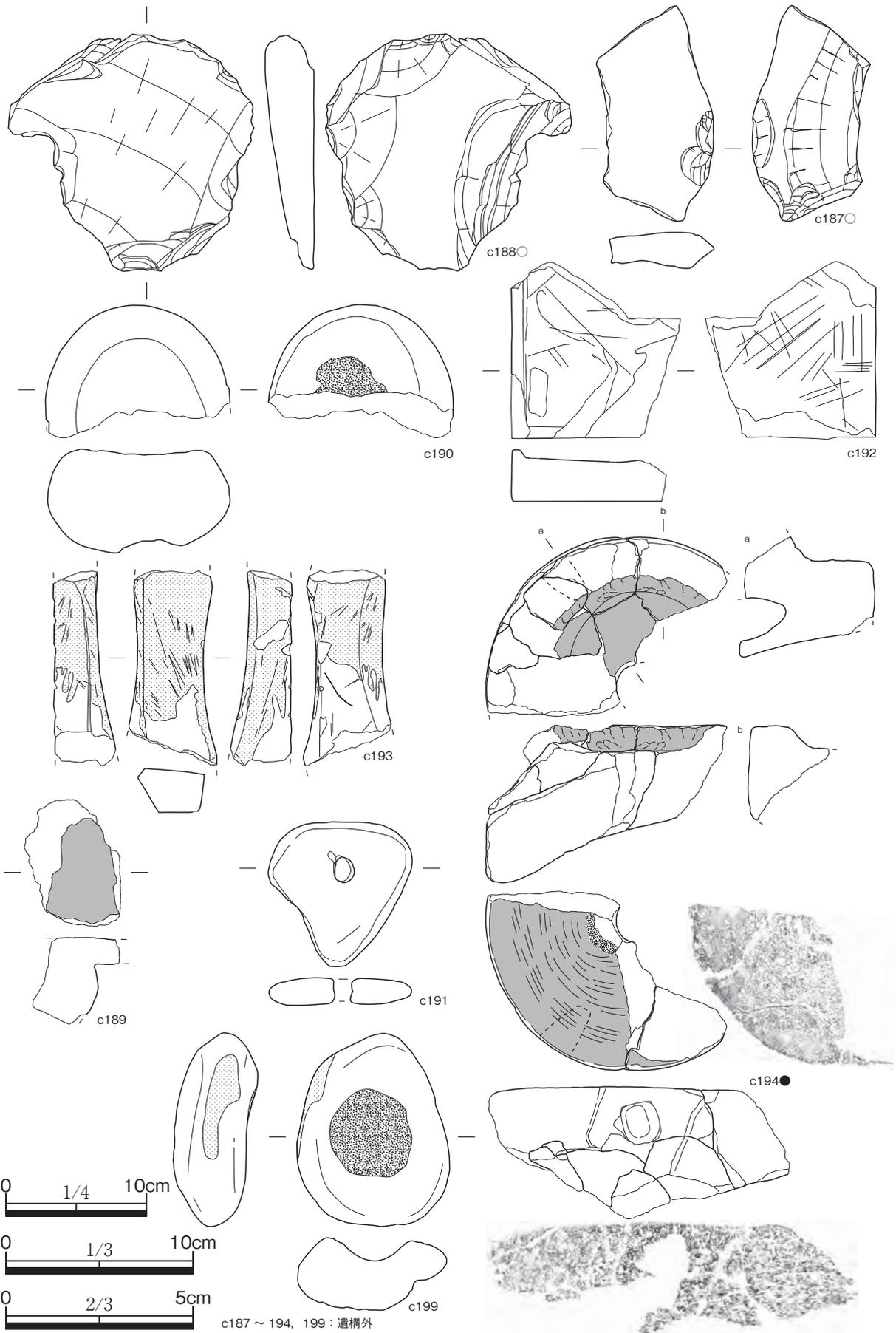


第185図 石器 (28)

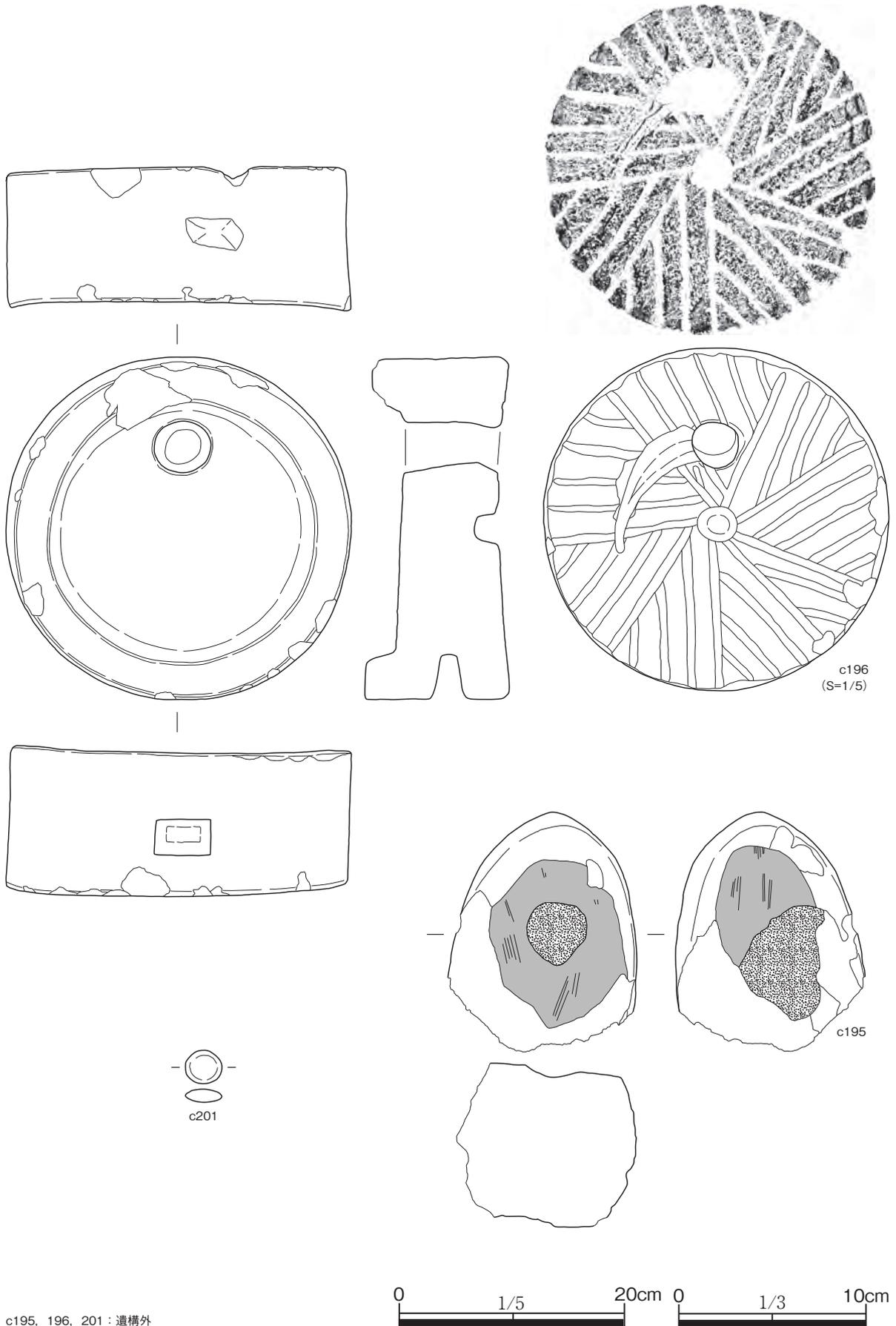


c179 ~ 182 : 1号沢  
c183 ~ 186 : 遺構外

第186図 石器 (29)

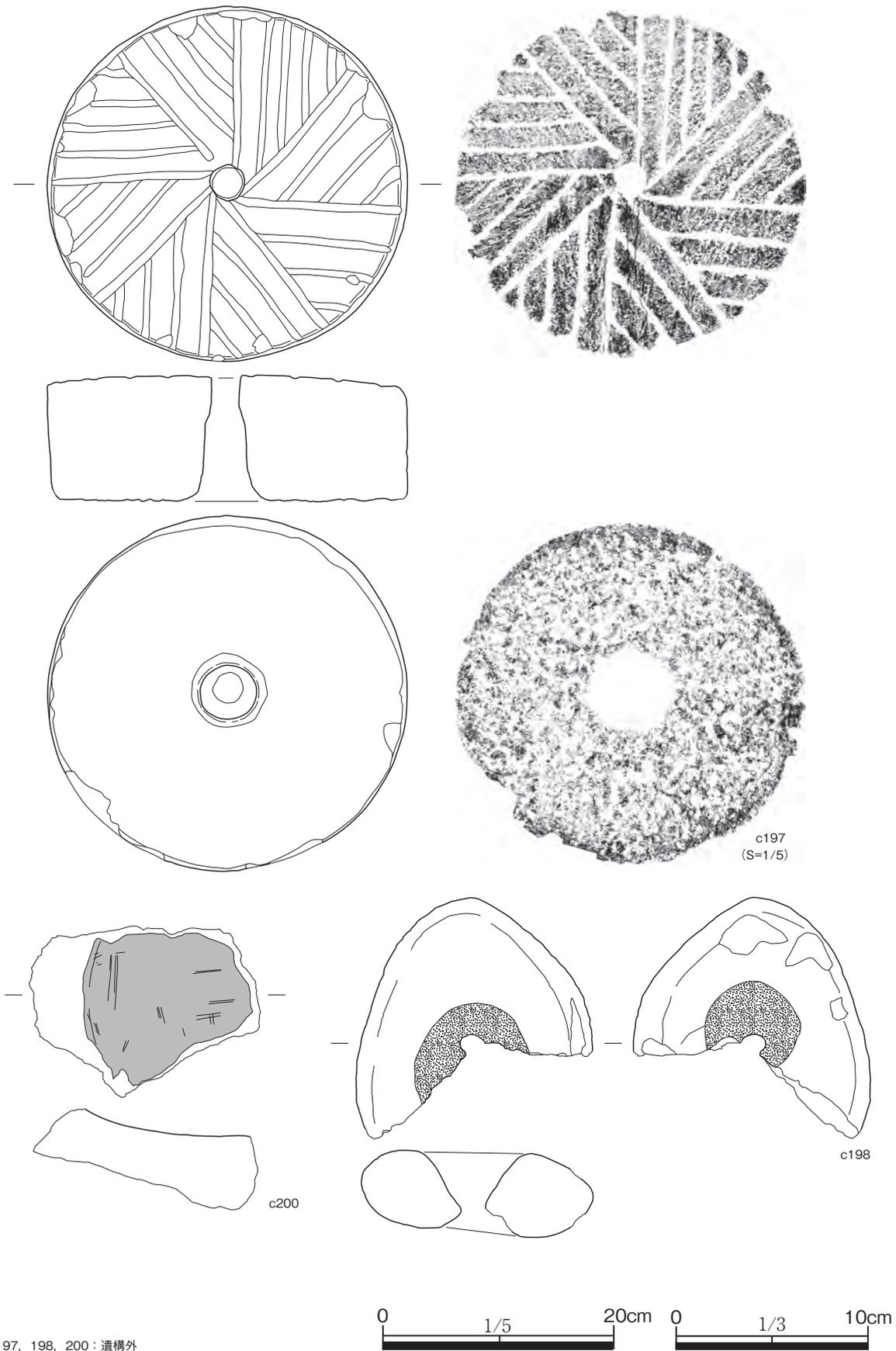


第 187 図 石器 (30)



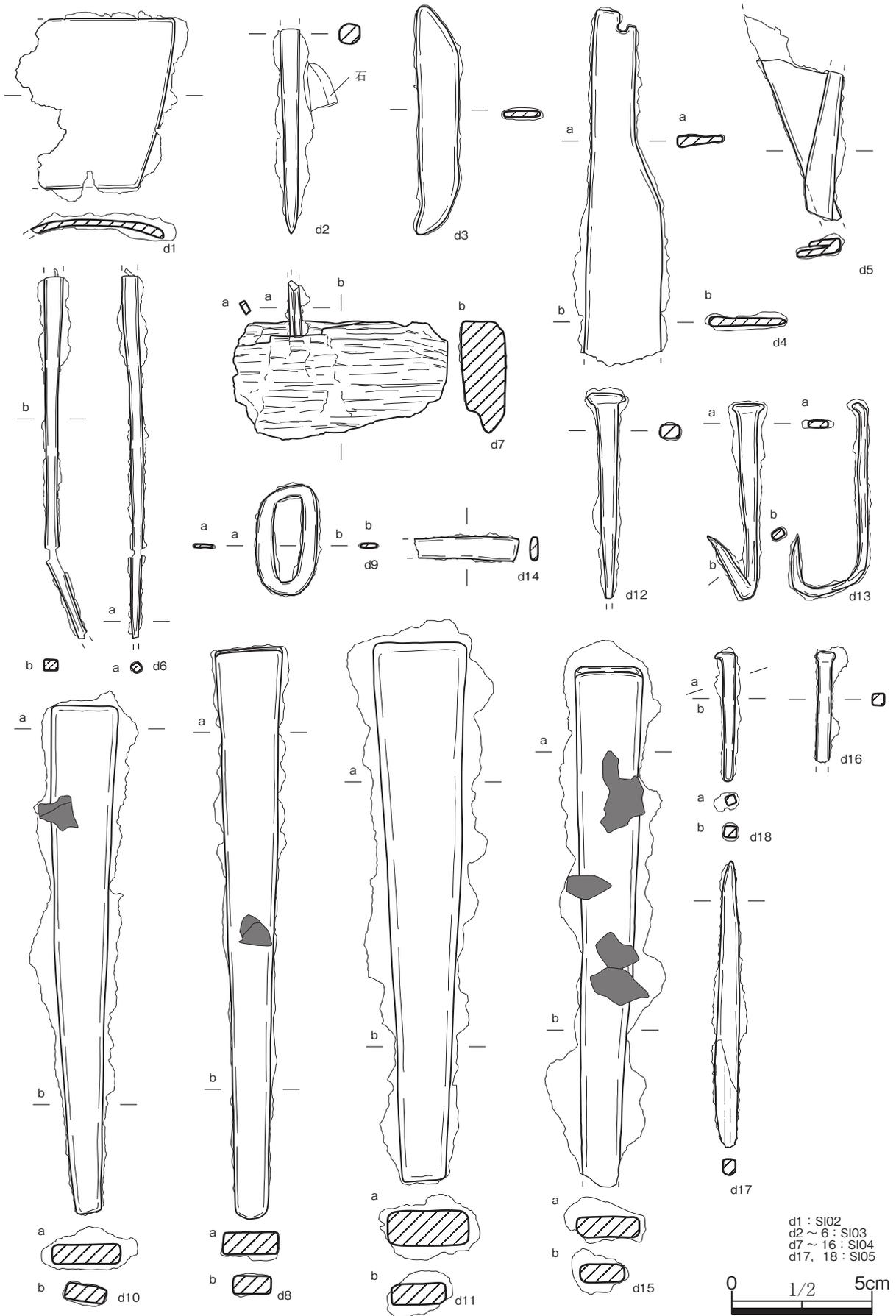
c195, 196, 201 : 遺構外

第 188 図 石器 (31)

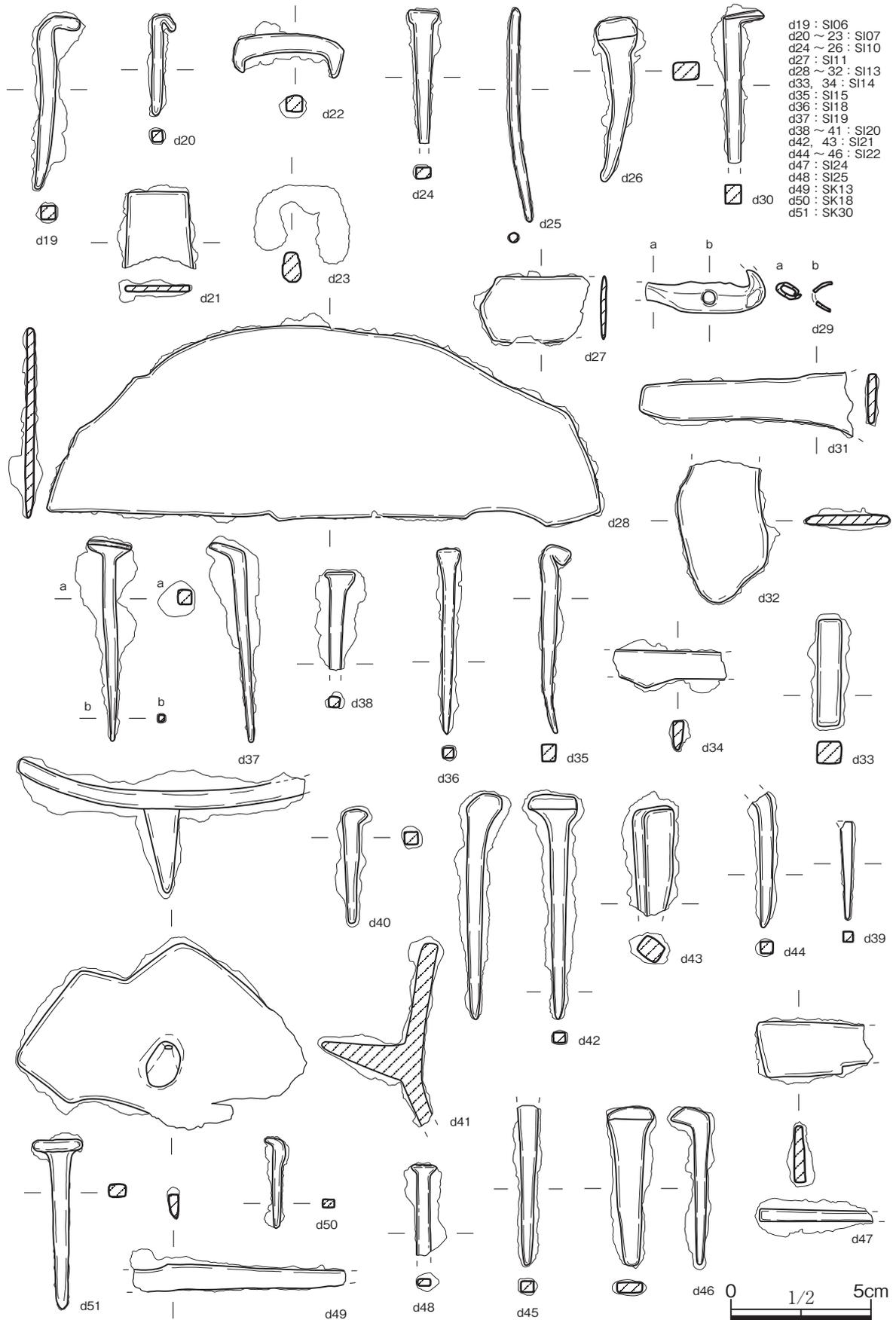


c197, 198, 200 : 遺構外

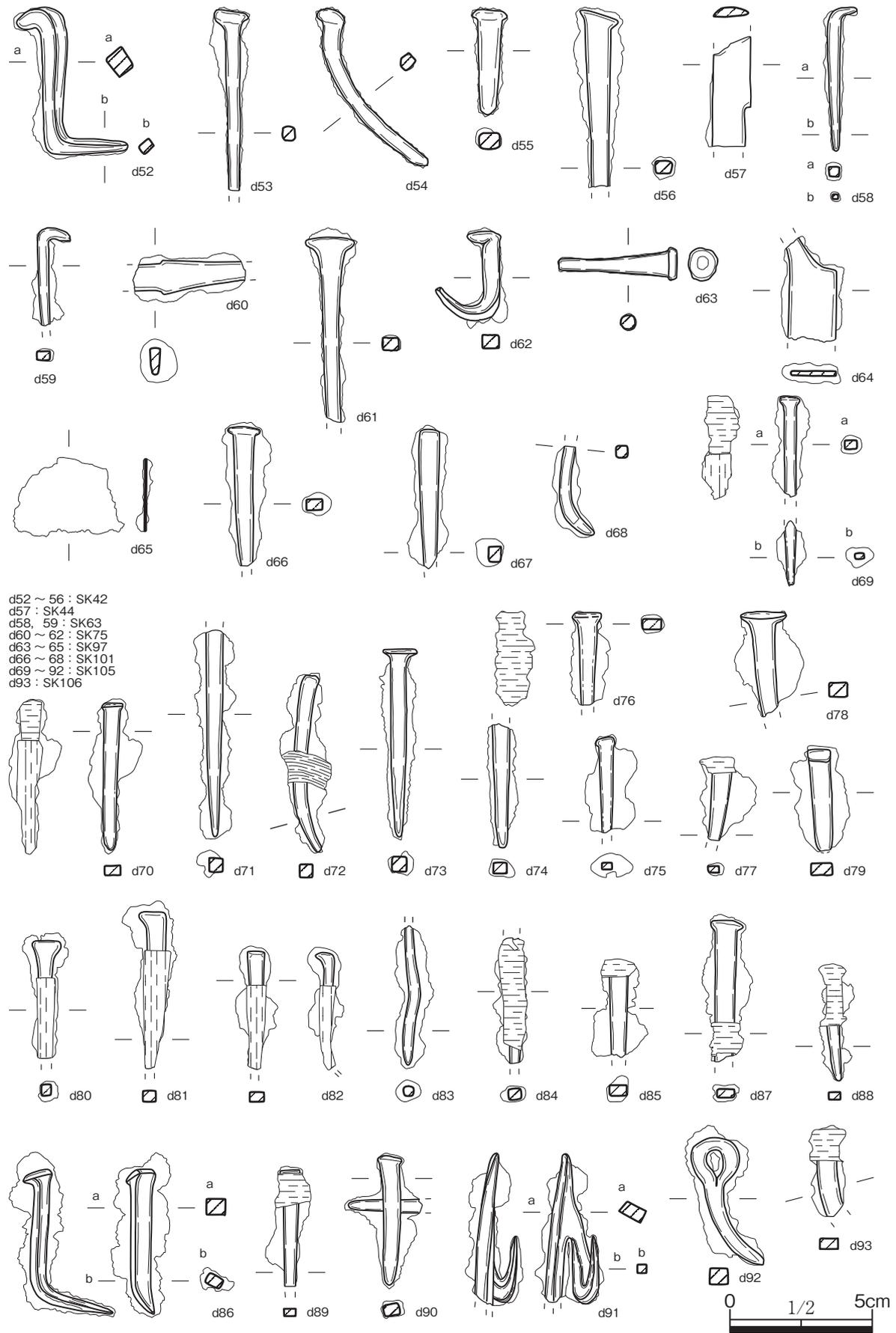
第189図 石器 (32)



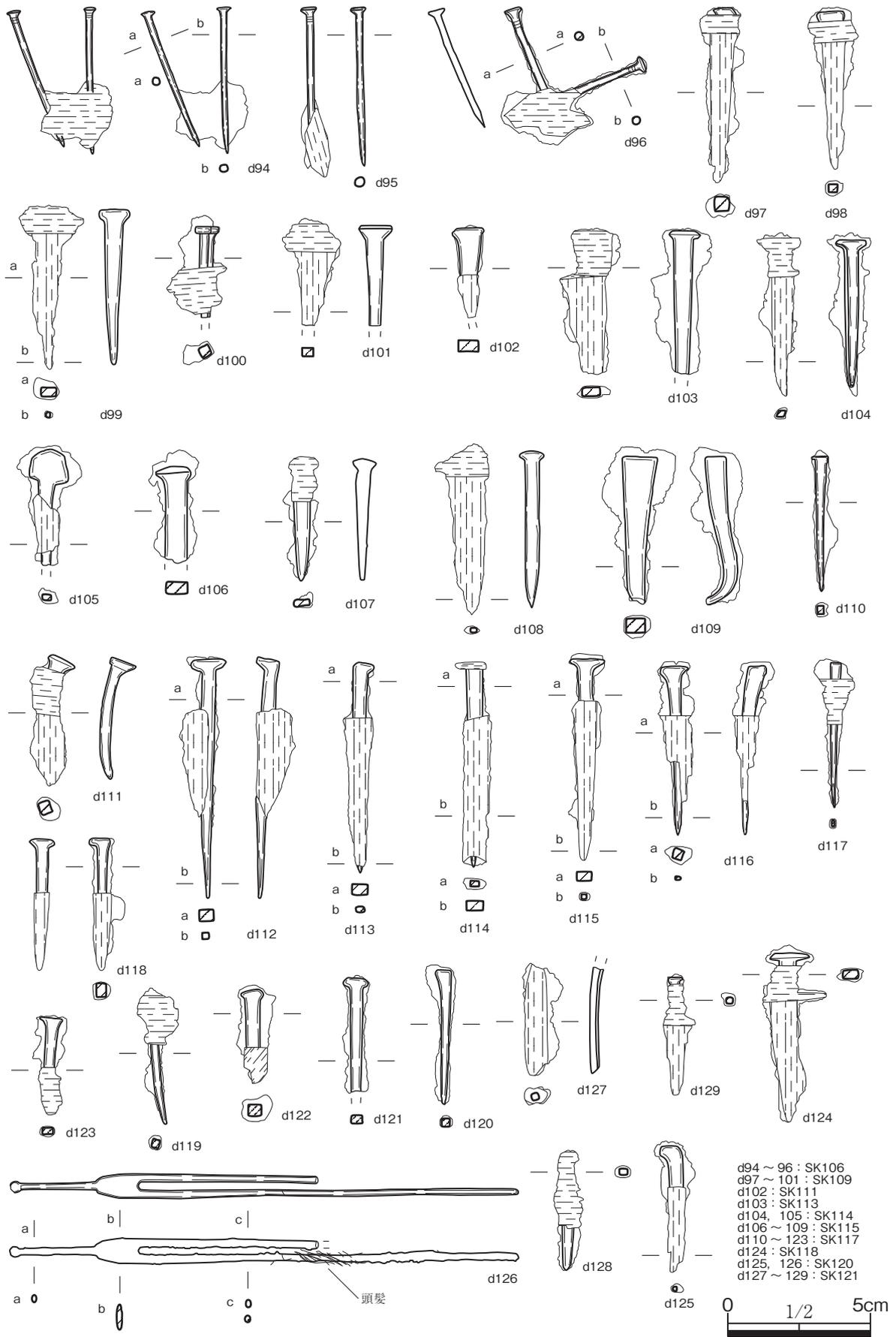
第190図 金属製品(1)



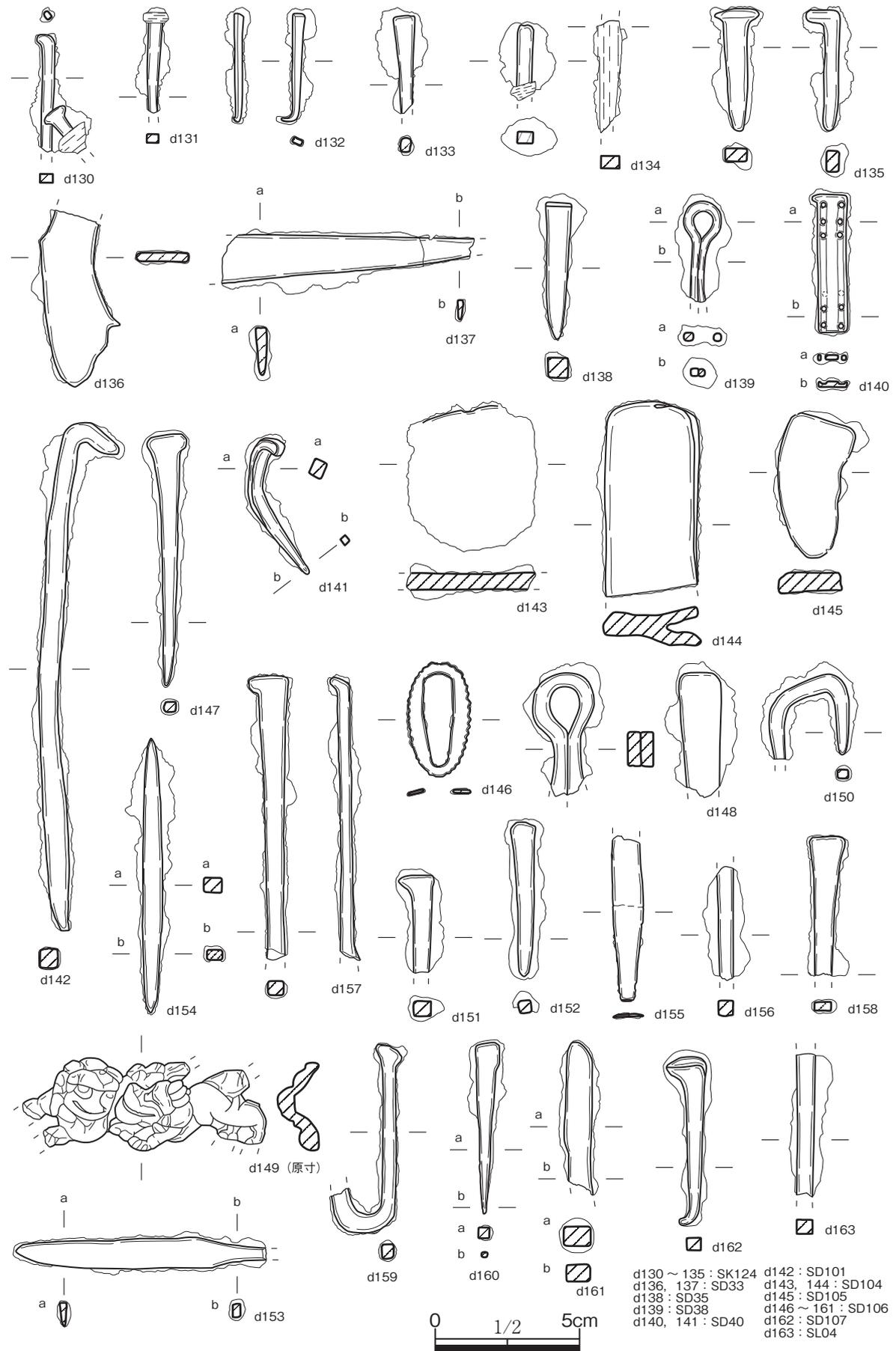
第191図 金属製品 (2)



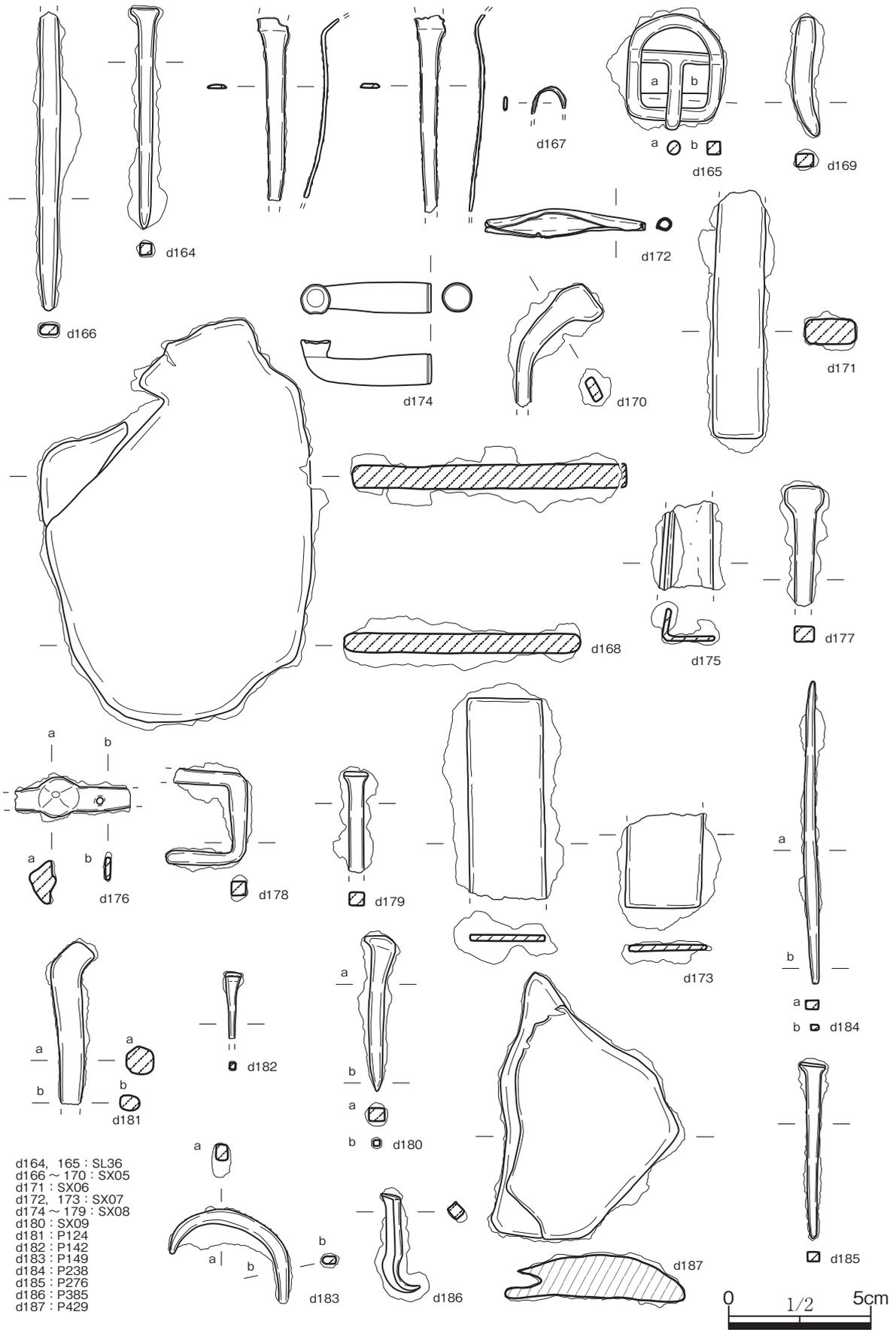
第 192 図 金属製品 (3)



第193図 金属製品(4)

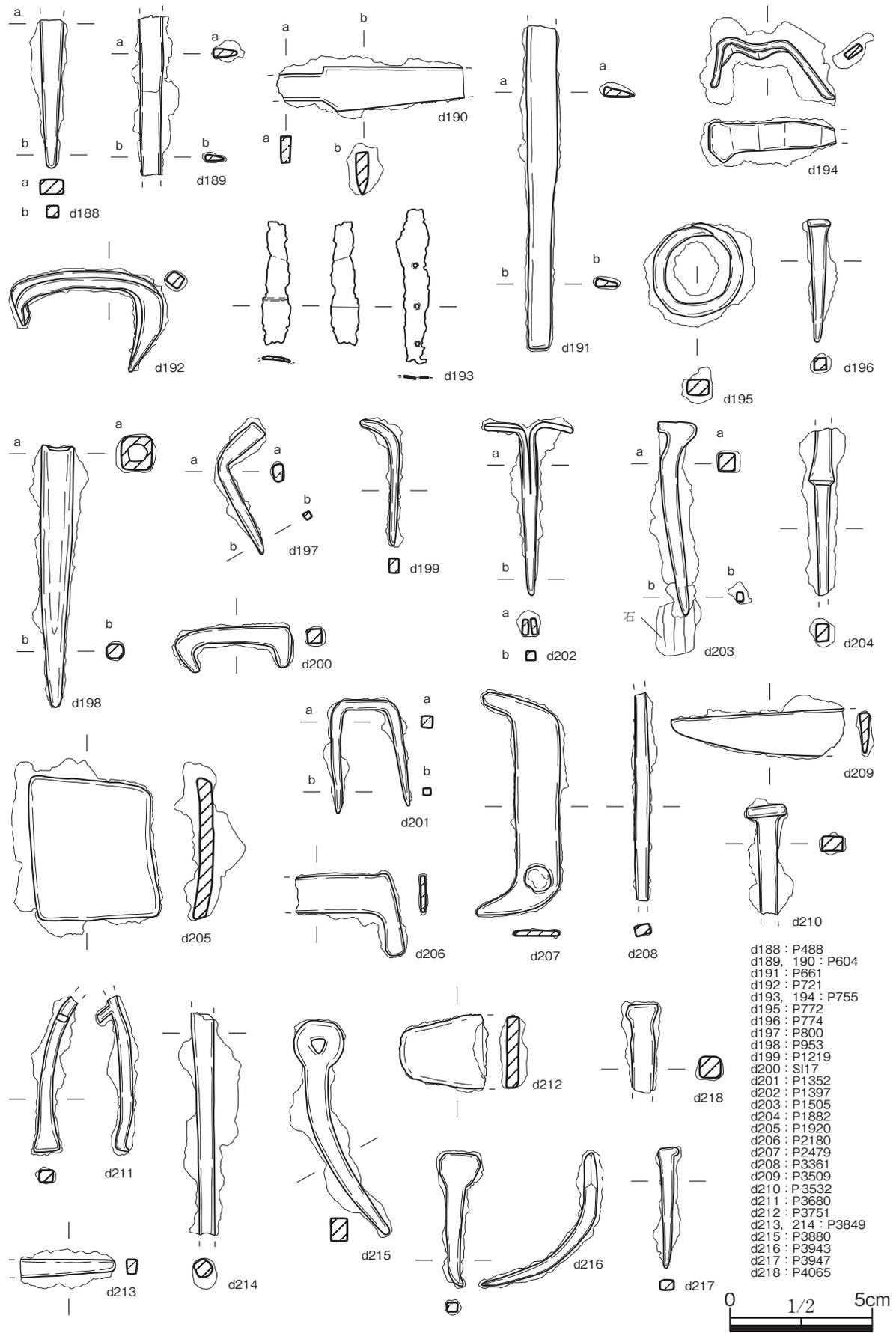


第 194 図 金属製品 (5)

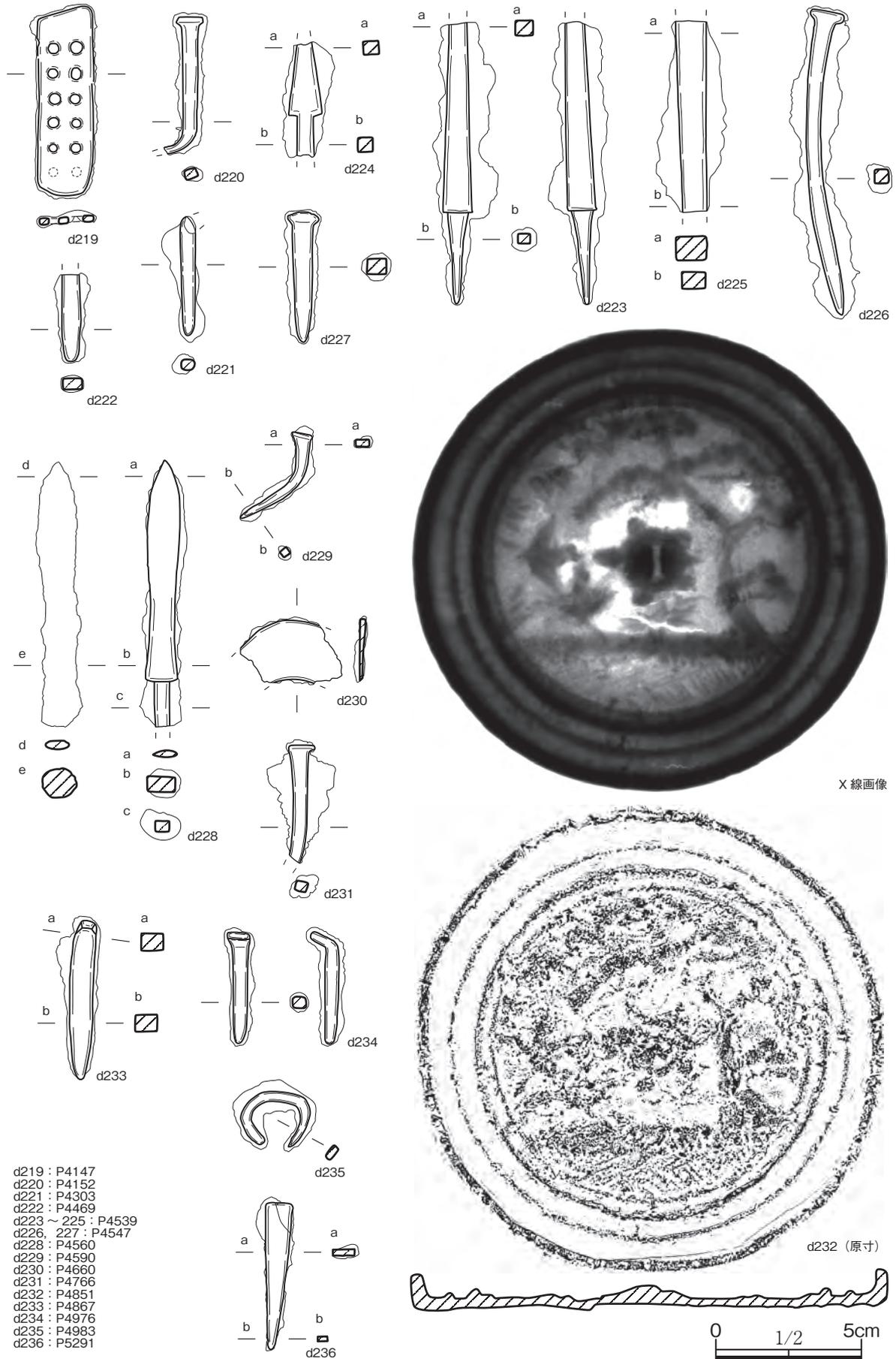


d164, 165 : SL36  
 d166 ~ 170 : SX05  
 d171 : SX06  
 d172, 173 : SX07  
 d174 ~ 179 : SX08  
 d180 : SX09  
 d181 : P124  
 d182 : P142  
 d183 : P149  
 d184 : P238  
 d185 : P276  
 d186 : P385  
 d187 : P429

第 195 図 金属製品 (6)

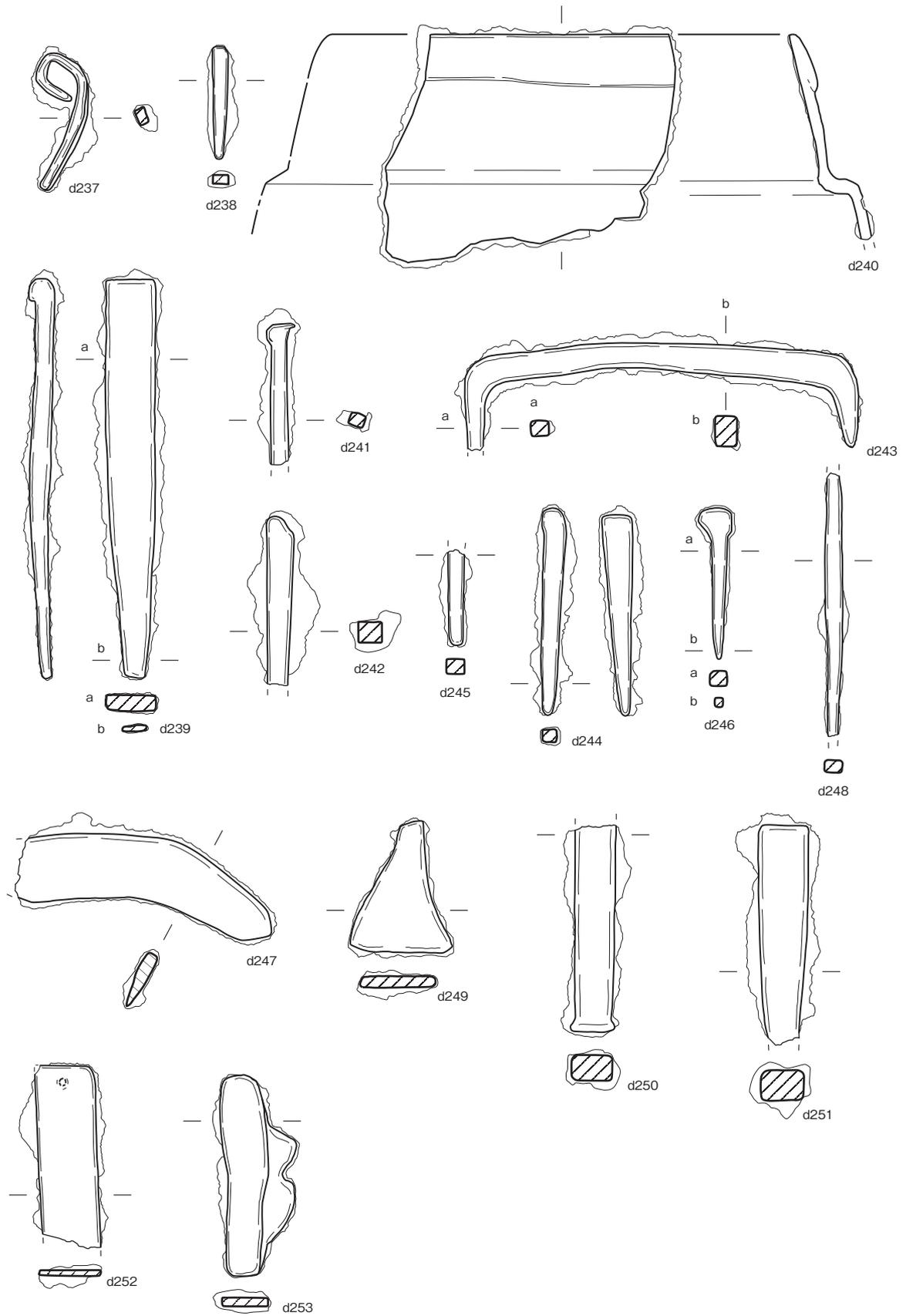


第196図 金属製品(7)



- d219 : P4147
- d220 : P4152
- d221 : P4303
- d222 : P4469
- d223 ~ 225 : P4539
- d226, 227 : P4547
- d228 : P4560
- d229 : P4590
- d230 : P4660
- d231 : P4766
- d232 : P4851
- d233 : P4867
- d234 : P4976
- d235 : P4983
- d236 : P5291

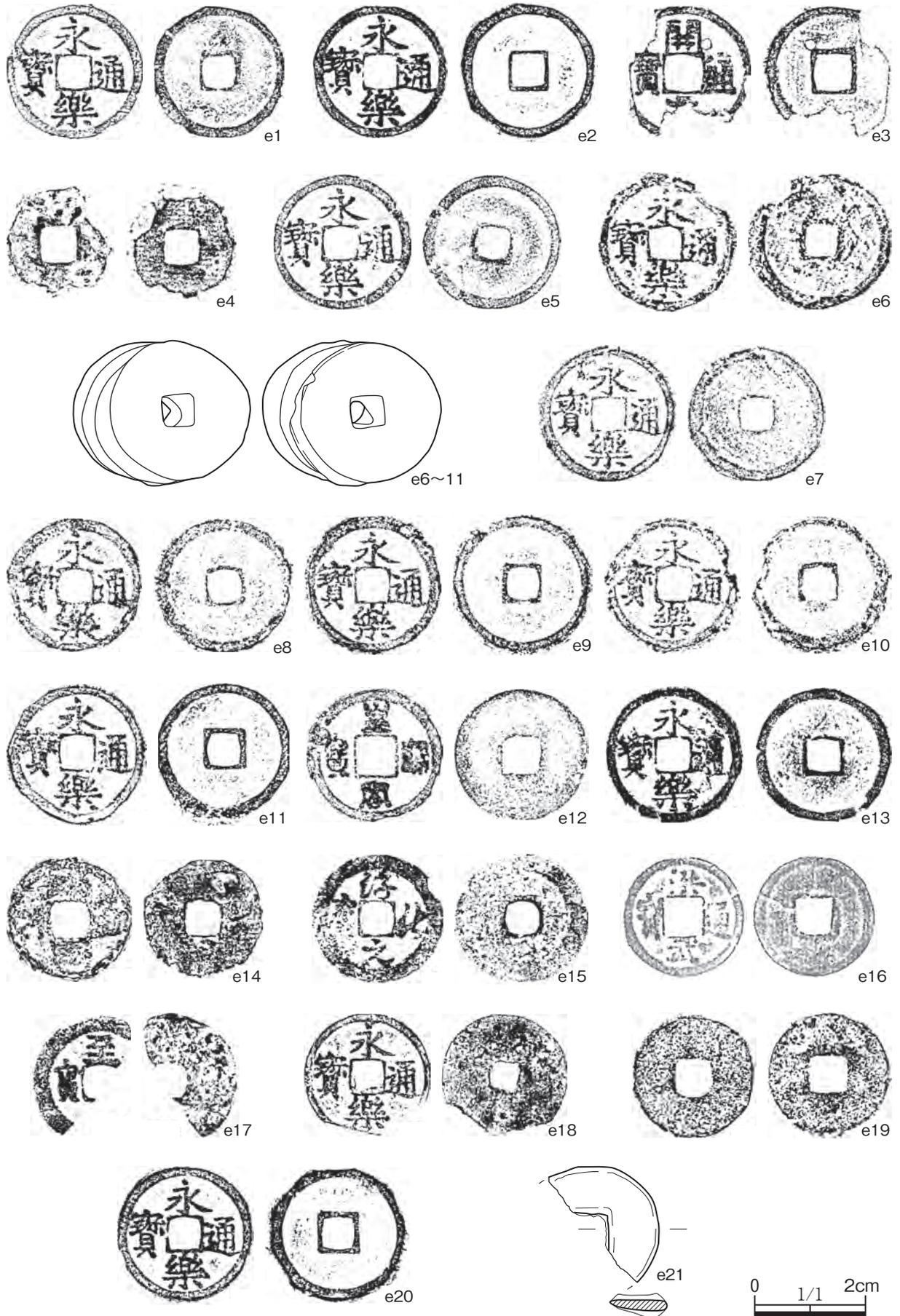
第197図 金属製品 (8)



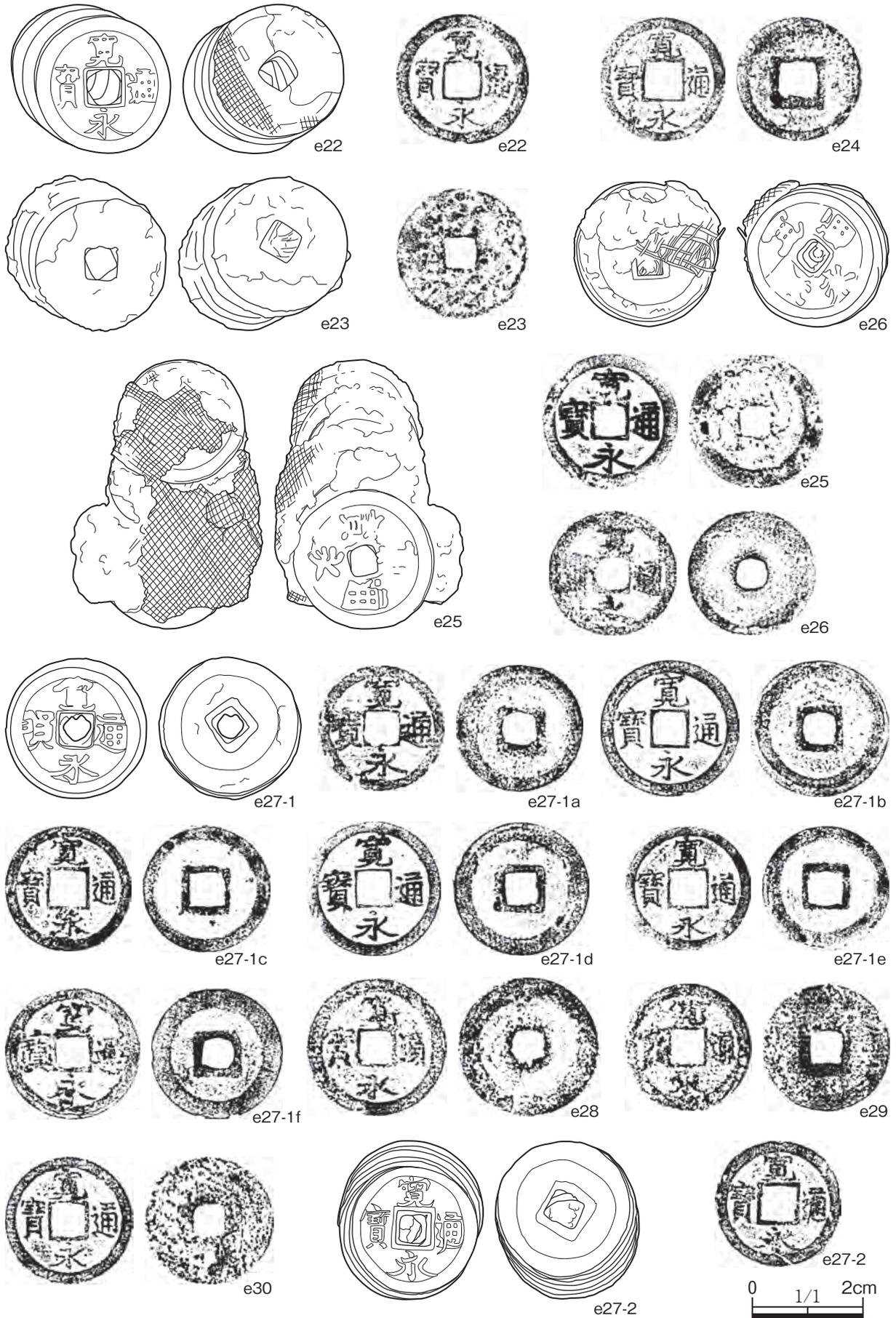
d237 : P5366  
 d238 : P5381  
 d239 ~ 253 : 遺構外

0 1/2 5cm

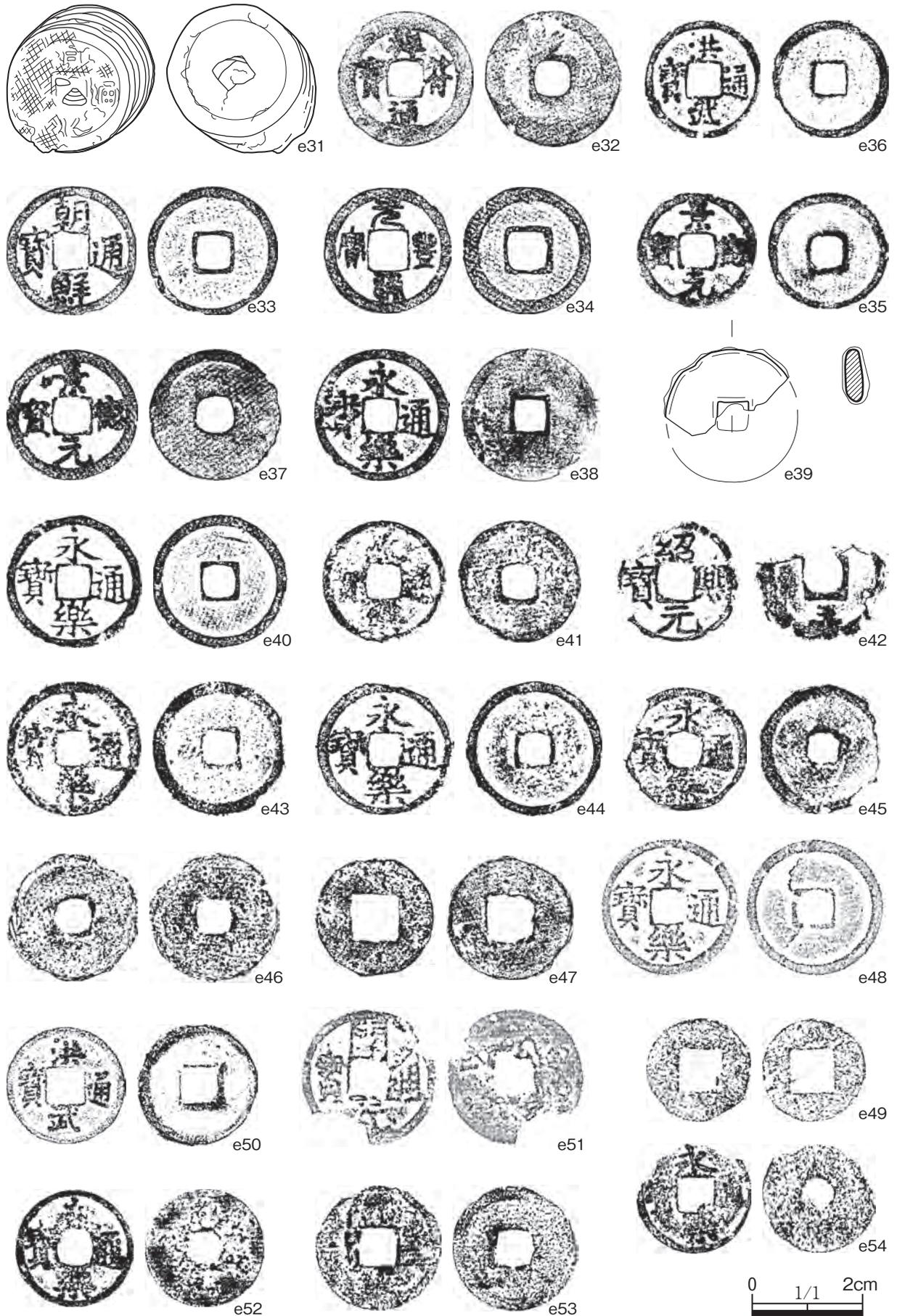
第198図 金属製品(9)



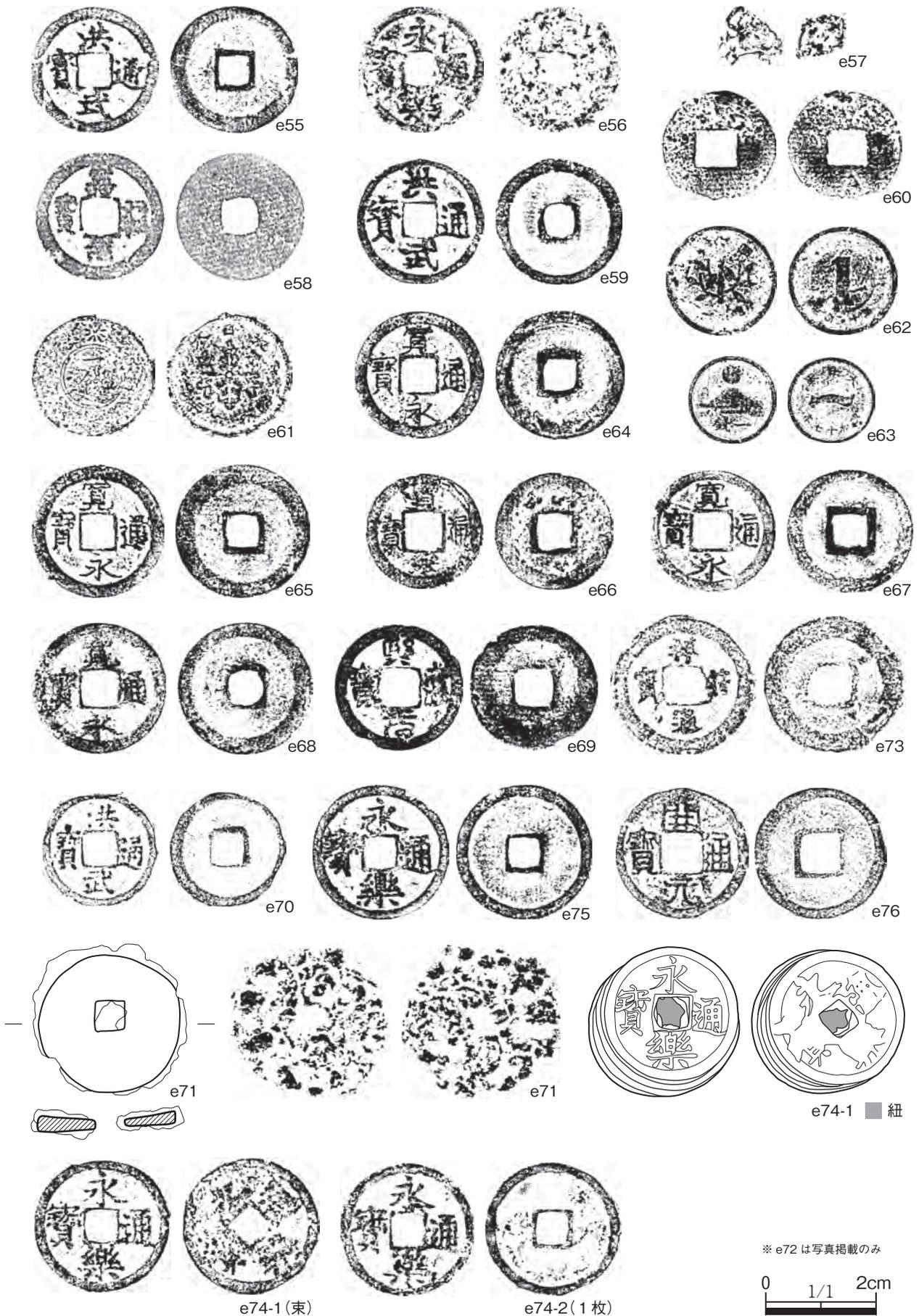
第199図 銭貨 (1)



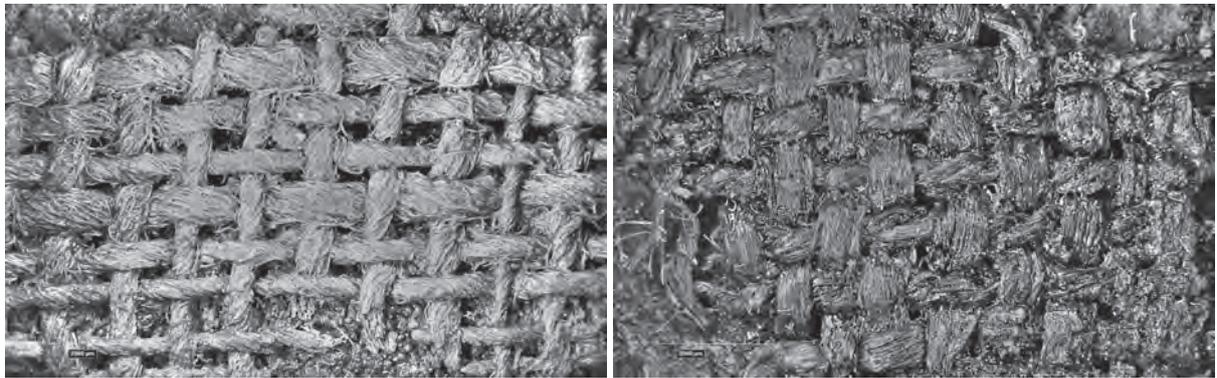
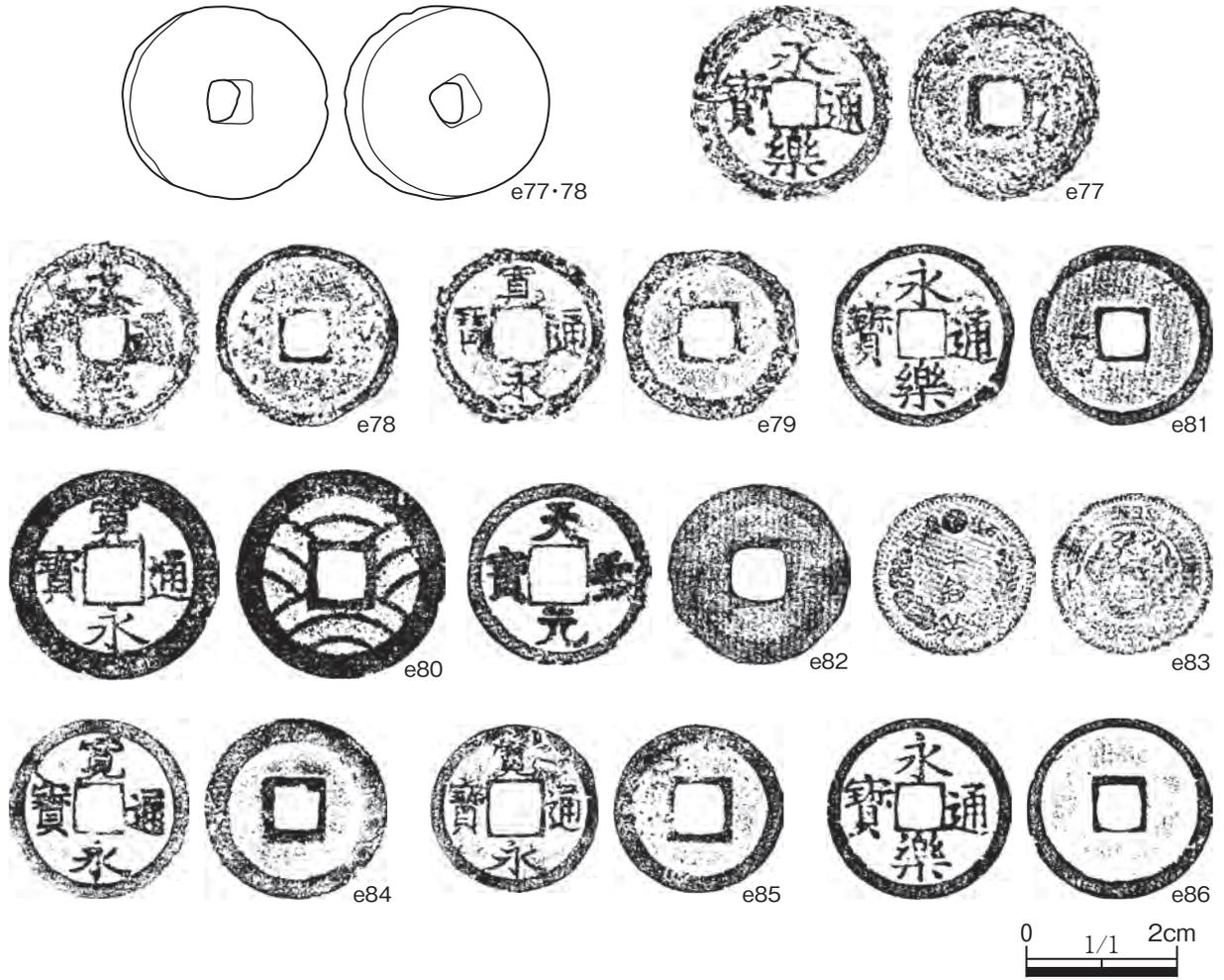
第200圖 錢貨(2)



第201図 銭貨(3)

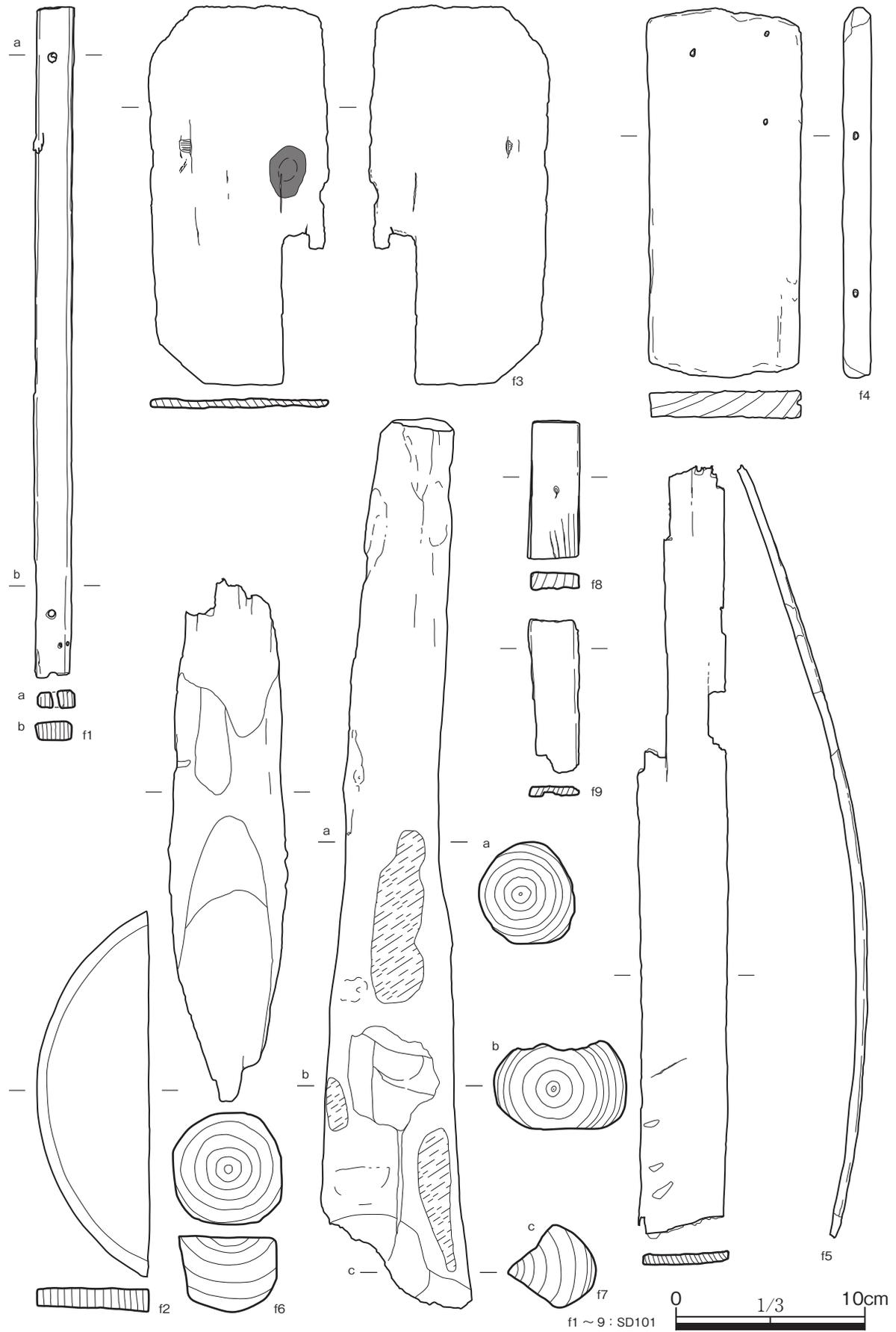


第202図 銭貨(4)

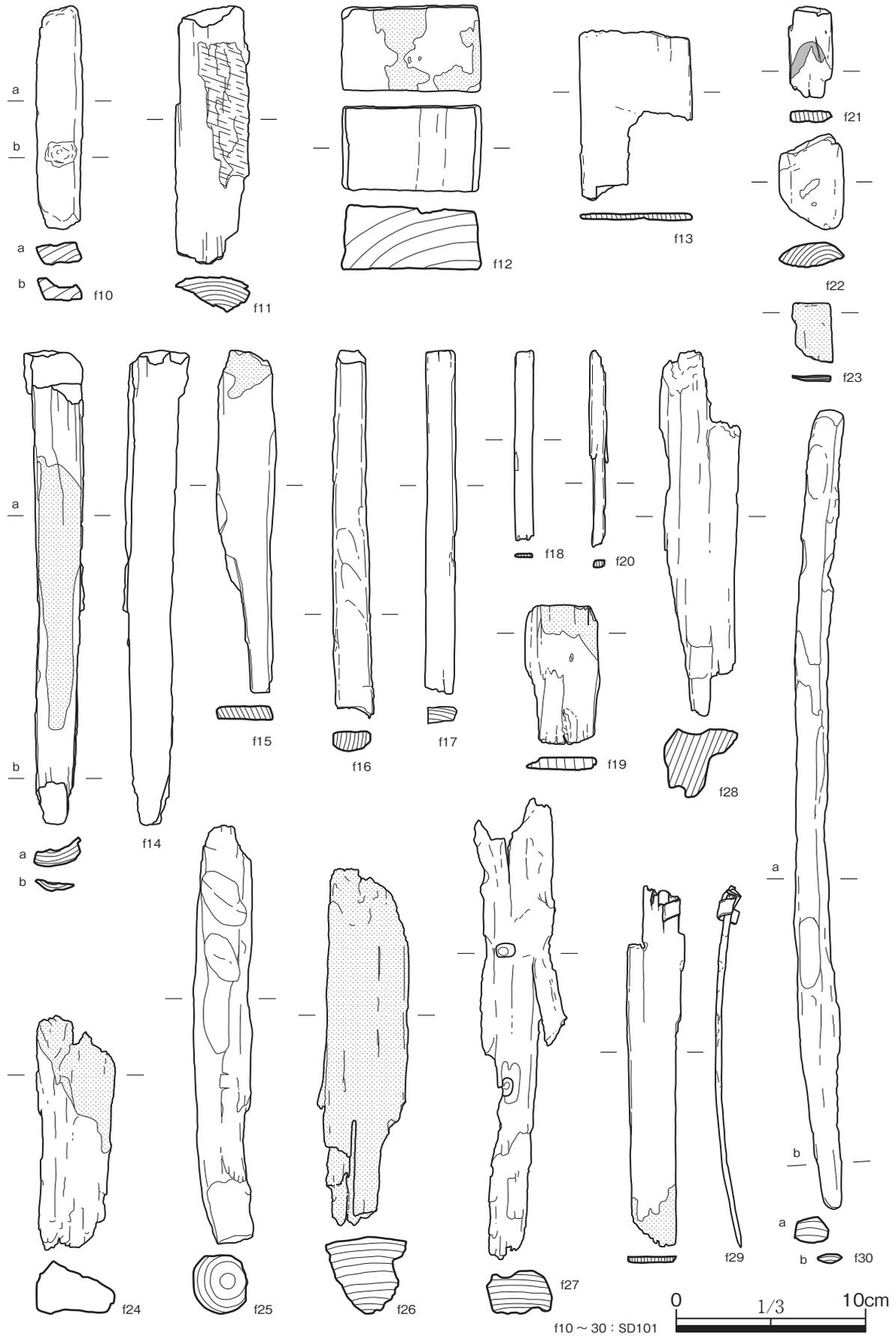


附着繊維頭微鏡写真

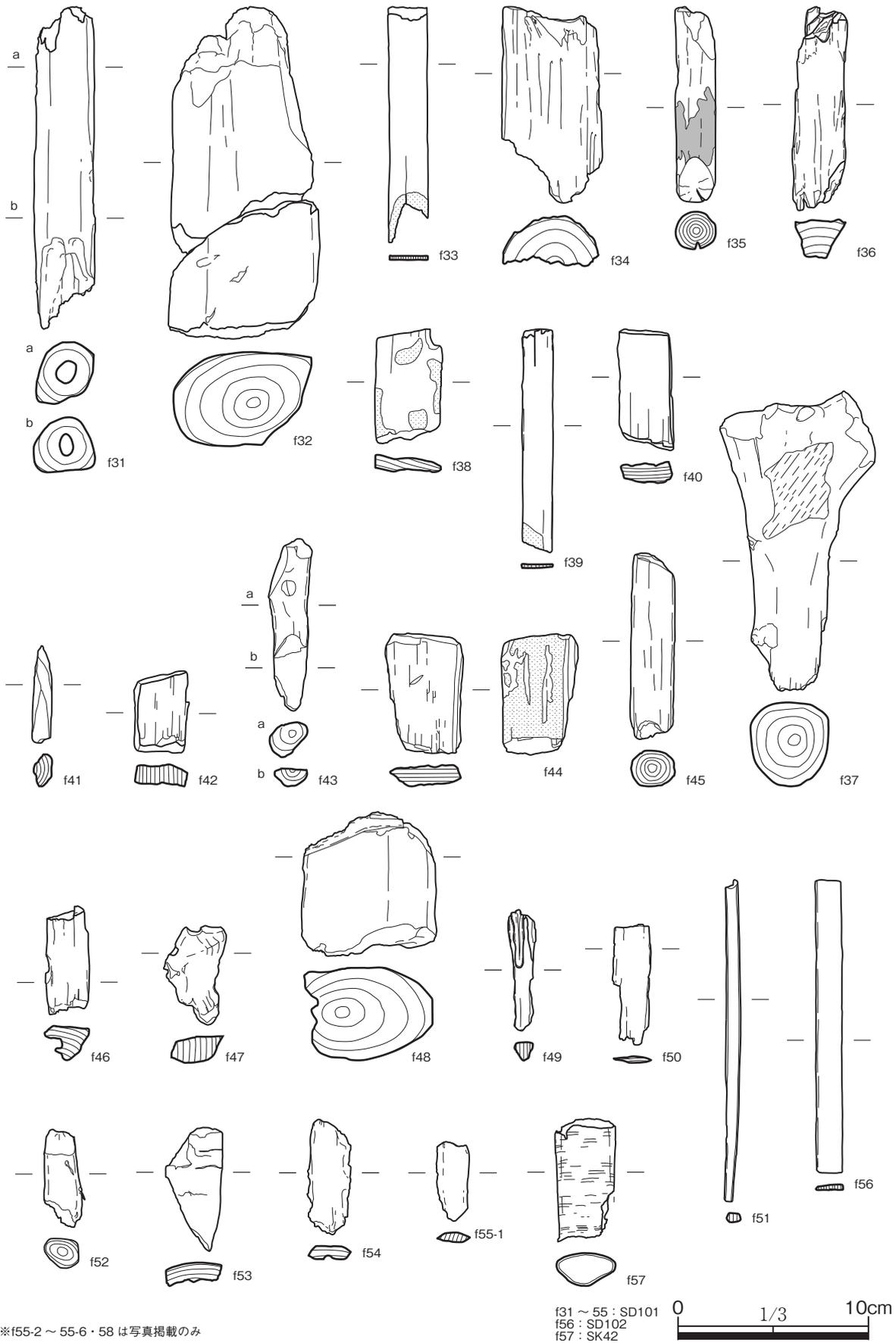
左上：e22、右上：e25、左下：e31



第 204 図 木製品 (1)



第 205 図 木製品 (2)



※f55-2 ~ 55-6・58 は写真掲載のみ

f31 ~ 55 : SD101  
 f56 : SD102  
 f57 : SK42

0 1/3 10cm

第 206 図 木製品 (3)



第 207 図 ガラス製品

第10表 土器観察表(1)

掲載 No.	種別	器種	遺構・地点・層位	残存部位	口径	計測値 (cm)	重量 (g)	調整 (外面/内面/底部)	備考	図版 No.	写真 No.
a1	かわらけ	甕	S02 南西区 堆積土中位	底部	-	-	235	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ?	器面摩耗	129	139
a2	かわらけ	甕	S02 南西区 堆積土中位	底部	(8.0)	[1.7]	298	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ?		129	139
a3	かわらけ	甕	S03 南西区 堆積土中位	底部	-	-	69	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ?		129	139
a4	かわらけ	甕	S03 北東区 堆積土上位	底部	-	-	131	不明/不明/回転ナデ?	器面摩耗	129	139
a5	須恵器	甕	S04 1区 堆積土上位	底部	(4.4)	[0.9]	80	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ?	器面摩耗	129	139
a6	かわらけ	手づくね	S04 1区 堆積土上位	口縁部	-	-	70	指ナデ/ナデ/-	器面摩耗	129	139
a7	かわらけ	甕	S04 2区 堆積土中位	底部	(6.8)	[1.7]	194	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ?	器面摩耗	129	139
a8	かわらけ	手づくね	S04 3区 堆積土中位	口縁部	-	-	32	指ナデ/ナデ/-		129	139
a9	かわらけ	甕	S04 6区 堆積土上位	口縁部	(7.6)	[2.0]	311	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ?	器面摩耗、轆轤大A類	129	139
a10	かわらけ	甕	S04 6区 堆積土中位	口縁部	(8.0)	[2.7]	665	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ?	器面摩耗、轆轤大A類	129	139
a11	かわらけ	手づくね	S04 断面C北側 2層	口~胴	(13.2)	-	188	指ナデ・ナデ/ナデ/-	器面摩耗	129	139
a12	須恵器	甕	S05 南西ベルト1層	胴部	-	-	61	回転ナデ/回転ナデ/-		129	139
a13	土師器	甕	S05 堆積土上位	口縁部	-	-	65	回転ナデ/回転ナデ/-	杯口b類、器面摩耗	129	139
a14	土師器	甕	S05 堆積土上位	口縁部	-	-	42	ナデ/ナデ/-	壺I a類	129	139
a15	かわらけ	甕	S05 北東区 堆積土中位	口~底	(14.4)	(8.6)	350	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ?	器形変形、轆轤大B類	129	139
a16	須恵器	甕	S06 北西区 堆積土下位	口縁部	-	-	250	非回転ヘラケズリ/ナデ/-		129	139
a17	かわらけ	甕	S07 1区 堆積土上~中位	口縁部	-	-	143	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ?		129	139
a18	かわらけ	甕	S07 (S08) 1区 堆積土上位	口縁部	(8.0)	[2.9]	388	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ?	器面摩耗、轆轤大A類	129	139
a19	かわらけ	甕	S07 (S08) 1区 堆積土上位	口縁部	(8.4)	(6.0)	183	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ?	轆轤小B類	129	139
a20	かわらけ	甕	S07 (S08) 1区 堆積土上位	底部	(10.2)	(6.8)	21	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ?	器面摩耗、轆轤小A類	129	139
a21	かわらけ	手づくね	S07 (S08) 1区 堆積土上位	口~胴	-	-	82	指ナデ・ナデ/ナデ/-		129	139
a22	かわらけ	手づくね	S07 (S08) 1区 堆積土上位	口縁部	(13.8)	-	210	指ナデ・ナデ/ナデ/-		129	139
a23	かわらけ	甕	S07 3区 堆積土上位	底部	-	-	153	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ?	器面摩耗	129	139
a24	須恵器	甕	S09 ベルト2層	口縁部	-	-	385	回転ナデ/回転ナデ/-	焼成時に変形、自然釉付着	129	139
a25	かわらけ	甕	S09 ベルト3層	口縁部	(8.0)	6.3	500	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ?	轆轤小A類	129	139
a26	須恵器	甕	S09 ベルト6-7層	胴部	-	-	2260	叩き/叩き/-	内外面、前面全て摩耗、破片として二次利用したか	129	139
a27	土師器	甕	S10 3区サブトロンチ 堆積土	口縁部	-	-	92	ナデ/ナデ/-	壺I a類	129	139
a28	かわらけ	甕	S12 堆積土最上位	底部	(6.2)	[2.3]	356	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ?		129	139
a29	土師器	甕	S13 北東区 堆積土上位	底部	-	-	224	ナデ・ハケまたは叩き/ナデ/-	壺II a類、出羽型か	129	139
a30	土師器	甕	S13 南東区 堆積土中位	底部	-	-	75	回転ナデ/ミガキ・黒色処理/回転ナデ?	杯口a類	129	139
a31	土師器	甕	S14 北東区 堆積土上位	口縁部	(20.4)	-	223	回転ナデ/回転ナデ/-	壺II a類	129	139
a32.1	土師器	甕	S14 南西区 堆積土最上位	胴部	-	(9.8)	769	ナデ/ナデ/ナデ?	壺I a類、器面摩耗、a42と同一個体	129	139
a32.2	土師器	甕	S14 南西区 堆積土最上位	胴部	-	-	435	ナデ/ナデ/ナデ?	壺I a類、器面摩耗、a43と同一個体、写真のみ掲載	-	139
a33	須恵器	甕	S14 南西区 堆積土上位、北西区 堆積土上位、南東区 堆積土上位	胴部	-	5.4	619	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ?		129	139
a34	土師器	甕	S14 南東区 堆積土上位	口縁部	(17.6)	-	101	回転ナデ/回転ナデ/-	壺II a類	129	139
a35	須恵器	甕	S14 南東区 堆積土最上位	胴部	-	-	734	叩き/叩き/-		129	139
a36	須恵器	甕	S14 南東区 堆積土上位、堆積土下位	胴部	-	-	287.6	叩き/叩き/-		130	139
a37	須恵器	甕	S14 カマド1 堆積土	胴部	-	-	166.1	叩き/叩き/-		130	139
a38	須恵器	甕	S14 カマド1 堆積土	胴部	-	-	255.5	叩き/叩き/-		130	140
a39	土師器	甕	S14 カマド1 堆積土	胴部	-	(6.4)	486	回転ナデ→ケズリ?/ミガキ・黒色処理/回転ナデ?	杯口a類、器面摩耗	129	139
a40	須恵器	甕	S14 カマド1 堆積土	胴部	-	-	197.7	叩き/叩き/-	自然釉、変形	130	140
a41	土師器	甕	S14 カマド1・北東・南東区 堆積土、検出面、床面構築土	口~胴	(24.0)	-	653.1	ハケ/ハケ/-	壺I a類、スス	131	140
a42	須恵器	甕	S14 カマド1 堆積土	胴部	-	-	175.6	叩き/叩き/-	自然釉	131	140
a43	須恵器	甕	S14 カマド2層出し 堆積土	口縁部	(18.8)	-	101	回転ナデ/回転ナデ/-	穴口蓋	130	139
a44	須恵器	甕	S14 カマド2層出し 堆積土	胴部	-	-	47.9	回転ナデ→ナデ/回転ナデ/-	二次被熱か	130	139

第10表 土器観察表(2)

掲載 No.	種別	器種	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)	重量 (g)	調整 (外面/内面/底部)	備考	図版 No.	写真 No.
a45	須恵器	甕	SI14 カマド1周辺 堆積土上位	胴部	-	177.4	叩き/叩き/-		130	140
a46	須恵器	坏	SI14 カマド1付近 床面直上、土坑1 堆積土	胴~底	6.0 [2.6]	74.3	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ		130	139
a47	須恵器	坏	SI14 土坑1 堆積土、土坑2直上・堆積土下位	口縁部	(16.6)	29.3	回転ナデ/回転ナデ/-		130	139
a48	須恵器	瓶	SI14 土坑1 堆積土下位	胴部	-	70.9	回転ナデ→沈線2条/回転ナデ/-		131	139
a49	土師器	甕	SI14 土坑2直上	底部	-	37.0	ケズリ→ハケ/ハケ/ナデ	甕I a類	130	139
a50	須恵器	瓶	SI14 土坑2直上	胴部	-	83.6	回転ナデ→ケズリ/口縁目/-		131	140
a51	土師器	坏	SI14 8層 (床面構築土)	底部	(4.6)	25.7	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	坏II b類	130	140
a52	土師器	甕	SI14 8層 (床面構築土)	底部	(5.8)	20.3	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	甕II a類	131	140
a53	須恵器	甕	SI14 8層 (床面構築土)	胴部	-	184.4	叩き/叩き→ナデ/-		131	141
a54	土師器	高台坏	SI14 8層 (床面構築土)	口~胴	(13.8)	32.9	回転ナデ→ナデ/ミガキ・黒色処理/ナデ	高台欠損	131	140
a55	須恵器	坏	SI14 南側ベルト 堆積土	口~胴	(14.0)	19.7	回転ナデ/回転ナデ/-		131	140
a56	土師器	坏	SI15 1区 床面直上、2区カマド周辺・堆積土 床面直上、3区 埋積土	口~底	(15.4)	74.6	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	坏II b類、内面にコゲまたは油煙	131	140
a57	土師器	坏	SI14 カマド付近 床面直上	口~底	(12.8)	5.3	回転ナデ/ミガキ・黒色処理/回転ナデ	坏II a類、底部摩耗	131	140
a58	土師器	坏	SI15 2区 堆積土	口~胴	(11.6)	22.8	回転ナデ/ミガキ・黒色処理/-	坏II a類	131	140
a59	土師器	甕	SI15 2区カマド周辺 床面直上、3区 堆積土、堆積土上位	胴~底	(10.0)	231.9	ナデ→ケズリ/ナデ/ハラケズリ	甕I a類、底部外面にスス	131	140
a60	土師器	坏	SI15 2区カマド周辺 床面直上、カマド 土器No.2 (支脚)・堆積土	口~底	(14.6)	166.1	回転ナデ/ミガキ・黒色処理/回転ナデ	坏II a類、カマド支脚として二次使用、被熱により黒色処理一部欠損している	131	141
a61	土師器	甕	SI15 2区カマド周辺 床面直上、カマド堆積土、2・3区 堆積土	口~胴	23.6	75.43	回転ナデ→ケズリ/回転ナデ→ナデ/-	甕II a類、器面摩耗、器形変形 (最小口径22.2mm)	132	141
a62	土師器	甕	SI15 土器No.1 検出面	胴~底	-	189.6	回転ナデ→回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	甕II a類、器面摩耗、スス	132	141
a63	須恵器	甕	SI15 カマド堆積土	胴部	-	50.92	叩き/叩き/-	自然釉、変形	132	141
a64	須恵器	坏	P1547 堆積土上位	胴~底	(5.6)	33.3	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	焼成不良、胴部まで余切り破残	132	140
a65	須恵器	甕	SI15 土坑1 土器No.6・堆積土	口~胴	(14.6)	78.2	回転ナデ/回転ナデ/-	甕II a類、内面摩耗、ススコゲ	132	140
a66	須恵器	甕	SI15 土器No.1	胴部	-	126.6	回転ナデ/ケズリ/回転ナデ/-	回転ナデの工具痕カキム痕に明瞭	132	141
a67	土師器	甕	SI15 土器No.4、2区 堆積土 SI14 ベルト西側 堆積土、北東・南東区 堆積土、検出面、土坑 SI62 堆積土上位 P386 検出面	胴部	-	772.7	ケズリまたはハケ/ナデ/-	甕I a類、摩耗と被熱により調整不明瞭、スス	132	141
a68	土師器	甕	SI15 床面構築土	口縁部	(15.6)	29.9	回転ナデ/回転ナデ/-	甕II a類、コゲ	132	141
a69	土師器	甕	SI14 南西区 堆積土	口~胴	(24.4)	171.6	回転ナデ→ナデ・ケズリ/回転ナデ/-	甕II a類、器面摩耗、スス	132	141
a70	須恵器	甕	SI15 貯蔵穴 土器No.6	胴部	-	163.0	回転ナデ/ケズリ/回転ナデ/-	回転ナデの工具痕カキム痕に明瞭	133	141
a71	須恵器	甕	SI15-16 堆積土上位	胴部	-	33.0	叩き/叩き/-		133	142
a72	土師器	甕	SI19 F08 堆積土 SK84 堆積土下位 SK88 堆積土下位	底部	-	113.8	ナデ/ナデ/ケズリ	甕I a類、器面摩耗	133	142
a73	土師器	甕	SI19 カマド1 検出ベルト 堆積土上位	底部	-	138.6	ナデ/ハケ/ナデ	甕I a類、スス	133	142
a74	須恵器	坏	SI19 カマド1周辺 堆積土、カマド2周辺 堆積土下位、南東区 堆積土上位	口~底	(13.8)	58.7	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ		133	142
a75	土師器	鈎	SI19 カマド1周辺 堆積土、北東区 床面直上・床面構築土	口~胴	(32.4)	292.8	ナデ/ナデ/-	口縁部変形、スス、器面摩耗	133	142
a76	土師器	甕	SI19 カマド1 検出し 堆積土上位	口~胴	-	325.1	ハケ→ケズリ/ナデ (ケズリに近い)/-	甕I a類	134	142
a77	土師器	甕	SI19 カマド1 検出し 堆積土上位	胴部	-	132.8	回転ナデ→叩き (平行)→ケズリ/叩き→ナデ/-		134	142
a78	須恵器	甕	SI19 カマド1 検出し 堆積土上位	頸~胴	-	366.5	ナデ・叩き (平行)→ナデ・叩き (背海波)/-	甕II a類、出羽型	133	142
a79	須恵器	甕	SI19 カマド1 検出し 堆積土上位	胴部	-	267.1	叩き (平行)→叩き (平行)→ナデ/-		133	142
a80	須恵器	坏	SI19 カマド1 検出ベルト 堆積土、カマド2周辺 堆積土、北東区 堆積土上位、南西区 堆積土上位	口~底	(12.4)	74.4	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ		134	142
a81	土師器	甕	SI19 カマド1 検出ベルト 堆積土、カマド2周辺 堆積土上位、南西区 堆積土上位	胴部	-	170.6	ナデ→叩き (平行)→ナデ→叩き (平行)/-	甕II a類、出羽型	134	143
a82	土師器	甕	SI19 カマド2 検出 堆積土	口縁部	(14.0)	16.7	回転ナデ/回転ナデ/-	甕II a類、器面摩耗	134	142

第10表 土器観察表 (3)

掲載 No.	種別	器種	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)	重量 (g)	調整 (外面/内面/底部)	備考	図版 No.	写真
a83	土師器	鍋	SI9 カマド2層出し 堆積土下位	口縁部	口径 (38.6) 底径 (10.8)	215.7	ナデ/ナデ/-	ススコグ	133	
a84	土師器	甕	SI9 カマド2層出し 堆積土下位	胴~底	- (7.4)	124.6	ケズリ/ナデ/ナデ	葉I a類	134	
a85	土師器	甕	SI9 カマド2層出し 堆積土下位	口~胴	(22.0)	417.5	回転ナデ→ハケ→ケズリ/回転ナデ→ハケ/-	葉II a類、粘土?付着	134	
a86	土師器	甕	SI9 カマド2層出し 堆積土下位	口~胴	(14.2)	286.7	ハケ→ナデ・横ナデ/ハケ/-	葉I a類、ススコグ	134	
a87	土師器	甕	SI9 カマド2層出し 堆積土下位	口~胴	(20.8)	142.4	ハケ/ハケ→ナデ/-	葉I a類、ススコグ	134	
a88	土師器	甕	SI9 カマド2層出し 堆積土下位	口~胴	-	167.2	ナデ→ケズリ/ナデ (又は弱ハケ)/-	葉I a類、コグ	135	
a89	須恵器	甕	SI9 カマド2層出し 堆積土下位	胴部	-	380.6	叩き(平行)/叩き(平行)/-	葉I a類、器面摩耗	135	
a90	土師器	甕	SI19 カマド2周辺 堆積土下位、P08 堆積土、北東区 床面直上~床面構築上、南東区 堆積土下位	口~胴	(27.1)	440.0	ナデ/ナデ/-	葉I a類、器面摩耗	136	
a91	須恵器	環	SI19 カマド2周辺 床面直上、南西区 堆積土下位	口~底	(13.6) (6.6)	63.7	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	器面摩耗	135	
a92	土師器	甕	SI9 カマド2直上	底部	- (11.0) [50]	252.4	ハケ・ナデ/ハケ・ナデ/ナデ	葉I a類、器面摩耗、上1/3底風の底部	135	
a93	土師器	甕	SI19 カマド2東西ベルト	口~胴	(16.0)	31.7	ナデ/ナデ/ナデ	葉II a類、器面摩耗	135	
a94	土師器	甕	SI19 カマド2前 堆積土、南区 堆積土最上位	底部	- (10.4) [27]	73.7	ナデ/ナデ/ナデ	葉I a類	135	
a95	土師器	甕	SI19 カマド2直上、周辺 堆積土、南東区 堆積土上~下位	口~胴	23.1	- [30.1]	ナデ/ナデ/ナデ	葉I a類	136	
a96	土師器	甕	SI19 カマド2層出し 堆積土上~最下位	口~底	21.0	10.0	回転ナデ→ハケ→ケズリ/回転ナデ→ハケ/ケズリ	葉II a類、器形歪み、コグ	136	
a97	須恵器	高台環	SI19 北壁溝 堆積土	胴~底	- (7.6) [1.4]	20.3	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	葉I a類、器面摩耗	135	
a98	土師器	環	SI19 貯蔵穴 堆積土下位	口~底	11.8	6.0	ナデ→ケズリ/ナデ/ケズリ	葉I a類、器面摩耗	135	
a99	須恵器	環	SI19 貯蔵穴 堆積土下位、南東区 堆積土下位	口~底	12.4	5.0	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	葉I a類、器面摩耗	135	
a100	須恵器	環	SI19 貯蔵穴 堆積土下位	口~底	(12.8)	7.6	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	葉I a類、器面摩耗	135	
a101	須恵器	甕	SI19 貯蔵穴西側 堆積土上位	胴~底	-	6.0	叩き(平行)/叩き(薄波、平行)/-	焼成不良	135	
a102	須恵器	甕	SI19 貯蔵穴西側 堆積土上位	胴部	-	178.1	叩き(平行)/叩き(薄波、平行)/-	焼成不良	135	
a103	土師器	環	SI19 北西区 堆積土下位、西辺周溝 堆積土上位	胴~底	- (6.7) [23]	31.3	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	葉II b類	135	
a104	須恵器	環	SI19 北西区 堆積土下位	胴~底	- (7.0) [20]	15.2	回転ナデ→ハケ→ケズリ/回転ナデ/回転ナデ	葉II a類、器面摩耗	135	
a105	土師器	環	SI19 北西区 堆積土最上位	底部	- (13.0) (6.4)	41.2	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	葉II a類、器面摩耗	136	
a106	須恵器	環	SI19 北西区 床面構築上、堆積土上位	口~底	13.7	7.4	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	葉II a類、器面摩耗	136	
a107	須恵器	環	SI19 北東区 堆積土下位	口~底	-	7.0	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	器面摩耗	136	
a108	須恵器	環	SI19 北東区 堆積土下位、南北ベルト北側 堆積土上位	胴~底	-	48.5	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	器面摩耗、焼成不良	136	
a109	土師器	環	SI19 北東区 堆積土上位、東西ベルト東側 堆積土下位	口~底	(11.3)	4.9	ナデ→横ナデ/ナデ/ケズリ?	葉I b類、器面摩耗	136	
a110	縄文土器	深鉢	SI19 北東区 床面構築上	胴部	-	17.6	LR/ナデ/-	器面摩耗	136	
a111	土師器	環	SI19 北東区 床面直上	口~底	(11.3)	4.8	ナデ→ケズリ/ナデ/ケズリ	葉I b類、油漣	136	
a112	須恵器	甕	SI19 北東区 堆積土上位	頸部	-	59.8	ナデ→淡状文/ナデ/-	葉I a類、器面摩耗	136	
a113	須恵器	環	SI19 北東区 床面直上~床面構築上	胴~底	- (6.8) [2.4]	31.5	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	葉I a類、器面摩耗	137	
a114	土師器	甕	SI19 南西・南東区 床面構築上	口~胴	-	73.3	ハケ・ナデ→ケズリ/ハケ/-	葉I a類、器面摩耗、器形変形	137	
a115	土師器	甕	SI19 南西区 床面構築上	胴~底	- (9.0) [4.8]	85.4	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	葉II a類、器面摩耗	137	
a116	須恵器	環	SI19 南西区 床面構築上	口~底	13.2	6.4	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	器面摩耗	137	
a117	土師器	鍋	SI19 南西区 堆積土下位、南東区 堆積土上位	口~胴	-	78.4	ナデ/ナデ/-	スス	137	
a118	土師器	環	SI19 南西区 堆積土上~下位	口~底	(10.8) (4.8)	84.4	ナデ→ケズリ/ナデ/ケズリ	葉I b類、器面摩耗	137	
a119	土師器	深鉢	SI19 南西区 堆積土上位	胴部	-	6.1	原形不明→沈線/ナデ/-	器面摩耗、大木8b~9式	137	
a120	土師器	土師器	SI19 南西区 堆積土上位	口~底	(12.6) (7.0)	59.0	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	葉II b類、器面摩耗	137	
a121	土師器	環	SI19 南東区 床面構築上	底部	- (6.0) [1.5]	12.7	回転ナデ/回転ナデ→ミガキ・黒色処理/回転ナデ?	葉II a類	137	
a122	須恵器	環	SI19 南東区 床面構築上、北西区 堆積土下位	口~底	(14.0) (7.6)	4.0	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	葉II a類	137	
a123	土師器	甕	SI19 南東区 床面構築上	底部	- (10.1) [3.0]	99.4	ナデ/ナデ/ケズリ	葉I a類、底面にスス	137	
a124	須恵器	瓶	SI19 南東区 床面構築上	底部	- (6.6) [2.2]	20.4	回転ナデ→ナデ/コナ押仕籠/-	高台肩部摩耗	137	
a125	須恵器	環	SI19 南東区 堆積土下位	口~底	12.5	5.2	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	葉I b類、器面摩耗	137	
a126	須恵器	環	SI19 南東区 堆積土下位	口~胴	(13.2)	- [6.1]	回転ナデ/回転ナデ/-	葉I a類	137	
a127	手づくね	不明	SI19 南東区 堆積土下位	口縁部	-	13.4	指環押仕・ナデ/ナデ/-	製磁土器か、羽口に粘土類似	137	

第10表 土器観察表(4)

掲載 No.	種別	器種	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)	重量 (g)	調整 (外面/内面/底部)	備考	図版 No.	写真 No.
a128	須恵器	甕	SI19 南東区 堆積土下位	胴部	-	70.5	叩き(平行/叩き(青海波)/-	自然曲	137	145
a129	須恵器	甕	SI19 南東区 堆積土下位	胴部	-	27.8	叩き(格子/叩き(青海波)/-	焼成不良	137	145
a130	須恵器	坏	SI19 南東区 堆積土上~下位	口~底	(12.8)	7.4	37	57.8	137	145
a131	土師器	坏	SI19 南東区 堆積土上上位	口縁部	-	14.0	16.5	14.0	137	145
a132	須恵器	甕	SI19 南区 堆積土最上位	口~胴	(13.8)	-	[3.2]	37.3	137	145
a133	土師器	甕	SI19 南区 堆積土最上位	胴部	-	-	-	-	137	145
a134	須恵器	坏	SI19 堆積土最上位	口~胴	(14.2)	(5.0)	4.4	30.0	137	145
a135	須恵器	甕	SI19 堆積土最上位	胴部	-	-	-	20.7	137	145
a136	土師器	甕	SI19 堆積土最上位	底部	-	(7.0)	[4.2]	52.5	138	145
a137	土師器	甕	SI19 堆積土最上位	底部	-	(8.0)	[1.4]	52.2	138	145
a138	かわらけ	手づくね 小	SI23 南東区 堆積土	口~底	(7.8)	-	1.5	9.8	138	145
a139	かわらけ	轆轤 小	SI24 1層	口~底	(10.3)	(6.6)	2.3	14.7	138	146
a140	須恵器	甕	SI24 1層	胴部	-	-	-	36.5	138	146
a141	かわらけ	手づくね 大	SI24 南東区サブトレント 堆積土上位	口~胴	-	-	-	15.3	138	146
a142	かわらけ	手づくね 小	SI24 北西区 堆積土上~中位、南西区 堆積土上位 SI22 北西区崖面付近 堆積土	口~底	(9.8)	-	2.1	26.7	138	146
a143	土師器	甕	SI25 カマド 堆積土	胴部	-	-	[12.2]	236.9	138	146
a144	土師器	甕	SI25 カマド付近 堆積土、南東区 堆積土上位 P4544 堆積土 P4633 堆積土	胴~底	-	10.2	[19.3]	67.58	138	146
a145	土師器	甕	SI25 東西ベルト 堆積土下位	底部	-	(9.0)	[2.8]	17.0	138	146
a146	土師器	坏	SI25 北東区 堆積土下位	口~胴	(15.8)	-	[6.9]	49.0	138	146
a147	土師器	甕	SI25 北東区 堆積土下位、南東区 堆積土上位 P4495 堆積土	口~胴	(11.8)	-	[12.9]	61.7	138	146
a148	土師器	甕	SI25 南東区 堆積土下位~床面直上	口~胴	-	-	-	51.3	138	146
a149	かわらけ	轆轤 小	SK01 1層	口~底	(8.9)	(6.0)	2.5	12.1	138	146
a150	かわらけ	轆轤 小	SK01 1層	口~底	(8.8)	(6.1)	2.7	8.9	138	146
a151	かわらけ	轆轤 小	SK01 1層	胴~底	-	(6.2)	[2.4]	37.0	138	146
a152	かわらけ	轆轤 小	SK01 1層	口~底	(8.0)	(4.6)	2.2	16.4	138	146
a153	かわらけ	轆轤 小	SK01 1層	口~底	(8.0)	(5.9)	2.0	36.4	138	146
a154	かわらけ	轆轤 小	SK01 堆積土	口~底	(8.7)	5.8	2.5	70.2	138	146
a155	かわらけ	轆轤 小	SK01 堆積土	口~底	(8.8)	(5.2)	2.4	56.7	138	146
a156	かわらけ	轆轤 小	SK01 堆積土	口~底	(8.0)	(6.4)	2.2	24.0	138	146
a157	かわらけ	轆轤 小	SK01 堆積土	口~底	(8.8)	(5.8)	2.1	15.5	138	146
a158	かわらけ	轆轤 小	SK01 堆積土	胴~底	-	6.0	[1.8]	46.9	138	146
a159	かわらけ	轆轤 小	SK01 堆積土	口~胴	(8.4)	-	[1.7]	15.4	138	146
a160	かわらけ	轆轤 小	SK01 堆積土	口~底	8.7	6.0	2.7	77.7	139	146
a161	かわらけ	轆轤 小	SK01 堆積土	口~底	(9.3)	(5.9)	2.2	15.9	139	146
a162	かわらけ	轆轤 小	SK01 堆積土	口~底	(8.8)	(5.8)	2.3	16.4	139	146
a163	かわらけ	轆轤 小	SK01 堆積土	口~底	(8.8)	(5.2)	2.0	9.4	139	146
a164	かわらけ	轆轤 小	SK01 堆積土	口~底	(7.8)	(5.6)	1.9	11.3	139	146
a165	かわらけ	轆轤 小	SK01 堆積土	口~底	(7.6)	(5.6)	2.2	8.5	139	146
a166	かわらけ	轆轤 小	SK01 堆積土	口~底	(8.5)	(6.0)	2.2	8.8	139	146
a167	かわらけ	轆轤 小	SK01 堆積土	口~底	(8.5)	(6.0)	2.2	6.1	139	146
a168	かわらけ	轆轤 小	SK01 堆積土	口~底	(8.8)	(6.1)	2.4	44.5	139	146
a169	かわらけ	轆轤 小	SK01 堆積土	口~底	(8.5)	5.8	2.3	50.2	139	146
a170	かわらけ	轆轤 小	SK01 堆積土	口~底	(8.6)	(6.2)	2.4	59.8	139	146
a171	かわらけ	轆轤 小	SK01 堆積土	口~底	(8.4)	(6.0)	2.2	12.6	139	146
a172	かわらけ	轆轤 小	SK01 堆積土	口~底	9.0	5.9	2.8	84.7	139	146

第10表 土器観察表(5)

掲載 No.	種別	器種	遺構・地点・層位	残存部位	口径	計測値 (cm)	重量 (g)	調整 (外面/内面/底部)	備考	図版 No.	写真 No.	
a173	かわらけ	甕	SK01 堆積土	口~底	(8.8)	口径 2.1 器高 (5.8)	222	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	甕小B類	139	146	
a174	かわらけ	甕	SK01 堆積土	胴~底	-	(5.8)	61.0	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	甕小B類	139	146	
a175	かわらけ	甕	SK01 堆積土	胴~底	-	6.1	60.4	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	甕小A類	139	146	
a176	かわらけ	甕	SK01 堆積土	口~底	8.1	6.0	86.1	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	内面に油煙または落葉、甕小A類	139	147	
a177	かわらけ	甕	SK01 堆積土	口~底	-	(6.4)	66.7	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	甕小A類	139	147	
a178	かわらけ	甕	SK01 堆積土	胴~底	-	5.9	47.5	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	甕小A類	139	147	
a179	かわらけ	甕	SK01 堆積土	胴~底	-	5.6	51.8	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	甕小A類	139	147	
a180	かわらけ	甕	SK01 堆積土	口~底	(8.8)	(6.1)	82.2	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	油煙、甕小A類	139	147	
a181	かわらけ	甕	SK01 堆積土	口~底	(8.9)	(5.7)	61.8	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	甕小A類	139	147	
a182	かわらけ	甕	SK01 堆積土	口~底	(9.5)	(6.6)	24	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	甕小B類	139	147	
a183	かわらけ	甕	SK01 堆積土	口~底	(8.8)	(5.6)	44.7	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	甕小B類	139	147	
a184	かわらけ	甕	SK01 堆積土	口~底	(8.5)	(6.0)	21	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	甕小A類	139	147	
a185	かわらけ	甕	SK01 堆積土	口~底	(8.6)	(6.2)	9.2	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	甕小A類	139	147	
a186	かわらけ	甕	SK01 堆積土	口~底	(8.2)	(6.5)	7.6	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	甕小B類	139	147	
a187	かわらけ	甕	SK01 堆積土	底部	-	5.5	44.4	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	甕小A類	139	147	
a188	かわらけ	甕	SK01 堆積土	底部	-	5.7	[1.55]	48.8	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	器面摩耗、甕小A類	139	147
a189	かわらけ	甕	SK01 堆積土	底部	-	5.2	[1.4]	34.8	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り?	器面摩耗、甕小A類	139	147
a190	かわらけ	甕	SK01 堆積土	底部	-	(5.6)	[1.9]	20.5	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	甕小A類	139	147
a191	かわらけ	甕	SK01 堆積土	底部	-	(6.3)	[2.1]	17.2	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	甕小A類	139	147
a192	かわらけ	甕	SK01 堆積土	底部	-	(6.0)	[1.55]	19.7	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り?	甕小A類	139	147
a193	かわらけ	甕	SK01 1層	口~胴	(15.0)	-	[3.9]	21.2	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	甕小A類	139	147
a194	かわらけ	甕	SK01 1層	口~底	(15.8)	(9.2)	3.6	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	甕小B類	139	147	
a195	かわらけ	甕	SK01 堆積土	口~底	(13.3)	(7.6)	4.3	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	甕小A類	139	147	
a196	かわらけ	甕	SK01 堆積土	口~胴	(14.8)	-	[3.8]	23.0	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	甕小B類	139	147
a197	かわらけ	甕	SK01 堆積土	底部	-	6.8	[1.5]	73.7	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	底部スノコ痕	139	147
a198	かわらけ	甕	SK01 堆積土	底部	-	7.0	[1.1]	57.9	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	器面摩耗	139	147
a199	かわらけ	甕	SK01 堆積土	底部	-	(6.0)	[1.9]	63.9	不明/不明/不明	器面摩耗	139	147
a200	かわらけ	甕	SK01 堆積土	底部	-	(6.8)	[1.0]	33.4	不明/不明/不明	器面摩耗	139	147
a201	かわらけ	甕	SK01 堆積土	底部	-	5.0	[1.4]	29.4	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	器面摩耗	140	147
a202	かわらけ	甕	SK01 堆積土	底部	-	(6.8)	[1.3]	38.3	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	器面摩耗	140	147
a203	かわらけ	甕	SK01 堆積土	底部	-	(6.0)	[1.3]	23.5	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	器面摩耗	140	147
a204	かわらけ	甕	SK01 堆積土	底部	-	(6.2)	[1.8]	25.6	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り?	器面摩耗	140	147
a205	かわらけ	甕	SK01 堆積土	底部	-	(6.6)	[1.8]	29.9	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	器面摩耗	140	147
a206	かわらけ	甕	SK01 堆積土	底部	-	(5.4)	[1.9]	20.8	回転ナデ/回転ナデ/不明	器面摩耗	140	147
a207	かわらけ	甕	SK01 堆積土	口縁部	-	-	-	9.1	回転ナデ/回転ナデ/不明	器面摩耗	140	147
a208	かわらけ	甕	SK01 堆積土	口縁部	-	-	-	12.6	回転ナデ/回転ナデ/不明	器面摩耗	140	147
a209	かわらけ	甕	SK01 斜面	胴~底	-	(7.6)	[3.2]	24.5	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	甕小A類	140	147
a210	かわらけ	手づくね	SK01 堆積土	口縁部	-	-	-	10.0	指ナデ・ナデ/ナデ/不明	器面摩耗	140	147
a211	かわらけ	手づくね	SK06 3層	口~底	9.6	-	24	87.2	横ナデ・ナデ・指頭押圧/横ナデ・ナデ/不明	甕小A類	140	147
a212	かわらけ	甕	SK06 堆積土	口~胴	(12.7)	-	[3.1]	15.2	回転ナデ/回転ナデ/不明	甕小A類	140	147
a213	かわらけ	甕	SK06 堆積土	底部	-	7.2	[1.4]	93.9	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	器面摩耗	140	147
a214	かわらけ	手づくね	SK07 堆積土	口~底	(12.8)	-	[2.8]	36.5	横ナデ・ナデ・指頭押圧/横ナデ・ナデ/不明	器面摩耗	140	147
a215	かわらけ	甕	SK07 堆積土	口~底	(9.4)	(6.3)	1.8	44.8	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	甕小B類	140	147
a216	かわらけ	手づくね	SK07 堆積土	口~底	(13.9)	-	[2.9]	31.8	横ナデ・ナデ・指頭押圧/横ナデ・ナデ/不明	甕小A類	140	147
a217	かわらけ	手づくね	SK12 1~3層	口~底	(8.4)	(6.2)	20	18.1	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	器面摩耗、甕小B類	140	147
a218	かわらけ	手づくね	SK12 4~7層	口~胴	(14.0)	-	[3.4]	21.6	指ナデ・ナデ/ナデ/ナデ	内面に油煙	140	147
a219	かわらけ	甕	SK12 8層	底部	-	(6.8)	[1.4]	20.0	回転ナデ/回転ナデ/不明	器面摩耗	140	147
a220	かわらけ	手づくね	SK12 8層~底面直上	口~底	(14.6)	-	3.4	24.5	指ナデ・ナデ/ナデ/ナデ	器面摩耗	140	147
a221	かわらけ	甕	SK12 堆積土中位	底部	-	6.2	[1.4]	60.8	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り→焼成直前の圧痕	器面摩耗	140	147

第10表 土器観察表 (6)

掲載 No.	種別	器種	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)	重量 (g)	調整 (外面/内面/底部)	備考	図版 No.	写真
a222	かわらけ	甕	SK12 堆積土中位	底部	口径 5.6 [1.4]	444	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	甕小A類	140	147
a223	かわらけ	甕	SK17 4層	口~底	口径 12.9 [4.2]	2280	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	口縁部に油煙、甕大A類	140	147
a224	かわらけ	手づくね 大	SK17 堆積土下位	口~底	口径 (15.4) - [2.4]	177	指ナデ・ナデ/ナデ/-		140	147
a225	かわらけ	手づくね 小	SK17 堆積土中位	口~底	口径 (8.2) - [1.7]	242	指ナデ・ナデ/ナデ/ナデ		140	147
a226	かわらけ	甕	SK17 堆積土上位	口~底	口径 (13.0) (7.0)	40	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	器面摩耗、甕大A類	140	147
a227	かわらけ	甕	SK24 底面直上	口~底	口径 8.2 [5.4]	559	回転ナデ/回転ナデ/静止ナデ	器形若干変形、甕小B類	140	147
a228	かわらけ	甕	SK24 堆積土上位	口~底	口径 (8.8) (6.1)	280	回転ナデ/回転ナデ/静止ナデ	器面摩耗、甕小C類	140	147
a229	かわらけ	甕	SK24 1~2層	口~底	口径 8.6 [7.4]	529	回転ナデ/回転ナデ/静止ナデ	器面摩耗、甕小B類	140	147
a230	かわらけ	甕	SK24 堆積土上位 T20 1層 S04 3区 堆積土下位	口~底	口径 (8.7) (7.0)	649	回転ナデ/回転ナデ/静止ナデ	器面摩耗、器形歪み大、甕小B類	140	147
a231	かわらけ	甕	SK24 1~2層	口~底	口径 (8.8) (6.9)	453	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	甕小B類	140	148
a232	かわらけ	甕	SK24 1~2層	口~底	口径 - [6.5] [1.5]	80.6	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	器面摩耗	140	148
a233	かわらけ	甕	SK24 1~2層	口~底	口径 (13.0) (6.8)	436	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	器面摩耗、甕大A類	140	148
a234	かわらけ	甕	SK24 1~2層	口~底	口径 (14.6) (7.2)	29.5	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	器面摩耗、器形歪み大、甕大B類	140	148
a235	かわらけ	甕	SK24 堆積土上位	口~底	口径 - [9.0] [3.4]	104.4	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	甕大A類	140	148
a236	かわらけ	甕	SK24 堆積土上位	口~底	口径 (14.2) (9.4)	131.7	回転ナデ/回転ナデ/静止ナデ	甕大A類	140	148
a237	かわらけ	手づくね 大	SK24 1~2層	口~底	口径 (14.0) - [3.1]	390	指ナデ・ナデ/ナデ/ナデ		141	148
a238	かわらけ	甕	SK25 1層	底部	口径 - [6.2] [1.7]	28.3	回転ナデ/回転ナデ/静止ナデ	底部摩耗	141	148
a239	かわらけ	甕	SK25 1層	底部	口径 - [7.0] [1.5]	28.2	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ		141	148
a240	かわらけ	甕	SK25 堆積土上~中位	口~底	口径 - [6.2] [3.0]	42.4	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	器面摩耗	141	148
a241	かわらけ	甕	SK25 堆積土上~中位	口~胴	口径 (14.0) - [3.4]	177	回転ナデ/回転ナデ/-		141	148
a242	須恵器	瓶	SK33 堆積土	胴部	口径 - - [21.3]	21.3	回転ナデ/口ナデ		141	148
a243	かわらけ	甕	SK40 堆積土上位	口~底	口径 8.7 [6.5]	69.6	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	器面摩耗、甕小B類	141	148
a244	かわらけ	手づくね 大	SK40 堆積土上位 PI26 堆積土下位	口~底	口径 15.5 (10.4)	33	指ナデ・ナデ/ナデ/ナデ		141	148
a245	縄文土器	深鉢	SK43 1層	胴部	口径 - - [15.5]	15.5	RL?/ナデ/-		141	148
a246	須恵器	坏	SK63 堆積土	口縁部	口径 - [3.1]	3.1	回転ナデ/回転ナデ/-		141	148
a247	土師器	坏	SK81 東階際 堆積土下位	口~底	口径 (12.2) 5.7	199.7	ナデ・横ナデ/ナデ・横ナデ/ナデ	坏 I b類、器面摩耗	141	148
a248	かわらけ	甕	SK82 検出面	口~底	口径 (8.3) (5.8)	19.5	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	甕小B類	141	148
a249	土師器	坏	SK82 検出面	口~胴	口径 (17.6) - [4.3]	42.7	横ナデ・ナデ/横ナデ・ナデ/-	坏 I b類	141	148
a250	かわらけ	手づくね 大	SK82 検出面 SD42 ベルト①東側 堆積土	口~胴	口径 (14.0) - [3.6]	34.5	横ナデ・ナデ/横ナデ・ナデ/-	油煙カスス付着	141	148
a251	かわらけ	甕	SK82 底面直上	口~底	口径 8.3 [5.6]	75.4	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	甕小B類	141	148
a252	土師器	坏	SK83 北階際 堆積土下位	口~底	口径 (10.6) 5.2	164.7	ナデ→回転ナデ/ナデ/回転ナデ	坏 I b類、器面摩耗	141	148
a253	土師器	甕	SK83 西階際 堆積土	口~底	口径 - [7.3] [5.2]	122.5	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	甕 II a類、器面摩耗、スス	141	148
a254	土師器	坏	SK83 南側 堆積土下位	口~底	口径 (11.6) 6.4	4.2	ナデ→ケズリ/ナデ/ケズリ	坏 I b類、器面摩耗	141	148
a255	かわらけ	甕	SK84 底面直上	胴~底	口径 - [9.0] [2.8]	33.8	回転ナデ/回転ナデ/ナデ?	器面摩耗	141	148
a256	須恵器	坏	SK88 堆積土上位	口~底	口径 (13.8) (7.6)	25.3	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	同一個体2片あるが接合せず、図上で台成、焼成不良	141	148
a257	土師器	甕	SK90 東西ベルト SD40 堆積土	底部	口径 - [7.9]	26.9	ナデ/ハケ・ナデ/木葉痕→ナデ	甕 I a類	141	148
a258	土師器	甕	SK90 堆積土上位	胴部	口径 - [4.1]	26.7	回転ナデ/回転ナデ/-	甕 I b類、赤彩球明瞭小、頸部三段接合	141	148
a259	縄文土器	深鉢	SK90 堆積土上位	胴部	口径 - - [9.7]	9.7	LR→ナデ/ナデ/-		141	148
a260	縄文土器	深鉢	SK90 堆積土上位	胴部	口径 - - [9.3]	9.3	LR/ナデ/-		141	148
a261	土師器	甕	SK104 堆積土中位	底部	口径 - [6.8]	30.7	ナデ/ナデ/ナデ	甕 I a類、器面摩耗、スス	141	148
a262	かわらけ	甕	SD01 堆積土	底部	口径 - [1.4]	55.2	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	甕小A類	141	148
a263	かわらけ	手づくね 大	SD02 A区 堆積土上位	底部	口径 - [5.4] [1.1]	37.7	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	器面摩耗	141	148
a264	かわらけ	手づくね 大	SD02 B・C区 堆積土	口~底	口径 (15.3) - [3.8]	54.2	横ナデ・ナデ・指頭押圧/横ナデ・ナデ/-		141	148
a265	かわらけ	手づくね 大	SD02 B・C区 堆積土	口~底	口径 (14.4) - [3.5]	39.0	横ナデ・ナデ・指頭押圧/横ナデ・ナデ/-		141	148
a266	須恵器	坏	SD02 B区 堆積土	口縁部	口径 - - [3.1]	3.1	回転ナデ/回転ナデ/-		141	148
a267	土師器	甕	SD02 B区 堆積土	底部	口径 - [2.3]	46.1	ナデ/ナデ/ナデ?	甕 I a類、器面摩耗	141	148

第10表 土器観察表 (7)

掲載 No.	種別	器種	遺構・地点・層位	残存部位	口徑	計測値 (cm)	重量 (g)	調整 (外面/内面/底部)	備考	図版 No.	写真 No.	
a268	土師器	環	SD02 C区 堆積土上位	底部	-	46 [11]	101	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	坏Ⅱb類、器面摩耗	142	148	
a269	須恵器	甕	SD02 D区 堆積土下位	胴部	-	-	90.3	叩き/叩き/-	自然軸	142	148	
a270	かわらけ	甕 小	SD02 B区 堆積土	口~底	(98)	(6.3)	329	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	甕 小B類	142	148	
a271	土師器	環	SD02 B区 堆積土	胴~底	-	(6.0) [28]	25.5	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	坏Ⅱb類	142	148	
a272	かわらけ	甕 大	SD02 B区 堆積土	口~底	(148)	(7.4)	592	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	口縁部に油煙、甕 大A類	142	148	
a273	縄文土器	深鉢	SD13 北区 (H30号溝) 検出面	胴部	-	-	14.6	LR/ナデ/-	-	142	148	
a274	かわらけ	甕 大	SD16 東側 堆積土上位	底部	-	(7.0) [15]	170	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り?	器面摩耗	142	149	
a275	かわらけ	甕 大	SD16 東側 堆積土上位	口~底	(144)	(7.3)	43.5	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	甕 大B類	142	149	
a276	かわらけ	甕 大	SD16 東側 堆積土上位	底部	-	-	[30]	回転ナデ/剥落で不明/回転糸切り	-	142	149	
a277	かわらけ	甕 大	SD30 南側 堆積土上位	口~胴	(140)	-	[27]	19.1	回転ナデ/回転ナデ/-	内面に油煙	142	149
a278	手づくね	不明	SD33 3区 堆積土	口~胴	(100)	-	[38]	24.1	ナデ/ナデ/-	-	142	149
a279	かわらけ	甕 小	SD38 土器No.2・4、E区 堆積土	口~底	8.9	6.8	2.2	83.1	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	甕 小B類	142	149
a280	かわらけ	甕 小	SD38 土器No.12	口~底	7.5	5.6	1.6	50.2	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	甕 小C類	142	149
a281	かわらけ	甕 小	SD38 土器No.14	口~底	9.3	7.0	2.1	77.3	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	甕 小B類	142	149
a282	かわらけ	甕 小	SD38 土器No.16、E区堆積土上~中位	口~底	8.5	6.2	2.0	63.4	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	甕 小B類	142	149
a283	かわらけ	甕 小	SD38 土器No.19	口~底	7.8	6.1	1.6	47.8	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	甕 小C類	142	149
a284	かわらけ	甕 小	SD38 土器No.13	口~底	8.8	7.0	2.0	65.3	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	甕 小C類	142	149
a285	かわらけ	甕 小	SD38 土器No.8・10 区画3・4間 南西側 検出面	口~底	(8.2)	(5.8)	2.0	34.3	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	器面摩耗、甕 小B類	142	149
a286	かわらけ	甕 小	SD38 土器No.5	口~底	(9.8)	(7.4)	2.1	23.4	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	底部摩耗、甕 小B類	142	149
a287	かわらけ	甕 小	SD38 土器No.7	口~底	8.1	6.0	1.6	56.0	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	器面摩耗、甕 小B類	142	149
a288	かわらけ	甕 小	SD38 土器No.8・9	口~底	(8.7)	(6.6)	1.8	36.2	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	器面摩耗、甕 小B類	142	149
a289	かわらけ	甕 小	SD38 土器No.15	口~底	(9.2)	(6.6)	1.6	28.4	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	甕 小B類	142	149
a290	かわらけ	甕 小	SD38 交差部東ベルト1層	口~底	7.9	5.8	1.6	52.3	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	甕 小B類	142	149
a291	かわらけ	甕 小	SD38 土器No.3、E区 堆積土上~中位	口~底	9.3	6.0	1.7	62.8	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	器面摩耗、口縁部歪み大、甕 小B類	142	149
a292	かわらけ	甕 大	SD38 B区十字ベルト南側 堆積土、交差部 東西ベルト1層	胴~底	-	(8.4) [21]	49.8	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	器面摩耗	142	149	
a293	かわらけ	甕 大	SD38 土器No.1	胴~底	-	7.2 [39]	121.9	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	甕 大A類	142	149	
a294	かわらけ	甕 大	SD38 土器No.10	胴~底	-	(6.6) [23]	41.8	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り?	甕 大A類	142	149	
a295	かわらけ	甕 大	SD38 交差部東ベルト1層	胴~底	-	[30]	190	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り?	-	142	149	
a296	かわらけ	甕 大	SD38 土器No.17、E区 堆積土上~中位	底部	-	(7.4) [15]	65.4	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	器面摩耗	142	149	
a297	かわらけ	手づくね 大	SD38 交差部東ベルト2層	口縁部	(14.6)	-	[235]	12.7	指ナデ/ナデ/ナデ/-	-	142	149
a298	かわらけ	甕 小	SD38・39 B区 堆積土上位	口~底	9.0	6.8	1.8	43.6	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	器面摩耗、甕 小B類	142	149
a299	かわらけ	手づくね 大	SD38・39 B区 堆積土上位 36号溝土器No.20	口~底	14.3	-	3.5	186.6	指ナデ/ナデ/ナデ/ナデ	-	142	149
a300	かわらけ	手づくね 大	SD40 C区 堆積土上~中位	口縁部	(15.6)	-	[29]	16.5	指ナデ/ナデ/ナデ/-	-	142	149
a301	土師器	環	SD42 ベルト①・②間 堆積土	口縁部	(14.0)	-	[26]	6.5	回転ナデ/回転ナデ/-	坏Ⅱb類、器面摩耗、焼き膨れで肥大か	143	149
a302	かわらけ	甕 小	SD42 ベルト①西側 堆積土	口~底	(8.8)	(6.6)	20	20.5	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	器面摩耗、甕 小B類	143	149
a303	土師器	甕	SD42 ベルト①西側 堆積土	口縁部	(20.4)	-	[25]	13.8	回転ナデ/回転ナデ/-	Ⅱa類	143	149
a304	かわらけ	手づくね 大	SD42 ベルト①東側 堆積土	口~底	(15.6)	-	[31]	20.3	棒ナデ/ナデ、指頭押圧/棒ナデ/ナデ/-	油煙	143	149
a305	かわらけ	手づくね 大	SD42 ベルト①東側 堆積土	口~胴	(14.0)	-	[30]	14.7	棒ナデ/ナデ、指頭押圧/棒ナデ/-	-	143	149
a306	かわらけ	手づくね 大	SD44 堆積土下位	底部	-	-	23.1	-/棒ナデ/指頭押圧/ナデ	-	143	149	
a307	土師器	高台埴	SD101 西端 堆積土上位	胴~底	-	-	[27]	14.5	回転ナデ/回転ナデ/-	高台埴	143	149
a308	かわらけ	甕 大	SD101 西端から12m 堆積土上位	底部	-	6.8 [1.2]	59.4	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	器面摩耗	143	149	
a309	須恵器	甕	SD101 西端から25m 堆積土下位	胴部	-	-	200.6	叩き/叩き/-	-	143	149	
a310	須恵器	甕	SD103 堆積土上位	胴部	-	-	38.2	回転ナデ/コテ押圧痕/-	自然軸	143	149	
a311	土師器	甕	SD104 ベルト	胴部	-	-	25.8	叩き/叩き/-	甕Ⅱa類、凸凹型	143	149	
a312	須恵器	甕	SD104 ベルト	頸部	-	-	17.1	回転ナデ/回転ナデ/-	リング状凸帯	143	149	
a313	須恵器	甕	SD104 ベルト 堆積土下位	胴部	-	-	62.5	叩き/ハケ/ナデ/-	-	143	149	

第10表 土器観察表 (8)

掲載 No.	種別	器種	遺構・地点・層位	残存部位	口径	計測値 (cm)	重量 (g)	調整 (外面/内面/底部)	備考	図版 No.	写真 No.	
a314	須恵器	甕	SD104 ベルト 堆積土下位	胴部	-	-	132.1	叩き/叩き/-	自然釉	143	150	
a315	須恵器	甕	SD104 ベルト東側 堆積土最下位	胴部	-	-	41.8	叩き/叩き/-		143	149	
a316	土師器	甕	SD104 ベルト東側 堆積土上位	口縁部	-	-	70.3	ハケ/ハケ/-	Ⅱ a 類	143	150	
a317	須恵器	甕	SD104 ベルト東側 堆積土上位	口-胴	(16.0)	-	[2.0]	回転ナデ→回転ヘラケズリ/回転ナデ/	柄み部残存	143	150	
a318	須恵器	甕	SD104 ベルト東側 堆積土上位	胴部	-	-	60.5	叩き/叩き/-		143	150	
a319	手づくね	不明	SD104 堆積土下位	胴部	-	-	16.3	ナデ/ナデ/-	接合痕明確、製塩土器小	143	150	
a320	土師器	甕	SD105 堆積土	底部	-	(9.4)	[2.3]	ナデ/ナデ/本葉縁→ナデ?	Ⅱ a 類	143	150	
a321	須恵器	甕	SD106 中央トレンチ 堆積土中～下位	胴部	-	-	58.4	叩き (平行)/ナデ/-		143	150	
a322	須恵器	甕	SD106 中央トレンチ 堆積土中～下位	胴部	-	-	44.3	叩き (平行)/叩き (平行)/-		143	150	
a323	縄文土器	浅鉢	SD106 中央ベルト 1層	胴部	-	-	11.0	RL→沈瀬・変形文/ナデ/-	大割A1式	143	150	
a324	須恵器	甕	SD106 中央ベルト 堆積土上位	頸部	-	-	110.6	ナデ/ナデ/-	接合部に叩きか、須恵器系陶器の可能性有	143	150	
a325	須恵器	甕	SD106 西端 堆積土中位	口縁部 (42.6)	-	[3.3]	32.3	ナデ/ナデ/-	自然釉	143	150	
a326	縄文土器	深鉢	SD106 西端 堆積土中位	口縁部	-	-	35.6	ナデ・沈瀬/ナデ/-	晩明か	143	150	
a327	須恵器	甕	SD106 西端南隣付近 堆積土下位	胴部	-	-	30.3	回転ナデ/回転ナデ/-		143	150	
a328	かわらけ	甕	SD106 東端 堆積土中位	底部	-	(7.6)	[2.0]	回転ナデ/回転ナデ/回転系切り		144	150	
a329	縄文土器	浅鉢	SD106 東端 堆積土中位	胴部	-	-	6.7	RL→沈瀬/ナデ→沈瀬/-	大割A1式	144	150	
a330	須恵器	甕	SD106 東端 堆積土	胴部	-	-	62.6	叩き (平行)/叩き (青海波)/-		144	150	
a331	かわらけ	甕	SD106 南区 堆積土上～中位	口-底 (8.5)	(6.2)	1.7	26.1	回転ナデ/回転ナデ/回転系切り	器面摩耗、甕小B類	144	150	
a332	須恵器	甕	SD106 堆積土下位	頸部	-	-	35.6	横ナデ→波状文/横ナデ/-		144	150	
a333	縄文土器	深鉢	SD106 (I A19h) 堆積土上位	胴部	-	-	48.4	ナデ/ナデ/-	器面摩耗	144	150	
a334	縄文土器	深鉢	SD107 トレンチ 堆積土上～中位	底部	-	(8.0)	[2.2]	回転ナデ/回転ナデ/回転ヘラ切り		144	150	
a335	かわらけ	手づくね	SD107 トレンチ 堆積土上～中位	口縁部 (16.8)	-	[2.0]	15.4	横ナデ/横ナデ/-		144	150	
a336	かわらけ	甕	SD107 トレンチ西側 堆積土中位	胴-底	-	(9.8)	[2.7]	回転ナデ→横ナデ/回転系切り	甕小A類	144	150	
a337	土師器	甕	SD107 ベルト② 堆積土上～中位	底部	-	(6.0)	[0.9]	27.8	回転ナデ/回転ナデ/回転系切り	Ⅱ b 類、器面摩耗	144	150
a338	須恵器	甕	SD107 (I A16g) 堆積土中位	胴部	-	-	108.6	叩き (平行)/叩き (平行)・指頭押圧/-	須恵器系陶器の可能性有	144	150	
a339	かわらけ	甕	SD107 (I A16g) 堆積土中位	底部	-	(8.0)	[1.4]	25.7	回転ナデ/回転ナデ/回転系切り		144	150
a340	須恵器	甕	SD107 (S22重埋部分) 堆積土上位	胴部	-	-	69.7	叩き (平行)/叩き (青海波)→ナデ/-		144	150	
a341	かわらけ	甕	SL01 堆積土	口-底 (9.2)	(5.5)	1.9	8.1	回転ナデ/回転ナデ/回転系切り	甕小B類	144	150	
a342	かわらけ	甕	SL01 堆積土	底部	-	5.1	[1.6]	13.6	回転ナデ/回転ナデ/回転系切り	器面摩耗、甕小A類	144	150
a343	かわらけ	甕	SL01 堆積土	底部	-	(5.6)	[1.7]	14.4	回転ナデ/回転ナデ/回転系切り	器面摩耗、底部スノコ痕	144	150
a344	かわらけ	甕	SX05 南西ベルト1層	底部	-	-	12.3	回転ナデ/回転ナデ/回転系切り		144	150	
a345	かわらけ	甕	SX05 北西区 堆積土上位	底部	-	-	9.4	回転ナデ/回転ナデ/回転系切り		144	150	
a346	かわらけ	甕	SX05 北東区 堆積土中位	底部	-	-	9.5	回転ナデ/回転ナデ/回転系切り	器面摩耗	144	150	
a347	かわらけ	甕	SX07 堆積土	口縁部	-	-	7.2	回転ナデ/回転ナデ/-	器面摩耗	144	150	
a348	土師器	甕	SX07 底面直上	胴部	-	-	29.6	ケズリ/ナデ/-	Ⅱ a 類	144	150	
a349	かわらけ	甕	SX08 西側基礎内 掘乱	底部	-	(6.5)	[1.5]	19.5	回転ナデ/回転ナデ/回転系切り		144	150
a350	須恵器	甕	P154 堆積土中位	胴部	-	-	27.7	ナデ (弱ケズリ)/ナデ/-		144	150	
a351	かわらけ	甕	P408 堆積土下位	底部	-	5.5	[1.4]	51.0	回転ナデ/回転ナデ/回転系切り	底部内面に油漣	144	150
a352	須恵器	甕	P674 堆積土	頸部	-	-	8.9	ナデ/ナデ/-	自然釉	144	150	
a353	縄文土器	深鉢	P830 (SB122) 堆積土	胴部	-	-	16.3	沈瀬・ナデ/ナデ/-		144	150	
a354	縄文土器	深鉢	P836 堆積土	胴部	-	-	14.2	LR/ナデ/-		144	150	
a355	須恵器	甕	P897 (SB09) 堆積土	胴部	-	-	14.6	叩き/ナデ/-	自然釉	144	150	
a356	土師器	甕	P907 堆積土	胴部	-	-	6.3	叩き/ナデ/-	Ⅱ a 類小	144	150	
a357	須恵器	甕	P912 堆積土上位	胴部	-	-	35.8	ケズリ/横ナデ/-		144	150	
a358	須恵器	甕	P938 (SB19) 堆積土	胴部	-	-	44.4	叩き/叩き/-		144	150	
a359	縄文土器	深鉢	P941 堆積土	胴部	-	-	24.8	RLR→藍沈瀬/ナデ/-	大木8a式	144	150	
a360	かわらけ	甕	P946 柱痕跡	底部	-	(6.0)	[1.1]	11.4	回転ナデ/回転ナデ/回転系切り		144	150
a361	縄文土器	深鉢	P1002 堆積土	胴部	-	-	12.8	RL?→藍沈瀬/ナデ/-	大木8a式	144	150	

第10表 土器観察表 (9)

掲載 No.	種別	器種	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)	重量 (g)	調整 (外面/内面/底部)	備考	図版 No.	写真 No.
a362	かわらけ	手づくね 大	P1188 北側 1層	口縁部	口径 (15.8) 高さ (3.0)	107	指ナデ/ナデ/ナデ/-		144	150
a363	かわらけ	甕 小	P1188 北側 1層	底部	- (6.0) [1.1]	202	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ/-	器面摩耗	144	150
a364	かわらけ	甕 大	P1188 南側 1層	底部	- (5.0) [2.1]	154	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ/-	器面摩耗、外面に油煙または黒痕	144	150
a365	かわらけ	甕 大	P1188 南側 1層	底部	- (7.2) [2.9]	466	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ/-	器面摩耗	144	150
a366	かわらけ	手づくね 大	P1188 南側 1層	口縁部	(15.0) - [2.4]	129	指ナデ/ナデ/ナデ/-		144	150
a367	須恵器	坏	P1424 堆積土	胴~底	- (6.6) [2.5]	281	回転ナデ/ケズリ/回転ナデ/ケズリ		144	150
a368	かわらけ	甕 大	P1499 (SB42) 堆積土	底部	- - -	239	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ/-	土師器坏の可能性も有	145	150
a369	かわらけ	甕 大	P1499 (SB42) 堆積土	口~底	12.6 6.0 4.3	2027	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ/-	器面摩耗、轆轤大A類	145	151
a370	縄文土器	深鉢	P1562 堆積土	胴部	- - -	100	RL?/ナデ/-	器面摩耗	145	151
a371	縄文土器	高坏形	P1377 (SB42) 柱痕跡	口~底	(10.0) 4.6 7.0	1221	指ナデ/指ナデ/ナデ/-	時期不明	145	151
a372	土師器	甕	P2604-2605 堆積土	胴部	- - -	1546	回転ナデ→ケズリ/ナデ/-	兼II a類、内面摩耗	145	151
a373	土師器	甕	P2705-2905 堆積土	胴部	- - -	34.8	叩き/ナデ/-	兼II a類、出羽型、スス	145	151
a374	かわらけ	手づくね 大	P2985 (SB64) 堆積土	底部	- - -	13.9	ナデ/ナデ/ナデ		145	151
a375	縄文土器	深鉢	P3352 (SB75) 堆積土	胴部	- - -	14.1	R? RL?/ナデ/-		145	151
a376	土師器	甕	P3416 堆積土	底部	- - -	334	-/ナデ/ナデ	器面摩耗	145	151
a377	土師器	甕	P3417 (SB75) 堆積土	底部	- - -	43.2	ケズリ/ナデ/-	兼I a類	145	151
a378	土師器	甕	P3442 堆積土	胴部	- - -	9.6	ケズリ/叩き/-	兼II a類、出羽型か	145	151
a379	土師器	甕	P3442 堆積土	胴部	- - -	23.6	叩き/ナデ/-	兼II a類、出羽型	145	151
a380	かわらけ	甕 小	P3501 (SB69) 堆積土	口~底	(7.5) (6.0) 1.6 1.23	123	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ/-	轆轤小B類	145	151
a381	土師器	甕	P3535 (SB75) 堆積土	口縁部	- - -	192	ナデ/ナデ/-	兼I a類	145	151
a382	須恵器	甕	P3666 堆積土	胴部	- - -	85	回転ナデ/回転ナデ/-	器面摩耗、晩明	145	151
a383	縄文土器	甕?	P3666-3667 検出面	胴部	- - -	110.0	RL→沈線/ナデ/-	器面摩耗、轆轤大A類	145	151
a384	かわらけ	甕 大	P3834 (SB128) 堆積土上位 I A201b、黒色土 (SD106 1層相当)	胴~底	- 6.9 [2.4]	77	轆轤ナデ/ナデ/-		145	151
a385	かわらけ	手づくね 大	P3858 堆積土	口縁部	- - -	15.2	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ/-	器面摩耗、轆轤小A類	145	151
a386	かわらけ	甕 小	P3870 (SB79) 堆積土	口~底	(7.4) (5.8) 1.9	134	叩き (平行)/叩き (背溝波)→ナデ/-		145	151
a387	須恵器	甕	P3870 (SB79) 堆積土	胴部	- - -	7.3	叩き (平行)/叩き (背溝波)→ナデ/-		145	151
a388	須恵器	坏	P3943 (SB94) 堆積土	口縁部	(14.2) - [2.1]	84	回転ナデ/回転ナデ/-	器面摩耗、轆轤小B類	145	151
a389	かわらけ	甕 小	P3965 (SB80) 堆積土	口~底	(8.6) (6.4) 1.8	61.8	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ/-		145	151
a390	縄文土器	深鉢	P4028 堆積土	底部	- - -	205.6	RL/ナデ/ナデ	口縁部部キザミ、器面摩耗、大洞 C2~A式	145	151
a391	縄文土器	深鉢	P4137 (SB87) 4138 堆積土 P4571 (SB106) 堆積土 P4495 (SB101) 堆積土 I AV~9g~j 1層	口~胴	(28.0) - [10.7]		RL→ナデ/ナデ/-		145	151
a392	かわらけ	甕 大	P4252 (SB89) 堆積土	底部	- (7.6) [1.3]	115	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ/-	器面摩耗	145	151
a393	かわらけ	甕 大	P4338 (SB95) 堆積土上位	底部	- (6.0) [1.5]	374	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ/-	器面摩耗	145	151
a394	かわらけ	甕 大	P4459 堆積土	口縁部	(15.0) - [2.6]	9.2	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ/-		145	151
a395	縄文土器	深鉢	P4486 堆積土	胴部	- - -	34.2	LR/ナデ/-	器面摩耗	145	151
a396	縄文土器	深鉢	P4487 堆積土	胴部	- - -	7.8	LR3/ナデ/-	器面摩耗	145	151
a397	縄文土器	深鉢	P4491 堆積土	胴部	- - -	57.5	LR/ナデ/-		145	151
a398	かわらけ	甕 大	P4571 (SB105) 堆積土	胴~底	(6.4) [2.5]	11.3	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ/-		145	151
a399	土師器	甕	P4593 堆積土	胴部	- - -	37.6	ナデ/ハケ/-	兼I a類、スス	145	151
a400	縄文土器	深鉢	P4633 堆積土	胴部	- - -	134	LR/ナデ/-	器面摩耗	145	151
a401	かわらけ	手づくね 不明	P4627 堆積土	口縁部	- - -	25.1	指環押圧・ナデ/指環押圧・ナデ/-		145	151
a402	須恵器	甕	P5156 堆積土	胴部	- - -	27.1	叩き (平行)/ナデ/-		145	151
a403	かわらけ	甕 小	P5288 堆積土	口~底	- - -	17.7	回転ナデ/回転ナデ/-	器面摩耗	146	151
a404	須恵器	甕	P5228 堆積土	胴部	- - -	244.5	叩き (平行)/叩き (平行)/-	二次被熱、スス	146	151
a405	土師器	甕	1号沢 黒色土	胴~底	- 7.2 [11.7]	210.2	ナデ/ハケ/ナデ?	兼I a類、外面に薄いスス	146	151
a406	土師器	甕	1号沢 黒色土	底部	- 8.2 [2.9]	23.6	ナデ/ナデ/米炭痕	兼I a類	146	151
a407	須恵器	坏	1号沢 堆積土	胴~底	- (8.0) [2.6]	21.0	回転ナデ/回転ナデ/ハケケズリ		146	151

第10表 土器観察表 (10)

掲載 No.	種別	器種	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)	重量 (g)	調整 (外面/内面/底部)	備考	図版 No.	写真 No.	
a408	須恵器	環	1号沢 堆積土	底部	口径 7.4	40.1	回転ナデ/回転ナデ/ケスリ		146	151	
a409	かわらけ	甗 大	1号沢 堆積土	口縁部	(12.8)	12.3	回転ナデ/回転ナデ/-	器面摩耗	146	151	
a410	土師器	甗	1号沢 堆積土	口縁部	-	6.8	ナデ/ナデ/-	甗 I a 類	146	151	
a411	かわらけ	甗 大	I A6b, I 層	口~底	(8.2)	37.5	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り?	器面摩耗, 甗 大 B 類	146	151	
a412	かわらけ	甗 大	I A7~9g-j I 層	底部	(9.0)	21.8	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り?	器面摩耗	146	151	
a413	かわらけ	手づくね 大	I A7~9g-j I 層	口縁部	(15.7)	15.1	横ナデ・ナデ/ナデ/ナデ	器面摩耗, 油煙	146	151	
a414	縄文土器	深鉢	I A7~9g-j I 層	口~胴	-	81.3	LR?/ナデ/-	器面摩耗	146	151	
a415	縄文土器	深鉢	I A7~9g-j 複乱	口縁部	-	18.7	沈線/ナデ/-	器面摩耗	146	151	
a416	かわらけ	甗 小	I A8j (SK104付近) 検出面	口~底	(8.0)	20.7	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	甗 小 B 類	146	151	
a417	土師器	環	I A11f, g 複乱	胴~底	(5.8)	33.2	回転ナデ→回転ヘラケズリ/回転ナデ→ミガキ, 黒色処理/回転糸切り	甗 II a 類, 二次被熱	146	151	
a418	縄文土器	甗	I A17g I 層	口縁部	(7.8)	12.7	ナデ/ナデ/-	器面摩耗	146	152	
a419	かわらけ	手づくね 小	I A17g I 層	口縁部	-	7.4	横ナデ・ナデ/横ナデ/-	油煙	146	152	
a420	かわらけ	手づくね 大	I A17e・h II 層	口~底	-	19.5	横ナデ・ナデ・指頭押圧/指頭押圧・ナデ/-		146	152	
a421	縄文土器	浅鉢	I A20g 検出面	胴部	-	10.5	原形不明→工字文/ナデ/-	器面摩耗, 大甗 A1 式	146	152	
a422	須恵器	甗	II A5g~k (SD35周辺) 検出面	胴部	-	53.8	叩き/叩き/-	焼成不良	146	152	
a423	かわらけ	甗 大	II A8h~9c (SD33周辺) 検出面	底部	-	15.9	回転ナデ→ナデ/回転ナデ/回転糸切り		146	152	
a424	土師器	環	II A17f 検出面(点あり)	口~胴	(15.3)	4.8	ヘラナデ・ナデ/ミガキ, 黒色処理, 沈線?/ナデ	甗 I a 類, 丸底	146	152	
a425	縄文土器	深鉢	II A19 検出面	底部	(8.0)	81.7	LR/ナデ/ナデ	晩期	146	152	
a426	須恵器	環	II A20g (P188付近) 検出面	口~底	(13.8)	17.2	回転ナデ/回転ナデ/再調整?		146	152	
a427	須恵器	甗	T1 I 層	胴部	-	29.5	叩き/叩き/-		146	152	
a428	須恵器	甗	T3 I 層	胴部	-	14.3	叩き/叩き/-		146	152	
a429	須恵器	環	T5 I 層	口縁部	-	8.0	回転ナデ/回転ナデ/-		146	152	
a430	須恵器	瓶	T6 I 層	底部	(7.9)	20.6	回転ナデ/コテ押圧痕/回転ナデ		146	152	
a431	須恵器	甗	T6 I 層	胴部	-	51.4	叩き/叩き/-	自然釉	146	152	
a432	須恵器	甗	T6 I 層	胴部	-	95.8	叩き/叩き/-		146	152	
a433	土師器	甗	SD104・106 間 検出面	胴部	-	67.3	ナデ/ナデ/-	甗 I a 類, 外面粘土付着か, コテ	146	152	
a434	土師器	甗	SD106より北側 検出面	口縁部	-	26.1	ナデ/ナデ/-	甗 I a 類, 器面摩耗, コテ	147	152	
a435	須恵器	甗	SD106・107 間 遺物包含層	胴部	-	50.1	叩き/ナデ/-		147	152	
a436	かわらけ	甗 大	SD106・107 間 遺物包含層	胴~底	(8.0)	26.3	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り		147	152	
a437	かわらけ	甗 小	SD106・107 間 遺物包含層	口~底	(6.0)	40.2	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	甗 小 B 類	147	152	
a438	かわらけ	甗 大	SD106・107 間 遺物包含層	口縁部	(11.8)	16.3	回転ナデ/回転ナデ/-	器面摩耗	147	152	
a439	かわらけ	甗 大	SD106・107 間 遺物包含層 (II層)	口~底	13.0	7.0	47	20.99	底部摩耗, 甗 大 A 類	147	152
a440	かわらけ	甗 大	SD106・107 間 東側 遺物包含層	口~底	-	3.4	40.5	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	器面摩耗	147	152
a441	かわらけ	手づくね 大	SD106・107 間 東側 遺物包含層	口~底	(10.7)	1.9	16.9	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り?	器面摩耗, 甗 小 B 類	147	152
a442	かわらけ	手づくね 大	SD106・107 間 東側 遺物包含層	口~胴	-	17.7	指ナデ・ナデ/ナデ/ナデ		147	152	
a443	かわらけ	手づくね 大	SD106・107 間 東側 遺物包含層	口~胴	-	20.1	指ナデ/ナデ/-		147	152	
a444	縄文土器	脚付浅鉢	SD107 北西側 遺物包含層	胴部	-	13.7	LR→沈線/ナデ/-	器面摩耗, 大甗 A1 式	147	152	
a445	かわらけ	手づくね 小	SD107 北西側 遺物包含層	口~底	(8.2)	5.9	2.2	23.3	甗 小 C 類	147	152
a446	かわらけ	手づくね 大	SD107 東側 遺物包含層	口~胴	(14.0)	-	[2.8]	18.6	甗 小 B 類	147	152
a447	かわらけ	甗 大	SD107より南側 検出面	底部	-	[1.6]	26.9	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り	底部摩耗	147	152
a448	縄文土器	浅鉢	T7より北側 遺物包含層	胴部	-	-	58.5	LR→沈線・楕円/ナデ/-	大甗 A1~2 式	147	152
a449	土師器	甗	R1年度調査区南土	胴部	-	-	48.2	叩き/叩き/-	甗 II a 類, 出羽型	147	152
a450	須恵器	甗	R1年度調査区 排土	胴部	-	-	63.1	叩き(平行)/叩き(平行)/-		147	152
a451	土師器	甗	T-2 I 層	胴部	-	-	21.4	叩き/ナデ/-	甗 II a 類, 出羽型	147	152
a452	土師器	甗	T-5 I 層	胴部	-	-	14.4	回転ナデ→叩き/ナデ/-	甗 II a 類, 出羽型	147	152

※計測値欄の( )は復元値、[ ]は残存値

第11表 陶磁器観察表(1)

掲載No.	種別	器種	産地	製作年代	遺構・地点・顧立	残存部位	計測値(m)	重量(g)	釉薬	文様・調整など	備考	図版No.
b1	陶器	碗	不明	近世以降	SI02 1層上位	底部	-	28.1	灰釉	回転ナズ、底：削り出し高台	戸車に転用	148
b2	磁器	茶付 碗	中国	16C	SI03 南西区 堆積土中位	胴~底	-	11.1	透明釉	回転ナズ、外：團縁、内：文様不明		148
b3	磁器	青磁 碗	中国	15~16C	SI03 北東区 堆積土下位	胴部	-	6.4	青磁釉	回転ナズ		148
b4	陶器	碗	唐津	16末~17前	SI04 3区 検出面~堆積土上位	胴部	-	17.3	透明釉	回転ナズ	大橋 I 2期 (1594~1610年代)	148
b5	陶器	瓶	猿投	9~10C	SI04 3区 堆積土上位	胴部	-	5.8	灰釉	外：回転ナズ→回転ヘラケズリ、内：ナズ		148
b6	陶器	壺	古瀬戸	15C	SI04 3区 堆積土中位	胴部	-	28.3	灰釉	回転ナズ	後期形式	148
b7	陶器	甕	須恵器系	12C	SI04 B前面西側 2層	胴部	-	47.0	-	外：叩き、内：ナズ		148
b8	陶器	甕	須恵器系	12C	SI04 B前面東側 2層	胴部	-	37.0	-	外：叩き、内：ナズ	断面赤褐色、須恵器分	148
b9	磁器	青磁 碗	中国	16C	SI06 堆積土上位	胴部	-	8.3	青磁釉	回転ナズ		148
b10	磁器	青磁 碗	中国	16C	SI06 北西区 堆積土上位	口縁部	-	4.4	青磁釉	回転ナズ	二次焼熟	148
b11	陶器	盤	古瀬戸	15C	SI06 北東区 堆積土上位	胴部	-	20.6	灰釉	回転ナズ	後期形式	148
b12	陶器	天目茶碗	瀬戸美濃	16C	SI06 北東区 堆積土中位	胴部	-	7.9	滑→鉄釉	回転ナズ		148
b13	陶器	皿	瀬戸美濃	16C	SI07 3区 堆積土上~中位	口縁部	(10.8)	5.1	灰釉	回転ナズ	大窯、口縁部若干焼熟	148
b14	陶器	天目茶碗	瀬戸美濃	16C	SI07 4区 サブトレシヤ 堆積土	胴部	-	9.5	鉄釉	回転ナズ		148
b15	陶器	皿	瀬戸美濃	16後	SI10 4区 サブトレシヤ 堆積土	口縁部	-	6.9	灰釉	回転ナズ	大窯4期	148
b16	陶器	壺	信楽	15~16C	SI13 4区 堆積土上~中位	胴部	-	40.7	自然釉	ナズ		148
b17	陶器	甕	須恵器系	12C	SI14 ベルト西側 堆積土	胴部	-	33.6	自然釉	ナズ		148
b18	陶器	甕	須恵器系	12C	SI15 2区 堆積土	胴部	-	55.2	-	ナズ	接合しない同一個体片有	148
b19	磁器	白磁 壺	中国	12C	SI15・16 堆積土上位	胴部	-	4.6	透明釉	回転ナズ		148
b20	陶器	甕	須恵器系	12C	SI19 F08 堆積土	胴部	-	42.2	自然釉	ナズ・叩き	須恵器の可能性有	148
b21	磁器	白磁 皿	中国	16C	SI20 堆積土上位	胴部	(12.2)	5.1	透明釉	回転ナズ	二次焼熟分	148
b22	陶器	壺	瀬美	12C	SI20 堆積土上位	胴部	-	31.3	自然釉	ナズ		148
b23	陶器	志野 皿	美濃	16後	SI20 北東区 堆積土	底部	-	4.7	長石釉	回転ナズ	大窯4期	148
b24	磁器	青磁 碗	中国	16C	SI20 南西部 堆積土	口縁部	-	1.5	青磁釉	回転ナズ、外：蓮弁文		148
b25	陶器	小皿	瀬戸美濃	16C	SI21 北区 堆積土上~中位	口~胴	(10.6)	12.0	灰釉	回転ナズ	大窯	148
b26	陶器	湯反皿	瀬戸美濃	16C	SI21 北区 堆積土上~中位	口縁部	-	3.7	灰釉	回転ナズ	大窯	148
b27	磁器	茶付 皿	中国	16C	SI21 北区 堆積土上~中位	口縁部	-	1.4	透明釉	回転ナズ、内：草花文		148
b28	陶器	天目茶碗	瀬戸美濃	16C	SI21 ベルト 2~3層	口~胴	(11.2)	36.6	鉄釉	外：回転ナズ→回転ヘラケズリ、内：回転ナズ		148
b29	陶器	種鉢	不明	不明	SI22 東西<ルト	胴部	-	7.1	-	ナズ、内：櫛状工具による摺目		148
b30	磁器	茶付 皿	中国	16C	SI22 北東区 堆積土	底部	-	15.3	透明釉	回転ナズ、外：草花文・團縁、内：草花文		148
b31	陶器	甕	須恵器系	12C	SI23 F20 堆積土	胴部	-	55.5	-	外：叩き(格子)、内：叩き(平行)		148
b32	陶器	壺	瀬美	12C	SI23 南西区 堆積土	胴部	-	20.3	自然釉	ナズ		148
b33	陶器	甕	常滑	12C	SI23 南東区 堆積土	胴部	-	67.3	-	外：押印(格子)、内：ナズ		148
b34	磁器	茶付 皿	中国	16C	SI23 南東区 堆積土	底部	(10.4)	7.5	透明釉	回転ナズ、外：草花文、内：團縁		148
b35	磁器	茶付 碗	中国	16C	SI24 南東区 堆積土	口縁部	-	1.1	透明釉	回転ナズ、外：草花文	二次焼熟	148
b36	磁器	青磁 碗	中国	15~16C	SI24 南東区 堆積土上~中位	口縁部	-	9.1	青磁釉	回転ナズ、外：蓮弁文		148
b37	陶器	皿	瀬戸美濃	16C	SI24 北西区 1層	胴~底	(6.0)	28.3	灰釉	回転ナズ	大窯、焼台付着	148
b38	陶器	小皿	瀬戸美濃	16C	SI25 北東区 堆積土下位	口縁部	-	2.3	灰釉	回転ナズ	大窯	148
b39	磁器	青磁 碗	中国	12C	SK01 堆積土	口縁部	(15.6)	4.5	青磁釉	回転ナズ、内：櫛目文	龍泉窯産 I 型式	148
b40-1	陶器	壺	中国	12C	SK07 堆積土	胴部	-	9.0	褐釉	回転ナズ		148
b40-2	陶器	壺	中国	12C	SK07 堆積土	胴部	-	18.3	褐釉	回転ナズ		148
b40-3	陶器	壺	中国	12C	SK07 堆積土	胴部	-	13.2	褐釉	回転ナズ		148
b41	陶器	甕	中国	12C	SK07 堆積土	胴部	-	44.8	無釉	回転ナズ		148
b42	磁器	白磁 壺	中国	12C	SK12 1~3層	胴部	-	9.7	透明釉	回転ナズ		148
b43	陶器	志野 皿	美濃	16末~17初	SK13 1層	底部	(6.4)	18.8	長石釉	回転ナズ、内：緑釉落とし掛け	連房 I 期	148
b44	陶器	壺	信楽	15~16C	SK15 南東側 堆積土下位	口縁部	-	16.1	自然釉	横ナズ		148
b45	陶器	壺	信楽	15~16C	SK15 南東側 堆積土下位	胴部	-	150.5	-	ナズ		149
b46	磁器	茶付 碗	中国	16C?	SK15 北西区 堆積土下位	底部	-	3.0	透明釉	回転ナズ、外：團縁、内：二重團縁		149
b47	磁器	白磁 壺	中国	12C	SK17 4層	胴部	-	8.1	透明釉	回転ナズ		149
b48	磁器	白磁 碗	中国	12C	SK25 堆積土上~中位	胴部	-	9.9	透明釉	回転ナズ、外：一部露胎	白磁焼 II 類	149
b49	陶器	甕	常滑	12C	SK22 堆積土下位	胴部	-	29.3	-	外：押印、内：ナズ		149

第11表 陶磁器観察表(2)

掲載 No.	種別	器種	産地	製作年代	遺構・地点・顧立	残存部位	計測値 (mm)	重量 (g)	釉薬	文様・調整など	備考	図版 No.	写真 No.
b50	磁器	青磁 碗	中国	12C	SK40 堆積土上位	口~胴	口径 (16.0)	709	青磁釉	回転ナデ、内：柿目文	同安楽磁碗Ⅲ-1b 型式	149	153
b51	陶器	皿	瀬戸美濃	16C	SK42 3区 堆積土上~中位	底部	口径 (5.6)	127	灰釉	回転ナデ、内：軸脚さ	大窯、二次焼熱、コテ付着	149	153
b52	陶器	常滑 壺	須恵器系	12C	SK44 4区 堆積土上位	口縁部	-	121	-	ナデ	須恵器の可能性有	149	153
b53	陶器	志野 皿	美濃	16 後	SK44 サブトレンチ 堆積土	口縁部 (13.8)	-	82	長石釉	回転ナデ	大窯4期	149	153
b54	陶器	常滑 壺	瀬美	12C	SK75 サブトレンチ 堆積土	肩~胴	-	1067	自然釉	外：回転ナデ、内：ナデ	大窯、焼台軸着	149	154
b55	陶器	皿	瀬戸美濃	16C	SK75 南区 堆積土上~中位	底部	口径 (5.6)	477	灰釉	回転ナデ	大窯、焼台軸着	149	154
b56	陶器	甕	常滑	12C	SK80 堆積土中位	口縁部	-	336	自然釉	ナデ	大窯	149	154
b57	陶器	小皿	唐津	16 末~17 前	SK83 堆積土	口~底	口径 (9.8)	839	灰釉	回転ナデ、底：回転セラケズリ	大橋 I 2期 (1594~1610年代)	149	154
b58	陶器	楕鉢	不明	不明	SK97 サブトレンチ	胴部	-	674	鉄釉	回転ナデ、内：櫛状工具による閉目		149	154
b59	磁器	袷付 猪口	肥前	18~19C	SK97 堆積土	口縁部	-	12	透明釉	回転ナデ、外：磨線、内：山水文?		149	154
b60	磁器	紅皿	不明	不明	SK97 堆積土	口~胴 (4.7)	-	1.6	透明釉	型作り底形		149	154
b61	陶器	徳利	肥前	18~19C	SK97 堆積土	胴部	-	319	透明釉	回転ナデ		149	154
b62	磁器	白磁 水注?	中国	12C	SK101 堆積土	頸部	-	76	透明釉	回転ナデ	把手貼付	149	154
b63	陶器	甕	不明	不明	SK103 東区 堆積土上位	底部	口径 (2.8)	355	柿釉	調整不明		149	154
b64	陶器	小皿	瀬戸美濃	16C	SK105~124 検出面	底部	口径 (6.2)	82	灰釉	回転ナデ	大窯	149	154
b65	陶器	甕	須恵器系	12C	SD02 B区 堆積土	胴部	-	368	-	外：叩き (平行)		149	154
b66	陶器	甕	須恵器系	12C	SD02 B区 堆積土	胴部	-	421	-	外：叩き (平行)		149	154
b67	陶器	天目茶碗	瀬戸美濃	16C	SD30 南区 堆積土下位	胴部	-	48	鉄釉	回転ナデ		150	154
b68	陶器	志野 皿	美濃	16 後	SD31 堆積土	口縁部	-	34	長石釉	回転ナデ、鉄線?	大窯4期	150	154
b69	磁器	紅皿	不明	近世以降	SD41 堆積土	口~底 (4.3)	12	41	透明釉	型作り底形		150	154
b70	陶器	天目茶碗	瀬戸美濃	16C	SD38 4区 堆積土上位	胴部	-	88	銅釉	回転ナデ	鉄軸碗の可能性も有、ロク目叩嗽	150	154
b71	陶器	甕	須恵器系	12C	SD38 D区 堆積土下位	胴部	-	1543	-	外：叩き (格子)、内：ナデ		149	154
b72	陶器	片口鉢	常滑	12C	SD38 E区 堆積土上~中位	胴~底	口径 (14.4)	2105	-	外：回転ナデ→回転セラケズリ、内：回転ナデ	内面摩耗	149	154
b73-1	陶器	壺	瀬美	12C	SD38 E区 堆積土上~中位 P3536 堆積土	口~胴 (23.8)	-	3882	自然釉	ナデ		150	154
b73-2	陶器	壺	瀬美	12C	SD38・40 交差部 (B区) 堆積土 SD106・107 間 遺物包層	口~胴	-	1453	自然釉	ナデ		150	154
b73-3	陶器	壺	瀬美	12C	SD38 交差部東側ベルト 1層	胴部	-	2885	自然釉	ナデ		150	154
b74	陶器	壺	瀬美	12C	SD38 交差部東側ベルト 1層	胴部	-	1637	自然釉	ナデ		149	154
b75	陶器	壺	須恵器系	12C	SD38 交差部東側ベルト 1層	胴部	-	1705	-	外：叩き (格子)、内：ナデ		149	154
b76	陶器	壺	瀬美	12C	SD38 堆積土	口縁部 (19.4)	口径 (4.5)	1495	自然釉	ナデ		150	154
b77	陶器	甕	常滑	12C	SD38 堆積土	胴部	-	3259	-	外：押印、内：ナデ→指頭押		151	155
b78	陶器	片口鉢	常滑	12C	SD38 堆積土	底部	-	950	-	外：回転ナデ→回転セラケズリ、内：回転ナデ	内面摩耗	150	155
b79	陶器	片口鉢	常滑	12C	SD38 堆積土	胴部	-	699	自然釉	外：回転ナデ→回転セラケズリ、内：回転ナデ	内面摩耗	150	155
b80	陶器	壺	瀬美	12C	SD38 堆積土	胴部	-	1288	自然釉	ナデ		150	155
b81	陶器	壺	瀬美	12C	SD38 堆積土	胴部	-	835	自然釉	ナデ		150	155
b82	陶器	壺	瀬美	12C	SD38 堆積土	胴部	-	1233	自然釉	ナデ		150	155
b83	陶器	甕	常滑	12C	SD38 堆積土	胴部	-	1461	自然釉	外：押印、内：ナデ		151	155
b84	陶器	壺	瀬美	12C	SD38 断面2	胴部	-	574	自然釉	外：回転ナデ、内：ナデ		150	155
b85	陶器	壺	瀬美	12C	SD38・39 B区 堆積土上位	底部	-	736	自然釉	ナデ	内面に赤ロ付着	151	155
b86	陶器	甕	須恵器系	12C	SD38・40 交差部 (B区) 堆積土	胴部	-	190	-	叩き		151	155
b87	陶器	甕	須恵器系	12C	SD38・40 交差部 (B区) 堆積土上~中位	胴部	-	762	-	外：叩き (格子)、内：ナデ	内面鉄線が、黒色化	151	155
b88	陶器	甕	須恵器系	12C	SD39 A区 堆積土最上位	胴部	-	1126	-	外：叩き (格子)、内：ナデ		151	155
b89	陶器	甕	瀬美	12C	SD39 A区 堆積土最上位	口縁部	-	231	-	ナデ		151	155
b90	陶器	壺	瀬美	12C	SD39 A区 堆積土最上位	胴部	-	157	自然釉	外：回転ナデ→沈線、内：ナデ	三筋文様	151	155
b91	陶器	甕	瀬美	12C	SD39 A区 堆積土最上位	胴部	-	267	自然釉	ナデ		151	155
b92	陶器	甕	常滑	12C	SD40 堆積土C区 堆積土下位	胴部	-	236	-	ナデ		151	155
b93	陶器	甕	常滑	12C	SD40 (SD20北側) 堆積土	胴部	-	17	-	ナデ		151	155
b94	陶器	片口鉢	常滑	12C	SD42 A・B断面間 堆積土	底部	-	359	-	外：回転ナデ→回転セラケズリ、内：回転ナデ	内面摩耗	151	155
b95	磁器	袷付 皿	中国	16C	SD42 A断面西側 堆積土上位	口縁部	-	58	透明釉	回転ナデ、外：山水の風景文、内：磨線		151	155
b96	陶器	細頸壺	古瀬戸	15C	SD42 検出面 SD44 堆積土下位	頸部	-	349	鉄釉	回転ナデ	後明様式	151	155

第11表 陶磁器観察表 (3)

掲載 No.	種別	器種	産地	製作年代	遺構・地点・顧立	残存部位	計測値 (cm)	重量 (g)	釉薬	文様・調整など	備考	図版 No.	写真 No.
b97	陶器	兵器手挽	肥前	近世	SD101 西瀬 堆積土上位	口縁部	口径 11.9 底径 - 器高 [27]	25	灰釉	回転ナズ		151	155
b98	陶器	小皿	相馬	18後~19前	SD101 西瀬 堆積土上位	口縁部	-	54	灰+海風	回転ナズ、口縁部押印により輪花状		151	155
b99	陶器	丸皿	瀬戸美濃	16後	SD101 西瀬北瀬際 堆積土下位	口~胴	(9.5) [2.1]	9.1	灰釉	回転ナズ	大窯3~4期	151	155
b100	陶器	細足碗	瀬戸美濃	16後	SD101 西瀬から10m 粘土層下位	胴部	(11.0) [1.3]	1.8	灰釉	回転ナズ 外: 向き、内: 向き	大窯3~4期	151	155
b101	陶器	甕	須恵器系	12C	SD101 西瀬から10m 堆積土上位	胴部	-	68.3	-	外: 相印(長格子)		151	155
b102	陶器	甕	常滑	12C	SD101 西瀬から13m 堆積土上位	口~胴	(14.7) [2.5]	8.5	灰釉	回転ナズ	大窯1~2期 (1594~1610年代)	151	155
b103	陶器	青磁 碗	中国	16C	SD101 西瀬から18m 堆積土下位	口縁部	-	28	青磁釉	回転ナズ	被熱か、変色	151	155
b104	陶器	青磁 碗	中国	16C	SD101 西瀬から18m 堆積土下位	口~胴	(14.4) [3.7]	19.9	透明釉	回転ナズ、外: 唐草文、内: 草花文	大窯1期、二次被熱により輪発泡	151	155
b105	陶器	染付 皿	肥前	18C	SD101 西瀬から19m 堆積土下位	胴部	-	1.3	無釉	内: 摺り目(8本)	大窯3~4期	151	155
b106	陶器	折縁皿?	瀬戸美濃	16後	SD101 東瀬付近 堆積土上位	口縁部	-	96.3	無釉	回転ナズ	胎土黒色で泥和物多い	151	155
b107	陶器	楕鉢	不明	近現代	SD101 東瀬付近 堆積土上位	口縁部	-	160	透明釉	回転ナズ、外: 草花文、内: 多重圓線		151	155
b108	陶器	碗	不明	18~19C	SD101 堆積土上位	口~胴	-	9.3	透明釉	回転ナズ、外: 草花文	二次被熱	151	155
b109	陶器	染付 徳利	肥前	19C	SD101 東瀬付近 堆積土上位	胴部	(6.5) [3.1]	4.3	透明釉	回転ナズ、外: 草花文(牡丹)	砂目付着	151	155
b110	陶器	小杯	不明	18C以降	SD101 東瀬付近 堆積土上位	口~底	(15.0) [3.1]	26.1	透明釉	回転ナズ・ケズリ、外: 梅文(柳紙摺線)、内: 丸文(柳紙摺線)		151	155
b111	陶器	染付 輪花皿	不明	近代	SD101 東瀬付近 堆積土上位	口~底	86 4.4	265.0	透明釉	回転ナズ	大窯1~2期 (1594~1610年代)	151	156
b112	陶器	皿	唐津	16末~17前	SD102 堆積土	口縁部	(16.6) [3.1]	3.7	灰釉	回転ナズ		151	156
b113	陶器	甕	不明	不明	SD102 堆積土	胴~底	(8.0) [9.4]	15.1	鉄釉	回転ナズ		151	156
b114	陶器	楕鉢	不明	不明	SD102 堆積土	口~胴	(28.6) [14.9]	438.2	鉄+灰	回転ナズ、内: 摺り目		152	156
b115	陶器	染付 香炉	不明	近代	SD102 堆積土最上位	口~胴	(11.4) [6.6]	40.1	透明釉	回転ナズ、外: 丸文(柳紙摺線)	陶胎欠付	152	156
b116	陶器	染付 小皿	不明	近代	SD102 堆積土最上位	口~底	(10.6) [6.5]	20	透明釉	回転ナズ、内: 梅文(柳紙摺線)		152	156
b117	陶器	染付 輪花皿	不明	近代	SD102 堆積土最上位	口~底	(15.0) [8.0]	40.5	透明釉	回転ナズ、外: 梅文(柳紙摺線)、内: 草花文(柳紙摺線)		152	156
b118	陶器	小碗	岐阜	昭和15~21	SD102 堆積土最上位	胴~底	(4.4) [3.8]	26.3	透明釉	回転ナズ、外: 樹木文(柳紙摺線)	統制陶器「辰6」	152	156
b119	陶器	染付 甕	不明	近代	SD103 堆積土	胴部	[23.1] [2.2]	1600.0	透明釉	摺り目彫形、白化粧→染付「牡丹に雀、雷文」	陶胎欠付	152	156
b120	陶器	甕	不明	近代	SD103 堆積土	口~胴	(11.4) [8.1]	98.4	灰釉?	回転ナズ、外: 回転圓目文		152	156
b121	陶器	碗	相馬	19C	SD103 堆積土	口縁部	-	139	灰+海風 釉	回転ナズ		152	156
b122	陶器	染付 皿	肥前	18C	SD104 北側1層 堆積土	底部	6.2 [2.1]	77.5	透明釉	回転ナズ、外: 唐草文、内: 藤間山水文	大窯1期	152	156
b123	陶器	甕	肥前	12C	SD104 中央区 堆積土最下位	頸部	-	433.2	-	ナズ		152	156
b124	陶器	甕	瀬美	12C	SD104 ベルト 堆積土	頸部	-	199	-	外: 回転ナズ、内: ナズ		152	156
b125	陶器	甕	須恵器系	12C	SD104 ベルト 堆積土	胴部	-	36.3	-	外: 向き、内: 向き→ナズ		152	156
b126	陶器	皿	瀬戸美濃	16C	SD104 ベルト西側 堆積土上位	底部	-	9.2	灰釉	回転ナズ	大窯	152	156
b127	陶器	白磁 碗	中国	14~16C?	SD104 ベルト西側 堆積土上位	口縁部	(12.6) [2.4]	5.0	透明釉	回転ナズ		152	156
b128	陶器	染付 皿	中国	16C?	SD104 ベルト東側 堆積土上位	口縁部	(11.2) [1.5]	3.9	透明釉	回転ナズ、外: 二重圓線、内: 圓線・疵の目輪測ぎ		152	156
b129	陶器	染付 碗	中国	16C	SD104 ベルト東側 堆積土上位	口縁部	-	14.2	透明釉	回転ナズ、外: 草花文?		152	156
b130	陶器	甕	瀬美	12C	SD104 ベルト東側 堆積土上位	胴部	-	20.1	自然釉	ナズ		152	156
b131	陶器	皿	瀬戸美濃	16C	SD104 ベルト東側 堆積土上位	底部	-	4.1	灰釉	回転ナズ	大窯、高台欠損	152	156
b132	陶器	青磁 碗	中国	14後~15前	SD104 ベルト東側 堆積土上位	口縁部	-	9.4	青磁釉	回転ナズ、外: 藤通弁文		152	156
b133	陶器	青磁 碗	中国	15C	SD104 ベルト東側 堆積土上位	底部	-	19.7	青磁釉	回転ナズ、内: 陰刻花文	高台内の輪削り取り	152	156
b134	陶器	皿	瀬戸美濃	16後	SD104 ベルト東側 堆積土下位	口~底	(10.3) [5.8]	29.3	灰釉	回転ナズ	大窯3~4期、被熱不良	153	156
b135	陶器	染付 皿	中国	16C	SD104 堆積土下位	底部	-	3.9	透明釉	回転ナズ、内: 草花文?	二次被熱	153	156
b136	陶器	楕鉢	不明	不明	SD105 堆積土	口縁部	-	25.0	鉄釉	回転ナズ		153	156
b137	陶器	染付 皿	中国	16C	SD105 ベルト 堆積土下位	底部	-	3.6	透明釉	回転ナズ、外: 鉄款、内: 太湯?		153	156
b138	陶器	皿	瀬戸美濃	16後	SD106 堆積土最下位	底部	5.9 [1.7]	38.3	灰釉	回転ナズ	大窯3~4期、焼台軸着、高台基部摩耗	153	156
b139	陶器	青磁 輪花細反皿	中国	15~16C	SD106 中央区 堆積土中位	口~底	(9.0) 5.0 2.3	89.0	青磁釉	回転ナズ、口縁: 指頭押印により花弁状に成形、内: 陰刻		153	157
b140	陶器	染付 碗	中国	16C	SD106 中央トレンチ 堆積土中位	口縁部	-	2.7	透明釉	回転ナズ、外: 山水文		153	156
b141	陶器	青白磁 合子	中国	12C	SD106 中央トレンチ 堆積土中位	口~胴	-	2.0	透明釉	回転ナズ	二次被熱	153	156
b142	陶器	白磁 碗	中国	12C	SD106 中央トレンチ 堆積土下位	口~胴	(15.6) [4.7]	17.5	透明釉	回転ナズ	白磁焼皿・2期	153	157
b143	陶器	甕	瀬美	12C	SD106 中央トレンチ 堆積土下位	胴部	-	19.3	-	ナズ		153	157
b144	陶器	染付 皿	中国	16C	SD106 中央トレンチ北側 堆積土上位	底部	(7.4) [1.3]	9.0	透明釉	回転ナズ、内: 吉祥文字「口裏□□」	砂目積み	153	157

第11表 陶磁器観察表 (4)

掲載 No.	種別	器種	産地	製作年代	遺構・地点・顧立	残存部位	計測値 (mm)	重量 (g)	釉薬	文様・調整など	備考	図版 No.	写真	
b145	磁器	青磁 碗	中国	15~16C	SD106 中央トレンチ北側 堆積土上位	胴部	-	16.7	青磁釉	回転ナデ		153	157	
b146	磁器	青磁 碗	中国	15~16C	SD106 中央トレンチ北側 堆積土上位	胴部	-	5.9	青磁釉	回転ナデ		153	157	
b147	磁器	染付 皿	中国	16C	SD106 中央ベルト 1層	口縁部	-	3.7	透明釉	回転ナデ、外：波文、口縁：藤絵		153	157	
b148	磁器	染付 皿	中国	16C	SD106 中央ベルト 堆積土上位	口縁部	-	2.7	透明釉	回転ナデ、外：染付	内面に付着物、文様不明	153	157	
b149	磁器	青磁？ 碗	中国？	16C？	SD106 中央ベルト 堆積土上位	胴部	-	27	青磁釉？	回転ナデ、外：洗線による蓮弁文？	発色不良	153	157	
b150	陶器	天目茶碗	瀬戸美濃	16末~17初	SD106 西端 堆積土上位	胴部	-	13.4	鉄釉	回転ナデ	濃厚1期	153	157	
b151	陶器	染付 碗	肥前	17後~18前	SD106 東側 堆積土上位	底部	-	5.7	透明釉	回転ナデ、内：草花文		153	157	
b152	磁器	青磁 皿	瀬戸美濃	19C	SD106 東側 堆積土上位	口縁部	-	4.2	透明釉	回転ナデ、外：草花文	大橋皿~14期、陶器染付	153	157	
b153	磁器	青磁 碗	中国	15~16C	SD106 東端 堆積土上位	胴部	-	3.9	青磁釉	回転ナデ	写真掲載	-	157	
b154	陶器	甕	瀧美	12C	SD106 東端 堆積土上位	胴部	-	66.6	自然釉	ナデ		153	157	
b155	陶器	大甕	不明	不明	SD106 東端 堆積土上位	胴部	-	19.9	-	外：明き(平行)、内：明き(青海波)	胎土発色、須恵器の可能性も有	153	157	
b156	陶器	甕	瀧美	12C	SD106 東端 堆積土上位	胴部	-	19.9	自然釉	外：回転ナデ、内：ナデ		153	157	
b157	磁器	白磁 碗・皿	中国	14~16C	SD106 東端 堆積土上位	胴部	-	1.5	透明釉	回転ナデ		153	157	
b158	陶器	甕	瀧美	12C	SD106 東端 堆積土	胴部	-	10.6	-	ナデ		153	157	
b159	陶器	濁反皿	瀬戸美濃	16C	SD106 南区 堆積土上~中位	口~底	10.6	47.0	灰釉	回転ナデ、内：押印による花文	大瀬、外面発色不良、トナシ着	153	157	
b160	磁器	青磁 碗	中国	15後~16前	SD106 南区 堆積土上~中位	口縁部	-	4.7	青磁釉	回転ナデ、外：蓮弁文		153	157	
b161	陶器	戸口鉢	瀧美	12C	SD106 (I A19b) 堆積土	胴部	-	5.3	-	回転ナデ	写真掲載	-	157	
b162	陶器	甕	常滑	12C	SD106 (I A19b) 堆積土上位	胴部	-	64.7	-	外：押印(平行)、内：ナデ		153	157	
b163	磁器	青磁 鉢分瓶	中国	15~16C	SD106 (I A19b) 堆積土中位	底部	-	[2.4] [2.5]	青磁釉	回転ナデ		153	157	
b164	磁器	青磁 碗	中国	15~16C	SD106 (I A19b) 堆積土中位	胴部	-	26.0	青磁釉	回転ナデ	外面に付着物	153	157	
b165	磁器	青磁 碗	中国	14後~15前	SD106 (I A19b) 堆積土下位	口縁部	-	6.5	青磁釉	回転ナデ、外：雷文		153	157	
b166	陶器	甕	瀧美	12C	SD107 トレンチ 堆積土上位	胴部	-	24.25	自然釉	外：ナデ(ケズリ)、内：ナデ		153	157	
b167	磁器	青磁 碗	中国	15~16C	SD107 トレンチ 堆積土下位	胴部	-	6.2	青磁釉	回転ナデ	写真掲載	-	157	
b168	磁器	白磁 碗	中国	14~16C	SD107 トレンチ 堆積土下位	胴部	-	5.7	透明釉	回転ナデ		153	157	
b169	磁器	青白磁 合子	中国	12C	SD107 西区 堆積土上位	胴部	-	1.4	透明釉	回転ナデ、外：陽刻	小窪の可能性も有	153	157	
b170	磁器	白磁 壺	中国	12C	SD107 (I A15g) 堆積土	胴部	-	3.3	透明釉	回転ナデ		153	157	
b171	磁器	白磁 壺	中国	12C	SD107 (I A15h) 検出面	胴部	-	11.8	透明釉	回転ナデ		153	157	
b172	磁器	青磁 碗	中国	15~16C	SL14 堆積土	底部	-	15.9	青磁釉	回転ナデ		153	157	
b173	陶器	甕	瀧美	12C	SL36 検出面	胴部	-	26.2	自然釉	ナデ		153	157	
b174	磁器	染付 皿	中国？	16C	SL36 前庭部 堆積土	口縁部	-	2.6	透明釉	回転ナデ、外：草花文、内：風景文？		153	157	
b175	磁器	青磁 碗	中国	12C	SE01 北区 4層	口縁部	-	3.7	青磁釉	回転ナデ		153	157	
b176	陶器	甕	須恵器系	12C	SE01 北区 5層	胴部	-	98.2	-	外：明き→ナデ、内：明き		153	157	
b177	磁器	白磁 皿	中国	16C	SE01 東御堀り方 6層	底部	(66)	[4.4]	5.0	透明釉	回転ナデ	153	157	
b178	陶器	濁反皿	瀬戸美濃？	16C	SX05 南東区 堆積土上位	底部	-	14.8	灰釉	回転ナデ	ボロ付着	153	157	
b179	陶器	天目茶碗	瀬戸美濃	16C	SX05 南東区 堆積土上位	胴部	-	10.9	餅→鉄釉	回転ナデ		153	157	
b180	陶器	甕	瀧美	12C	SX05 ベルト 堆積土下位	胴部	-	49.1	自然釉	外：回転ナデ→洗線、内：ナデ		154	157	
b181	陶器	染付 皿	中国	16C	SX05 ベルト 堆積土下位	口縁部	(138)	3.5	透明釉	回転ナデ、外：洗線、内：網目文か	三筋文並	153	157	
b182	磁器	染付 梅花皿	不明	近現代	SX07 底面直上	口~底	(128)	80	28	98.6	透明釉	154	157	
b183	陶器	甕	瀧美	12C	SX07 底面直上	胴部	-	20.8	-	ナデ	脚板彫写	154	157	
b184	陶器	鉄絵皿	相馬	18C	SX07 堆積土	胴部	-	(90)	[4.2]	21.9	灰釉	154	157	
b185	磁器	染付 皿	肥前	18後~19前	SX07 堆積土	底部	(78)	[20]	28.8	透明釉	回転ナデ、内：二重網目文・五弁花、底：蛇ノ目軸測き	154	157	
b186	磁器	染付 皿	不明	不明	SX07 堆積土	口~胴	(11.4)	[3.8]	17.0	透明釉	回転ナデ、外：丸に植物、内：山形文	154	157	
b187	陶器	徳利	相馬	18~19C	SX07 堆積土	口縁部	(1.5)	[2.7]	3.3	灰釉	回転ナデ	154	157	
b188	磁器	染付 碗	中国	16C	SX07 堆積土	胴部	-	2.3	透明釉	回転ナデ、外：草花文、内：圓線		154	157	
b189	陶器	皿	相馬	18~19C	SX08 南西区 堆積土	口縁部	-	13.0	灰釉	回転ナデ		154	157	
b190	陶器	皿	不明	不明	SX08 南西区 堆積土上位	口縁部	(11.2)	[2.5]	25.8	灰釉	回転ナデ	発色不良	154	157
b191	陶器	天目茶碗	瀬戸美濃	16C	SX08 西側基礎内 堆積土	胴部	-	2.3	鉄釉	回転ナデ	写真掲載	-	157	
b192	磁器	染付 皿	肥前	18~19C	SX08 西側基礎付近 検出面	口縁部	-	6.8	透明釉	回転ナデ、内：草花文		154	157	
b193	磁器	染付 皿	肥前	17前	SX08 西端 堆積土	底部	(68)	[1.3]	7.2	透明釉	回転ナデ、外：笹文？	大橋皿	154	157
b194	陶器	皿	相馬	19C	SX08 西端・ベルト②西側 堆積土	口縁部	(14.6)	-	[2.7]	16.2	灰→瀬灰	154	157	

第11表 陶磁器観察表 (5)

掲載 No.	種別	器種	産地	製作年代	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)	重量 (g)	釉薬	文様・調整など	備考	図版 No.	写真 No.
b195	磁器	青磁 碗	中国	15-16C	SX08 ベルト中央 堆積土	底部	-	296	青磁釉	回転ナデ		154	157
b196	磁器	染付 皿	中国	16C	SX08 ベルト中央 堆積土	胴部	-	45	透明釉	回転ナデ、外：染付、内：山水文	外面文様不明	154	158
b197	磁器	染付 皿	肥前	18C	SX08 ベルト中央 堆積土	口縁部	-	28	透明釉	回転ナデ、内：二重線目文	大窯4期	154	158
b198	磁器	染付 皿	中国	16C	SX08 南区 堆積土	胴部	-	27	透明釉	回転ナデ、内外：染付	文様不明	154	158
b199	磁器	ボタン	不明	現代	SX08 南区 堆積土上位	略完形	20	-	-	型作り成形、上面に桜		154	158
b200	陶器	小皿	瀬戸美濃	16C	SX08 南区、西側基礎内 堆積土	底部	(6.0) [1.1]	52	灰釉	回転ナデ	大窯	154	158
b201	陶器	福鉢	不明	中世?	P262 (SB14) 検出面	底部	(11.2) [3.4]	103.2	-	外：回転ナデ、内：細状工具による押目、底：スノコ裏	内面摩耗	154	158
b202	陶器	志野 皿	美濃	16 後	P313 (SB25) 堆積土	底部	-	175	長石釉	回転ナデ	大窯4期、二次焼熟か、内面の軸ガラス化	154	158
b203	磁器	青磁 碗	中国	15-16C	P318 検出面	口縁部	-	123	青磁釉	回転ナデ	大窯	154	158
b204	陶器	内弁皿	瀬戸美濃	16C	P408 堆積土下位	底部	-	38	灰釉	回転ナデ、内：輪割ぎ		154	158
b205	陶器	青磁 碗	中国	15-16C	P427 (SB27) 堆積土上位	胴部	-	41	青磁釉	回転ナデ		154	158
b206	陶器	折縁皿	美濃	16 後	P517 検出面	口~底	130 64 22	127.5	灰釉	回転ナデ	大窯4期、底部内外面一部露胎、トナシ溶着	154	158
b207	陶器	天目茶碗	瀬戸美濃	16C	P677 (SB22) 堆積土上位	口縁部	-	35	鉄釉	回転ナデ	大窯	154	158
b208	磁器	染付 碗	中国	15-16C	P689 (SB30) 堆積土	口縁部	-	43	透明釉	回転ナデ、外：草花文		154	158
b209	磁器	青磁 碗	中国	15-16C	P759 堆積土	口縁部	-	49	青磁釉	回転ナデ、外：遊舟文		154	158
b210	陶器	壺	信楽	15-16C	P888 1層	頸部	-	88.2	自然釉	ナデ	二次焼熟か	154	158
b211	磁器	染付 皿	中国	16C	P978 (SB25) 底面付近	底部	-	27	透明釉	回転ナデ、内：草花文、底：筋「□□□□」?		154	158
b212	磁器	染付 皿	中国	16C	P1037 堆積土上位	底部	-	43	透明釉	回転ナデ、内：草花文、底：筋割		154	158
b213	磁器	白磁 碗	中国	14-16C	SI17 堆積土上位 (H/P1232)	胴部	-	58	透明釉	回転ナデ		154	158
b214	陶器	片口鉢	常滑	12C	P1344 (SB126) 堆積土	口縁部	-	17.0	自然釉	回転ナデ		154	158
b215	陶器	甕	須恵器系	12C	P1347 (SB38) 堆積土	胴部	-	78	-	外：叩き、内：ナデ		154	158
b216	陶器	染付 碗	中国	16C	P1502 底面直上	口縁部	-	31	透明釉	回転ナデ、内外：染付	文様種別は不明	154	158
b217	磁器	青磁 碗	中国	15-16C	P1966 (SB51) 堆積土	口縁部 (108)	- [1.5]	70	青磁釉	回転ナデ	二次焼熟か	154	158
b218	陶器	志野 皿	美濃	16 後	P1981 (SB10) 堆積土	口縁部	-	31	長石釉	回転ナデ、内：鉄線		154	158
b219	磁器	染付 碗	中国	16C	P2076 堆積土上位	口縁部	-	1.3	透明釉	回転ナデ、内外：草花文・團縁		154	158
b220	磁器	染付 碗	中国	16C	P2194 (SB12) 検出面	口縁部	-	68	透明釉	回転ナデ、内：山水文、格子、底：筋「□□□□」・團縁		154	158
b221	陶器	天目茶碗	瀬戸美濃	16C	P2466 堆積土	口縁部	-	44	鉄釉	回転ナデ		154	158
b222	磁器	白磁 碗	中国	14-16C	P2469 堆積土	底部	-	87	透明釉	回転ナデ		154	158
b223	磁器	染付 皿	中国	16C	P2474 (SB20) 堆積土	胴部	-	33	透明釉	回転ナデ、外：波文?、内：牡丹文		154	158
b224	磁器	青磁 輪花皿	中国	15-16C	P2534 堆積土上位	口縁部 (124)	- [2.1]	174	青磁釉	外：回転ナデ→指頭押圧、内：回転ナデ		154	158
b225	陶器	甕	須恵器系	12C	P2831 堆積土	胴部	-	522	-	外：叩き (格子)、内：ナデ		154	158
b226	磁器	白磁 碗	中国	14-16C	P2880 (SB64) 堆積土	胴部	-	4.2	透明釉	回転ナデ		154	158
b227	磁器	青磁 輪花皿	中国	15-16C	P2896 堆積土	口縁部	-	79	青磁釉	外：回転ナデ→指頭押圧、内：際割	接合しない同一個体片2点	155	158
b228	磁器	染付 皿	中国	16C	P2911 堆積土	胴部	-	29	透明釉	回転ナデ、外：染付		155	158
b229	陶器	皿	瀬戸美濃	16C	P3198 堆積土	口縁部	-	46	灰釉	回転ナデ	大窯	155	158
b230	陶器	甕	源美	12C	P3269 堆積土中位	口縁部	-	131	自然釉	ナデ		155	158
b231	磁器	染付 碗	中国	16C	P3269 堆積土中位	口縁部 (122)	- [2.4]	108	透明釉	回転ナデ、外：團縁		155	158
b232	陶器	輪花皿	瀬戸美濃	16 後	P3541 (SB74) 堆積土	口縁部	-	56	灰釉	外：回転ナデ→指頭押圧、内：回転ナデ→刷ぎ→指頭押圧	大窯4期	155	158
b233	磁器	染付 皿	中国	16C	P3736 堆積土	口縁部	-	27	透明釉	回転ナデ、外：草花文・團縁、内：波濤文か紅葉・團縁		155	158
b234	陶器	碗?	不明	近世?	P3748 (SB128) 堆積土	胴部	-	29	灰釉	ナデ	写真掲載	-	158
b235	陶器	皿	瀬戸美濃	16C	P3755 堆積土	口縁部	-	26	灰釉	回転ナデ	大窯	155	158
b236	陶器	皿	唐津	17 前	P3776 (SB76) 堆積土最下位	口縁部	-	51	灰釉	回転ナデ		155	158
b237	磁器	青磁 碗	中国	15-16C	P3779 堆積土	口縁部 (148)	- [2.3]	48	灰釉	回転ナデ		155	158
b238	陶器	碗	相馬	18C	P3830 堆積土上位	底部	-	84	灰釉	回転ナデ		155	158
b239	磁器	染付 碗	中国	16C	P3870 堆積土	胴部	-	1.2	透明釉	回転ナデ、外：草花文、内：團縁		155	158
b240	陶器	小盃	不明	中世?	P3882 (SB83) 堆積土	口縁部	-	29	自然釉	回転ナデ	須恵器の可能性も有	155	158
b241	磁器	染付 皿	中国	16C	P3905 (SB95) 堆積土中位	口縁部	-	49	透明釉	回転ナデ、外：草花文、内：菱形文		155	158
b242	磁器	青磁 碗	中国	15-16C	P4028 堆積土	胴部	-	58	青磁釉	回転ナデ	二次焼熟	155	158
b243	陶器	端反皿	瀬戸美濃	16C	P4204 堆積土	口縁部	-	19	灰釉	回転ナデ	大窯	155	158
b244	陶器	青磁 碗	中国	15-16C	P4269 堆積土	底部	(5.4) [2.8]	21.2	青磁釉	回転ナデ、底：回転ヘラケスリ		155	158
b245	陶器	甕	須恵器系	12C	P4276 堆積土	胴部	-	274	-	外：叩き (格子)、内：叩き (平行)		155	158

第11表 陶磁器観察表(6)

掲載 No.	種別	器種	産地	製作年代	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)	重量 (g)	釉薬	文様・副文など	備考	図版 No.	写真 No.	
b246	磁器	青磁 碗	中国	15~16C	P4304 堆積土	胴部	-	4.3	青磁釉	回転ナデ	二次被熱	155	158	
b247	陶器	碗	相馬	18C	P4337 (SB87) 掘り方堆積土下位	胴部	-	6.8	灰釉	回転ナデ		155	158	
b248	陶器	碗	肥前?	近世	P4547 (SB107) 堆積土上位	底部	3.8	17.1	灰釉	回転ナデ、底: 緑青底	目録のみ	155	158	
b249	磁器	染付 碗	中国	16C	P4551 (SB104) 堆積土	胴部	-	1.2	透明釉	回転ナデ、外: 草花文、内: 團線		155	158	
b250	陶器	瀧反皿	瀬戸・美濃	16C	P4554 堆積土	口~胴	(10.4)	7.7	灰釉	回転ナデ	大窯、二次被熱で輪変成	155	158	
b251	磁器	染付 碗	中国	16C	P4562 (SB109) 堆積土	胴部	-	5.2	透明釉	回転ナデ、外: 牡丹、内: 團線	二次被熱、文様不明	155	158	
b252	陶器	染付 碗	肥前	18~19C	P4677 堆積土	胴部	-	3.3	透明釉	回転ナデ、外: 草花文	失透性の薬灰釉	155	158	
b254	磁器	染付 皿	肥前	17C	P4726 堆積土	口縁部	-	4.9	透明釉	回転ナデ	大窯工期?	155	158	
b255	磁器	染付 皿	肥前	18C	P4945 堆積土	底部	(7.4)	11.1	透明釉	回転ナデ、外: 草花文、内: 海浜風景文?		155	158	
b256	陶器	皿	唐津	16末~17前	P5015 堆積土	底部	-	3.9	灰釉	回転ナデ、底: 回転ヘラケズリ	大窯I之期 (1594~1610年代)	155	158	
b257	陶器	瀧反皿	瀬戸・美濃	16C	P5022 堆積土	口~底	(11.8)	2.6	15.7	灰釉	回転ナデ、底: 回転ヘラケズリ	大窯	155	158
b258	磁器	皿	中国?	中世	P5151 堆積土	口縁部	(11.6)	-	13.1	2.6	透明釉	回転ナデ	155	158
b259	陶器	皿	須恵器系	12C	P5226 堆積土	口縁部	-	-	134.4	自然釉	回転ナデ	二次被熱、青磁の可能性有	155	158
b260	陶器	小皿	相馬	18C	P5280 堆積土	口縁部	9.0	-	1.8	6.5	灰釉	回転ナデ	155	158
b261	磁器	染付 皿	中国	16C	1号沢 黒色土	底部	(7.4)	12.8	透明釉	回転ナデ、内: 草花文		155	158	
b262	陶器	片口鉢	常滑	12C	1号沢 堆積土	口縁部	-	17.8	自然釉	回転ナデ		155	158	
b263	磁器	青磁 碗	中国	15~16C	1号沢 堆積土	口縁部	-	4.2	青磁釉	回転ナデ	高台内の袖削り取	155	158	
b264	磁器	青磁 碗	中国	15C	1号沢 堆積土	底部	(6.6)	15.1	27.1	青磁釉	回転ナデ、内: 陰刻花文・團線	155	158	
b265	陶器	甕	常滑	12C	T0 I層	胴部	-	-	63.0	自然釉	ナデ	155	158	
b266	磁器	青磁 碗	中国	12C	T1 I層	胴部	-	-	10.1	青磁釉	回転ナデ	155	158	
b267	磁器	染付 皿	中国	16C	T1 埋め戻し土	底部	-	1.2	6.1	透明釉	回転ナデ、内: 玉取獅子	155	158	
b268	陶器	碗	相馬	18C	T2 I層	底部	-	7.5	灰釉	回転ナデ、底: 貼付高台	御筆耳軸に近い青い灰釉	155	158	
b269	陶器	内釜皿	瀬戸・美濃	16C	T2周辺 検出面	胴~底	(6.0)	15.5	灰釉	回転ナデ、内: 輪割き	大窯	155	158	
b270	陶器	皿	瀬戸・美濃	16C	T2周辺 検出面	口縁部	-	-	3.8	灰釉	回転ナデ	大窯	155	158
b271	陶器	甕	不明	近現代	T6 I層	胴部	-	-	7.3	鉄釉	回転ナデ	155	158	
b272	陶器	甕	常滑	12C	T6 I層	胴部	-	-	5.5	-	ナデ	155	158	
b273	陶器	鉢	相馬	18~19C	T8 I層 調査区下段北側 I層	口縁部	(22.6)	-	35.1	47.5	灰釉	回転ナデ	155	158
b274	磁器	染付 碗	不明	不明	T9 I層	胴部	-	-	8.7	透明釉	回転ナデ、外: 草花文、内: 多重團線	155	158	
b275	磁器	皿	瀬戸・美濃	16C	T9西側 検出面	口~底	(10.4)	6.0	2.5	17.0	灰釉	回転ナデ	155	158
b276	陶器	皿	瀬戸・美濃	16C	T9西側 検出面	底部	(6.0)	11.1	17.0	灰釉	回転ナデ	大窯、発色不良、b276と同一個体か	155	158
b277	陶器	甕	須恵器系	12C	T20 I層	胴部	-	-	12.5	自然釉	外: 明き、内: ナデ	大窯、発色不良、b275と同一個体か	155	158
b278	陶器	甕	信楽	15~16C	T20 I層	胴部	-	25.5	-	ナデ		155	159	
b279	土器	積水鉢?	不明	近現代	T22 I層	口縁部	(12.8)	-	39.1	26.1	-	155	159	
b280	陶器	甕	常滑	12C	T23 検出面	胴部	-	-	45.2	-	外: 押印、内: ナデ	155	159	
b281	陶器	甕	瀬美	12C	T23北側 I層	頸部	-	74.6	自然釉	外: ナデ→裂装櫛文、内: ナデ	裂装櫛文、耳部欠損	156	159	
b282	陶器	甕	瀬美	12C	T23北側 検出面	頸部	-	34.3	自然釉	ナデ		156	159	
b283	陶器	描鉢	不明	近世以降	R1補3 (III A8e) 北側 I層	口縁部	-	-	41.4	鉄釉	回転ナデ	156	159	
b284	陶器	描鉢	不明	近世以降	R4補3 (III A8e) 北側 I層	胴部	-	26.2	-	回転ナデ、内: 脚状工具による押目		156	159	
b285	磁器	染付 皿	中国	16C	I A12g 覆乱	口縁部	-	2.1	透明釉	回転ナデ		156	159	
b286	磁器	染付 碗	中国	16C	I A12g 覆乱	口縁部	-	3.0	透明釉	回転ナデ、外: 波文?		156	159	
b287	陶器	染付 碗	肥前?	17後~18前	I A12h 覆乱	口縁部	-	3.3	透明釉	回転ナデ、外: 草花文	大窯III~IV期、陶胎染付	156	159	
b288	磁器	染付 皿	中国	16C	I A2h・j II層上面	口縁部	-	2.6	透明釉	回転ナデ、内: 牡丹	文様不明	156	159	
b289	陶器	鉄絵皿	相馬	18C	I A2h-j 覆乱	口~底	(6.0)	26.1	67.9	灰釉	回転ナデ、内: 海浜風景文、底: 回転ヘラケズリ	鉄絵	156	159
b290	磁器	青磁 碗	中国	15C	I A3-5f-h I層	胴部	-	20.1	48.4	青磁釉	回転ナデ、内: 陰刻花文	高台内の袖削り取	156	159
b291	磁器	染付 碗	瀬戸方面東北	18C以降	I A3-5f-h I層・覆乱	胴部	-	14.4	透明釉	回転ナデ、外: 御裳と矢羽根?、内: 團線		156	159	
b292	陶器	皿	相馬	19C	I A3h 覆乱	口~胴部	(13.2)	-	24.1	12.8	灰→薬灰 釉	玉縁口縁	156	159
b293	陶器	皿	相馬	18~19C	I A4j 覆乱	口縁部	(15.0)	-	30.1	9.0	灰→薬灰 釉	玉縁口縁	156	159
b294	陶器	鉄絵皿	相馬	18C	I A7-9g-j I層	胴部	-	-	12.0	灰釉	回転ナデ、内: 鉄絵、底: 回転ヘラケズリ	b184と同一個体か、文様不明	156	159

第11表 陶磁器観察表 (7)

掲載 No.	種別	器種	産地	製有年代	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)	重量 (g)	釉薬	文様・調整など	備考	図版 No.	写真 No.
b295	陶器	壺	瀬戸	近世	I A7-9g-j I層	口縁部	-	258	鉄釉	回転ナズ、内：船状工具による楕円、口縁：片口		156	159
b296	陶器	壺	不明		I A7-9g-j 複乱	胴部	-	424	鉄釉	回転ナズ、内：船状工具による楕円		156	159
b297	磁器	鉢付 皿	肥前	18C	I A7-9g-j 複乱	底部	(5.8) [1.1]	174	透明釉	回転ナズ、内：草花文・五弁花	大橋IV期 (1690~1780年代)	156	159
b298	陶器	皿	相馬	18~19C	I A7-9g-j 複乱	底部	-	89	灰釉	回転ナズ		156	159
b299	陶器	壺	不明		I A7-9g-j 複乱	口縁部	-	345	鉄釉	回転ナズ		156	159
b300	磁器	鉢付 碗	中国	16C	I A7-9g-j 複乱	胴部	-	39	透明釉	回転ナズ、外：唐草文、内：草花文		156	159
b301	磁器	浮絵皿	不明	近現代	II A1-3m (Gトレンゾ周辺) I層	口~底	5.6 2.3 3.4	346	透明釉	回転ナズ、外：上縁付「松島」・五大堂？、内底面にガラス玉嵌め込み		156	159
b302	磁器	鉢付 徳利	不明	19C	II A1-3m (Gトレンゾ周辺) I層	胴部	-	[8.2]	透明釉	回転ナズ、外：蜻蛉草文		156	159
b303	磁器	鉢付 皿	不明	19C	II A1-3m (Gトレンゾ周辺) I層	胴~底	-	7.2 [3.1]	透明釉	回転ナズ、外：脚板転写、底部：蛇ノ目軸刺ぎ		156	159
b304	磁器	鉢付 碗	肥前	18~19C	II A1-3m (Gトレンゾ周辺) I層	胴~底	-	4.1 [5.2]	透明釉	回転ナズ、外：腰圍山水文、内：見込み		156	159
b305	磁器	鉢付 皿	中国	16C	II A1-3m (Gトレンゾ周辺) I層	底部	(4.6) [1.5]	135	透明釉	回転ナズ、外：唐草文・團線、内：花文？・團線		156	159
b306	磁器	鉢付 碗	中国	16C	II A16~17 i・j 検出面	口縁部	-	54	透明釉	回転ナズ、外：草花文		156	159
b307	磁器	青磁 碗	中国	15~16C	II A18k 検出面	口縁部	-	7.2	青磁釉	回転ナズ、内：陰刻の團線か		156	159
b308	陶器	皿	瀬戸美濃	16C	II A1h・j (SD104北) 検出面	底部	(5.8) [1.5]	87	灰釉	回転ナズ	大窯	156	159
b309	陶器	天目茶碗	瀬戸美濃	16C	II A20 i・j 検出面	口縁部	-	4.8	鉄釉	回転ナズ		156	159
b310	陶器	皿	瀬戸美濃	16C	II A1k-1 (I号法精側) 複乱	底部	-	4.6	灰釉	回転ナズ	大窯	156	159
b311	陶器	皿	瀬戸美濃	16C	SD35周辺 検出面	底部	-	7.9	灰釉	回転ナズ、内：陰刻による菊花文	大窯	156	159
b312	陶器	甕	須磨器系	12C	SD38・104の間 検出面	胴部	-	68.4	-	外：叩き(格子)、内：ナズ	内面焼結か、黒色化	156	159
b313	陶器	徳利	不明		SD101南東側 I層	胴~底	(6.0) [7.1]	54.6	鉄釉	回転ナズ		156	159
b314	陶器	甕	不明		SD101南東側 I層	口縁部	(19.6)	38.1	鉄釉	回転ナズ	蓋物	156	159
b315	磁器	小皿	不明	19C以降	SD101南東側 I層	口~底	11.0 6.1 2.2	92.9	透明釉	回転ナズ、内：海岳風景文(脚板転写)		156	159
b316	陶器	H脚形銅器	不明	近現代	SD103北側 複乱	完形	31.8 15.2 14.7	6,200.0	海鼠釉	型作り成形、上面のみ施釉	口径は長さ、底径は軸の計測値	157	160
b317	陶器	火鉢	信楽	近現代	SD103北側 複乱	口~底	33.0 29.2 30.2	12,600.0	藍→海鼠釉	外：回転ナズ→多角形整形・雷文、底部：ヘラケズリ	上面から見ると十二角形、底部に鉄軸脚毛塗	157	160
b318	磁器	白磁 碗	中国	12C	SD106・107間 遺物包含層	底部	-	11.9	透明釉	回転ナズ、内：團線、外：露胎	白磁碗IV類	157	159
b319	陶器	壺	瀬美	12C	SD106・107間 遺物包含層	胴部	-	68.5	自然釉	ナズ		157	159
b320	陶器	片口鉢	常滑	12C	SD106・107間 遺物包含層	底部	(14.8) [2.8]	61.6	-	外：回転ナズ→回転ヘラケズリ、内：回転ナズ、底部：ヘラケズリ	内面摩耗	157	159
b321	陶器	壺	瀬美	12C	SD106・107間 遺物包含層	胴部	-	39.8	-	外：ナズ→沈線、内：ナズ	筋文雷か	157	159
b322	陶器	甕	常滑	12C	SD106・107間 遺物包含層	胴部	-	46.3	-	外：押印(格子)、内：ナズ		157	160
b323	陶器	皿	瀬戸美濃	16C	SD107北側 検出面	口縁部	-	5.2	灰釉	回転ナズ	大窯	157	160
b324	陶器	鉢付 碗	肥前	17後~18前	SD107付近 検出面	底部	-	12.9	透明釉	回転ナズ、外：團線、内：草花文	大橋III~IV期、陶胎添付	157	160
b325	陶器	皿	瀬戸美濃	16C	SD107付近 検出面	口縁部	-	5.1	灰釉	回転ナズ	大窯	157	160
b326	陶器	碗	不明	近現代	H30年度調査区 東端斜面 検出面	胴部	-	2.3	灰釉	回転ナズ	胎土に黒色粒含む	157	160
b327	陶器	甕	須磨器系	12C	R1年度調査区 排土	胴部	-	86.7	-	外：叩き(平行)、内：ナズ		157	160
b328	陶器	甕	常滑	12C	R1年度調査区 排土	胴部	-	115.3	自然釉	外：押印(平行)、内：ナズ		157	160
b329	陶器	壺	瀬美	12C	R2年度調査区 I層	胴部	-	46.8	-	外：回転ナズ、内：ナズ		157	160
b330	磁器	鉢付 皿	中国	16C	R2年度調査区 排土	胴部	-	3.9	透明釉	回転ナズ、内：草花文		157	160
b331	陶器	志野 向付	美濃	16末~17初	地点不明 検出面	胴部	-	11.1	長石釉	ナズ、内：鉄絵、底：三足か	大窯4~運房I期	157	160

※計測値欄の( )は還元値、[ ]は残存値

第12表 石器観察表(1)

掲載 No.	器種	遺構・地点・層位	長	計測値 (cm)	幅	厚	重量 (g)	石質	備考	図版 No.	写真 No.
c1	石臼?	SI03 南西区 堆積土中位	[6.75]	[7.8]	[4.1]	1226	安山岩 (新生代第四紀 岩手山)	粉塊白の再加工作品か、多角柱状	158	161	
c2	石臼	SI03 南西区 堆積土中位	12.8	21.2	26.7	5620.0	凝灰質砂岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	粉塊白、被熱	158	161	
c3	敲磨器	SI04 2区 堆積土下位	10.2	9.5	5.4	524.2	安山岩 (新生代第四紀 岩手山)	敲磨 C 類	158	161	
c4	自然礫	SI04 2区 堆積土中位	[8.7]	[7.2]	5.0	388.6	チャート (古生代 北上山地)	被熱	158	161	
c5	敲磨器	SI04 2区 堆積土中位	16.5	7.8	3.0	566.7	アイサイト (新生代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 C 類	158	161	
c6	砥石?	SI04 5区 堆積土上~中位	15.4	10.7	3.8	844.1	流紋岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	磨り面有	159	161	
c7	敲磨器	SI04 6区 堆積土上位	19.2	6.6	3.4	515.3	安山岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 C 類、被熱	158	161	
c8	石臼	SI04 B断面東側 2層	9.4	6.6	8.8	280.7	安山岩 (新生代第四紀 岩手山)	粉塊白	159	161	
c9	敲磨器	SI07 5区 堆積土上~中位	7.1	5.2	3.1	71.4	安山岩 (新生代第四紀 岩手山)	敲磨 AC 類	159	161	
c10	台石	SI07 堆積土上位	[27.2]	29.1	14.3	12,720.0	アイサイト (新生代新第三紀 奥羽山脈)		159	161	
c11	敲磨器	SI09 ベルト 4層	17.5	13.5	9.9	1,327.1	安山岩 (新生代第四紀 岩手山)	被熱	159	161	
c12	自然礫	SI09 ベルト 4層	[12.1]	[9.5]	[2.5]	422.3	流紋岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	被熱	159	161	
c13	砥石	SI10 1区 堆積土	4.8	4.4	3.7	48.0	安山岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	使用痕無し	159	161	
c14	砥石	SI10 1区 堆積土	2.3	1.8	1.8	5.0	安山岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	使用痕無し	159	161	
c15	砥石	SI10 1区 堆積土	3.1	2.5	2.0	11.1	安山岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	使用痕無し	159	161	
c16	砥石	SI10 1区 堆積土	2.4	2.2	1.6	6.8	安山岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	使用痕無し	159	161	
c17	敲磨器	SI10 1区サブトレンチ 堆積土	7.2	6.9	3.1	157.2	安山岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 C 類	159	161	
c18	敲磨器	SI12 5層	[12.0]	[14.7]	[4.4]	643.1	頁岩 (古生代 北上山地)	敲磨 A 類、被熱	160	162	
c19	敲磨器	SI14 貯蔵穴 堆積土上位	11.7	7.6	4.5	334.3	流紋岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 C 類	160	161	
c20	石臼	SI14 南西区 堆積土上位	7.8	15.3	8.9	675.4	安山岩 (新生代第四紀 岩手山)	茶臼	160	161	
c21	砥石	SI16 ベルト 堆積土	[9.8]	[5.5]	[2.1]	135.7	頁岩 (古生代 北上山地)		160	161	
c22	敲磨器	SI17 堆積土上位	[10.2]	[9.9]	3.5	534.7	アイサイト (新生代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 A 類、コケ付着	160	162	
c23	石臼	SI17 検出面	7.9	13.5	8.8	603.2	凝灰質砂岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	茶臼	160	162	
c24	砥石	SI19 貯蔵穴 堆積土	[6.8]	[7.6]	5.2	261.4	凝灰岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 C 類に転用	160	162	
c25	砥石	SI21 1層	[14.1]	4.8	3.2	606.9	玄武岩 (新生代第四紀 岩手山)	石質と酸化鉄付着により擦痕不明瞭	161	162	
c26	台石	SI21 検出面	[20.0]	[14.9]	[13.9]	4,321.7	安山岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	金床石の可能性有	161	162	
c27	石臼	SI21 検出面	11.2	22.7	13.6	4,800.0	安山岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	茶臼	162	162	
c28	敲磨器	SI22 南東区 堆積土下位	[3.6]	5.2	3.6	39.1	流紋岩質砂岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 C 類	162	162	
c29	金床石	SI22 北西区 堆積土	[9.3]	[15.1]	3.7	911.8	アイサイト (新生代新第三紀 奥羽山脈)		162	162	
c30	台石	SI22 南北ベルト南 堆積土	[20.5]	[9.1]	[11.3]	3,140.5	安山岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)		161	162	
c31	石臼	SI24 北区 堆積土上位	[21.8]	[11.8]	9.2	2,841.4	安山岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	茶臼の下臼、被熱	161	163	
c32	台石	SI25 カマド煙出し 検出面	[35.7]	[13.0]	14.0	8,800.0	安山岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)		163	163	
c33	砥石	SI25 南東区 堆積土上位	[10.8]	[3.9]	4.6	218.4	凝灰岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	被熱	163	163	
c34	敲磨器	SK02 堆積土	9.4	8.6	4.9	1,166.7	ホルンフェルス (古生代 中生代白亜紀に變成 北上山地)	被熱	163	162	
c35	敲磨器	SK25 3層	14.5	9.2	4.45	581.9	流紋岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 AB 類	163	163	
c36	敲磨器	SK25 3層	8.2	7.7	4.7	178.7	凝灰岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 A 類	163	162	
c37	敲磨器	SK25 3層	[13.4]	8.4	4.7	766.6	アイサイト (新生代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 A 類	163	163	
c38	敲磨器	SK25 堆積土中~下位	22.7	12.2	9.6	1,955.8	安山岩 (新生代第四紀 岩手山)	敲磨 C 類	163	163	
c39	敲磨器	SK25 堆積土中位	16.3	10.6	8.7	2,119.1	安山岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 A 類	164	163	
c40	石匙	SK33 堆積土	[3.5]	1.7	0.8	5.1	頁岩 (古生代 北上山地)	摩耗、欠損	164	163	
c41	砥石	SK40 堆積土上位	9.5	8.3	4.3	197.6	安山岩 (新生代第四紀 岩手山)		164	163	
c42	敲磨器	SK40 堆積土上位	7.3	5.7	4.1	185.1	流紋岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 C 類	164	163	
c43	玉石	SK42 2区 堆積土上~中位	3.0	2.1	1.6	9.6	安山岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)		164	163	
c44	石臼	SK44 3区 堆積土上位	[10.3]	[5.6]	[6.1]	218.2	安山岩 (新生代第四紀 岩手山)	粉塊白	164	163	
c45	敲磨器	SK65 底面直上	27.6	15.3	8.7	1,987.7	安山岩 (新生代第四紀 岩手山)	敲磨 A 類	164	163	
c46	敲磨器	SK78 堆積土上位	[9.9]	10.0	6.2	358.6	流紋岩質砂岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 C 類	164	164	

第12表 石器観察表 (2)

掲載 No.	器種	遺構・地点・層位	長	幅	厚	重量 (g)	石質	備考	図版 No.	写真 No.
c47	敲磨器	SK78 堆積土中位	12.5	[14.1]	8.4	1,352.5	アイサイト (新生代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 C 類	165	164
c48	石臼	SK93 堆積土	[90]	[70]	6.4	189.2	玄武岩 (新生代第四紀 岩手山)	茶臼の下臼	165	164
c49	敲磨器	SK97 堆積土	4.7	6.1	3.0	100.6	アイサイト (新生代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 C 類	165	164
c50	敲磨器	SK98 堆積土	[99]	9.1	8.0	510.6	玄武岩 (新生代第四紀 岩手山)	敲磨 A 類、両側面	165	164
c51	剥片	SD02 B 区 堆積土	4.8	2.2	1.1	6.6	頁岩 (古生代 北上山地)	フレイク	165	164
c52	石臼	SD14 北側 堆積土中位	10.6	11.3	18.1	1,507.9	安山岩 (新生代第四紀 岩手山)	茶臼	165	164
c53	敲磨器	SD21 北側 堆積土	17.0	10.5	4.5	1,072.4	アイサイト (新生代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 A 類	165	164
c54	砥石	SD21 北側 堆積土	9.2	5.5	5.4	164.0	安山岩 (新生代第四紀 岩手山)		165	164
c55	石皿	SD22-23 堆積土	[6.3]	[5.9]	[2.2]	88.9	アイサイト (新生代新第三紀 奥羽山脈)		166	164
c56	石鉢	SD28 堆積土	15.9	22.3	9.9	2,597.2	凝灰質砂岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)		166	165
c57	石臼	SD33 3 区 堆積土上位	18.6	5.4	9.6	926.0	安山岩 (新生代第四紀 岩手山)	種別不明	166	164
c58	石臼?	SD33 4 区 堆積土上位	13.1	14.7	10.7	1,629.8	安山岩 (新生代第四紀 岩手山)	粉挽臼の再加工品か	166	164
c59	砥石	SD38 ベルト付近 堆積土	13.6	8.4	4.1	423.2	流紋岩 (新世代新第三紀 奥羽山脈)		166	164
c60	敲磨器	SD38-39 B 区 堆積土上位	[7.2]	[5.3]	2.1	85.8	安山岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 A 類	166	164
c61	石臼	SD42 ベルト②東側 堆積土上位	[18.5]	[9.0]	12.7	2,154.1	安山岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	茶臼の上臼、側面に麥、摩耗激しい	167	165
c62	石鉢	SD44 堆積土下位	[6.0]	[3.3]	[5.7]	75.2	安山岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)		167	165
c63	敲磨器	SD101 北側 砂礫層上面	[12.0]	9.1	[2.6]	231.4	玄武岩 (新生代第四紀 岩手山)	敲磨 A 類	167	165
c64	敲磨器	SD101 西端 堆積土下位	9.8	12.1	4.5	578.2	チャート (古生代 北上山地)	敲磨 B 類	167	165
c65	石臼	SD101 西端 堆積土上位 (青黑色粘土)	[14.5]	[19.5]	[12.0]	2,670.2	安山岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	茶臼、被熱	167	165
c66	不明	SD101 西端北壁際 堆積土下位	18.5	9.5	6.7	1,019.1	アイサイト (新生代新第三紀 奥羽山脈)	台として使用か	168	165
c67	敲磨器	SD102 堆積土上位	13.6	7.5	2.8	476.5	礫岩 (古生代 北上山地)	敲磨 A 類	167	165
c68	筒状石器	SD102 西から 12 m 堆積土上位	7.5	6.4	1.0	58.5	頁岩 (古生代 北上山地)		168	166
c69	砥石	SD103 堆積土	[12.3]	[7.6]	3.4	4,312.0	凝灰岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)		169	165
c70	石臼	SD104 中央北側 堆積土最下層~底面直上	13.2	13.1	16.7	2,603.8	凝灰質砂岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	粉挽臼	168	165
c71	敲磨器	SD104 中央区 堆積土下位	18.5	18.3	10.0	2,355.4	安山岩 (新生代第四紀 岩手山)	敲磨 C 類	168	166
c72	石臼	SD104 中央区 堆積土下位	9.8	16.4	11.8	1,917.9	凝灰質砂岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	粉挽臼	169	165
c73	硯	SD104 中央区 堆積土最下位	[5.6]	[2.4]	[0.7]	6.9	凝灰岩 (白亜紀 姥石層?)		169	165
c74	石鉢	SD104 底面直上	4.1	9.8	7.9	268.8	凝灰岩質礫岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)		169	165
c75	砥石	SD104 ベルト東側 堆積土中~下位	[14.3]	[7.1]	[4.2]	551.9	流紋岩 (新世代新第三紀 奥羽山脈)		170	166
c76	石臼	SD106 1 層	[16.1]	[18.9]	10.9	2,773.9	安山岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	茶臼の下臼	169	166
c77	敲磨器	SD106 検出面	[10.7]	[10.5]	8.9	405.1	安山岩 (新生代第四紀 岩手山)	敲磨 C 類	170	166
c78	石臼	SD106 中央トレンチ 1 層	[12.2]	[14.2]	9.3	2,012.7	安山岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	粉挽臼の下臼	170	166
c79	敲磨器	SD106 中央トレンチ 堆積土上位	[15.3]	[11.8]	7.2	815.3	流紋岩質砂岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 C 類、両側面	170	166
c80	敲磨器	SD106 中央トレンチ 堆積土上位	7.2	5.8	4.2	167.5	玄武岩 (新生代第四紀 岩手山)	敲磨 C 類	170	166
c81	敲磨器	SD106 中央トレンチ 堆積土上位	[8.0]	7.4	5.7	258.9	玄武岩 (新生代第四紀 岩手山)	敲磨 C 類、側面砥石として二次使用	171	167
c82	石臼	SD106 中央トレンチ 堆積土中位	[9.5]	[8.8]	12.3	1,147.5	凝灰質砂岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	粉挽臼の上臼	171	167
c83	敲磨器	SD106 中央トレンチ 堆積土中位	[14.5]	[17.6]	13.4	1,774.2	玄武岩 (新生代第四紀 岩手山)	敲磨 C 類、両側面	171	167
c84	自然礫	SD106 中央トレンチ 堆積土下位	[10.8]	6.0	2.3	217.8	頁岩 (古生代 北上山地)	被熱	171	166
c85	台石	SD106 中央トレンチ 堆積土下位	[20.5]	[21.0]	16.5	3,019.2	玄武岩 (新生代第四紀 岩手山)	被熱	171	166
c86	砥石	SD106 中央トレンチ北 堆積土上位	[7.6]	[5.5]	3.4	201.9	砂岩 (中生代白亜紀 姥石層相当 厚地山層)	被熱	171	166
c87	敲磨器	SD106 中央トレンチ西側 堆積土中~下位	8.4	[5.7]	4.4	193.3	安山岩 (新生代第四紀 岩手山)	敲磨 C 類、両側面・側面	172	166
c88	敲磨器	SD106 中央トレンチ西側 堆積土中~下位	22.1	12.0	8.4	2,326.8	流紋岩質砂岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 C 類	172	167
c89	金床石	SD106 中央トレンチ西側 堆積土中~下位	17.6	20.3	7.9	4,049.4	流紋岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	被熱	172	167
c90	敲磨器	SD106 中央ベルト 1 層	[7.7]	10.5	4.8	285.0	安山岩 (新生代第四紀 岩手山)	敲磨 C 類	172	168
c91	敲磨器	SD106 中央ベルト 1 層	6.0	4.9	3.9	86.7	安山岩 (新生代第四紀 岩手山)	敲磨 B 類、痕跡微弱	172	167
c92	敲磨器	SD106 中央ベルト 1 層	17.4	12.0	8.0	1,993.9	アイサイト (新生代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 C 類	172	168

第12表 石器観察表 (3)

掲載 No.	器種	遺構・地点・層位	長	計測値 (cm)	厚	重量 (g)	石質	備考	図版 No.	写真 No.
c93	石鉢	SD106 中央ベルト I層	[11.1]	[10.6]	6.4	1,003.2	凝灰岩質礫岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)			
c94	敲磨器	SD106 中央ベルト 堆積土上位	18.7	7.0	6.3	1,327.3	凝灰岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 A 類	172	168
c95	石臼	SD106 トレンチ 堆積土上位	11.6	10.9	5.8	487.6	安山岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	粉挽臼	173	168
c96	敲磨器	SD106 西端 検出面	14.1	8.9	6.9	1,014.9	流紋岩質砂岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 C 類	173	168
c97	敲磨器	SD106 西端 堆積土上～中位	12.7	[9.0]	7.1	468.4	安山岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 C 類	173	168
c98	石臼	SD106 西端 堆積土上～中位	[14.7]	[11.0]	7.3	878.0	流紋岩質砂岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	磨り面有	173	168
c99	敲磨器	SD106 西端 堆積土上～中位	6.3	6.9	4.1	321.8	安山岩 (新生代新第四紀 岩手山)	敲磨 C 類	173	168
c100	敲磨器	SD106 西端 堆積土上～中位	8.2	8.0	4.0	354.6	安山岩 (新生代新第四紀 岩手山)	敲磨 C 類	173	168
c101	石臼	SD106 西端 堆積土下位	[11.8]	[10.5]	11.0	1,552.2	凝灰岩質砂岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	米白の上臼	173	168
c102	台石	SD106 西端 堆積土下位	[10.4]	[14.2]	9.3	911.8	安山岩 (新生代新第四紀 岩手山)		174	168
c103	金床石	SD106 西端 堆積土下位	[15.8]	[11.7]	[11.6]	1,429.5	アモサイト (新生代新第三紀 奥羽山脈)		174	169
c104	敲磨器	SD106 西端 堆積土下位	9.8	10.9	8.1	875.3	玄武岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 B 類、両面	174	168
c105	敲磨器	SD106 西端 堆積土下位	[8.3]	[13.3]	9.6	613.1	玄武岩 (新生代新第四紀 岩手山)	敲磨 C 類	174	169
c106	金床石	SD106 西端 堆積土下位	[14.0]	24.1	14.8	6,920.0	安山岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)		174	169
c107	敲磨器	SD106 西端 堆積土下位	[18.7]	[20.6]	[15.9]	6,960.0	ホルンフェルス (古生代 中生代白亜紀に變成 北上山地)	被熱	175	169
c108	敲磨器	SD106 東端 堆積土上位	[14.2]	[8.3]	10.1	857.6	玄武岩 (新生代新第四紀 岩手山)	敲磨 C 類、両面	175	169
c109	敲磨器	SD106 東端 堆積土上位	[15.6]	6.6	6.6	581.5	玄武岩 (新生代新第四紀 岩手山)	敲磨 A 類、両面	175	169
c110	石臼	SD106 東端 堆積土中位	[15.6]	[22.2]	11.3	3,848.3	玄武岩 (新生代新第四紀 岩手山)	台石使用後に被熱か	175	170
c111	敲磨器?	SD106 東端 堆積土	[7.3]	[8.9]	3.6	205.0	凝灰岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 C 類か	175	169
c112	自然礫	SD106 東端 堆積土	[8.3]	[11.8]	2.2	254.0	凝灰岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	被熱、黒色付着物	175	170
c113	石鉢	SD106 東端 堆積土	[11.4]	[14.9]	5.5	1,458.9	凝灰岩質砂岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	被熱	176	169
c114	敲磨器	SD106 南トレンチ I層	[21.7]	[21.0]	9.2	7,280.0	花崗閃緑岩 (中生代白亜紀 北上山地)	敲磨 A 類	176	170
c115	敲磨器	SD106 (I A19h) 堆積土上位	16.4	5.6	2.1	309.1	流紋岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 A 類	176	170
c116	敲磨器	SD106 (I A19h) 堆積土上位	16.5	5.5	1.5	247.8	流紋岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 B 類	176	170
c117	敲磨器	SD106 (I A19h) 堆積土上位	[10.0]	11.7	7.6	431.9	安山岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 C 類、両面、貫通	176	170
c118	砥石	SD106 (I A19h) 堆積土上位	12.8	6.6	5.0	600.0	流紋岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)		177	170
c119	不明	SD106 (I A19h) 堆積土中位	8.4	7.3	4.0	210.8	安山岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	突起一箇所	177	170
c120	敲磨器	SD106 (I A19h) 堆積土中位	[12.4]	7.7	7.7	481.4	流紋岩質砂岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 C 類、両面	177	170
c121	石皿	SD106 (I A19h) 堆積土中位	12.7	[9.0]	5.8	379.3	安山岩 (新生代新第四紀 岩手山)		177	170
c122	台石	SD106 (I A19h) 堆積土中位	[15.0]	10.2	7.5	1,003.1	安山岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)		177	170
c123	敲磨器	SD106 (I A19h) 堆積土中位	19.0	7.9	7.7	1,923.9	流紋岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 B 類	177	171
c124	敲磨器	SD106 (I A19h) 堆積土中位	23.2	10.2	7.0	3,073.9	流紋岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 B 類	177	171
c125	台石	SD106 (I A19h) 堆積土中位	[9.3]	13.2	6.8	862.7	安山岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)		177	171
c126	台石	SD106 (I A19h) 堆積土中位	[6.6]	[10.2]	7.6	380.7	安山岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)		178	171
c127	金床石	SD106 (I A19h) 堆積土中位	[16.7]	[11.5]	[7.4]	1,845.2	流紋岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)		178	171
c128	自然礫	SD107 トレンチ 堆積土上～中位	13.5	15.1	2.1	717.3	砂岩 (古生代 北上山地)	被熱	178	171
c129	石臼	SD107 トレンチ西側 堆積土上～中位	[20.0]	[3.6]	9.7	755.7	玄武岩 (新生代新第四紀 岩手山)	種別不明、下臼	179	171
c130	石臼	SD107 トレンチ西側 堆積土中位	[19.8]	[15.5]	11.5	2,393.1	安山岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	米白の下臼、被熱	178	172
c131	石臼	SD107 トレンチ西側 堆積土中位	[10.9]	[5.9]	7.6	390.0	玄武岩 (新生代新第四紀 岩手山)	種別不明、下臼	179	171
c132	敲磨器	SD107 (I A15h) 検出面	[12.2]	[7.5]	[7.5]	514.0	安山岩 (新生代新第四紀 岩手山)	敲磨 C 類	178	171
c133	敲磨器	SD107 (I A15h) 堆積土上位	[13.8]	[9.7]	7.1	724.1	安山岩 (新生代新第四紀 岩手山)	敲磨 C 類	179	171
c134	不明	SD107 (I A16g) 堆積土下位	4.6	7.2	4.7	160.8	安山岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	乳棒として使用か、被熱	179	171
c135	軋石	SL11 前庭部 堆積土	2.8	2.6	2.4	11.5	安山岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	使用痕無し	179	171
c136	敲磨器	SL11 前庭部 堆積土	[5.0]	[5.6]	[1.1]	39.9	流紋岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 C 類、被熱後に使用か	179	171
c137	敲磨器	PI155 堆積土	15.7	6.4	6.8	976.7	アモサイト (新生代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 B 類、被熱	179	171
c138	台石	PI22 (SB16) 堆積土上位	[23.8]	21.9	[13.2]	9,600.0	安山岩 (新生代新第三紀 奥羽山脈)	金床石の可能性有	179	172

第12表 石器観察表 (4)

掲載 No.	器種	遺構・地点・層位	長	幅	厚	重量 (g)	石質	備考	図版 No.	写真 No.
c139	砥石	P150 (SB15) 堆積土下位	[28]	[26]	[1.55]	13.6	流紋岩 (新世代新第三紀 奥羽山脈)		179	171
c140	石鉢	P191-1 北半 1層	11.0	7.2	2.7	294.4	安山岩 (新世代第四紀 岩手山)		180	171
c141	石皿	P226 (SB22) 堆積土	[48]	[5.4]	1.6	42.2	安山岩 (新世代新第三紀 奥羽山脈)		180	171
c142	敲磨器	P313 (SB26) 堆積土	191	10.5	4.8	1877.5	安山岩 (新世代第四紀 岩手山)	敲磨BC類	180	171
c143	石皿?	P411 (SB19) 底面直上	[11.0]	[9.6]	[1.9]	223.2	流紋岩 (新世代新第三紀 奥羽山脈)	摩耗、欠損	180	172
c144	砥石	P411 (SB19) 底面直上	10.7	6.1	4.5	261.6	安山岩 (新世代新第三紀 奥羽山脈)	使用痕無し	180	172
c145	敲磨器	P528 堆積土上位	25.0	13.5	7.7	2659.1	安山岩 (新世代第四紀 岩手山)	敲磨A類	180	172
c146	敲磨器	P744 堆積土	15.7	8.5	6.9	963.3	安山岩 (新世代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨C類	180	172
c147	敲磨器	P900 (SB06・07) 1層	[10.0]	11.6	4.0	492.7	流紋岩 (新世代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨C類	180	172
c148	自然礫	P947 堆積土	15.7	4.7	2.4	400.2	流紋岩 (新世代新第三紀 奥羽山脈)	被熱	180	172
c149	石臼	P982 (SB1) 堆積土上位	10.2	11.9	12.2	1831.7	凝灰質砂岩 (新世代新第三紀 奥羽山脈)	赤白の上白、側面に菱	181	172
c150	敲磨器	P1305 検出面	15.9	14.5	8.4	2358.7	デイスライト (新世代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨C類	181	172
c151	石皿	P1374 (SB27) 堆積土下位	[6.8]	[5.7]	[2.8]	128.9	安山岩 (新世代新第三紀 奥羽山脈)		181	172
c152	敲磨器	P1399 堆積土	[4.4]	[2.7]	1.8	25.0	安山岩 (新世代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨C類	181	172
c153	敲磨器	P1466 柱痕跡	[6.5]	[5.9]	[8.4]	345.0	デイスライト (新世代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨A類	181	172
c154	石臼	P1483 (SB44) 堆積土	12.6	27.9	16.3	5400.0	安山岩 (新世代新第三紀 奥羽山脈)	粉塊白	182	173
c155	石皿?	P2483 堆積土	[9.0]	11.7	2.8	297.8	流紋岩 (新世代新第三紀 奥羽山脈)	使用痕不明瞭、被熱	182	172
c156	砥石	P2546 検出面	[13.9]	[6.9]	[5.2]	653.1	凝灰岩 (白重紀 北上山地 姥石層?)		182	172
c157	石鉢	P3196 (SB70) 堆積土	[4.1]	[3.9]	[3.3]	46.1	安山岩 (新世代新第三紀 奥羽山脈)		182	173
c158	硯	P3407 堆積土	[5.3]	[4.5]	[2.7]	95.9	頁岩 (古生代 北上山地)		182	173
c159	敲磨器	P3486 堆積土	[13.8]	[10.5]	8.3	1008.1	安山岩 (新世代第四紀 岩手山)	敲磨A類	183	173
c160	敲磨器	P3899 (SB88) 堆積土下位	[13.2]	[8.0]	6.2	674.2	安山岩 (新世代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨C類、上面・側面	183	173
c161	敲磨器	P3951 堆積土	17.7	8.2	3.8	831.5	流紋岩 (新世代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨A類	183	173
c162	砥石	P4180 堆積土	[3.2]	[5.8]	[3.2]	53.0	凝灰岩 (新世代新第三紀 奥羽山脈)		183	173
c163	石鉢?	P4183 (SB89) 堆積土	9.1	6.0	2.1	203.7	デイスライト (新世代新第三紀 奥羽山脈)		183	173
c164	敲磨器	P4217 堆積土	[13.0]	[9.9]	7.1	327.7	玄武岩 (新世代第四紀 岩手山)	敲磨C類	183	173
c165	砥石	P4344 堆積土	[12.5]	7.0	5.9	658.8	凝灰岩 (新世代新第三紀 奥羽山脈)	被熱	183	173
c166	台石	P4344 堆積土	[10.5]	[12.0]	[6.1]	973.7	安山岩 (新世代新第三紀 奥羽山脈)	被熱により上面剥落	183	173
c167	硯	P4348 堆積土	[6.0]	[4.5]	[0.6]	16.6	凝灰岩 (新世代新第三紀 奥羽山脈)		183	173
c168	石臼	P4401 (SB94) 堆積土	[15.1]	[13.4]	9.2	2571.1	安山岩 (新世代新第三紀 奥羽山脈)	粉塊白の下白	184	174
c169	敲磨器	P4495 (SB101) 堆積土	19.9	14.1	8.6	1854.5	玄武岩 (新世代第四紀 岩手山)	敲磨C類、表面加工か	184	174
c170	敲磨器	P4542 堆積土	15.3	9.5	6.5	999.6	玄武岩 (新世代第四紀 岩手山)	敲磨C類、両面	184	174
c171	敲磨器	P4554 堆積土	[15.1]	[9.0]	[5.9]	536.8	玄武岩 (新世代第四紀 岩手山)	敲磨A類	184	174
c172	敲磨器	P4585 堆積土	[9.0]	[5.8]	[5.1]	97.6	玄武岩 (新世代第四紀 岩手山)	敲磨C類	184	173
c173	台石	P4654 (SB100) 堆積土	[13.4]	[13.3]	1.7	393.5	花崗閃緑岩 (中生代白重紀 北上山地)	敲磨C類、7片接合	185	174
c174	石皿	P4973 堆積土	[6.1]	10.2	2.9	177.4	砂岩 (古生代 北上山地)	被熱、扁平に加工してから使用か	185	174
c175	台石	P5137 堆積土	[14.5]	[12.0]	5.7	1559.2	ホルンフェルス (古生代 中生代白重紀に變成 北上山地)	被熱、炭化物付着	185	174
c176	敲磨器	P5214 堆積土	19.1	8.7	4.4	876.0	デイスライト (新世代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨A類、側面	185	175
c177	敲磨器	SX05 東西ベルト 6層~床面直上	[26.1]	[14.6]	9.8	2574.2	安山岩 (新世代第四紀 岩手山)	敲磨C類、両面	185	174
c178	楔形石器	SX08 北東区 堆積土下位	3.7	4.0	1.2	18.3	頁岩 (新世代新第三紀 奥羽山脈)	縄文晩期か	185	174
c179	石鉢	1号沢 2層	9.9	11.2	9.9	594.3	安山岩 (新世代第四紀 岩手山)		186	175
c180	敲磨器	1号沢 2層	11.6	5.3	4.1	215.4	安山岩 (新世代第四紀 岩手山)	敲磨A類	186	175
c181	敲磨器	1号沢 2層	[9.0]	[10.4]	13.3	1459.0	安山岩 (新世代第四紀 岩手山)	敲磨C類	186	175
c182	敲磨器	1号沢 黒色土	12.5	10.4	5.1	463.0	安山岩 (新世代新第三紀 奥羽山脈)		186	175
c183	砥石	T1 北側 1層	[10.0]	[3.6]	[2.8]	108.4	流紋岩 (新世代新第三紀 奥羽山脈)	被熱	186	175
c184	敲磨器	T16 1層	[13.2]	[8.3]	[3.9]	460.7	安山岩 (新世代新第三紀 奥羽山脈)		186	175

第12表 石器観察表 (5)

掲載 No.	器種	遺構・地点・層位	計測値 (cm)		重量 (g)	石質	備考	図版 No.	写真 No.
			長	幅					
c185	石核	T18 I層	6.9	4.25	64.7	頁岩 (古生代 北上山地)		186	175
c186	砥石	T25 I層	[8.3]	[5.2]	131.9	流紋岩 (新世代新第三紀 奥羽山脈)		186	175
c187	剥片	T6 I層	5.8	3.1	23.1	デイサイト (新世代新第三紀 奥羽山脈)	フレイク	187	175
c188	剥片	T7 より北側	6.4	6.5	56.3	粘板岩 (古生代 北上山地)	UF	187	175
c189	石白	遺物包含層	6.7	4.8	132.9	凝灰質砂岩 (新世代新第三紀 奥羽山脈)	種別不明	187	175
c190	敲磨器	SD101 周辺 I層	[9.9]	[6.6]	453.6	デイサイト (新世代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 AC 類	187	175
c191	石製品	SD106・107 間 検出面	7.8	7.8	106.7	デイサイト (新世代新第三紀 奥羽山脈)	穴あき	187	175
c192	硯	SD107 より南側 検出面	[4.8]	[4.5]	28.3	凝灰岩 (白亜紀 姥石層?)		187	175
c193	砥石	I A13g 黒色土	[10.5]	4.8	174.0	凝灰岩 (新世代新第三紀 奥羽山脈)		187	175
c194	石白	I A20h 黒色土 (SD106 I層相当)	9.8	14.1	1320.1	デイサイト (新世代新第三紀 奥羽山脈)	茶白	188	177
c195	敲磨器	I A20h-j I a層	[12.9]	[10.1]	896.6	玄武岩 (新世代新第四紀 岩手山)	敲磨 A → C 類	188	175
c196	石白	I A4h I層	30.7	30.7	12.8	花崗閃緑岩 (中生代白亜紀 北上山地)	粉挽白の上白、c197と一対	188	176
c197	石白	I A4h I層	31.1	31.2	11.0	花崗閃緑岩 (中生代白亜紀 北上山地)	粉挽白の下白、c196と一対	189	176
c198	敲磨器	II A12 g 検出面	[12.6]	[12.3]	5.1	安山岩 (新世代新第四紀 岩手山)	敲磨 C 類	189	177
c199	敲磨器	II A19k・I II層	10.4	8.2	3.85	デイサイト (新世代新第三紀 奥羽山脈)	敲磨 C 類	187	177
c200	金床石	II A1j・k 検出面	[12.0]	[9.0]	474.3	デイサイト (新世代新第三紀 奥羽山脈)		189	177
c201	碁石?	II A2m・n I層	1.9	2.0	0.7	メノウ (新世代新第三紀 奥羽山脈)	近現代か	188	176
c202	自然礫	SI02 北西区 堆積土上位	1.5	1.2	0.6	頁岩 (古生代 北上山地)		-	176
c203	自然礫	SI02 北西区 堆積土上位	1.3	1.3	0.8	頁岩 (古生代 北上山地)		-	176
c204	自然礫	SI07 3区 堆積土上位	3.3	2.2	2.0	メノウ (新世代新第三紀 奥羽山脈)		-	176
c205	自然礫	SI09 1・2層	3.0	2.8	1.0	メノウ (新世代新第三紀 奥羽山脈)		-	176
c206	軽石	SI10 北東区 木根擾乱	6.2	3.6	2.4	安山岩 (新世代新第三紀 奥羽山脈)		-	176
c207	敲磨器	SI19 南東区 堆積土下位	4.7	2.2	2.9	凝灰岩 (新世代新第三紀 奥羽山脈)		-	176
c208	自然礫	SK13 堆積土上位	4.9	3.4	2.6	玉髓 (新世代新第三紀 奥羽山脈)		-	176
c209	自然礫	SD104 ベルト 堆積土下位	2.5	1.1	1.2	玉髓 (新世代新第三紀 奥羽山脈)		-	176
c210	自然礫	SD106 中央トレンチ 堆積土上位	2.8	1.8	1.6	メノウ (新世代新第三紀 奥羽山脈)		-	176
c211	自然礫	SD106 トレンチ 堆積土上位	8.7	3.7	2.8	流紋岩 (新世代新第三紀 奥羽山脈)	被熱	-	177
c212	自然礫	SD107 トレンチ 堆積土上～中位	8.2	6.0	1.6	玄武岩 (新世代新第四紀 岩手山)		-	177
c213	自然礫	SD107 トレンチ 堆積土上位	4.0	3.2	2.0	メノウ (新世代新第三紀 奥羽山脈)		-	176
c214	自然礫	SD107 東端 堆積土	1.7	1.5	1.5	玉髓 (新世代新第三紀 奥羽山脈)		-	177
c215	自然礫	SL33 サブトレンチ 堆積土	2.4	1.7	0.9	メノウ (新世代新第三紀 奥羽山脈)		-	177
c216	自然礫	P141 堆積土中位	4.4	4.1	1.0	メノウ (新世代新第三紀 奥羽山脈)		-	177
c217	自然礫	P764 堆積土下位	3.8	3.3	3.4	メノウ (新世代新第三紀 奥羽山脈)		-	177
c218	自然礫	P1483 堆積土上位	2.2	1.8	2.3	メノウ (新世代新第三紀 奥羽山脈)		-	177
c219	自然礫	P1580 堆積土	4.1	1.9	0.9	玉髓 (新世代新第三紀 奥羽山脈)		-	177
c220	自然礫	P2886 堆積土	2.9	1.9	0.7	メノウ (新世代新第三紀 奥羽山脈)		-	177
c221	自然礫	P3685 堆積土	6.3	3.9	3.6	メノウ (新世代新第三紀 奥羽山脈)		-	177
c222	軽石	P4110 堆積土	3.0	2.1	1.3	安山岩 (新世代新第三紀 奥羽山脈)		-	177
c223	自然礫	P4125 堆積土	1.5	1.5	1.1	メノウ (新世代新第三紀 奥羽山脈)		-	177
c224	自然礫	P4125 堆積土	2.4	1.7	1.7	メノウ (新世代新第三紀 奥羽山脈)		-	177
c225	自然礫	P4177 堆積土	2.5	2.5	2.2	玉髓 (新世代新第三紀 奥羽山脈)		-	177
c226	軽石	P4401 堆積土	2.7	1.9	1.7	玄武岩 (新世代新第四紀 岩手山)		-	177
c227	軽石	P4413 堆積土	2.7	2.1	1.3	安山岩 (新世代新第三紀 奥羽山脈)		-	177
c228	自然礫	SX08 南区 堆積土	2.9	2.5	1.0	メノウ (新世代新第三紀 奥羽山脈)		-	177
c229	自然礫	1号沢 2層	8.2	5.5	4.2	メノウ (新世代新第三紀 奥羽山脈)		-	177

※計測値欄の [ ] は残存値

第13表 金属製品観察表 (1)

掲載 No.	材質	器種	遺構・地点・層位	計測値 (cm)			備考	図版 No.	写真 No.
				長	幅	厚			
d1	鉄	板状	SI02 堆積土最上位	[6.4]	[5.5]	0.3	3片接合	190	178
d2	鉄	棒状	SI03 2層	[7.4]		0.7		190	178
d3	鉄	不明	SI03 東西ベルト 2層	8.2	1.4	0.2		190	178
d4	鉄	小刀	SI03 北西区 堆積土下位 (黒褐色土)	[12.7]	2.7	0.4	先端部欠損	190	178
d6	鉄	棒状	SI03 北東区 堆積土中位	[7.4]	1.4	0.5	片側折り返し	190	178
d7	鉄	釘	SI04 1区 堆積土 取り上げNo.31	[2.0]	0.5	0.2	炭化骨残存、長 [7.6]・幅 [4.2]・厚 1.6	190	178
d8	鉄	鉄錠状	SI04 2区 取り上げNo.1	20.7	2.0	0.8	炭化材付着	190	178
d9	銅	刀装具	SI04 2区 堆積土中～下位	4.1	2.2	0.2	切羽	190	178
d10	鉄	鉄錠状	SI04 3区 炭化物No.69	18.3	2.4	0.7	炭化材付着	190	178
d11	鉄	鉄錠状	SI04 3区 炭化物No.75	19.4	2.9	1.2		190	178
d12	鉄	釘	SI04 6区 堆積土上位	[7.4]	0.7	0.5	先端部欠損	190	178
d13	鉄	釘	SI04 6区 堆積土上位	7.0	0.7	0.2	先端部変形	190	178
d14	鉄	刀子?	SI04 C断面 2層	[3.7]	0.7	0.3	刀子の柄か	190	178
d15	鉄	鉄錠状	SI04 C断面 4層	[18.7]	2.2	0.7	先端部欠損、炭化材付着	190	179
d16	鉄	釘	SI04 断面ベルト 4層	[4.0]	0.5	0.4	先端部欠損	190	178
d17	鉄	鏃	SI05 P14 2層	10.3	0.5	0.6	木質残存	190	178
d18	鉄	釘	SI05 北西区 堆積土中位	4.7	0.7	0.4		190	178
d19	鉄	釘	SI06 南西区 堆積土上位	6.3	1.5	0.5		191	178
d20	鉄	釘	SI07 1区 堆積土上～中位	3.6	0.8	0.4		191	179
d21	鉄	板状	SI07 3区 堆積土上～中位	[2.7]	2.5	0.2		191	179
d22	鉄	留金具	SI07 5区 堆積土上～中位	3.9	1.2	0.6	鏃	191	179
d23	鉄	環状?	SI07 サブトレンチ 堆積土	3.5	1.1	0.6	鏃膨れ大きく、X線写真でも形状判別不能	191	179
d24	鉄	釘	SI10 3区サブトレンチ 2層	[4.8]	1.1	0.5		191	179
d25	鉄	釘	SI10 北ベルト 2層	7.7	0.8	0.3		191	179
d26	鉄	釘	SI10 堆積土	6.0	1.5	0.3		191	179
d27	鉄	板状	SI11 堆積土	[3.8]	2.4	0.2	刀子の欠損か	191	179
d28	鉄	鏃?	SI13 中央 床面直上	19.7	6.6	0.3		191	179
d29	銅	不明	SI13 南北ベルト 北御柱穴堆積土	[4.3]	1.6	0.1		191	179
d30	鉄	釘	SI13 北東区 堆積土中位	[5.5]	1.5	0.6		191	179
d31	鉄	小刀	SI13 堆積土最下層	[7.7]	2.4	0.3		191	179
d32	鉄	板状	SI13 堆積土最下層	[5.2]	3.0	0.3		191	179
d33	鉄	棒状	SI14 貯蔵穴2 堆積土下位	3.8	0.9	0.8		191	179
d34	鉄	刀子	SI14 堆積土最上位	[4.1]	1.4	0.4		191	179
d35	鉄	釘	SI15・16 堆積土上位	6.8	1.0	0.6		191	179
d36	鉄	釘	SI18 炉 上面	6.7	0.8	0.4		191	179
d37	鉄	釘	SI19 南西区 堆積土最上位	7.2	1.6	0.5		191	179
d38	鉄	釘	SI20 堆積土最上位	[3.5]	1.1	0.4		191	179
d39	鉄	釘	SI20 トレンチ 堆積土	3.5	0.4	0.4		191	179
d40	鉄	釘	SI20 北東区 堆積土	4.1	0.8	0.5		191	179
d41	鉄	不明	SI20 床面直上	[6.7]	10.3	0.7	板状鉄製品に角状の突起1個	191	179
d42	鉄	釘	SI21 ベルト 3層	8.1	1.7	0.4		191	179
d43	鉄	棒状	SI21 南区 堆積土下位	[4.0]	0.9	0.7		191	179
d44	鉄	釘	SI22 南西区南壁際 堆積土	[4.8]	0.6	0.4		191	179
d45	鉄	釘	SI22 南西区南壁際 堆積土	[5.7]	0.7	0.4		191	179
d46	鉄	舟釘	SI22 南東区 堆積土下位	5.7	0.9	0.4		191	179
d47	鉄	不明	SI24 1層	[4.5]	[2.0]	0.4	両部有り、刀子か	191	179
d48	鉄	釘	SI25 南西区 堆積土下位	[3.3]	0.9	0.3		191	179
d49	鉄	刀子	SK13 南区 堆積土	[7.6]	1.0	0.4	刃部・基部先端欠損	191	179
d50	鉄	釘	SK18 堆積土上位	3.2	0.7	0.3		191	179
d51	鉄	釘	SK30 堆積土上位	6.1	0.5	0.5		191	179

第13表 金属製品観察表(2)

掲載 No.	材質	器種	遺構・地点・層位	計測値 (cm)			備考	図版 No.	写真 No.
				長	幅	厚			
d52	鉄	釘	SK42 1区 堆積土上～中位	5.2	1.6	0.9		192	179
d53	鉄	釘	SK42 1区 堆積土上～中位	[6.3]	0.5	0.5	先端部欠損	192	179
d54	鉄	釘	SK42 1区 堆積土上～中位	5.6	0.5	0.5	変形	192	179
d55	鉄	釘	SK42 1区 堆積土中～下位	3.7	0.8	0.6		192	179
d56	鉄	釘	SK42 ベルト 1層	[6.2]	1.3	0.5		192	179
d57	鉄	鏃?	SK44 4区 堆積土上位	[3.8]	1.4	0.4	刀子の開か	192	179
d58	鉄	釘	SK63 ベルト 堆積土	5.1	1.0	0.4		192	180
d59	鉄	釘	SK63 堆積土	[3.4]	1.1	0.3		192	180
d60	鉄	刀子	SK75 ベルト 堆積土下位	[3.9]	1.2	0.4		192	180
d61	鉄	釘	SK75 北東区 堆積土上～中位	[6.5]	1.3	0.4		192	180
d62	鉄	釘	SK75 北東区 堆積土上～中位	3.1	2.2	0.5	先端部屈曲	192	180
d63	銅	煙管	SK97 堆積土上位	4.2	1.1	0.5	吸口	192	180
d64	鉄	板状	SK97 堆積土	[3.7]	1.2	0.2	先端部片口状に捻り	192	180
d65	鉄	板状	SK97 堆積土上位	[2.4]	[3.9]	0.1		192	180
d66	鉄	釘	SK101 堆積土	[4.9]	1.2	0.5		192	180
d67	鉄	釘	SK101 堆積土	5.0	0.7	0.5		192	180
d68	鉄	不明	SK101 堆積土	[3.3]	0.4	0.4		192	180
d69	鉄	釘	SK105 サブトレンチ 堆積土	[5.9]	0.7	0.4	木質付着。2片接合せず	192	180
d70	鉄	釘	SK105 サブトレンチ 堆積土	5.2	0.8	0.4	木質付着	192	180
d71	鉄	釘	SK105 サブトレンチ 堆積土	[7.2]	0.6	0.5		192	180
d72	鉄	釘	SK105 サブトレンチ 堆積土	8.3	1.0	0.3	木質付着	192	180
d73	鉄	釘	SK105 サブトレンチ 堆積土	6.6	1.2	0.5	側面に木質付着	192	180
d74	鉄	釘	SK105 サブトレンチ 堆積土	[4.3]	0.6	0.4		192	180
d75	鉄	釘	SK105 サブトレンチ 堆積土	[3.4]	0.7	0.3	点検時に破損	192	180
d76	鉄	釘	SK105 サブトレンチ 堆積土	[3.3]	1.0	0.4	木質付着	192	180
d77	鉄	釘	SK105 サブトレンチ 堆積土	[3.0]	1.0	0.3	木質付着	192	180
d78	鉄	釘	SK105 サブトレンチ 堆積土	[3.8]	1.6	0.5		192	180
d79	鉄	釘	SK105 サブトレンチ 堆積土	3.6	0.7	0.5		192	180
d80	鉄	釘	SK105 堆積土	[4.1]	1.0	0.4	木質付着	192	180
d81	鉄	釘	SK105 堆積土	[5.4]	1.0	0.4	木質付着	192	180
d82	鉄	釘	SK105 堆積土	[4.2]	0.7	0.4	木質付着	192	180
d83	鉄	釘	SK105 堆積土	[4.9]	0.6	0.3	変形	192	180
d84	鉄	釘	SK105 堆積土	[4.5]	0.6	0.4	木質付着	192	180
d85	鉄	釘	SK105 堆積土	[3.5]	1.0	0.4	木質付着	192	180
d86	鉄	釘	SK105 堆積土	5.1	3.0	0.4	先端屈曲	192	180
d87	鉄	釘	SK105 堆積土	[5.1]	1.0	0.3	木質付着	192	180
d88	鉄	釘	SK105 堆積土	4.1	0.9	0.3	木質付着	192	180
d89	鉄	釘	SK105 堆積土	[4.1]	0.8	0.3	木質付着	192	180
d90	鉄	釘	SK105 堆積土	4.6	0.8	0.4	別個体付着	192	180
d91	鉄	鈎?	SK105 サブトレンチ 堆積土	[5.4]	1.7	0.5	変形	192	180
d92	鉄	環状	SK106 堆積土	4.8	1.7	0.6		192	180
d93	鉄	釘	SK106 堆積土	[3.2]	1.2	0.4	木質付着	192	180
d94	鉄	洋釘	SK106 堆積土	5.2	0.5	0.3	釘2本と楕材	193	180
d95	鉄	洋釘	SK106 堆積土	5.6	0.5	0.3	木質付着	193	180
d96	鉄	洋釘	SK106 堆積土	4.5	0.3	0.3	釘2本と楕材	193	180
d97	鉄	釘	SK109 堆積土	6.2	0.9	0.5	木質付着	193	180
d98	鉄	釘	SK109 堆積土	5.3	1.1	0.3	木質付着	193	180
d99	鉄	釘	SK109 堆積土	5.5	1.0	0.3	木質付着	193	180
d100	鉄	釘	SK109 堆積土	[3.1]	0.8	0.5	木質付着	193	180
d101	鉄	釘	SK109 堆積土	[3.5]	1.2	0.3	木質付着	193	180
d102	鉄	釘	SK111 堆積土	[3.2]	0.8	0.3	木質付着	193	180

第13表 金属製品観察表 (3)

掲載 No.	材質	器種	遺構・地点・層位	計測値 (cm)		厚	備考	図版 No.	写真 No.
				長	幅				
d103	鉄	釘	SK113 堆積土	51	1.1	0.3	先端握れ、同一個体片あり、木質付着	193	180
d104	鉄	釘	SK114 堆積土	5.2	1.1	0.3	木質付着	193	180
d105	鉄	釘	SK114 堆積土	4.0	1.4	0.3	木質付着	193	180
d106	鉄	釘	SK115 堆積土	3.3	1.2	0.4		193	180
d107	鉄	釘	SK115 堆積土	4.3	0.8	0.2	木質付着	193	180
d108	鉄	釘	SK115 堆積土	5.6	0.8	0.3	木質付着	193	180
d109	鉄	釘	SK115 堆積土	5.2	1.3	0.5		193	180
d110	鉄	釘	SK117 堆積土	4.8	0.6	0.3		193	180
d111	鉄	釘	SK117 堆積土	4.3	1.2	0.5	木質付着	193	180
d112	鉄	釘	SK117 堆積土	8.5	1.3	0.4	木質付着	193	180
d113	鉄	釘	SK117 堆積土	7.4	0.7	0.4	木質付着	193	180
d114	鉄	釘	SK117 堆積土	7.3	1.0	0.4	木質付着	193	180
d115	鉄	釘	SK117 堆積土	7.1	1.1	0.3	木質付着	193	180
d116	鉄	釘	SK117 堆積土	6.0	1.0	0.4	木質付着	193	180
d117	鉄	釘	SK117 堆積土	5.1	0.3	0.3	木質付着	193	180
d118	鉄	釘	SK117 堆積土	4.6	0.9	0.5	木質付着	193	180
d119	鉄	釘	SK117 堆積土	4.5	0.7	0.3	木質付着	193	180
d120	鉄	釘	SK117 堆積土	4.7	0.6	0.3		193	181
d121	鉄	釘	SK117 堆積土	4.0	0.9	0.4		193	181
d122	鉄	釘	SK117 堆積土	3.3	0.8	0.4	木質付着	193	181
d123	鉄	釘	SK117 堆積土	3.5	0.8	0.3	木質付着	193	181
d124	鉄	釘	SK118 堆積土	5.9	1.4	0.3	木質付着	193	181
d125	鉄	釘	SK120 堆積土	4.2	0.8	0.2	木質付着	193	181
d126	銅	簪	SK120 堆積土	17.9	0.9	0.2	頭髪付着、2片接合	193	181
d127	鉄	釘	SK121 堆積土	3.7	0.5	0.2	木質付着	193	181
d128	鉄	釘	SK121 堆積土	4.1	0.4	0.2	木質付着	193	181
d129	鉄	釘	SK121 堆積土	4.0	0.5	0.2	木質付着	193	181
d130	鉄	釘	SK124 堆積土	4.0	0.7	0.3	別個体付着、別個体に木質	194	181
d131	鉄	釘	SK124 堆積土	3.5	0.9	0.3		194	181
d132	鉄	釘	SK124 堆積土	3.8	0.8	0.2	先端屈曲	194	181
d133	鉄	釘	SK124 堆積土	3.1	0.7	0.5		194	181
d134	鉄	釘	SK124 堆積土	2.6	0.6	0.4	木質付着	194	181
d135	鉄	釘	SK124 堆積土	4.3	1.5	0.7		194	181
d136	鉄	板状	SD33 2区 堆積土	6.2	1.8	0.3		194	181
d137	鉄	刀子	SD33 4区 堆積土上位	9.8	1.7	0.4		194	181
d138	鉄	釘	SD35 西端 堆積土	4.8	0.9	0.7		194	181
d139	鉄	環状	SD38 E区 堆積土上位	3.5	1.2	0.3		194	181
d140	鉄	小札	SD40 C区 堆積土	4.8	1.2	0.2	穿孔2列6段(12個)、穿孔箇所には溝状の窪み	194	181
d141	鉄	釘	SD40 C区 堆積土下位	4.7	1.4	0.5		194	181
d142	鉄	釘	SD101 東端付近 堆積土上位	17.8	2.8	0.7		194	181
d143	鉄	板状	SD104 ベルト西側 堆積土上位	5.0	4.4	1.5		194	181
d144	鉄	柵	SD104 ベルト東側 堆積土上位	6.7	3.1	0.4		194	181
d145	鉄	板状	SD105 堆積土	5.1	2.7	0.9		194	181
d146	銅	刀装具	SD106 北側 II層 柱穴内?	4.0	2.2	0.2	切羽	194	181
d147	鉄	釘	SD106 中央トレンチ 堆積土下位	8.8	1.4	0.4	破片2点、図上で接合	194	181
d148	鉄	環状	SD106 中央トレンチ北側 堆積土上位	4.4	2.1	1.3		194	181
d149	銅	刀装具	SD106 中央ベルト I層	4.3	1.6	0.3	目貫金具、逆獅子形	194	181
d150	鉄	留金具	SD106 中央ベルト 堆積土上位	2.9	2.7	0.3	鍔	194	181
d151	鉄	釘	SD106 中央ベルト 堆積土上位	3.1	1.0	0.5		194	181
d152	鉄	釘	SD106 西端 堆積土下位	5.4	0.8	0.3		194	181
d153	鉄	刀子	SD106 西端層位付近 堆積土下位	8.7	1.0	0.3		194	181

第13表 金属製品観察表 (4)

掲載 No.	材質	器種	遺構・地点・層位	計測値 (cm)			備考	図版 No.	写真
				長	幅	厚			
d154	鉄	鏃?	SD106 西端壁付石 堆積土下位	9.5	0.7	0.5		194	181
d155	銅	板状	SD106 東トレンチ 堆積土上位	[5.8]	1.1	0.1	中央で折れ	194	181
d156	鉄	釘	SD106 北西側 堆積土最下位	[4.0]	0.5	0.4		194	181
d157	鉄	舟釘	SD106 (I A19h) 堆積土上位	[10.0]	1.3	0.4		194	181
d158	鉄	舟釘	SD106 (I A19h) 堆積土上位	[4.9]	1.2	0.3		194	181
d159	鉄	釘	SD106 (I A19h) 堆積土上位	[6.5]	[2.4]	0.5	先端屈曲	194	181
d160	鉄	釘	SD106 (I A19h) 堆積土上位	6.0	0.8	0.4		194	181
d161	鉄	釘	SD106 (I A19h) 堆積土上位	[5.3]	1.0	0.7		194	181
d162	鉄	釘	SD107 トレンチ 堆積土下位	5.7	1.4	0.5		194	181
d163	鉄	釘	SL04 2層	[5.0]	0.6	0.5		194	181
d164	鉄	釘	SL36 堆積土	7.6	1.0	0.4		195	181
d165	鉄	鉸具	SL36 堆積土	4.1	3.4	0.5		195	181
d166	鉄	棒状	SX05 南西区 堆積土中位	[10.6]	0.7	0.4		195	181
d167	銅	櫛子	SX05 南北ベルト 5層	[6.5]	0.7	0.1	3片に分かれる	195	181
d168	鉄	板状	SX05 北西区 堆積土上位	14.2	9.5	0.9		195	182
d169	鉄	棒状	SX05 北東区 堆積土中位	4.2	0.9	0.5		195	181
d170	鉄	釘?	SX05 堆積土上位	[4.3]	0.8	0.4	先端部欠損	195	181
d171	鉄	不明	SX06 東区 堆積土	[8.8]	1.8	0.9		195	182
d172	銅	煙管	SX07 堆積土	5.6	1.0	0.1	吸口、変形	195	182
d173	鉄	板状	SX07 堆積土	[7.1]	2.8	0.2		195	182
d174	銅	煙管	SX08 A断面西側 堆積土	4.6	1.1	0.1	吸口	195	182
d175	鉄	板状	SX08 南東区 堆積土上位	[3.2]	[1.4]	0.2		195	182
d176	鉄	不明	SX08 北西区 堆積土上位	[4.1]	1.4	0.9	穿孔1個	195	182
d177	鉄	釘	SX08 北東区 堆積土	[4.3]	1.4	0.5		195	182
d178	鉄	留金具	SX08 南区 堆積土	3.4	2.9	0.5	縫	195	182
d179	鉄	釘	SX08 南区 堆積土上位	[3.6]	0.9	0.5		195	182
d180	鉄	釘	SX09 堆積土	5.5	1.1	0.5		195	182
d181	鉄	釘?	P124 検出面	[5.7]	0.9	0.5	先端部欠損	195	182
d182	鉄	釘	P142 (SB18) 堆積土上位	[2.4]	0.6	0.3		195	182
d183	鉄	不明	P149 前半 堆積土上位	4.2	0.6	0.4	鉸具の一部か	195	182
d184	鉄	串?	P238 堆積土下位	10.8	0.5	0.3		195	182
d185	鉄	釘	P276 (SB26) 堆積土	6.2	0.9	0.4		195	182
d186	鉄	釘	F385 堆積土	3.5	1.1	0.4	変形	195	182
d187	鉄	不明	P429 (SB23) 堆積土中位	9.4	6.0	1.5		195	182
d188	鉄	釘	P488 堆積土	[5.2]	0.9	0.5		196	182
d189	鉄	刀子	P604 (SB27) 堆積土	[5.7]	0.8	0.3	2片接合	196	182
d190	鉄	刀子	P604 (SB27) 堆積土	[6.5]	1.6	0.4		196	182
d191	鉄	刀子	P661 堆積土	[11.4]	1.1	0.3	刃部先端欠損	196	182
d192	鉄	留金具	P721 堆積土	5.4	3.6	0.5	縫	196	182
d193	銅	不明	P755 (SB23) 堆積土下位	[4.4]	1.0	0.1	穿孔3箇所、溶接部分有り	196	182
d194	鉄	不明	P755 (SB23) 堆積土下位	[4.5]	[2.3]	0.2	刀袷片か	196	182
d195	鉄	環状	P772 検出面	3.4	3.2	0.6		196	182
d196	鉄	釘	P774 (SB14) 堆積土上位	4.4	0.8	0.4		196	182
d197	鉄	釘	P800 堆積土	4.5	0.7	0.6		196	182
d198	鉄	石突?	P953 堆積土	9.3	1.1	1.2		196	182
d199	鉄	釘	P1219 堆積土上位	4.4	0.5	0.5		196	182
d200	鉄	留金具	SI17 堆積土上位 (旧P1233)	4.0	1.6	0.5	縫	196	182
d201	鉄	留金具	P1352 堆積土	4.1	2.9	0.4	縫か	196	182
d202	鉄	不明	P1397 (SB26) 検出面	6.1	3.1	0.6	T字状	196	182
d203	鉄	釘	P1505 (SB06) 柱束跡上位	6.9	1.2	0.6		196	182
d204	鉄	鏃	P1882 堆積土	[5.9]	[0.9]	[0.6]		196	182

第13表 金属製品観察表 (5)

掲載 No.	材質	器種	遺構・地点・層位	計測値 (cm)			備考	図版 No.	写真 No.
				長	幅	厚			
d205	鉄	板状	P1920 (SB56) 堆積土	50	42	0.5		196	182
d206	鉄	火打金?	P2180 堆積土	[3.8]	2.9	0.2		196	182
d207	鉄	不明	P2479 堆積土	8.0	1.6	0.2	板1冊、建具か飾金具	196	183
d208	鉄	棒状	P3361 堆積土	[7.2]	0.6	0.3		196	182
d209	鉄	刀子	P3509 (SB71) 堆積土	[6.1]	1.6	0.3		196	182
d210	鉄	釘	P3532 (SB74) 堆積土	[3.9]	1.4	0.5		196	182
d211	鉄	釘?	P3680 (SB74) 堆積土	[5.5]	0.9	0.5		196	183
d212	鉄	不明	P3751 堆積土	[2.9]	[2.6]	0.4	板か	196	183
d213	鉄	刀子	P3849 堆積土	[3.2]	0.7	0.5	柄部	196	183
d214	鉄	棒状	P3849 堆積土	[7.8]	0.7	0.6		196	183
d215	鉄	棒状	P3880 堆積土	8.0	1.4	0.7	一端が環状	196	183
d216	鉄	釘	P3943 (SB94) 検出面	[4.8]	0.9	0.5		196	183
d217	鉄	釘	P3947 (SB73) 堆積土	4.3	0.7	0.3		196	183
d218	鉄	釘	P4065 堆積土	[3.1]	1.1	0.7		196	183
d219	鉄	小札	P4147 (SB97) 堆積土	6.6	2.0	0.2	穿孔2列6段 (12個)	197	183
d220	鉄	釘	P4152 (SB87) 掘り方上位	[4.7]	[1.1]	0.4		197	183
d221	鉄	釘	P4303 堆積土	[4.1]	0.5	0.4		197	183
d222	鉄	棒状	P4469 堆積土	[3.0]	0.7	0.4		197	183
d223	鉄	鏃	P4539 堆積土	9.6]	1.0	0.5	方頭式、台形側、先端部欠損	197	183
d224	鉄	鏃	P4539 堆積土	[4.0]	1.1	0.5	長頸三角形、両端欠損	197	183
d225	鉄	棒状	P4539 堆積土	[6.7]	1.1	0.8		197	183
d226	鉄	釘	P4547 (SB107) 堆積土	10.5	1.2	0.4		197	183
d227	鉄	釘	P4547 (SB107) 堆積土	4.5	1.1	0.6		197	183
d228	鉄	鏃	P4560 堆積土	9.2	1.1	0.6	柳葉式、台形側	197	183
d229	鉄	釘	P4590 堆積土上位	3.0	0.8	0.3	菱形	197	183
d230	鉄	板状	P4660 堆積土	[2.9]	2.1	0.2	円盤状	197	183
d231	銅	釘	P4766 堆積土	[3.6]	0.9	0.4		197	183
d232	銅	鏃	P4851 (SB103) 堆積土中位	8.2	8.2	0.2	蓮葉鏃	197	183
d233	鉄	釘	P4867 堆積土	5.5	0.9	0.6		197	183
d234	鉄	釘	P4976 堆積土	3.8	0.8	0.3		197	183
d235	鉄	環状	P4983 堆積土	1.9	2.4	0.4		197	183
d236	鉄	釘?	P5291 堆積土	5.0	0.8	0.2	刀子の柄か	197	183
d237	鉄	釘	P5366 堆積土	4.8	1.7	0.6	変形	198	183
d238	鉄	釘	P5381 堆積土	3.8	0.6	0.3		198	183
d239	鉄	鉄鏃状	T21	13.6	1.8	0.6		198	183
d240	鉄	茶釜	I A2・3i・j 攪乱	[7.0]	[15.8]	0.4	口縁部破片、長は器高、幅は口径	198	184
d241	鉄	釘	I A2・3i・j I層	[4.8]	0.6	0.5		198	183
d242	鉄	釘	I A2・3i・j I層	[5.8]	0.9	0.8		198	183
d243	鉄	留金具	I A3-5f-h I層	13.5	[3.5]	1.1	鏃	198	184
d244	鉄	釘	I A7-9g-j 攪乱	7.1	0.7	0.4		198	183
d245	鉄	釘	I A12g 攪乱 (旧90号土坑)	[3.2]	0.6	0.5		198	183
d246	鉄	釘	I A12g 攪乱 (旧93号土坑)	5.2	1.1	0.5		198	183
d247	鉄	鏃	I A20g II層	[8.5]	2.0	0.5	着柄部欠損	198	184
d248	鉄	棒状	II A12k (P632付近) 本層?	[9.0]	0.6	0.4		198	183
d249	鉄	鏃?	II A18k 検出面	[4.5]	[2.6]	0.4		198	183
d250	鉄	鉄鏃状	SD106 北側 検出面	[7.1]	1.4	0.9		198	184
d251	鉄	鉄鏃状	SD107 北側 遺物包含層	[7.5]	1.4	1.0		198	184
d252	鉄	小札?	R2年度調査区 I層	[6.2]	2.1	0.2		198	184
d253	鉄	不明	出土地点不明	6.9	2.6	0.3	板状鉄製品2枚結合か	198	184

※計測値欄の( )は復元値、[ ]は残存値

第14表 銭貨観察表(1)

掲載 No.	銭種	遺構・地点・層位	重量 (g)	長	幅	計測値 (cm)	厚	初鋳年	備考	図版 No.	写真 No.
e1	永楽通宝	SI03 南西区 堆積土中位	1.8	2.5	2.4	0.1	1408年			199	185
e2	永楽通宝	SI03 南北ベルト北側 堆積土下位	2.7	2.5	2.5	0.1	1408年			199	185
e3	開元通宝	SI04 1区 堆積土上~中位	2.0	1.9	2.2	0.1	621年			199	185
e4	無文銭	SI04 1区 堆積土上~中位	1.3	1.9	1.9	0.1	不明			199	185
e5	永楽通宝	SI06 北東区 堆積土下位	1.7	2.5	2.5	0.1	1408年			199	185
e6	永楽通宝	SI07 3区 堆積土下位	3.6	2.5	2.5	0.1	1408年			199	185
e7	永楽通宝	SI07 3区 堆積土下位	2.0	2.5	2.4	0.1	1408年			199	185
e8	永楽通宝	SI07 3区 堆積土下位	2.7	2.5	2.5	0.1	1408年			199	185
e9	永楽通宝	SI07 3区 堆積土下位	3.1	2.5	2.5	0.1	1408年			199	185
e10	永楽通宝	SI07 3区 堆積土下位	2.0	2.4	2.4	0.1	1408年			199	185
e11	永楽通宝	SI07 3区 堆積土下位	3.6	2.6	2.5	0.1	1408年			199	185
e12	皇宋通宝	SI13 8層(床面構築土)	2.5	2.4	2.4	0.1	1038年			199	185
e13	永楽通宝	SI13 北東区 堆積土最上位	2.6	2.5	2.5	0.1	1408年			199	185
e14	永楽通宝?	SI15 堆積土上位	1.4	2.2	2.2	0.1	1408?	摩耗により読み取り難しい		199	185
e15	淳化元宝	SI20 ベルト 堆積土	2.4	2.3	2.3	0.1	990年			199	185
e16	洪武通宝?	SI21 ベルト 2層	0.7	2.2	2.2	0.1	1368年?	破片2片		199	185
e17	至道元宝	SI24 南西区西壁付近 堆積土下位	1.0	2.2	1.7	0.1	不明			199	185
e18	永楽通宝	SI24 南東区 堆積土中位	1.7	2.2	2.3	0.1	1408年			199	185
e19	無文銭	SK17 1層	2.4	2.2	2.2	0.1	不明			199	185
e20	永楽通宝	SK42 4区 堆積土上位~中位	2.3	2.5	2.5	0.1	1408年			199	185
e21	鉄銭	SK101 堆積土	1.3	[2.1]	[2.1]	0.2	不明	推定直径2.6cm		199	185
e22	寛永通宝	SK111 堆積土	19.2	3.0	2.4	0.8	1714年以降	6枚固着、紐付き		200	185
e23	寛永通宝	SK115 底面直上	17.6	3.0	2.4	0.9	1714年以降	6枚固着、紐付き		200	185
e24	寛永通宝	SK116 堆積土	1.7	2.3	2.2	0.1	1714年以降			200	186
e25	寛永通宝	SK120 堆積土(頭骨付近)	18.4	5.0	2.7	7.3	1714年以降	6~7枚固着、布付き		200	186
e26-1	寛永通宝	SK121 堆積土	17.9	2.5	2.6	1.1	1714年以降	6枚固着、布付き、分析試料 No.2		200	186
e26-2	寛永通宝	SK121 堆積土	2.8	2.3	2.3	0.1	1714年以降	e26-1 から剥がれた1枚		200	186
e27-1	寛永通宝	SK122 堆積土	43.6	2.6	2.5	1.5	1714年以降	13枚固着		200	186
e27-2a	寛永通宝	SK122 堆積土	2.9	2.3	2.3	0.1	1714年以降			200	186
e27-2b	寛永通宝	SK122 堆積土	3.5	2.5	2.5	0.1	1714年以降			200	186
e27-2c	寛永通宝	SK122 堆積土	2.8	2.3	2.3	0.1	1714年以降			200	186
e27-2d	寛永通宝	SK122 堆積土	3.3	2.5	2.5	0.1	1714年以降			200	186
e27-2e	寛永通宝	SK122 堆積土	2.8	2.3	2.3	0.1	1714年以降			200	186
e27-2f	寛永通宝	SK122 堆積土	2.6	2.4	2.4	0.1	1714年以降			200	186
e28	寛永通宝	SK123 堆積土	3.6	2.5	2.5	0.1	1714年以降			200	186
e29	寛永通宝	SK123 堆積土	2.2	2.3	2.2	0.1	1714年以降			200	186
e30	寛永通宝	SK123 堆積土	3.1	2.3	2.3	0.1	1714年以降			200	186
e31	寛永通宝	SK124 堆積土	14.8	2.8	2.4	0.7	1714年以降	6枚固着、布付き		201	186
e32	祥符通宝	SD14 堆積土	2.4	2.5	2.5	0.1	1008年			201	186
e33	朝暉通宝	SD38 A区 堆積土最上位	3.2	2.4	2.4	0.1	1423年			201	186
e34	元豊通宝	SD104 A断面 堆積土上位	3.0	2.4	2.4	0.1	1078年			201	186
e35	景德元宝	SD106 中央トレンチ 堆積土下位	2.0	2.1	2.1	0.1	1004年			201	186
e36	洪武通宝	SD106 中央トレンチ西側 堆積土上位	1.2	2.1	2.1	0.1	1368年			201	186
e37	景德元宝	SD106 西側 堆積土最上位	2.7	2.5	2.4	0.1	1004年			201	186
e38	永楽通宝	SD106 西側 堆積土中位	2.0	2.4	2.4	0.1	1408年			201	186
e39	鉄銭	SD107 西側 堆積土上位	1.7	[1.6]	[2.2]	0.3	不明	銅膨れで断面肥大化、本来は0.15cm		201	186
e40	永楽通宝	P308 堆積土上位	2.8	2.5	2.5	0.1	1408年			201	186

第14表 銭貨観察表(2)

掲載 No.	銭種	遺構・地点・層位	重量 (g)	計測値 (cm)		厚	初鋳年	備考	図版 No.	写真 No.
				長	幅					
e41	永楽通宝	P401 (SB18) 堆積土上位	1.6	2.3	2.3	0.1	1408年		201	186
e42	紹興元宝	P462 (SB27) 堆積土上位	14.0	2.1	2.2	0.1	1190年		201	186
e43	永楽通宝	P513 I層	3.1	2.5	2.5	0.1	1408年		201	187
e44	永楽通宝	P592 堆積土	2.5	2.5	2.5	0.1	1408年		201	187
e45	永楽通宝	P741 (SB19) 堆積土	2.1	2.3	2.2	0.1	1408年		201	187
e46	無文銭	P824 堆積土上位	1.4	2.3	2.3	0.1	不明		201	187
e47	無文銭	P824 堆積土	1.5	2.2	2.2	0.1	不明		201	187
e48	永楽通宝	P1014 (SB29) 堆積土上位	1.8	2.5	2.5	0.1	1408年	破片4片	201	187
e49	無文銭	P1494 堆積土上位	0.8	1.9	1.9	0.1	不明	朝札	201	187
e50	洪武通宝	P2396 堆積土	1.1	2.2	2.2	0.1	1368年		201	187
e51	開元通宝	P2786 堆積土上位	2.2	2.4	2.4	0.1	960年	破片2片、銅彫孔	201	187
e52	永楽通宝	SK79 堆積土	1.1	2.1	2.1	0.1	1408年		201	187
e53	無文銭?	P4028 堆積土	2.3	2.3	2.3	0.1	不明		201	187
e54	永楽通宝	P4276 堆積土	0.7	1.9	2.1	0.1	1408年		201	187
e55	洪武通宝	P4434 堆積土	2.1	2.3	2.3	0.1	1368年		201	187
e56	不明	P4495 (SB101) 堆積土	0.9	2.4	2.3	0.1	不明	破片4片	202	187
e57	不明	P4710 堆積土	1.2	(1.3)	(1.0)	0.1	不明		202	187
e58	嘉祐通宝?	P4753 堆積土	1.9	2.3	2.3	0.1	1056年?	破片2片	202	187
e59	洪武通宝	P5123 堆積土	2.9	2.3	2.3	0.1	1368年		202	187
e60	無文銭	P5316 堆積土	0.9	(2.0)	(1.9)	0.1	不明		202	187
e61	一銭	SX01 西側 堆積土下位	1.9	2.3	2.3	0.1	1873年以降		202	187
e62	一円	SX08 北東区 堆積土	0.9	2.0	2.0	0.1	1955年以降	昭和30年	202	187
e63	一銭	SX08 北東区 堆積土	0.6	1.6	1.6	0.2	1942年	昭和17年	202	187
e64	寛永通宝	SX08 北東区 堆積土最上位	2.6	2.3	2.3	0.1	1714年以降		202	187
e65	寛永通宝	SX08 北東区 堆積土最上位	3.6	2.4	2.4	0.1	1714年以降		202	187
e66	寛永通宝	SX08 北東区 堆積土最上位	1.9	2.1	2.1	0.1	1714年以降		202	187
e67	寛永通宝	SX08 北東区 堆積土最上位	2.4	2.2	2.2	0.1	1714年以降		202	188
e68	寛永通宝	SX08 北東区 堆積土最上位	3.2	2.4	2.4	0.1	1714年以降		202	188
e69	熙寧元宝	SX09 堆積土	3.0	2.3	2.3	0.1	1068年		202	188
e70	洪武通宝	I号汎 2層	1.5	2.1	2.1	0.1	1368年		202	188
e71	鉄銭	I A11h II層	4.5	2.7	2.7	0.6	不明		202	188
e72	永楽通宝?	I A17h I層	0.7	2.2	(2.1)	0.1	1408年?		202	188
e73	祥符通宝	I A20h II層	1.7	2.5	2.5	0.1	1008年		202	188
e74-1	永楽通宝	I A22g I層	54.4	2.5	2.7	2.0	1408年	15枚固着。紐残存、分析試料No.1	202	188
e74-2	永楽通宝	I A22g I層	2.6	2.4	2.4	0.1	1408年	e74-1から剥がれた1枚	202	188
e75	永楽通宝	I A22h 滑擦中	2.5	2.4	2.4	0.1	1408年		202	188
e76	開元通宝	II A8h-j I層	2.7	2.5	2.4	0.1	621年		202	188
e77	永楽通宝	II A18k I層	2.5	2.6	2.5	0.1	1408年		203	188
e78	永楽通宝	II A18k I層	2.7	2.5	2.5	0.1	1408年		203	188
e79	寛永通宝	II A18l I層	2.5	2.3	2.4	0.1	1714年以降		203	188
e80	寛永通宝	II A4l 木根覆乱	4.5	2.8	2.8	0.1	1769年	真鍮四文銭、背面波文	203	188
e81	永楽通宝	T2南側 II層	2.3	2.5	2.5	0.1	1408年		203	188
e82	点元元宝	R1年度調査区 I層	2.6	2.5	2.5	0.1	1023年		203	188
e83	半銭	I A3~5f-h I層	3.1	2.2	2.2	0.1	1873年	明治6年	203	188
e84	寛永通宝	I A3~5f-h 基礎覆乱	2.8	2.4	2.4	0.1	1714年以降		203	188
e85	寛永通宝	調査区下段 Fトレンチ周辺 洪水堆積層	1.7	2.3	2.3	0.1	1714年以降		203	188
e86	永楽通宝	R1年度調査区 排土場	2.4	2.5	2.5	0.1	1408年		203	188

\*固着した銭貨はその状態での計測値、[ ]は残存値

第15表 木製品観察表

掲載No.	器種	遺構・地点・層位	計測値 (cm)			樹種	備考	図版No.	写図No.
			長	幅	厚				
f1	折敷 枠	SD101 西端 堆積土下位	35.8	2.1	1.0	スギ		204	189
f2	曲物 底	SD101 西端から 30 m 堆積土下位	19.6	5.9	1.3	ヒノキ		204	189
f3	下駄	SD101 堆積土下位	22.2	9.6	0.6	スギ?		204	189
f4	折敷	SD101 西端から 30 m 堆積土下位	19.7	8.3	1.5	ヒノキ	側面に穿孔 2 個	204	189
f5	曲物 枠	SD101 堆積土下位	41.2	4.7	0.7	ヒノキ	3 片に分かれる	204	189
f6	杭	SD101 堆積土下位	27.9	6.2	6.0	ヒノキ		204	189
f7	杭	SD101	47.5	8.0	5.5	モクレン属	2 片に分かれる	204	190
f8	板材	SD101	7.4	2.8	0.9	ヒノキ		204	189
f9	板材	SD101	8.2	2.7	0.5	スギ		204	189
f10	角材	SD101	11.9	2.5	1.2	コナラ属	未貫通の穿孔 1 個	205	189
f11	杭	SD101	13.7	4.9	2.8	コナラ属	樹皮残存	205	189
f12	角材	SD101	5.6	7.4	3.4	ヒノキ		205	190
f13	板材	SD101	9.0	6.0	0.4	ヒノキ		205	190
f14	板材	SD101	25.2	3.0	1.2	ヒノキ?	内面コゲ?	205	190
f15	板材	SD101	18.2	3.1	0.7	カヤ	コゲ	205	190
f16	ちゅう木	SD101	19.6	2.1	1.0	ヒノキ?		205	190
f17	角材	SD101	18.3	1.7	0.8	ヒノキ?		205	190
f18	折敷	SD101	10.1	1.5	0.2	スギ	2 片に分かれる	205	190
f19	板材	SD101	7.4	3.9	0.7	スギ	コゲ	205	190
f20	板材	SD101	10.4	1.0	0.4	スギ		205	190
f21	板材	SD101	4.8	2.3	0.6	カエデ属		205	190
f22	杭	SD101	5.0	3.4	1.4	トネリコ属		205	190
f23	板材	SD101	3.2	2.2	0.3	ブナ属	全面コゲか	205	190
f24	角材	SD101	12.5	4.2	2.8	マツ属	コゲ	205	190
f25	杭	SD101	22.4	3.2	1.6	カエデ属		205	190
f26	角材	SD101	19.0	4.8	4.1	スギ		205	190
f27	建築材	SD101	24.5	4.9	2.3	ヒノキ属	全面コゲ、未貫通の穿孔 2 個	205	190
f28	建築材	SD101	19.5	4.3	3.6	ヒノキ属		205	190
f29	曲物 枠	SD101	19.7	3.1	0.3	スギ	樺皮の紐	205	191
f30	角材	SD101	42.6	2.6	1.7	クリ	2 片に分かれる	205	191
f31	不明	SD101	17.1	3.2	3.2	不明	内部空洞	206	191
f32	杭	SD101	17.6	7.5	5.0	ヤナギ属		206	191
f33	折敷	SD101	12.4	2.1	0.2	スギ	コゲ	206	191
f34	杭	SD101	10.3	5.3	2.6	マツ属		206	191
f35	杭	SD101	10.3	2.1	2.0	マンサク属		206	191
f36	杭?	SD101	10.7	2.8	2.0	マツ属		206	191
f37	杭	SD101	15.9	8.1	4.5	ヤナギ属		206	191
f38	板材	SD101	6.0	3.6	0.9	ニレ属	コゲ	206	191
f39	折敷	SD101	11.8	1.6	1.2	ヒノキ		206	191
f40	板材	SD101	6.1	2.8	1.0	ニレ属		206	191
f41	杭	SD101	5.1	1.0	0.7	エゴノキ属	断片	206	191
f42	板材	SD101	4.3	2.8	1.0	ニレ属		206	191
f43	杭	SD101	9.1	2.15	1.7	ヤナギ属	断片	206	191
f44	板材	SD101	6.3	3.7	1.0	ニレ属	コゲ	206	191
f45	杭	SD101	9.8	2.25	1.9	サクラ属		206	191
f46	角材	SD101	5.8	2.3	1.4	マツ属		206	191
f47	板材	SD101	5.2	3.3	1.4	トチノキ	加工途中の廃棄品か	206	191
f48	杭	SD101	7.7	7.1	4.9	ヤナギ属		206	191
f49	角材	SD101	6.4	1.4	0.9	エゴノキ属	コゲか	206	191
f50	板材	SD101	6.4	2.1	0.3	マツ属		206	191
f51	箸	SD101	17.5	0.75	0.5	スギ		206	191
f52	杭	SD101	5.2	2.1	1.6	ヤナギ属	切断したのみの未成品	206	191
f53	板材	SD101	6.5	2.9	4	イヌガヤ		206	191
f54	板材	SD101	6.1	2.3	0.7	樹皮	自然木か、加工痕見えない	206	191
f55	杭	SD101	4.2	1.7	0.5	エゴノキ属	破片 6 点、1 点のみ実測図掲載	206	191
f56	板材	SD102 堆積土上位	15.5	0.9	0.3	スギ?		206	191
f57	不明	SK42 3区 堆積土下位	[6.4]	[3.2]	1.7	樹皮	樹皮のみ残存か、筒状、樹皮厚 0.1cm	206	191
f58	漆膜	P1337 堆積土	-	-	-	膜のみ残存	実測不能、写真は付属 CD に収録	-	-

※計測値欄の [ ] は残存値

第16表 ガラス製品観察表

掲載 No.	登録 No.	器種	遺構・地点・層位	計測値 (cm)			重量 (g)	備考	図版 No.	写真 No.
				長	径	厚				
g1	18P8	化粧瓶	SD101 東端付近 堆積土上位	9.9	3.8	0.4	98.0	堀越嘉太郎商店、明治45(1912)販売、側面「堀越」、底面「堀越」 大日本麦酒株式会社(1906-1952年)、側面「TRADEMARK DAINIPPON BREWERY Co. Ltd」、底面「12 ☆ 7」 メーカー不明、錠剤用、底面「NTN」 メーカー不明、底面「全乳 180cc 8◇Y」 メーカー不明、側面「高温 殺菌 全乳 正味180cc」、底面「0」(製造番号か) 殺菌乳業、側面「殺菌牛乳 ロゴマーク NET180cc」、鉄製の捺縮着 メーカー不明	207	184
g2	18P9	ビール瓶	SD101 東端付近 堆積土上位	28.4	7.8	0.5	646.2		207	184
g3	18P3	薬瓶	SD102 堆積土最上位	8.5	5.0	0.3	100.7		207	184
g4	P1	牛乳瓶	SX08 北東区 堆積土上位	14.1	5.3	0.4	224.3		207	-
g5	P2	牛乳瓶	SX08 北東区 堆積土上位	16.8	5.3	0.4	189.2		207	-
g6	P3	牛乳瓶	SX08 北東区 堆積土上位	18.6	5.5	-	214.2		207	-
g7	18P11	クリーム瓶	H30年度調査区 I層	4.5	4.8	0.4	97.6		207	184

第17表 生産関連遺物観察表

掲載 No.	器種	遺構・地点・層位	重量 (g)	計測値 (cm)			備考	図版 No.	写真 No.
				長	幅	厚			
h1	埴塼	SD106 中央トレンチ 堆積土下位	5.1	2.1	2.0	0.9	分析試料 No.7、内面に銅溶着	147	192
h2	埴塼	SI21 南区 堆積土中位	8.6	2.0	3.0	1.8	分析試料 No.8、内面に金色物質溶着	147	192
h3	鉄滓	SI05 北東区 堆積土下位	59.4	5.0	4.2	0.7	保存処理	-	192
h4	鉄滓	SI15 2区 床面付近	152.9	7.0	6.0	2.2	分析試料 No.1、炉底滓	-	192
h5	鑄造鉄器片	SI18 堆積土	122.2	7.4	6.6	2.7	分析試料 No.2、鍛冶原料として使用か	-	192
h6	鉄滓	SD106 西端 床面清掃中	55.4	6.1	4.1	1.9		-	192
h7	鉄滓	SD107 北側 遺物包含層	21.7	3.6	3.2	0.6	保存処理	-	192
h8	鉄滓	SD107 (I A16h) 堆積土中位	39.1	5.1	3.9	1.9		-	192
h9	鉄滓	SD107 (I A16h) 堆積土中位	58.4	5.7	4.6	2.0		-	192
h10	鉄滓	SL33 焼土内堆積土	87.2	6.2	5.0	4.9	分析試料 No.3、炉壁又は羽口付着	-	192
h11	鉄滓	SL33 焼土内堆積土	45.6	5.5	4.9	1.4	分析試料 No.4	-	192
h12	鉄滓	P4494 (SB100) 堆積土	39.6	6.1	3.0	2.1	分析試料 No.9	-	192
h13	鉄滓	P4511 (SB100) 堆積土	18.4	2.7	4.3	1.0		-	192
h14	鉄滓	P4546 (SB102) 堆積土	243.0	7.5	6.3	3.0	分析試料 No.5	-	192
h15	鉄滓	P4547 (SB107) 堆積土	26.9	3.8	3.8	1.2	分析試料 No.6	-	192
h16	鉄滓	P4685 堆積土	13.8	3.7	3.0	1.3		-	192
h17	鉄滓	P4767 堆積土	23.8	2.6	2.5	1.9		-	192
h18	鉄滓	P5163 (SB104) 堆積土	46.2	6.8	3.9	1.5		-	192
h19	羽口	P445 (SB26) 堆積土中位	88.6	6.0	4.0	2.8		-	192
h20	羽口	P1466 堆積土	108.2	5.5	5.3	3.7		-	192

\*分析試料1~6・9は分析前の重量、[ ]は残存値